

FUSENO

伏野遺跡

KAKUREZAKO

隠迫遺跡

AZEBORI

栢堀遺跡

NITAO

仁田尾遺跡

OKARIYAATO

御仮屋跡遺跡

伏隠栢仁御

野迫堀田

尾屋

遺跡

遺跡

跡跡跡跡

2006年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター





仁田尾遺跡Ⅷ層出土石器



仁田尾遺跡Ⅱ層出土石器

序 文

この報告書は、一般県道小山田谷山線改良工事に伴い、平成7年度から平成15年度にかけて実施した伏野遺跡、隠迫遺跡、柵堀遺跡、仁田尾遺跡、御仮屋跡遺跡の5遺跡の発掘調査の記録です。

調査の結果、約25,000年前の始良カルデラ大爆発の以前と以後に、それぞれの生活の痕跡が確認され、この一帯が旧石器時代に重要な場所であったことが明らかになりました。そして、大爆発以後に訪れた寒冷の時代、その過酷な時代を様々な狩猟具を開発して乗り越えていった様子が多くの資料から窺い知ることができます。

本報告書が、県民の皆様はじめ多くの方々に活用され、埋蔵文化財に対する関心とご理解をいただくとともに、文化財の普及・啓発の一助となれば幸いです。

最後に、調査にあたりご協力いただいた県土木部道路建設課並びに発掘調査に従事された地域の方々に厚くお礼申し上げます。

平成18年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター
所長 上 今 常 雄

例 言

- 1 本書は、地方特定道路整備事業（県道小山田～谷山線改良工事）に伴い実施した伏野遺跡他の埋蔵文化財発掘調査報告書である。掲載した遺跡は、伏野遺跡、隠迫遺跡、榎垣遺跡、仁田尾遺跡、御仮屋跡遺跡の5遺跡で、鹿児島市石谷町（旧日置郡松元町）に所在する。
 - 2 発掘調査及び報告書作成は、鹿児島県土木部伊集院土木事務所の依頼を受け、鹿児島県立埋蔵文化財センターが担当した。調査は、1995年から2003年まで実施した。
 - 3 本書に用いたレベル数値は、海拔絶対高である。
 - 4 本書の遺物番号は通し番号とし、本文・挿図・表・図版の番号は一致する。
 - 5 発掘調査における実測図は調査担当者が行い、一部については埋蔵文化財サポートシステムに委託した。
 - 6 遺物実測・トレースは担当者及び整理作業員が行い一部は九州文化財研究所、埋蔵文化財サポートシステム、朝バスコに委託し、その監修については長野眞一、桑波田武志が行った。
 - 7 挿図掲載遺物の縮尺は、土器が1/3、石器は1/1を基本とする。しかし、礫石器等大型のものについてはこの限りではない。また、遺構については1/20を基本としたが、これについても大型の遺構についてはこの限りではない。各々、挿図中に示したスケールを参考とされたい。
 - 8 遺物の分布図作成については、データ作成と、作図作業を長崎と整理作業員が行った。石器の一部について馬籠充道の協力を得た。
 - 9 参考資料として放射性炭素年代測定を依頼し、その結果は考察の最後に掲載した。
 - 10 本報告書に掲載した現場記録写真は各担当者が行い、遺物写真撮影・現像等は福永修一が行った。
 - 11 伏野遺跡、隠迫遺跡、榎垣遺跡の一部、仁田尾遺跡の一部、御仮屋跡遺跡の一部の発掘調査における労務管理については伊集院土木事務所が新和技術コンサルタント㈱、国際航業㈱に委託して行った。
 - 12 本報告書の執筆・編集は長野眞一、堂込秀人、宗岡克英、福永修一、岩戸孝夫、長崎慎太郎、桑波田武志が行った。各項目の執筆分担は以下のとおりである。
なお、監修は長野眞一が行った。
- I 第1～3章……………長野 眞一・長崎慎太郎
 - II 第1～2章……………長崎慎太郎
 - III 第1章……………宗岡 克英
 - IV

- 第1章……………岩戸 孝夫
 - 第2章……………桑波田武志
 - 第3章……………岩戸 孝夫
- V 第1章……………岩戸 孝夫
 - 第2～3章……………桑波田武志
 - 第4章
 - 第1～2節……………福永 修一
 - 第3節……………桑波田武志
 - 第5章
 - 第1～2節……………福永 修一
- VI 第1章……………岩戸 孝夫
 - 第2～3章……………桑波田武志
 - 第4章
 - 第1節……………岩戸 孝夫
 - 第2～3節……………宗岡 克英
 - 第4節……………福永 修一
 - 第5節……………桑波田武志
 - 第5章
 - 第1節……………福永 修一
- VII 第1章……………長崎慎太郎
 - 第2章
 - 第1～4節……………宗岡 克英・岩戸 孝夫
 - 第5節……………桑波田武志
 - 第3章
 - 第1節……………岩戸 孝夫
 - 第2節……………宗岡 克英・岩戸 孝夫
 - 第3節……………宗岡 克英
 - 第4節……………桑波田武志
 - 第4章
 - 第1節……………岩戸 孝夫
 - 第2～3節……………宗岡 克英
 - 第4節……………福永 修一
 - 第5節……………堂込 秀人
 - 第5章……………宗岡 克英
- VIII 第1章……………岩戸 孝夫
 - 第2章
 - 第1節……………岩戸 孝夫
 - 第2節……………宗岡 克英
 - 第3章……………桑波田武志
- IX……………長野 眞一・桑波田武志
 - X……………堂込 秀人・福永 修一
岩戸 孝夫・桑波田武志
- 13 本書に掲載した出土遺物・図面・写真等は、鹿児島県立埋蔵文化財センターで保管し活用する。

凡 例

本書で使用している石材の分類基準については、5 遺跡とも共通で、以下のとおりである。詳細は巻末の写真を参考にして頂きたい。

OB-A

黒色で風化した表面が炭状を呈する黒曜石である。薩摩川内市樋脇町上牛鼻産や、いちき串木野市平木場産の黒曜石に類似する。

OB-B

アメ色、ガラス質で不純物を多く含む黒曜石である。鹿児島市吉野町三船産の黒曜石に類似するが、同様の特徴を持つ他産地の黒曜石も含む可能性が高い。

OB-C

不純物の少ない良質ガラス質の黒曜石を一括してまとめたものである。色調、質感多様なものを含み、複数の産地の黒曜石を含むと考えられる。中心となるのは黒色良質の佐賀県伊万里の腰岳産黒曜石や、アメ色良質の熊本県人吉市桑ノ木津留産黒曜石に類似するものである。

OB-D

青灰色で不純物の少ない良質の黒曜石である。長崎県針尾、浞産等の黒曜石に類似する。

OB-E

黒色ガラス質で小粒の不純物を多く含む。大口市日東産の黒曜石に類似する。

OB-F

白色～灰色を呈し、表面に質感のある黒曜石である。ガラス質はやや弱く、大分県郷島産黒曜石や、熊本県人吉市桑ノ木津留産黒曜石に類似する。

黒色安山岩

表面は風化して灰色を呈するが、内面は濃黒の石材である。所々に輝石を含む。

無斑晶質安山岩

色調は灰色を呈し、風化面はやや白っぽい。サヌカイトに類似する。

ハリ質安山岩

色調は暗灰色を呈し、質感は無斑晶質安山岩とほぼ同じである。薩摩川内市樋脇町上牛鼻産に類似する。

安山岩

色調は灰色を呈し、白色の斑晶が大きく、質が粗い。

硬質頁岩

色調は青灰色を呈し、表面がきめが細かい。所々に白い線状の線が見られる。

珪質頁岩

色調は多様であるが、表面がきめが細かく光沢を持つものである。

鉄石英

赤色を基調とした石英質の石材である。

瑪瑙

色調は多様であるが、縞状を呈し、石英質の石材である。

玉髓

色調は多様で石英質であるが、表面にざらざらと粗い質感のある石材である。

タンバク石

白色を基調とした石英質の石材である。

凝灰岩質頁岩

色調は黄土色を基調とし、自然面は熱変成を受け、光沢がある。

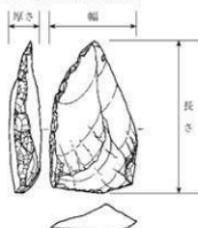
硬砂岩

色調は暗灰色で、砂岩の中でも縞状にきめの細かい石材である。

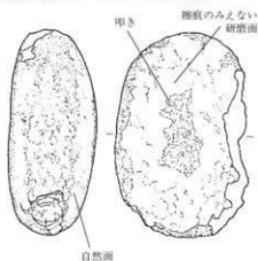
粘板岩

色調は暗灰色で、劈開が強く表面に鉄分の付着する石材である。

石器の計測方法については下記による。



石器の実測表現については、下記による。



総 目 次

巻頭図版	1	古墳時代の土器	68
序文		2 平安時代の土器	68
報告書抄録		VI 杵塚遺跡	71
例言		第1章 調査の方法	71
凡例		第2章 VIII層の調査	71
目次		第1節 概要	71
I 発掘調査の経過	1	第2節 遺構 (礫群)	71
第1章 調査に至るまでの経過	1	第3節 遺物	74
第2章 調査の組織	1	1 石器群の概要	74
第3章 発掘調査の経過	3	2 石器	74
II 遺跡の位置と環境	7	第3章 VII層の調査	75
第1章 地理的環境	7	第1節 概要	75
第2章 歴史的環境	7	第2節 遺構	75
III 遺跡の層位	10	第3節 遺物	78
第1章 遺跡の層位	10	1 石器群の概要	78
IV 伏野遺跡	29	2 石材	92
第1章 調査の方法	29	3 接合資料	97
第2章 VII層の調査	32	4 遺跡の地形と石器群の評価について	99
第1節 概要	32	第4章 V・IV・III層の調査	107
第2節 遺構	32	第1節 概要	107
第3節 出土遺物	32	第2節 遺構 (西区)	107
第4節 接合資料	32	1 V・IV層集石	107
第5節 石材構成比	33	2 V層の土坑	107
第3章 V層の調査	39	3 III層の土坑	107
第1節 概要	39	4 III層の溝状遺構	110
第2節 遺構	39	5 III層の焼土跡	112
1 連穴土坑	39	6 III層のビット状遺構	112
2 土坑	39	第3節 遺構 (東区)	112
V 隠迫遺跡	41	1 V層の集石	112
第1章 調査の方法	41	2 IV層の土坑	113
第2章 VIII層の調査	41	3 III層の道路状遺構	113
第1節 概要	41	4 III層の焼土跡	113
第2節 遺構	41	第4節 出土遺物	121
第3節 出土遺物	41	1 土器	121
第3章 VII層の調査	41	2 石器	138
第1節 概要	41	3 石材	147
第2節 遺構	44	第5章 V・IV・III層の調査	149
第3節 出土遺物	44	第1節 弥生・古墳時代遺物	149
第4章 IV・III層の調査	47	VII 仁田尾遺跡	151
第1節 概要	47	第1章 調査の方法	151
第2節 出土遺物	47	第2章 VIII層の調査	157
1 土器	47	第1節 概要	157
2 石器	59	第2節 遺構 (南区)	157
第5章 II層の調査	68	1 礫群	157
第1節 概要	68	2 配石が状遺構	163
第2節 遺物	68	第3節 遺構 (北区)	164

第4節 遺構間礎接合 (南区)	166	1 落とし穴状遺構	260
1 礎接合状況	166	2 集石遺構	260
2 9号~11号礎群間接合	166	第4節 土器	271
3 13号・16号礎群間接合	166	1 縄文時代	271
第5節 石器	173	2 古墳時代以降の土器	272
1 概要	173	第5節 石器	290
2 遺構	173	第5章 II層の調査	312
3 出土遺物	174	第1節 概要	312
第3章 VII層の調査	190	第2節 遺構 (南区)	312
第1節 概要	190	VII 御仮屋跡遺跡	313
第2節 遺構 (南区)	190	第1章 概要	313
礎群・集石	190	第2章 遺構 (礎群)	313
第3節 遺構 (北区)	191	第1節 概要	313
1 溝状遺構	191	第2節 礎群	313
2 落とし穴状遺構	191	第3章 遺物	313
第4節 石器	192	第1節 北区の調査	313
1 概要	192	1 石器群の概要	313
2 遺構	192	2 VIII・VII層の遺物	313
3 出土遺物	202	3 石材	329
(1) I地区の出土遺物	202	第2節 南区の調査	332
(2) I地区ブロック外の出土遺物	216	1 石器群の概要	332
(3) I地区出土のナイフ形石器、台形石器	216	2 IX層の遺物	332
(4) II地区の出土遺物	218	3 VIII層~VII b層の遺物	332
(5) II地区ブロック外の出土遺物	218	(1) 石器	332
(6) III地区の出土遺物	226	(2) 石材	338
(7) III地区ブロック外の出土遺物	232	4 VII a層の遺物	340
(8) IV地区の出土遺物	235	(1) 石器	340
(9) V地区の出土遺物	238	(2) 石材	340
(10) VII・IX・X II・X III地区の出土遺物	242	(3) 接合資料	344
第4章 V・IV・III層の調査	250	IX 考察	353
第1節 概要	250	1 各遺跡で検出した旧石器時代石器群の変遷	353
第2節 縄文時代早期遺構	250	2 石材について	353
1 南区	250	3 狸谷型ナイフ形石器	357
集石遺構	250	(1) はじめに	357
2 北区	256	(2) 分布	357
(1) 落とし穴状遺構	256	(3) まとめ	358
(2) 集石遺構	257	X まとめ	364
第3節 縄文時代前期以降遺構	260		

挿 図 目 次

第1図 各遺跡のグリッド配置図	4	第8図 榊垣遺跡西区土層断面図 (1)	14
第2図 県道小山田山谷山線改良に伴う発掘調査遺跡群	6	第9図 榊垣遺跡西区土層断面図 (2)	15
第3図 周辺遺跡位置図	8	第10図 榊垣遺跡西区土層断面図 (3)	17
第4図 土層模式図	10	第11図 榊垣遺跡西区土層断面図 (4)	18
第5図 伏野遺跡土層断面図	11	第12図 榊垣遺跡東区土層断面図 (1)	16
第6図 隠迫遺跡土層断面図 (1)	12	第13図 榊垣遺跡東区土層断面図 (2)	19
第7図 隠迫遺跡土層断面図 (2)	13	第14図 榊垣遺跡東区土層断面図 (3)	20

第105図	西区V・III層遺構実測図	114	第151図	北区VII層遺構実測図(2)	165
第106図	西区III層遺構実測図(1)	115	第152図	構成礫検出状況図(1)	166
第107図	西区III層遺構実測図(2)	116	第153図	構成礫検出状況図(2)	167
第108図	西区III層遺構実測図(3)	117	第154図	VII層石器出土状況図	168
第109図	III層遺構実測図	118	第155図	南区VII層石器出土状況図	169
第110図	東区V・IV層遺構実測図	119	第156図	北区VII層石器出土状況図	170
第111図	東区V・III層遺構配置図	120	第157図	VII層石器出土状況図(垂直分布)	171
第112図	早期土器出土状況図	122	第158図	VII層石器出土状況図(A~D)	172
第113図	西区前期土器、後晩期土器出土状況図	123	第159図	VII層石器出土状況図(E・F)	174
第114図	縄文土器・石器出土状況図(垂直分布)	124	第160図	VII層石器出土状況図(G~X)	175
第115図	Ia, Ib, Ic類土器実測図	125	第161図	IX・X・XI地区石器出土状況図	178
第116図	Ia, Ie, IIa, IIb類土器実測図	126	第162図	I・II地区VII層出土遺物	179
第117図	IIIa, IIIb類土器実測図	127	第163図	III地区VII層出土遺物(1)(Bブロック)	181
第118図	IIIc類土器実測図	128	第164図	III地区VII層出土遺物(2)(Bブロック)	182
第119図	IIIc, IIId類土器実測図	129	第165図	IV地区VII層出土遺物(1)(Eブロック)	183
第120図	IV, V, VI類土器実測図	130	第166図	IV地区VII層出土遺物(2)(Fブロック)	184
第121図	VIIa, VIIb類土器実測図	131	第167図	IV地区VII層出土遺物(3)(Fブロック)	185
第122図	VIIc, VIId, VIIe, VIIf類土器実測図	132	第168図	VII・VIII地区VII層出土遺物	186
第123図	VIIg類, 土製品実測図	133	第169図	X・XI地区VII層出土遺物	187
第124図	西区縄文石器材別分布図	135	第170図	XI地区VII層出土遺物	188
第125図	西区縄文掲載遺物分布図	136	第171図	VII層遺構配置図	189
第126図	東区縄文石器出土状況図	137	第172図	南区VII層遺構実測図	190
第127図	8年度調査区IV・III層出土石器(1)	139	第173図	北区VII層遺構実測図	191
第128図	8年度調査区IV・III層出土石器(2)	140	第174図	VII層石器材別出土状況図	193
第129図	8年度調査区IV・III層出土石器(3)	141	第175図	南区VII層石器材別出土状況図	194
第130図	8年度調査区IV・III層出土石器(4)	142	第176図	北区VII層石器材別出土状況図	195
第131図	9年度調査区III層出土石器	143	第177図	I~III地区VII層石器出土状況図(垂直分布)1	196
第132図	14年度調査区IV・III層出土石器(1)	144	第178図	I~III地区VII層石器出土状況図(垂直分布)2	197
第133図	縄文時代石器材利用状況図	144	第179図	I地区VII層出土遺物(1)(Aブロック)	203
第134図	14年度調査区IV・III層出土石器(2)	145	第180図	I地区VII層出土遺物(2)(Bブロック)	204
第135図	14年度調査区IV・III層出土石器(3)	146	第181図	I地区VII層出土遺物(3)(Cブロック)	205
第136図	14年度調査区IV・III層出土石器(4)	147	第182図	I地区VII層出土遺物(4)(Cブロック)	206
第137図	II層土器出土状況図	149	第183図	I地区VII層出土遺物(5)(Cブロック)	207
第138図	II層出土遺物実測図	150	第184図	I地区南VII層石器出土状況図	208
仁田尾遺跡					
第139図	調査区と周辺地形図	152	第185図	I地区VII層出土遺物(6)(Dブロック)	209
第140図	年度別調査グリッド	153	第186図	I地区VII層出土遺物(7)(Dブロック)	210
第141図	VII層遺構配置図(全体)	154	第187図	I地区VII層出土遺物(8)(Eブロック)	211
第142図	VII層遺構配置図(1)	155	第188図	I地区VII層出土遺物(9)(Fブロック)	212
第143図	VII層遺構配置図(2)	156	第189図	I地区VII層出土遺物(10)(Fブロック)	213
第144図	南区VII層遺構及び遺構内出土遺物実測図	158	第190図	I地区VII層出土遺物(11)(ブロック外)	214
第145図	南区VII層遺構実測図(1)	159	第191図	I地区北VII層石器出土状況図	215
第146図	南区VII層遺構実測図(2)	160	第192図	I地区VII層出土遺物(12)(ナイフ形石器・台形石器)	216
第147図	南区VII層遺構実測図(3)	161	第193図	I地区VII層ナイフ形石器・台形石器出土状況図	217
第148図	南区VII層遺構実測図(4)	162	第194図	II地区VII層出土遺物(1)(Gブロック)	219
第149図	南区VII層遺構実測図(5)	163			
第150図	北区VII層遺構実測図(1)	164			

第195回	II地区VII層出土遺物(2)(Gブロック)	220	第237回	IX・X・XI地区縄文時代早期土器出土状況	266
第196回	II地区VII層出土遺物(3)(Gブロック)	221	第238回	III地区縄文時代前・中期土器出土状況	267
第197回	II地区VII層出土遺物(4)(Gブロック)	222	第239回	VI・VII地区縄文時代前・中期土器出土状況	268
第198回	II地区VII層出土遺物(5)(Gブロック)	223	第240回	IX・X・XI地区縄文時代前・中期土器出土状況	269
第199回	II地区VII層出土遺物(6)(Gブロック)	224	第241回	縄文時代後・晩期土器、土器底部、古墳時代の土器出土状況	270
第200回	II地区VII層出土遺物(7)(Gブロック・ブロック外)	225	第242回	IIa, IIb 類土器実測図	273
第201回	II地区VII層出土遺物(8)(ブロック外)	226	第243回	IIc, IIIa-III d 類土器実測図	274
第202回	II地区VII層石器出土状況	227	第244回	IVa, IVb 類土器実測図	275
第203回	III地区VII層出土遺物(1)(H・Iブロック)	228	第245回	Va 類土器実測図	276
第204回	III地区VII層出土遺物(2)(Jブロック)	229	第246回	Va-Vc 類土器実測図	277
第205回	III地区VII層出土遺物(3)(Kブロック・ブロック外)	230	第247回	Vc 類土器実測図	278
第206回	III地区VII層石器出土状況	231	第248回	Vd, Ve, VI 類土器実測図	279
第207回	III地区VII層出土遺物(4)(ブロック外)	232	第249回	VI 類土器実測図	280
第208回	IV地区VII層出土遺物(Lブロック)	233	第250回	VII 類土器実測図	281
第209回	IV地区VII層石器出土状況	234	第251回	VIII 類土器実測図	282
第210回	V地区VII層出土遺物(1)(Nブロック)	235	第252回	IX 類土器実測図	283
第211回	V地区VII層出土遺物(2)(Nブロック)	236	第253回	X 類土器実測図(1)	284
第212回	V地区VII層出土遺物(3)(Nブロック)	237	第254回	X 類土器実測図(2)	285
第213回	V地区VII層出土遺物(4)(Nブロック)	238	第255回	XI 類土器実測図	286
第214回	V地区VII層石器出土状況	239	第256回	XII a-XII c 類土器実測図	287
第215回	VII・IX・XII・XIII地区VII層出土遺物(O・Q・R・Sブロック)	240	第257回	XIII 類土器実測図	288
第216回	VII層O-Sブロック出土状況	241	第258回	XIV 類土器実測図	289
第217回	V-XIII地区石器出土状況(垂直分布)	242	第259回	縄文石器層別ブロック分布図	291
第218回	V・IV層遺構配置図	247	第260回	III地区縄文石器垂直分布	292
第219回	III地区V・IV層遺構配置図	248	第261回	VI・VII・XI地区縄文石器垂直分布	293
第220回	北区V・IV層遺構配置図	249	第262回	III地区V層石器出土状況	294
第221回	南区V層遺構実測図	250	第263回	III地区IV層実測石器出土状況	295
第222回	南区V・IV層遺構実測図	251	第264回	VI・VII地区IV層実測石器出土状況	296
第223回	南区IV層遺構実測図(1)	252	第265回	IX-XI地区IV層実測石器出土状況	297
第224回	南区IV層遺構実測図(2)	253	第266回	III地区III層石器出土状況	298
第225回	南区IV層遺構実測図(3)	254	第267回	VI・VII地区III層石器出土状況	299
第226回	南区IV層遺構実測図(4)	255	第268回	IX-XI地区III層石器出土状況	300
第227回	北区V層遺構実測図	256	第269回	III地区V層出土石器	301
第228回	北区IV層遺構実測図(1)	257	第270回	III地区IV層出土石器(1)	302
第229回	北区IV層遺構実測図(2)	258	第271回	III地区IV層出土石器(2)	303
第230回	北区III層遺構配置図	259	第272回	III地区IV層出土石器(3)	304
第231回	北区III層遺構実測図	260	第273回	III地区IV層出土石器(4)	305
第232回	縄文土器類別出土状況	261	第274回	VII・XI地区IV層出土石器	306
第233回	III地区縄文土器出土状況(垂直分布)	262	第275回	III地区III層出土石器(1)	307
第234回	VI・VII・XI地区縄文土器出土状況(垂直分布)	263	第276回	III地区III層出土石器(2)	308
第235回	III地区縄文時代早期土器出土状況	264	第277回	VI・VII地区III層出土石器	309
第236回	VI・VII地区縄文時代早期土器出土状況	265	第278回	X・XI地区III層出土石器	310
			第279回	II層溝状遺構	312

表41	土器観察表 (3)	128	表76	V層集石観察表	252
表42	土器観察表 (4)	130	表77	IV層集石観察表 (1)	252
表43	土器観察表 (5)	133	表78	IV層集石観察表 (2)	255
表44	土器観察表 (6)	134	表79	IV層集石観察表 (3)	255
表45	縄文時代石材組成表	143	表80	V層落し穴状遺構観察表	256
表46	縄文時代実測石器観察表	148	表81	IV層土坑観察表	257
表47	II層土器観察表	149	表82	IV層集石観察表 (4)	258
仁田尾遺跡					
表48	VIII層礫群観察表 (1)	158	表83	IV層集石観察表 (5)	258
表49	1号礫群遺物観察表	158	表84	III層落し穴状遺構観察表	260
表50	VIII層礫群観察表 (2)	158	表85	III層集石観察表	260
表51	VIII層礫群観察表 (3)	158	表86	土器観察表 (1)	274
表52	VIII層礫群観察表 (4)	160	表87	土器観察表 (2)	275
表53	VIII層礫群観察表 (5)	161	表88	土器観察表 (3)	280
表54	VIII層礫群観察表 (6)	161	表89	土器観察表 (4)	282
表55	VIII層礫群観察表 (7)	162	表90	土器観察表 (5)	285
表56	VIII層礫群観察表 (8)	162	表91	土器観察表 (6)	287
表57	VIII層礫群観察表 (9)	163	表92	土器観察表 (7)	288
表58	VIII層配石形状遺構観察表	163	表93	土器観察表 (8)	289
表59	VIII層礫群観察表 (10)	165	表94	実測石器観察表 (1)	305
表60	VIII層礫群観察表 (11)	165	表95	実測石器観察表 (2)	306
表61	VIII層ブロック観察表 (1)	176	表96	実測石器観察表 (3)	309
表62	VIII層ブロック観察表 (2)	177	表97	実測石器観察表 (4)	310
表63	実測遺物観察表 (旧石器) 1	187	表98	実測石器観察表 (5)	311
表64	実測遺物観察表 (旧石器) 2	188	御飯屋跡遺跡		
表65	VII層礫群観察表	190	表99	VIII層礫群観察表	315
表66	VII層集石観察表	190	表100	北区実測石器観察表 (1)	329
表67	VII層落し穴状遺構観察表	191	表101	北区実測石器観察表 (2)	330
表68	VII層ブロック観察表 (1)	198	表102	北区実測石器観察表 (3)	331
表69	VII層ブロック観察表 (2)	199	表103	南区実測石器観察表 (1)	339
表70	VII層ブロック観察表 (3)	200	表104	南区実測石器観察表 (2)	349
表71	VII層ブロック観察表 (4)	201	表105	南区実測石器観察表 (3)	350
表72	実測遺物観察表 (旧石器) 3	243	表106	接合資料観察表	350
表73	実測遺物観察表 (旧石器) 4	244	表107	VIII・VII層剥片石器利用石材別重量表	350
表74	実測遺物観察表 (旧石器) 5	245	表108	掲載以外の細石刃一覧表 (1)	351
表75	実測遺物観察表 (旧石器) 6	246	表109	掲載以外の細石刃一覧表 (2)	352
			表110	各遺跡の石材利用状況	355

図 版 目 次

伏野遺跡図版	367	遺物出土状況ほか	図版 2
調査風景	図版 1	遺物出土状況ほか	図版 3
土坑完掘状況ほか	図版 2	遺物出土状況ほか	図版 4
VII a 遺物出土状況ほか	図版 3	旧石器時代石器	図版 5
旧石器時代石器	図版 4	縄文時代土器 (1)	図版 6
		縄文時代土器 (2)	図版 7
隠迫遺跡図版	373	縄文時代土器 (3)	図版 8
隠迫遺跡近景ほか	図版 1	縄文時代土器 (4)	図版 9

縄文時代土器 (5)	図版10	CC-10区道跡検出状況ほか	図版18
古代土器	図版11	2号集石ほか	図版19
縄文時代石器 (1)	図版12	3号・4号集石ほか	図版20
縄文時代石器 (2)	図版13	7号・8号集石ほか	図版21
縄文時代石器 (3)	図版14	9号集石ほか	図版22
		1号集石ほか	図版23
杉堀遺跡図版	389	溝状遺構検出状況ほか	図版24
調査風景ほか	図版1	溝状遺構完掘状況ほか	図版25
遺物出土状況ほか	図版2	遺物出土状況	図版26
1号礫群ほか	図版3	旧石器時代石器 (1)	図版27
1号集石ほか	図版4	旧石器時代石器 (2)	図版28
5号集石ほか	図版5	旧石器時代石器 (3)	図版29
V層1号土坑ほか	図版6	旧石器時代石器 (4)	図版30
5号土坑ほか	図版7	旧石器時代石器 (5)	図版31
溝状遺構ほか	図版8	旧石器時代石器 (6)	図版32
旧石器時代石器 (1)	図版9	旧石器時代石器 (7)	図版33
旧石器時代石器 (2)	図版10	旧石器時代石器 (8)	図版34
旧石器時代石器 (3)	図版11	縄文時代土器 (1)	図版35
縄文時代土器 (1)	図版12	縄文時代土器 (2)	図版36
縄文時代土器 (2)	図版13	縄文時代土器 (3)	図版37
縄文時代土器 (3)	図版14	縄文時代土器 (4)	図版38
縄文時代土器 (4)	図版15	縄文時代土器 (5)	図版39
縄文時代土器 (5)	図版16	縄文時代土器 (6)	図版40
縄文時代土器 (6)	図版17	縄文時代土器 (7)	図版41
縄文時代土器 (7)	図版18	縄文時代土器 (8)	図版42
縄文時代石器 (1)	図版19	縄文時代土器 (9)	図版43
縄文時代石器 (2)	図版20	縄文時代土器 (10)	図版44
縄文時代石器 (3)	図版21	縄文時代土器 (11)	図版45
弥生時代土器	図版22	縄文時代石器 (1)	図版46
		縄文時代石器 (2)	図版47
		縄文時代石器 (3)	図版48
仁田尾遺跡図版	413		
仁田尾遺跡遠景 (1)	図版1		
仁田尾遺跡遠景 (2)	図版2	御飯屋跡遺跡図版	463
土層断面ほか	図版3	調査風景	図版1
1号礫群及び3号礫検出状況ほか	図版4	1号礫群ほか	図版2
4号礫群ほか	図版5	VII b層上面検出礫群	図版3
9号～11号礫群ほか	図版6	3号礫群ほか	図版4
13号礫群ほか	図版7	遺物出土状況ほか	図版5
18号礫群ほか	図版8	土層断面1ほか	図版6
V-35区礫群出土状況ほか	図版9	遺物出土状況	図版7
礫群出土状況ほか	図版10	縄文時代遺物出土状況ほか	図版8
配石状況遺構	図版11	旧石器時代石器 (1)	図版9
VIII層遺物出土状況	図版12	旧石器時代石器 (2)	図版10
遺物出土状況	図版13	旧石器時代石器 (3)	図版11
1号集石ほか	図版14	旧石器時代石器 (4)	図版12
落ち穴調査状況	図版15		
落ち込み完掘状況ほか	図版16		
GG-10・11区道跡検出状況ほか	図版17		

報 告 書 抄 録

ふりがな	ふせのいせき かくれごいせき あせまりいせき にたおいせき おかりやあといせき							
書名	伏野遺跡 隠迫遺跡 柳堀遺跡 仁田尾遺跡 御飯屋跡遺跡							
副書名	一般県道小山田谷山線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書III							
シリーズ名	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	第101集							
編著者名	長野 眞一 堂込 秀人 宗岡 克美 福水 修一 石戸 孝夫 長崎慎太郎 桑波田武志							
編集機関	鹿児島県立埋蔵文化財センター							
所在地	〒899-4461 鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森2番地1号 ☎0995-48-5811							
発行年月日	2006年3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北 緯 ° ' "	東 経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
伏野遺跡	鹿児島県 鹿児島市 石谷町	462012	31-3-0	130 27 53	31 36 39	20000717- 20000724 20020903- 20021017	360	一般県道小 山田谷山線 改良工事
隠迫遺跡	"	"	31-4-0	130 27 55	31 36 28	20000801- 20000930 20020507- 20020815	2300	"
柳堀遺跡	"	"	31-7-0	130 27 49	31 36 21	19961007- 19970313 19971013- 19971114 20000801- 20000930 20030114- 20030320	6612	"
仁田尾遺跡	"	"	31-11-0	130 27 58	31 36 00	19951113- 19960322 19960422- 19960614 19970909- 19971002 19990126- 19990305 20000214- 20000225 20030109- 20030320 20030506- 20030723	4110	"
御飯屋跡遺跡	"	"	31-13-0	130 27 58	31 35 52	20020807- 20020809 20030109- 20030320 20030506- 20030723	1800	"

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
伏野遺跡	散布地	旧石器時代ナイフ形石器文化期 旧石器時代細石器文化期 縄文時代早期	ブロック3基 連穴土坑1, 土坑1	台形石器, ナイフ形石器, 三稜尖頭器 細石刃核, 細石刃, スクレイパー	
隠迫遺跡	散布地	旧石器時代ナイフ形石器文化期 旧石器時代細石器文化期 縄文時代草創期 縄文時代早期 縄文時代前期 縄文時代後期 古墳時代 中世	ブロック1基 ブロック3基	ナイフ形石器, 三稜尖頭器, スクレイパー, 石核 細石刃核, 細石刃 石鏃 手向山, 平筒式土器 石鏃, スクレイパー 轟, 曾畑式土器 指宿式土器 成川式土器 須恵器 石匙, 礫器 磨石, 叩石 石皿	
枳塚遺跡	散布地	旧石器時代ナイフ形石器文化期 旧石器時代細石器文化期 縄文時代早期 縄文時代前期 縄文時代晩期 古代 中世	礫群1基 ブロック20基 集石7基, 土坑2基 土坑7基, ビット 溝状遺構2条	台形石器, ナイフ形石器, 三稜尖頭器, 叩石, 石核 細石刃核, スポール, 細石刃, スクレイパー, 石鏃 岩木, 前平, 吉田, 石瓦, 手向山, 塞ノ神式土器 轟, 曾畑, 深溝式土器, 石鏃, スクレイパー, 石槍 土器 模形石器, 磨石, 叩石, 凹石 土師器 須恵器, 青磁	福井型
仁田尾遺跡	散布地	旧石器時代ナイフ形石器文化期 旧石器時代細石器文化期 縄文時代草創期 縄文時代早期 縄文時代前期～晩期 古墳時代	礫群7基, 配石1基, フロウ24基 ブロック19基, 礫群3基, 落し穴1基 集石19基, 落し穴1基, 土坑1基 落し穴1基, 集石1基 成川式土器	薄片尖頭器, 尖頭器, 台形石器, ナイフ形石器 細石刃核, 細石刃, 石鏃, 隆帯文土器, 叩石, スクレイパー他 岩木, 前平, 石瓦, 手向山, 平筒, 塞ノ神式土器 轟, 曾畑, 深溝, 晩期式土器 石鏃, 石匙 成川式土器	
御飯屋跡遺跡	散布地	旧石器時代ナイフ形石器文化期 旧石器時代細石器文化期	ブロック ブロック5基	薄片尖頭器, 三稜尖頭器, 台形石器, ナイフ形石器 細石刃核, 細石刃, 石核	AT下位～終末期
要 約				伏野遺跡ではナイフ形石器文化期の包含層から今峠型ナイフ形石器に類似する資料が確認された。細石器文化期では接合資料から西北九州産の黒曜石を利用した細石刃核整形作業が明らかとなった。縄文時代早期の層では土器の出土はないものの、連穴土坑が検出された。 隠迫遺跡では出土量は少ないものの、ナイフ形石器文化期の遺物が確認された。細石器文化期では三船産の黒曜石を利用したブロック3基が確認された。縄文時代は早期から後期までの各種土器が石鏃, 礫石器を伴って確認された。 枳塚遺跡では西北九州産の黒曜石を利用した福井型細石刃核を伴う石器群が検出され、西北九州との交流を考慮の上で貴重な資料が出土した。縄文時代は早期から晩期までの各種土器が石鏃, 礫石器を伴って確認された。 仁田尾遺跡ではナイフ形石器文化期のブロックが24基検出され、埋骨型ナイフ形石器を中心とするAT直上の石器群が多く、礫群を伴い良好な状態で検出された。細石器文化期でも19基のブロックが検出され、福井型細石刃核, 加治原風型細石刃核などの新相の細石刃核を中心とする石器群が検出された。中でも草創期の隆帯文土器を含む3点の土器や、製作址を伴う頁岩製の石鏃やその未製品の出土は貴重である。縄文時代は早期を中心に、集石19基や落し穴, 土坑などの遺構を伴い多様な土器が出土している。 御飯屋跡は資料は少ないものの、AT火山灰層の下位からナイフ形石器が検出され、当地上で初めてAT層の下位から明確な遺物の出土を確認した。ATの上位からは薄片尖頭器やナイフ形石器等の石器群が検出されたが、特に終末期の小型のナイフ形石器・台形石器がまとまって検出されており、旧石器時代の各時期の変遷を探る上で貴重な資料となった。細石器文化期からは礫群5基を伴い伏野・休場型細石刃核を中心とする石器群が検出された。	

I 発掘調査の経過

第1章 調査に至るまでの経過

平成元年8月、国土交通省(旧建設省)は、「南九州西回り自動車道建設」(鹿児島IC～市尾IC)の基本計画を、翌平成2年11月整備計画を明らかにした。この事業に伴い埋蔵文化財の発掘調査が、仁田尾遺跡、榎垣遺跡で平成3年～6年度の間行われ、両遺跡共に広範囲に広がることが明らかにされていた。その後、鹿児島県は仁田尾遺跡では県道との交差、榎垣遺跡では県道とのアクセスを図りその利便性を高める目的で、県土木部に事業主体に平成7年以降、両遺跡の発掘調査を実施してきた。

その後、南九州西回り自動車道の建設を経て、鹿児島県土木部道路建設課(伊集院土木事務所、以下土木部)は、地方特定道路整備事業(県道小山田～谷山線)を計画した。土木部は、その事業計画推進を図る目的で仁田尾遺跡・榎垣遺跡を含め、事業対象区域内の埋蔵文化財の有無について、鹿児島県教育委員会に照会した。

これを受けて、鹿児島県教育庁文化財課は、平成8年に分布調査を実施し、鹿児島市石谷町(旧日置郡松元町)の伏野、隠迫、榎垣、仁田尾、御飯屋跡で遺物の散布と遺跡存在の可能性の高いことを報告した。

分布調査の結果に基づき、土木部と文化財課、鹿児島県立埋蔵文化財センターは遺跡の取り扱い協議を行い、事業対象地域の遺跡の範囲と性格を把握する目的の確認調査を実施することとした。確認調査は平成12年に仁田尾遺跡、御飯屋跡遺跡を除き、伏野遺跡、隠迫遺跡、榎垣遺跡で実施した。なお、御飯屋跡遺跡については、松元町教育委員会が実施した隣接地であり、遺跡の広がりから明らかであったことから確認調査の対象から除外し、本調査の対象とした。

確認調査の結果に基づき、前3者で最終協議を行い、各遺跡については発掘調査を実施し、記録保存として対応することとした。なお、各遺跡の本調査は平成14年から開始しているが、仁田尾遺跡と榎垣遺跡では、平成8年以降も道路整備事業を推進する一環として調査を先行してきた。確認調査以降の調査は、埋蔵文化財センターが担当している。

第2章 調査の組織

平成7年度 本調査(仁田尾遺跡)

事業主体者 鹿児島県土木部道路建設課(以下省略)
 調査主体者 鹿児島県教育委員会(以下省略)
 企画・調整 鹿児島県教育庁文化財課(以下省略)
 調査責任者
 鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長 内村 正弘
 調査企画者
 次長兼総務課長 川原 信義

主任文化財主事兼調査課長 戸崎 勝洋
 主任文化財主事 新東 晃一

調査担当者
 文化財主事 宮田 栄二
 " 下園 昌三

事務担当者
 主 査 成尾 雅明
 主 事 道立ひとみ

平成8年度 本調査(仁田尾遺跡・榎垣遺跡)

調査責任者
 鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長 吉元 正幸
 調査企画者

次長兼総務課長 尾崎 進
 調査課長 戸崎 勝洋
 課長補佐兼第一調査係長 新東 晃一
 第二調査係長 立神 次郎

県道仁田尾遺跡調査担当者
 文化財研究員 中原 一成
 " 有馬 孝一

榎垣遺跡調査担当者
 文化財主事 鶴田 静彦
 文化財研究員 湯之前 高
 " 中原 一成
 " 元田 順子

事務担当者
 主 査 成尾 雅明
 " 前原敬裕徳
 主 事 道立ひとみ

平成9年度 本調査(仁田尾遺跡・榎垣遺跡)

調査責任者
 鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長 吉元 正幸
 調査企画者

次長兼総務課長 尾崎 進
 調査課長 戸崎 勝洋
 課長補佐兼第一調査係長 新東 晃一

仁田尾遺跡調査担当者
 文化財主事 中村 耕治
 文化財研究員 黒川 忠広

榎垣遺跡調査担当者
 文化財主事 中村 耕治
 " 安藤 浩
 文化財研究員 黒川 忠広

事務担当者
 主 査 前原敬裕徳
 主 事 政倉 孝弘
 主 事 道立ひとみ

平成10年度 本調査（仁田尾遺跡）			調査課長	新東 晃一
調査責任者			課長補佐	立神 次郎
鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長	吉永 和人		主任文化財主事兼第一調査係長	池畑 耕一
調査企画者			主任文化財主事	中村 耕治
次長兼総務課長	尾崎 進	仁田尾遺跡・御仮屋跡遺跡調査担当者		
調査課長	戸崎 勝洋	文化財主事		堂込 秀人
課長補佐兼第一調査係長	新東 晃一	"		中村 和美
調査担当者		伏野道跡・隠迫遺跡調査担当者		
文化財主事	鶴田 静彦	文化財主事		宗岡 克美
文化財研究員	黒川 忠広	文化財研究員		横手浩二郎
事務担当者		伊堀遺跡調査担当者		
主 査	政倉 孝弘	文化財主事		鶴田 静彦
"	前屋敷裕徳	"		松尾 勉
主 事	溜池 佳子	事務担当者		
		総務係長		前田 昭信
平成11年度 本調査（仁田尾遺跡）		主 査		栗山 和己
調査責任者				
鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長	吉永 和人	平成15年度 本調査（仁田尾遺跡・御仮屋跡遺跡）		
調査企画者		整理作業（仁田尾遺跡・御仮屋跡遺跡）		
次長兼総務課長	尾崎 進	調査責任者		
調査課長	戸崎 勝洋	鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長	木原 俊孝	
課長補佐兼第一調査係長	新東 晃一	調査企画者		
調査担当者		次長兼総務課長	田中 文雄	
文化財研究員	桑波田武志	調査課長	新東 晃一	
"	西園 勝彦	課長補佐	立神 次郎	
事務担当者		主任文化財主事兼第一調査係長	池畑 耕一	
総務係長	有村 資	主任文化財主事	中村 耕治	
主 事	溜池 佳子	調査担当者（発掘調査）		
平成12年度 確認調査（伏野遺跡・隠迫遺跡・伊堀遺跡）		文化財主事		松尾 勉
調査責任者		文化財研究員		川元 積久
鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長	井上 明文	調査担当者（整理作業）		
調査企画者		文化財主事		堂込 秀人
次長兼総務課長	黒木 友幸	文化財研究員		桑波田武志
主任文化財主事兼調査課長	新東 晃一	事務担当者		
調査課長補佐	立神 次郎	総務係長		平野 浩二
主任文化財主事兼第一調査係長	青崎 和憲	主 事		福山恵一郎
主任文化財主事	中村 耕治	平成16年度 整理作業（仁田尾遺跡・隠迫遺跡・御仮屋跡遺跡・伏野遺跡・伊堀遺跡）		
調査担当者		調査責任者		
文化財主事	藤崎 光洋	鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長	木原 俊孝	
文化財研究員	桑波田武志	調査企画者		
事務担当者		次長兼総務課長	實雅 彰	
総務係長	有村 資	調査課長	新東 晃一	
主 事	溜池 佳子	課長補佐	立神 次郎	
平成14年度 本調査（仁田尾遺跡・隠迫遺跡・御仮屋跡遺跡・伏野遺跡・伊堀遺跡）		主任文化財主事兼第一調査係長	池畑 耕一	
調査責任者		主任文化財主事	中村 耕治	
鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長	井上 明文	調査担当者		
調査企画者		文化財主事		堂込 秀人
次長兼総務課長	田中 文雄	文化財研究員		長崎慎太郎

文化財研究員	桑波田武志
事務担当者	
総務係長	平野 浩二
主 事	福山恵一郎
平成17年度 報告書作成	
作成責任者	
鹿児島県立理蔵文化財センター 所長	上今 常雄
作成企画者	
次長兼総務課長	有川 昭人
次長兼調査第一課長	新東 晃一
主任文化財主事兼調査第一課第二調査係長	長野 眞一
作成担当者	
主任文化財主事兼調査第一課第二調査係長	長野 眞一
文化財主事	堂込 秀人
"	宗岡 克英
"	福水 修一
"	岩戸 孝夫
文化財研究員	長崎慎太郎
"	桑波田武志
事務担当者	
主幹兼総務係長	平野 浩二
主 事	福山恵一郎
報告書作成検討委員会	
平成17年12月20日	
報告書作成指導委員会	
平成17年12月19日	
指導者	
橘 昌信 (別府大学教授)	
藤野 次史 (広島大学助教授)	
助言者・協力者	
福田 孝司・岡村 道雄・加藤 真二・小畑 弘己	
木崎 康弘・佐藤 宏之・白石 浩之・阿部 敬	
南宮 瑞生・川道 寛・萩原 博文・倉元 良文	
吉留 秀敏・児玉健一郎・梁林 文夫・楳手浩二郎	
古森 政次	
石原 啓子・今西ゆかり・上床 真・大村 彌紀	
岡島 明子・黒川 忠広・相美伊久雄・迫間 洋子	
立野 里沙・中川ヒロミ・山下 瑞恵・古里智恵子	

第3章 発掘調査の経過

各遺跡の確認調査の期間は、以下のとおりである。

伏野遺跡	平成12年7月17日～7月24日
隠迫遺跡	平成12年8月1日～9月30日
榎道遺跡	平成12年8月1日～9月30日
仁田尾遺跡	平成9年9月9日～9月30日
御飯屋跡遺跡	平成12年8月7日～8月9日

ただし、榎道遺跡の平成8・9年度調査区と仁田尾遺跡の平成8～11年度調査区については、南九州西回り自動車道建設に伴い平成4・5年度と平成5～7年度に実施された調査区にそれぞれ隣接し遺跡の広がりが予想され、直ちに本調査が行われた。なお、各遺跡の本調査の期間は、P5の表1「一般県道小山田山谷山線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査遺跡一覧」に記述する。

次に、遺跡の基準グリッドは、各遺跡が広範囲に点在したので、道路別の設定となっている。特に、榎道遺跡、仁田尾遺跡については調査が数回におよんだ関係で、それぞれ複数の基準グリッドが設定されている。また、グリッドはすべて10m四方で設定している。以下に、各遺跡別に基準グリッドとその設定について記述する。

伏野遺跡の基準グリッドは、県道の建設設計図センター-杭No.328とNo.329を基準にして設定し、北側から1～4区、西側からA、B区とした。

隠迫遺跡の基準グリッドは、県道センター-杭No.343とNo.344を基準にして設定し、北側から1～19区、西側からA～D区とした。

榎道遺跡は、調査年度で東地区と西地区に分かれる。東地区は地上上の県道本線部分にあたり、平成14年度に調査した。西地区は、古地の緑地部のゆるやかな傾斜地で、県道から松元インターチェンジへの引き込み線部分にあたる。西地区の中心部分は、平成4、5年度に調査した南九州西回り自動車道建設に伴う榎道遺跡(以下「国道榎道跡」)鹿児島県立理蔵文化財センター発掘調査報告書No.30として平成13年度刊行)になる。その側道部分と拡張部分を、平成8、9年度に調査した。

東地区は、県道センター-杭No.366とNo.367を基準にして設定し、南側からF、A～E区、西側から1～22区とした。

西地区は、引き込み線建設設計図センター-杭No.6とNo.7を基準にして設定し、南側からE～O区、東側から1～20区とした。なお、国道榎道跡は、引き込み線センター-杭No.9とNo.12を基準にして設定し、南側からA～E区、西側から1～21区であった。

仁田尾遺跡は、調査が9年7次に及び、調査グリッド・ポイントで6地区、調査地区では14地区に分かれる。遺跡の中心部には、南九州西回り自動車道が横断し平成5～7年に調査された仁田尾遺跡(以下「国道仁田尾遺跡」)が存在する。本遺跡の基準グリッドは国道仁田尾遺跡を基にして、北側に拡張して設定した。すなわち、国道の建設設計図センター-杭No.350とNo.355を基準にして設定し、北側からQQ～AA、A～O区、東側から1～12区とした。AA-1～QQ-12区が、拡張部分になる。各地区の調査グリッド・ポイントについては、「Ⅷ 仁田尾遺跡 第1章 調査の方法」に記述する。

御飯屋跡遺跡の基準グリッドは、仁田尾中B遺跡調査

区と同じ、県道センター杭No.436とNo.440を基準にして設定し、南側からS～W区、東側から57～64区とした。

また、各遺跡の基準グリッドの根拠となった、建設設計図の各センター杭の公共座標値を以下に記す。なお、公共座標は、北緯33°東経131°を原点とする第II系で単位はkmである。

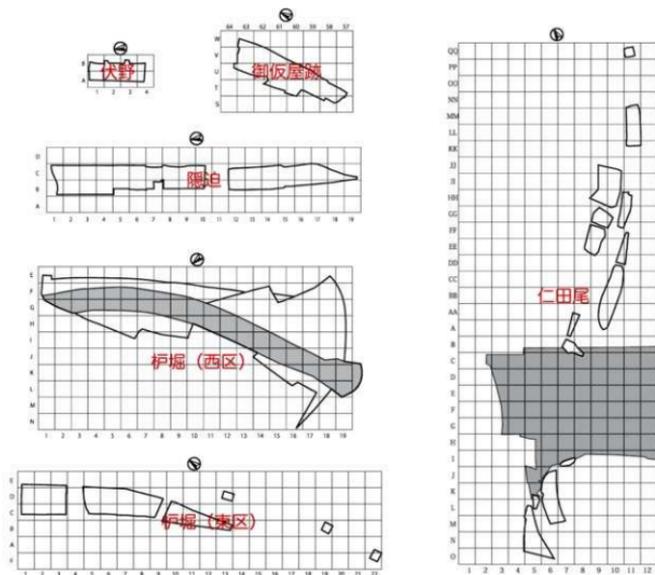
県道小山田谷山線

No.328	X座標	-153.829037	Y座標	-50.645667
No.329	X座標	-153.848737	Y座標	-50.649120
No.343	X座標	-154.121083	Y座標	-50.717145
No.344	X座標	-154.140783	Y座標	-50.720596
No.366	X座標	-155.853945	Y座標	-50.618059
No.367	X座標	-154.569011	Y座標	-50.606369
No.436	X座標	-155.853945	Y座標	-50.664336
No.440	X座標	-155.853945	Y座標	-50.632559

南九州西回り自動車道（引き込み線）

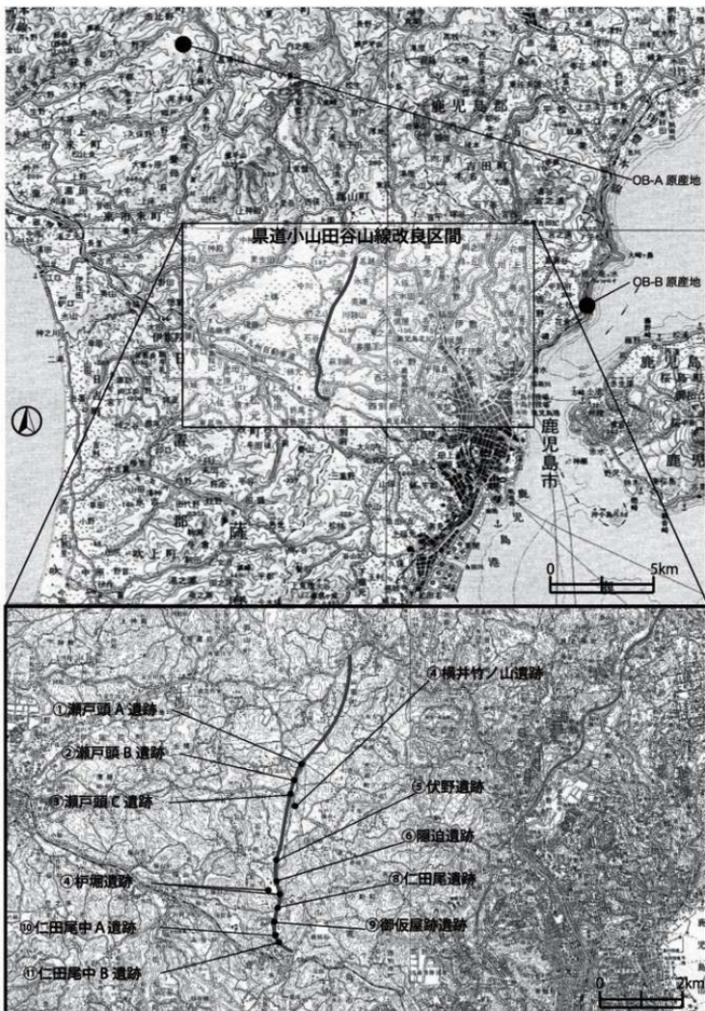
No.6	X座標	-154.302794	Y座標	-51.031373
No.7	X座標	-154.316670	Y座標	-51.045719
No.9	X座標	-154.350066	Y座標	-51.069473
No.12	X座標	-154.386755	Y座標	-51.084760
南九州西回り自動車道（本線）				
No.350	X座標	-154.9303	Y座標	-50.607988
No.355	X座標	-154.971818	Y座標	-50.516884

整理作業は、県立理蔵文化財センターで実施した。平成15、16年度には、遺物の水洗、注記、接合、石器実測委託とデータ入力などの基礎的作業を行った。平成17年度には、整理作業と報告書作成を行い、3月末に理蔵文化財発掘調査報告書を刊行した。



※ 1グリッドは10m×10m。■は、南九州西回り自動車道建設に伴う調査範囲。

第1図 各遺跡のグリッド配置図



第2図 県道小山田山谷山線改良に伴う発掘調査遺跡群

II 遺跡の位置と環境

第1章 地理的環境

伏野・隠泊・榎屋・仁田尾・御飯屋跡遺跡は、鹿児島県鹿児島市石谷町に所在する。この地域は平成16年11月に編入合併した旧日置郡松元町に該当し、市中心部の鹿児島湾岸から約10km西方の内陸部に位置する。以下に旧日置郡松元町を中心にして記述する。

地形的には、溶岩・火山灰の堆積した海拔150m前後の丘陵地帯からなり、浸食作用を受けて数多くの沢谷と分断された丘陵がみられる。沢谷は谷底平地となり山田・追田を形成し、台地上は畑作地帯で茶畑への利用が多い。東辺は急傾斜の始良カルデア壁で鹿児島湾側と東シナ海側との分水界になり、西方へは吹上浜に向けて緩やかに降下する。

地質的特徴として、北方に隣接する日置市北部山地は輝石安山岩、西方の薩摩半島中部山地は中生代の四方十層に属する砂岩と頁岩の互層からなり、町の大部分を占める台地は火山灰土壌のシラスで構成されることが挙げられる。気候的特徴は、中高原地区であるため南国としては気温が比較的低い。また、夏季は大雨や台風の影響で降水量が大きい。

また、位置的には南北に細長い薩摩半島中央の地域部を占める。東側は鹿児島市中心部、西・南・北側は平成17年5月に旧日置郡4町の合併で誕生した日置市と接している。鹿児島と福岡・熊本を結ぶ鹿児島本線・九州新幹線、遺跡の中心付近を東西に横断する南九州西回り自動車道といった高速交通網や、鹿児島市の南北内陸部で結ぶ大型バイパス道路も近年整備された。交通の利便性から個人住宅の新築増加や大型住宅団地の造成がみられ、鹿児島市のベッドタウンとしての一面もある。

調査地は、国道10号線と鹿児島市南部を結ぶ県道小山田谷山線沿いに点在する。調査地の地形は海拔約190mの台地縁辺部で、鹿児島湾側と東シナ海側との分水嶺に当たり、東西方向へ複雑に谷が開析し、遺跡を囲むように東に田上川、西に石谷川、下谷川が流れている。調査地は、茶畑に多く利用されている。当地は茶の生産量が多い鹿児島県内において有数の生産地である。

第2章 歴史的環境

旧日置郡松元町には、旧石器時代から近世に至るまで長期にわたり数多くの遺跡が存在している。

旧石器時代の遺跡は、本報書害起因事業や南九州西回り自動車道建設に伴い、近年の発掘調査事例が急増している。

前山遺跡からは、シラス礫土層下位から台形椀石器、ナイフ形石器、スクレイパー等が出土し、御飯屋跡遺跡からも同時期の遺物が出土している。仁田尾遺跡では、ナイフ形石器文化の時期の縄野や細石器刃文化の時期の

落し穴状遺構と共にこれらの時期の遺物が出土し、仁田尾中B遺跡からは、ナイフ形石器から細石器文化に至るまでを中心に多数の石器製作道具と共に30万点超の遺物が出土している。近接する榎屋遺跡や、御飯屋跡遺跡、隠泊遺跡からも同時期の遺物が出土している。

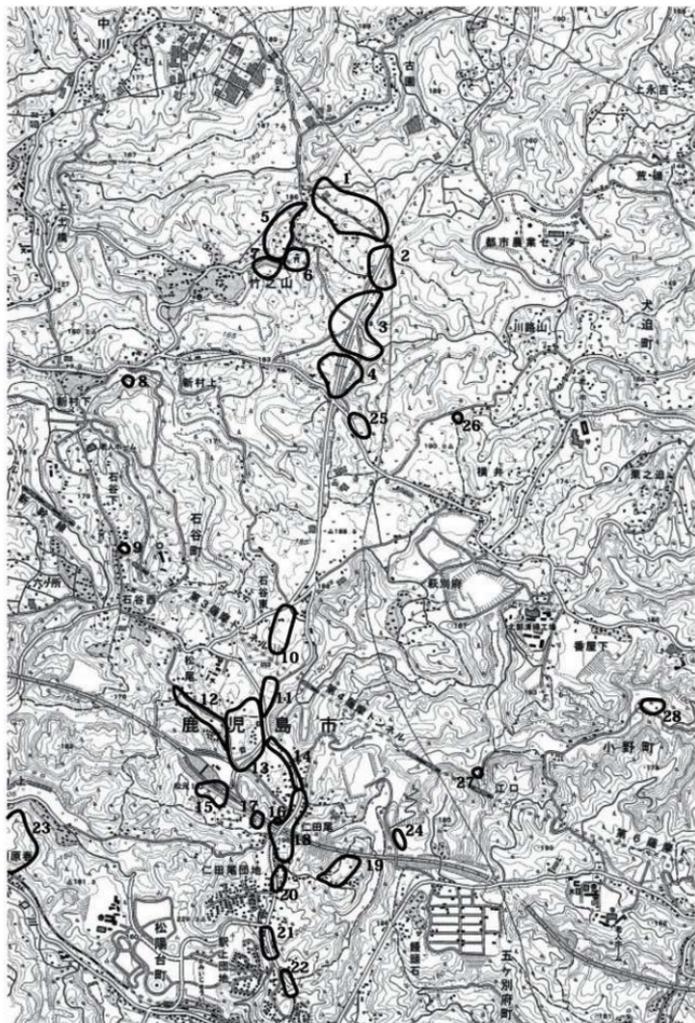
縄文時代草創期では、仁田尾遺跡や仁田尾中B遺跡で、土器や石器が出土している。早期では、前原遺跡で前式、吉田式、石版式土器と磨石や石皿などの遺物が、多数の住居跡や集石、連穴土坑など出土し、早期集落が存在した。他に仁田尾遺跡や仁田尾中B遺跡などからも同時期の遺物が出土している。前期では仁田尾遺跡や、榎屋遺跡で出土している。後期では宮尾遺跡から落し穴状遺構を含む101基の土坑が検出されており、晩期では仁田尾遺跡で掘立柱建物跡が検出されている。

弥生時代は、前期の高橋Ⅰ式、夜臼式土器が出土した東吉寺遺跡があり、山下堰遺跡では弥生時代後期から古墳時代初期の住居跡が3基検出され、鉄剣、絵画土器が出土している。フミカキ遺跡では同時期と思われる円形の刻目突帯を施した壺形土器も出土している。

古代から中世にかけては、開拓開墾が進み、荘園領主や、島津氏、伊集院氏などが、所領をめぐる抗争を繰り返した。15世紀前半、石谷地域は守護職島津氏の家老の町田氏の領地となった。戦国時代になると松元町内でも、石谷城の町田氏や谷口城の肥後氏等が割拠した。この時代の遺跡からは、宮尾遺跡や榎屋遺跡、フミカキ遺跡などで須恵器や土師器、陶磁器などが出土している。山下堰遺跡では平安時代の陶器類が検出され、須恵器、土師器、陶磁器等も出土している。仁田尾中B遺跡では、炭化した桃の種を持ったコマド状土遺構や配石が検出され、黒書土器も出土している。また、町内にはこの時代の古石塔も多くみられる。

江戸時代の石谷地域は、薩摩藩の上級武士である一所持家となった町田氏の領地であった。町田氏は鹿児島城下の屋敷に居住していたが、御飯屋跡遺跡には地方役所である地頭屋敷が存在した。

文化財保護行政の生みの親といえる町田久成は、石谷領主28代久長の長男として天保9（1838）年に生まれた。江戸の昌平黌に学んだ後、藩の英蘭学教育機関である開成所の学頭を命じられた。慶応元（1865）年には薩摩藩留学生の監督としてイギリスに渡り、大英博物館の見学や慶応3年のパリ万国博覧会への参加を通して、西洋では人々が容易に文物や見聞し、新知識を取得できることを痛感した。帰国後、新政府内で博覧会事業の推進、博物館建設の中心的役割を果たし、明治15（1882）年には、上野に東京帝国博物館を完成させ初代館長となった。古美術の鑑識にも長じ、古書画の収集に努め、後に官を辞して仏門に帰依し、生涯を終えた。



第3図 周辺遺跡位置図

表2 周辺遺跡一覧

番号	道跡番号	道跡名	所在地	地形	時代	遺物など	備考
1	30-55	瀬戸頭	日置市伊集院町竹之山	台地	旧石器、縄文、中世	土器片	平成11年町理文報告書(11)
2	30-75	瀬戸頭A	日置市伊集院町竹之山	台地	旧石器、縄文	ナイフ形石器・細石器	平成10～12年度本調査、県理文報(85)
3	30-76	瀬戸頭B	日置市伊集院町竹之山	台地	旧石器、縄文	細石器	平成13年度本調査、県理文報(85)
4	30-77	瀬戸頭C	日置市伊集院町竹之山	台地	旧石器、縄文	台形石器	平成11年度本調査、県理文報(85)
5	30-78	竹之山	日置市伊集院町竹之山	台地	縄文		分布調査
6	30-7	前道	日置市伊集院町上橋竹山前道奥野神社	台地		磨製石斧	
7	30-14	長崎城跡	日置市伊集院町竹之山	山地	中世		
8	31-1	小松道	鹿兒島市石谷町小竹山	台地	縄文早期	石版式土器	
9	31-2	石谷城跡	鹿兒島市石谷町伊頭	台地	中世(室町後期)	堀割跡	町田氏居城跡
10	31-3	伏野	鹿兒島市石谷町伏野	台地	旧石器	割片、迷穴土坑	平成14年度本調査、本報告書
11	31-4	隠道	鹿兒島市石谷町羅ヶ丸	台地	旧石器・縄文	土器・石器	平成14年度本調査、本報告書
12	31-5	宮ヶ道	鹿兒島市石谷町前山	台地	旧石器	ナイフ形石器・細石器	平成8～10年度本調査・町理文報告書(3)
13	31-6	伊堀A	鹿兒島市石谷町伊堀	台地	旧石器・縄文・古墳	細石器・石鏃・石槍・前平式土器	平成4～9年度本調査 一部県理文報告書(30)、本報告書
14	31-7	伊堀B	鹿兒島市石谷町伊堀	台地	縄文・古代	土器・石器	平成14年度本調査、本報告書
15	31-8	前山	鹿兒島市石谷町西ノ原	台地	旧石器・縄文・古墳	細石器・ナイフ形石器・成川式土器	平成7～8年度本調査
16	31-9	西ノ原A	鹿兒島市石谷町西ノ原	台地	弥生後期	土器(完全小型壺)	「鹿泉考古学会紀要」2号、昭和12年発見
17	31-10	西ノ原B	鹿兒島市石谷町西ノ原	台地	旧石器	細石器・ナイフ形石器	平成6年度本調査・県理文報告書(30)
18	31-11	仁田尾	鹿兒島市石谷町仁田尾	台地	旧石器・縄文	細石器・ナイフ形石器、落とし穴	平成5～11、14、15年度本調査、一部本報告書
19	31-12	宮尾	鹿兒島市石谷町宮尾	台地	縄文・古代	土坑・青磁片	県理文報告書(73)
20	31-13	御殿屋跡	鹿兒島市石谷町仁田尾	台地	旧石器	細石器・ナイフ形石器、礎石	平成14～15年度本調査、本報告書
21	31-14	仁田尾中A	鹿兒島市石谷町仁田尾	台地	旧石器・縄文	細石器・ナイフ形石器	平成14～15年度本調査
22	31-15	仁田尾中B	鹿兒島市石谷町仁田尾	台地	旧石器・縄文・古代	細石器・ナイフ形石器	平成12～15年度本調査
23	31-19	谷口城跡	鹿兒島市福山町	丘陵	中世(室町後期)	水加地跡	
24	1-10	木ヶ森	鹿兒島市西別府町木ヶ森	台地	縄文中期・後期	阿高式・指宿式・市来式土器・石皿等	昭和27年調査「鹿泉考古学会紀要」(2)、市理文報(4)(9)
25	1-108	横井竹ノ山	鹿兒島市大迫町横井竹ノ山	台地	旧石器～縄文	ナイフ・細石器・土器	市理文報(10) 県理文報(67)
26	1-109	川路山	鹿兒島市大迫町川路山	台地	縄文早期・古墳	石版式土器	
27	1-130	尾崎	鹿兒島市西別府町尾崎	台地			
28	1-147	広坂下北	鹿兒島市小野町西之谷	台地	縄文～古墳		平成14年度確認調査

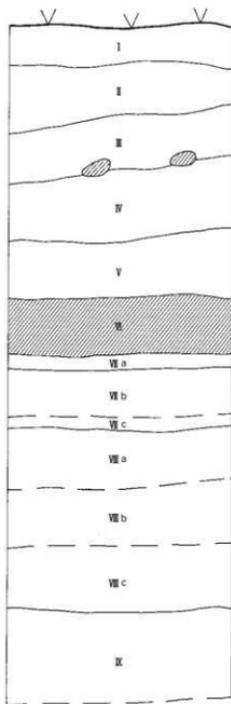
※旧日置郡松元町は平成16年11月1日に鹿兒島市に編入合併した。旧日置郡伊集院町ほか4町は平成17年5月1日に合併し、日置市になった。
 ※道跡番号は合併後の番号が未設定のため、旧町時のものである。30番代は旧日置郡伊集院町、31番代は旧日置郡松元町である。

Ⅲ 遺跡の層位

第1章 遺跡の層位

基本層位は、伏野、隠迫、栢廻、仁田尾、御仮屋跡遺跡共通である。伏野遺跡は畑地のために上層が削平されており、表土の下部はIV～V層であった。隠迫遺跡は一部II層が残存していたが、表土の下部はIII～IV層であった。3 m以上掘削を受けている場所もあった。栢廻遺跡は表土の下部はIII層であった。仁田尾遺跡は遺跡範

囲が南北に長いため場所によって層の堆積状況は異なる。表土の下部はほぼIII～IV層であった。御仮屋跡遺跡の北側は山神の祠を最頂部とする小高い丘で傾斜があり南側は平坦部である。IV・V層を確認できたが擾乱が著しい状況であった。VI層以下は安定して堆積している。VIII層下に土石流の痕跡が認められ、その下層に大隅降下軽石が良好に残存していた。各層の堆積状況は以下の通りである。



第4図 土層模式図

I層

表土及び客土。

II層

黒色土砂質土。

III層

黄褐色土。アカホヤ火山灰の二次堆積土と考えられ、所々下部に一時ブロックがみられる。縄文時代前期～晩期の遺物を包含する。

IV層

黄褐色土。全体に縄文時代早期後半の遺物を包含する。

V層

黒褐色土。縄文時代早期前半の遺物を包含する。

VI層

約11,500年前の蛤良カルデラ噴出物堆積層。薩摩火山灰層。Sz-14、いずれの遺跡でも安定して堆積している。

VII a 層

黒褐色粘質土。小型ナイフ形石器文化期～縄文時代草創期の遺物を包含する。

VII b 層

茶褐色粘質土。

VII c 層

暗茶褐色粘質土。

VIII a 層

黄褐色弱粘質土。ナイフ形石器文化期の遺物を包含する。

VIII b 層

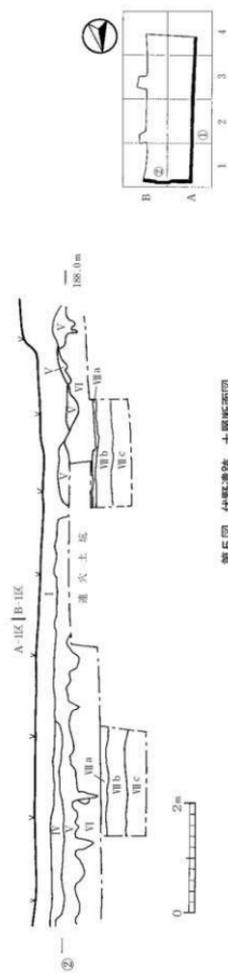
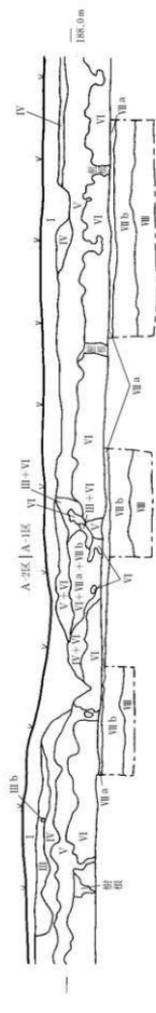
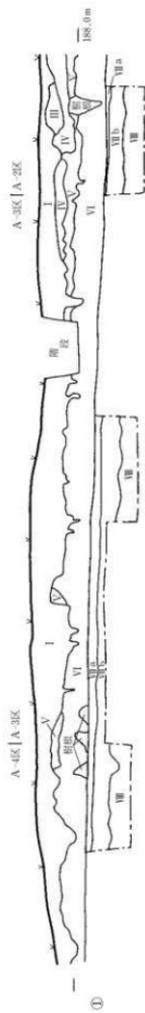
暗黄褐色硬質土。ナイフ形石器文化期の遺物を包含する。

VIII c 層

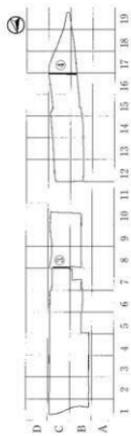
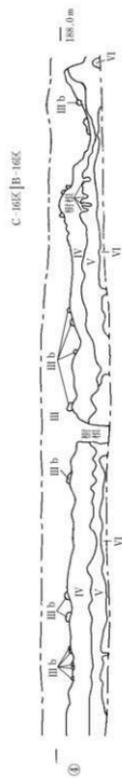
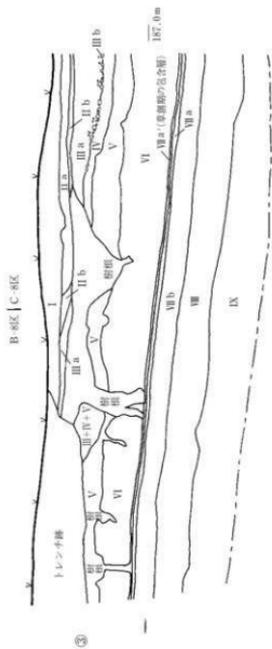
暗茶褐色粘質土。ナイフ形石器文化期の遺物を包含する。

IX層

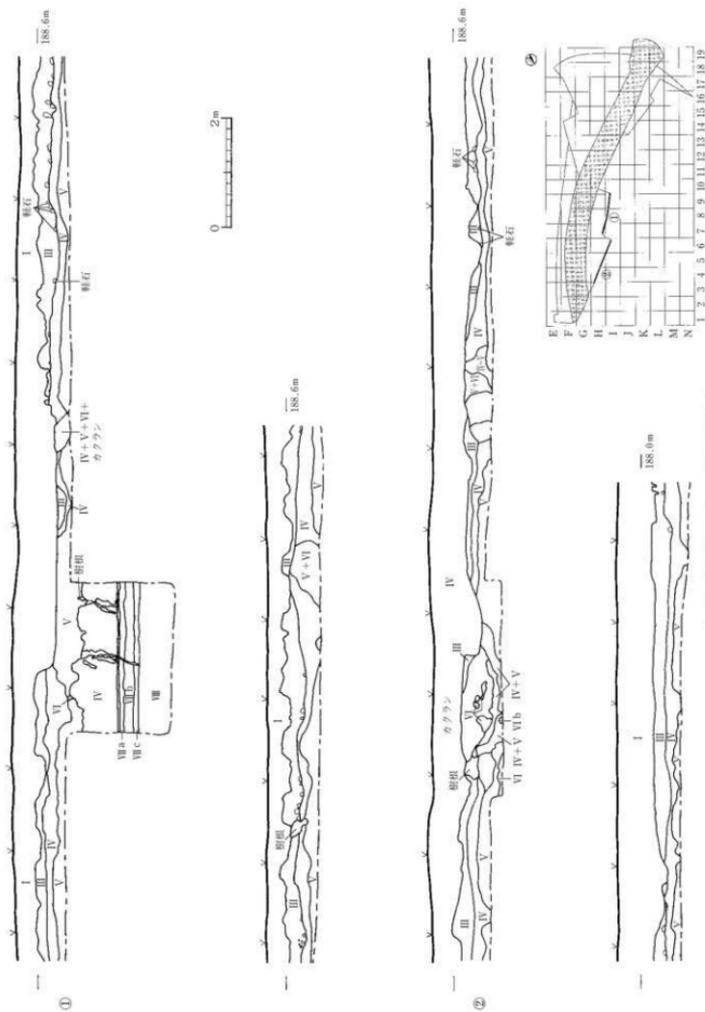
黄褐色で、黄色のパミスを含む。当遺跡の基盤層である約24000年前の蛤良カルデラ噴出物（入戸火災〔シラス〕）へと続く。



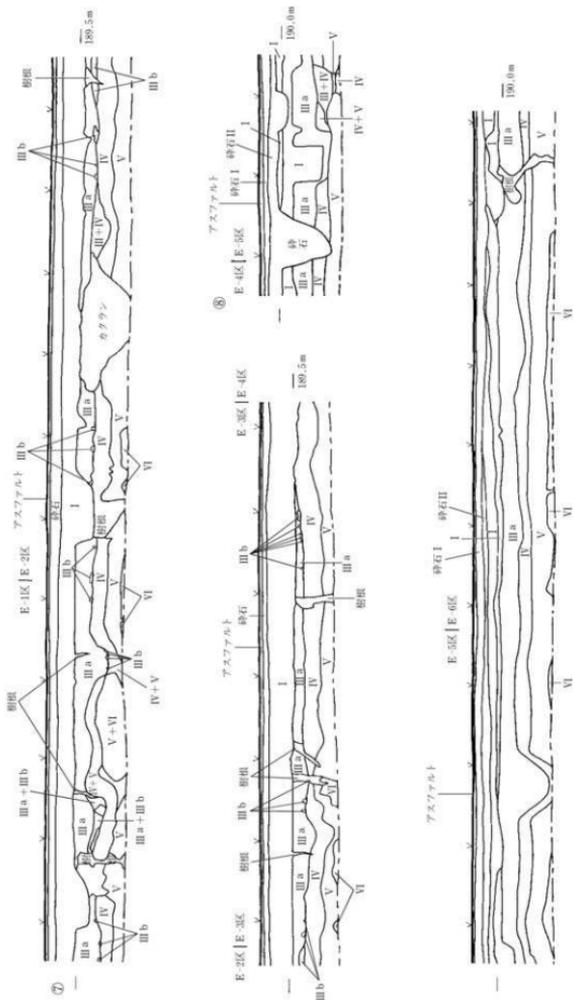
第5図 伏野遺跡 土層断面図



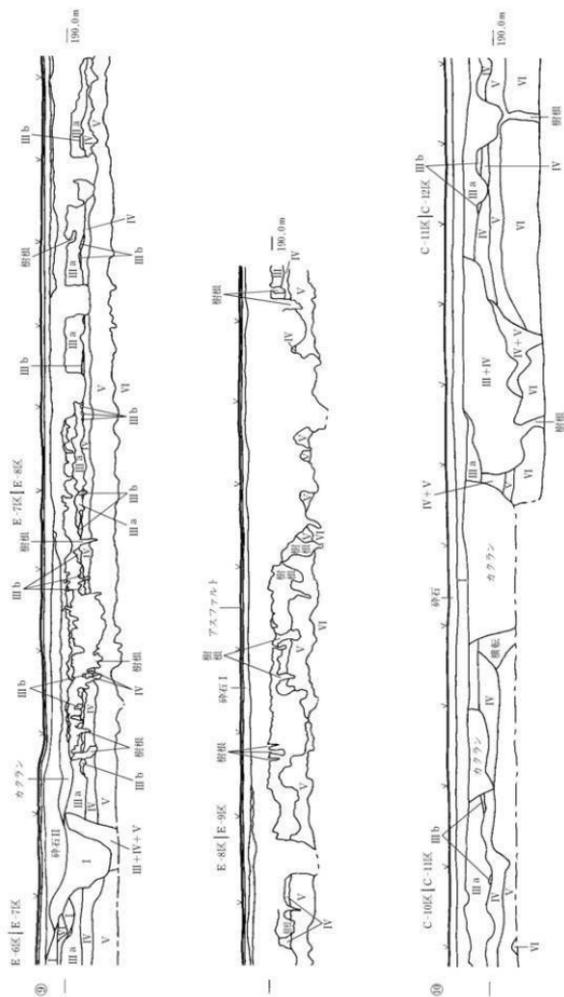
第7回 陸奥連群 土層断面図 (2)



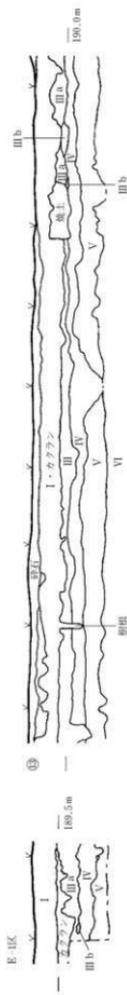
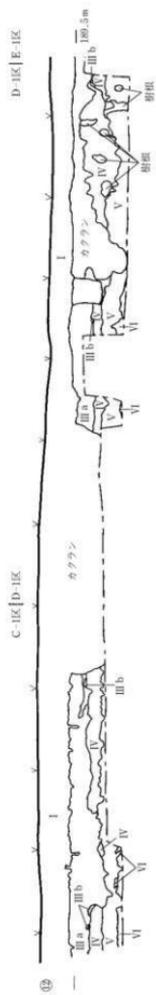
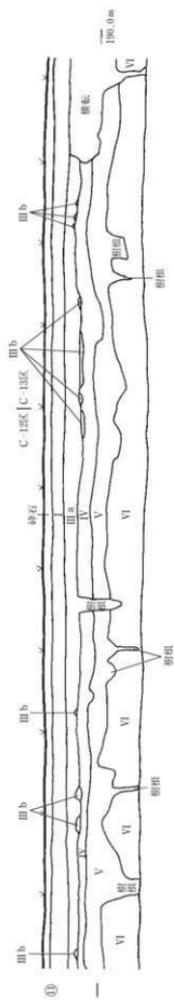
第8図 伊藤道跡西区 土層断面図 (1)



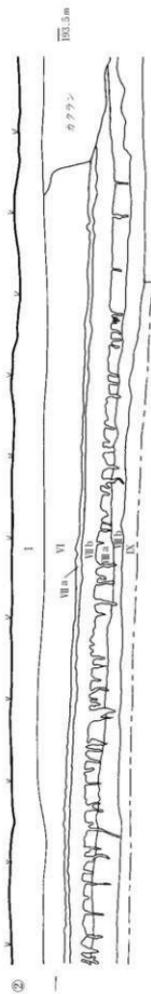
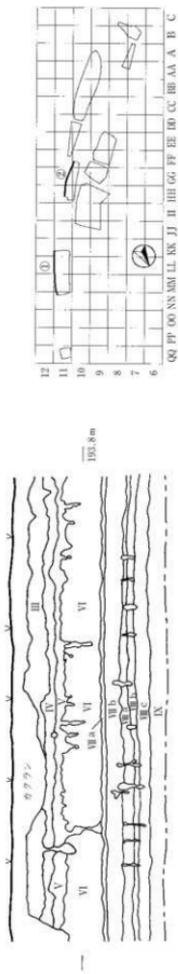
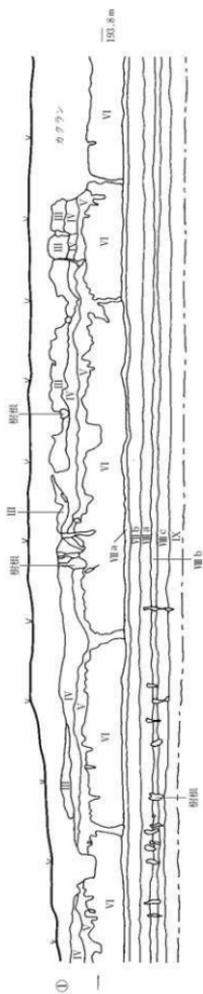
第12図 伊藤遺跡東区 土層断面図(1)



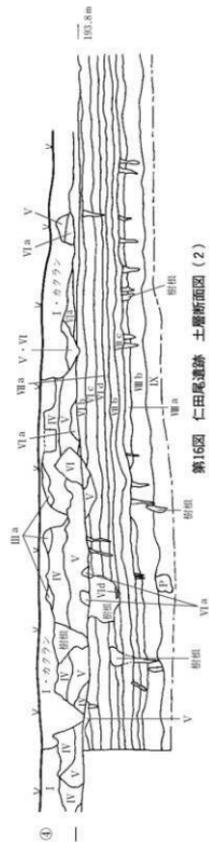
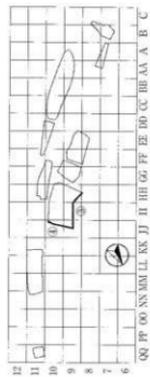
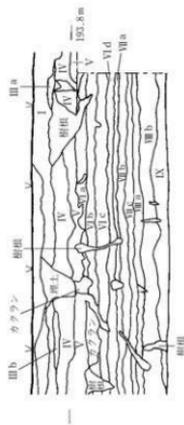
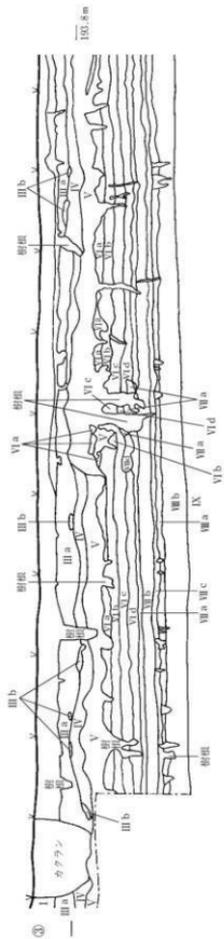
第13図 伊場遺跡東区 土層断面図 (2)



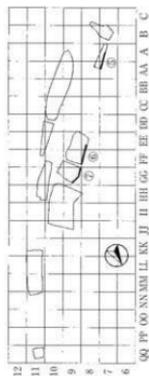
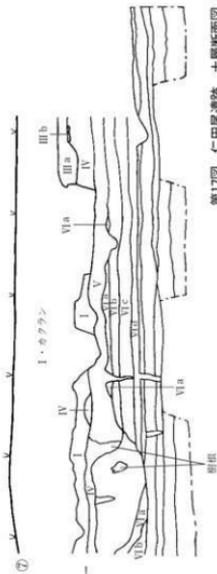
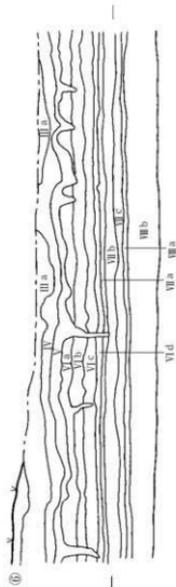
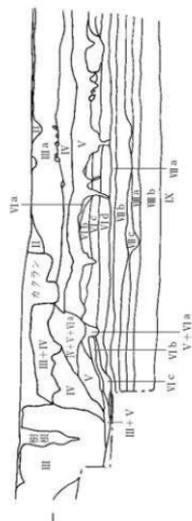
第14図 伊弉諾跡東区 土層断面図 (3)



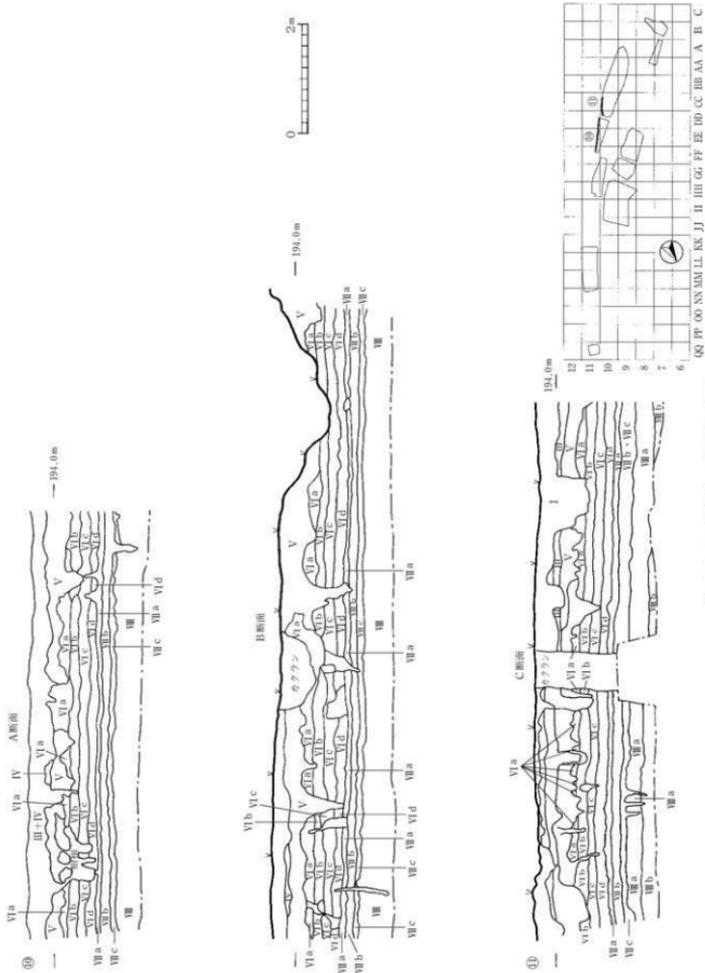
第15図 仁田原遺跡 土層断面図(1)



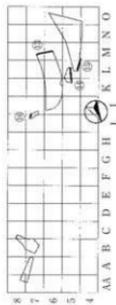
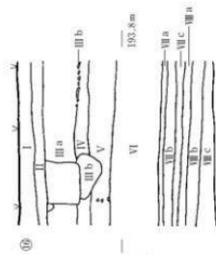
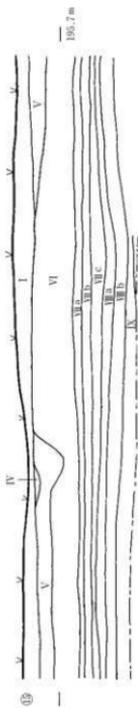
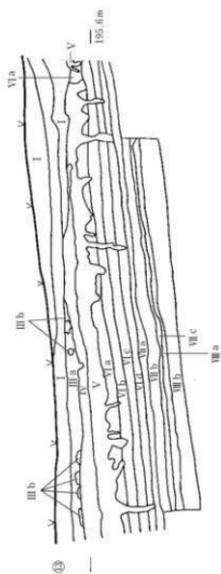
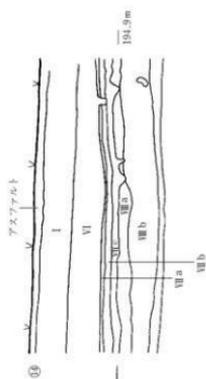
第165図 仁田原遺跡 土層断面図(2)



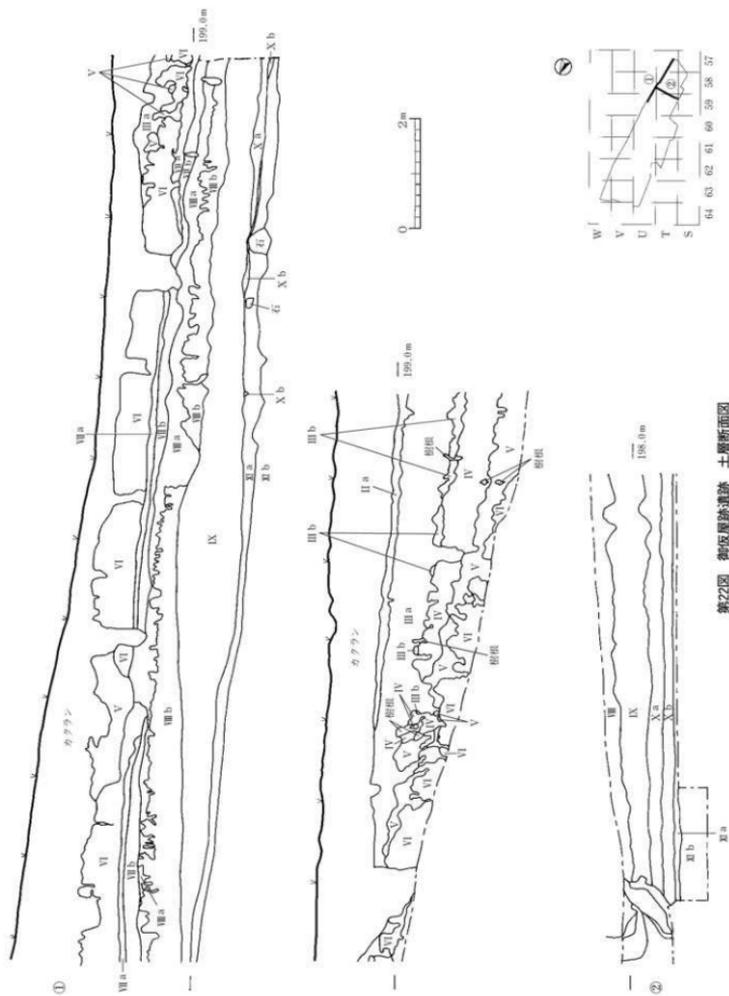
第17図 仁田原遺跡 土層断面図(3)



第19図 仁田原遺跡 土層断面図 (5)



第21図 仁田原道跡 土層断面図 (7)



第22図 御成屋跡遺跡 土層断面図

IV 伏野遺跡

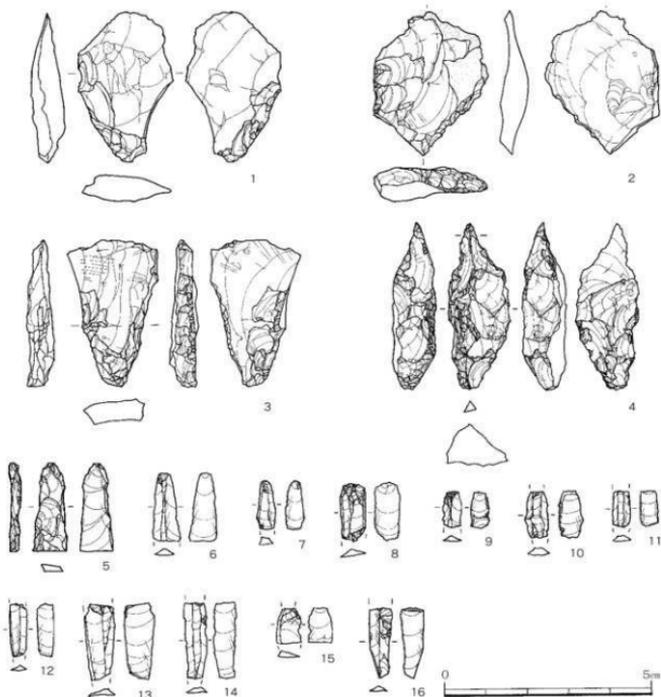
第1章 調査の方法

伏野遺跡は約360mを対象として全面調査を実施した。田地は畑である。確認調査の結果では遺物の出土が見られなかったため、表土を重機で除去した後、V層までは重機で慎重に掘り下げた。VI層では上面でV層が長楕円形と円形に残る部分があったため、その周囲だけ残してVI層まで掘り下げを進めた。VII～VIII層まではグリッドを

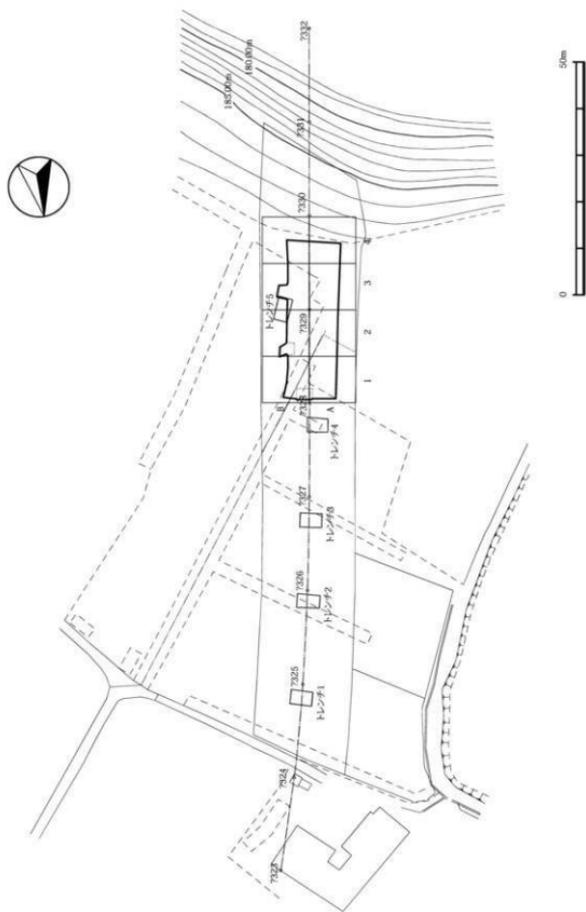
もとに1辺2mの千鳥格子状に区切って全面調査を実施した。

旧石器時代は、VII a～VII b層にかけて細石器文化期のブロックが3ヶ所で検出され、別の地点では数点の細石刃が出土した。VII b層からは台形石器、ナイフ形石器、三稜尖頭器等が出土した。

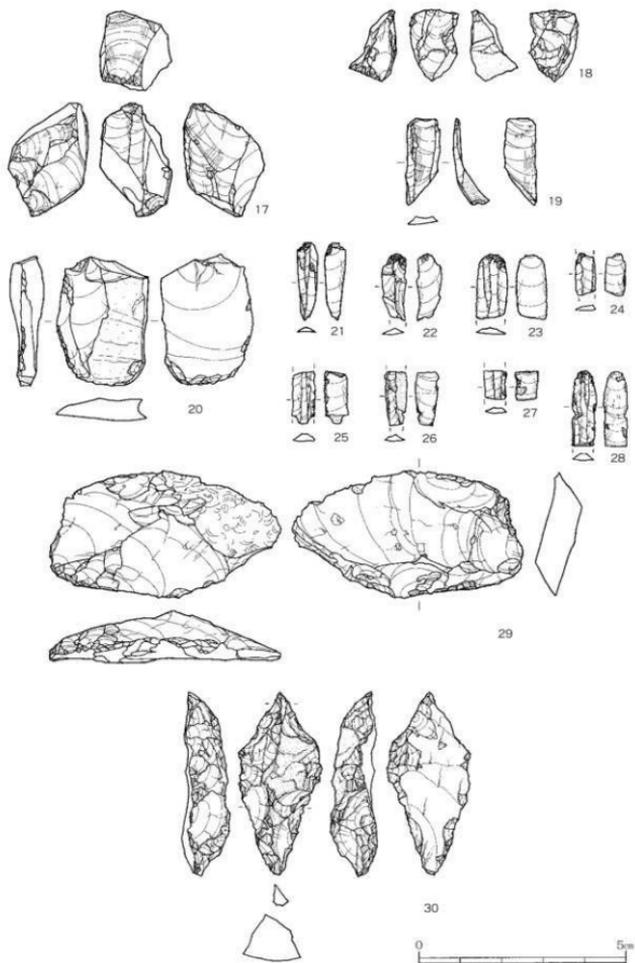
縄文時代は、VI層上面で遺構が2基検出された。



第23図 VII b～VII a層出土石器



第24図 調査区と周辺地形図



第25图 VI层出土石器

第2章 VII層の調査

第1節 概要

VII層の遺物は総数1281点である。なお、VII層から182点の遺物の出土がみられ、ブロックとしてまとまっているが、平面的にVII層のブロックと分離できない点、VIII層からVII層にかけて遺物の出土が継続する点から、VII層の遺物の残りとして、文化層としてはVII層のものとして、1463点を一括して細石器文化期のブロックとして取り扱うことができるかと判断した。ただし、台形石器、ナイフ形石器、三稜尖頭器の一群についてはVII層にまとまっている点、石材が同一である点等を考慮すると、ナイフ形石器文化期の遺物として一括して取り扱えるかと判断される。

出土はA・B-2・3区を中心とし、ブロック3基を抽出した。石材はOB-A-E、硬質頁岩、瑪瑙、タンバク石、黒色安山岩、粘板岩等多くで構成されるが、主となるのはOB-A、OB-C、OB-D、粘板岩の4種類である。

主な石器は細石刃核、細石刃等であるが、少量である。

第2節 遺構

石器群の概要

A・B-3区に集中して細石器文化期のブロックが3基抽出された。各ブロックをそれぞれA、B、Cブロックとして取り扱うこととする。各ブロックの概要は下記のとおりである。

Aブロック

総数423点である。構成石材の内訳は、OB-Aが2点、OB-Bが9点、OB-Cが13点、OB-Dが287点、粘板岩99点、頁岩が1点である。主な石器は細石刃12点のみである。細石刃核の出土はないものの、剥片の接合から、細石刃核の整形作業が行われていたことがうかがえる。

Bブロック

総数824点である。構成石材の内訳はOB-Aが787点、粘板岩を占め、OB-Bが6点、OB-Cが4点、OB-Dが2点、瑪瑙1点、黒色安山岩4点、硬質頁岩1点、粘板岩5点、頁岩10点である。主な石器は二次加工剥片2点、細石刃4点である。

Cブロック

総数167点のブロックである。構成石材はOB-Aが33点、OB-Cが121点、OB-Dが1点、珪質頁岩が1点、瑪瑙2点、黒色安山岩2点である。

主な石器は細石刃核2点、作業面再生剥片1点、細石刃が7点である。

第3節 出土遺物

1はOB-A製のナイフ形石器である。剥片を横位に利用し、左側縁は背腹両面に平坦剥離を施し、右側縁は折断している。石核は剥片で、腹面を作業面に設定し、得られた素材であるため、背面もボシ面で構成される。2はOB-A製のナイフ形石器である。剥片を横位に利用

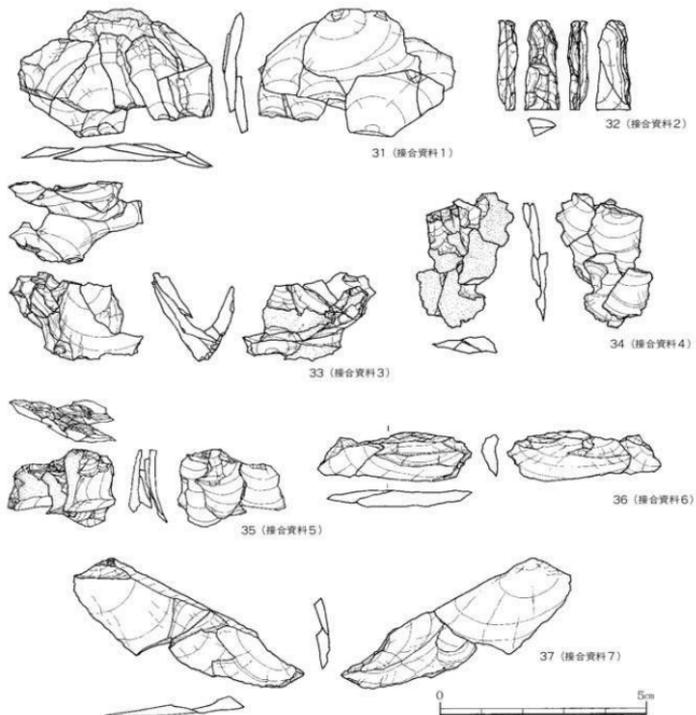
し、右側縁に腹面からのプランティングを施している。左側縁は背面に平坦剥離が観察されるが、素材剥片の打面が残されており、打面からの剥離であるため二次的な加工であるか、素材獲得時の頭部調整であるかの判別はつかない。3はOB-A製の台形石器である。素材剥片を横位に利用し、打面側は折断の後背腹両面への平坦剥離を、反対側は腹面側からのプランティングを施している。刃部は一部欠損している。4はOB-A製の三稜尖頭器である。部分面加工タイプで、腹面の基部に両側面からの平坦剥離が施される。稜上への調整も顕著である。5はOB-D製の細石刃核の打面形成に係るスポールと考えられる。長軸側からの連続する剥離を施した後、短軸側からの剥離により作出されたものである。6-16は細石刃である。17はOB-C製の細石刃核である。細石刃核の再生作業が行われており、種別剥離面は切られている。18はOB-C製の細石刃核である。小型の角礫を素材とし、片側面は自然面反対側面は下縁調整により正面形造三角形の作業面を設定し、打面調整を施しながら細石刃を剥出している。19はOB-C製の細石刃核の作業面再生剥片である。両側面が自然面で構成される細石刃核であることがうかがえる。打面側は欠損している。20は珪質頁岩の微細剥離痕のある剥片である。剥片の左側縁の一部に微細な剥離痕が観察される。21-28は細石刃である。いずれもOB-C製の石器である。29は黒色安山岩製のスクレイパーである。横長剥片の縁辺の背腹両面に細い二次加工を施し、刃部を形成している。30はOB-A製の三稜尖頭器である。剥片を横位に利用した部分面加工のタイプである。腹面の先端部を中心に平坦剥離が確認され、稜上調整は簡易である。

第4節 接合資料

31はOB-D製の剥片8枚の接合である。いずれも薄い剥片を両側縁から断面弧状に剥離したものである。細石刃核の整形作業に関する資料と考えられる。32はOB-D製の剥片2枚の接合である。細石刃核の作業面作出のた

表3 ブロック別石材重量表 (単位: g)

石 材	Aブロック	Bブロック	Cブロック	ブロック外	合計
OB-A	0.43	429.63	0.47		430.53
OB-B	17.61	1.17		21.79	40.57
OB-C	0.5	0.43	19.86		20.79
OB-D	51.84	0.18	0.7		52.72
OB-E				2.16	2.16
頁岩	0.33	9.8			10.13
硬質頁岩		20.21		1.61	21.82
黒色安山岩		3.78	6.45	5.17	15.4
瑪瑙		1.21	1.68		2.89
タンバク石				0.27	0.27
粘板岩	6.53			0.73	7.26
合計	70.71	466.41	29.16	31.73	604.54



第26図 VII・VI層出土石器接合資料

めのファーストスボールとセカンドスボールであると考えられる。33はOB-Dの剥片6枚の接合である。細石刃核整形作業に関わる資料であると考えられ、作業面の正面観がV字状になるように石核の側面を整形していると思われる。一部礫皮面を残している。34はOB-D製の剥片6枚の接合である。礫皮面を除くために、いずれも薄い剥片を剥離している。35はOB-C製の剥片5枚の接合である。小型薄手の剥片を同一方向に連続して剥離し

ており、何らかの調整作業に関するものと考えられる。36、37はそれぞれ粘板岩製の剥片2枚の接合である。いずれも横長の剥片同士の接合であり、尖頭器やスクレイパー等の製作に関連するものと推測される。

第5節 石材構成比

当遺跡で出土している石器の石材重量は、OB-Aが430.53gと最も多く、OB-Dが52.72g、OB-Cが20.79gである。

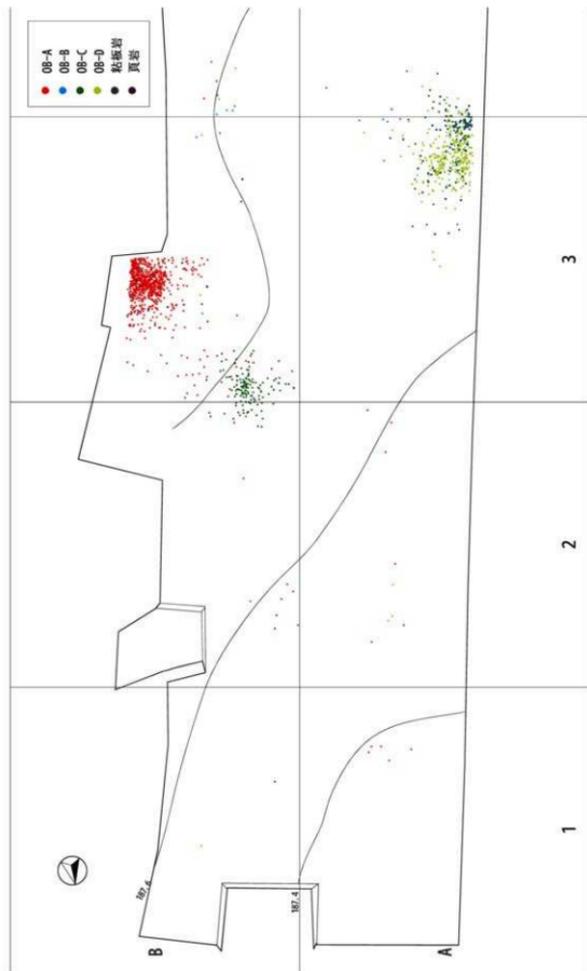
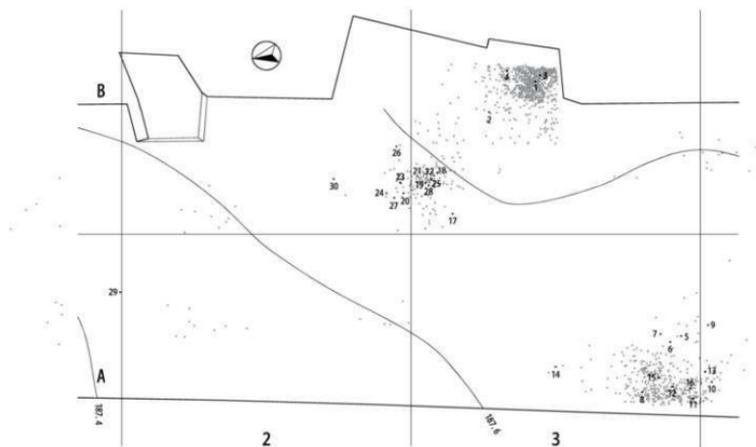
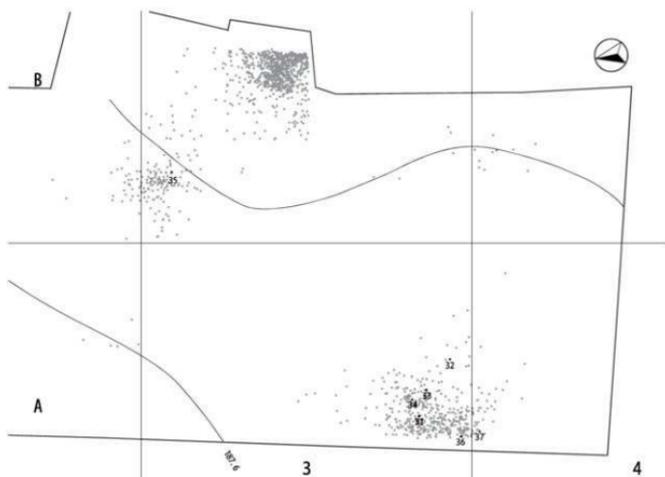


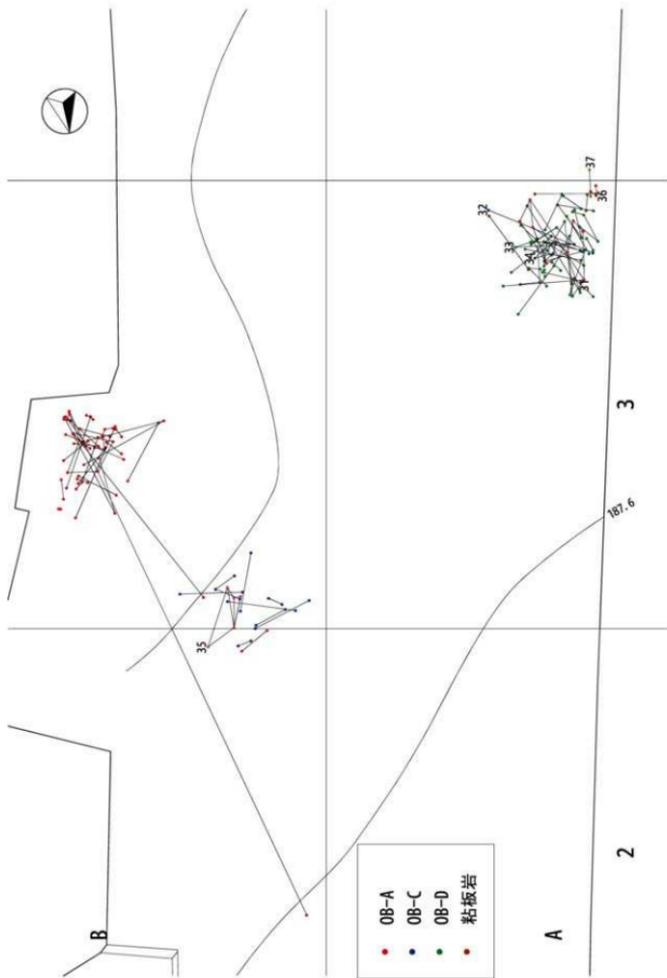
圖 27 石材別分布圖



第28回 VII層掲載遺物分布図 (1)



第29回 VII層掲載遺物分布図 (2)



第30图 接合膏料分布图

表4 実測石器観察表

図番号	遺物番号	部 種	石 材	層1	層2	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	出土区	プロック	部位	接合	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	
1	906	ナイフ形石刃	OB-A	7	b	24.302	15.358	186.965	B-3	B	-	-	-	2.2	2.3	0.9	5.23
2	788	ナイフ形石刃	OB-A	7	b	22.697	14.280	186.971	B-3	B	-	-	-	3.52	2.8	0.85	5.61
3	908	台形石刃	OB-A	7	b	24.460	15.557	186.990	B-3	B	-	-	-	3.65	2.2	0.7	4.12
4	464	三稜尖頭器	OB-A	7	a	23.331	15.727	187.161	B-3	B	-	-	-	4.1	1.53	1.08	5.17
5	127	スゴール	OB-D	7	a	29.337	6.428	187.611	A-3	A	-	-	接合部②	2.2	0.8	0.3	0.51
6	767	扇石刃	OB-D	7	a	28.959	6.224	187.514	A-3	A	面中部	-	-	1.65	0.68	0.38	0.14
7	137	扇石刃	OB-D	7	b	28.622	6.497	187.589	A-3	A	面中部	-	-	1.22	0.45	0.2	0.45
8	35	扇石刃	OB-D	7	a	27.982	4.657	187.702	A-3	A	面中部	-	-	1.42	0.6	0.23	0.69
9	417	扇石刃	OB-C	7	a	30.267	6.819	187.672	A-4	A	面中部	-	-	0.89	0.45	0.13	0.66
10	421	扇石刃	OB-C	7	a	30.296	4.821	187.576	A-4	A	面中部	-	-	1.15	0.6	0.18	0.1
11	244	扇石刃	OB-C	7	a	29.737	4.239	187.671	A-3	A	面中部	-	-	0.89	0.45	0.13	0.66
12	668	扇石刃	OB-D	7	a	29.929	4.658	187.598	A-3	A	面中部	-	-	1.33	0.44	0.13	0.06
13	143	扇石刃	OB-D	7	a	30.166	5.181	187.695	A-4	A	面中部	-	-	1.85	0.75	0.23	0.24
14	42	扇石刃	OB-D	7	a	24.997	5.35	187.568	A-3	A	面中部	-	-	1.60	0.56	0.24	0.18
15	90	扇石刃	OB-C	7	a	28.567	4.968	187.698	A-3	A	面中部	-	-	0.86	0.6	0.15	0.69
16	373	扇石刃	OB-D	7	a	29.442	4.582	187.632	A-3	A	面中部	-	-	1.71	0.57	0.13	0.12
17	717	扇石刃状	OB-C	7	a	21.437	10.717	187.521	B-3	C	-	-	-	2.1	1.7	1.95	7.35
18	190	扇石刃状	OB-C	7	a	20.907	12.143	187.534	B-3	C	-	-	-	1.7	1.2	1.2	2.78
19	1227	作業面再生剥片	OB-C	7	a	20.563	11.789	187.415	B-3	C	-	-	-	2.12	0.82	0.35	0.5
20	1053	徳川幕府時代の鋸片	柱貫片行	7	a	19.741	11.438	187.333	B-2	C	-	-	-	3.2	2.22	0.82	5.29
21	738	扇石刃	OB-C	7	a	20.219	12.033	187.496	B-3	C	左部	-	-	1.9	0.5	0.25	0.19
22	741	扇石刃	OB-C	7	a	20.738	12.032	187.510	B-3	C	中部	-	-	1.62	0.58	0.28	0.13
23	769	扇石刃	OB-C	7	a	19.626	11.809	187.564	B-2	C	面中部	-	-	1.6	0.75	0.19	0.22
24	767	扇石刃	OB-C	7	a	19.154	11.443	187.557	B-2	C	面中部	-	-	1.03	0.5	0.12	0.05
25	726	扇石刃	OB-C	7	a	20.697	11.934	187.522	B-3	C	面中部	-	-	1.28	0.55	0.21	0.14
26	778	扇石刃	OB-C	7	a	19.5	13.075	187.487	B-2	C	面中部	-	-	1.33	0.55	0.18	0.11
27	944	扇石刃	OB-C	7	a	19.42	11.279	187.488	B-2	C	面中部	-	-	0.7	0.54	0.14	0.06
28	1062	扇石刃	OB-C	7	a	20.613	11.706	187.387	B-3	C	面中部	-	-	1.84	0.6	0.18	0.17
29	852	スゴール	紫色斑入岩	7	a	9.944	7.964	187.365	A-1	ア	ア	-	-	1.15	0.45	1.13	16.43
30	654	三稜尖頭器	OB-A	7	a	17.324	11.832	187.001	B-2	ア	ア	-	-	4.55	2.05	1.1	7.56

表5 接合資料観察表

図番号	遺物番号	部 種	石 材	層1	層2	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	出土区	プロック	部位	接合	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)
31	99	割片・砕片	OB-D	7	a	28.486	4.688	187.694	A-3	A	-	接合部①	3.2	4.8	0.45	5.5
	129	割片・砕片	OB-D	7	a	28.955	5.457	187.686	A-3	A	-	接合部②				
	210	割片・砕片	OB-D	7	a	28.153	5.152	187.673	A-3	A	-	接合部③				
	286	割片・砕片	OB-D	7	a	29.092	5.741	187.673	A-3	A	-	接合部④				
	290	割片・砕片	OB-D	7	a	29.571	5.517	187.671	A-3	A	-	接合部⑤				
	308	割片・砕片	OB-D	7	a	27.785	4.331	187.668	A-3	A	-	接合部⑥				
32	339	割片・砕片	OB-D	7	a	28.865	4.352	187.632	A-3	A	-	接合部①	2.2	0.8	0.48	0.71
	560	割片・砕片	OB-D	7	a	29.101	4.568	187.629	A-3	A	-	接合部②				
	127	スゴール	OB-D	7	a	29.337	6.428	187.611	A-3	A	-	接合部③				
	226	スゴール	OB-D	7	a	28.282	4.134	187.655	A-3	A	-	接合部④				
	82	割片・砕片	OB-D	7	a	28.632	5.498	187.719	A-3	A	-	接合部⑤				
	83	割片・砕片	OB-D	7	a	28.579	5.492	187.725	A-3	A	-	接合部⑥				
33	105	割片・砕片	OB-D	7	a	28.949	4.934	187.716	A-3	A	-	接合部⑦	2.2	3.35	2.05	3.78
	219	割片・砕片	OB-D	7	a	28.634	5.436	187.695	A-3	A	-	接合部⑧				
	327	割片・砕片	OB-D	7	a	28.575	4.342	187.629	A-3	A	-	接合部⑨				
	446	割片・砕片	OB-D	7	a	28.510	6.428	187.624	A-3	A	-	接合部⑩				
	86	割片・砕片	OB-D	7	a	28.201	5.200	187.706	A-3	A	-	接合部⑪				
	324	割片・砕片	OB-D	7	a	28.418	4.364	187.642	A-3	A	-	接合部⑫				
34	387	割片・砕片	OB-D	7	a	28.635	4.956	187.612	A-3	A	-	接合部⑬	2.95	2.35	0.6	1.93
	391	割片・砕片	OB-D	7	a	28.447	5.229	187.650	A-3	A	-	接合部⑭				
	405	割片・砕片	OB-D	7	a	28.368	5.409	187.635	A-3	A	-	接合部⑮				
	594	割片・砕片	OB-D	7	a	28.575	5.096	187.591	A-3	A	-	接合部⑯				
	169	割片・砕片	OB-D	7	a	28.424	12.176	187.332	B-3	A	-	接合部⑰				
	725	割片・砕片	OB-C	7	a	20.685	12.031	187.556	B-3	C	-	接合部⑱				
35	727	割片・砕片	OB-C	7	a	20.721	11.886	187.532	B-3	C	-	接合部⑲	1.9	2.6	1.05	1.83
	739	割片・砕片	OB-C	7	a	20.624	12.032	187.445	B-3	C	-	接合部⑳				
	777	割片・砕片	OB-C	7	a	19.597	12.596	187.517	B-2	C	-	接合部㉑				
36	361	割片・砕片	他種灰岩	7	a	29.666	4.963	187.609	A-3	A	-	接合部㉒	1.2	3.75	0.4	1.88
	374	割片・砕片	他種灰岩	7	a	29.755	4.187	187.617	A-3	A	-	接合部㉓				
	478	割片・砕片	他種灰岩	7	a	30.240	4.211	187.625	A-4	A	-	接合部㉔				
	571	割片・砕片	他種灰岩	7	a	29.649	4.185	187.628	A-3	A	-	接合部㉕				

表6 掲載以外の細石刃一覧表

遺物番号	器種	層1	層2	石材	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	出土区	ブロック	部位	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)
13	細石刃	7	a	OB-A	7.826	6.143	187.308	A-1	外	頭中部	1.3	0.35	0.15
14	細石刃	7	a	OB-A	7.438	6.909	187.253	A-1	外	頭部	0.65	0.45	0.1
45	細石刃	7	a	OB-C	25.922	4.846	187.615	A-3	A	頭中部	1	0.35	0.1
77	細石刃	7	a	OB-D	28.360	5.795	187.690	A-3	A	中間部	0.9	0.35	0.1
140	細石刃	7	a	OB-C	30.528	5.369	187.718	A-4	A	中間部	1	0.4	1
149	細石刃	7	a	OB-C	30.940	5.493	187.686	A-4	A	中間部	0.8	0.5	0.5
170	細石刃	7	a	OB-C	21.428	12.691	187.454	B-3	C	中間部	0.7	0.3	0.1
177	細石刃	7	b	OB-C	23.517	14.917	187.310	B-3	B	頭部	0.5	0.3	0.1
185	細石刃	7	a	OB-C	20.282	12.194	187.498	B-3	C	頭部	0.5	0.35	0.1
224	細石刃	7	a	OB-C	28.082	4.374	187.686	A-3	A	中間部	0.5	0.45	0.1
250	細石刃	7	a	OB-C	29.904	6.239	187.616	A-3	A	中間部	0.5	0.35	0.1
259	細石刃	7	a	OB-D	31.065	5.758	187.651	A-4	A	中間部	0.6	0.3	0.1
301	細石刃	7	a	OB-D	30.107	4.503	187.649	A-4	A	尾部	0.75	0.35	0.1
347	細石刃	7	a	OB-C	29.201	4.564	187.627	A-3	A	中間部	1.1	0.3	0.1
414	細石刃	7	a	OB-C	29.051	6.005	187.639	A-3	A	中間部	0.9	0.4	0.15
420	細石刃	7	a	OB-D	30.474	4.929	187.584	A-3	A	中間部	0.8	0.45	0.1
422	細石刃	7	a	OB-C	30.266	4.948	187.615	A-3	A	中間部	1.1	0.5	0.2
425	細石刃	7	a	OB-D	30.157	4.272	187.599	A-3	A	中間部	0.6	0.45	0.1
734	細石刃	7	a	OB-C	20.585	11.907	187.550	B-3	C	完形品	1.9	0.55	0.15
754	細石刃	7	a	OB-C	20.170	11.267	187.514	B-3	C	頭部	0.7	0.4	0.15
766	細石刃	7	a	OB-C	19.133	11.312	187.566	B-2	C	頭部	0.7	0.35	0.1
773	細石刃	7	a	OB-C	19.877	12.202	187.496	B-2	C	頭中部	0.8	0.3	0.05
943	細石刃	7	a	OB-C	21.795	11.595	187.495	B-3	C	中間部	0.8	0.5	0.1
1062	細石刃	7	a	OB-C	20.613	11.706	187.387	B-3	C	中間部	0.5	0.35	0.1
1265	細石刃	7	b	OB-A	24.571	15.592	186.935	B-3	B	中間部	0.65	0.45	0.15

第3章 V層の調査

第1節 概要

縄文時代早期に該当する層は薩摩火山灰直上の黒褐色土であるV層及びアカホヤ火山灰直下のIV層である。本遺跡においては調査の結果、これらの層から遺物は出土しなかったが、VI層上面から長楕円形と円形の遺構が1基ずつ検出された。長軸に合わせて半截し、人為性の判断をした上で全掘した結果、長楕円形のは連穴土坑、円形のは土坑と判断した。

第2節 遺構

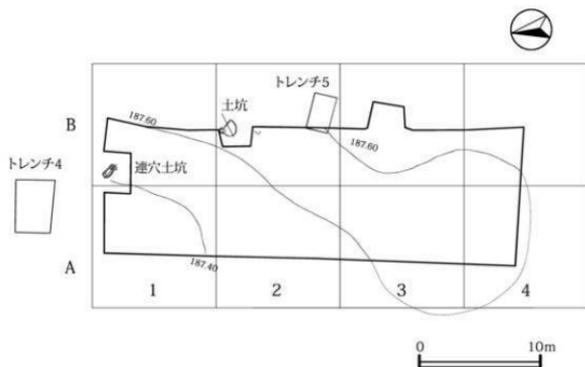
1 連穴土坑

B-1区の北西部、調査区の境界近くから検出した。平面プランは長径約1.2m、最大幅約0.6m、検出面からの深さが約0.4mで、ブリッジ部分は崩落してほぼ真下の床面にあった。想定される煙道の長さは約20cm程度である。検出面はサツマ火山灰上面で、どちらの土坑の断面も現状でわずかに袋状を呈する。埋土はV層の黒褐色土が主体であることから、縄文時代早期に該当の連穴土坑と判断した。しかし、土坑内埋土から遺物は出土せず、床面や崩落したブリッジ部分に被熱した痕跡も認められなかった。また、今回出土した連穴土坑は堅穴住居等より

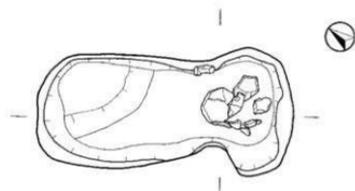
定住度合いが確実にわかる遺跡で出土するものに比べ規模が小さいことなどから、該期に遺跡一帯が定住を目的として利用された可能性については判断できなかった。

2 土坑

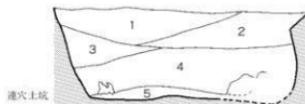
B-2区の北東部、調査区の境界近くから検出した。平面プランは、長径約1.44m、最大幅1.17m、検出面からの深さが約0.6mで、中央近くに径10cm、深さ5cmのピットを1ヶ所伴う。V層の黒褐色土を主体に土坑内埋土が形成されることから、縄文時代早期に該当の土坑と判断した。連穴土坑とは直線距離で約10mと近く、土坑内埋土についても大差が見られないことから、両遺構形成の時期差はあまり離れていないと思われる。



第31図 V層 遺構配置図



L = 188.0 m

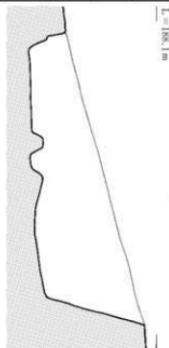


連穴土坑

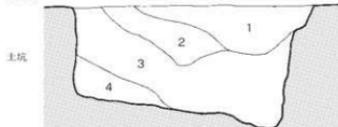
表7 V層連穴土坑観察表

報告書No.	検出No.	上面長 (cm)	上面幅 (cm)	深さ (cm)	下面長 (cm)	下面幅 (cm)
連穴土坑	32	123	64	44	92	41

1	黒褐色砂質土 (V層)	バミス多い。
2	黒褐色砂質土 (V層)	1よりバミス多い。
3	黒褐色砂質土 (V層)	白色バミス多い。
4	黒褐色砂質土 (V層)	白色、黄色バミス多い。
5	黒褐色砂質土 (V層)	白色バミス多い。



L = 188.1 m



土坑

表8 V層土坑観察表

報告書No.	検出No.	上面長 (cm)	上面幅 (cm)	深さ (cm)	下面長 (cm)	下面幅 (cm)
土坑	32	144	117	60	124	95

1	暗茶褐色土	黄褐色バミス含む。
2	暗茶褐色土	黄褐色バミス、白色バミス含む。
3	黒褐色土 (V層)	
4	黒褐色土 (V層)	3よりバミスが少ない。やや粘性がある。

0 1 m

第32図 遺構実測図

V 隠迫遺跡

第1章 調査の方法

隠迫遺跡は約2,300㎡を対象として全面調査を実施した。旧地は畑である。確認調査の結果をもとに表土を重機で除去した後、II層～V層までは人力で掘り下げた。VI層以下は確認調査で旧石器時代包含層が確認された範囲のみ再び重機で除去し、VII・VIII層まではグリッドをもとに1辺2mの千島格子状に区切って全面調査を実施した。

古代～弥生時代は、II層から10世紀頃の土師器のほか成川式土器、弥生土器等の遺物が出土しているが、遺構は確認していない。

縄文時代は、遺構は検出されなかったが、III層から前期の土器や石器の遺物が、IV層下位から早期の土器や石器の遺物が出土した。

旧石器時代は、VIIa層で細石刃文化期のブロックが3ヶ所で近隣して検出され、VIIIb層からは台形石器を伴うブロックを1ヶ所検出している。

第2章 VIII層の調査

第1節 概要

VIII層の遺物は総数60点である。遺物の出土はB-1区を中心とし、ブロック1基を検出した。石材はOB-A、OB-B、硬砂岩、硬質頁岩、砂岩、頁岩で構成される。

製品はナイフ形石器2点、石核1点、スクレイパー1点である。

第2節 遺構

ブロックが1か所検出された。ブロックは総数50点で構成される。構成石材の内訳は、OB-Aが8点、OB-Bが21点、硬砂岩が15点、頁岩が9点、硬質頁岩が2点、砂岩が1点である。

第3節 出土遺物

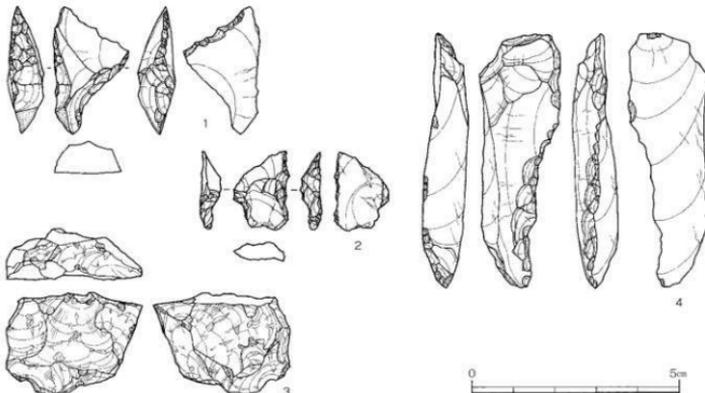
出土遺物はナイフ形石器2点、石核1点、スクレイパー1点である。1は硬質頁岩製のナイフ形石器である。剥片の打面側を抉るような形でブランティングを施し、左側縁はほぼ直線上にブランティングを施している。刃部は腹面側に微細剥離痕が確認される。2はOB-A製のナイフ形石器で、寸詰まりの剥片を横位に利用し、両側縁に腹面からブランティングを施している。3はOB-B製の石核である。厚手の剥片を素材とし、腹面に作業面を設定し、打面は上下の両設である。4は硬質頁岩製のスクレイパーである。縦長剥片の片側側縁に鋸歯状の二次加工により刃部を形成している。

第3章 VII層の調査

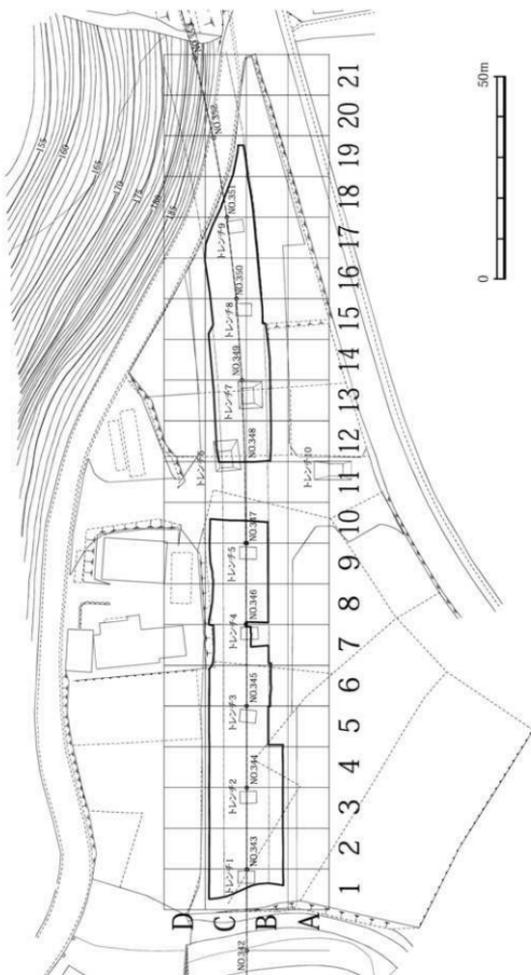
第1節 概要

VII層の遺物は総数2,223点である。遺物の出土はC-3区を中心とし、ブロック3基を検出した。

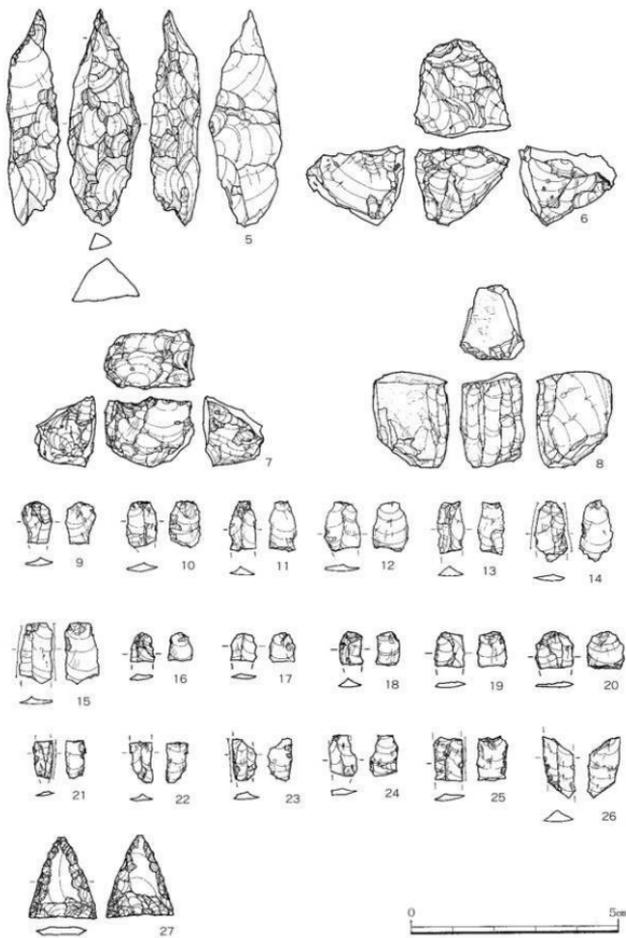
製品は細石刃40点、打面再生剥片、二次加工剥片等である。また、



第33図 VIII層出土石器



第3-4図 調査区と周辺地形図



第35図 VII b~VII a層出土石器

第2節 遺構

C-3区に集中してブロックが3基検出された。各ブロックをそれぞれA、B、Cブロックとして取り扱うこととする。各ブロックの概要は下記のとおりである。

Aブロック

総数1,302点である。構成石材の内訳は、OB-Aが7点、OB-Bが1,283点、OB-Cが1点、硬質頁岩が1点である。製品は細石刀1点、細石刀27点、二次加工剥片1点のみである。

Bブロック

総数531点のブロックである。構成石材の内訳はOB-Bが520点、硬砂岩1点、硬質頁岩1点、頁岩4点である。製品は細石刀7点、石鏃1点、三稜尖頭器1点である。

Cブロック

総数347点のブロックである。構成石材はOB-Bが339点、硬砂岩2点、砂岩1点、頁岩3点である。

製品は細石刀が5点、打面再生剥片が1点である。

第3節 出土遺物

5はOB-B製の三稜尖頭器で、腹面を含む三面に加工が及んでいる。先端部の鋭利仕上げと背面の稜上調整は

丁寧である。

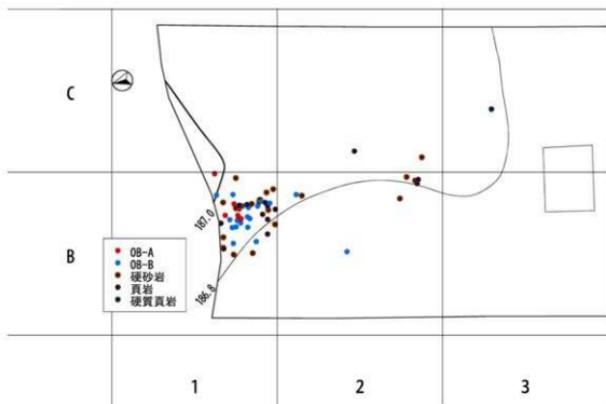
6はOB-B製の細石刀核である。打面は複数の剥離面により構成され、打面から側面への石核整形も行われている。打面上に両側面からの剥離痕が観察され、固定具によるものと思われる。作業面は再生された直後と思われる、明確な極状剥離は観察されない。7はOB-B製の小型の石核である。打面調整をしながら小型の剥片を剥離している。8はOB-C製の細石刀核で、採集資料である。小型の礫を分割し、分割面を側面を利用して、自然面に打面調整をしながら細石刀を剥出している。9～26は細石刀である。27は硬質頁岩製の石鏃である。表面、背面とも中央部に大きく主剥離面を残している。

表9 ブロック別石材重量表(単位:g)

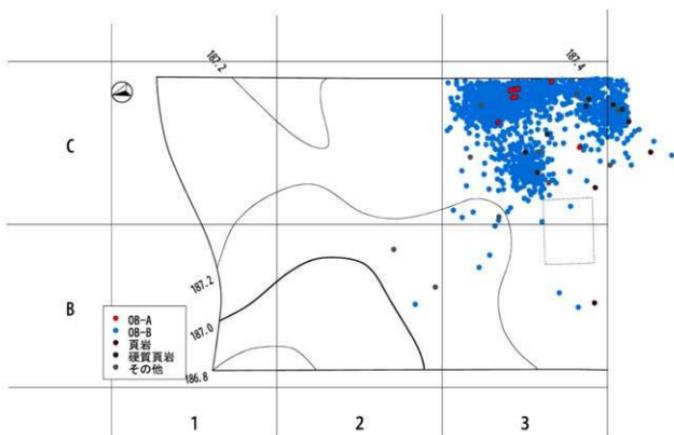
石材	Aブロック	Bブロック	Cブロック	Dブロック	合計
OB-A	0.52				0.52
OB-B	348.7		125.67	37.85	512.22
頁岩		132.17	20.74	22.73	175.64
硬質頁岩	0.24	4.48			26.75
硬砂岩		0.02	0.31	5.16	5.49
砂岩		0.08	0.09	1.32	1.69
合計	349.46	136.75	146.81	94.01	727.03

表10 実測石器観察表

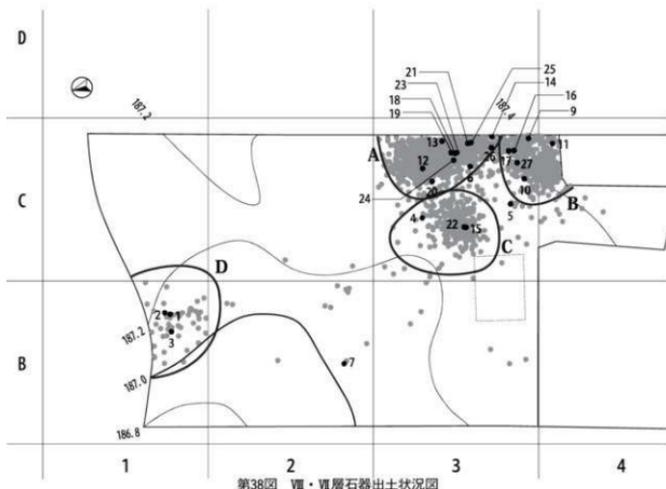
図番号	遺物番号	器種	石材	層1	層2	X座標(m)	Y座標(m)	Z座標(m)	出土区	長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	ブロック
1	1619	ナイフ形石器	硬質頁岩	8	b	7.7	18.0	186.6	B-1	3.1	1.8	1.9	3.1	D
2	2848	ナイフ形石器	OB-A	8	b	7.4	18.0	186.4	B-1	2	1.38	0.5	1.01	D
3	1624	石核	OB-B	8	b	7.8	16.9	186.5	B-1	2.55	3.3	1.3	9.48	D
4	3501	スクレイパー	硬質頁岩	8	a	23.0	23.8	186.6	C-3	6.15	1.93	1.08	8.76	外
5	3440	三稜尖頭器	OB-A	7	b	28.3	24.7	186.9	C-3	5.35	1.75	1.25	8.11	B
6	1878	細石刀核	OB-B	7	b	25.9	27.0	187.1	C-3	1.95	2.3	2.4	8.5	A
7	987	石核	OB-B	7	a	18.3	14.9	186.9	B-2	1.7	2.15	1.85	5.98	外
8	表探	細石刀核	OB-C	-	-	-	-	-	-	2.4	1.55	1.85	7.76	
9	3345	細石刀	OB-B	7	b	29.4	28.8	187.2	C-3	1.05	0.73	0.17	0.99	B
10	1216	細石刀	OB-B	7	a	29.1	26.3	187.3	C-3	1.16	0.72	0.23	0.18	B
11	3410	細石刀	OB-B	7	b	30.8	28.4	187.2	C-4	1.25	0.62	0.28	0.12	B
12	1354	細石刀	OB-B	7	b	23.0	26.9	187.1	C-3	1.23	0.83	0.17	0.19	A
13	2500	細石刀	OB-B	7	b	24.2	28.6	187.1	C-3	1.3	0.62	0.25	0.18	A
14	1911	細石刀	OB-B	7	b	27.2	28.8	187.3	C-3	1.5	0.8	0.18	0.19	A
15	927	細石刀	OB-B	7	a	25.6	23.3	187.3	C-3	1.48	0.8	0.17	0.19	C
16	2791	細石刀	OB-B	7	b	28.5	28.0	187.1	C-3	0.7	0.6	0.2	0.85	B
17	1541	細石刀	OB-C	7	a	28.2	28.0	187.3	C-3	0.7	0.5	0.12	0.04	B
18	2521	細石刀	OB-B	7	b	25.0	27.8	187.1	C-3	0.8	0.6	0.2	0.87	A
19	1437	細石刀	OB-B	7	a	24.7	27.9	187.3	C-3	0.85	0.7	0.15	0.1	A
20	1357	細石刀	OB-B	7	b	23.6	26.1	187.2	C-3	0.9	0.87	0.15	0.14	A
21	1488	細石刀	OB-B	7	a	25.7	28.4	187.3	C-3	0.9	0.45	0.15	0.06	A
22	1333	細石刀	OB-B	7	b	25.5	23.3	187.1	C-3	1	0.55	0.15	0.96	C
23	2241	細石刀	OB-B	7	b	25.1	27.9	187.1	C-3	1.02	0.6	0.2	0.88	A
24	1432	細石刀	OB-B	7	a	24.9	27.4	187.2	C-3	1	0.66	0.17	0.1	A
25	1490	細石刀	OB-B	7	a	25.9	28.5	187.3	C-3	1.5	0.8	0.28	0.14	A
26	2999	細石刀	OB-B	7	b	27.2	28.2	187.1	C-3	1.1	0.7	0.17	0.23	A
27	1207	石鏃	硬質頁岩	7	a	28.7	27.3	187.3	C-3	2	1.6	0.18	0.62	B



第36図 Ⅴ層石材別分布図



第37図 Ⅴ層石材別分布図



第38図 Ⅷ・Ⅷ層石器出土状況図

表11 掲載以外の細石刃一覧表

遺物番号	器種	石材	層1	層2	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	出土区	部位	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)
875	細石刃	OB-B	7	a	24.238	25.909	187.217	C-3	尾部	0.65	0.4	0.1
876	細石刃	OB-B	7	a	24.023	25.793	187.223	C-3	完形	1.05	0.6	0.25
916	細石刃	OB-B	7	a	25.377	23.896	187.265	C-3	頭部	0.7	0.5	0.1
936	細石刃	OB-B	7	a	24.843	22.760	187.200	C-3	頭部	0.75	0.65	0.1
939	細石刃	OB-B	7	a	24.376	22.555	187.243	C-3	中間部	0.7	0.5	0.15
991	細石刃	OB-B	7	b	20.685	20.852	186.998	C-3	中間部	0.55	0.5	0.15
1078	細石刃	OB-B	7	a	22.543	26.460	187.238	C-3	完形	1.25	0.6	0.15
1119	細石刃	OB-B	7	a	23.571	27.536	187.185	C-3	頭部	0.65	0.55	0.1
1125	細石刃	OB-B	7	a	23.856	26.925	187.200	C-3	完形	1.5	0.65	0.15
1352	細石刃	OB-B	7	b	22.555	26.901	187.145	C-3	頭部	0.65	0.6	0.15
1371	細石刃	OB-B	7	a	22.134	28.074	187.167	C-3	頭部	0.65	0.65	0.1
1411	細石刃	OB-B	7	a	24.032	27.896	187.199	C-3	頭部	0.55	0.5	0.1
1487	細石刃	OB-B	7	a	25.745	28.247	187.245	C-3	中間部	0.95	0.5	0.15
2164	細石刃	OB-B	7	b	23.486	26.754	187.099	C-3	中間部	0.7	0.45	0.1
2232	細石刃	OB-B	7	b	24.615	28.708	187.142	C-3	頭中部	1	0.45	0.2
2270	細石刃	OB-B	7	b	25.612	28.621	187.156	C-3	完形	1	0.45	0.15
2528	細石刃	OB-B	7	b	24.737	27.277	187.078	C-3	頭部	0.75	0.4	0.1
2700	細石刃	OB-C	7	b	22.355	27.305	187.004	C-3	中間部	0.55	0.5	0.1
3016	細石刃	OB-B	7	b	30.284	27.161	187.106	C-4	頭部	0.55	0.5	0.15
3094	細石刃	OB-A	7	b	24.409	28.283	187.009	C-3	中間部	0.9	0.55	0.15
3386	細石刃	OB-B	7	a	24.785	28.328	186.905	C-3	中間部	0.6	0.45	0.1
3529	細石刃	OB-B	7	a	29.308	28.918	187.327	C-3	中間部	0.6	0.55	0.1

第4章 V・Ⅲ層の調査

第1節 概要

縄文時代早期に該当する層は薩摩火山灰直上の黒褐色土であるV層及びアカホヤ火山灰直下のIV層である。本遺跡においては調査の結果、遺構は検出されなかったが、IV層下位から遺物が出土した。

鬼界カルデラの火山灰はブロック状に堆積しⅢb層となっており、Ⅲ層上部より縄文時代前期～晩期の遺物が出土している。遺構は検出されなかった。

第2節 出土遺物

1 土器

1 a 類 (1～6)

1～6は、口縁部が外反し、胴部で「く」字状に屈曲し上げ底状の底部形態を有するもので、文様は山形押型文を施文する。2・3は、口唇部と口縁部内面にも山形押型文を施文している。1は、2・3よりも間延びした押型文で、口縁部内面には施文していない。5は、口縁部と胴部下半を欠く。胴部の屈曲部分に接合面が見られ、この上位でややすぼめられて、外反する口縁部に移行すると思われる。このすぼみ部分には、粘土を絞るために生じた痕跡が残っている。6は、口縁部から底部までが残存していたものである。口縁部は外反し、胴部で「く」字状に屈曲する。ここにキザミ目がめぐり直線の上げ底の底部へ至る。文様は、間延びした山形押型文を胴部屈曲部より上位では縦位に、屈曲部より下では横位ないし斜位に施文されている。なお、この施文は屈曲部付近では施文に粘土が重なるなどしてナデ消されている。また、胴部屈曲部より上位の山形押型文は施文前に器面が丁寧になでられている。

1 b 類 (7～10)

7～10は同一個体である。口縁部が外反し、胴部は「く」字状に屈曲する。文様は、縦位に山形押型文の上に捺状工具による沈線文が重ねられている。屈曲部分外面には、粘土が貼り付けられその頂部にキザミ目が施される。施文の切り合いから、屈曲部下の山形押型文は屈曲部の粘土貼り付けに切れ、この頂部にあるキザミ目は上位の沈線文を切っている。なお、外面のスス付着の範囲は屈曲部より上に付着し、内面のススは屈曲部より下に付着している。

1 c 類 (11～19)

11～19は微隆帯状の施文が施されている。この微隆帯は貼り付けではなく、文様効果を生じさせるように調整が施された結果である。

1 d 類 (20～23)

20～23は同一個体である。口縁部は外反し、貝殻による深いキザミ目が施され、小波状を呈する。器形は、口縁部が外反し胴部で「く」字状に屈曲する。屈曲部で粘

土を接合して上半部を立ち上げている。文様は、横位の沈線文を基本としながらや流水状の沈線も部分的に施文している。

1 e 類 (24)

24は2条1組の格子状キザミが原体と思われる小型の土器である。

1 f 類 (25)

25の器形は、口縁部が外反して波状口縁になり、胴部には「く」字状の屈曲を有するものである。無文土器と思われるが、細い沈線が不規則に見られ文様或いは線刻状を呈している。なお、この前には内外面ともに器面を丁寧にナデ調整している。

1 g 類 (26～30)

26～30は燃赤文である。29は胴部片で「く」字状に屈曲する。

1 類底部 (31)

31は、わずかに上げ底状の底部である。色調や胎土等の特徴から、24と同一個体の可能性がある。

2 類 (32～34)

32・33は間延びして肥厚した口縁部に沈線文と連点文とを組み合わせて施文している。

3 類 (35～37)

35～37は口縁部が直行し隆帯を横位にめぐらせる。

4 類 (38～47)

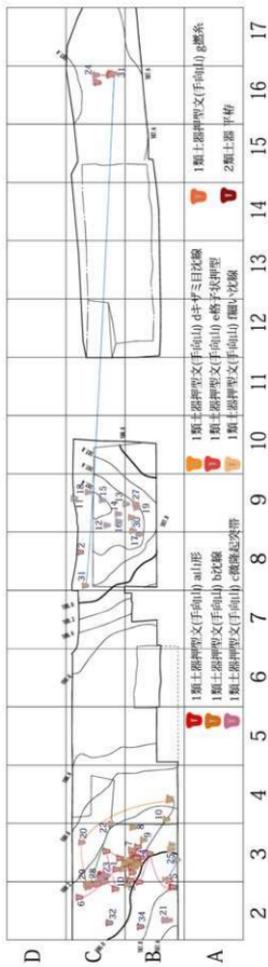
38～47は口縁部が外反し、胴部がわずかに膨らんで丸底の底部へ至る。文様は、沈線文を縦位・斜位・横位に組み合わせで施文している。38は、口縁部から底部まで残存していた完形品である。口縁部内外面の横位沈線文は鋸歯状ともとれる斜位の沈線文によって切られている。39～43は胴部片である。44～47は底部付近の破片である。

5 類 (48～53)

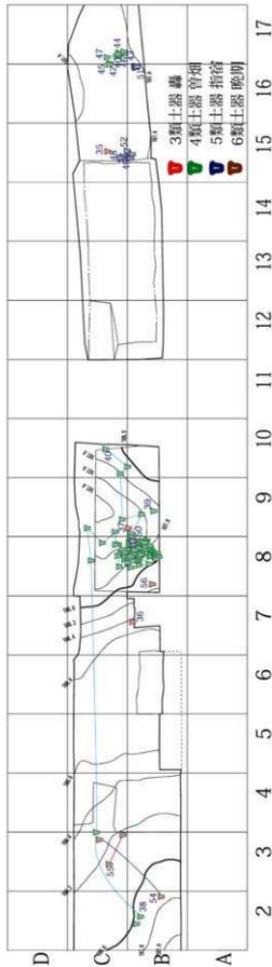
48～53は口唇部が丸みを呈し、口縁部が外反する。胴部はわずかに膨らむ。48は波状口縁で、波頂部内面には縦位の沈線文が短く4条施文される。外面には、貝殻条痕が全面施文されその上から2本1組の沈線文を靴形状に施文する。49は平口縁である。51は、平口縁として図化した。口縁部内面に48のように波頂部に施文するタイプのものが見られることから、あるいはわずかに波状口縁を呈するのであろうか。

6 類 (54～56)

54～56は晩期の深鉢形土器である。口縁部上端がわずかに肥厚するタイプの土器である。



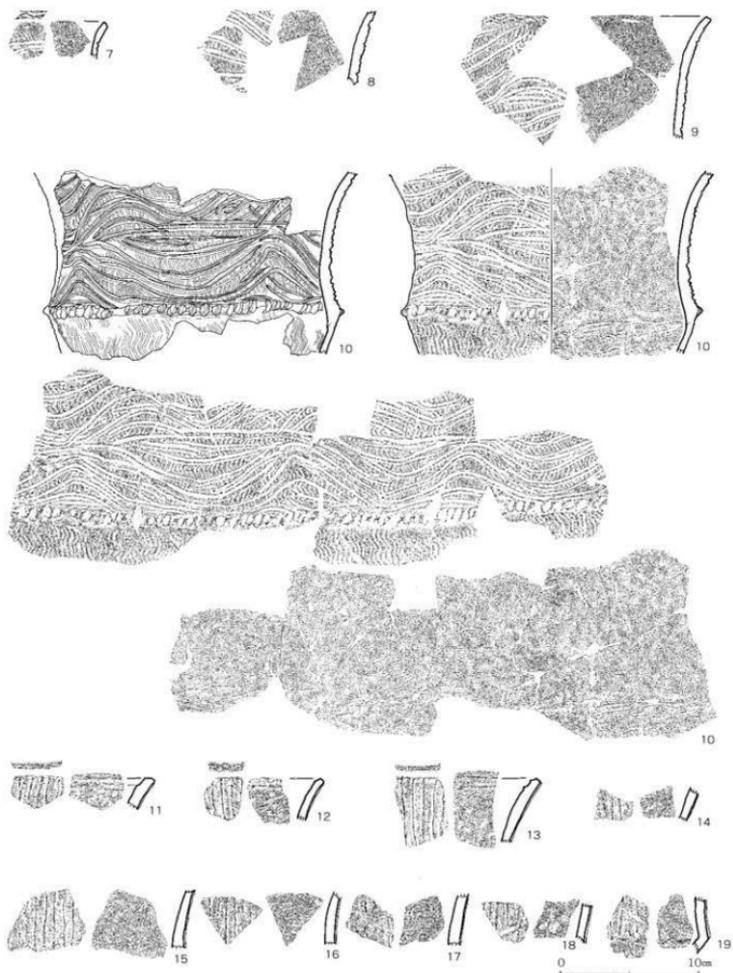
第39図 縄文時代早期土器出土状況図



第40図 縄文時代の・後・晩期土器出土状況図



第41图 Ia类土器实测图



第42图 I b, I c 类土器实测图

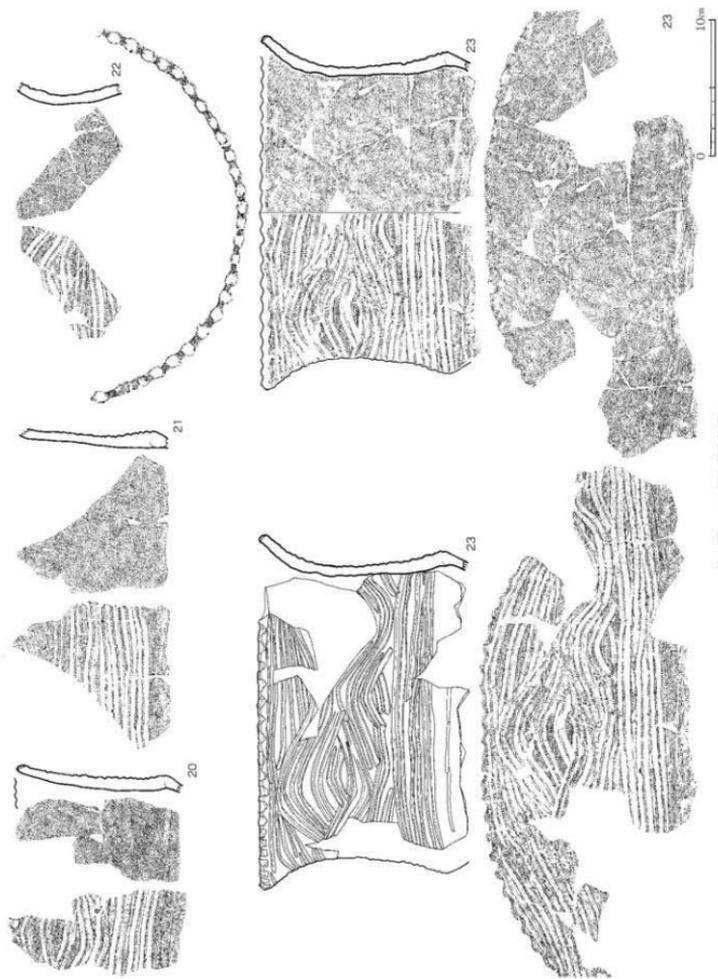


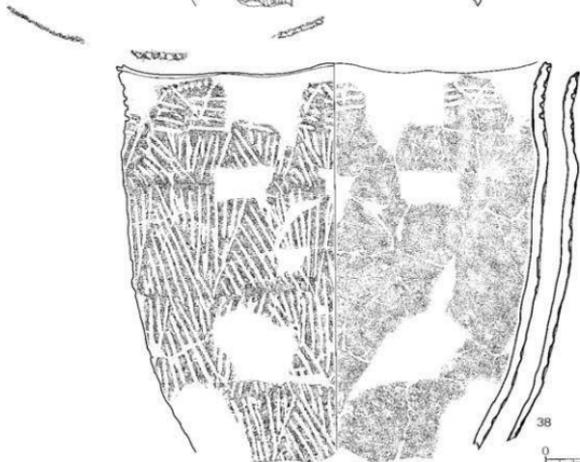
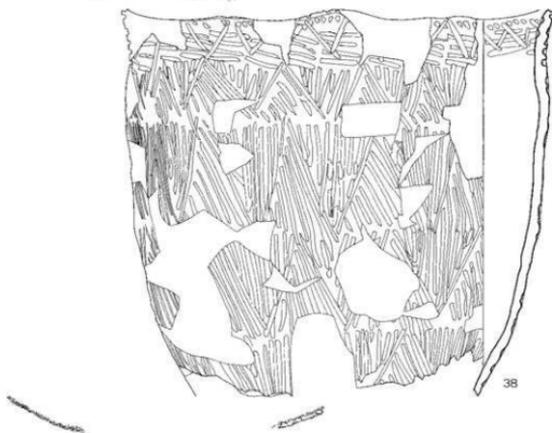
图43 1 d 层土质页岩



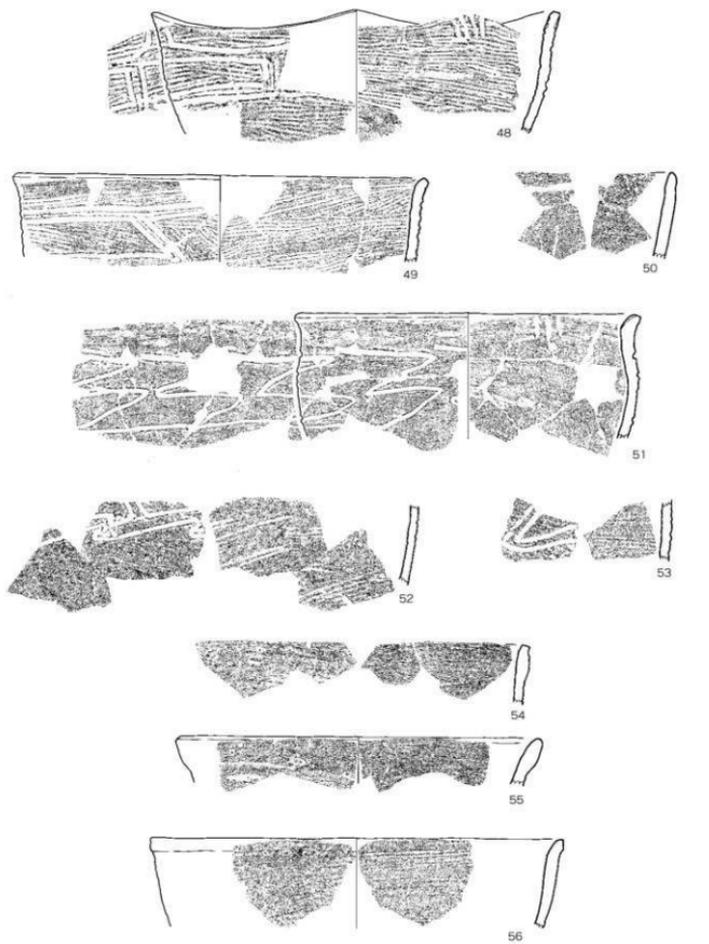
第44图 Ie, If, Ig, II 类土器实测图

表12 土器観察表(1)

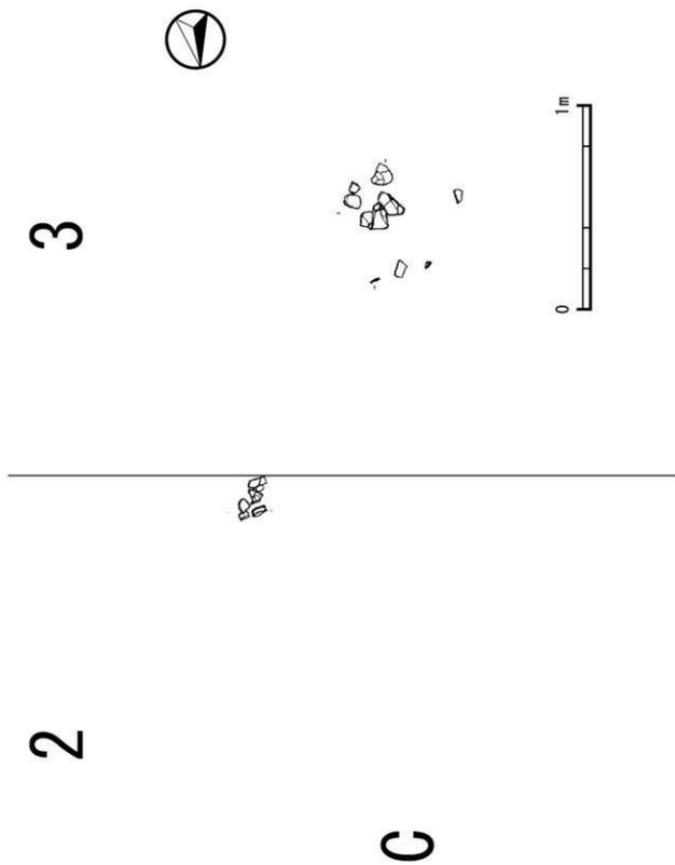
標本 No.	形状 No.	口径 径	底径 径	高 度	厚 度	器 名	部位	文様・調整		色調		胎土			備考
								内面調整	外面調整	外面	内面	石質	瓦質	雲母	
1	1a	95	C	3	4	—	口縁部	山形押型(縦)	十字	紅褐色	紅褐色	○	○	—	—
2	1a	95	B	3	4	—	口縁部	山形押型(縦)	十字	紅褐色	褐色	○	○	—	—
3	1a	112	B	4	—	—	口縁部	山形押型(縦)	十字	褐色	紅褐色	○	○	—	—
4	1a	95	B	4	—	—	口縁部	山形押型(縦)	十字	紅褐色	紅褐色	○	○	—	—
5	1a	105	B	4	—	—	口縁部	山形押型(縦)	十字	調整なし	紅褐色	○	○	—	—
41	3a	107	B	2.5	4	—	底足	山形押型(縦)	十字	紅褐色	紅褐色	○	○	—	—
		108													
		109													
		110													
		111													
		112													
		113													
		114													
		115													
		116													
		117													
		118													
		119													
		120													
		121													
42	3b	122	B	3	4	—	口縁部	山形押型(縦) + 乳鉢・拍打突	十字	紅褐色	浅褐色	○	○	—	○
		123													
		124													
		125													
		126													
43	3b	127	B	3	4	—	口縁部	山形押型(縦) + 乳鉢・拍打突	十字	紅褐色	浅褐色	○	○	—	—
		128													
		129													
		130													
		131													
44	3b	132	B	3	4	—	口縁部	山形押型(縦) + 乳鉢・拍打突	十字	紅褐色	浅褐色	○	○	—	—
		133													
		134													
		135													
		136													



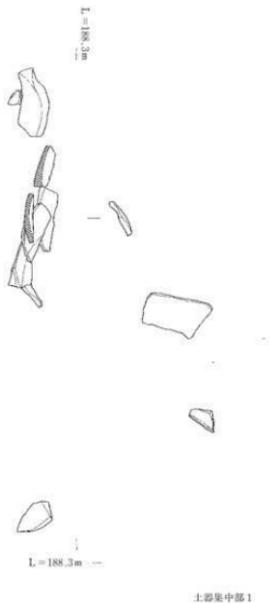
第45图 Ⅲ、Ⅳ類土器实测图



第47图 V、VI类土器实测图



第48図 N層土器集中部出土状況図



土器集中部1

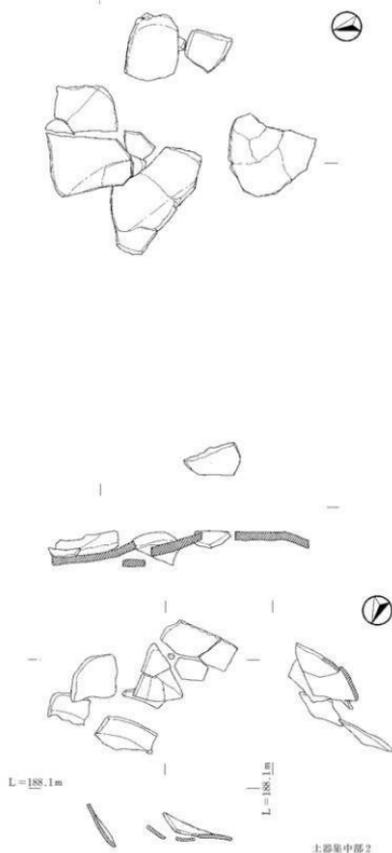
(3) 土器集中部

土器集中部1

C-3区、IV層で出土した。9点の土器が集中していた。1点を除いて全て内容面を上にして出土している。図番号10の手向山式土器である。胴部屈曲部がほとんどである。堀り込み等は確認できなかった。

土器集中部2

C-2区、IV層で出土した。9点の土器が集中していた。全て内容面を上にして出土している。図番号23の手向山式土器である。堀り込み等は確認できなかった。約1m南側に土器集中部2がある。



土器集中部2

表15 IV層土器集中部観察表

報告書No.	検出No.	直径(cm)	幅径(cm)
土器集中部1	49	310	295
土器集中部2	49	225	151



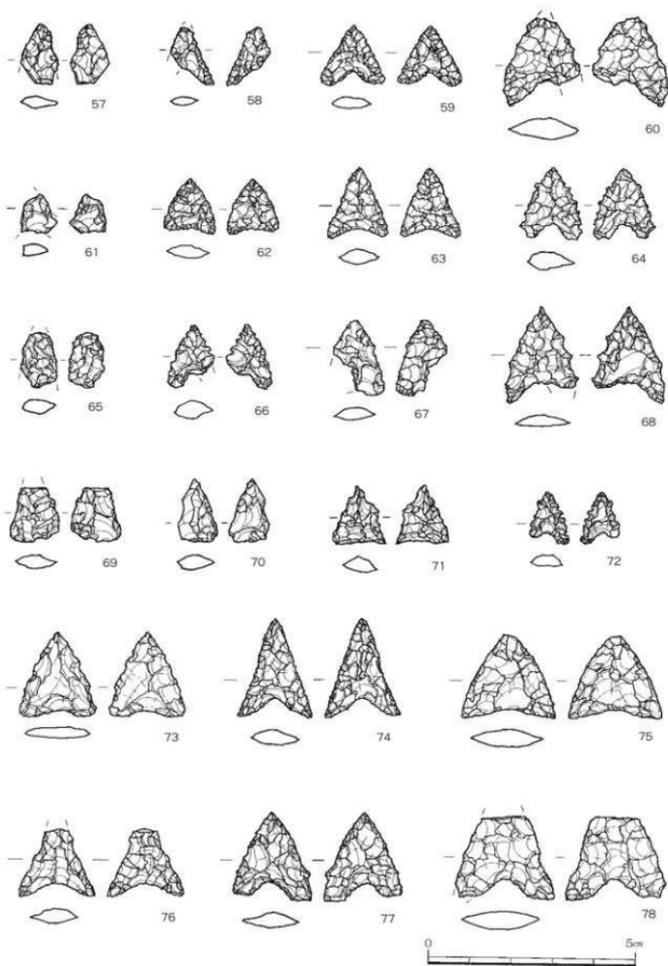
第49図 IV層 土器集中部実測図

2 石器

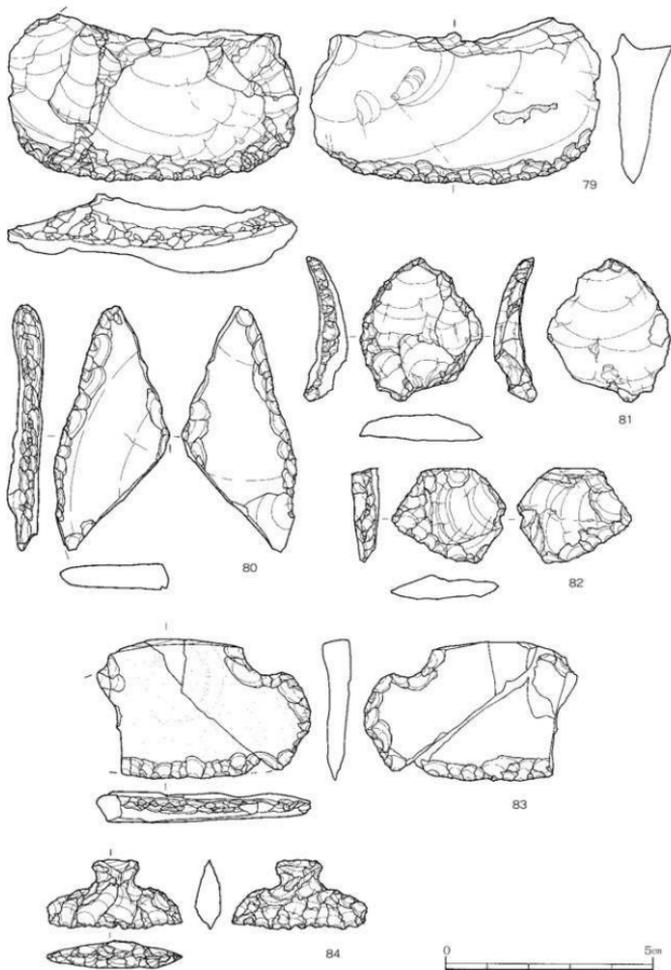
57はOB-A製の石鐮の先端部である。58はOB-A製の石鐮である。先端部と片側の脚部が欠損している。59はOB-A製の石鐮である。先端部は針の先状に尖っている。60はOB-A製の石鐮である。先端部と片側の脚部は欠損している。両脚の付け根に抉りか確認される。61はOB-C製の石鐮の一部である。62はOB-C製の石鐮である。基部の先端が少々欠損している。丁寧な作りである。63はOB-C製の石鐮である。完形で、作りは丁寧である。64はタンバク石製の石鐮である。鋼縁を粗く鋸歯状に仕上げている。65はOB-D製の石鐮の一部である。先端部、両脚部が欠損している。66はOB-D製の石鐮である。中央部に大きく厚みを残す。片側の脚部が欠損している。67はOB-D製の石鐮である。中央部の不純物を基に大きく欠損している。鋸歯状の調整がみられる。68はOB-D製の石鐮である。薄手の剥片を素材とし、腹面に素材の主剝離面を残す。先端部は針の先状に尖っている。鋼縁を粗く鋸歯状に仕上げている。69はOB-D製の石鐮である。先端部が欠損している。70はOB-D製の石鐮の脚部である。71はOB-D製の石鐮である。先端部付近が欠損している。鋼縁を鋸歯状に仕上げようとする意図がみられる。72はOB-F製の石鐮である。片側の脚部が欠損している。鋼縁は鋸歯状に細かく仕上げている。73は頁岩製の石鐮である。扁平な剥片を素材とし、丁寧に仕上げている。鋼縁は外湾し、抉りは浅い。先端部は縦方向の衝撃により欠損している。素材剥片面を残す。74は硬質頁岩製の石鐮である。鋼縁は直線状であり、細く鋸歯状に仕上げている。75は硬砂岩製の石鐮である。薄手の剥片を素材とし、丁寧に仕上げている。鋼縁は軽く外湾する。先端部は縦方向からの衝撃により欠損している。76は無珪質安山岩製の石鐮である。先端は欠損している。77は無珪質安山岩製の石鐮である。鋼縁は鋸歯状に仕上げられ、特に脚部の付け根付近の突起が目立つ。

78は黒色安山岩製の石鐮である。押し剝離は粗い。基部から器身の中央部を突きさる様に先端部に向けての剝離がのびている。79はタンバク石製のスクレイパーである。横長的大型剥片を素材とし、下縁の縁辺に背腹面への二次加工を施し、刃部を形成している。80はタンバク石製のスクレイパーである。タンバク石でも珪質の少ない部分を利用しており、軽い。素材剥片の縁辺のみの加工によって刃部を形成している。81はOB-A製のスクレイパーである。素材剥片の縁辺に腹面のみからの加工により刃部を形成している。尖頭部を作り出す意図も感じられ、他器種の可能性もある。82は無珪質安山岩のスクレイパーである。小型の剥片の縁辺に背腹面への押し剝離を施し、刃部を形成している。石鐮未製品の可能性もある83はタンバク石製の石匙である。80同様珪質

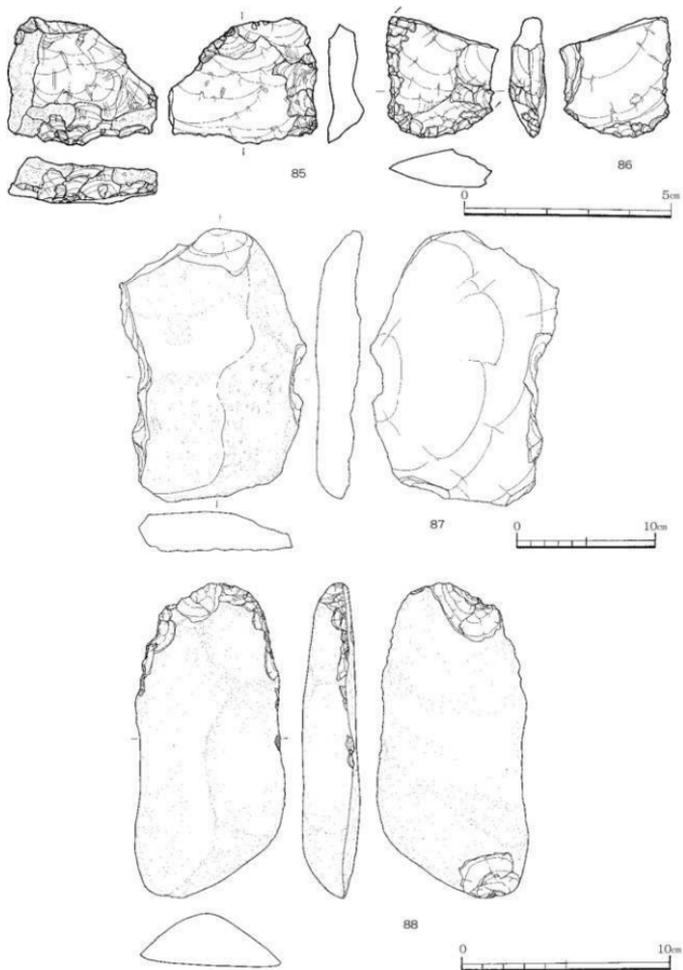
の少ない部分を利用しており、同一母岩の可能性が有る。扁平な素材を横位に利用し、上部に抉りや意欲した剝離を、周縁に縁辺のみへの二次加工を施し、刃部を形成している。84はOB-D製の小型の石匙である。OB-Dとしているが、石材の特徴は、佐賀県椎葉川流域のOBに類似する。幾度かの再生作業を経ているものと思われる。85はOB-A製の搔器である。やや厚みのある剥片の下端に腹面側から剝離を施し刃部を形成している。刃部には微細剝離痕が観察される。86はOB-A製の搔器である。剥片の端部に腹面からの剝離を施し、刃部を形成している。刃角は浅い。87は、安山岩製の石皿である。表面の高い部分にのみ磨り痕が観察される。88は安山岩製の礫器である。縦長の素材の上端に背腹面への加工が、下端には腹面のみへの二次加工が確認される。89は安山岩製の石核である。礫全体が赤化しており、焼熟後に剥片を剝離している。90は安山岩製の石核である。自然礫の後を利用して、縦に長い剥片を剝離している。最終的にはステップを起し、廃棄されている。91は安山岩製の石核である。扁平な素材の自然面を打面として、周縁に剝離作業面を廻らせている。打面は上下の両設である。92は安山岩製の石核である。円縁の分割面を打面として周縁に剝離作業面を廻らせている。単設打面である。93は安山岩製の礫器である。扁平礫の両面に粗い剝離を施し、刃部を形成している。94は安山岩製の小型の叩石である。下端と上端を中心に叩き痕が観察され、特に下端は使用による複数の面を形成している。95は砂岩製の凹石である。棒状の自然礫のなす後をまたいで両面に2ヶ所の凹みが確認される。96は安山岩製の凹石である。自然礫の異なる面にそれぞれ1ヶ所ずつ凹みが確認される。97は安山岩製の凹石である。円縁の1面の中央部を中心に凹みを形成している。凹みは2ヶ所に分かれる。98は安山岩製の石皿である。扁平な礫の1面の高い面を中心に磨り面が確認される。99は安山岩製の大型の石皿である。自然の大型礫の一面全体に磨り面が確認される。100は安山岩製の剥片2枚の接合資料である。四角形の素材の角の部分から打面を固定して厚手の剥片を連続して剝離している。



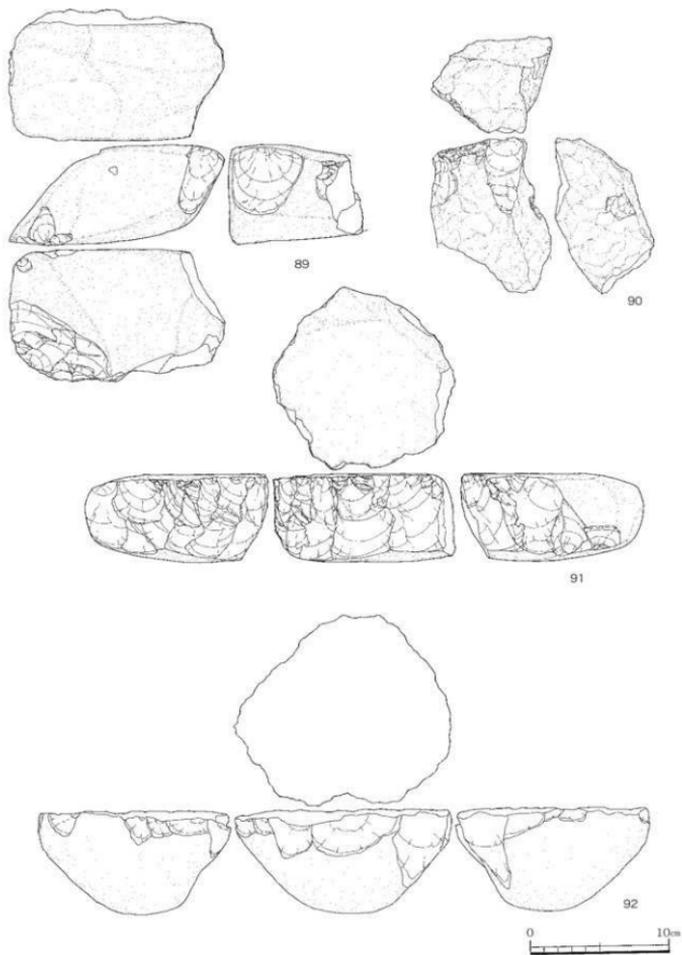
第52图 IV·Ⅲ层 出土石器(1)



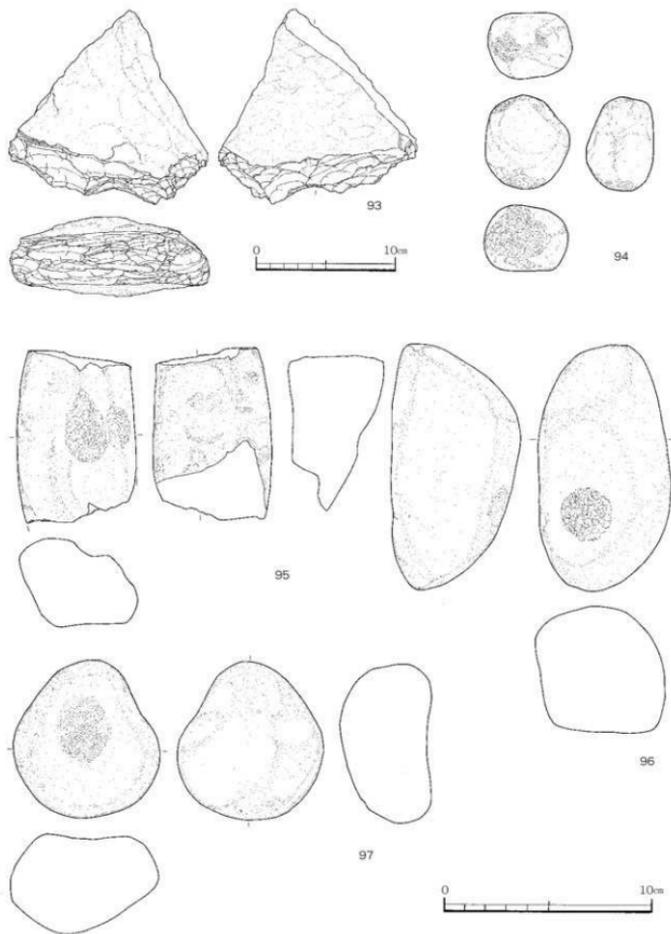
第53图 IV·III层 出土石器(2)



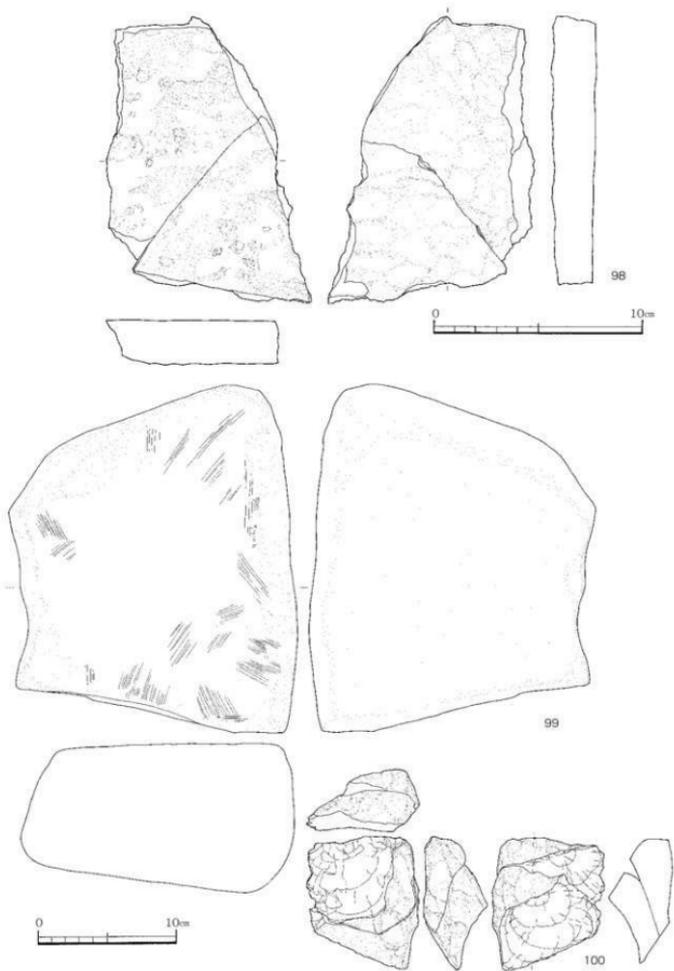
第54図 IV・III層 出土石器(3)



第55図 IV・Ⅲ層 出土石器(4)



第56図 IV・V層 出土石器(5)



第57図 IV・Ⅲ層 出土石器(6)

表16 縄文時代実測石器観察表

図 番号	遺物番号	器種	石材	層1	層2	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	出土区	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)
57	598	石鏃	OB-A	3	-	85.481	23.549	188.262	C-9	1.48	0.95	0.3	0.33
58	214	石鏃	OB-A	4	-	37.668	22.24	188.5	C-4	1.4	1.05	0.22	0.18
59	37	石鏃	OB-A	4	-	4.88	26.834	188.178	C-1	1.48	1.55	0.3	0.45
60	1242	石鏃	OB-A	3	-	158.488	23.461	188.119	C-16	2.18	1.88	0.5	1.37
61	206	石鏃	OB-C	4	-	33.097	11.924	188.234	B-4	0.9	1.38	0.3	0.24
62	1241	石鏃	OB-C	3	-	153.056	28.649	188.115	C-16	1.25	1.25	0.3	0.28
63	1667	石鏃	OB-C	3	-	162.837	29.287	188.075	C-17	1.48	1.5	0.38	0.49
64	2052	石鏃	タンバク石	3	-	157.038	24.724	187.789	C-16	1.75	1.15	0.45	0.69
65	2882	石鏃	OB-D	4	-	148.579	23.811	187.58	C-15	1.36	0.8	0.35	0.38
66	472	石鏃	OB-D	3	-	84.814	22.587	188.313	C-9	1.58	0.95	0.45	0.45
67	2	石鏃	OB-D	5	-	38.465	12.282	188.506	B-4	1.85	1.25	0.3	0.48
68	761	石鏃	OB-D	3	-	78.875	25.361	187.674	C-8	2.4	1.8	0.28	0.75
69	56	石鏃	OB-D	4	-	13.069	25.251	188.16	C-2	1.33	1.18	0.35	0.48
70	55	石鏃	OB-D	4	-	19.4	19.969	188.215	B-2	1.55	0.9	0.38	0.36
71	256	石鏃	OB-D	5	-	48.622	28.309	188.704	C-5	1.41	1.25	0.4	0.45
72	712	石鏃	OB-F	3	-	89.585	17.586	188.162	B-9	0.95	0.95	0.28	0.21
73	1	石鏃	頁岩	5	-	38.313	11.623	188.416	B-4	2.05	1.9	0.25	0.77
74	771	石鏃	硬質頁岩	4	-	77.816	23.406	187.603	C-8	2.45	1.83	0.38	0.92
75	622	石鏃	硬砂岩	3	-	84.431	19.145	188.258	B-9	2.05	2.25	0.43	1.19
76	1682	石鏃	無珉品質安山岩	3	-	154.23	25.713	188.049	C-16	1.65	1.85	0.38	0.69
77	1644	石鏃	無珉品質安山岩	3	-	175.085	18.705	188.167	B-18	2.18	1.9	0.4	1.01
78	1243	石鏃	黒色安山岩	3	-	161.802	21.112	188.037	C-17	2.05	2.4	0.45	1.75
79	770	スクレイパー	タンバク石	3	-	84.241	24.863	187.719	C-9	4.13	7.08	1.95	42.04
80	1681	スクレイパー	タンバク石	3	-	155.149	23.263	188.085	C-16	5.03	2.8	0.8	5.01
81	486	スクレイパー	OB-A	2	b	87.845	24.905	188.329	C-9	3.65	2.95	0.75	6.98
82	2058	スクレイパー	無珉品質安山岩	3	-	155.779	25.331	187.985	C-16	2.35	2.8	0.65	3.88
83	772	石匙	タンバク石	3	-	86.031	17.702	187.694	B-9	3.45	5.2	0.75	8.18
84	2069	石匙	OB-D	3	-	158.641	28.862	187.815	C-16	1.7	3.3	0.65	2.58
85	1313	スクレイパー	OB-A	3	-	163.631	22.084	188.193	C-17	3.1	3.6	1.15	10.59
86	444	スクレイパー	OB-A	3	-	76.644	22.428	188.386	C-8	2.95	2.7	0.9	6.56
87	2030	石鏃	安山岩	3	-	162.3	24.624	188.002	C-17	20.5	13.8	3.18	1110
88	3467	磯部	安山岩	4	-	158.603	27.575	187.355	C-16	15.6	7.3	0.7	380
89	16	石核	安山岩	3	b	23.336	15.77	188.213	B-3	7.2	9.9	15.6	1480
90	107	石核	安山岩	4	-	10.901	19.319	188.081	B-2	11.7	8.85	7.2	580
91	2868	石核	安山岩	4	-	161.944	25.142	187.586	C-17	6.6	13.2	13.2	1715
92	2072	石核	安山岩	3	-	168.068	19.902	187.791	B-17	7.65	15.9	14.1	1730
93	2874	磯部	安山岩	4	-	160.64	29.374	187.456	C-17	14.4	14.55	6	990
94	3	甲石	安山岩	4	-	27.385	13.044	188.279	B-3	4.6	4.16	3.2	86.33
95	2888	凹石	砂岩	4	-	155.432	20.552	187.493	C-16	8.6	5.76	4.8	260
96	252	凹石	安山岩	4	-	44.6	27.401	188.689	C-5	12.2	6.5	6.3	670
97	181	磨石・凹石	安山岩	4	-	18.122	20.915	188.100	C-2	7.86	7.2	4.9	360
98	2062	石鏃	安山岩	3	-	152.892	27.615	187.712	C-16	14.3	10	2.2	465
99	1300	石鏃	安山岩	3	-	158.849	21.661	188.173	C-16	25.8	20.7	11.1	10100
100	1663	割片・砕片	安山岩	3	-	160.598	26.66	188.126	C-17	9.9	8.1	4.65	290

第5章 Ⅰ層の調査

第1節 概要

B・C・8・9区及びB・C・18・19区のⅡ層が残存している範囲から、おおむね古墳時代と古代（平安時代）に該当する土師器と須恵器が出土した。そのうち28点を図化した。遺構は発見できなかったが、後世に削平された可能性が高い。また、北東側に尾根状に伸びる土地が存在しているのでその部分に遺構が残存している可能性がある。

第2節 遺物

1 古墳時代の土器（1～4）

1～3は、丹塗り磨研土器である。底部付近が残存していないので、明らかではないが、高坏の可能性が高い。4は、甕の脚部である。中村直子（中村1986）を参考にすると、脚部がゆるく湾曲しながらハの字状に開くこと、舞台内面の天井部が丸いことなどから、中津野式以降の特徴を持った甕であることが理解される。同様にした場合、1～3の土器は、丹塗りでことから辻堂原式もしくは笹貫式（古墳時代後半）の特徴を有している。

2 平安時代の土器（土師器：5～14・須恵器：15～28）

5～9は、土師器甕である。基本的には、外面はナデ、内面は屈曲部から下についてヘラケズリ（縦方向もしくは斜め方向）で器面調整が行われている。ヘラケズリの工具痕の幅はおおよそ1.5～2cmであった。ただし、風化が激しいものもあり、詳細な観察が困難となっている。9は、外面屈曲部以下にハケメがみられるものである。10～14は、土師器坏・椀である。10・14には、ヘラによる底部切り離し痕が観察される。13は、ハの字状に高台がつくものである。これは、比較的古い特徴で、奈良時代の可能性も考えられる。

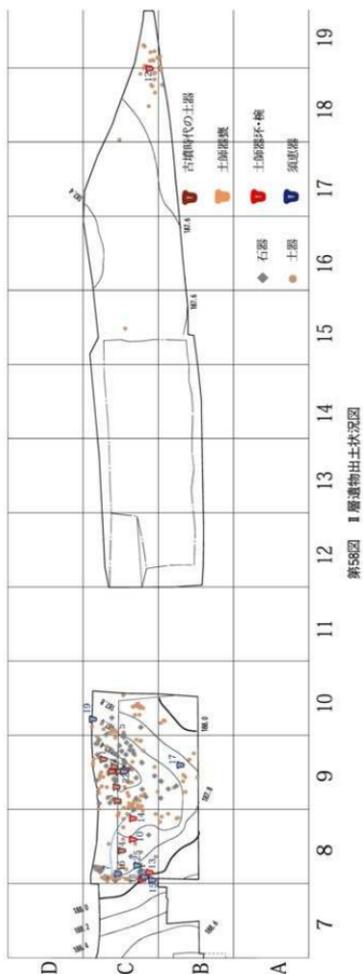
15・17～24は、甕である。外面は格子タタキもしくは平行タタキが、内面は同心円タタキおよび平行タタキが施される。ただし、19・21・22については、底部付近である可能性も考えられる。また、19はタタキのあとにナデが施されている。20は、内面に数カ所の窪みがみられるが、その窪みには目の細かい布目痕が残る。これは布を巻いた小石で器面をおさえたものであるとみられる。

16・26～28は、壺（瓶）である。73は、内面屈曲部付近に指オサエがみられる。26～28は、底部である。胴部下端に横方向のヘラ削りを施し、その後回転台から底部を切り離しているのが観察される。

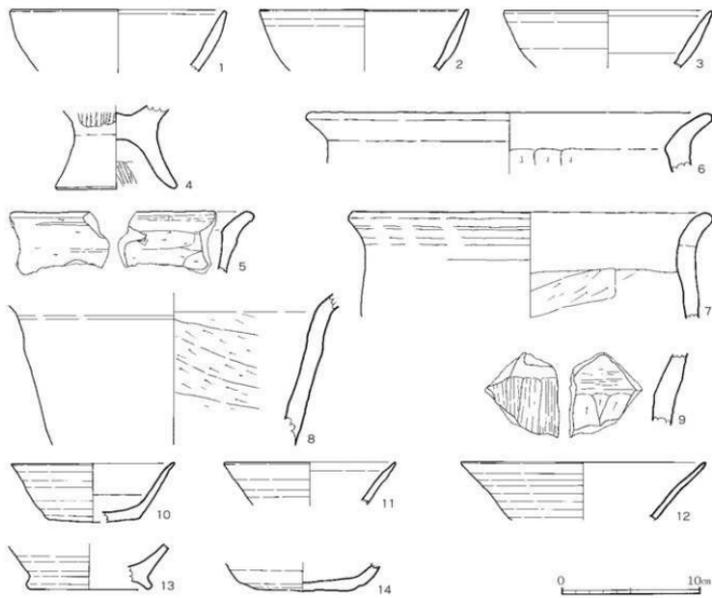
25は、鉢形を呈するとみられるものである。焼成が良好でなく、軟質である。

参考文献

中村直子 1986「成川式土器再」『鹿大考古』第6号



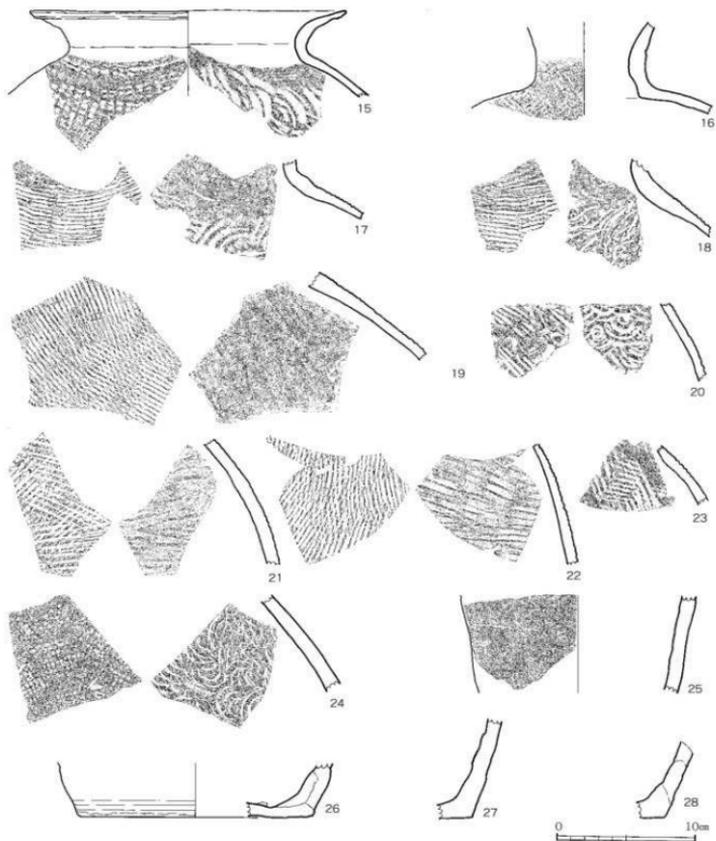
第58図 Ⅱ層遺物出土状況図



第59図 II層土器実測図(1)

表17 II層土器観察表

層別 No.	発掘 番号	発掘 区画	出土 位置	層 a	層 b	部位	文様・調整		色調		胎土			備考		
							内面調整	外面調整	外面	内面	行角	底打	底縁			
59	1	232	C	9	2	b	口縁部	平文	1字文	赤褐色	赤褐色	-	-	-		
	2	234	C	9	2	b	口縁部	平文	1字文	赤褐色	赤褐色	-	-	-		
	3	232	C	9	2	b	口縁部	平文	1字文	赤褐色	赤褐色	-	-	-		
	4	292	994	C	9	2	b	口縁部	平文	1字文	赤褐色	赤褐色	-	-	-	
	5	271	272	C	9	2	b	口縁部	平文	1字文	赤褐色	赤褐色	-	-	-	
	6	211	-	-	1	-	口縁部	平文	平文・2字文	褐色	紅褐色	○	○	○	表割	
	7	255	-	2	2	b	口縁部	平文・ハツ目	平文・2字文	褐色	褐色	○	○	○	表割	
	8	A	-	-	-	-	底面	平文・2字文	平文・2字文	褐色	褐色	○	○	○	表割	
	9	A	-	-	-	-	底面	ハツ目・平文	平文・2字文	褐色	褐色	○	○	○	表割	
	10	263	-	10	2	b	口縁部	平文	平文	褐色	褐色	○	○	○	表割	
	11	265	-	10	2	b	口縁部	平文	平文	褐色	褐色	-	-	-		
	12	127	-	10	2	b	口縁部	平文	平文	褐色	褐色	-	-	-		
	13	436	-	10	-	-	底面	平文	1字文	褐色	褐色	-	-	-		
	14	267	-	10	-	-	底面	平文・2字文	平文	褐色	褐色	-	-	-	裡土	
60	13	100	100	10	2	b	口縁部	平文・格子目	平文・格子目	褐色	褐色	-	-	-		
	14	100	100	10	2	b	口縁部	格子目	格子目	褐色	褐色	-	-	-		
	15	100	100	10	2	b	口縁部	格子目	格子目	褐色	褐色	-	-	-		
	16	100	100	10	2	b	口縁部	平文・格子目	平文・格子目	褐色	褐色	-	-	-	表割	
	17	100	100	10	2	b	口縁部	平文・格子目	平文・格子目	褐色	褐色	-	-	-		
	18	100	100	10	2	b	口縁部	平文・格子目	平文・格子目	褐色	褐色	-	-	-		
	19	100	100	10	2	b	口縁部	平文・格子目	平文・格子目	褐色	褐色	-	-	-	表割	
	20	100	100	10	2	b	口縁部	格子目	格子目	褐色	褐色	-	-	-		
	21	100	100	10	2	b	口縁部	格子目	格子目	褐色	褐色	-	-	-		
	22	100	100	10	2	b	口縁部	平文・格子目	平文・格子目	褐色	褐色	-	-	-		
61	23	100	A	10	2	b	口縁部	平文	平文	褐色	褐色	-	-	-		
	24	100	A	10	2	b	口縁部	平文	平文	褐色	褐色	-	-	-	表割	
	25	100	A	10	2	b	口縁部	平文	平文	褐色	褐色	-	-	-	表割	
	26	100	A	10	2	b	口縁部	平文	平文	褐色	褐色	-	-	-	表割	
	27	100	A	10	2	b	口縁部	平文	平文	褐色	褐色	-	-	-	表割	
	28	100	A	10	2	b	口縁部	平文	平文	褐色	褐色	-	-	-	表割	



第60图 I 层土器实测图 (2)

VI 朽堀遺跡

第1章 調査の方法

朽堀遺跡は6,612㎡を対象として平成8・9年度に西部4,412㎡、平成14年度に東部2,200㎡の全面調査を実施した。確認調査の結果をもとに表土を重機で除去したところ、II層も擾乱を受け部分的にしか残存していなかったためIII層以下を人力によって掘り下げた。

III a層で古墳時代の甕形土器・壺形土器・高坏等が集中して出土するエリアもあり、住居跡を想定して掘り下げを行ったが、遺構は検出されなかった。

縄文時代は、III a層を中心に晩期～前期の土器片や黒曜石の剥片等が出土した。また、第III層を埋土とする土坑も検出している。IV層下部からは早期の集石や土坑が検出され、土器片や石皿・磨石等の石器、黒曜石の剥片等が出土した。

旧石器時代は、VII層より黒曜石を主要石材とする細石刃文化期のブロックが数多く検出され、その主な遺物は、細石刃・細石核等である。また、VIII層からは黒曜石や砂岩等を用いたナイフ形石器文化期の石器群が出土した。

なお、遺物の番号については、調査年度および時代別に注記されたため取り上げ番号の重なりがあった。そこで、遺物番号の先頭に下記の通り数字を加えることで区

別してある。

1XXXXは平成8年度の旧石器時代の遺物、2XXXXは平成8年度の縄文時代以降の遺物、3XXXXは平成9年度の遺物、4XXXXは平成14年度の遺物である。

* 調査時点での遺物番号はXXXXである。

第2章 VII層の調査

第1節 概要

本遺跡の基本土層VIII層の中～下部を中心に、旧石器時代ナイフ形石器文化期の遺構・遺物が出土している。ただし、出土したのは西側の地区のみである。

遺構では礫群を1基検出している。

遺構の認定時期については、検出面を判断基準としているが、詳細な時期認定はできなかった。

第2節 遺構(礫群)

VIII層検出の礫群は、1基のみであるが、その形態については他の層も含め、固有の形態が見られない。そこで、礫数の多少に関わらず一定のエリアを確保すると認識できたものを1礫群として扱い、形態については類型化を行った。類型化については以下に掲載した通りである。

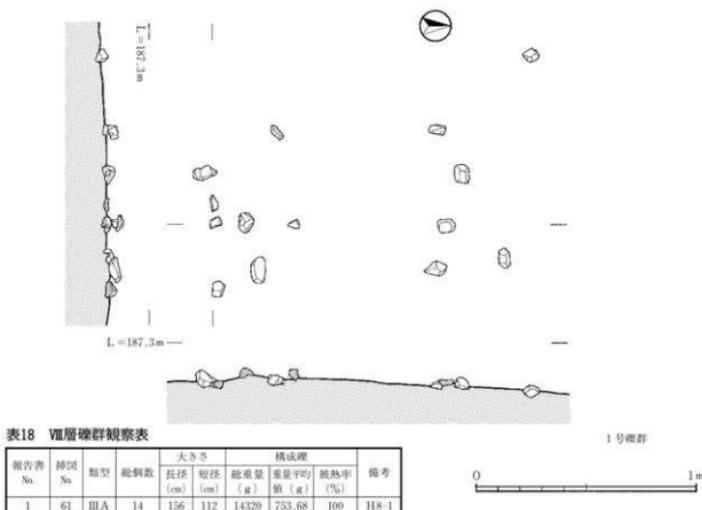
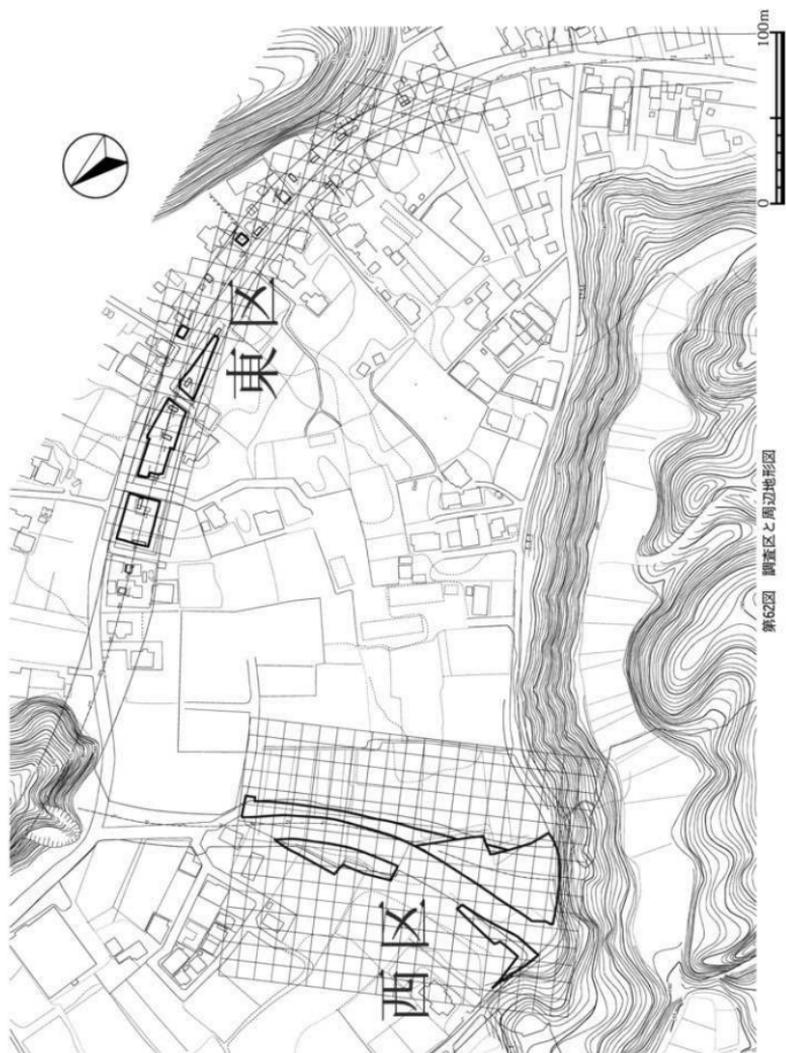


表18 VII層礫群観察表

報告書 No.	検出 No.	類型	総個数	大きさ		構成		備考	
				長さ (cm)	短径 (cm)	総重量 (g)	重量平均 値 (g)		焼熟率 (%)
1	61	III A	14	156	112	14320	753.68	100	H8-1

第61図 VII層遺構実測図



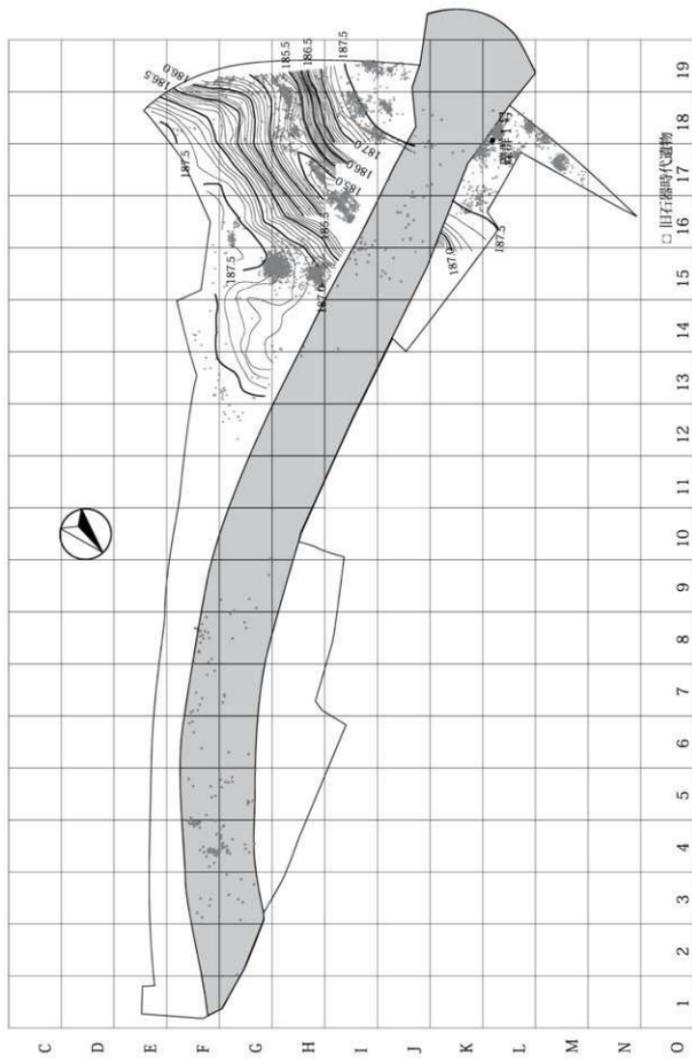


圖63 崑崙山台地配置圖

I類礫群 人為的掘り込み遺構を伴う礫群で、礫の詰まり方でさらにA, B, Cに細分した。

I A類 掘り込み遺構を伴い、礫がしっかり詰まっている。

I B類 掘り込み遺構を伴い、礫が少ない。

I C類 掘り込み遺構を伴い、礫は0～数個。

II類礫群 掘り込み遺構を検出できないが、礫の残存形状から掘り込み遺構が想定できる。

III類礫群 礫の集中もない礫群で、礫の密粗でさらにA, Bに細分した。

III A類 礫の中心が想定できる。

III B類 散礫状態。

1号礫群

L-18区のⅧb層で検出した。156cm×112cmの範囲に14個の礫を確認した。10cm程度の角礫が多く、赤化している礫もある。検出状況は散礫状態であるが、遺跡の中

では比較的礫が集中して見られることから礫群として認定した。(III A類)

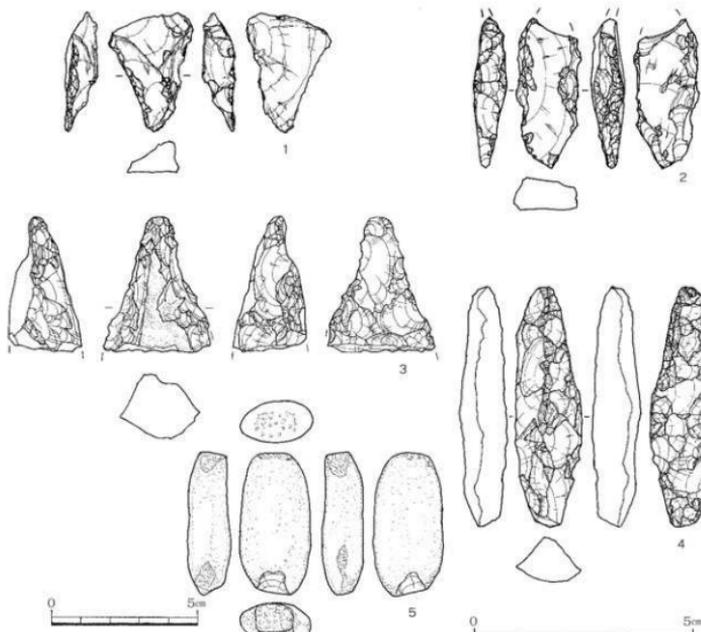
第3節 遺物

1 石器群の概要

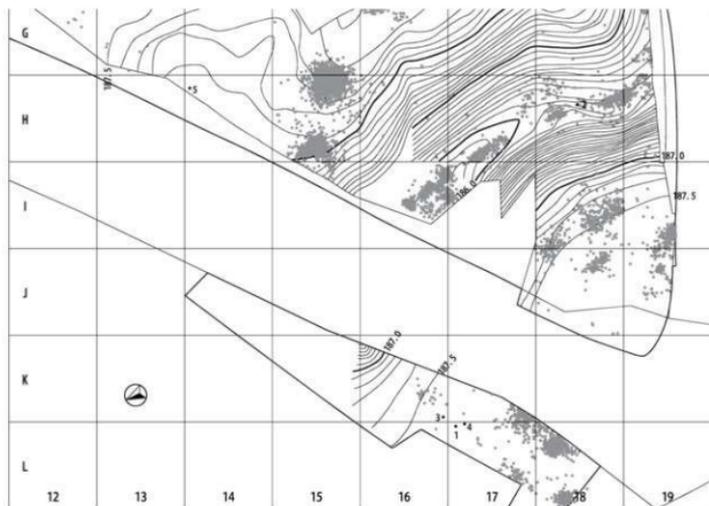
Ⅷ層として取り上げた遺物は総数151点である。しかし、ブロックの平面状況から、Ⅷ層ブロックの残りと捉えられるものがほとんどであり、実質的にⅧ層文化層として確実に捉えられるのは少ない。

2 石器

1はOB-A製のナイフ形石器で、切出形ナイフ形石器に帰属する。寸詰まり剥片を横位に利用し、右側縁に急角度の、左側縁に簡易なブランディングを施している。刃部に微細な剥離痕が観察される。2はOB-B製のナイフ形石器である。剥片を横位に利用し、両側縁に腹・背両面から90°に近い角度でブランディングを施している。刃部は欠損している。3はOB-B製の三稜尖頭器であ



第64図 Ⅷ層 出土石器



第65図 VII層 遺物出土状況図

る。両側縁に急角度な二次加工、腹面には両側からの平坦剥離を施し、整形している。欠損品である。4は硬質頁岩製の三稜尖頭器である。三面に入念な加工が施されている。腹面への調整が最後に行われている。5は砂岩製の小型のハンマーストーンである。両極に垂直方向の打撃による潰れが観察され、使用頻度の高さから平坦面が形成されている。また、肩部にも叩きによる潰れが確認され、振り下ろしによる使用も推定される。

第3章 VII層の調査

第1節 概要

本遺跡の基本土層VII層から、旧石器時代細石刃文化期の遺物が大量に出土している。しかし、ナイフ形石器文化期と同じく出土したのは西区のみである。

第2節 遺構

ブロック20基が検出された。ブロックの分類については、平面分布状況から認定し、分類を行った。各ブロックの概要は下記のとおりである

Aブロック

総数225点である。構成石材は、OB-Dが220点と最も多く、他にOB-A、黒色安山岩、頁岩がそれぞれ1点ずつ、OB-Cが2点である。

製品は細石刃核2点、細石刃49点、スポール10点、スクレイパー1点である。

Bブロック

総数111点のブロックである。構成石材はOB-Dが109点でほとんどを占め、OB-Aが2点である。

製品は細石刃16点、スポール1点である。

Cブロック

総数405点のブロックである。構成石材はOB-Dが378点、OB-Aが11点、OB-Bが7点、黒色安山岩が5点、OB-Cが2点、安山岩が1点である。

製品は細石刃核2点、細石刃94点、スポール4点、石鎌1点、二次加工剥片1点である。

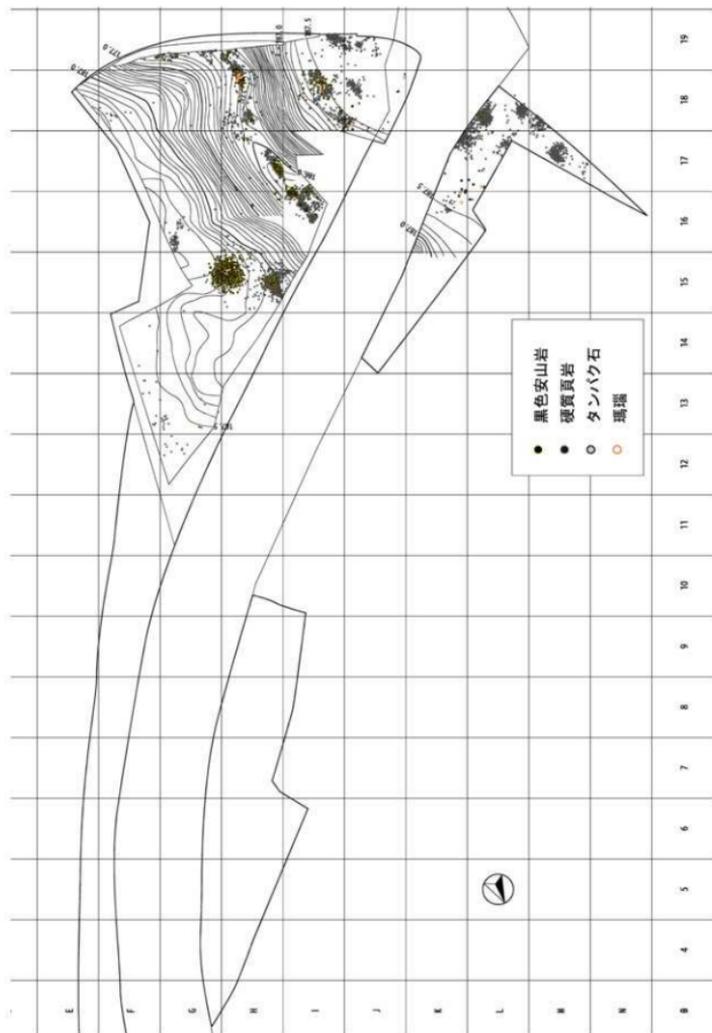
Dブロック

総数40点のブロックである。構成石材はOB-Dが26点、硬質頁岩が4点、OB-Aが3点、OB-Bが3点、瑪瑙が3点、黒色安山岩が1点である。

製品は細石刃16点、スポール3点である。



第66圖 V層石材別出土状況圖 (1)



第67図 埋蔵石材別出土状況図(2)

Eブロック

総数77点のブロックである。構成石材はOB-Aが46点、OB-Dが27点、OB-Bが3点、無斑品質安山岩が1点である。

製品は細石刃核2点、細石刃13点、細石刃核調整剥片1点、二次加工剥片1点である。

Fブロック

総数226点のブロックである。構成石材はOB-Aが210点、OB-Dが8点、OB-Bが4点、OB-Cが4点である。

製品は細石刃核2点、細石刃12点、打面再生剥片1点である。

Gブロック

総数218点のブロックである。構成石材はOB-Bが187点、OB-Dが17点、OB-Aが11点、OB-Cが2点、黒色安山岩が1点である。

製品は細石刃核1点、細石刃4点、スポール3点、二次加工剥片1点である。三稜尖頭器1点も確認されているが、共存については疑問である。

Hブロック

総数387点のブロックである。構成石材はOB-Aが339点、OB-Cが26点、OB-Bが18点、OB-Eが2点、黒色安山岩が1点、頁岩が1点である。

製品は細石刃核6点、細石刃58点、スクレイパーが1点、石核1点である。

Iブロック

総数132点のブロックである。構成石材はOB-Eが63点、OB-Bが62点、OB-Aが6点、OB-Cが1点である。製品の出土はみられず、全て剥片、砕片類である。

Jブロック

総数292点のブロックである。構成石材はOB-Aが208点、OB-Bが33点、黒色安山岩が45点、OB-Eが5点、瑪瑙が1点である。

製品は細石刃核1点、ブランク1点、スクレイパー1点、微細剥離痕のある剥片1点である。

Kブロック

総数122点のブロックである。構成石材はOB-Aが102点、硬質頁岩が14点、黒色安山岩が1点、無斑品質安山岩が1点、瑪瑙が4点である。

製品は石核1点、微細剥離痕のある剥片が1点である。

Lブロック

総数47点のブロックである。構成石材はOB-Aが40点、黒色安山岩が5点、硬質頁岩が2点である。

製品は石核1点、微細剥離痕のある剥片が1点である。

Mブロック

総数462点のブロックである。構成石材はOB-Aが377点、黒色安山岩が54点、瑪瑙が11点、タンバク石が10点、OB-Bが5点、OB-Dが1点、硬質頁岩が4点である。

製品は細石刃核1点、細石刃1点、石核2点、二次加工

剥片1点である。

Nブロック

総数166点のブロックである。構成石材はOB-Aが144点、OB-Bが8点、黒色安山岩が14点である。

製品は石核1点、細石刃1点である。

Oブロック

総数201点のブロックである。構成石材はOB-Aが99点、黒色安山岩が85点、OB-Bが8点、OB-Cが3点、硬質頁岩が5点、OB-Dが1点である。

製品は石核4点、微細剥離痕のある剥片1点である。

Pブロック

総数695点のブロックである。構成石材はOB-Aが588点、黒色安山岩が71点、OB-Bが13点、OB-Eが9点、OB-Dが3点、硬質頁岩が9点、OB-Cが1点、無斑品質安山岩が1点である。

製品は石核9点である。

Qブロック

総数1,048点のブロックである。構成石材はOB-Aが951点、黒色安山岩が30点、OB-Bが63点、OB-Dが2点である。

製品は細石刃核1点、細石刃2点、ブランク1点、石核6点、微細剥離痕のある剥片が1点である。

Rブロック

総数2,298点のブロックである。構成石材はOB-Aが1,520点、黒色安山岩が732点、OB-Bが20点、硬質頁岩9点、瑪瑙が5点、OB-Dが4点、タンバク石が3点、OB-Eが2点、OB-Cが1点、玉髄1点、頁岩が1点である。

製品はナイフ形石器1点、石核6点、細石刃5点、ブランク2点、二次加工剥片1点である。

Sブロック

総数68点のブロックである。構成石材はOB-Aが62点、OB-Bが3点、OB-Cが1点、硬質頁岩が1点、瑪瑙が1点である。

製品は細石刃核1点、細石刃1点である。

Tブロック

総数38点のブロックである。構成石材はOB-Bが22点、OB-Cが7点、OB-Aが7点、OB-Dが1点、黒色安山岩1点である。

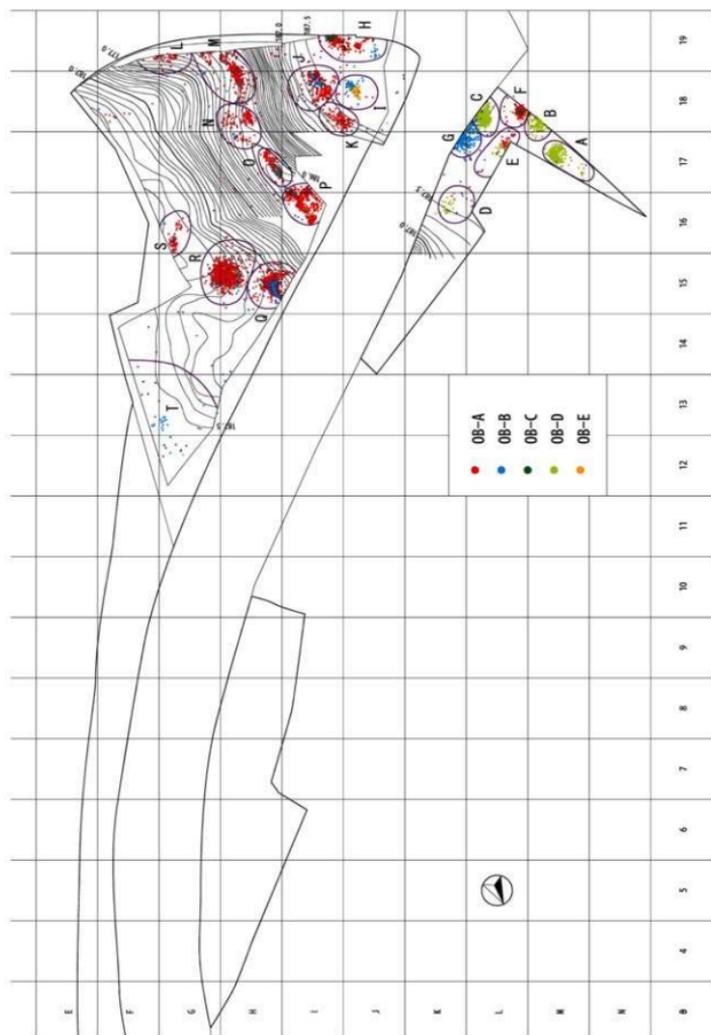
製品は細石刃5点、スクレイパー1点である。

第3節 遺物

1 石器群の概要

Ⅶ層の遺物は総数7,112点である。出土状況はその平面的分布状況から、20基のブロックに分類した。

出土遺物は細石刃核、細石刃等である。細石刃核には石材、技術ともに西北九州の泉福寺洞穴資料と類似するものが含まれ、注目される。



第68図 VII扇アログ配置図

A・Bブロック

6はOB-D製の細石刃核である。作業面を2面持つ。最初の作業面は縦型スポールを剥出すことにより得られた打面に、打面調整を施しながら細石刃の剥離を進めている。2度目の作業面は自然面を打面とし、打面調整を施す。旧作業面と斜行する形で細石刃の剥離が行われている。7はOB-D製の細石刃核である。主剥離面を横位に利用している。打面は横方向からの剥離により二次的に形成されたもので、傾斜している。打面調整を施しながら細石刃の剥離を進めている。底面に自然面を残している。

8はOB-D製の縦型スポールである。背面は剥離面であるが、風化が進行しており、自然面として捉えた。打点側は欠損している。9はOB-D製の縦型のファーストスポールである。自然面のある片側面に整形加工を施し、その加工面を打面にしてもう一方の側面に入念な整形、調整加工を施し、稜を形成し、スポールを剥出している。打面側が欠損している。10-18は細石刃である。点打面では幅状で、大型であることに特徴がある。19は頁岩製の石器で、器械に関しては、石槍未製品、スクレイパー、石斧を候補に検討を行ったが、現状ではスクレイパーに帰属すべきと判断した。なお、石槍に関しては槍としての成形成程工程が異なる点、また、稜に若干の磨減痕が確認されることから、石斧の可能性も残されている。

Cブロック

20はOB-D製の縦型のファーストスポールで、大剥離面で構成する側面と、自然面で構成する側面で構成している。自然面で構成する面には、入念な成形、整形剥離(加工)を施している。尾部が欠損しているが、後掲の通り、同じCブロック内の遺物と接合している。21はOB-D製の細石刃核である。打面は縦のスポール剥出により形成されており、両側面の石核調整が入念に施されている。当遺跡出土のOB-D製細石刃核は、石核整形が簡易なものも多く、当資料は異質である。打面調整を施しながら細石刃を剥出している。22はOB-D製の細石刃核である。打面は再生されており当初の形成過程は明らかでない。石核整形は複数の大剥離により行われており、狭長な作業面から打面調整を施しながら細石刃を剥出している。23はOB-C製の石鉄である。24はOB-D製の細石刃剥出時のセカンドスポールである。左側面にスポール剥出に先立つ核形成時の剥離が残されている。25-36は細石刃である。

Dブロック

37、38は細石刃剥出の開始時に剥離される細石刃剥離に伴うファーストスポールである。OB-D製である。入念な調整により稜が形成され、押圧剥離により剥離されている。打面は点状である。39-46はOB-D製の細石刃である。

Eブロック

47はOB-D製の細石刃核である。素材剥片の主剥離面を側面に利用し、反対側の下縁からの整形、調整を施す。打面は少なくとも2回以上の縦方向の剥離により形成されている。側面の一部に自然面を残す。48はOB-D製の細石刃核である。素材形態は明らかではないが、片側面は自然面、もう片側面は下縁からの整形、調整剥離により構成される。打面は縦方向の剥離により形成されている。49はOB-D製の細石刃核調整剥片である。作業面を斜めに切る形で調整をしている。50、51はOB-D製の細石刃である。

Fブロック

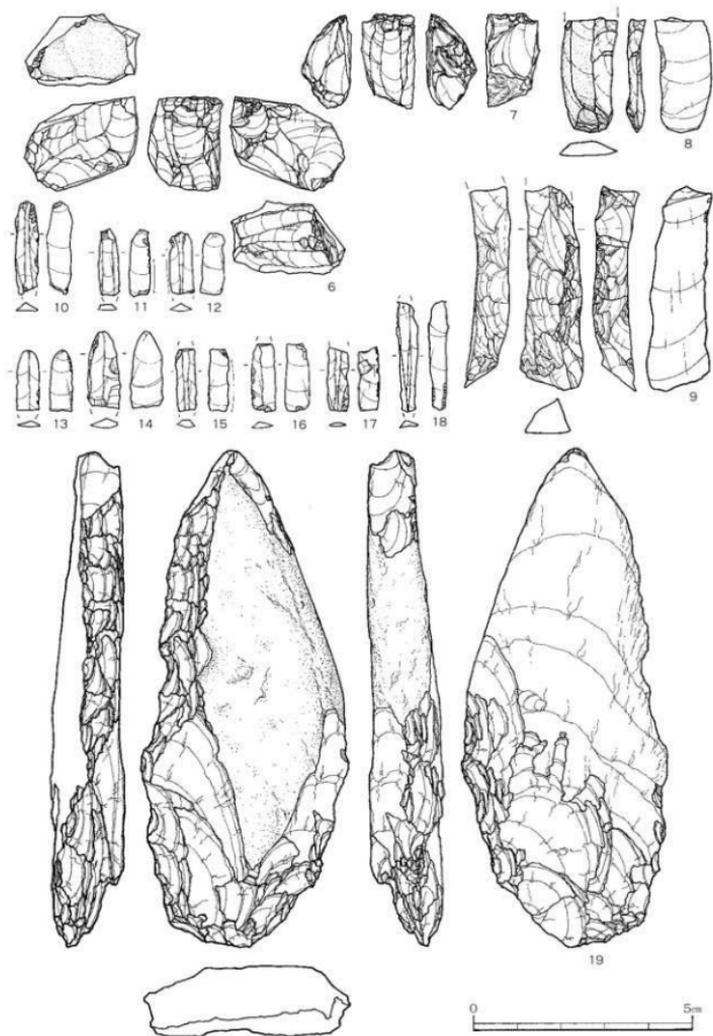
52はOB-D製の細石刃核である。本遺跡出土の細石刃核の中で最も大型のものである。円礫の角度の急な部分を利用して得た剥片を素材とし、横方向からの複数の剥離により打面を形成する。片側面にのみ下縁調整を施す。横型スポールとの接合がみられる資料である。53はOB-D製の打面再生剥片である。縦方向の剥離により形成された打面に、打面調整を施しながら細石刃を剥出し、作業面側からの打面再生を行っている。54はOB-A製の打面再生剥片である。入念な打面調整を施しながら細石刃剥出を行っている。細石刃核の側面からの再生剥片である。55-60は細石刃である。

Gブロック

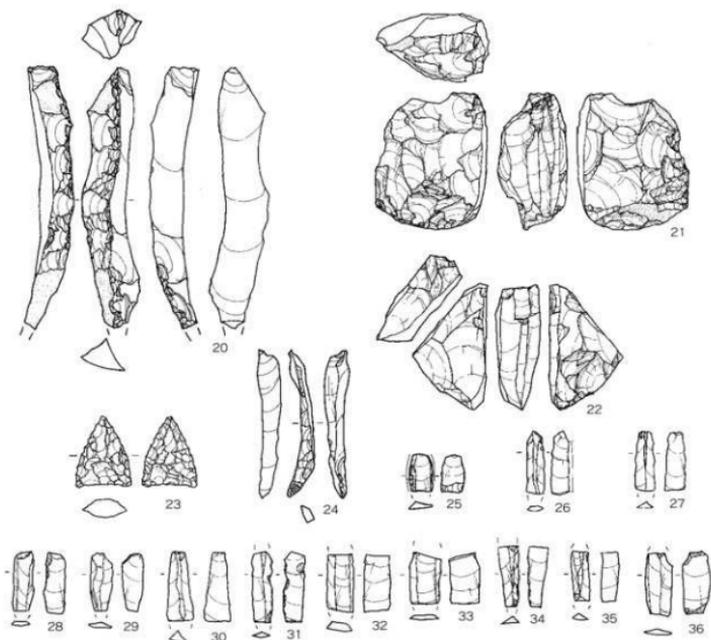
61はOB-D製の細石刃核である。最終作業面の反対側にも旧作業面があり、側面からの打面形成剥離により削られている。右側面の下縁からの剥離も作業面である可能性がある。打面調整を施しながら細石刃を剥出している。62はOB-C製の細石刃である。63、64はOB-D製のスキー状スポールである。前段階のスポール剥出後、簡易な調整により再度稜を形成し、再びスポールを剥出している。いずれも欠損している。65はOB-A製の三稜尖頭器である。横長の剥片を素材とし、両側縁に急角度の加工を施している。稜上調整は簡易である。先端部が欠損している。当ブロックを構成する石材とは異なることから、時期的共伴の可能性は低いと考えている。

Hブロック

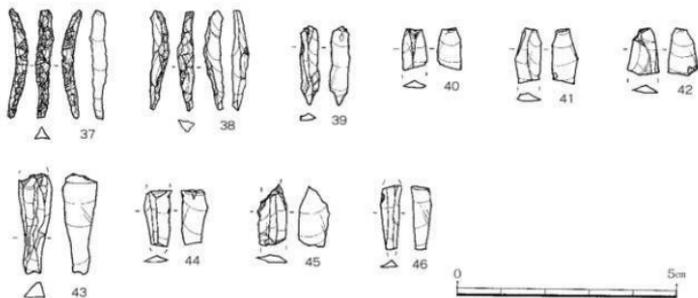
66はOB-A製の細石刃核である。打面は両側方からの剥離により形成されている。打面調整を施しながら細石刃を剥出している。背面にスクレイパー状の刃部を形成しており、転用の可能性がある。67はOB-A製の細石刃核である。各面とも大剥離により構成され、細かい石核調整みられない。打面調整を施しながら細石刃剥出を行っている。68はOB-A製の細石刃核である。厚手の剥片を素材とし、大剥離により打面を形成した後打面から周辺に石核整形、調整を施している。打面調整を施しながら細石刃剥出を行っている。69はOB-A製の細石刃核である。石核整形により角柱状の素材を作り出し、求心



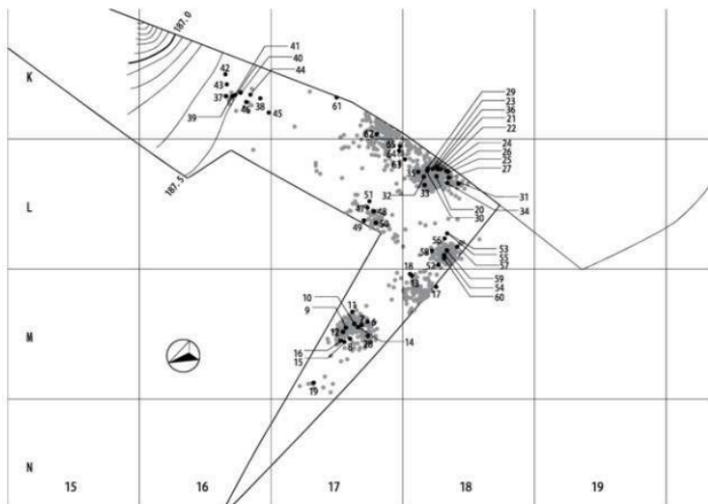
第69図 A・Bブロック出土石器



第70図 Cブロック出土石器



第71図 Dブロック出土石器



第72図 A～Gブロック遺物出土状況図

状剥離により打面を形成し、打面調整を施しながら細石刃を剥出している。70はOB-A製の細石刃核である。小型の円礫が得られた剥片を素材とし、主剥離面を側面に利用し、側方からの連続する剥離により打面を形成している。下縁調整も片側側面のみ入念に施される。打面調整を施しながら細石刃剥出を行っている。71はOB-A製の細石刃核である。打面は濃い右方へ大きく傾斜している。打面は大剥離面により構成され、打面調整を施しながら細石刃剥出を行っている。左側面は下縁からの大きな剥離が入っている。72～95は細石刃である。詳細については観察表を参照して頂きたい。96は頁岩製の大型のスクレイパーである。

Jブロック

97はOB-A製の細石刃核である。素材剥片の主剥離面を側面に利用し、粗い石核整形の後小口部から打面調整を施しながら細石刃剥出を行っている。背面は不純物によりはじけている。98はOB-E製の掻器である。自然面の残る厚手の剥片に急角度の二次加工を施し、刃部を形成している。刃部は若干内弯している。刃部には微細な

剥離痕が多く確認される。

Kブロック

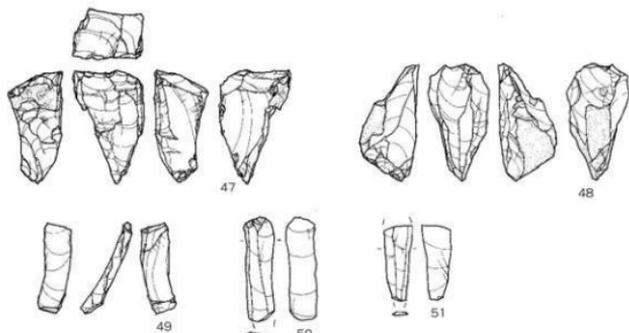
99は、硬質頁岩製の石核である。打面転移が頻繁に行われている。

Lブロック

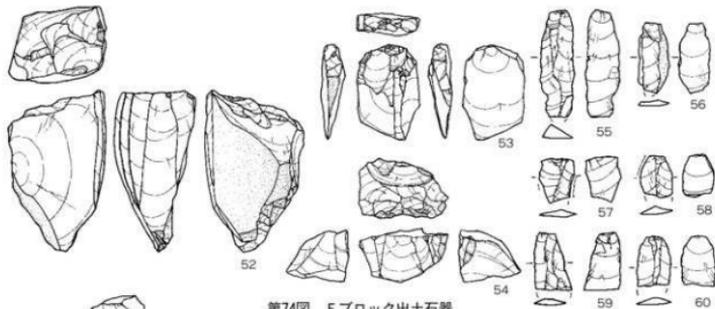
100はOB-A製の石核である。打面に当たる部分には求心状の剥離が施され、周囲に剥離がめぐる。剥離角度、大きさ等に不明瞭な部分があり、細石刃核ブランク等他の分類も考えられる。

Mブロック

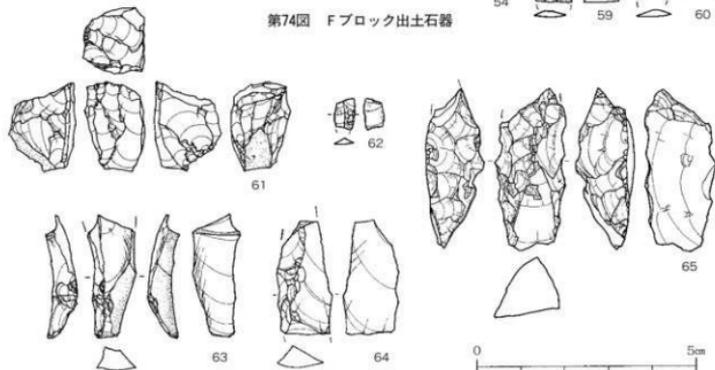
101はOB-A製の細石刃核である。大剥離面を右側面に利用し、打面側からの整形剥離、調整剥離を施している。左側面は不純物からはじけた剥離である。打面は側方からの連続する剥離により形成し、小口部から打面調整を施しながら細石刃剥出を行っている。102はOB-A製の二次加工剥片である。剥片の側縁に腹面からの簡易な二次加工が施されている。103はOB-A製の石核である。素材は小型の角礫である。両面に求心状剥離により剥片を剥出しており、残核形態が円盤状を呈する。



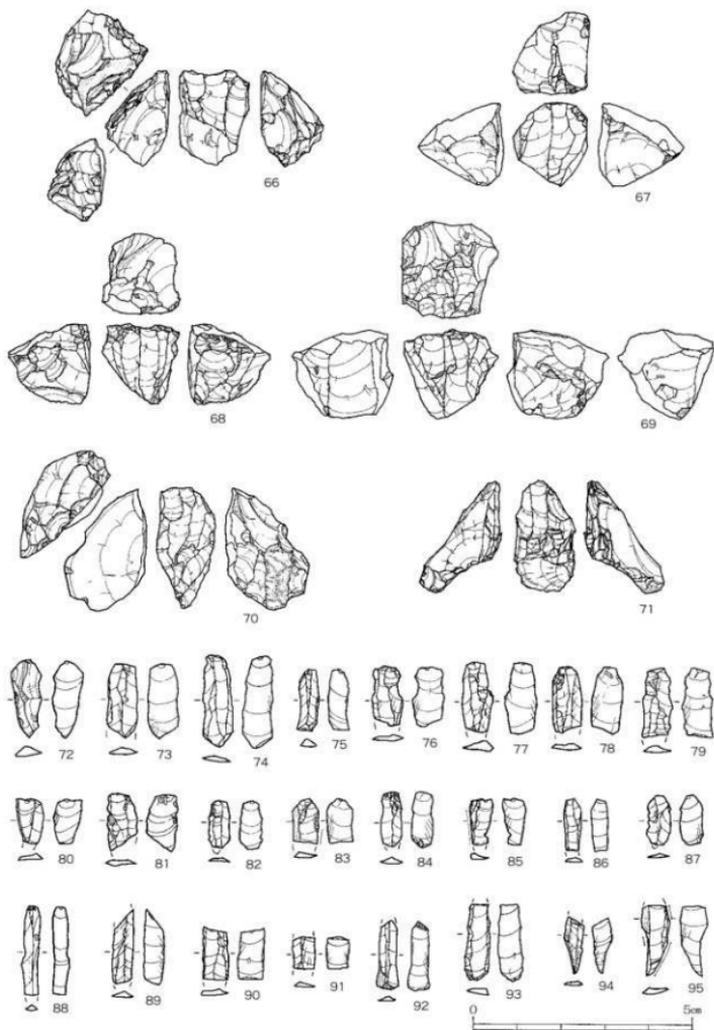
第73図 Eブロック出土石器



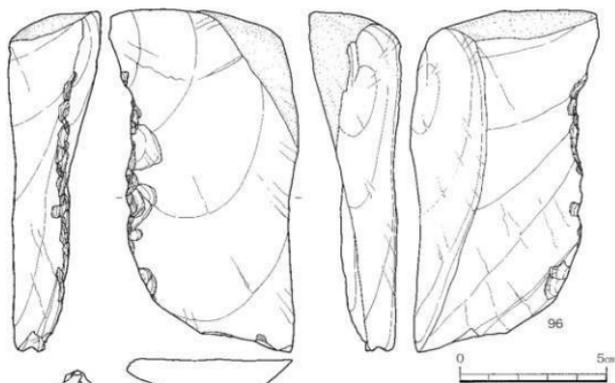
第74図 Fブロック出土石器



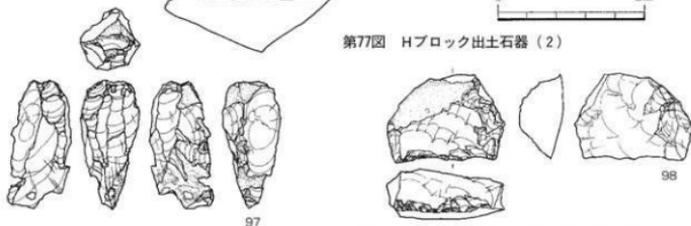
第75図 Gブロック出土石器



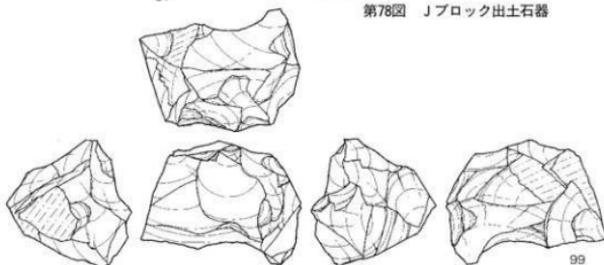
第76図 Hブロック出土石器(1)



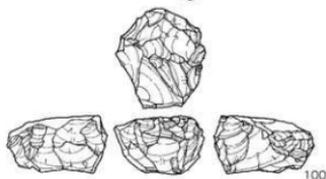
第77図 Hブロック出土石器 (2)



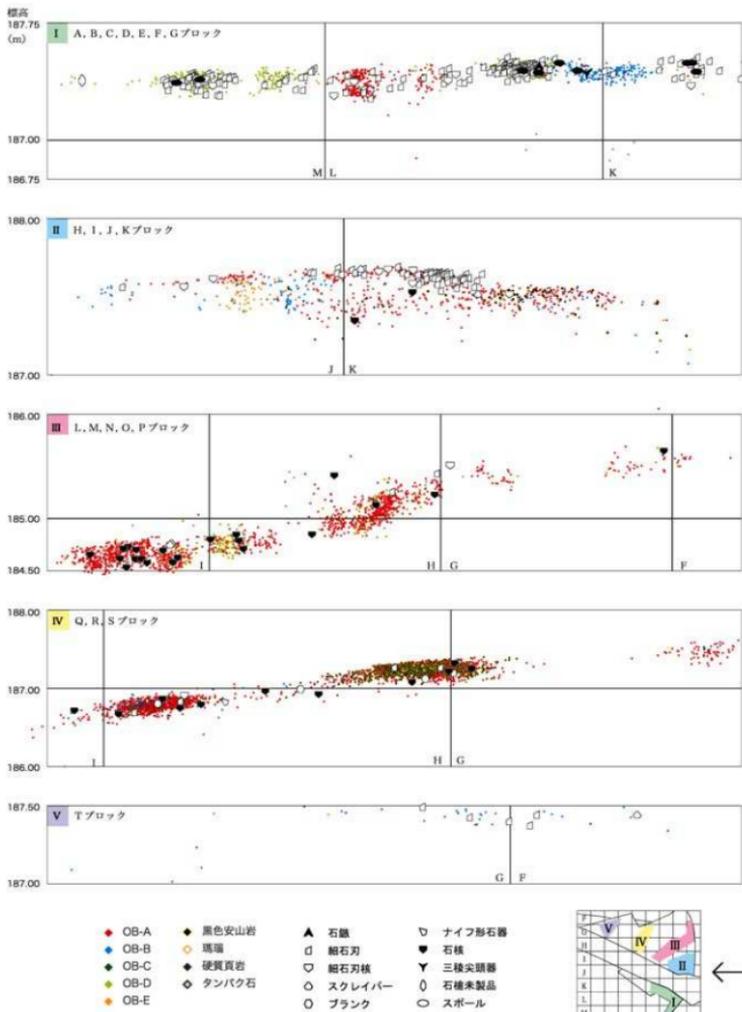
第78図 Jブロック出土石器



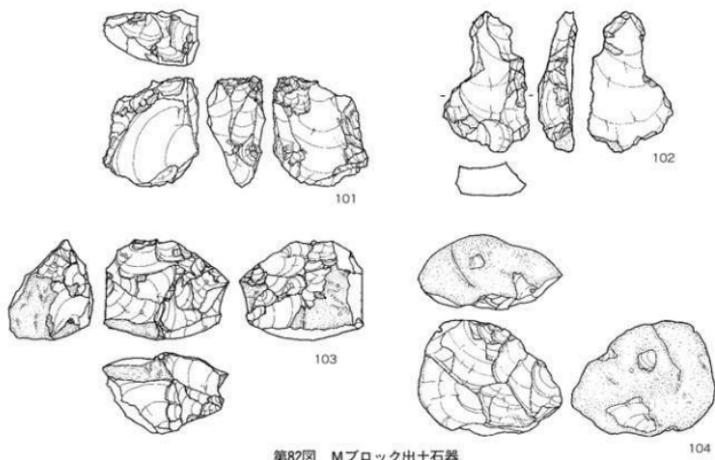
第79図 Kブロック出土石器



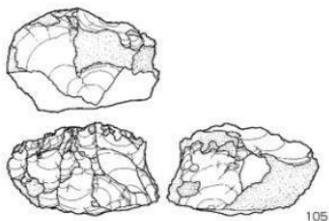
第80図 Lブロック出土石器



第81図 A～Tブロック遺物出土状況図（垂直分布）



第82図 Mブロック出土石器



第83図 Nブロック出土石器



104はOB-A製の石核である。小型の円礫を素材とし、自然面を固定打面として打面調整を施さずに剥片を剥出している。

Nブロック

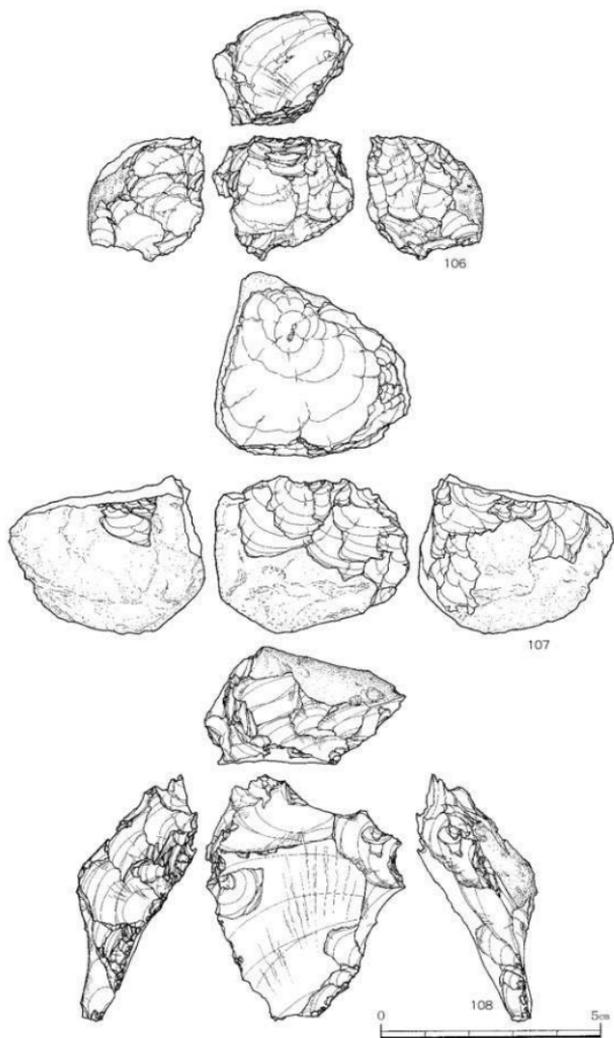
105はOB-A製の石核である。小型の円礫の平行する2か所に大剥離により打面を形成し、両設の打面からそれぞれ剥片を剥出している。

Oブロック

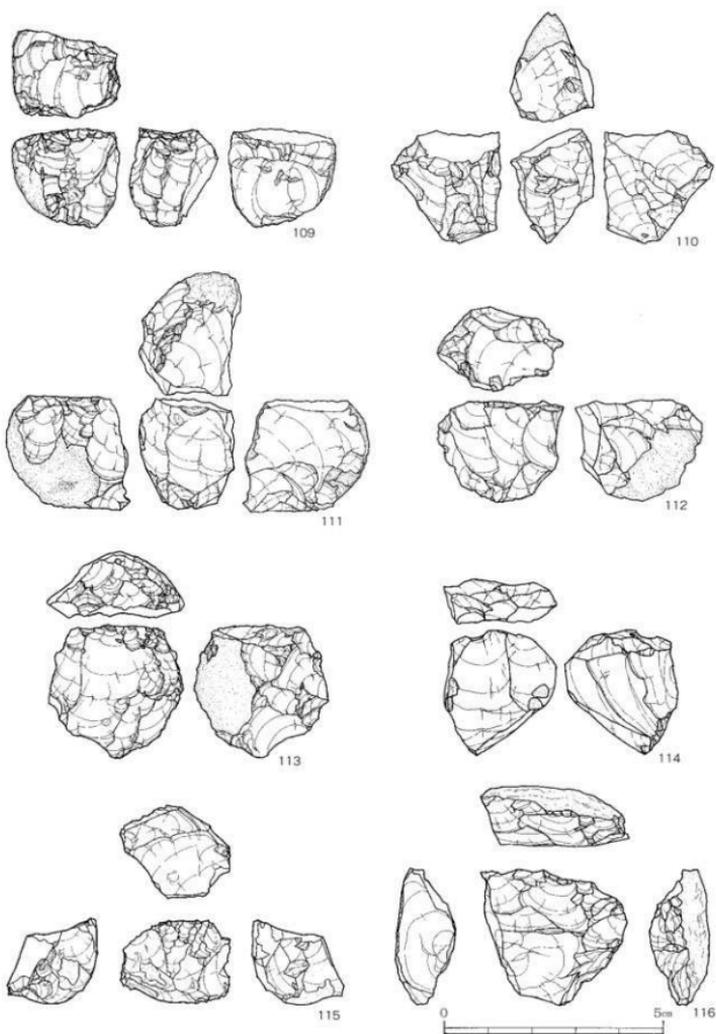
106はOB-A製の石核である。小型の円礫を素材とし、大剥離により打面を形成し、打面調整を施さずに剥片を

剥離している。その後、それぞれの位置に打面をもう1か所設定し、打面転移を行い剥片を剥出している。107はOB-A製の石核である。小型の円礫を素材とし、不純物によりはじけた大剥離面を打面として、単設打面から剥片を剥離している。

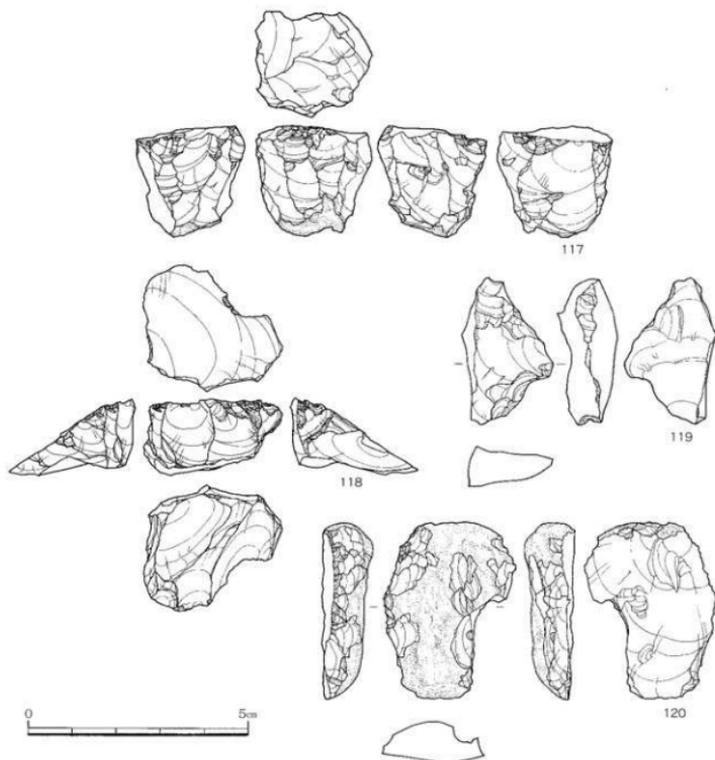
108はOB-C製の石核である。厚手の比較的大型の剥片を素材とし、腹面を作業面に設定して周縁から求心状の剥離により剥片を剥出している。左側縁に入念で急角度な剥離と微細剥離がみられ、スクレイパー転用も考えられる。



第84図 Oブロック出土石器



第85図 Pブロック出土石器(1)



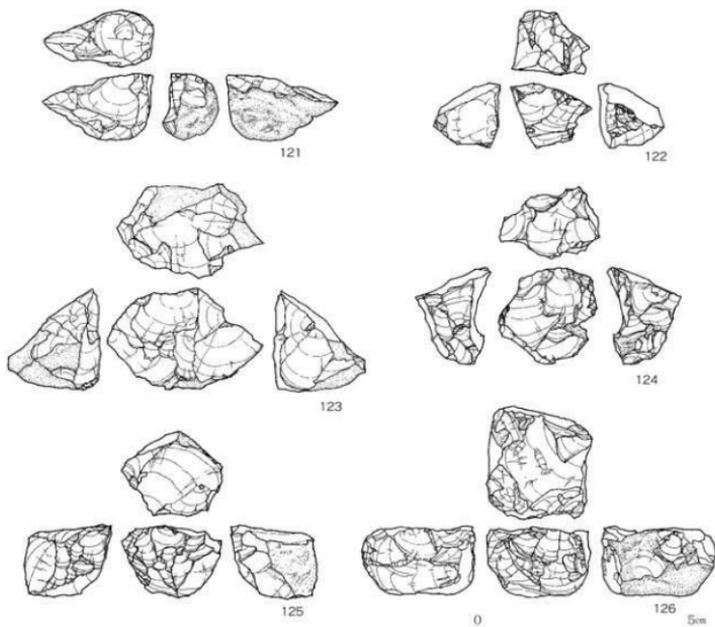
第86図 Pブロック出土石器(2)

Pブロック

109はOB-A製の石核である。小型の円礫を分割し、分割面を側面に利用し、大剥離により打面を形成した後、打面側から周囲に石核整形を施している。打面調整を施さずに小口部から比較的縦長の剥片を剥出している。110はOB-A製の石核である。作業面は小口に設定され縦に長く、細石刃核の可能性もある。打面は分割面である。右側面の剥離は作業面か下縁調整か判断が難しい。111はOB-A製の石核である。小型の円礫を分割して打面を作り出し、片側面に打面からの入念な石核調整を行い、小

口部に作業面を設定している。112はOB-A製の石核である。技術的には111の石核と同じである。113はOB-B製の石核である。厚手の円礫を素材とし、主剥離面を作業面に設定し、剥片を剥離している。背面にも周縁からの求心状剥離がみられ、残核が円盤状を呈する。114はOB-A製の石核である。剥離が進行しており残核は扁平である。背面に側方からの大きな剥離がみられる。Qブロック

121はOB-A製の石核である。小円礫を利用して小口部に複数の剥離がみられる。122はOB-A製の石核であ



第87図 Qブロック出土石器

る。分割面を側面に利用し、打面には打面調整の剥離が複数観察される。目的の剥片はかなり小型のものである。123はOB-A製の石核である。礫から厚手の剥片を剥離し、主剥離面を打面に設定して剥片を剥離している。打面調整は必要に応じて施される。124はOB-A製の石核である。打面は周縁からの剥離により構成され、作業面は周囲に廻る。125はOB-A製の石核である。小型の円礫を分割し、分割面を側面に利用し、打面を剥離により形成し、剥片を剥離している。打面調整はみられない。126はOB-A製の石核である。小型の円礫を分割して打面を形成し、簡易な石核整形の後寸詰まりの剥片を剥離している。

Rブロック

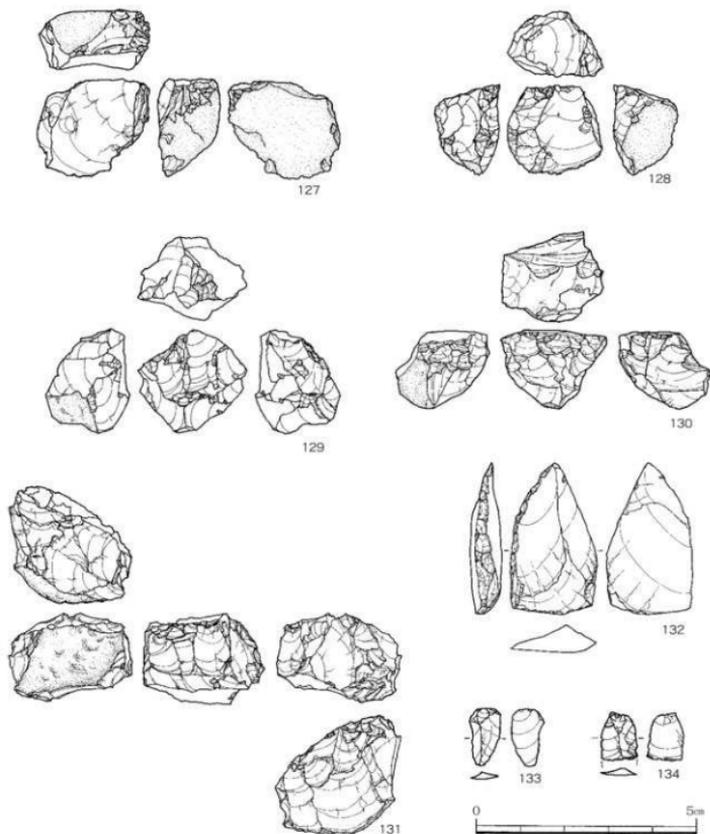
127はOB-A製の剥片である。当初、福井型細石刃核のプランクを想定していたが、ブロック内の石核を検討した結果、円礫から打面を形成するときの剥片の可能性が

高いと考えられる。128はOB-A製の石核である。小型の円礫を分割して打面を形成し、剥片を剥出している。打面調整はみられない。129はOB-A製の石核である。打面は角度のある2枚の大きな剥離面により構成され、周縁に剥離が廻っているため円盤状を呈している。打面調整はみられない。130はOB-A製の石核である。礫を分割したボジ面を打面とし、周縁に剥離を廻らせている。打面調整はみられない。

2 石材

当遺跡のVII層で利用されている対象資料は7,298点である。最も利用されている石材はOB-Aが65%で4,751点、次いで黒色安山岩が14.4%で1,053点、以下OB-Dが11%で803点、OB-Bが6.4%で465点、OB-Eが1.1%で81点、OB-Cが49点、硬質頁岩が47点、瑪瑙が23点、タンバク石が15点である。

器種と石材の関係は、OB-A、OB-Bが石核から細石器

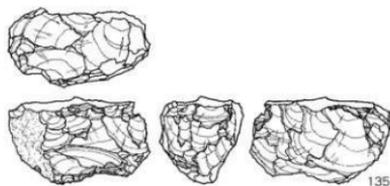


第88図 Rブロック出土石器

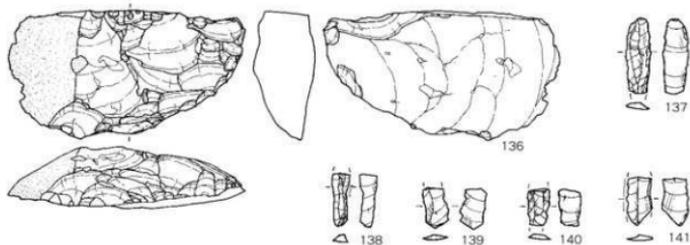
まで様々な石器に利用されており、黒色安山岩、硬質頁岩は石核、OB-Dは細石器に利用される傾向がある。

ブロック別の石材重量表をみると、A～FブロックにOB-Dの主体的な利用が確認されるのに対し、Hブロック以降はOB-Aを主体的に利用している様子がうかがえる。その中において、M～Rブロックで黒色安山岩を、Kブロックで硬質頁岩を補完的に利用しているの

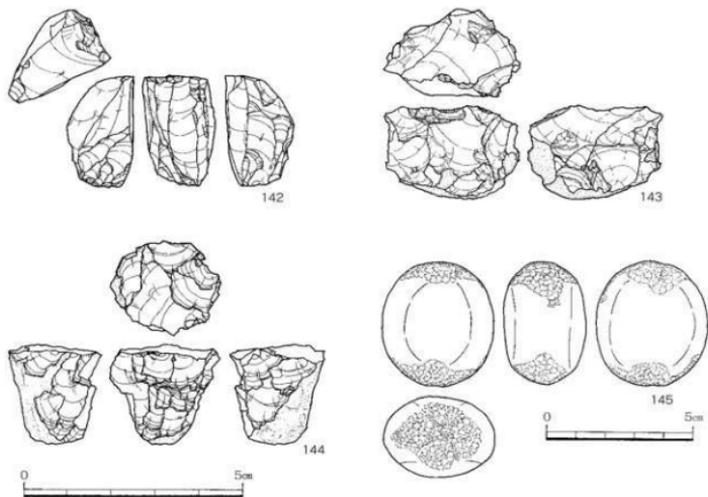
も特徴としてあげられる。なお、当遺跡からOB-Bの産地は距離的にOB-Aの産地とはほぼ同じであるが、OB-Bの利用はGブロックで主体となる他は客体的である。これらの石材利用は、A～FブロックとHブロック以降の間を南北に走る谷があるが、この谷を隔てて様相が異なることが理解される。



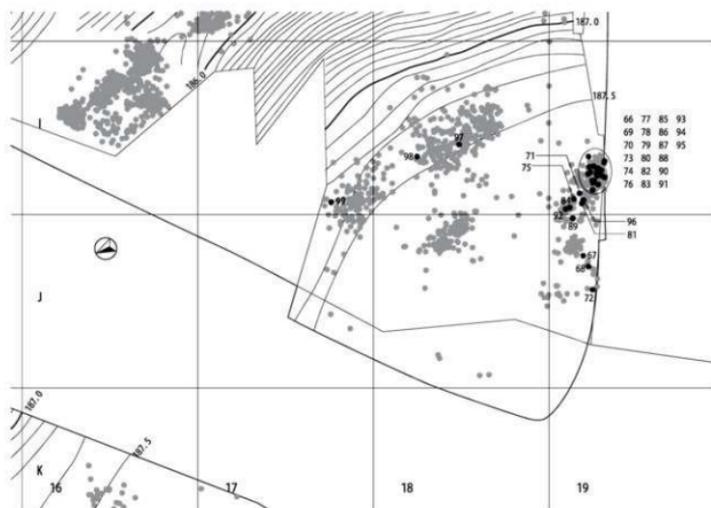
第89図 Sブロック出土石器



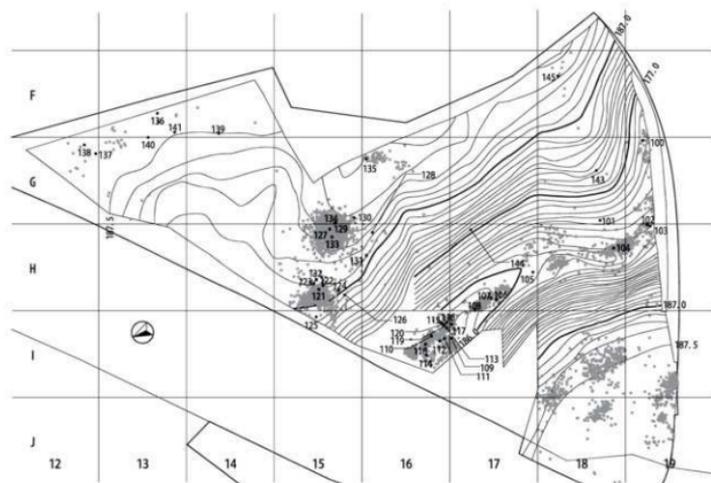
第90図 Tブロック出土石器



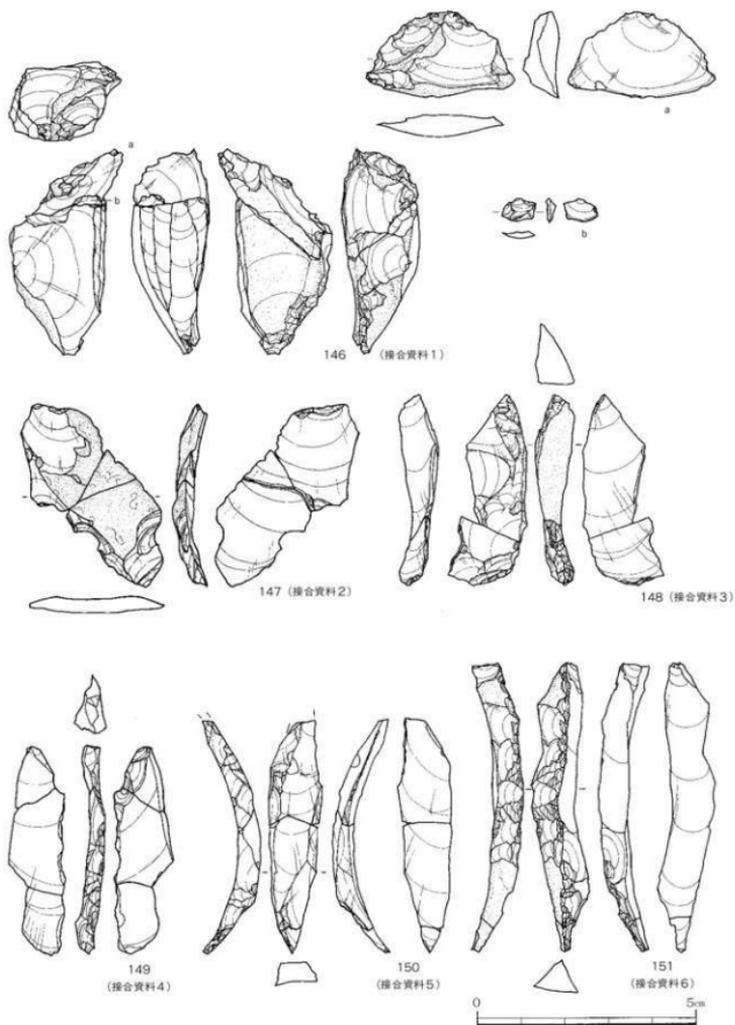
第91図 ブロック外出土石器



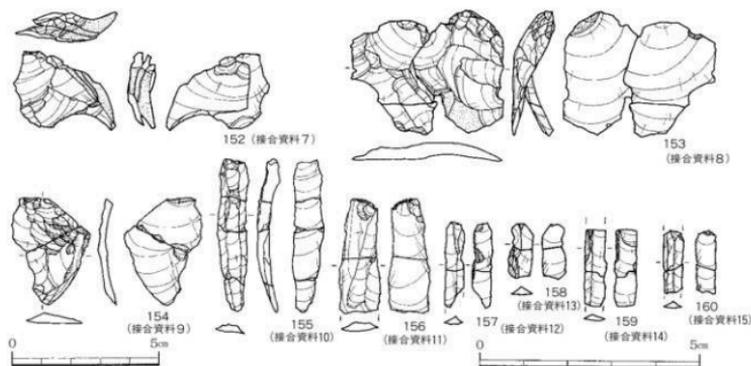
第92図 H～Kブロック遺物出土状況図



第93図 L～Tブロック遺物出土状況図



第94図 接合資料(1)



第95図 接合資料(2)

3 接合資料

接合は時間の制約上OB-Dについてのみ試みた。そのため、その他の石材についての接合資料を紹介するに至らなかった。

当遺跡ではVII層の遺物について、20個体分の資料が接合した。そのうちの15個体分について掲載した。個体はいずれもOB-D製である。

146は細石刃核の打面形成過程を示す資料である。細石刃核1点、打面形成剥片2点が接合している。1枚目の剥片の背面には自然面が残されており、この細石刃核が角礫の角の部分から厚手の剥片を剥離し、主剥離面を側面に利用して側方から連続する打面形成剥片を剥離した後細石刃を剥出したことがわかる。それぞれF、B、Cと異なるブロックから出土した資料の接合である。

147は礫皮面の残った剥片である。3つに割れている。スポールの可能性が高い。

148は折れた剥片2点の接合である。剥片の下部に背面からの細かい調整の跡が確認されその調整痕が剥片の主剥離面により切られているため、スキー状スポールの可能性が高い。

149も3つに折れたスキー状スポールの接合である。剥片の側縁に背面側からの調整が確認される。

150は3つに折れたスキー状スポールの接合である。セカンドスポールである。剥片は大きく反り、背面にファー

ストスポールの剥離痕が縦に走っている。細石刃核は片側側面が複数の剥離面でもう片側面は大剥離面で構成されたものであることがわかる。

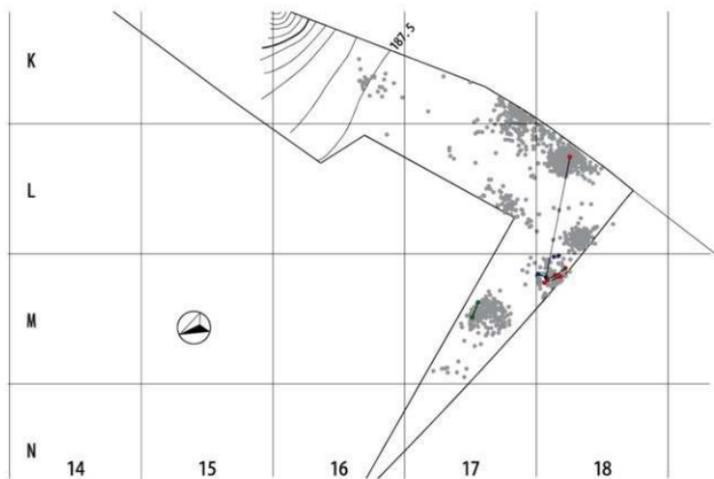
151はファーストスポールである。断面三角形で、背面の稜上には主に片側への入念な調整がみられる。打点部は欠損している。

152、153はそれぞれ剥片3枚の接合である。いずれの資料にも背面に礫皮面が確認される。細石刃核整形に関する資料と思われる。152は同一方向に連続する整形を施している。153は複数の方向から整形、調整を施していることを示すものである。いずれも打面は点状である。

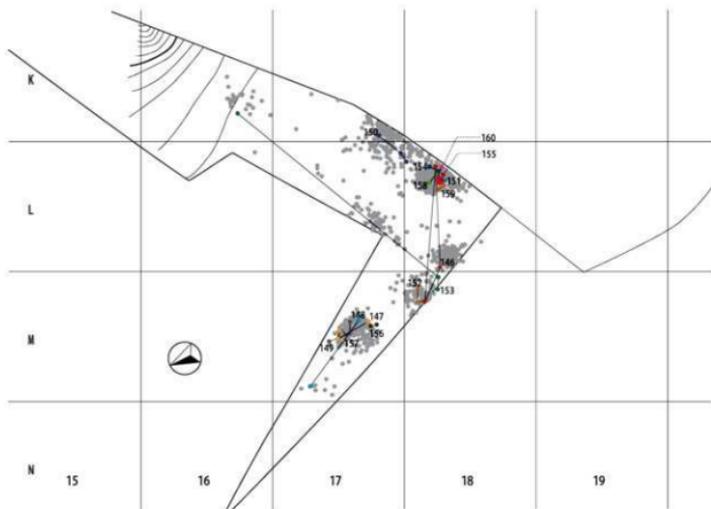
154は2枚に折れた剥片の接合である。

155~160はいずれも細石刃の接合である。いずれも同ブロック内における接合であり、剥出された細石刃が複数に切断されていた様子を示すものである。特に、155の細石刃は、破損状況から、腹面側を起点としている可能性が高く、細石刃の反りを利用して折りどっていたことを示すものである。

接合は全てのOB-D製黒曜石について試みたが、接合数が少なく、細石刃製作に至る全ての作業を解明するには至らなかった。これは、ブロックが、町道による削平のために完全に検出されなかったことによるものであろう。



第96図 接合資料分布図（1）



第97図 接合資料分布図（2）

表19 Ⅷ層ブロック別石材重量表 (単位: g)

ブロック	OB-A	OB-B	OB-C	OB-D	OB-E	硬質頁岩	瑪瑙	玉髓	アンパバ石	無商品質安山石	黒色安山石	合計
A	0.07	0.57		23.5								24.14
B	3.5			38.6								42.1
C	6.25	1.06	0.01	123.7								131.02
D	10.61	4.29		7.23		1.44	18.82					42.39
E	116.35	1.32		8.83						1.18		127.68
F	74.32	3.13	0.2	2.61								80.26
G	10.32	147.55	0.81									158.68
H	183.13	8.01	0.72		4.17							196.03
I	4.7	49.48	0.07		147.02							201.27
J	286.62	11.74			10.49		0.09				44.95	353.89
K	160.42					31.66	7.21			0.51		199.8
L	67.59					3.53					3.3	74.42
M	321.92	8.63		0.13		2.85	1.37		1.3		59.19	395.39
N	156.2	1.4									28.72	186.32
O	117.75	2.01	2.26	1.26							67.97	191.25
P	562.14	11.11	0.12		7.12	11.74				0.4	91.68	684.31
Q	410.51	17.26				0.47					17.66	445.9
R	426.72	3.19	0.01		0.08	2.77	2.34	0.43	1.73		166.86	604.13
S	24.36	0.47				0.43	0.55					25.81
T	2.35	23.71	0.68								0.41	27.15
外	67.09	7.19					1.01		10.46		14.6	100.35
合計	3012.92	302.12	4.88	205.86	168.88	54.89	31.39	0.43	13.49	2.09	495.34	4292.29

4 遺跡の地形と石器群の評価について

今回の調査区は、調査区中央部にはほぼ南北に走る谷により、地形的に西側(A～Kブロック)と東側(L～Tブロック)に分断されている。また、平成6年度の調査区(報告済み)により東西に隔てられている。

次に、石材利用状況としては、平成6年度の調査区を挟んで北側(A～Gブロック)がOB-D、OB-Cを中心に利用しており、南側(H～Tブロック)がOB-Aを中心に利用している状況である。

次に、石器群としては、谷を挟んで西側が細石刃石器群、東側が石核を中心とする石器群と様相を異にしている。更に、西側の細石刃石器群は、6年度調査区を挟んで技術に差が認められ、北側は福井型細石刃核、南側は野岳・休場型細石刃核と福井型細石刃核の様相を示している。

以上のように、当遺跡の石器群は、地形・石材利用状況・石器群の3つの様相からそれぞれ分類でき、これらをまとめると以下の通りである。

- ①西北九州産黒曜石を利用する福井型細石刃核石器群
- ②在地産黒曜石を利用する野岳・休場型細石刃核石器群と福井型細石刃核石器群
- ③小型の剥片を目的とした石核石器群



第98図 地形と石器群の評価

表20 掲載以外の細石刃一覧表 (1)

遺物番号	石材	ブロック	層1	層2	部位	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)
10747	OB-D	A	7	a	中間部	1.1	0.6	0.1
10756	OB-D	A	7	a	中間部	1	0.4	0.1
10760	OB-D	A	7	a	胴中部	0.95	0.35	0.1
10762	OB-D	A	7	a	中間部	0.7	0.4	0.1
10763	OB-D	A	7	a	胴部	0.4	0.4	0.1
10764	OB-D	A	7	a	胴部	1	0.65	0.1
10768	OB-D	A	7	a	中間部	0.7	0.4	0.1
10776	OB-D	A	7	a	中間部	1.05	0.4	0.1
10788	OB-D	A	7	a	中間部	0.8	0.35	0.1
10791	OB-D	A	7	a	中間部	0.9	0.5	0.15
10793	OB-D	A	7	a	胴中部	1	0.5	0.1
10794	OB-D	A	7	a	中間部	0.5	0.35	0.15
10801	OB-D	A	7	a	中間部	0.75	0.5	0.2
10802	OB-D	A	7	a	中間部	-	-	-
10812	OB-D	A	7	a	中間部	-	-	-
10813	OB-D	A	7	a	中間部	0.9	0.5	0.1
10816	OB-D	A	7	a	胴中部	0.85	0.4	0.15
10817	OB-D	A	7	a	胴部	0.7	0.5	0.1
10841	OB-D	A	7	a	中間部	0.6	0.05	0.15
10853	OB-D	A	7	a	中間部	1.3	0.4	0.2
10856	OB-D	A	7	a	胴中部	0.9	0.3	0.1
10858	OB-D	A	7	a	中間部	1.1	0.4	0.1
10862	OB-D	A	7	a	定形	1.6	0.55	0.25
10865	OB-D	A	7	a	中間部	0.5	0.2	0.05
10888	OB-D	A	7	a	胴部	1.15	0.85	0.2
11181	OB-D	A	7	a	中間部	0.65	0.5	0.15
11182	OB-D	A	7	a	中間部	-	-	-
11183	OB-D	A	7	a	中間部	0.95	0.45	0.1
11186	OB-D	A	7	a	中間部	0.8	0.35	0.1
11197	OB-D	A	7	a	尾部	0.5	0.45	0.1
11202	OB-D	A	7	a	中間部	1.35	0.45	0.15
11207	OB-D	A	7	a	中間部	1.45	0.35	0.1
11214	OB-D	A	7	a	中間部	0.45	0.35	0.1
11233	OB-D	A	7	a	中間部	1.15	0.3	0.1
11276	OB-D	A	7	a	胴中部	1.1	0.45	0.1
11279	OB-D	A	7	a	中間部	0.8	0.4	0.1
11283	OB-D	A	7	a	胴中部	1.15	0.4	0.2
11299	OB-C	A	7	a	中間部	0.75	0.4	0.1
10650	OB-D	B	7	a	胴中部	1.3	0.45	0.1
10653	OB-D	B	7	a	中部	1.2	0.5	0.1
10663	OB-D	B	7	a	中部	1.05	0.25	0.15
10667	OB-D	B	7	a	尾部	0.75	0.35	0.1
10690	OB-D	B	7	a	中間部	1.1	0.55	0.15
10705	OB-D	B	7	a	中間部	0.65	0.2	0.1
10716	OB-D	B	7	a	中間部	0.6	0.5	0.1
10733	OB-D	B	7	a	中間部	-	-	-
10734	OB-D	B	7	a	中間部	1	0.55	0.1
10737	OB-D	B	7	a	中部	0.7	0.45	0.1
10738	OB-D	B	7	a	中間部	0.6	0.3	0.15
11072	OB-D	B	7	a	中部	-	-	-
11088	OB-D	B	7	a	胴中部	-	-	-
10133	OB-D	C	7	a	中間部	0.85	0.4	0.15

遺物番号	石材	ブロック	層1	層2	部位	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)
10138	OB-D	C	7	a	中部	-	-	-
10139	OB-D	C	7	a	胴中部	-	-	-
10140	OB-D	C	7	a	中間部	0.5	0.3	0.1
10149	OB-D	C	7	a	中部	0.8	0.35	0.1
10152	OB-D	C	7	a	中間部	0.45	0.4	0.1
10153	OB-D	C	7	a	中間部	0.75	0.35	0.1
10160	OB-D	C	7	a	中間部	-	-	-
10163	OB-D	C	7	a	中間部	0.8	0.4	0.1
10165	OB-D	C	7	a	定形	1.75	0.45	0.2
10175	OB-D	C	7	a	中間部	0.75	0.3	0.1
10177	OB-D	C	7	a	尾部	-	-	-
10185	OB-D	C	7	a	中間部	0.65	0.35	0.1
10187	OB-D	C	7	a	胴中部	1	0.4	0.15
10188	OB-D	C	7	a	中間部	0.85	0.45	0.1
10197	OB-D	C	7	a	中間部	1.15	0.45	0.1
10202	OB-D	C	7	a	中間部	0.6	0.4	0.1
10216	OB-D	C	7	a	中間部	1	0.5	0.3
10223	OB-D	C	7	a	胴中部	0.7	0.35	0.05
10226	OB-D	C	7	a	中間部	0.5	0.25	0.15
10241	OB-D	C	7	a	中部	0.85	0.3	0.1
10242	OB-D	C	7	a	中間部	1.1	0.35	0.1
10255	OB-D	C	7	a	胴中部	2	0.6	0.25
10264	OB-D	C	7	a	胴部	-	-	-
10264	OB-D	C	7	a	中間部	-	-	-
10273	OB-D	C	7	a	中間部	-	-	-
10281	OB-D	C	7	a	中間部	0.9	0.45	0.15
10283	OB-D	C	7	a	中間部	0.75	0.55	0.15
10289	OB-D	C	7	a	中間部	0.5	0.3	0.1
10290	OB-D	C	7	a	中間部	0.7	0.45	0.15
10291	OB-D	C	7	a	胴中部	1.1	0.4	0.1
10291	OB-D	C	7	a	尾部	0.7	0.45	0.1
10293	OB-D	C	7	a	中間部	0.55	0.4	0.1
10295	OB-D	C	7	a	中間部	0.7	0.35	0.1
10299	OB-D	C	7	a	中間部	0.95	0.3	0.15
10304	OB-D	C	7	a	中間部	-	-	-
10306	OB-D	C	7	a	中間部	0.7	0.3	0.1
10322	OB-D	C	7	a	胴中部	0.9	0.45	0.1
10343	OB-D	C	7	a	尾部	0.65	0.35	0.1
10346	OB-D	C	7	a	胴中部	1.05	0.45	0.15
10353	OB-D	C	7	a	胴中部	1.25	0.45	0.15
10354	OB-D	C	7	a	中間部	0.7	0.4	0.1
10360	OB-D	C	7	a	胴中部	1.1	0.55	0.1
10374	OB-D	C	7	a	胴中部	1.1	0.3	0.1
10377	OB-D	C	7	a	中間部	0.8	0.45	0.1
10913	OB-D	C	7	a	中間部	0.9	0.3	0.1
10919	OB-D	C	7	a	中間部	0.75	0.5	0.15
10923	OB-D	C	7	a	中間部	1.35	0.7	0.1
10930	OB-D	C	7	a	-	-	-	-
10934	OB-D	C	7	a	中間部	0.9	0.45	0.1
10935	OB-D	C	7	a	中間部	0.6	0.4	0.1
10943	OB-D	C	7	a	中間部	0.65	0.4	0.1
10944	OB-D	C	7	a	中部	0.85	0.35	0.1

表21 掲載以外の細石刃一覧表 (2)

遺物番号	石材	ブロック	層1	層2	部位	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)
10948	OB-D	C	7	a	中尾部	—	—	—
10949	OB-D	C	7	a	中間部	1.05	0.35	0.1
10981	OB-D	C	7	a	中尾部	1.2	0.35	0.15
10988	OB-D	C	7	a	中間部	0.9	0.3	0.1
10990	OB-D	C	7	a	尾部	0.7	0.3	0.1
11003	OB-D	C	7	a	頭中部	0.6	0.3	0.1
11007	OB-A	C	7	a	中尾部	0.9	0.2	0.1
11008	OB-D	C	7	a	頭中部	0.7	0.25	0.1
11012	OB-D	C	7	a	頭中部	1	0.5	0.1
11013	OB-D	C	7	a	中間部	0.95	0.35	0.1
11015	安山岩	C	7	a	—	—	—	—
11090	OB-D	C	7	a	中間部	0.7	0.4	0.15
11105	OB-D	C	7	a	中間部	1.1	0.55	0.15
11112	OB-D	C	7	a	頭部	0.75	0.45	0.1
11115	OB-D	C	7	a	尾部	—	—	—
11116	OB-D	C	7	a	中間部	0.85	0.6	0.15
11117	OB-D	C	7	a	中間部	0.6	0.3	0.1
11118	OB-D	C	7	a	尾部	—	—	—
11121	OB-D	C	7	a	中間部	0.9	0.4	0.1
11273	OB-D	C	7	a	中間部	0.55	0.25	0.05
10010	OB-D	D	7	a	中間部	0.5	0.2	0.1
10012	OB-D	D	7	a	頭部	0.6	0.55	0.1
10013	OB-D	D	7	a	尾部	—	—	—
10017	OB-D	D	7	a	頭中部	0.95	0.6	0.15
10020	OB-D	D	7	a	中間部	0.9	0.7	0.1
10021	OB-D	D	7	a	中間部	0.7	0.4	0.1
10024	OB-D	D	7	a	中間部	0.5	0.3	0.05
10991	OB-D	D	7	a	頭中部	1.05	0.6	0.15
10956	OB-D	E	7	a	中間部	1.6	0.38	0.21
10960	OB-D	E	7	a	中間部	0.7	0.45	0.15
10961	OB-D	E	7	a	頭中部	0.6	0.4	0.1
10964	OB-D	E	7	a	中間部	0.75	0.45	0.1
10991	OB-D	E	7	a	中間部	1.12	0.42	0.18
11017	OB-D	E	7	a	中間部	0.8	0.4	0.05
11018	OB-D	E	7	a	中間部	1.45	0.45	0.12
11020	OB-D	E	7	a	頭中部	0.85	0.25	0.1
11020	OB-D	E	7	a	中間部	—	—	—
11138	OB-D	E	7	a	中間部	0.6	0.4	0.1
11139	OB-D	E	7	a	—	0.9	0.4	0.1
10537	OB-D	F	7	a	中間部	0.5	0.5	0.1
10538	OB-D	F	7	a	中間部	—	—	—
10546	OB-D	F	7	a	中間部	1.2	0.5	0.15
11294	OB-C	F	7	a	中間部	0.7	0.35	0.05
11297	OB-C	F	7	a	中尾部	0.95	0.4	0.05
11305	OB-A	F	7	a	中間	0.9	0.85	0.3
10399	OB-D	G	7	a	頭中部	1.25	0.5	0.15
10453	OB-D	G	7	a	中間部	1.25	0.4	0.15
10458	OB-D	G	7	a	中間部	—	—	—
12465	OB-A	H	7	a	頭中部	1.55	0.6	0.2
12471	OB-C	H	7	a	宛形	1.05	0.3	0.05
12475	OB-A	H	7	a	中間	0.8	0.45	0.1
12482	OB-A	H	7	a	頭中部	1	0.45	0.15

遺物番号	石材	ブロック	層1	層2	部位	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)
12483	OB-C	H	7	a	頭中部	0.75	0.35	0.05
12489	OB-C	H	7	a	頭中部	0.85	0.4	0.05
12497	OB-A	H	7	a	宛形	1	0.2	0.05
12505	OB-A	H	7	a	頭中部	0.95	0.35	0.1
12507	OB-B	H	7	a	—	0.6	0.55	0.1
12529	OB-A	H	7	a	頭中部	0.9	0.6	0.1
12537	OB-A	H	7	a	頭中部	0.7	0.5	0.1
12542	OB-A	H	7	a	頭中部	1.1	0.5	0.15
12600	OB-A	H	7	a	頭中部	1	0.4	0.1
12605	OB-C	H	7	a	中間部	0.6	0.35	0.1
12608	OB-A	H	7	a	中尾部	0.8	0.4	0.1
12611	OB-A	H	7	a	中間	0.75	0.5	0.1
12622	OB-A	H	7	a	頭中部	1.15	0.4	0.1
12642	OB-C	H	7	a	頭中部	0.8	0.35	0.05
12651	OB-A	H	7	a	宛形	1.5	0.55	0.15
12652	OB-A	H	7	a	頭中部	0.85	0.5	0.15
12653	OB-A	H	7	a	頭中部	0.9	0.5	0.1
12657	OB-A	H	7	a	中尾部	0.75	0.35	0.1
12685	OB-C	H	7	a	中尾部	1.9	0.65	0.2
12688	OB-A	H	7	a	頭中部	0.8	0.4	0.1
13319	OB-A	H	7	a	中尾部	0.85	0.4	0.15
13321	OB-A	H	7	a	中間	0.6	0.55	0.1
13322	OB-C	H	7	a	頭中部	0.9	0.5	0.1
13325	OB-A	H	7	a	頭部	0.8	0.45	0.15
13342	OB-A	H	7	a	頭中部	0.95	0.35	0.1
13343	OB-A	H	7	a	頭部	0.7	0.5	0.15
13345	OB-A	H	7	a	宛形	1	0.45	0.15
13594	OB-C	H	7	a	宛形	2.15	0.35	0.1
13595	OB-A	H	7	a	宛形	1.2	0.4	0.15
13514	OB-A	H	7	a	中間	0.6	0.4	0.1
11714	OB-D	M	7	a	頭中部	1.15	0.55	0.28
12900	OB-B	N	7	a	頭中部	—	—	—
14497	OB-A	Q	7	a	頭部	0.75	0.4	0.1
15746	OB-A	Q	7	a	頭中部	0.9	0.35	0.1
14752	OB-A	R	7	a	宛形	0.8	0.5	0.1
16364	OB-A	R	7	a	中尾部	0.6	0.6	0.1
16668	OB-D	R	7	a	尾部	0.6	0.35	0.15
14601	OB-C	S	7	a	中間部	0.7	0.6	0.15

表22 ブロック別観察表(1)

ブロック	石材	区	規模 (m)	総数	割片 等	細石 方	細石 方	細石 方	ブレン ク	スプレ イバー	打再	二次加 工割片	石眼	石核	卵石	スボ ール	ナイフ 形石器	三稜尖 頭器	細石方 調整割片	磨面調整 のふる割片
A	OB-A			1	1															
	黒色安山岩			1	1															
	タンバク石			1	1															
	OB-D			218	158	48	2									10				
	頁岩			1						1										
B	OB-C			1																
	OB-A			2	2															
	OB-D			109	92	16										1				
C	安山岩			1		1														
	OB-A			11	9	1														
	黒色安山岩			6	6															
	OB-B			7	7															
	OB-D			378	280	91	2						1			4				
D	OB-C			1	1															
	OB-A			3	3															
	黒色安山岩			1	1															
	OB-B			3	3															
	OB-D			26	7	16											3			
E	硬質頁岩			1	1															
	OB-A			46	45							1								
	OB-B			3	3															
	OB-D			27	11		2						13						1	
	無珉品質安山岩			1	1													1		
F	OB-A			209	202	6	1													
	OB-B			4	4															
	OB-C			4	2	2														
	OB-D			8	2	4	1				1									
G	OB-A			11	10															
	黒色安山岩			1	1															
	OB-B			187	186							1								
	OB-D			17	10	3	1									3				
	OB-C			2	1	1														
H	OB-A			339	295	37	6								1					
	頁岩			1						1										
	黒色安山岩			1	1															
	OB-B			8	17	1														
	OB-E			2	2															
I	OB-C			26	6	20														
	OB-A			6	6															
	OB-B			62	62															
	OB-E			63	63															
	OB-C			1	1															
J	OB-A			208	205		1	1												1
	OB-B			32	32															
	OB-E			5	4					4										
	黒色安山岩			45	45															
K	瑪瑙			1	1															
	OB-A			102	102															
	硬質頁岩			14	12										1					1
	黒色安山岩			1	1															
	無珉品質安山岩			1	1															
L	瑪瑙			4	4															
	OB-A			40	38										1					1
	硬質頁岩			2	2															
	黒色安山岩			5	5															

表23 ブロック別観察表(2)

ブロック	石材	区	規模 (m)	総数	割片 等	細石 方	細石 方核	ブラ ンク	スレ イパー	打再	二次加 工割片	石眼	石核	卵石	スボ ール	ナイフ 形石	三稜尖 頭物	細石方核 調整割片	他種調整 のふる割片
M	OB-A			376	372			1			1		2						
	黒色安山岩			54	54														
	OB-B			5	5														
	タンバク石			10	10														
	硬質頁岩			4	4														
	瑪瑙			11	11														
N	OB-A			144	143									1					
	OB-B			8	7	1													
	黒色安山岩			14	14														
O	OB-A			99	95									3					1
	黒色安山岩			85	85														
	OB-B			8	8														
	OB-D			1	1														
	硬質頁岩			5	5														
P	OB-C			3	2								1						
	OB-A			590	578				2				10						
	OB-B			13	11									2					
	OB-E			9	9														
	OB-D			3	3														
	OB-C			1	1														
	硬質頁岩			9	8									1					
黒色安山岩			71	68									3						
	無珉晶質安山岩			1	1														
Q	OB-A			950	941	2	1	1					5						
	硬質頁岩			2	1														1
	黒色安山岩			30	30														
	OB-B			63	63														
	OB-D			2	2														
R	OB-A			1520	1508	3		2			1		6						
	頁岩			1															1
	黒色安山岩			732	731	1													
	OB-B			29	29														
	タンバク石			3	3														
	OB-E			2	2														
	OB-D			3	2	1													
	OB-C			1	1														
	玉髓			1	1														
	硬質頁岩			9	9														
		瑪瑙			5	5													
S	OB-A			62	61		1												
	OB-B			3	3														
	硬質頁岩			1	1														
	OB-C			1	1	1													
	瑪瑙			1	1														
T	OB-A			7	4	2			1										
	黒色安山岩			1	1														
	OB-B			22	22														
	OB-D			1	1														
	OB-C			7	4	3													
ブロック外	OB-A			27	2														
	黒色安山岩			5	5														
	OB-B			7	7														
	タンバク石			1	1														
	OB-D			9	8		1												
	砂岩			1															1
	瑪瑙			1	1														
	チャート			1								1							
	砂岩			1															

表24 実測石器観察表(1)

図 番号	遺物 番号	X座標(m)	Y座標(m)	Z座標(m)	石 材	層1	層2	器 種	部位	ブロック	接合	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)
	1	11369	29.479	160.898	186.919	OB-A	8	c	ナイフ形石器	-	-	2.73	1.91	0.75	2.43
	2	12086	66.596	174.758	184.337	OB-B	8	b	ナイフ形石器	-	-	3.4	1.48	0.8	3.99
	3	11345	30.55	159.477	186.925	OB-B	8	c	三稜尖頭器	-	-	3.2	2.5	1.6	7.64
	4	11366	29.759	161.898	186.909	硬質頁岩	8	c	三稜尖頭器	-	-	5.5	1.5	1.05	7.58
	5	17150	68.494	130.604	186.700	砂岩	8	c	卵石	-	-	4.8	2.4	1.4	23.4
	6	10834	15.957	167.329	187.345	OB-D	7	a	礫石片核	-	A	2.2	1.7	2.6	9.47
	7	10831	15.689	166.884	187.387	OB-D	7	a	礫石片核	-	A	2.19	1.22	1.11	3.31
	8	10899	14.651	165.99	187.367	OB-D	7	a	スズール	-	A	2.65	1.3	0.45	1.35
	9	10779	15.49	165.691	187.388	OB-D	7	a	スズール	-	A	4.7	1.4	0.7	5.28
	10	10825	15.779	166.329	187.407	OB-D	7	a	礫石片	頭中部	A	2.1	0.5	0.25	0.23
	11	10753	16.699	166.181	187.405	OB-D	7	a	礫石片	頭中部	A	1.45	0.55	0.17	0.11
	12	11275	15.163	165.481	187.361	OB-D	7	a	礫石片	頭中部	A	1.4	0.55	0.22	0.16
	13	10649	19.481	170.679	187.440	OB-D	7	a	礫石片	頭中部	B	1.4	0.45	0.15	0.1
	14	10843	15.534	166.614	187.393	OB-D	7	a	礫石片	頭中部	A	1.8	0.75	0.22	0.24
	15	10810	14.396	165.588	187.358	OB-D	7	a	礫石片	頭中部	A	1.4	0.5	0.2	0.14
	16	10811	14.505	165.298	187.391	OB-D	7	a	礫石片	頭中部	A	1.6	0.55	0.2	0.17
	17	11079	18.617	172.554	187.399	OB-D	7	a	礫石片	頭中部	B	1.45	0.4	0.15	0.15
	18	10648	19.607	170.567	187.459	OB-D	7	a	礫石片	頭中部	B	2.5	0.4	0.2	0.21
	19	10893	11.243	163.262	187.376	頁岩	7	a	スズール	-	A	11.34	4.64	1.65	90.25
	20	10959	27.125	172.559	187.444	OB-D	7	a	スズール	-	C	6.1	1.4	0.85	4.35
	21	10222	27.757	172.624	187.475	OB-D	7	a	礫石片核	-	C	3.15	1.58	2.55	13.22
	22	10224	27.673	172.67	187.444	OB-D	7	a	礫石片核	-	C	2.9	1	1.7	4.07
	23	10215	27.703	172.281	187.474	OB-C	7	a	石鏟	-	C	1.6	1.3	0.45	0.67
	24	10976	27.686	172.897	187.432	OB-D	7	a	スズール	-	C	3.4	0.6	0.4	0.4
	25	10324	27.484	173.439	187.489	OB-C	7	a	礫石片	頭中部	C	0.9	0.55	0.16	
	26	10326	27.545	173.319	187.482	OB-D	7	a	礫石片	頭中部	C	1.5	0.5	0.18	0.09
	27	11605	27.04	173.5	187.442	OB-D	7	a	礫石片	頭中部	C	1.35	0.44	0.18	0.1
	28	10876	14.845	167.353	187.382	OB-D	7	a	礫石片	頭中部	A	1.38	0.52	0.12	0.12
	29	10909	27.71	171.933	187.430	OB-D	7	a	礫石片	頭中部	C	1.45	0.5	0.15	0.07
	30	10199	27.554	171.872	187.463	OB-D	7	a	礫石片	頭中部	C	1.55	0.55	0.18	0.18
	31	10372	26.57	174.255	187.531	OB-D	7	a	礫石片	頭中部	C	1.65	0.5	0.15	0.12
	32	10186	27.097	171.608	187.471	OB-D	7	a	礫石片	頭中部	C	1.35	0.6	0.22	0.22
	33	10926	26.445	171.67	187.433	OB-D	7	a	礫石片	頭中部	C	1.2	0.7	0.15	0.11
	34	10303	26.602	173.38	187.470	OB-D	7	a	礫石片	頭中部	C	1.4	0.5	0.3	0.11
	35	10911	27.467	171.18	187.451	OB-D	7	a	礫石片	頭中部	C	1.15	0.4	0.15	0.07
	36	10220	27.839	172.585	187.480	OB-D	7	a	礫石片	頭中部	C	1.45	0.65	0.15	0.17
	37	10005	33.282	156.564	187.438	OB-D	7	a	スズール	-	D	2.5	0.4	0.3	0.18
	38	10025	33.114	159.187	187.494	OB-D	7	a	スズール	-	D	2.3	0.4	0.4	0.22
	39	10011	33.261	157.08	187.507	OB-D	7	a	礫石片	突起	D	1.83	0.45	0.18	0.18
	40	10016	33.552	157.692	187.461	OB-D	7	a	礫石片	頭中部	D	1	0.6	0.18	0.09
	41	10014	33.366	157.296	187.425	OB-D	7	a	礫石片	頭中部	D	1.3	0.62	0.2	0.11
	42	10003	34.967	156.544	187.394	OB-D	7	a	礫石片	頭部	D	1.15	0.75	0.2	0.1
	43	10004	34.198	156.65	187.445	OB-D	7	a	礫石片	頭部	D	2.3	0.8	0.35	
	44	10023	33.404	158.437	187.531	OB-D	7	a	礫石片	頭中部	D	1.3	0.5	0.18	0.12
	45	10902	32.025	159.839	187.450	OB-D	7	a	礫石片	頭中部	D	1.38	0.7	0.2	0.15
	46	10022	32.848	158.132	187.405	OB-D	7	a	礫石片	頭中部	D	1.45	0.5	0.2	
	47	10058	24.709	167.342	187.417	OB-D	7	a	礫石片核	-	E	2.6	1.61	1.25	5.1
	48	11025	24.332	167.795	187.378	OB-D	7	a	礫石片核	-	E	2.7	1.4	1.4	3.42
	49	10071	23.737	167.063	187.448	OB-D	7	a	礫石片核調整器片	-	E	2.1	1.2	0.3	
	50	10089	23.55	167.984	187.400	OB-D	7	a	礫石片	頭中部	E	2.45	0.55	0.25	
	51	10057	25.196	167.478	187.447	OB-D	7	a	礫石片	頭中部	E	1.75	0.65	0.15	
	52	11319	20.321	172.716	187.281	OB-D	7	a	礫石片核	-	F	4.0	3.7	1.8	22.12
	53	10529	22.725	173.381	187.343	OB-D	7	a	打面片断片	-	F	2.2	1.43	0.57	1.53
	54	11047	21.044	173.144	187.369	OB-A	7	a	礫石片核	-	F	1.32	2.03	1.4	3.18
	55	10529	22.725	173.381	187.342	OB-A	7	a	礫石片	頭中部	F	2.4	0.7	0.35	0.54
	56	10530	22.337	173.18	187.333	OB-A	7	a	礫石片	頭中部	F	1.55	0.65	0.1	0.18
	57	10637	21.703	174.139	187.441	OB-A	7	a	礫石片	頭部	F	0.9	0.7	0.1	0.13
	58	11316	21.391	172.217	187.305	OB-A	7	a	礫石片	頭部	F	0.9	0.65	0.15	0.11
	59	11070	21.413	173.349	187.327	OB-A	7	a	礫石片	頭中部	F	1.25	0.7	0.15	0.17
	60	10587	20.812	173.142	187.416	OB-A	7	a	礫石片	頭部	F	1.1	0.8	0.15	0.18
	61	10961	33.175	164.975	187.345	OB-D	7	a	礫石片核	-	G	2.1	1.3	1.5	4.13
	62	10514	30.373	168.944	187.424	OB-C	7	a	礫石片	頭中部	G	0.7	0.45	0.15	
	63	10397	28.429	170.179	187.494	OB-D	7	a	スズール	-	G	2.81	1.11	0.6	-
	64	10444	29.093	169.734	187.445	OB-D	7	a	スズール	-	G	2.6	1.2	0.55	-
	65	10447	29.422	169.802	187.420	OB-A	7	a	三稜尖頭器	-	G	3.75	1.6	1.4	6.53
	66	12567	51.403	185.212	187.668	OB-A	7	a	礫石片核	-	H	2.21	1.62	1.44	4.92
	67	12723	47.085	184.701	187.612	OB-A	7	a	礫石片核	-	H	1.91	1.68	1.95	9.96
	68	12727	46.452	185.011	187.561	OB-A	7	a	礫石片核	-	H	1.85	1.73	1.85	5.26
	69	12632	51.396	185.322	187.583	OB-A	7	b	礫石片核	-	H	2.05	2.1	2.3	9.32

表25 実測石器観察表(2)

図 番号	遺物 番号	X座標(m)	Y座標(m)	Z座標(m)	石 材	層1	層2	器 種	部位	ブロッケ	接合	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)
70	12619	50.863	185.239	187.674	OB-A	7	a	細石刃核	-	H	-	2.8	1.35	1.85	5.42
71	12594	50.662	184.493	187.659	OB-A	7	a	細石刃核	-	H	-	2.59	1.36	1.84	4.14
72	12749	45.121	185.226	187.563	OB-C	7	a	細石刃	完形	H	-	1.7	0.55	0.2	0.18
73	12628	51.179	185.564	187.655	OB-A	7	a	細石刃	完形	H	-	1.7	0.6	0.15	0.19
74	12522	51.784	184.978	187.659	OB-A	7	a	細石刃	完形	H	-	2.1	0.65	0.1	0.22
75	12590	50.346	184.174	187.641	OB-A	7	a	細石刃	完形	H	-	1.4	0.45	0.15	0.11
76	12643	52.785	185.006	187.604	OB-A	7	a	細石刃	頭中部	H	-	1.3	0.6	0.1	0.14
77	13341	51.78	185.603	187.649	OB-A	7	a	細石刃	頭中部	H	-	1.6	0.7	0.2	0.2
78	12635	51.954	185.293	187.651	OB-C	7	a	細石刃	頭中部	H	-	1.5	0.6	0.1	0.18
79	12599	52.444	185.904	187.624	OB-A	7	a	細石刃	頭中部	H	-	1.55	0.65	0.15	0.18
80	12561	51.274	185.36	187.645	OB-A	7	a	細石刃	頭中部	H	-	1	0.6	0.1	0.06
81	12603	50.08	184.622	187.674	OB-A	7	a	細石刃	頭中部	H	-	1.2	0.65	0.1	0.13
82	13328	52.536	185.91	187.582	OB-A	7	a	細石刃	頭中部	H	-	1.1	0.45	0.1	0.06
83	12645	51.684	185.77	187.616	OB-C	7	a	細石刃	頭中部	H	-	1	0.55	0.1	0.08
84	13378	49.859	183.941	187.644	OB-C	7	a	細石刃	頭中部	H	-	1.2	0.45	0.15	0.08
85	12466	52.203	185.044	187.650	OB-C	7	a	細石刃	頭中部	H	-	1	0.4	0.1	0.05
86	12538	51.819	185.438	187.623	OB-C	7	a	細石刃	頭中部	H	-	1.2	0.3	0.1	0.04
87	12849	51.582	185.947	187.597	OB-C	7	a	細石刃	頭中部	H	-	1.1	0.5	0.1	0.05
88	13332	52.006	185.737	187.539	OB-C	7	a	細石刃	頭中部	H	-	2.05	0.38	0.16	0.11
89	12679	49.253	184.108	187.655	OB-C	7	a	細石刃	中間部	H	-	1.5	0.45	0.1	0.09
90	12481	52.239	185.287	187.607	OB-A	7	a	細石刃	中間部	H	-	1.15	0.6	0.15	0.11
91	12487	52.109	185.552	187.657	OB-A	7	a	細石刃	中間部	H	-	0.75	0.5	0.1	0.05
92	12666	49.756	183.696	187.653	OB-C	7	a	細石刃	中尾部	H	-	1.6	0.35	0.1	0.08
93	12485	52.127	185.46	187.643	OB-A	7	a	細石刃	中尾部	H	-	1.75	0.5	0.1	0.14
94	12527	51.885	185.165	187.654	OB-C	7	a	細石刃	中尾部	H	-	1.3	0.3	0.5	0.03
95	13339	51.67	185.497	187.640	OB-C	7	a	細石刃	中尾部	H	-	1.6	0.4	0.15	0.15
96	12601	50.273	184.732	187.628	OB-C	7	a	スクレイブレード	刃	J	-	11.8	6.4	3.2	182.3
97	12919	53.482	177.625	187.514	OB-A	7	a	細石刃核	-	J	-	3	1.4	1.5	4.18
98	12876	52.805	175.23	187.518	OB-E	7	a	スクレイブレード	-	J	-	2	2.65	1	5.69
99	13106	50.141	170.348	187.345	硬質頁岩	7	a	石核	-	K	-	2.9	3.6	2.8	27.45
100	11471	79.634	181.951	185.643	OB-A	7	a	石核	-	L	-	1.4	2.1	2.3	6.31
101	11445	70.406	177.114	185.507	OB-A	7	a	細石刃核	-	M	-	2.6	1.3	2.2	6.76
102	11681	69.918	182.488	185.275	OB-A	7	b	二次加工断片	-	M	-	3.3	1.95	0.9	4.03
103	11679	69.736	182.822	185.226	OB-A	7	b	石核	-	M	-	2.3	2.88	1.9	10.94
104	11867	67.2	178.65	185.125	OB-A	7	a	石核	-	M	-	2.7	3.2	1.7	13.36
105	12357	64.436	169.465	184.844	OB-A	7	b	石核	-	N	-	2.15	3.43	2.38	17.94
106	12258	61.275	165.297	184.785	OB-A	7	a	石核	-	O	-	2.9	3.21	2.67	21.39
107	12396	61.473	164.71	184.705	OB-A	7	b	石核	-	O	-	3.7	4.5	4.5	76.06
108	12191	60.043	162.896	184.796	OB-C	7	a	石核	-	O	-	5.7	4.6	2.7	40.91
109	17461	56.833	160.197	184.697	OB-A	7	a	石核	-	P	-	2.26	2	2.44	13.44
110	17684	57.075	157.922	184.611	OB-A	7	b	石核	-	P	-	2.7	1.9	2.5	11.2
111	17569	56.803	159.499	184.607	OB-A	7	a	石核	-	P	-	2.55	2.15	2.85	19.94
112	17370	56.484	158.87	184.726	OB-A	7	a	石核	-	P	-	2.35	2.85	2	13.43
113	13208	52.998	159.672	184.689	OB-B	7	a	石核	-	P	-	3.05	3.08	1.52	12.49
114	17323	54.85	157.355	184.650	OB-A	7	a	石核	-	P	-	2.9	2.55	1	6.78
115	13018	58.611	159.029	184.625	OB-A	7	b	石核	-	P	-	2	2.5	2.2	8.64
116	13033	58.638	159.647	184.622	黑色安山岩	7	b	石核	-	P	-	3.2	3.4	1.4	23.25
117	12435	58.423	160.217	184.577	黑色安山岩	7	b	石核	-	P	-	1.75	3.1	2.85	10.57
118	17596	56.136	157.246	184.612	硬質頁岩	7	a	石核	-	P	-	3.4	2.1	1.4	6.26
119	13060	58.299	159.373	184.748	OB-A	7	a	スクレイブレード	-	P	-	4.2	3	1.2	12.41
120	13059	58.359	159.332	184.762	OB-A	7	a	スクレイブレード	-	P	-	2.9	2.4	1.93	12.40
121	14509	62.448	145.165	186.902	OB-A	7	a	石核	-	Q	-	2.6	2.6	2.45	17.11
122	16238	62.927	145.584	186.787	OB-A	7	b	石核	-	Q	-	1.5	1.3	2.5	4.67
123	16561	63.093	144.521	186.762	OB-A	8	b	石核	-	Q	-	1.54	1.8	1.45	3.13
124	13774	62.325	147.352	186.741	OB-A	7	a	石核	-	Q	-	2.4	3.6	2.2	10.94
125	13603	59.277	144.796	186.709	OB-A	7	a	石核	-	Q	-	2.2	2.3	1.8	6.07
126	16457	61.816	148.029	186.859	OB-A	7	a	石核	-	Q	-	1.7	2.3	2	7.15
127	17185	69.393	146.34	187.120	OB-A	7	b	断片・砕片	-	R	-	1.6	2.4	2.6	12.89
128	14305	69.005	151.19	187.072	OB-A	7	a	石核	-	R	-	2.2	1.4	2.5	8.38
129	16155	70.066	146.918	187.210	OB-A	7	a	石核	-	R	-	2.05	2.15	1.5	6.66
130	15680	70.723	149.094	187.244	OB-A	7	b	石核	-	R	-	2.4	2.5	1.95	7.24
131	14299	66.315	150.526	186.918	OB-A	7	a	石核	-	R	-	1.8	2.45	2.1	7.54
132	15888	63.619	144.794	186.824	頁岩	7	b	ナイフ形石器	-	R	-	2.07	2.78	2.82	17.47
133	15251	68.497	146.597	187.267	OB-A	7	a	細石刃核	完形	R	-	1.25	0.7	1	0.12
134	16445	70.207	147.011	187.197	黑色安山岩	7	a	細石刃	頭部	R	-	10.5	0.7	0.15	0.15
135	14575	77.568	150.509	187.411	OB-A	7	a	細石刃核	-	S	-	2	1.9	3.3	11.87
136	17819	82.749	126.701	187.444	OB-A	7	a	スクレイブレード	-	T	-	2.95	5.35	1.4	20.71
137	17542	78.108	119.694	187.493	OB-C	7	a	細石刃	頭中部	T	-	1.7	0.5	0.15	0.19
138	17341	79.126	118.388	187.427	OB-C	7	a	細石刃	頭中部	T	-	1.2	0.3	0.15	0.08

表26 実測石器観察表(3)

図 番号	遺物 番号	X座標(m)	Y座標(m)	Z座標(m)	石 材	層1	層2	器 種	部位	ブロック	接合	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)
139	17555	80.426	133.716	187.375	OB-A	7	a	細石片	中部部	T	-	0.9	0.45	0.1	0.06
140	17821	79.973	125.658	187.401	OB-A	7	a	細石片	中部部	T	-	0.8	0.45	0.1	0.05
141	17554	80.57	128.661	187.442	OB-C	7	a	細石片	中部部	T	-	1.1	0.55	0.1	0.08
142	10754	17.092	166.393	187.353	OB-D	7	a	細石片核	-	ブロック	-	2.6	1.65	1.55	6.1
143	11433	76.149	176.686	186.525	OB-A	7	a	石核	-	ブロック	-	2.18	3.08	2.05	13.25
144	12336	69.341	162.383	186.074	OB-A	7	b	石核	-	ブロック	-	2.3	2.5	2.2	11.08
145	11426	87.046	172.315	187.330	砂岩	7	b	卵石	-	ブロック	-	4.3	3.8	2.8	62.72

表27 接合資料観察表

図 番号	遺物 番号	X座標(m)	Y座標(m)	Z座標(m)	石 材	層1	層2	器 種	部位	ブロック	接合	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)
146	11319	20.321	172.716	187.281	OB-D	7	a	細石片核	-	F	-	4.7	1.7	2.1	16.24
	10720	17.681	171.559	187.321	OB-D	7	a	スボール	-	B	接合部				
147	10357	28.072	172.377	187.455	OB-D	7	a	剥片・砕片	-	C	-	4.2	3.2	0.5	3.79
	10766	16.17	167.319	187.427	OB-D	7	a	スボール	-	A	-				
	10820	14.832	164.976	187.435	OB-D	7	a	スボール	-	A	接合部				
148	11205	15.424	165.096	187.389	OB-D	7	a	スボール	-	A	-	4.3	0.85	1.8	3.51
	10759	16.244	166.532	187.408	OB-D	7	a	スボール	-	A	接合部				
149	10891	11.171	162.843	187.390	OB-D	7	a	スボール	-	A	-	4.7	0.6	1.2	2.25
	10746	16.133	165.892	187.382	OB-D	7	a	スボール	-	A	-				
150	10803	15.242	165.864	187.441	OB-D	7	a	スボール	-	A	接合部	5.35	1.2	0.5	3.23
	10821	14.629	164.311	187.430	OB-D	7	a	スボール	-	A	-				
	10397	28.429	170.179	187.494	OB-D	7	a	スボール	-	G	-				
151	10444	29.093	169.734	187.445	OB-D	7	a	スボール	-	G	接合部	6.65	1.3	0.7	4.34
	10613	30.442	168.097	187.441	OB-D	7	a	スボール	-	G	-				
152	10011	27.014	173.112	187.491	OB-D	7	a	スボール	-	C	接合部	1.8	2.3	0.7	1.57
	10959	27.125	172.559	187.444	OB-D	7	a	スボール	-	C	-				
153	10865	18.681	171.034	187.396	OB-D	7	a	剥片・砕片	-	B	接合部	2.85	3.4	0.95	3.23
	10723	17.652	171.019	187.416	OB-D	7	a	剥片・砕片	-	B	-				
154	11084	17.786	171.683	187.375	OB-D	7	a	剥片・砕片	-	B	-	3.7	2.7	0.3	2.64
	10018	32.157	157.36	187.455	OB-D	7	a	剥片・砕片	-	D	-				
155	10701	19.56	172.581	187.449	OB-D	7	a	剥片・砕片	-	B	接合部	3.5	0.7	0.35	0.59
	10708	18.653	172.524	187.463	OB-D	7	a	剥片・砕片	-	B	-				
156	10416	28.049	171.933	187.464	OB-D	7	a	剥片・砕片	-	C	接合部	2.65	0.95	0.23	0.58
	10970	27.711	172.609	187.457	OB-D	7	a	剥片・砕片	-	C	-				
	10279	27.166	172.651	187.469	OB-D	7	a	細石片	尾部	C	-				
157	10288	26.829	172.679	187.453	OB-D	7	a	細石片	中部部	C	接合部	1.97	0.45	0.18	0.12
	10307	26.894	172.827	187.501	OB-D	7	a	細石片	中部部	C	-				
158	10335	27.448	172.947	187.491	OB-D	7	a	細石片	尾部	C	-	1.75	0.5	0.15	0.14
	10833	15.799	167.462	187.427	OB-D	7	a	細石片	中部部	A	接合部				
159	10836	15.909	167.92	187.415	OB-D	7	a	細石片	中部部	A	接合部	1.3	0.6	0.23	0.09
	11196	15.08	165.619	187.343	OB-D	7	a	細石片	中部部	A	-				
160	11278	15.439	165.302	187.360	OB-D	7	a	細石片	中部部	A	接合部	1.75	0.5	0.15	0.14
	10918	26.82	171.9	187.445	OB-D	7	a	細石片	中部部	C	接合部				
160	11095	27.542	172.432	187.396	OB-D	7	a	細石片	頭部	C	接合部	1.48	0.45	0.16	0.09
	10259	26.262	172.53	187.456	OB-D	7	a	細石片	中部部	C	-				
160	10992	26.599	172.956	187.453	OB-D	7	a	細石片	中部部	C	接合部	1.48	0.45	0.16	0.09
	10275	26.981	172.442	187.446	OB-D	7	a	細石片	頭部	C	-				
	10928	28.038	172.849	187.407	OB-D	7	a	細石片	中部部	C	接合部				

第4章 V・N・Ⅲ層の調査

第1節 概要

本遺跡の基本土層VI層（サツマ火山灰）直上のV層・IV層を中心に縄文時代早期の遺構・遺物が、Ⅲ層上部より縄文時代前期～晩期の遺構・遺物が出土している。アカホヤ火山灰はブロック状に堆積しⅢb層を形成する。

遺構の認定時期については、土坑と落し穴状遺構は、埋土状況を検討した。集石遺構に関しては、検出面を判断基準としている。しかし、詳細な時期認定は困難であり、層位別の区分となっている。

第2節 遺構（西区）

1 V・Ⅳ層の集石

集石遺構は、6基検出されている。縄文時代の集石遺構も、Ⅷ層の旧石器時代の分類方法で分類を行った。

I類礫群 人為的掘り込み遺構を伴う礫群で、礫の詰まり方でさらにA、B、Cに細分した。

I A類 掘り込み遺構を伴い、礫がしっかり詰まっている。

I B類 掘り込み遺構を伴い、礫が少ない。

I C類 掘り込み遺構を伴い、礫は0～数個。

Ⅱ類礫群 掘り込み遺構を検出できないが、礫の残存形状から掘り込み遺構が想定できる。

Ⅲ類礫群 礫の集中もない礫群で、礫の密粗でさらにA、Bに細分した。

ⅢA類 礫の中心が想定できる。

ⅢB類 散乱状態。

1号集石

L-17区で検出した。215cm×188cmの範囲に59個の礫が確認された。礫は主に砂岩と安山岩で、大部分の礫が被熱している。もろくて破砕しやすい礫も5、6個ある。V層上面から検出されはじめるが、主体部はV層下部にあり、しっかりと組まれている。北西方向に地形が低くなり、その方向に礫が拡散する傾向にある。(ⅢA類)

2号集石

L-17区で検出した。348cm×310cmの範囲に63個の礫が確認された。礫は安山岩、粘板岩、砂岩で、安山岩が多い。被熱し、赤化した礫が半数以上ある。礫は西側に比較的まとまり、東側に放射状に拡散している。(ⅢB類)

3号集石

K-16区で検出された。268cm×157cmの範囲に13個の礫が確認された。中心部の礫は被熱し赤化している。10cm程度の角礫を中心とし、断面観察から掘り込み遺構場が想定できる。(Ⅱ類)

4号集石

M-18区で検出し、208cm×78cmの範囲に9点の礫で構成する。礫は安山岩が中心で、大部分が被熱し赤化し、

小児頭大の礫と扁平で厚さ3センチ程度の礫を中心に構成されている。(ⅢA類)

5号集石

G-19区で検出し、135cm×130cmの範囲に9点の礫が確認された。礫はほとんどが8cm前後の安山岩である。(ⅢB類)

6号集石

H-19区で検出し、92cm×58cmの範囲に9個の礫が確認できた。直径10cm程度で厚さ2cm程度の扁平な礫で構成されている。(ⅢA類)

2 V層の土坑

1号土坑

G-17区のVI層で検出した。平面プランは、長軸158cm、短軸69cmの楕円形で、検出面からの深さは約53cmである。土坑内部は長軸の側面がえぐりとられ、短軸の断面は袋状を呈す。地形は南西方向が緩やかに低くなっているが、土坑は、その傾斜に沿った状態で存在し、床面もその傾斜に沿った形で掘り込まれている。埋土は基本的にV層の黒褐色土である。

3 Ⅲ層の土坑

1号土坑

H-5区で検出した。平面プランは、長軸163cm、短軸75cmの長楕円形で、検出面からの深さは約49cmである。埋土は基本的にⅢ層の黄褐色土であるが、やや暗い。部分的にアカホヤ火山灰のバミスが見られる。

2号土坑

H-5区で検出した。平面プランは、長軸122cm、短軸97cmの楕円形で、検出面からの深さは約40cmである。埋土は基本的にⅢ層の黄褐色土である。最下層の埋土は黒褐色土の一部に薩摩火山灰がある。

3号土坑

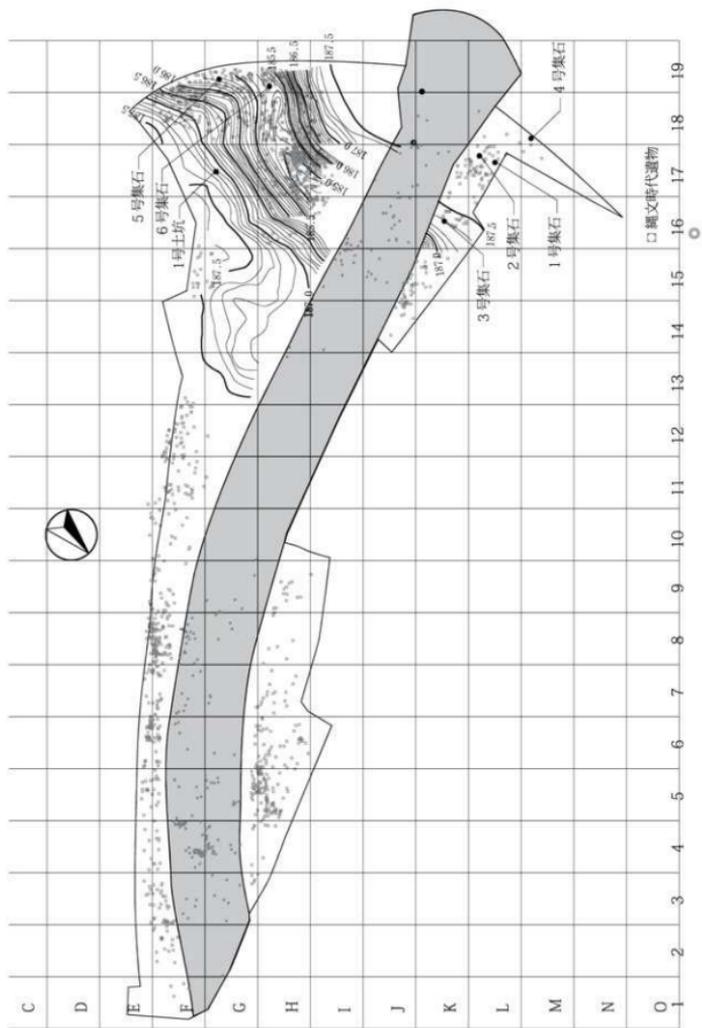
H-5区で検出した。平面プランは、長軸167cm、短軸97cmの楕円形で、検出面からの深さは約40cmである。埋土はⅢ層の黄褐色土であるが、部分的に黒いところがある。

4号土坑

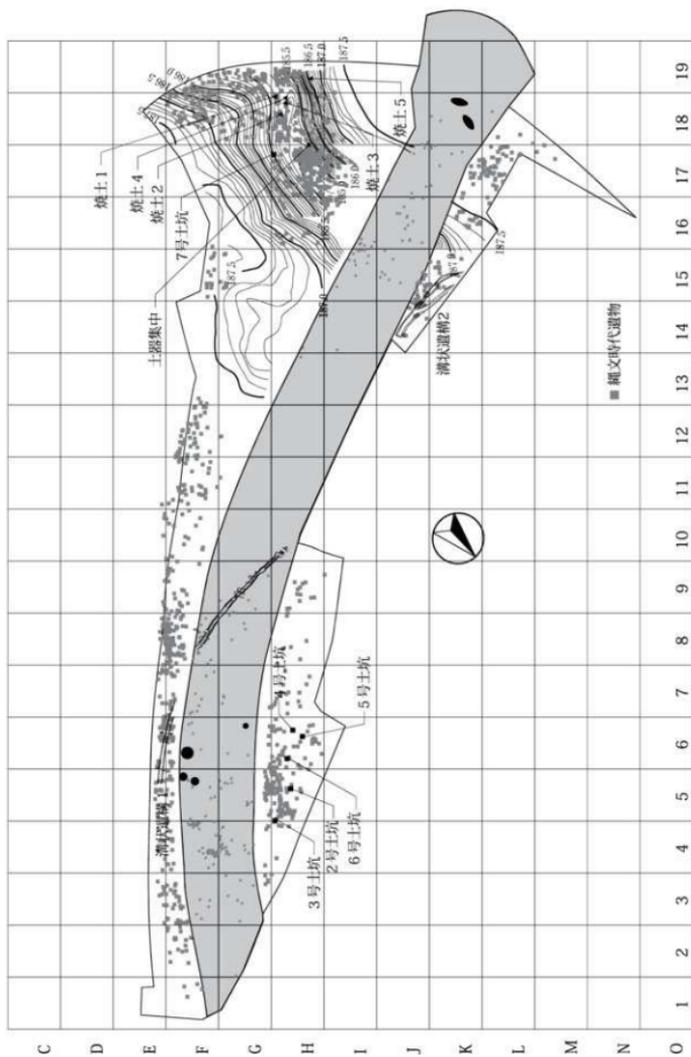
H-6区で検出した。平面プランは、長軸191cm、短軸97cmの楕円形で、検出面からの深さは約23cmである。埋土は基本的にⅢ層の黄褐色土であるが、やや暗い。中位から下位にかけてアカホヤ火山灰がブロック状に見られる。アカホヤバミスも上位から下位にかけて数は少ないが点在する。

5号土坑

H-6区で検出した。平面プランは、長軸182cm、短軸84cmの楕円形で、検出面からの深さは約45cmである。埋土はⅢ層の黄褐色土であるが、やや暗い。中位から下位にかけてアカホヤ火山灰がブロック状に見られる。アカホヤバミスも上位から下位にかけて数は少ないが点在する。



第99図 西区V・W層遺構配置図



第100図 西区 ■ 縄文時代遺物

6号土坑

H-6区で検出した。平面プランは、長軸180cm、短軸90cmの楕円形で、検出面からの深さは約28cmである。埋土は基本的にⅢ層の黄橙色土であるが、やや暗い。最下層の埋土は黒褐色土で一部に薩摩火山灰がある。

7号土坑

H-17区で検出した。平面プランは、長軸143cm、短軸75cmの楕円形で、検出面からの深さは46cmでV層まで掘り込んでいる。埋土はⅢ層の黄橙色土である。

4 Ⅲ層の溝状遺構

溝状遺構 1

E-5・6区～F-6・7区のⅢ層で検出した。検出

面での長さは約21m、幅は約80cm～100cmである。西側に行くにつれ、上部が削平されている。検出面からもっとも落ち込む部分で深さ約20cmである。埋土はⅡ層相当の黒色土とⅢ層相当の黄橙色土であり、レンズ状に堆積している。埋土中の遺物は縄文時代晩期の遺物がほとんどである。

溝状遺構 2

J-14区～K-15区のⅢ層で検出した。検出面での長さは約19m、幅は約50cm～200cmである。14区と15区の区境近くで二股に分かれている検出面からもっとも落ち込む部分で深さ約20cmである。埋土中の遺物は縄文時代晩期の遺物がほとんどである。

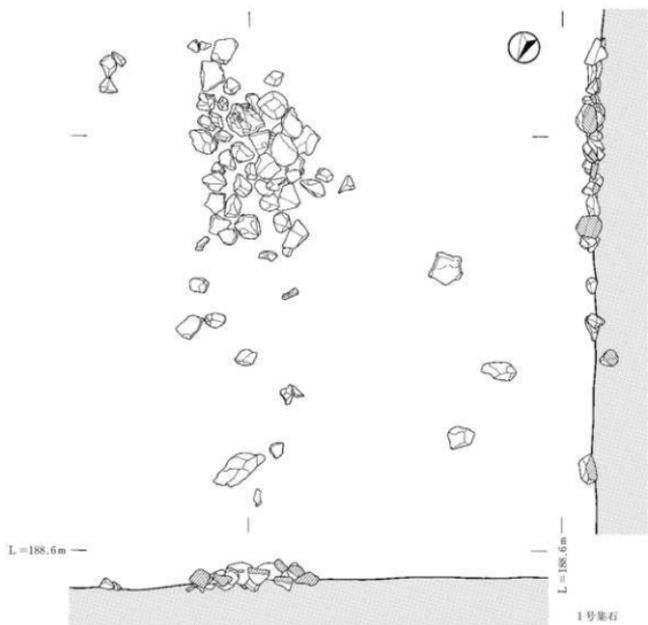


表28 V・Ⅳ層集石観察表(1)

報告書 No.	検出 No.	類型	総個数	大きさ		構造理			備考
				長径 (cm)	短径 (cm)	総重量 (g)	重量平均 値 (g)	炭化率 (%)	
1	101	ⅢA	39	215	188	-	-	-	H8-1



第101図 西区V・Ⅳ層遺構実測図(1)

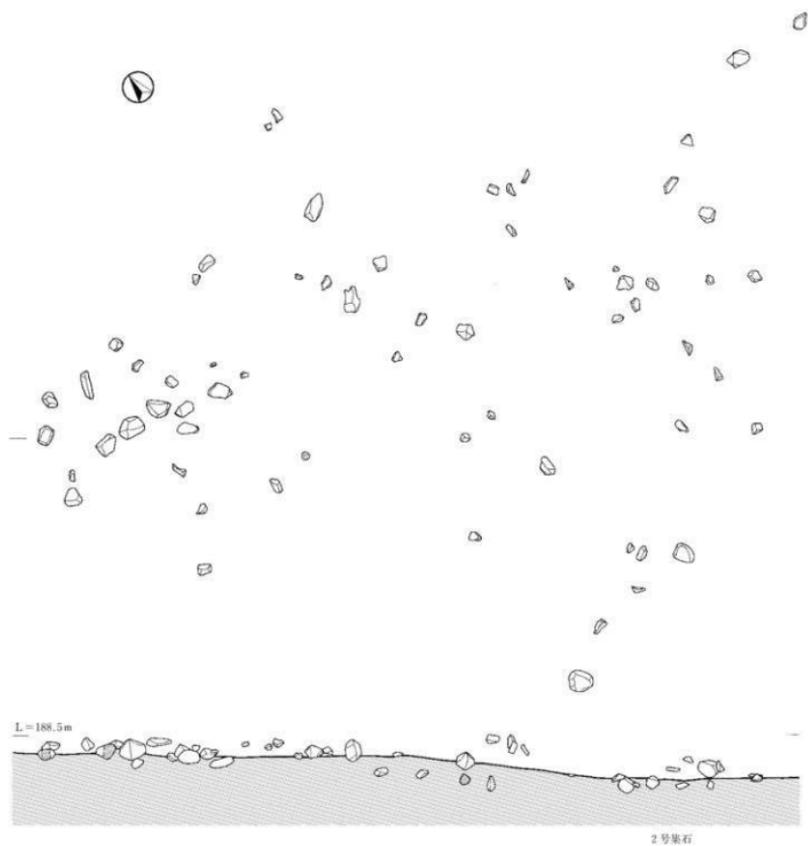
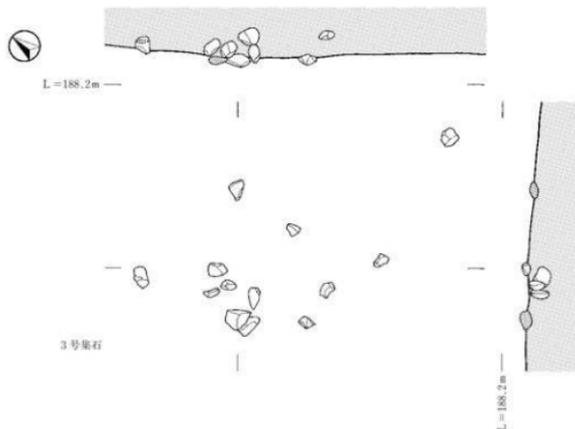


表29 V・N層集石観察表(2)

報告書 No	採回 No	類型	総個数	大きさ		組成率			備考
				長径 (cm)	短径 (cm)	総重量 (g)	重量平均 値(g)	被熱率 (%)	
2	102	III B	63	348	310	-	-	-	H8-2



第102図 西区V・N層遺構実測図(2)



溝状遺構1と溝状遺構2は、遺構配置図を検討すると2001年刊行『伊弉遺跡』で報告されている溝状遺構は喜んで北西から南西へつながることが想定される。

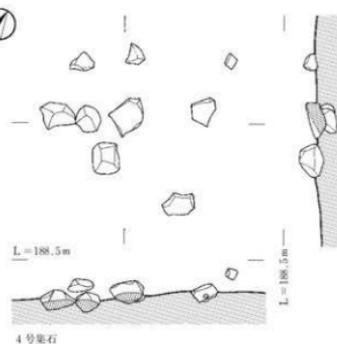
5 III層の焼土跡

H-18区のIII層上面で焼土跡1~4を検出した。それぞれ直径約50cm~100cmの広さを持ち、表面のみが焼け、掘り込みは認められない。

H-19区のIII層上面で焼土跡5を検出した。直径約100cmの広さを持つ。焼土の表面はやや硬化し、灰色の火山灰がブロック状に入る。

6 III層のビット状遺構

IV層で検出した。平面プランは直径約56cmの円形で、検出面からの深さは約118cmである。埋土はIII層の黄橙色土である。



第3節 遺構 (東区)

1 V層の集石

7号集石

C-7区で検出し、224cm×185cmの範囲に40個の礫が確認された。礫は大部分が安山岩であり、破砕している礫もある。断面観察から掘り込み遺構が想定できる。(II類)

表30 V・IV層集石観察表 (3)

報告書 No.	検出 No.	類型	総個数	大きさ		構成比		備考
				長径 (cm)	短径 (cm)	総重量 (g)	重量平均 径 (g) (%)	
3	103	II	13	268	157	-	-	H8-3
4	103	III A	9	208	78	-	-	H8-4

第103図 西区V・IV層遺構実測図 (3)

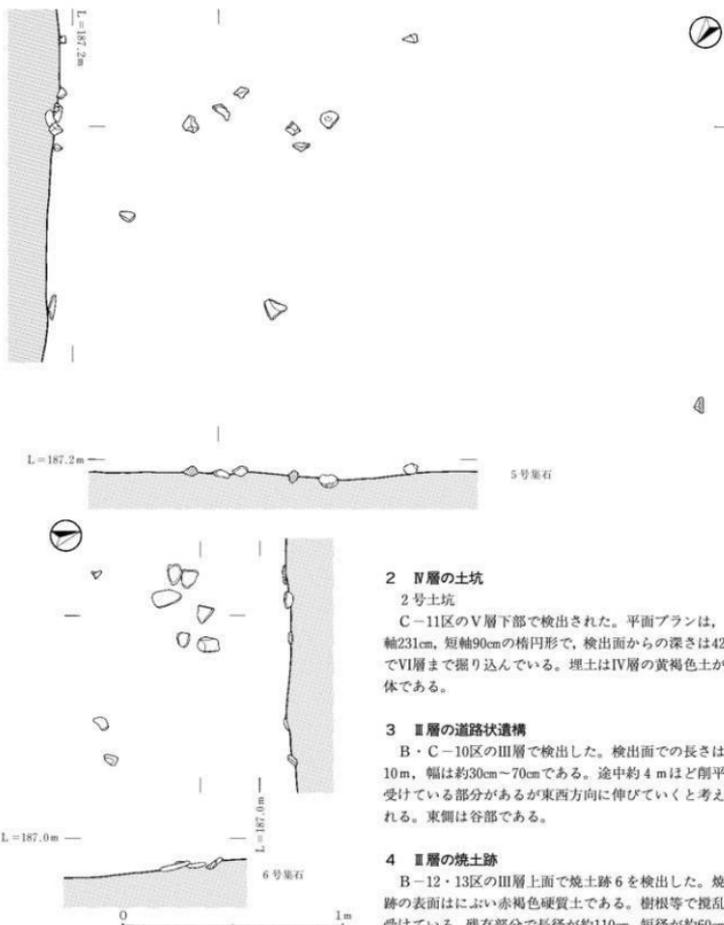


表31 V・IV層集石観察表(4)

報告書 No	採区 No	類型	総個数	大きさ		構成値			備考
				長径 (cm)	短径 (cm)	総重量 (g)	重量平均 値 (g)	焼熟率 (%)	
5	104	II	13	135	131	-	-	-	H8-5
6	104	III A	9	92	58	-	-	-	H8-6

第104図 西区V・IV層遺構実測図(4)

2 N層の土坑

2号土坑

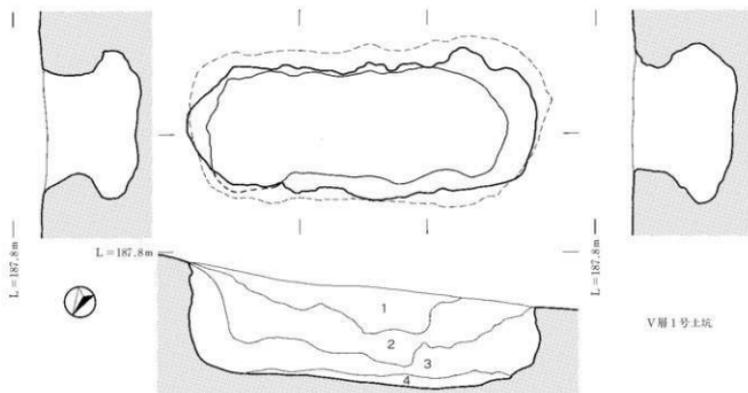
C-11区のV層下部で検出された。平面プランは、長軸231cm、短軸90cmの楕円形で、検出面からの深さは42cmでVI層まで掘り込んでいる。埋土はIV層の黄褐色土が主体である。

3 III層の道路状遺構

B・C-10区のIII層で検出した。検出面での長さは約10m、幅は約30cm~70cmである。途中約4mほど削平を受けている部分があるが東西方向に伸びていくと考えられる。東側は谷部である。

4 III層の焼土跡

B-12・13区のIII層上面で焼土跡6を検出した。焼土跡の表面はふい赤褐色硬質土である。樹根等で攪乱を受けている。残存部分で長径が約110cm、短径が約60cmある。底面も樹根等で攪乱を受けているので完掘することができなかったが埋土は約35cmほどある。炭化物を含む灰褐色の埋土に、約10cm~25cmの焼土塊が3箇所入る。

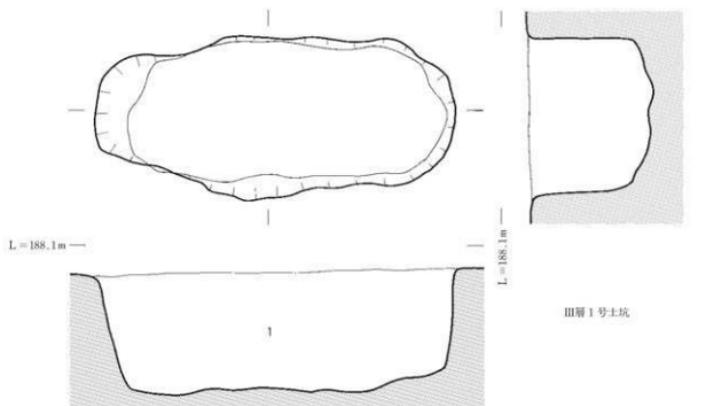


V層1号土坑

表32 V層土坑観察表

報告書 No	検回 No	上面長 (cm)	上面幅 (cm)	深さ (cm)	下面幅 (cm)	下面幅 (cm)	備考
1	105	138	69	53	137	53	H8-G-17

1	茶褐色土。直径2mm以下の白粒と直径5～10mmほどの黄色軽石を含む。
2	茶褐色土。1よりやや色が暗く、軽石を多く含む。直径1～5mm程度の黒い粒を含む。
3	茶褐色土。2より色が強い。橙色の軽石を含む。
4	明褐色粘質土。橙色の軽石(直径1～3mm)を含む粘質を帯びる。層上面の土が上層の土と混ざったものと考えられる。



III層1号土坑

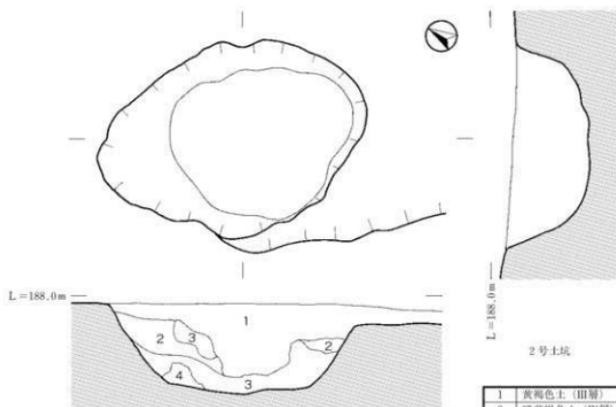
表33 III層土坑観察表(1)

報告書 No	検回 No	上面長 (cm)	上面幅 (cm)	深さ (cm)	下面幅 (cm)	下面幅 (cm)	備考
1	106	163	75	49	145	64	H8-H-5-1

1	黄橙色土(田層) アカホヤ火山灰が混ざる。
---	-----------------------

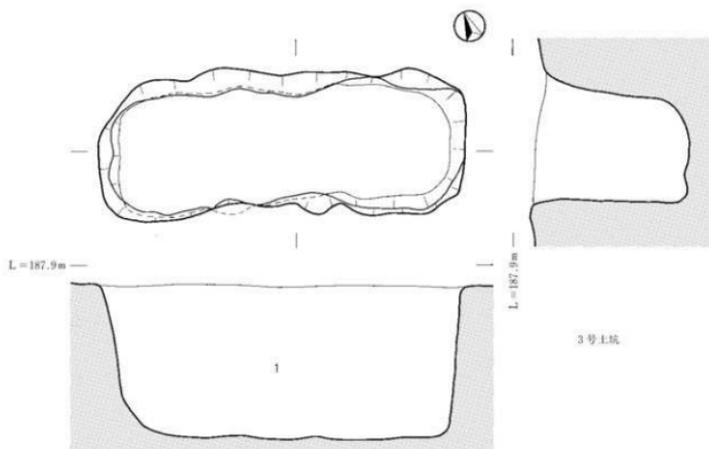


第105図 西区V・III層遺構実測図



2号土坑

1	黄褐色土 (田層)
2	暗黄褐色土 (IV層)
3	黑褐色土 (V層)
4	薄層火山灰 (VI層)



3号土坑

1 黄褐色土 (田層) 部分的に黒色土が混ざる。

表34 III層土坑観察表 (2)

報告書 No	検回 No	上面長 (cm)	上面幅 (cm)	深さ (cm)	下面幅 (cm)	下面長 (cm)	備考
2	106	122	97	40	83	69	H8-H-5-2
3	106	167	70	71	150	55	H8-H-5-3



第106図 西区III層遺構実測図 (1)

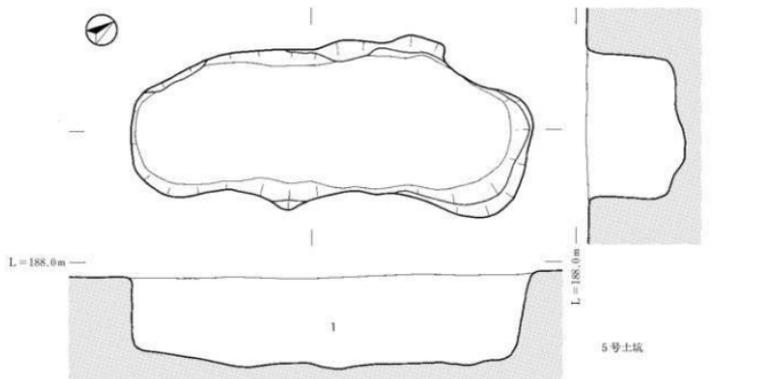
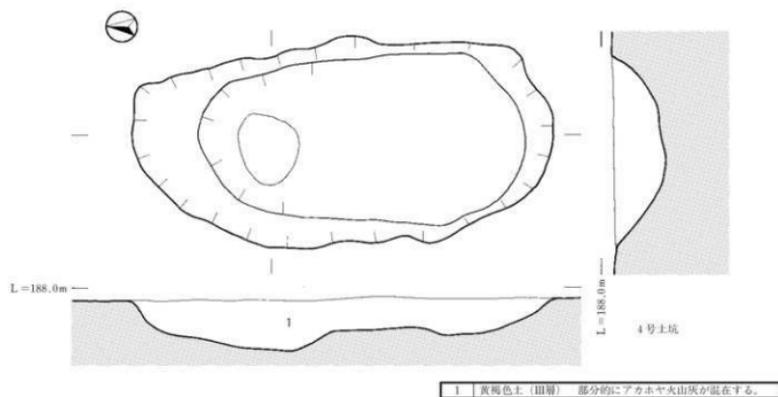


表35 III層土坑観察表(3)

報告書 No	検区 No	上面長 (cm)	上面幅 (cm)	深さ (cm)	下面幅 (cm)	下面幅 (cm)	備考
4	107	191	97	23	148	78	II8-H-6-1
5	107	182	84	45	170	61	II8-H-6-2

1 黄褐色土 (田層) 部分的にアカホヤ火山灰が混在する。



第107図 西区III層遺構実測図(2)

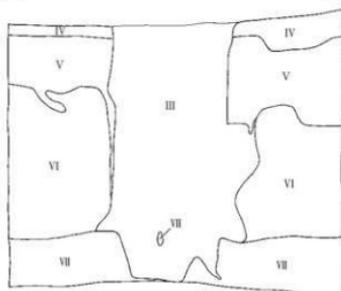
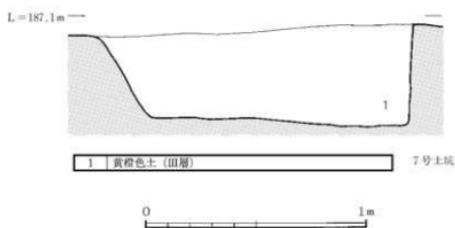
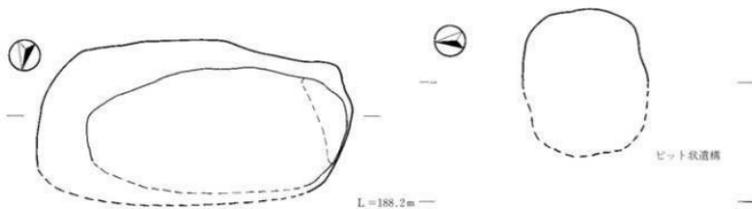
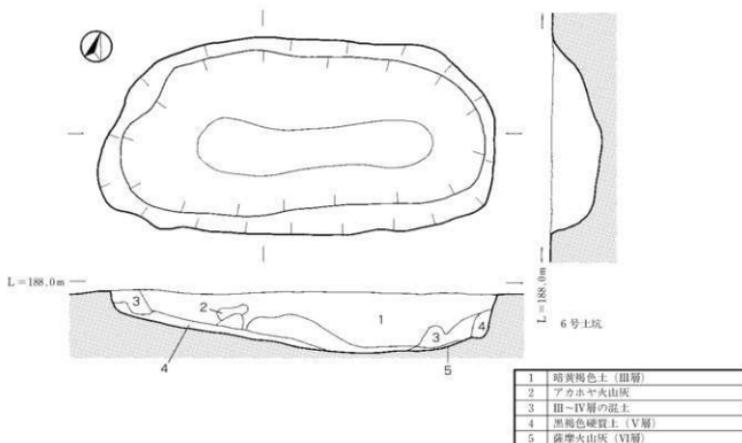


表36 III層土坑・ビット観察表

報告書 No.	埴田 No.	上面積 (cm)	上面幅 (cm)	深さ (cm)	下面幅 (cm)	下面幅 (cm)	備考
6	108	180	90	28	107	45	H8-H-6-3
7	108	143	75	46	118	57	H8-H-17
ビット	108	56	-	118	24	-	

第108図 西区II層遺構実測図(3)

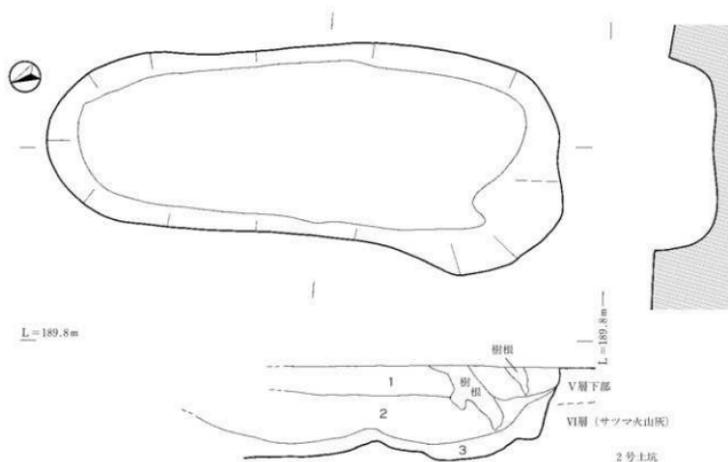


表37 V・V層土坑観察表

報告書 No	検体 No	上面長 (cm)	上面幅 (cm)	深さ (cm)	下面幅 (cm)	下面長 (cm)	備考
2	110	-	-	21	-	-	H14-1

1	暗茶褐色土 (V層+V層)	白色砂質土を含む。
2	黒褐色土 (V層)	1cm大の黄色パミスを含む。
3	黄褐色砂質土	薩摩火山灰層のパミスを多く含む。

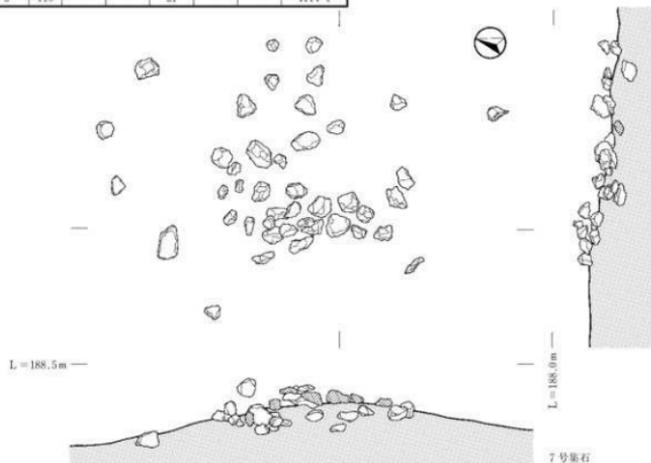
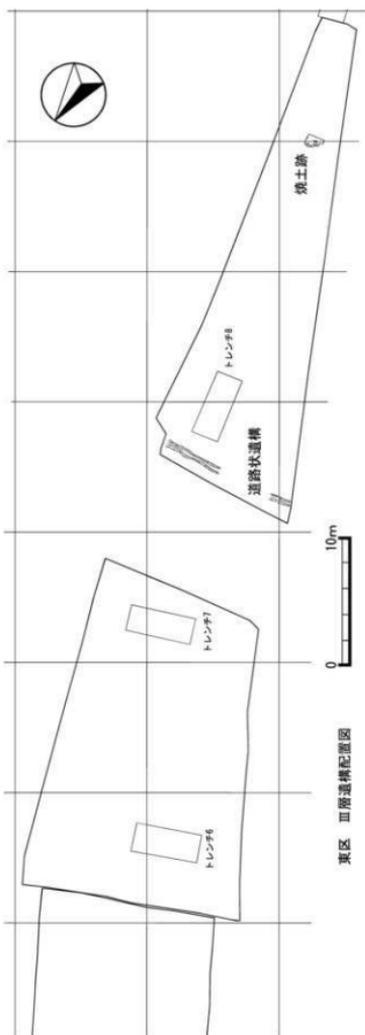
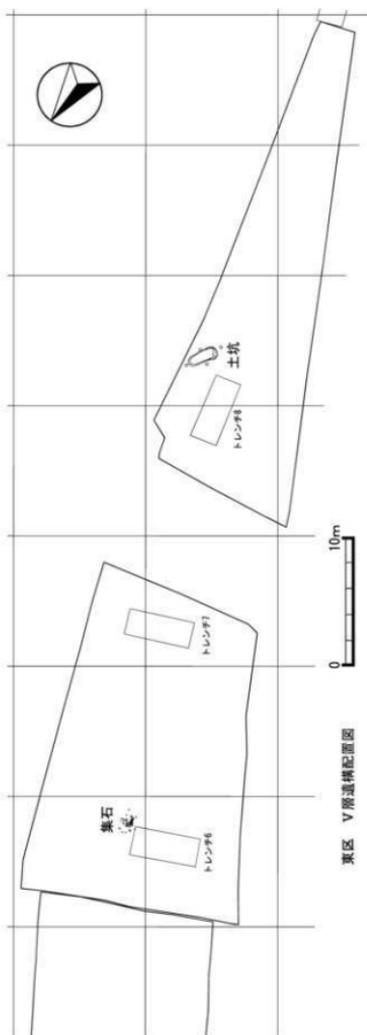


表38 V・V層集石観察表 (5)

報告書 No	検体 No	類型	総個数	大きさ		構成		備考	
				長さ (cm)	幅径 (cm)	総重量 (g)	重量平均 値 (g)		焼熟率 (%)
7	110	II	40	224	185	16936	445.68	-	H14



第110図 東区V・V層遺構実測図



第111図 東区 V・III階遺構配置図

戸塚遺跡縄文時代の土器

縄文時代の土器は、Ⅲ層からⅣⅤⅥⅦⅧ類土器（前期～晩期）が出土し、Ⅳ層からⅤ層にかけてⅠ類～Ⅲ類土器（早期）が出土する。

出土状況を見ると(第112図～第114図)、ほとんどの土器が西地区から出土し、東地区はⅣ層から5点出土しているだけである。西地区のⅣ層～Ⅴ層の出土状況は、F-18・19区～H-16～19区にかけてⅠ類～Ⅲ類の土器が集中して出土し、Ⅲc類土器がF-18区に集中する。Ⅲa層では、縄文時代前期の土器(Ⅳ類～Ⅵ類)10点が調査区全体に点在し、縄文時代後晩期の土器(Ⅶ類)は、E・F-3～10区とG・H-5～9区及びH・I-16区にそれぞれ類別、個体別に出土している。

Ⅳ・Ⅴ層出土土器

Ⅰ類土器は、貝殻文系円筒土器の一群である。

Ⅰa類 (1, 2)

2点とも口唇部内面に段を有し、尖り気味に残される口唇は波状に、それに続く口縁には貝殻復縁による縦方向の連続刺突文を持つ。器面調整は、内外面共に丁寧な仕上げである。岩板式土器

Ⅰb類 (3～7)

横位の貝殻条痕文を地文に持つもので、4・5は縦位の流水紋、底部は正円形をなす。永野～志風頭タイプ

Ⅰc類 (8～22)

胴部地紋に斜めの貝殻復縁文を持つ(8～10、12～16・18～22)と持たない(11・17)に細分され、前者が加栗山式土器、後者が小牧3Aタイプに相当する。なお、加栗山式土器の18・19はいわゆる角筒形である。

総じて器壁は薄く、内面調整はケズリとナデが施され、平坦で狭い口唇部は細かく刻まれ、口縁部には横方向の貝殻刺突線文が3～4条走り、その下に楔形の貼付文が施される。上記したように胴部では、地文である斜めの貝殻条痕文に縦方向の貝殻刺突線文が重ねられる。11・17では直接押し文で構成する。

Ⅰd類 (23～26)

胴部に貝殻による綾杉条痕を施すもので、口唇部は貝殻で刻み、器壁は厚くなる。石坂式土器

Ⅰe類 (27, 28)

Ⅰe類は、帰属不明なものを取り扱った。27の口唇部は、明瞭な稜を持ち、工具で刺突を2条走る。

Ⅱa類 (29～31)

山形の押型文を持つもので、小破片であることから傾き等は定かではない。

Ⅱb類 (32～35)

Ⅱb類の32は地紋の押型文に横位の沈線を施し、33は、平成13年度に報告されたNo343の土器と接合した。34は口唇部外面を工具でキザむ。

Ⅲ類土器

いわゆる塞ノ神式土器を一括し、円筒部に摺糸文を持つものをa・b類、貝殻施文をc類、その他をd類とした。

Ⅲa類 (36～38)

36・38は胴部上半部片で、沈線間に縦の摺糸文を密に施すが、類例は少ない。

Ⅲb類 (39～45)

ラッパ状に開く口縁部は貝殻復縁刺突で施し、胴部は沈線区間間に摺糸文を施す。B b式

Ⅲc類 (46～58)

46・47は同一個体の可能性が高く、48～58も同様である。口縁部には連続した貝殻刺突文を施し、砲弾状の胴部には沈線により並行線文を施す一群である。

Ⅲd類 (59～63)

Ⅲd類は、Ⅲ類の中で分類できないものを扱った。器面の施文が無く外面、内面ともにナデにより調整している。

Ⅳ類 (64～69)

壺式土器と目されるものを一括した。64は3条の隆帯文、65は鋭利な工具で連続する刺突文を描く。

Ⅴ類 (70～72)

曾畑式土器を一括し、72は、頸部から胴部へ短沈線で企圖文を構成している。

Ⅵ類 (73～75)

口縁部はやや内湾し、緩やかな波状口縁をなし、口縁部に沿う隆起線と縦方向の隆起線が確認できる。

Ⅶ類 (76～109)

縄文時代晩期の一群を一括し、深鉢形土器で口縁部が外反するものをa類、内湾ないし直行するものをb類とした。また、いわゆる精製浅鉢形土器をc類、半粗半精製鉢形土器をd類とした。

Ⅶa類 (77・85・90)

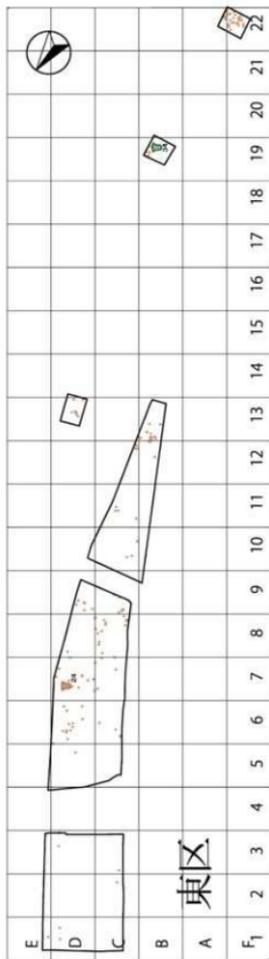
77・85は頸部で大きく外反し、外面は条痕、内面は条痕後ナデで仕上げる。90は小型の鉢である。

Ⅶb類 (76・78～84)

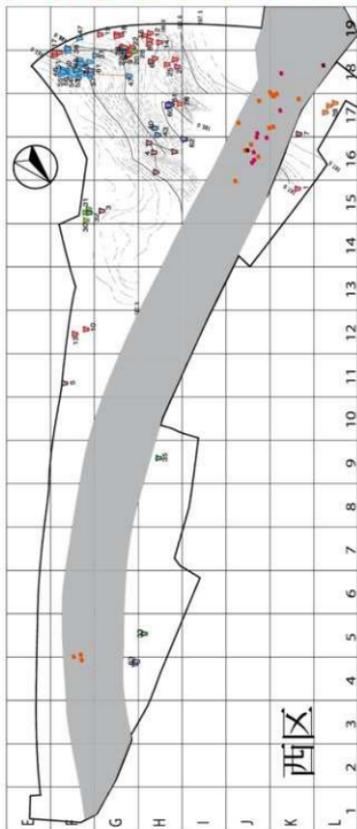
頸部からの立ち上がりで直行(76・81)と内湾(79・82・84)が見られる。

底部 (91～94)

深鉢型の土器の底部で91は、やや外側に張り出した平底で器壁が薄く工具による内面調整が条痕として残る。92～94は、厚手の底部で92は、やや外側に張り出す平底で、93は外側に大きく張り出し、上げ底状である。

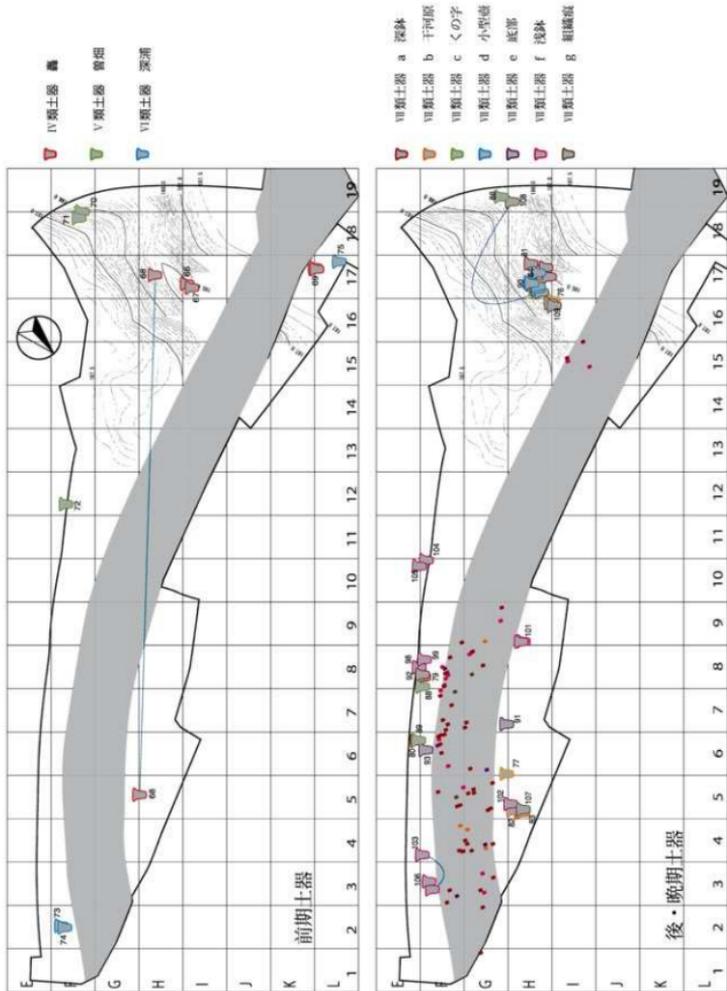


- ▽ I 類土器 (日股文) a (岩舟)
- ▽ I 類土器 (日股文) b (前平)
- ▽ I 類土器 (日股文) c (沼田)
- ▽ I 類土器 (日股文) d (石塚)
- ▽ I 類土器 (日股文) e (その他)
- ▽ II 類土器 (押型文) a (山形)
- ▽ II 類土器 (押型文) b (押型文)
- ▽ II 類土器 (槌ノ神) a (Aa)
- ▽ II 類土器 (槌ノ神) b (Ab)
- ▽ II 類土器 (槌ノ神) c (汝瀬)
- ▽ II 類土器 (槌ノ神) d (楯文)



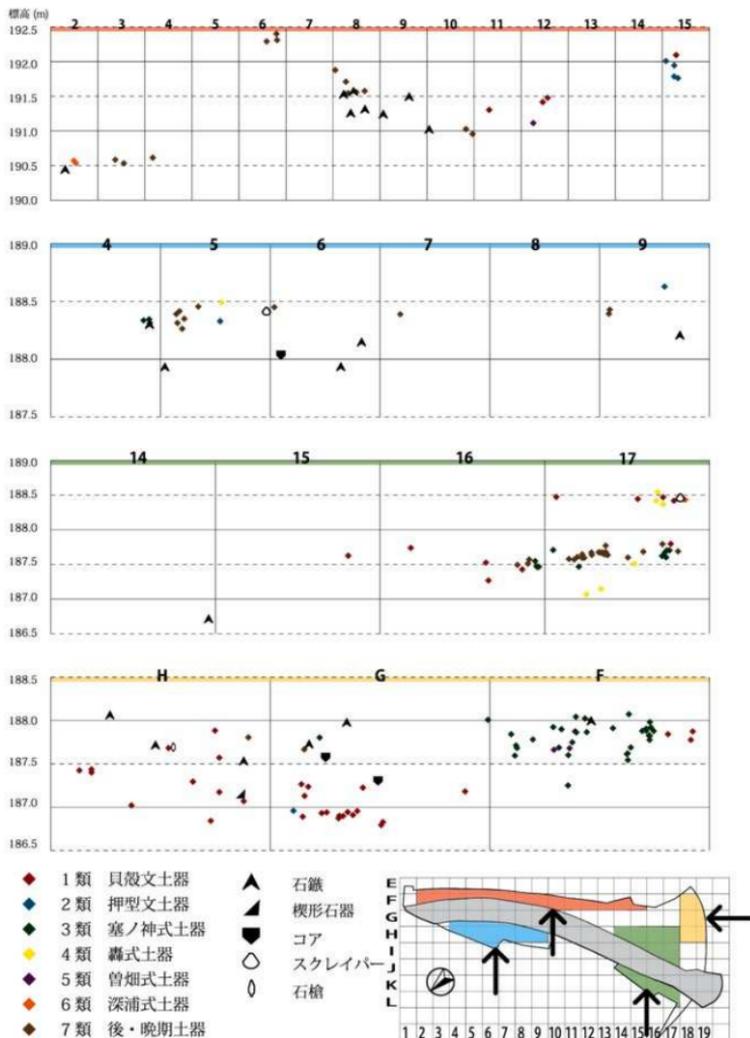
第112図 早期土器出土状況図

※グレイ部分は南九州西回り自動車道建設に伴う平成4、5年度調査区である

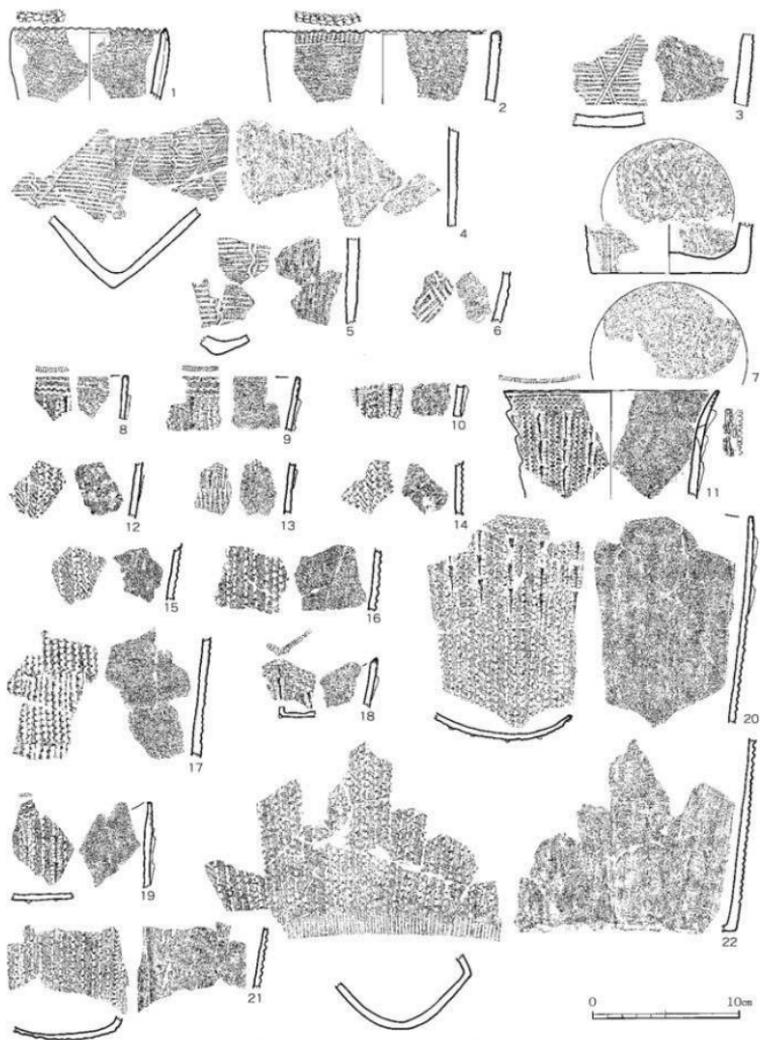


※グレイ部分は南九州西回り自動車道建設に伴う平成4、5年度調査区である

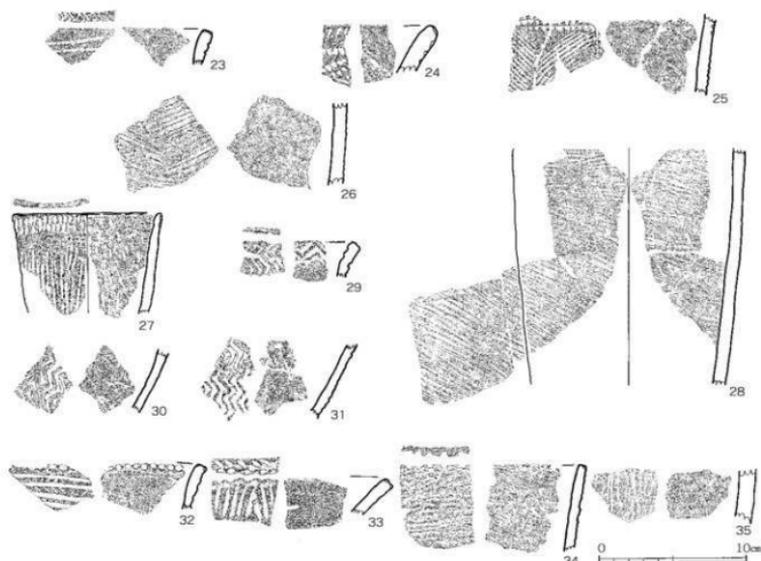
第113図 前期土器、後・晩期土器出土状況図



第114図 縄文土器・石器出土状況図(垂直分布)



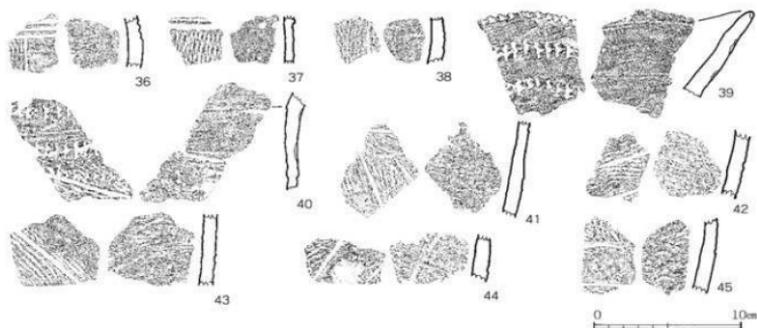
第115图 Ia, Ib, Ic类土器实测图



第116図 1d, 1e, 1a, 1b類土器実測図

表39 土器観察表(1)

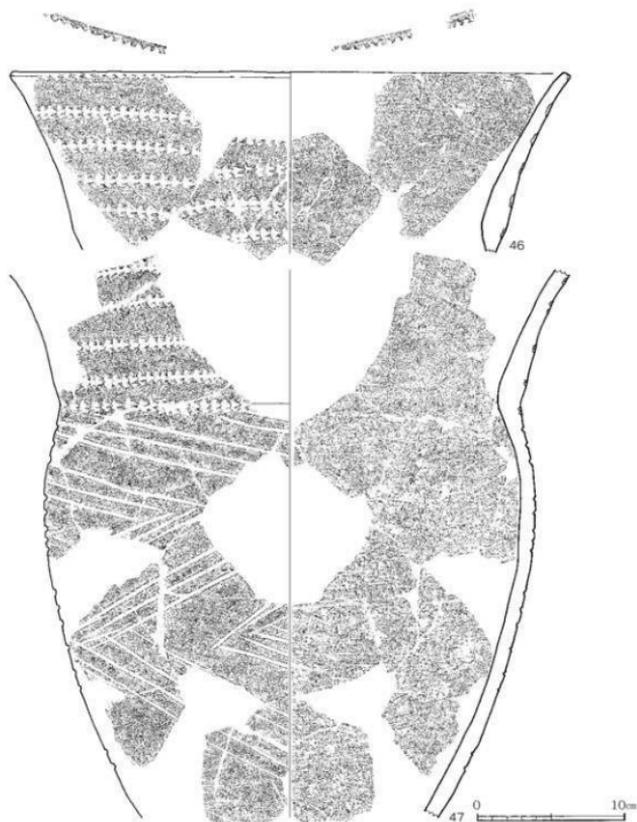
標目 No.	報告 No.	分類 番号	分期 番号	出土 区A	出土 区B	層 a	層 b	部位	文様・調整		色調		胎土			備考	
									外面調整		外面	内面	石	長石	雲母		砂
									外	内	外	内	○	○	○		
1	1a	20318	K	15	4	F	11編組	斜目, 貝殻研突, 貝殻糸飯(横)	十字	暗灰黄色	12.2A+黄褐色	○	○	○	-		
2	1b	20825	H	18	4	-	11編組	斜目, 貝殻研突, 貝殻糸飯(横)	十字	12.2A+黄褐色	12.2A+黄褐色	○	○	○	-		
3	1b	30441	G	15	5	-	11編組	貝殻糸飯	十字	12.2A+黄褐色	12.2A+黄褐色	○	○	○	-		
4	1b	20862 20864 20814 20866	H	16	4	-	11編組	貝殻糸飯	十字	12.2A+褐色	12.2A+黄褐色	○	○	○	-		
5	1b	30057	F	11	3	-	11編組	貝殻糸飯(横), 流木文	十字	12.2A+黄褐色	12.2A+褐色	○	○	○	-		
6	1b	20968	H	18	4	-	11編組	貝殻糸飯, 流木文	十字	12.2A+褐色	12.2A+黄褐色	○	○	○	-		
7	1b	20229	K	17	3	-	流組	貝殻糸飯(横), 貝殻糸飯(縦)	十字, 十字	12.2A+黄褐色	12.2A+黄褐色	○	○	○	-		
8	1c	20971	H	19	3	-	11編組	斜目, 貝殻研突, 磨	十字	12.2A+黄褐色	12.2A+黄褐色	○	○	○	-		
9	1c	1963 1968	G	16	4	b	11編組	斜目, 貝殻研突, 磨	十字	褐色		○	○	○	-		
10	1c	20908	F	12	4	-	11編組	磨, 貝殻研突	十字	12.2A+黄褐色	12.2A+黄褐色	○	○	○	-		
11	1c	20917	G	14	-	-	11編組	斜目, 貝殻研突, 磨	十字(横)	12.2A+黄褐色	12.2A+黄褐色	○	○	○	-	磨粒, 穿孔	
12	1c	20517 20505	H	19	3	-	11編組	貝殻糸飯, 磨, 貝殻研突	十字	黄褐色	12.2A+黄褐色	○	○	○	-		
13	1c	20066	F	12	4	-	11編組	磨, 貝殻研突	十字	12.2A+黄褐色	12.2A+黄褐色	○	○	○	-		
14	1c	20827 20869	H	19	4	-	11編組	貝殻糸飯, 貝殻研突	十字	12.2A+黄褐色	12.2A+黄褐色	○	○	○	-		
15	1c	20920	H	19	4	-	11編組	貝殻糸飯, 貝殻研突	十字	灰黄褐色	12.2A+褐色	○	○	○	-		
16	1c	21064	G	18	4	b	11編組	貝殻糸飯, 貝殻研突	十字	12.2A+褐色	暗褐色	○	○	○	-		
17	1c	21020 21019 21048 21000	F	18	4	-	11編組	貝殻研突	十字	12.2A+黄褐色	暗灰黄色	○	○	○	-		
18	1c	20909	G	19	3	-	11編組	斜目, 貝殻研突, 磨	十字	12.2A+褐色	12.2A+褐色	○	○	○	-		
19	1c	21056 21069	G	19	4	b	11編組	斜目, 貝殻研突, 磨, 貝殻糸飯	十字	暗赤褐色	暗赤褐色	○	○	○	-		
20	1c	21066	G	19	4	b	11編組	斜目, 貝殻糸飯, 貝殻研突, 磨	十字	12.2A+褐色	12.2A+黄褐色	○	○	○	-		
21	1c	21042 20994	G	19	4	b	11編組	貝殻糸飯, 貝殻研突	十字	12.2A+褐色	褐色	○	○	○	-		
22	1c	20992 21041 21001 21044 20991 21043 21039	G	18 19	4	b	11編組	貝殻糸飯, 貝殻研突	十字	12.2A+褐色	12.2A+褐色	○	○	○	-		



第117図 ■ a、■ b 類土器実測図

表40 土器観察表(2)

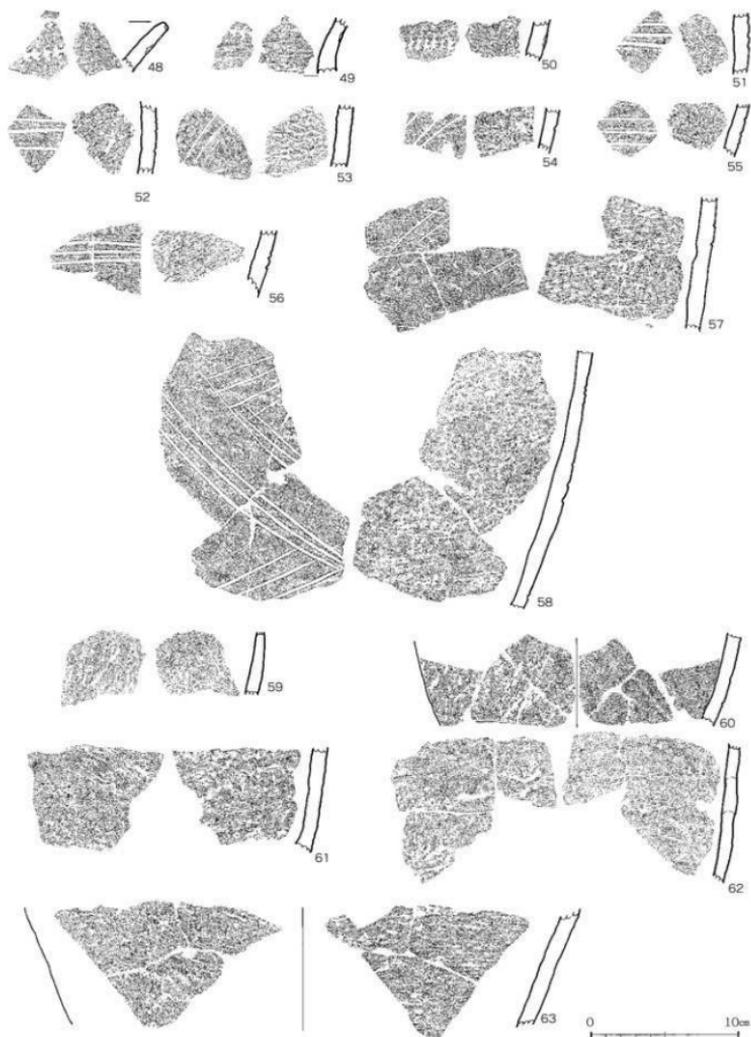
標記 No.	報告 No.	分類 番号 L1	支脚 番号 L2	取上 区A	遺土 区A	層 a	層 b	部位	文様・調整		色調		胎土		備考	
									外面調整	内面調整	外面	内面	石灰	粘土		母層
116	23	1 d	39192	D	7	5	-	口縁部	斜目・十字・貝殻調整	十字	12.20%褐色	12.20%褐色	○	○	-	-
	24	1 d	39096	D	7	4	-	口縁部	斜目・貝殻調整・貝殻調整・十字	十字	12.20%黄褐色	12.20%黄褐色	○	○	-	○
	25	1 d	39851 39826	H	18	4	-	胴部	貝殻調整・幾何素板	十字	12.20%黄褐色	12.20%黄褐色	○	○	○	○
	26	1 d	39476	I	17	3	-	胴部	幾何素板	十字	暗赤褐色	黄褐色	○	○	○	-
	27	1 e	A	K	15	4	-	口縁部	網文(工具)・貝殻素板(縦)	十字・ケズリ	褐色	黄褐色	○	○	-	一様
	28	1 e	A	L	17	5	-	胴部	貝殻素板	貝殻素板	12.20%黄褐色	12.20%黄褐色	○	○	-	○
	29	2 a	31040	G	18	4	b	口縁部	山形押型(縦)	山形押型(横)・十字	暗灰黄色	暗灰黄色	○	○	-	○
	30	2 a	39431	F	15	5	-	胴部	山形押型(縦)	十字	浅黄色	12.20%黄色	○	○	-	-
	31	2 a	39434 39433	F	15	5	-	胴部	山形押型(縦)	十字	浅黄色	12.20%黄色	○	○	-	○
	32	2 b	39432	F	15	4	-	口縁部	斜目・山形押型→洗線	斜目・十字	12.20%黄色	12.20%黄色	○	○	-	○
	33	2 b	39140	H	5	3	-	口縁部	斜目・写洗線	十字	12.20%黄褐色	12.20%黄褐色	○	○	-	○
	34	2 b	40292	ss B	19	3	b	口縁部	斜目・素板(工具)	十字・ケズリ	12.20%褐色	12.20%黄褐色	○	○	-	○
	35	2 b	39190	H	9	3	-	胴部	貝殻調整	十字	褐色	暗灰黄色	○	○	-	-
	36	3 a	21012	F	19	4	-	胴部	十字・燃赤・洗線・洗線	十字	12.20%褐色	12.20%黄褐色	○	○	-	○
117	37	3 a	39620	F	18	4	-	胴部	燃赤・洗線	十字	12.20%褐色	12.20%黄褐色	○	○	-	○
	38	3 a	39629	G	19	4	a	胴部	燃赤・洗線	十字	12.20%褐色	12.20%黄褐色	○	○	-	○
	39	3 b	A	G	16	4	-	口縁部	斜目・貝殻調整・貝殻調整	十字	12.20%褐色	12.20%黄褐色	○	○	-	一様
	40	3 b	A	G	16	4	-	胴部	十字・貝殻調整・洗線	十字	暗褐色	12.20%褐色	○	○	-	○
	41	3 b	A	G	16	4	-	胴部	燃赤・洗線	十字	暗赤褐色	12.20%褐色	○	○	-	一様 2
	42	3 b	A	G	16	4	-	胴部	十字・燃赤・洗線	十字	暗赤褐色	12.20%黄褐色	○	○	-	○
	43	3 b	-	-	-	-	-	胴部	燃赤・洗線	十字	暗赤褐色	灰褐色	○	○	-	一様
	44	3 b	39590	H	17	3	-	胴部	十字・燃赤・洗線	十字	12.20%褐色	12.20%褐色	○	○	-	○
	45	3 b	A	G	16	4	-	胴部	燃赤・洗線	十字	暗赤褐色	12.20%黄褐色	○	○	-	一様
	118	46	3 c	39673 31650 31602 31953 31658 31661 31663 31667	F G	18 19	4	b	口縁部	斜目・貝殻調整	十字	12.20%褐色	12.20%褐色	○	○	-
47		3 c	39558 39664 39671 39559 39944 31607 31611 31613 31618 3162 31628 31636 31632 31638	F G	18 19	34	b	胴部	貝殻調整・洗線	十字・ケズリ	12.20%褐色	褐色	○	○	-	○



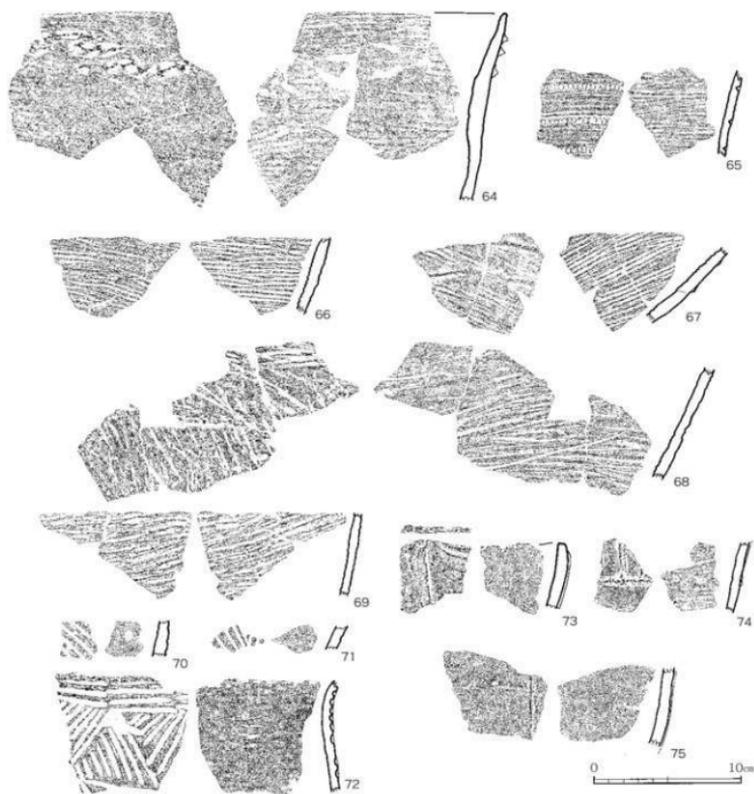
第118図 III c 類土器実測図

表41 土器観察表 (3)

探検 No.	報告 No.	分類 L1	分期 L2	取土 番号	出土 区A	出土 区I	層 a	層 b	部位	文様・調整		色調		胎土			備考	
										外面調整	内面調整	外面	内面	石質	灰石	灰母		砂礫
	48	3c	20907	F	18	4	-	白線部	直線斜突、曲形押型・沈線	十字	17.25A-褐色	17.25A-褐色	○	○	○	○		
	49	3c	A	G	16	4	-	無部	直線斜突、十字	十字	17.25A-褐色	暗褐色	○	○	○	○	一部	
	50	3c	A	G	18	4	-	無部	直線斜突	十字	17.25A-褐色	17.25A-黄褐色	○	○	○	○	一部	
	51	3c	21048	F	18	4	b	無部	沈線	十字	17.25A-黄褐色	17.25A-褐色	○	○	○	○		
	52	3c	20911	F	18	3	-	無部	沈線	十字	17.25A-褐色	褐色	○	○	○	○		
	53	3c	20943	F	18	4	-	無部	沈線	十字	褐色	褐色	○	○	○	○		
	54	3c	40919	F	18	4	-	無部	沈線	十字	褐色	17.25A-褐色	○	○	○	○		
	55	3c	20675	F	18	4	-	無部	沈線	十字	褐色	褐色	○	○	○	○		



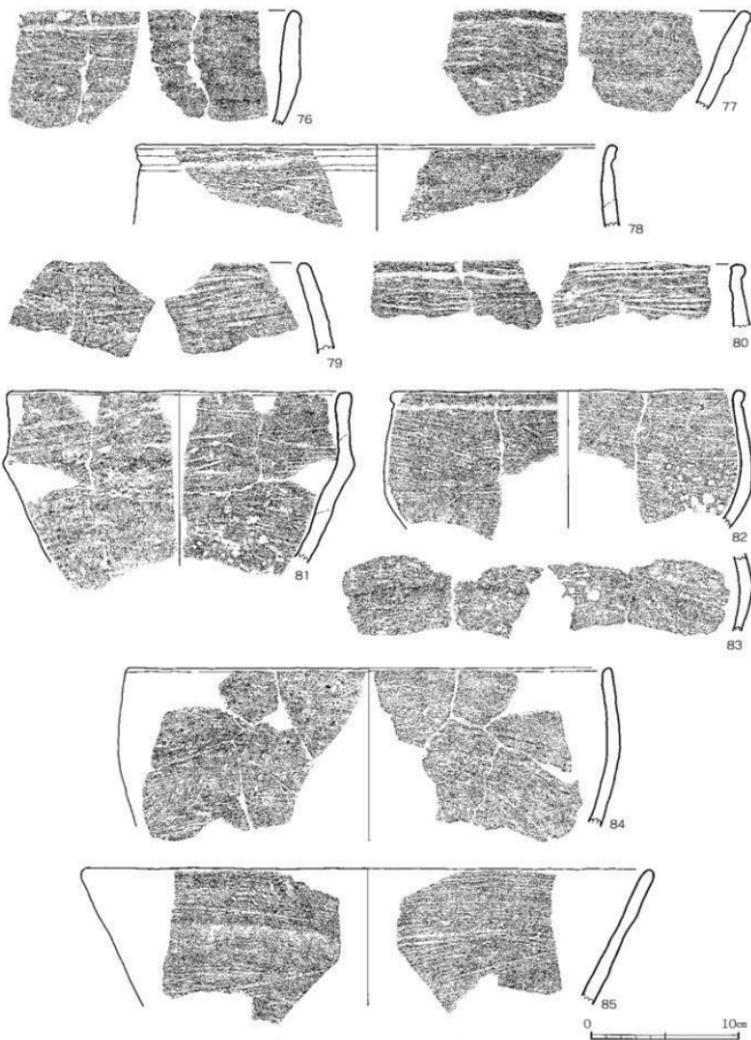
第119图 III c, III d 類土器美測図



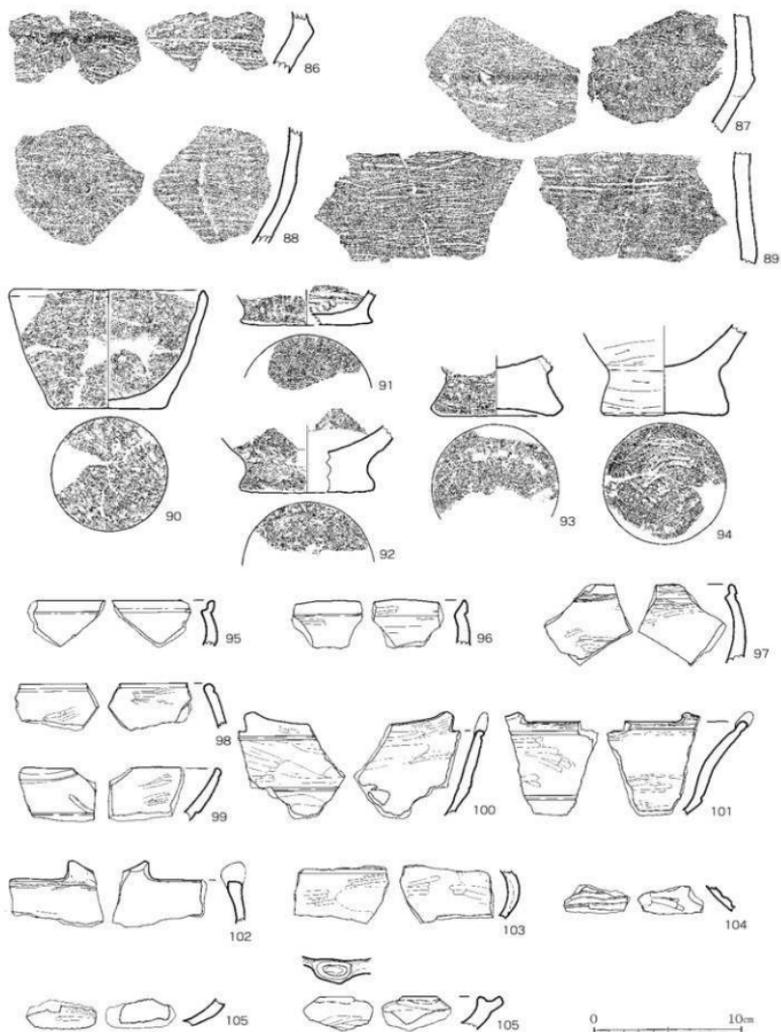
第120図 IV, V, VI類土器実測図

表42 土器観察表(4)

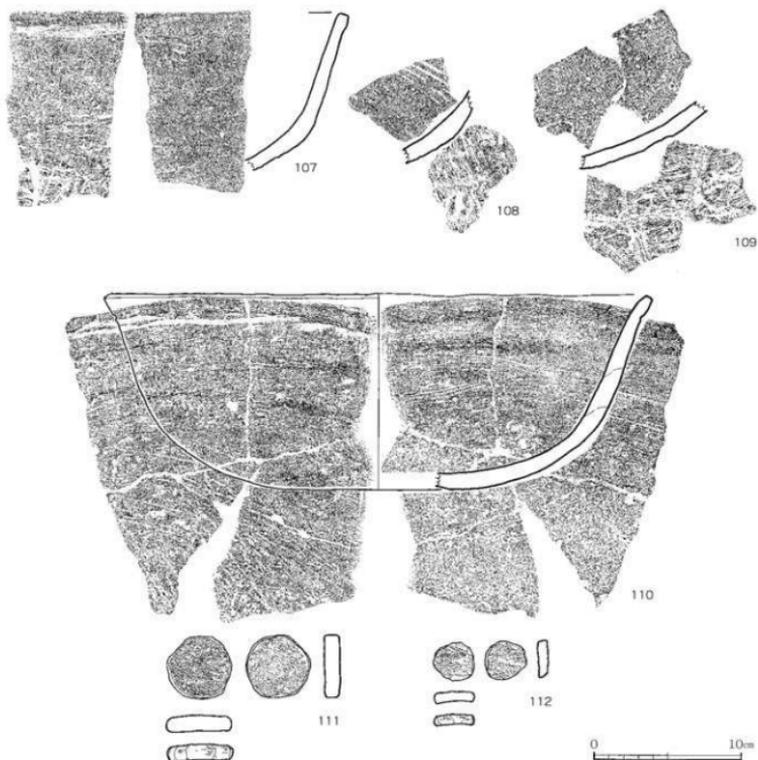
群別 No.	種別 No.	分類 番号 I, 2	取土 番号 I, A	出土 区I	層a	層b	部位	文様・調整		色調		胎土				備考	
								外面調整	内面調整	外面	内面	石灰	長石	雲母	砂礫		
																	ナデ
	56	3c	21651	F	18	4	b	刷目	沈線	ナデ	棕色	棕色	○	○	—	—	
	57	3c	20669 21623 21655	G H	18	4	—	刷目	沈線	ナデ, ケズリ	棕色	棕色	○	○	—	—	
	58	3c	20909	F	18	3	—	刷目	沈線	ナデ, ケズリ	棕色	棕色	○	○	—	○	
	59	3d	20548 20144 20145 20729 20733 b	H	17	3	—	刷目	ナデ	ナデ	棕色	1C, 2A+黄褐色	○	○	—	○	
119	60	3d	20908 20618 20721 20722	F I	18 3	3	—	刷目	ナデ	ナデ, ケズリ	棕色	棕色	○	○	—	○	墓中出土
	61	3d	20901	I	16	3	—	刷目	ナデ	ナデ	棕色	1C, 2A+褐色	○	○	—	○	
	63	3d	20802 20121	G	4	3	—	刷目	ナデ	ナデ	棕色	灰黄褐色	○	○	—	○	



第121图 VII a, VII b 类土器实测图



第122图 VII c, VII d, VII e, VII f 類土器実測図



第123図 VII g類, 土製品実測図

表43 土器観察表 (5)

標本 No.	種別 No.	分類 番号 L1	分組 番号 L2	出土 番号 EA	出土 区 E1	W a	幅 b	部位	文様・調整		色調		胎土			備考		
									外面調整	内面調整	外面	内面	石英	長石	雲母		砂礫	
																		+
119	56	3c	1851	F	18	4	b	胴部	沈線	+	棕色	棕色	○	○	-	○		
	57	3c	689 1852 1855	G F	18	4	-	胴部	沈線	+	ナデ, ナズリ	棕色	棕色	○	○	-	○	
	58	3c	909	F	18	3	-	胴部	沈線	+	ナデ, ナズリ	棕色	棕色	○	○	-	○	
	59	3d	548	H	17	3	-	胴部	ナデ	+	ナデ	棕色	にぶい黄褐色	○	○	-	○	
	60	3d	544 545 728 733 b	H	17	3	-	胴部	ナデ	+	ナデ	棕色	棕色	○	○	-	○	腹中割れ
	61	3d	908	F	18	3	-	胴部	ナデ	+	ナデ, ナズリ	棕色	棕色	○	○	-	○	
	62	3d	618 721 722	I	16	3	-	胴部	ナデ	+	ナデ	棕色	にぶい褐色	○	○	-	○	
	63	3d	1 2 131	G	4	3	-	胴部	ナデ	+	ナデ	棕色	灰黄褐色	○	○	-	○	

ⅧC 類 (95~106)

内湾する (95~98) と外反する (99~101) 口縁部形状が見られる。いずれも内外面とも入念に研磨し、95の外面にはペンガラ塗布が、100、101、102の口唇部には鱗状突起が加えられる。

ⅧD 類 (107~110)

内面は丁寧なミガキで仕上げ、外面上部は条痕、底部には編布を圧痕する例が多い。

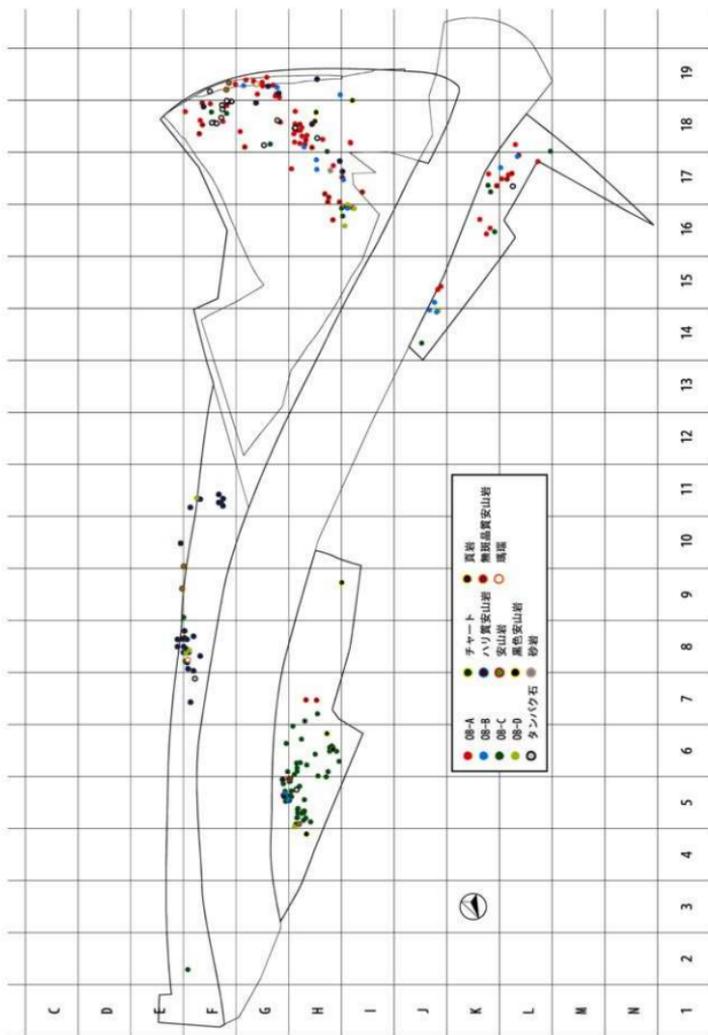
土製品 (111~112)

周辺をトリミングし、円盤状に仕上げる。

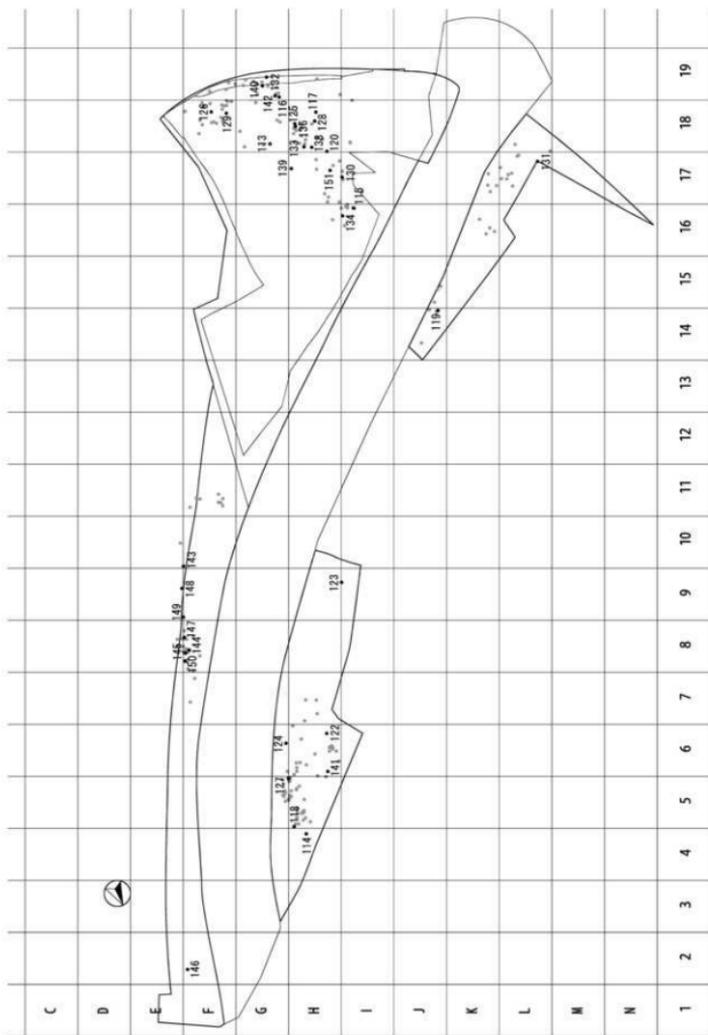
古墳時代以降の遺物

表44 土器観察表 (6)

種別 No.	発掘 No.	分期 番号 L1	発掘 区 A	出土 区 I	層 a	層 b	部位	文様・調整		色調		加工		備考																		
								外面調整	内面調整	外面	内面	石肌	灰石		塗布	砂噴																
76	7b			I	16	3	-	口縁部	ナデ		ナデ	12.2A~褐色	12.2A~黄褐色	○	○	-	○	釜中皿用														
																			29725 B 29619													
																			29773	G	6	3	-	口縁部	ナデ	ナデ	12.2A~褐色	12.2A~褐色	○	○	-	○
																			29004	-	-	-	-	口縁部	ナデ	ナデ	12.2A~黄褐色	12.2A~褐色	○	○	-	○
																			29091 29152	E	8	3	-	口縁部	ナデ	条痕(工溝)	12.2A~黄褐色	12.2A~黄褐色	○	○	-	○
																			30394 E	I	6	3	-	口縁部	ナデ	条痕(工溝)	12.2A~黄褐色	12.2A~黄褐色	○	○	-	○
																			29412 29438 29750 29751 29772 29773	H	17	3	-	口縁部	ナデ	ナデ	12.2A~黄褐色	12.2A~黄褐色	○	○	-	○
																			29165 A 29014	H	5	3	-	口縁部	ナデ	ナデ	褐色	褐色	○	○	-	○
																			29132 29009	H	5	3	-	口縁部	ナデ	ナデ	12.2A~褐色	12.2A~黄褐色	○	○	-	○
																			29556 29094 29765 29792 29784 29859	H	17	3	-	口縁部	ナデ	ナデ	明褐色	12.2A~褐色	○	○	-	○
85	7a			I	-	-	-	口縁部	ナデ	ナデ	12.2A~赤褐色	12.2A~褐色	○	○	-	○	古銭															
																		29880 29927														
																		G	19	3	-	胴部	ナデ	明赤褐色	明赤褐色	○	○	-	○			
																		A	-	-	-	-	胴部	ナデ	ナデ	12.2A~褐色	12.2A~褐色	○	○	-	○	
																		29329	F	8	3	-	胴部	ナデ	ナデ	12.2A~褐色	12.2A~黄褐色	○	○	-	○	
																		29347	E	6	3	-	胴部	ナデ	ナデ	暗褐色	12.2A~黄褐色	○	○	-	○	
																		29692 29693 29896 29749 29777 29286 29823	H	17	3	-	完形	ナデ	ナデ	12.2A~褐色	12.2A~褐色	○	○	-	○	
																		29178	G	7	3	-	底部	ナデ	条痕(工溝)	明赤褐色	黒褐色	○	○	-	○	
																		29095	E	8	3	-	底部	ナデ	ナデ	12.2A~褐色	12.2A~褐色	○	○	-	○	
																		29067	F	6	3	-	底部	ナデ	ナデ	12.2A~黄褐色	12.2A~黄褐色	○	○	-	○	
94	10c			H	17	3	-	底部	ナデ	ナデ	明赤褐色	灰赤褐色	○	○	-	○	-	ペンガラ H4														
																			29588 292													
																			G	15	3	-	口縁部	ミガキ	ミガキ	暗灰黄色	暗灰黄色	○	○	-	-	
																			29020	-	-	-	口縁部	ミガキ	ミガキ	オリーブ派	暗灰黄色	○	○	-	-	
																			29102	E	8	3	-	口縁部	ミガキ	ミガキ	暗灰黄色	暗灰黄色	○	○	-	-
																			29129	F	8	3	-	口縁部	ミガキ	ミガキ	12.2A~黄褐色	12.2A~黄褐色	○	○	-	-
																			29171	F	8	3	-	口縁部	ナデ	ナデ	12.2A~黄褐色	12.2A~黄褐色	○	○	-	-
																			29184	H	9	3	-	口縁部	ミガキ	ミガキ	12.2A~黄褐色	12.2A~黄褐色	○	○	-	-
																			29029	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
																			29023	H	5	3	-	口縁部	ミガキ	ミガキ	12.2A~黄褐色	黒褐色	○	○	-	-
102	7a			F	4	3	-	口縁部	ミガキ	ナデ	12.2A~黄褐色	12.2A~黄褐色	○	○	-	○	-															
																		29269 29295														
																		F	19	3	-	胴部	ミガキ	ミガキ	12.2A~黄褐色	暗灰黄色	○	○	-	-		
																		29172	F	19	3	-	胴部	ミガキ	ミガキ	12.2A~黄褐色	暗灰黄色	○	○	-	-	
																		29170	F	19	3	-	胴部	ミガキ	ミガキ	黄褐色	黒褐色	○	○	-	-	
																		29071	F	5	3	-	底部	ミガキ	ミガキ	黒褐色	黒褐色	○	○	-	-	
																		29250	H	19	3	-	口縁部	ナデ	ナデ	12.2A~黄色	12.2A~黄色	○	○	-	-	
																		29011	H	5	3	-	口縁部	ナデ, 縦線筋	ミガキ	12.2A~黄褐色	12.2A~黄褐色	○	○	-	-	
																		29160 29225	H	16	3	-	胴部	ナデ, 縦線筋	ミガキ	12.2A~褐色	黒褐色	○	○	-	-	
																		29002 29702 29754 29755	H	19	3	-	口縁部	ナデ	ナデ	褐色	12.2A~黄褐色	○	○	-	-	
111	8c			H	6	3	-	-	ナデ	ナデ	褐色	12.2A~黄褐色	○	○	-	○	-															
																		29089														
112	8c			F	8	3	-	-	ナデ	ナデ	褐色	12.2A~黄褐色	○	○	-	○	-															
																		29122														

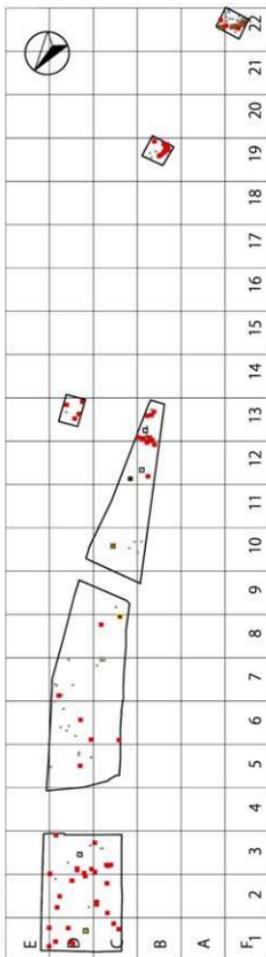


第124図 西区縄文石材別分布図

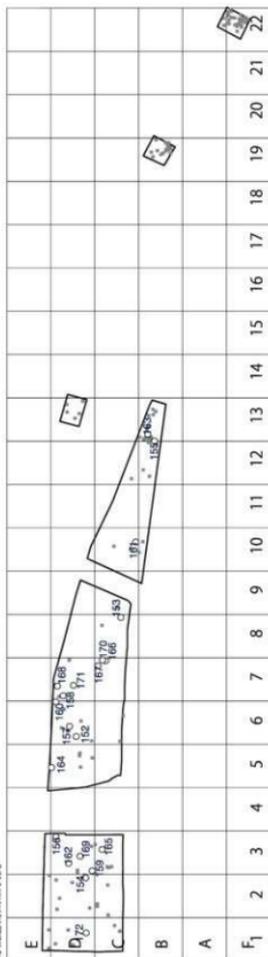


第125图 西区纺织遗址分布图

石材別出土状況



埋藏遺物出土状況



- 黒曜石
- 砂岩
- 頁岩
- 玉髄
- タンバク石
- 安山岩
- ホルンフェルス
- 硬質頁岩

第126図 東区縄文石器出土状況図

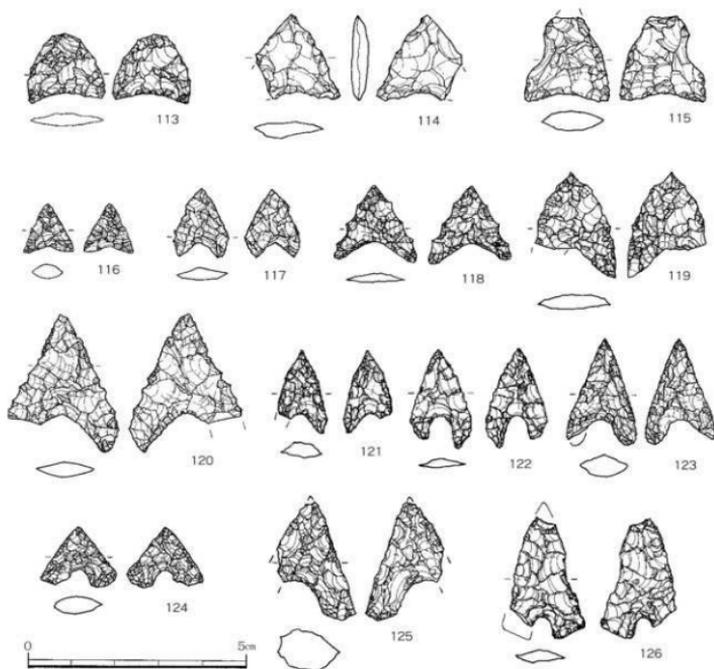
2 石器

石鏃は3層から22点、4層から12点、5層から1点の合計35点出土した。35点のうち、比較的残りの多い14点を図化した。1～8は基部の持ちがV字状を、9～14は基部の持ちがU字状を呈するものである。平面形態、規格は多様である。

113はOB-C製の石鏃である。両側縁は外弯し、基部は凹基である。先端部は縦方向の衝撃で欠損したとみられる。114は無斑品質安山岩製の石鏃である。剥離は全体的に粗い。基部と先端部が欠損している。115はOB-D製の石鏃である。基部は縦方向の衝撃で欠損している。116はOB-A製の石鏃である。小型で、中央部に大きく厚みがある。117はチャート製の石鏃である。118はOB-D製の石鏃である。柄が大きく開き、側縁には鋸歯状の突起が3箇所づつみられる。119はOB-D製の石鏃である。先端部が細く尖っている。全体が平坦に調整されている。120はOB-C製の大型の石鏃である。両側縁は鋸歯状に細かく調整されている。121はOB-F製の細身の石鏃である。中央部が厚く残されている。122はチャート製の石鏃である。素材剥片の形状を反映して、基部にかけて器身が反っている。123はチャート製の石鏃である。124はOB-C製の小型の石鏃である。開きの角度が大きい。125はOB-A製の石鏃未製品である。中央部に不純物があり、厚みがとれていないため中央部が大きくふくらんでいる。126はOB-C製の大型の石鏃である。器身は薄く整形されており、先端部と基部の一部が欠損している。127は無斑品質安山岩製のスクレイパーである。縦長の素材剥片の形状は大きく変えず、縁辺のみの調整にとどまっている。128は安山岩製のスクレイパーである。剥片の両側縁縁辺部のみに細かい二次加工により刃部を形成している。129はOB-C製のスクレイパーである。縦長剥片の側縁に押し剥離による二次加工を施し、刃部を形成している。基部付近に抉りを入れようとした痕跡もあり、何らかの未製品の可能性もある。130は無斑品質安山岩製のスクレイパーである。左側縁に使用頻度の高さを示す潰れが観察される。131はOB-A製のスクレイパーである。素材の礫皮面を残した薄手の剥片の縁辺に刃部を形成している。132はOB-A製のスクレイパーである。小型剥片の側縁に刃部を形成している。下半は欠損している。133はOB-B製のスクレイパーである。剥片の周縁に細く剥離している。134～136は、楔型石器である。134、136はOB-C、135はOB-Aを素材としている。137は頁岩製の石斧である。素材は板状の礫を輪切り状に分割したもので、整形加工を施さずにそのまま刃部を磨いている。138は無斑品質安山岩製の石楯である。全体的に整形は粗く、中央部は厚みが残されている。器身はまっすぐではなく、曲がっている。139はOB-A製の石楯である。小型の円礫からそのまま剥片を剥出ししている。140は

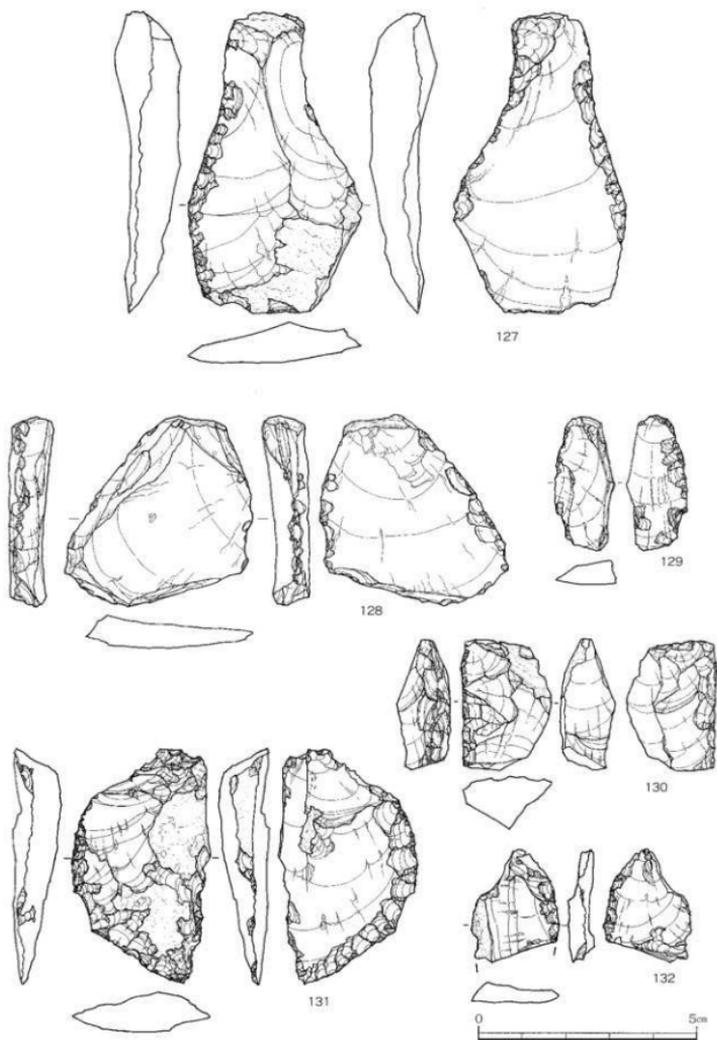
OB-A製の石楯である。両面から求心状の剥離により剥片を剥出ししている。

141はOB-C製の石楯である。大剥離により打面を形成後、打面を固定して剥片を剥離している。142はOB-A製の石楯である。自然礫に上下両面に打面を設定し、両設打面から剥片を剥離している。143は安山岩製の石楯である。薄手で丁寧に調整されている。144はOB-D製の石楯である。薄手で丁寧に製作されている。145はOB-D製の石楯である。先端部に近い両側縁に抉り状の剥離が観察される。146はOB-C製の細身の石楯である。両側縁は細かく鋸歯状に仕上げられている。147は頁岩製の大型の石楯である。横転中の出土であるが、出土層位はIII層である。148は安山岩製の石楯である。器身中央付近の両側縁に抉りがある。149はOB-C製の石楯である。器身は素材剥片面を大きく残している。150はOB-D製の石楯先端部である。151は砂岩製の叩石である。円礫の周縁部を中心に使用痕が認められる。152はOB-B製の石楯である。先端は縦方向の衝撃により欠損している。153は安山岩製の石楯である。背面に素材の主剥離面を残している。154はOB-A製の石楯である。側縁が一部欠損している。155はOB-C製の石楯である。石材の特徴が佐賀県の権業川産の黒曜石に類似する。156はOB-C産の石楯である。157はOB-C産の石楯である。薄手の自然礫の縁辺に二次加工を施しただけの簡易なものである。158はOB-D産の石楯である。左側縁に3箇所、右側縁に3箇所、鋸歯状に突起が作り出されている。159はOB-D産の石楯である。側縁は直線上に丁寧に剥離により作成されている。160はOB-D産の石楯である。細身で、側縁は粗い鋸歯状に仕上げられている。脚部は両方とも欠損している。161はOB-C産の石楯である。下半は欠損している。162は頁岩製のスクレイパーである。大型の剥片の縁辺に二次加工を施し、刃部を形成している。163は安山岩製の磨・叩石である。両面とも使用頻度が高く、中央部に最も厚い部分があり、斜めに曲面をなしている。周縁は敲打のため全周に面を形成している。164は安山岩製の凹石である。中央部から上部にかけて細長く凹みがあり、上部と中央部に2箇所やや深い凹みが確認される。165は安山岩製の凹石である。中央部を中心に浅めの凹みが確認される。166は安山岩製の磨・凹石である。表裏両面に磨面が確認され、中央部付近に凹みが1箇所確認される。側面に欠損している。167は安山岩製の磨・叩・凹石である。両側面に磨面が確認され、中央部に凹み、周縁に叩き痕が観察される。半分近くが欠損している。168は安山岩製の小型の磨・叩石である。下面に叩きにより形成された複数の面が、背面に磨面が確認される。上部は欠損している。169は玉髄製の礫器である。大型の礫素材の側縁に背腹両面への大きな交互剥離を施し、刃部を形成している。刃部には使用によるものと思われる潰れが確認

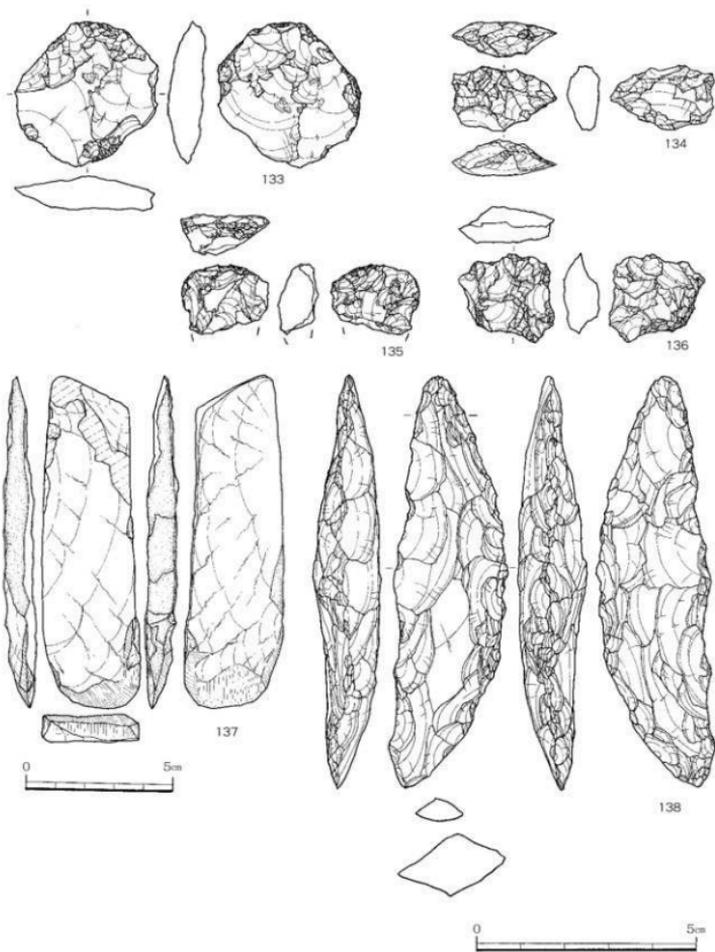


第127図 8年度調査区Ⅳ・Ⅲ層出土石器(1)

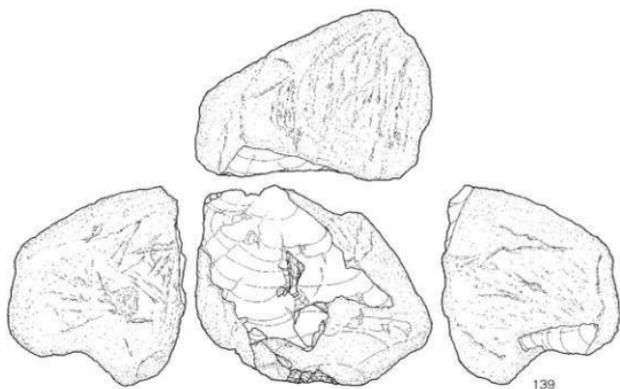
される。170は砂岩製の石皿である。磨面は細かい凸凹面であるが、高い部分のみに磨痕が全面に確認される。欠損している。171は安山岩製の石皿である。表面全体に磨面が確認される。形状は四角形で整っているが、整形を施したのではなく、元々の板状の自然礫の形状を利用したものである。172はホルンフェルス製の全面磨製石斧である。扁平礫に簡易な整形加工を施し、全面を磨いている。表面の器身上部に帯状の黒変した部分があり、緊縛痕の可能性が有る。



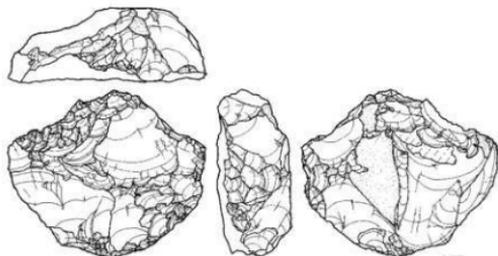
第128図 8年度調査区Ⅳ・Ⅲ層出土石器(2)



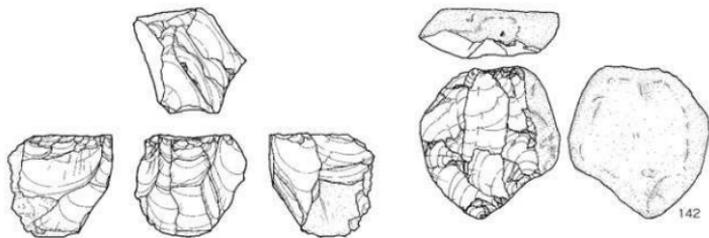
第129図 8年度調査区Ⅳ・Ⅲ層出土石器(3)



139



140

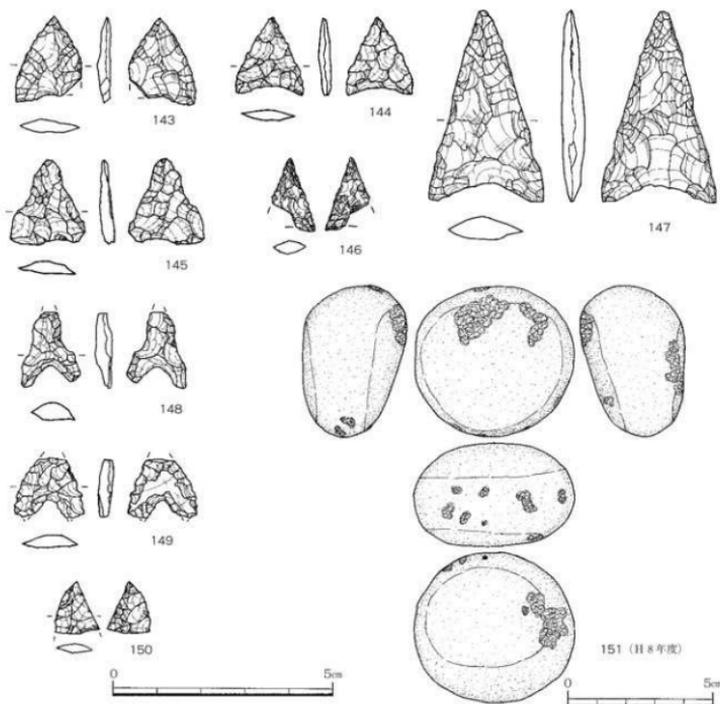


141

142

0 5cm

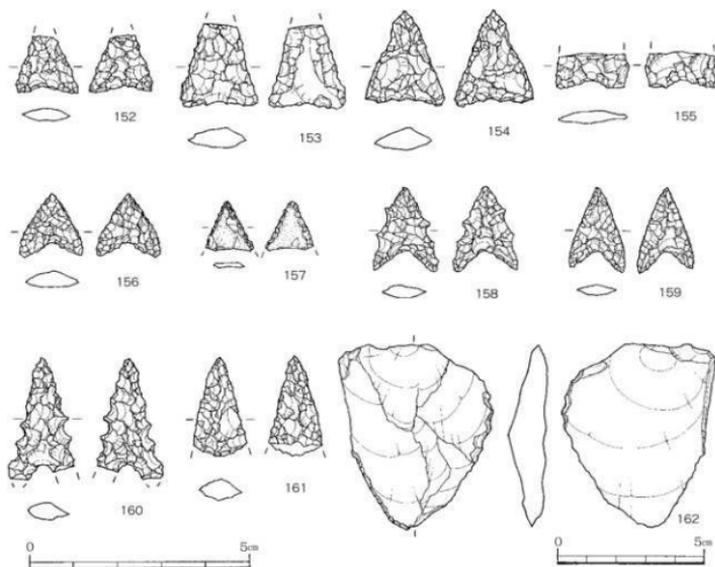
第130図 8年度調査区Ⅳ・Ⅲ層出土石器(4)



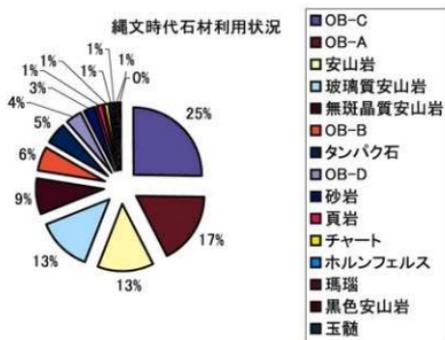
第131図 9年度調査区Ⅲ層出土石器

表45 縄文時代石材組成表

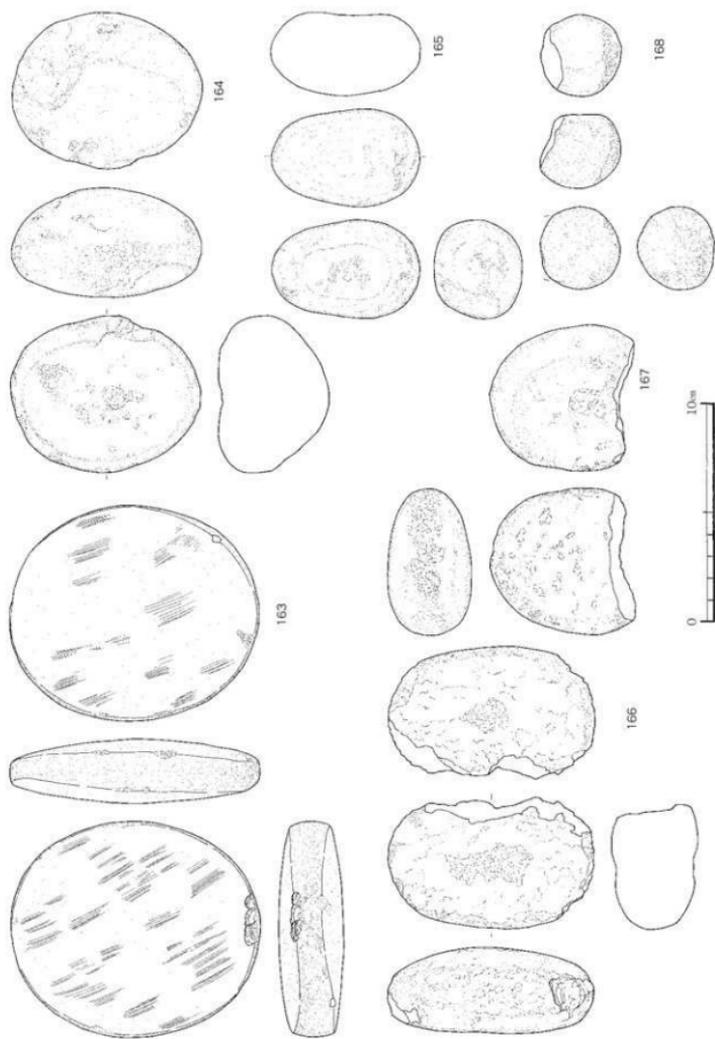
石材	点数
OB-C	75
OB-A	52
安山岩	39
玻璃質安山岩	39
無斑品質安山岩	26
OB-B	17
タンバク石	16
OB-D	12
砂岩	8
頁岩	4
チャート	3
ホルンフェルス	2
瑪瑙	2
黒色安山岩	2
玉髄	1



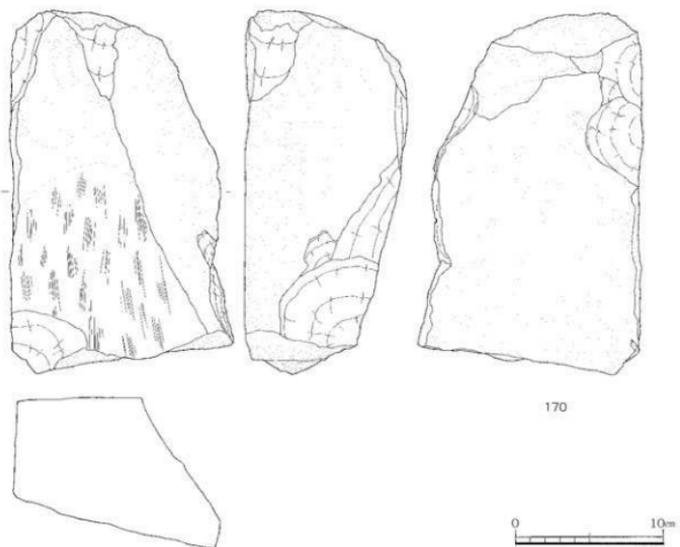
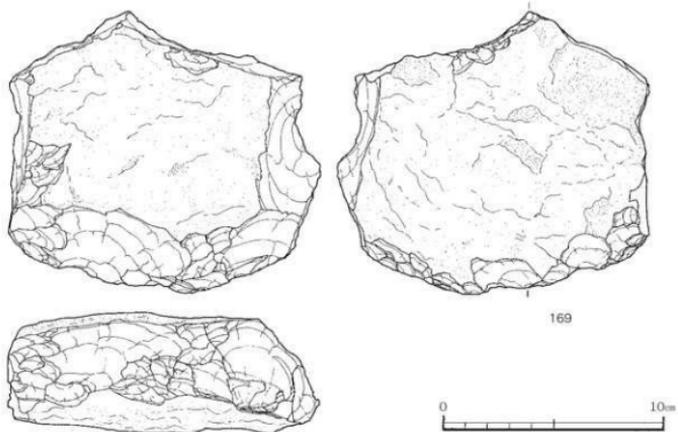
第132図 14年度調査区Ⅳ・Ⅲ層出土石器(1)



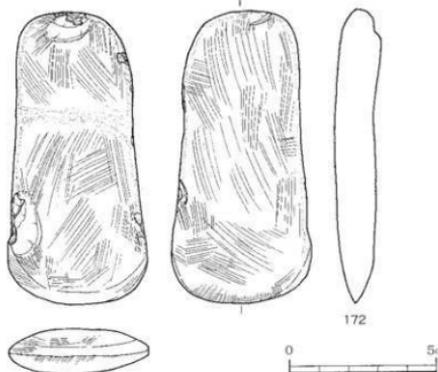
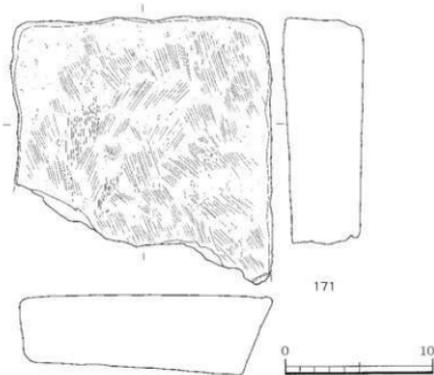
第133図 縄文時代石材利用状況図



第134图 14年度調査区Ⅳ・Ⅲ層出土石器(2)



第135図 14年度調査区Ⅳ・Ⅲ層出土石器(3)



第136図 14年度調査区Ⅳ・Ⅲ層出土石器(4)

3 石材

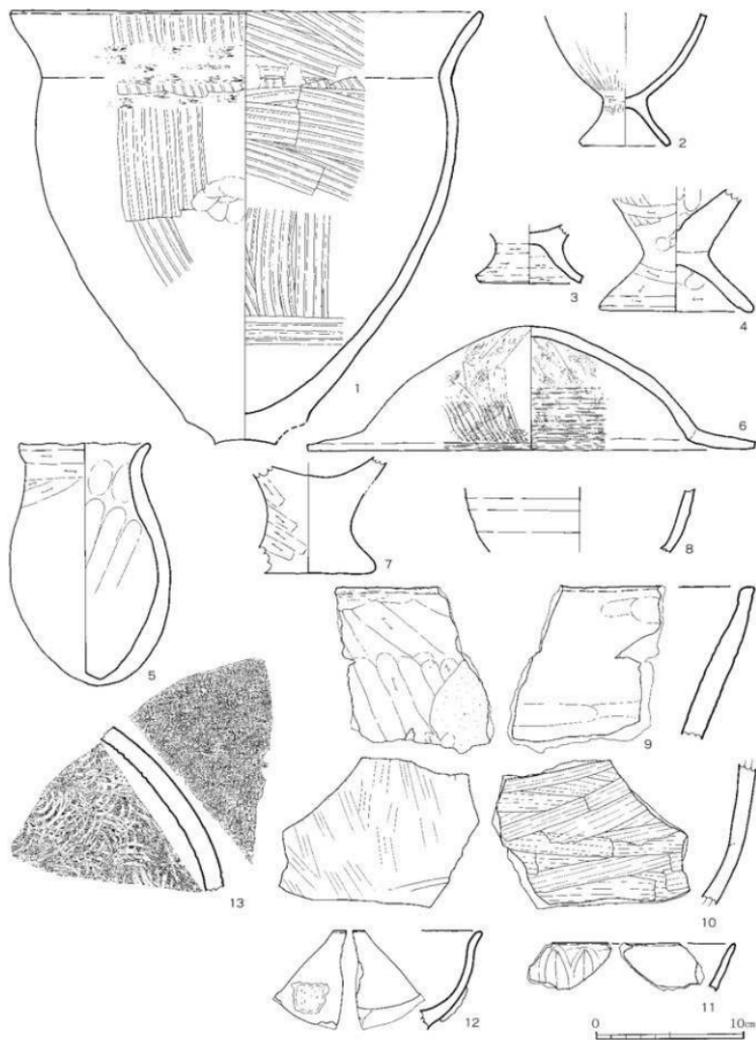
縄文時代の石器に利用されている石材は、OB-Cが75点と最も多い。石核、楔形石器、スクレイパー、石鏃などに利用されており、特に石鏃への利用が目立つ。OB-Cは良質の黒曜石を一括して扱ったものでパラエティに富み、特に県外産の黒曜石が多いようである。次に多いのが在地産のOB-Aで、石核、スクレイパー、石鏃に利用されている。石核の量がOB-Cに比して多いのは、産地が近くにあるためであろう。次に多いのが安山岩である。安山岩は玻璃質安山岩、無斑晶質安山岩、黑色安山岩等があり、安山岩系をまとめると106点で、当遺跡で縄文時代の石器に利用されている石材としては最も多いこととなる。安山岩は磨・叩・凹石、石皿等の礫石器に多く利用され、玻璃質・無斑晶質安山岩はスクレイパー、石鏃、石槍等の剥片石器に多く利用されている。

次に多いのがOB-Bで17点である。石鏃、スクレイパー等の剥片石器に利用されている。次に多いのはタンバク石で、16点である。いずれも剥片・碎片類であるため目的の石器については述べる事ができない。次に多いのはOB-Dで12点である。OB-Dは12点中10点が石鏃であり、残りの2点は剥片である。これは、OB-Dの石鏃利用が多い一方で、遺跡内での製作については希薄であるということを示しており、いずれの石鏃も搬入品であることがわかる。この特徴はチャートにも当てはまるものである。次に多いのは砂岩で、8点である。砂岩は叩石、石皿などの礫石器に利用されているが、安山岩ほど利用石材としては多くない。次に多いのは頁岩で、4点である。頁岩はスクレイパー、石斧、石鏃に利用されており、いずれも搬入品である。その他、ホルンフェルス、瑪瑙、黑色安山岩、玉髄等が客体的に利用されており、石斧、礫器などの搬入品である。

縄文時代の石材利用については、石鏃などの剥片石器に遠隔地の石材を利用する傾向が強い点、安山岩系の石器の利用頻度が高い点などが挙げられる。

表46 縄文時代実測石器観察表

図 番号	遺物 番号	器種	X座標(m)	Y座標(m)	Z座標(m)	石材	層	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)
113	20654	石鏃	73.478	171.625	187.964	OB-C	3	1.7	1.8	0.3	0.76
114	20065	石鏃	66.615	38.989	188.302	無珉品質安山岩	3	2	1.9	0.4	1.01
115	20805	石鏃	57.553	159.223	187.348	OB-D	3	2	1.9	0.5	1.2
116	20873	石鏃	71.763	180.607	187.713	OB-A	3	1.1	1.2	0.3	0.25
117	20498	石鏃	64.764	177.711	187.702	チャート	3	1.6	1.2	0.3	0.41
118	20202	石鏃	68.94	40.387	187.934	OB-D	3	1.8	1.9	0.2	0.41
119	20366	石鏃	41.625	139.602	186.71	OB-D	4	2	1.85	0.25	0.83
120	20853	石鏃	62.69	170.172	188.05	OB-C	3	3.2	2.6	0.35	1.71
121	一括	石鏃	-	-	-	OB-F	-	1.95	1.2	0.4	0.51
122	20176	石鏃	62.748	58.31	188.15	チャート	3	2.3	1.4	0.2	0.53
123	20198	石鏃	59.881	87.319	188.21	チャート	3	2.5	1.6	0.5	1.12
124	20208	石鏃	70.441	56.417	187.936	OB-C	5	1.9	1.8	0.4	0.47
125	20518	石鏃	68.785	175.495	187.518	OB-A	3	2.8	1.85	1	2.54
126	20665	石鏃	84.625	177.786	187.98	OB-C	4	2.8	1.7	0.3	1.29
127	20909	スクレイパー	70.02	49.655	188.417	無珉品質安山岩	4	6.9	3.9	1.5	27.59
128	20496	スクレイパー	64.979	175.999	187.558	安山岩	3	4.4	4.3	1.1	17.94
129	20663	スクレイパー	81.789	177.514	188.025	OB-C	3	3.15	1.35	0.52	2.15
130	20766	スクレイパー	59.293	165.241	187.646	無珉品質安山岩	3	3	2	1.3	6.7
131	20286	スクレイパー	22.718	168.245	188.464	OB-A	3	5.2	3.2	1.1	14.84
132	20883	スクレイパー	74.136	184.445	187.823	OB-A	3	2.4	1.9	0.6	2.39
133	20838	スクレイパー	67.036	171.053	187.046	OB-B	4	3.35	3.3	0.9	7.95
134	20952	楔形石器	59.734	157.795	187.109	OB-C	3	2.4	1.5	0.9	2.28
135	一括	楔形石器	-	-	-	OB-A	-	1.65	2	1	2.44
136	20833	楔形石器	68.645	175.011	187.152	OB-C	3	2.1	2.2	0.8	2.69
137	一括	石斧	-	-	-	真石	-	11.55	3.3	1.125	49.82
138	20963	石槍	65.583	170.976	187.694	無珉品質安山岩	4	9.6	2.7	1.6	28.77
139	20986	石槍	69.46	166.882	187.265	OB-A	4	4.6	5.5	4.1	92.78
140	20999	石槍	74.909	182.759	187.302	OB-A	3	3.9	4.5	1.7	25.78
141	20196	石槍	62.529	50.968	188.035	OB-C	3	2.4	2.6	2.4	13.28
142	20923	石槍	72.519	180.837	187.574	OB-A	3	3.5	3.2	1.2	14.38
143	30162	石鏃	89.919	90.436	191.022	安山岩	3	2	1.6	0.3	0.75
144	30134	石鏃	88.808	74.321	191.578	OB-D	3	1.8	1.6	0.3	0.52
145	30210	石鏃	89.534	73.736	191.26	OB-D	3	2	1.7	0.4	0.58
146	30235	石鏃	89.124	12.93	190.439	OB-C	3	1.7	1	0.3	0.31
147	30187	石鏃	89.746	76.763	191.316	真石	3	4.5	2.6	0.6	4.92
148	30159	石鏃	90.22	86.175	191.499	安山岩	3	1.8	1.3	0.4	0.58
149	30201	石鏃	89.933	80.672	191.244	OB-C	3	1.4	1.7	0.4	0.52
150	30088	石鏃	89.658	72.218	191.534	OB-D	3	1.2	1	0.2	0.27
151	20821	叩石	62.068	166.506	187.655	砂岩	3	3.5	3.6	2.4	131.96
152	40076	石鏃	51.78	44.208	189.42	OB-B	4	1.3	1.4	0.3	0.48
153	40191	石鏃	79.263	34.036	189.614	安山岩	4	1.9	1.8	0.5	1.23
154	40041	石鏃	19.155	42.069	189.14	OB-A	4	2.2	1.8	0.5	1.42
155	40210	石鏃	119.938	26.357	190.122	OB-C	4	0.8	1.7	0.3	0.43
156	40021	石鏃	28.649	48.857	189.225	OB-C	4	1.5	1.5	0.4	0.52
157	40083	石鏃	54.104	45.732	189.405	OB-C	4	1.2	1.1	0.1	0.15
158	40049	石鏃	61.194	47.202	189.658	OB-D	3	2	1.5	0.3	0.58
159	40026	石鏃	20.775	40.574	189.359	OB-D	4	2	1.3	0.2	0.38
160	40090	石鏃	59.754	48.866	189.446	OB-D	4	2.8	1.5	0.4	1.14
161	40199	石鏃	96.637	30.635	189.846	OB-C	4	2.3	1.3	0.5	1.04
162	40040	スクレイパー	22.505	45.95	189.181	真石	4	9.7	8	2	46.57
163	40143	磨・叩石	121.509	27.908	190.519	安山岩	4	11.4	10	3	540
164	40072	叩石	44.624	49.835	189.448	安山岩	4	9	4.3	5	415
165	40036	磨・叩石	25.706	38.299	189.128	安山岩	4	6.8	4.6	5	445
166	40170	磨・叩石	69.261	37.497	189.471	安山岩	5	9.5	6.1	4.1	279.77
167	40169	磨・叩石	68.064	39.27	189.436	安山岩	5	6.8	6.8	3.8	231.88
168	40128	磨・叩石	63.4	48.507	189.445	安山岩	5	3.6	3.8	3.4	62.37
169	40022	礫石	24.164	43.323	189.4	玉髓	4	13	14.2	5.6	1350
170	40171	石皿	69.385	38.197	189.49	砂岩	5	25.5	15.45	11.25	4650
171	40099	石皿	63.58	44.821	189.518	安山岩	4	18.45	18	5.4	3100
172	40046	石斧	6.457	41.945	189.064	ホルンフェルス	4	10.15	4.9	1.4	115.03



第138图 II 层出土遗物美术图

Ⅶ 仁田尾遺跡

第1章 調査の方法

仁田尾遺跡は、平成7年11月から平成15年7月までに7次にわたり調査が行われた。この範囲内では南九州西回り自動車道建設に伴う発掘調査（以下「国道仁田尾遺跡」）が平成5年から平成8年まで行われていた。仁田尾遺跡は、国道仁田尾遺跡を南北に挟む形で二つに分かれて存在する。

国道による南北分断、工事用道路・生活道路の設定により、調査範囲は断断された。また、県道工事自体も国道取付部分の改良から、平成5年度の「8、6豪雨水害」を教訓とした鹿児島市の南北バイパス道へと変貌した。2車線から4車線、工事路線の延長といった設計変更に伴い調査範囲の拡張がなされた。これらの結果、9年間7次にわたる調査期間、14カ所および調査地点のために、6種類の遺物取上げ番号と4種類の調査基準グリッド、2種類の調査基準ポイントが存在する事態となった。

本調査報告書では、これらの調査基準グリッド・ポイントを、Ⅱ・Ⅲ地区調査時に使用した国道仁田尾遺跡の基準グリッドに変換し、統一した基準グリッドで記載してある。また、遺物取上げ番号は、年度ごとに10万桁目に番号を付加し重複のないように変更してある。すなわち、平成7、8年度は「1」、平成9年度は「2」、平成10年度は「3」、平成11年度は「4」、平成14年度は「5」、平成15年度は「6」を付加し、平成7年度の「2006」は「102006」となる。観察表等の遺物番号は、10万桁目の数字を除いたものが、実際のものになる。以下に、調査の経過と年次毎の基準グリッドについて記す。

第1次調査は、平成7年11月から平成8年3月まで行われた。国道仁田尾遺跡に隣接するⅢ・Ⅵ地区から始まり、県道工事の進捗状況に伴いⅡ・Ⅹ地区へと拡張された。

Ⅱ・Ⅲ地区では国道仁田尾遺跡と同じ基準グリッドが使用された。すなわち、南九州西回り自動車道の新設工事図面のセンター杭 No. 350 と No. 355 を中心軸および基準点として10mの区割りを設定した。西側より1～12、北側よりA～Oと名称された。また、調査時点ではⅡ地区を「南側調査区・現道部」、Ⅲ地区を「南側調査区・拡張部」と呼称している。なお、Ⅱ地区は旧県道下にあり、配管工事による南北に細長い掘削部がある。

Ⅵ・Ⅸ地区では、県道小山田谷山線の設計変更前の工事図面のセンター杭 No. 18 と No. 19 を中心軸および基準点として10mの区割りを設定した。東側よりA～D、南側より1～13と名称された。また、調査時点ではⅥ地区を「北側1区」、Ⅸ地区を「北側2区」と呼称している。なお、Ⅵ地区とⅨ地区の間には、調査時点で立ち退

き未了部と駐車場があり、発掘調査されていない。

第2次調査は、平成8年4月から6月まで行われた。前年度のⅨ地区に隣接するⅩ・Ⅺ地区の調査を行った。基準グリッドはⅥ・Ⅸ地区と同一である。また、調査時点ではⅩ地区を「北側3区」、Ⅺ地区を「北側4区」と呼称している。なお、Ⅹ地区とⅪ地区の間は町道部分であり、道路を付け替えて調査を行ったが、水道管が敷設されていた部分については発掘調査を行っていない。

第3次調査は、平成9年9月から10月まで行われた。調査地点は国道の北側に隣接するⅤ地区である。この期間は、国道仁田尾遺跡の調査が終了して工事のために掘削され、旧県道との交差部分には高架橋がかけられていた。調査範囲は高架橋と県道迂回路、およびⅥ地区の間に設定された。工事に伴って環境が一変し、2次調査までの基準ポイントが失われたことと範囲が狭小であったことから、グリッドの設定は行われていない。調査基準ポイントは旧道側溝部と迂回路の結合部から設定された。また、調査時点ではⅤ地区を「北側5区」と呼称している。なお、調査基準ポイントの割出しの際は、国道仁田尾遺跡の調査範囲を参考にした。

第4次調査は、平成11年1月から3月まで行われた。最南端部のⅠ地区に位置する。Ⅰ地区では県道小山田谷山線の設計変更後の工事図面のセンター杭 No. 393 と No. 394 を中心軸および基準点として10mの区割りを設定した。西側よりA～D、南側より1～4と名称された。なお、第4次以降が県道設計変更後の調査にあたる。

第5次調査は、平成12年2月に行われた。調査地点は国道の南側に隣接するⅣ地区である。調査範囲は高架橋と県道迂回路、およびⅢ地区の間に設定された。Ⅴ地区と同じ理由から、グリッドの設定は行われていない。調査基準ポイントは、高架橋と側道の結合部から設定された。なお、調査基準ポイントの割出しもⅤ地区と同様に行なった。

第6次調査は、平成15年1月から3月まで行われた。Ⅶ・Ⅷ地区では、県道小山田谷山線の設計変更後の工事図面のセンター杭 No. 364 と No. 365 を中心軸および基準点として10mの区割りを設定した。西側より1～36、北側よりA～Zと名称された。なお、No. 364 と No. 365 は、同時期に調査された北側に隣接する旧県道内にある。

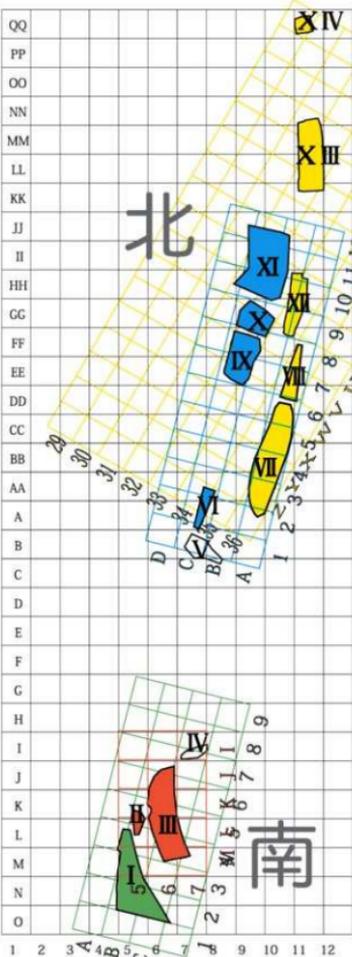
第7次調査は、平成15年5月から7月まで行われた。Ⅺ・ⅩⅢ・ⅩⅣ地区となり、遺跡の最北端にあたる。基準グリッドは第6次調査と同一である。また、調査時点ではⅩⅡ地区を「A区」、ⅩⅢ地区を「B区」、ⅩⅣ地区を「C区」と呼称している。

なお、調査対象地は通学路で交通量が多く、かつ、掘



第139図 調査区と周辺地形図

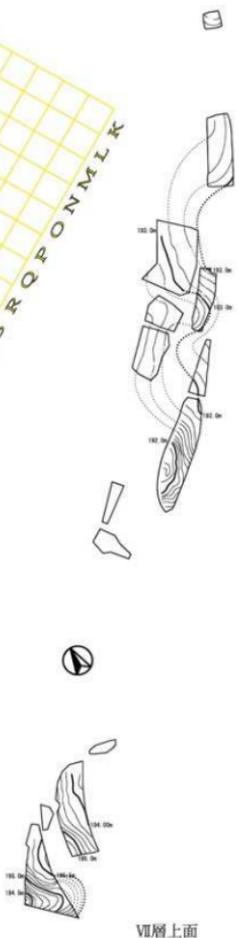
- I 地区**
H10年度
30001~311425
- II 地区**
H7年度 南区観道部
- III 地区**
H7年度 南区
- IV 地区**
H11年度
400001~400423
- V 地区**
H9年度 北5区
200001~200305
- VI 地区**
H7年度 北1区
- VII 地区**
H14年度
- VIII 地区**
H14年度
- IX 地区**
H7年度 北2区
- X 地区**
H8年度 北3区
- XI 地区**
H8年度 北4区
- XII 地区**
H15年度 C
- XIII 地区**
H15年度 B
- XIV 地区**
H15年度 A



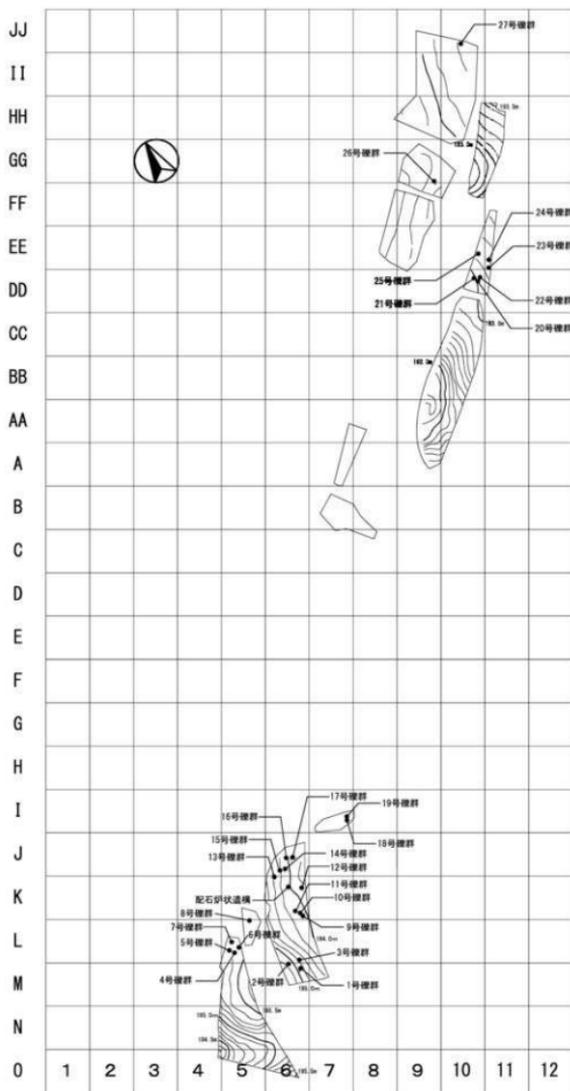
平成7年度 100001~115896 平成8年度 116001~117587 平成14年度 500001~501200 平成15年度 600001~600497

※遺物観察表の「出土区」とは、年度別調査グリッドに基づいたものである。

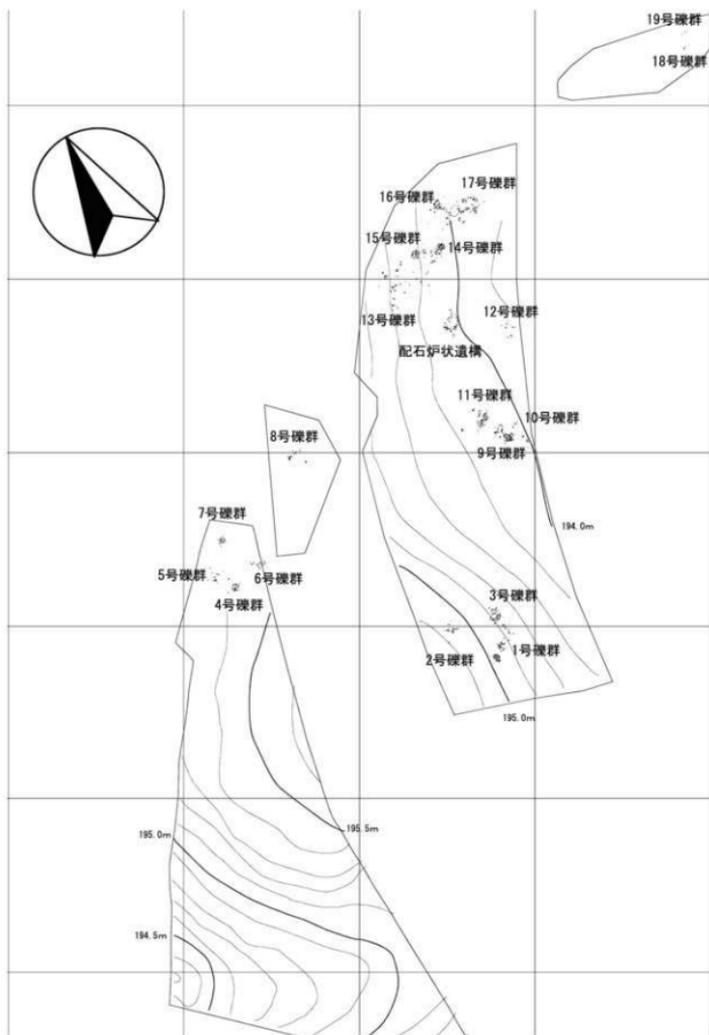
第140図 年度別調査グリッド



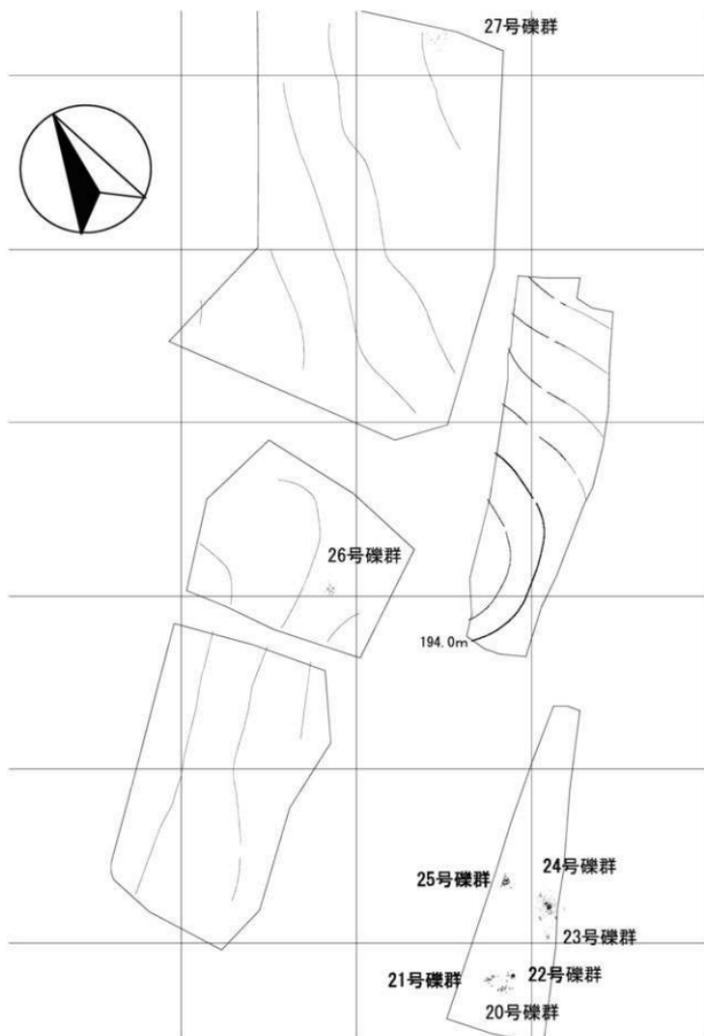
VII層上面



第141図 VII層遺構配置図(全体)



第142図 VII層遺構配置図（南区）



第143図 VII層遺構配置図（北区）

削深度が最大3mを超えることから、交通安全、及び発掘調査時の危険防止を目的として、県土木部が矢板及び夜間警告灯を設置し、調査を行った。

第2章 Ⅷ層の調査

第1節 概要

Ⅷ層を主体に、IX層上面で切出型ナイフ形石器を主体とするナイフ形石器文化期の遺物が出土している。また、石器群と共に27基の礫群と1基の配石が状遺構を検出している。なお、IX層上面で遺構確認したものも見られるが、遺物分布や出土レベル等を検討した結果、Ⅷ層に帰属すると判断した。

27基の礫群の19基が南区に集中し、I地区で4基、II地区で1基、III地区で12基、IV地区で2基を検出している。北区ではⅧ地区から6基、X・XI地区から1基ずつ検出している。また、南区のK-6区で配石が状遺構1基を検出している。

なお、これらの礫群遺構等の認定時期については、遺構検出面を基準に判断しているが、掘り込み位置の確認等確定的な認定作業で不鮮明な部分も残されているため、層位別の区分で取り扱っている。

第2節 遺構(南区)

1 礫群

本遺跡で検出した礫群の形態については、上位のⅧ層も含め固有の形態が見られない。そこで、礫数の多少に関わらず一定のエリアを確保すると認識できたものを1礫群として扱い、形態については類型化を行った。類型化については以下に掲載した通りである。

I類礫群

人為的掘り込み遺構を伴う礫群で、礫の詰まり方でさらにA、B、Cに細分した。

I A類 掘り込み遺構を伴い、礫がしっかり詰まっている。

I B類 掘り込み遺構を伴い、礫が少ない。

I C類 掘り込み遺構を伴い、礫は0～数個。

II類礫群 掘り込み遺構を検出できないが、礫の残存形状から掘り込み遺構が想定できる。

III類礫群 礫の集中もない礫群で、礫の密粗でさらにA、Bに細分した。

III A類 礫群の中心が想定できる。

III B類 散礫状態。

1号礫群

1号礫群はM-6区で検出した。199cm×57cmの範囲に45個の礫が確認された。構成礫の1点は鉄石英製の石核で、残りの構成礫は全て安山岩で、ほとんどの礫が被熱し赤化している。45cm×37cm、深さ約16cmの掘り込み遺構に16個の礫を集積し、遺構外の北側約20cmに18個の礫、

さらに約60cm北側に若干拡散した11個の礫がある。掘り込み遺構内には炭化物が多数残され、遺構外の礫の間にも炭化物が点在して認められる。なお、構成礫の石核は拳大で、底面の一部に礫面と先行した剥離面が見られ、打面と正面作業面が稜線に沿って交互に剥片剥離を行った可能性がある。(I A類)

2号礫群

2号礫群はM-6区で検出した。117cm×61cmの範囲に10個の礫を確認し、全て10cm前後の安山岩で構成し、ほとんどの礫が被熱している。なお、掘り込み遺構、炭化物は確認していない。(III A類)

3号礫群

3号礫群はM・L-6区のⅧ層で検出した。89cm×77cmの範囲に24個の礫を確認し、赤化や加熱とみられる亀裂の入る礫が含まれる。なお、径3mm～5mmの内眼で確認できる炭化物が点在するが、掘り込み遺構は確認していない。構成礫の形状からは、礫が集積していた可能性を示している。(III A類)

4号礫群

4号礫群はL-5区で検出した。42cm×36cm、深さ約14cmの掘り込み内に40cm×34cmの範囲で12個の礫を集積し、使用石材は全て安山岩で、被熱痕跡の認められる礫で構成する。(I A類)

5号礫群

5号礫群はL-5区で検出した。56cm×52cmの範囲に12個の礫を確認した。全て安山岩であり、小礫が多い。掘り込み遺構や炭化物は確認していない。(II類)

6号礫群

6号礫群はL-5区で検出し、93cm×48cmの範囲に10個の礫を確認した。全て安山岩を使用し、掘り込み遺構や炭化物は確認していない。なお、使用した礫は、5号礫群の構成礫より総じて大きめである。(II類)

7号礫群

7号礫群はL-5区で検出し、49cm×35cmの範囲に16個の礫を確認した。掘り込み遺構は確認されず、最下層はIX層上面である。拳大から小児頭大の安山岩の角礫で構成し、残存状況は非常にもろい状態で検出している。使用による被熱に起因するか、その後の風化によるものかは判断としない。なお、集積状況から、掘り込み遺構を伴った可能性は高い。(II類)

8号礫群

8号礫群はL-5区で検出し、100cm×72cmの範囲に8個の礫を確認した。10cm大の礫が4個集中し、やや離れて北側に拡散した礫が4個を伴う。(III A類)

9号礫群

9号礫群はK-6区で検出し、159cm×132cmの範囲に拡散した2点と29点の集積礫で構成する。使用石材は全て安山岩で、被熱の痕跡が明瞭である。なお、破砕礫の

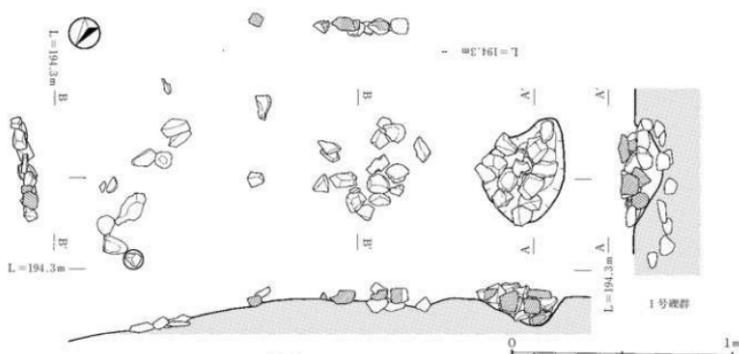


表48 Ⅷ層礫群観察表 (1)

報告書 No	採回 No	類型	総個数	大きさ		構成礫			備考
				長径 (cm)	短径 (cm)	総重量 (g)	重量平均 値 (g)	抗熱中 率 (%)	
1	144	I A	45	199	57	21298	473.3	95.6	H7-2

1号群遺構内遺物

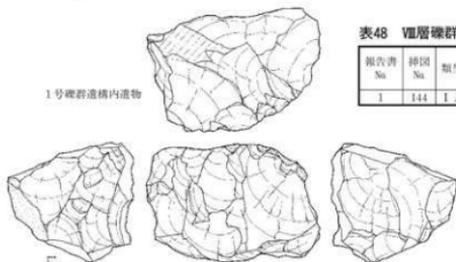


表49 1号群 遺物観察表

報告書 No	採回 No	部材	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	重量 (g)
1	144	石核	鉄石系	53	74	54 220

0 5cm

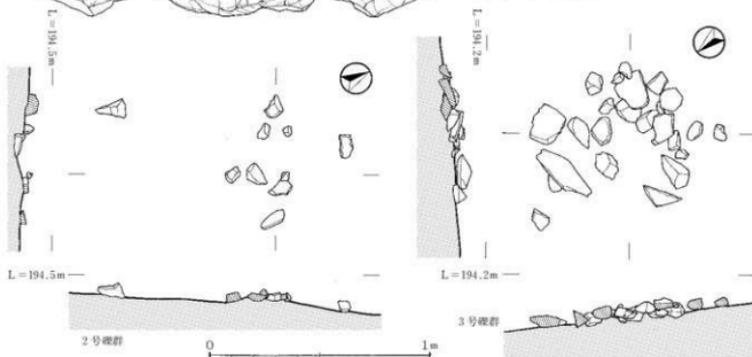


表50 Ⅷ層礫群観察表 (2)

報告書 No	採回 No	類型	総個数	大きさ		構成礫			備考
				長径 (cm)	短径 (cm)	総重量 (g)	重量平均 値 (g)	抗熱中 率 (%)	
2	144	III A	10	117	61	2495	249.5	90	H7-1

表51 Ⅷ層礫群観察表 (3)

報告書 No	採回 No	類型	総個数	大きさ		構成礫			備考
				長径 (cm)	短径 (cm)	総重量 (g)	重量平均 値 (g)	抗熱中 率 (%)	
3	144	III A	24	89	77	15735	655.62	100	H7-5

第144図 南区Ⅷ層遺構及び遺構内出土遺物実測図

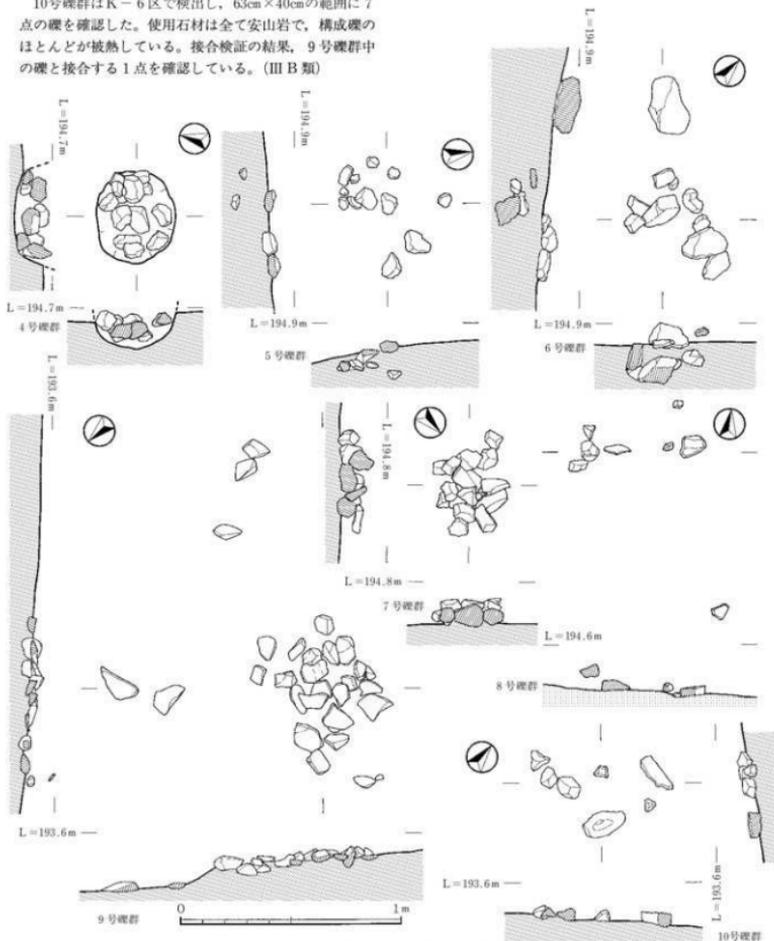
礎接合の検証を行った結果、10号礎群中の礎と接合するもの1点、11号礎群中の礎と接合するもの3点を確認している。(III A類)

10号礎群

10号礎群はK-6区で検出し、63cm×40cmの範囲に7点の礎を確認した。使用石材は全て安山岩で、構成礎のほとんどが被熱している。接合検証の結果、9号礎群中の礎と接合する1点を確認している。(III B類)

11号礎群

11号礎群はK-6区で検出し、153cm×118cmの範囲に20点の礎を確認した。扁平な形状の石材は全て安山岩で、被熱痕を確認できる。9号礎群と接合する3点の存在を



第145図 南区Ⅷ層遺構実測図(1)

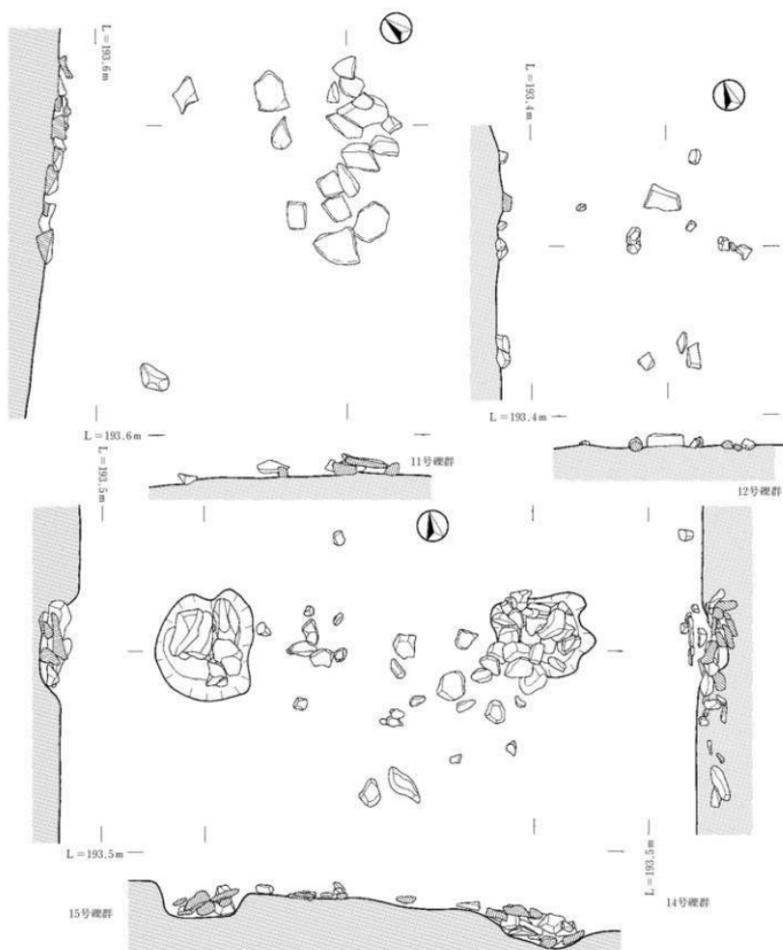


表52 VII層礫群観察表(4)

報告書 No	群 No	類型	総個数	大きさ		構成比			備考
				長径 (cm)	短径 (cm)	総重量 (g)	重量平均 値 (g)	焼熱率 値 (%)	
4	145	I A	12	40	34	-	-	-	HH10-1
5	145	II	12	56	52	-	-	-	HH10-2
6	145	II	10	93	48	-	-	-	HH10-4
7	145	II	15	49	35	-	-	-	HH10-3

第146図 南区VII層遺構実測図(2)

確認している。(III A類)

12号礫群

12号礫群はK-6区で検出した。100cm×80cmの範囲に11個の礫を確認した。使用石材は頁岩1点、他に安山岩で全てに被熱の痕跡が認められる。なお、国土交通省で調査した隣接する仁田尾道跡(国交省仁田尾道跡)1-9区の礫群と接合を確認した1例がある。(III B類)

13号礫群

13号礫群はK-6区で検出し、277cm×270cmの範囲に38点が拡散している。使用石材は安山岩で、被熱痕跡が見られる。16号礫群と接合する例が2点、また、国交省仁田尾道跡1-9区の礫群との接合例1点が確認される。(III B類)

14号礫群

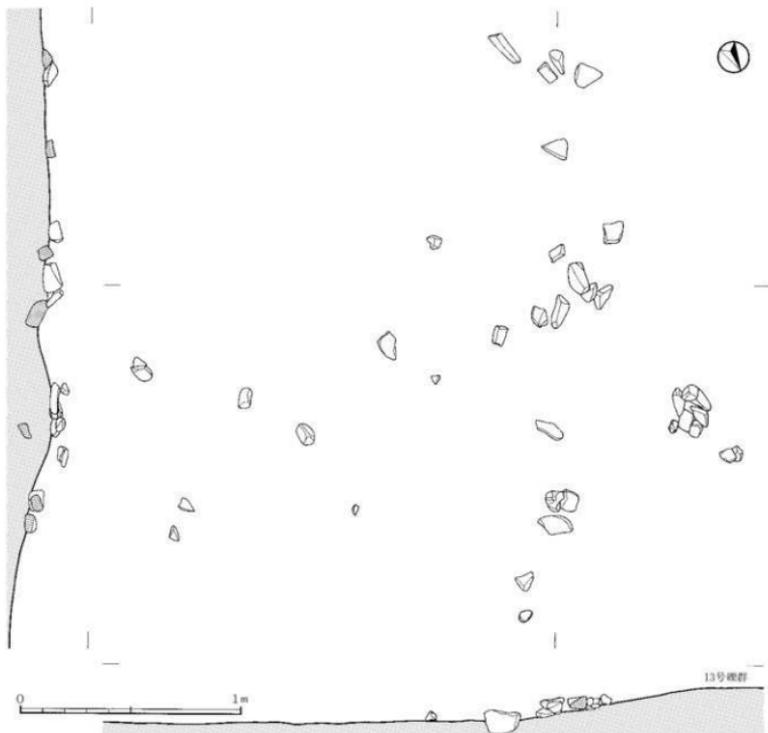


表53 VII層礫群観察表(5)

報告書 No	採国 No	類型	総個数	大きさ		横成礫		備考	
				長径 (cm)	短径 (cm)	総重量 (g)	重量平均 値(g)		被熱率 (%)
8	145	III A	7	100	72			H17-15	
9	145	III A	31	159	132	8877	306.1	100	H17-6
10	145	III B	7	63	49	3920	653.33	66.7	H17-8
11	146	III A	20	153	118	14320	753.68	100	H17-7

表54 VIII層礫群観察表(6)

報告書 No	採国 No	類型	総個数	大きさ		横成礫		備考	
				長径 (cm)	短径 (cm)	総重量 (g)	重量平均 値(g)		被熱率 (%)
12	146	III B	11	100	80	3205	320.5	90	H17-9
13	147	III B	38	277	270	11165	335.51	96.96	H17-10
14	146	I A	44	110	99	20270	482.61	78.57	H17-12
15	146	I A	19	80	40	5310	354	100	H17-11

第147図 南区VIII層遺構実測図(3)

14号礫群はJ-6区で検出し、110cm×99cmの範囲に掘り込み遺構を伴って検出される。掘り込み遺構は径46cm×39cm、深さ15cmで、被熱痕跡のある27点の礫が集積される。遺構外に17点の礫が散在し、安山岩と凝灰岩で構成される。(I A類)

15号礫群

15号礫群はJ-6区で検出し、80cm×40cmの範囲に掘り込み遺構を伴って検出される。掘り込み遺構は50cm×44cm、深さ16cmで、9点の礫を含んでいる。14と同様遺構外に10点の礫を伴っている。構成礫は安山岩と凝灰岩で、全て被熱している。(I A類)

16号礫群

16号礫群はJ-6区で検出し、掘り込み遺構を伴い、178cm×154cmの範囲で検出した。総数40点の礫で構成され、安山岩と凝灰岩・砂岩が使用される。掘り込み遺構は57cm×50cm、深さ13cmが計測され、遺構内に13点の礫が残される。また、遺構の50cm東側に67cm×47cmの楕円形状に炭化物が確認され、炭化物エリアの外に礫の拉散が見られる。なお、礫の接合検証から13号礫群と接合する1例を確認している。なお、礫は被熱の痕跡が著しい。(I A類)

17号礫群

17号礫群はJ-6区で検出した。131cm×107cmの範囲に28点の礫を確認し、安山岩と砂岩・頁岩で構成される。礫群は環状に検出され、15cm~20cm大の礫と8cm程度の2種類の礫で構成され、被熱痕が認められる。(II類)

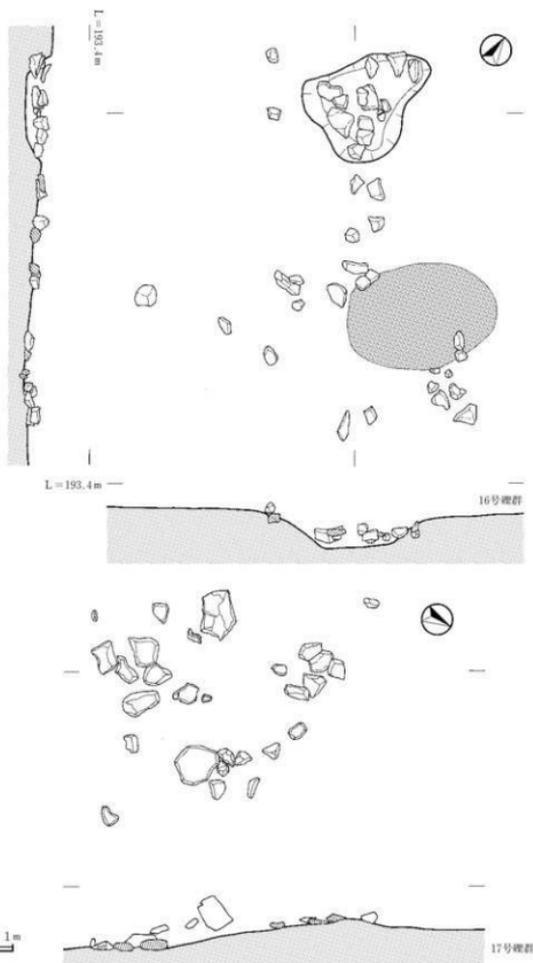


表55 VIII層礫群観察表(7)

報告書 No	陣区 No	類型	総個数	大きさ		構成礫			備考
				長径 (cm)	短径 (cm)	総重量 (g)	重量平均 値(g)	被熱率 (%)	
16	148	I A	40	178	154	8945	229.35	97.43	H17-13

表56 VIII層礫群観察表(8)

報告書 No	陣区 No	類型	総個数	大きさ		構成礫			備考
				長径 (cm)	短径 (cm)	総重量 (g)	重量平均 値(g)	被熱率 (%)	
17	148	II	28	131	107	14675	521.29	96.42	H17-14

第148図 南区VIII層遺構実測図(4)

18号礫群

18号礫群は1-7区で検出し、86cm×48cmの範囲に11点の礫が散在する。(III B類)

19号礫群

19号礫群は1-7区で検出し、43cm×16cmの範囲に5点の礫を確認した。(III A類)

2 配石炉状遺構

K-6区で検出した。148cm×78cmの範囲に44点の礫を確認し、1点の砂岩以外は安山岩が使用され、被熱による赤化が著しい。径10-15cm程度の比較的扁平な礫を多く用い、楕円形に配している。礫の残りは西側が整然と残され、中央部に炭化物が多く認められることから配石が状遺構と判断している。なお、掘り込み遺構等の構築は確認できていない。

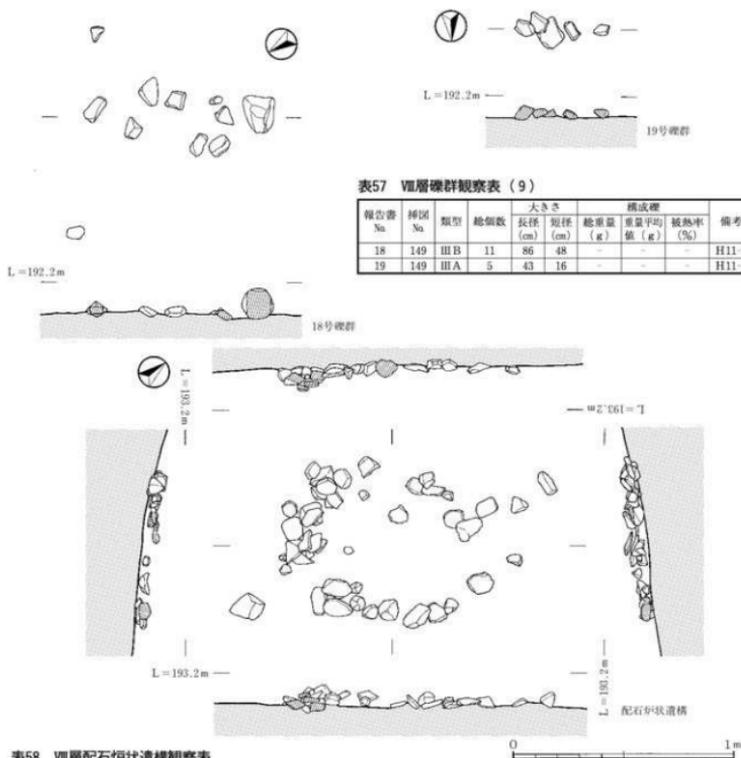


表57 VIII層礫群観察表 (9)

報告書 No	採区 No	類型	総個数	大きさ		構成礫		備考
				長径 (cm)	短径 (cm)	総重量 (g)	重量平均 値 (g)	
18	149	III B	11	86	48	-	-	H11.2
19	149	III A	5	43	16	-	-	H11.1

表58 VIII層配石炉状遺構観察表

報告書 No	採区 No	類型	総個数	大きさ		構成礫		備考
				長径 (cm)	短径 (cm)	総重量 (g)	重量平均 値 (g)	
配石炉状遺構	149	配石炉	44	148	78	13955	324.33	100 配石遺構

第149図 南区VIII層遺構実測図 (5)

第3節 遺構 (北区)

20号礫群

20号礫群はDD-10区のIX層上面で検出し、75cm×56cmの範囲に散在した12点の礫で構成する。集積状況が拡散した可能性は想定できる。(III B類)

21号礫群

21号礫群はDD-10区のIX層上面で検出し、68cm×59cmの範囲に18点の礫が集中し、拡散した状況が読みとれる。(II類)

22号礫群

22号礫群はDD-10区のIX層上面で検出し、浅い掘り込み遺構(27cm×24cm、深さ5cm)を中心に17点の礫が集積する。(I C類)

23号礫群

23号礫群はEE-11区のIX層上面で検出し、掘り込み遺構(40cm×32cm、深さ15cm)を中心に、28点の礫が集積する。(I A類)

24号礫群

24号礫群はEE-11区のIX層上面で検出した、44cm×

26cmの範囲に7点の礫を確認した。礫群を中心に138cm×108cmの範囲で、炭化物の分布が確認される。なお、礫群内の2点からは敲打痕が確認され、転用されたと判断できる。(III A類)

25号礫群

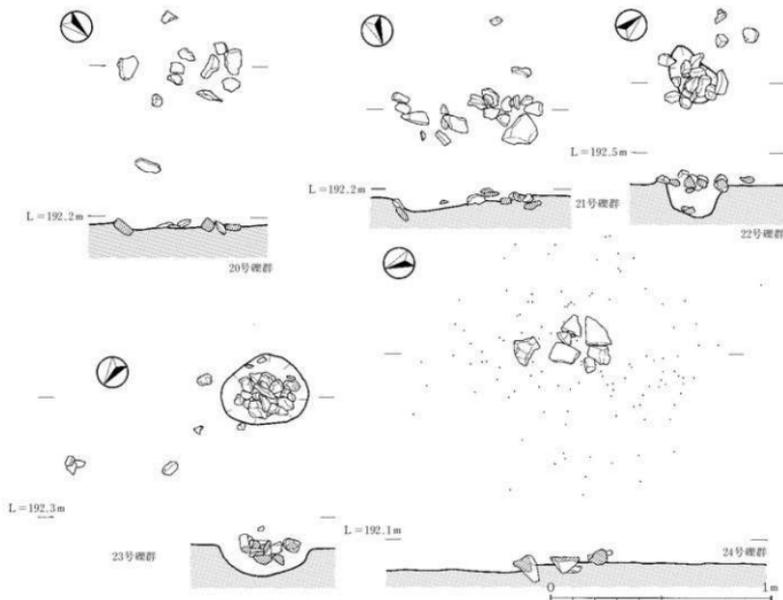
25号礫群はEE-10区のIX層上面で検出した。調査区境での検出のため全形は明らかではないが、径50cm、深さ20cm程の掘り込み遺構が認められ、礫は遺構中から検出している。(I C類)

26号礫群

26号礫群はFF・GG-9区で検出し、46cm×43cmの範囲に7個の礫が確認された。12~25cmの比較的大型の礫で構成されているが、掘り込み遺構や炭化物は確認されていない。(III B類)

27号礫群

27号礫群はJJ-10区で検出した。197cm×122cmの範囲に12個の礫が確認され、6~9cm前後の礫を中心に散在した状態である。(III A類)



第150図 北区Ⅷ層遺構実測図(1)

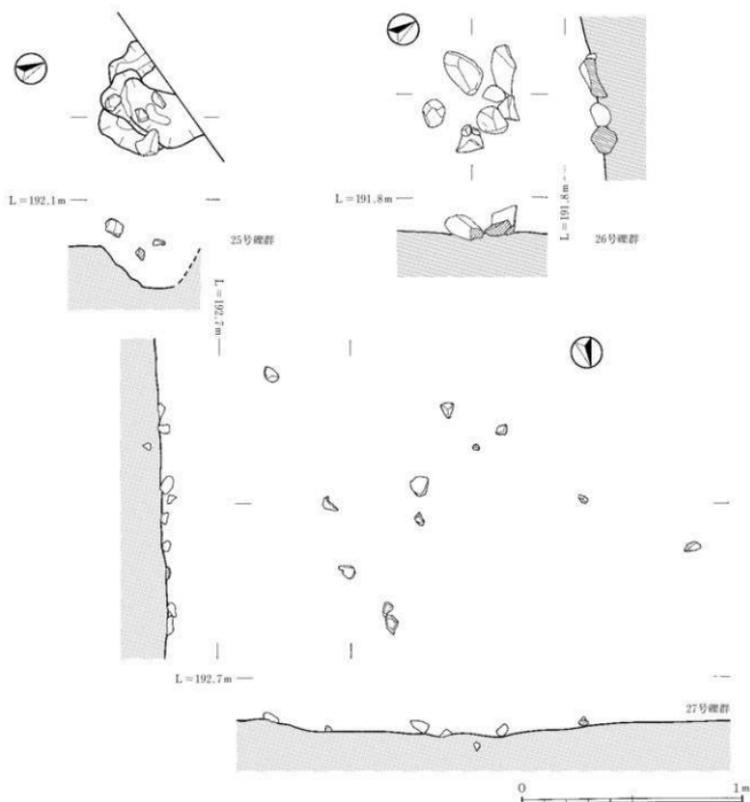


表59 VIII層礫群観察表 (10)

報告書 No	検体 No	類型	総鋼数	大きさ		構成礫		備考	
				長径 (cm)	短径 (cm)	総重量 (g)	重量平均 値 (g)		
20	150	III B	12	75	56	1815	151.25	100	H14-5
21	150	II	18	68	59	3285	182.5	100	H14-6
22	150	I C	17	46	45	2760	162.35	88.23	H14-4
23	150	I A	28	62	54	4310	153.92	100	H14-3

表60 VIII層礫群観察表 (11)

報告書 No	検体 No	類型	総鋼数	大きさ		構成礫		備考	
				長径 (cm)	短径 (cm)	総重量 (g)	重量平均 値 (g)		
24	150	III A	7	44	26	3550	507.14	100	H14-1
25	151	I C	3	30	29	1310	436.67	100	H14-2
26	151	III B	7	46	43	10830	1547.14	100	H8-2
27	151	III A	12	197	122	-	-	-	H8-1

第151図 北区VIII層遺構実測図 (2)

第4節 遺構間接合 (南区)

1 礫接合状況

V層で検出された礫群を構成する礫の接合作業を行った結果、遺構内接合が15点、遺構間接合が5点確認できた。このうち遺構間接合でできた5点を資料とし、遺構の構成について検討した。なお、遺構間の接合状況は第152・153図に示した。

遺構別に見るとK-6区の9号~11号間の接合が4点、K・J-6区の13号・16号間の接合が1点である。

2 9号~11号礫群間接合 (4点)

① 9号・11号礫群間接合 (3点)

K-6区の9号礫群と11号礫群間で3点が接合した。遺構間は2m、石材は3点とも安山岩で、被熱の痕跡が認められる。3点とも各礫群から1点ずつが接合しているが、11号の礫の方が大きい傾向である。

② 9号・10号礫群間接合 (1点)

K-6区の9号礫群と10号礫群間で1点が接合し、遺構間は80cmである。石材は安山岩で被熱している。礫は10号礫群からのものが1点、9号礫群からのものが3点で、破砕順序は10号礫群検出の礫と9号礫群の礫が破砕した後、9号礫群の3点が破砕したと思われる。9号礫群検出の礫が3点とも100~130g前後であるのに対し、10号礫群検出の礫は490gと大きい。

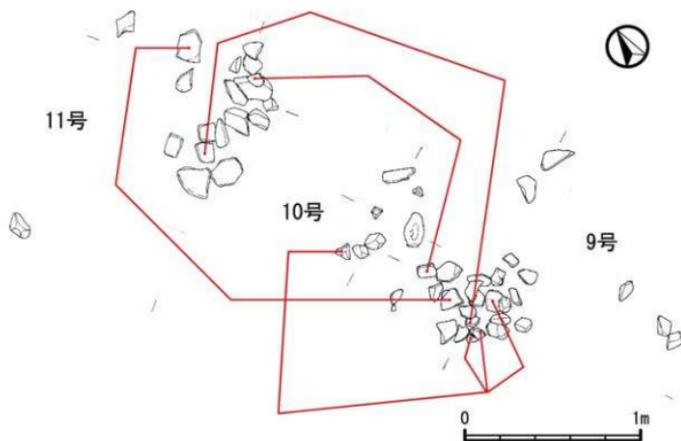
これら4点の接合資料からは、10号もしくは11号から

検出した礫が9号から検出した礫よりも大きい傾向であることが明らかとなった。しかし、いずれの礫群も掘り込みが確認されず、10号・11号に至っては礫群の中に礫の集中も見られない。遺構間が2m以内であることも併せて考えると遺構の再構築であるのか、使用した礫の飛散状態であるのかははっきりしない。

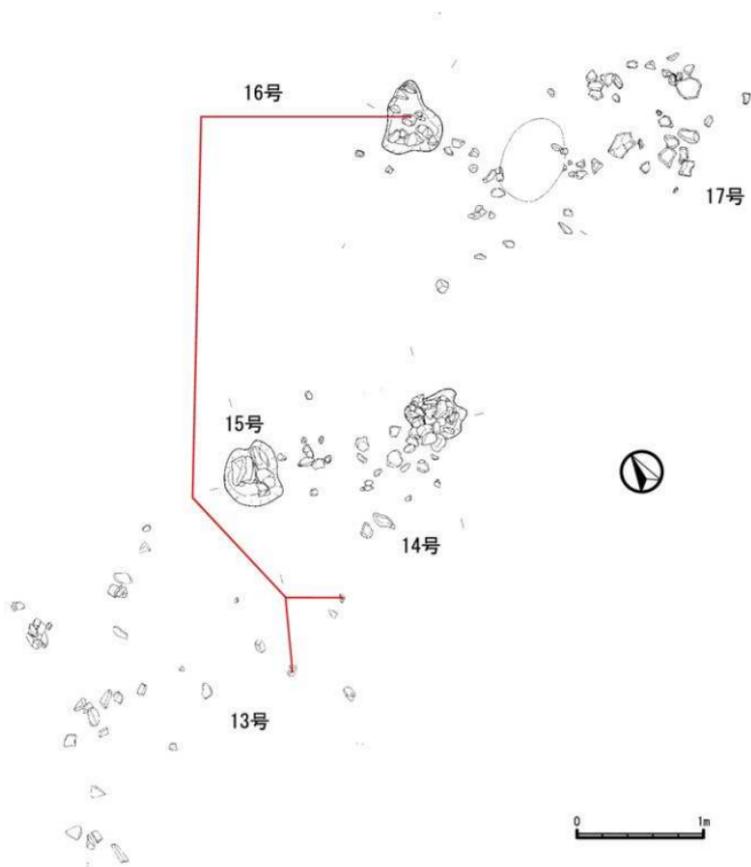
3 13号・16号礫群間接合 (1点)

K・J-6区の13号礫群とJ-6区の16号礫群間で1点が接合した。遺構間は4mである。石材は安山岩で非常にもろい。礫は13号礫群からのものが2点、16号礫群からのものが1点で、破砕順序は礫の風化が激しく不明である。13号礫群からの礫はいずれも礫群周辺部に飛散した状態で検出されているが、16号礫群からの礫は13号礫群からの礫と比べて大きく、掘り込みの中心下部から検出されている。

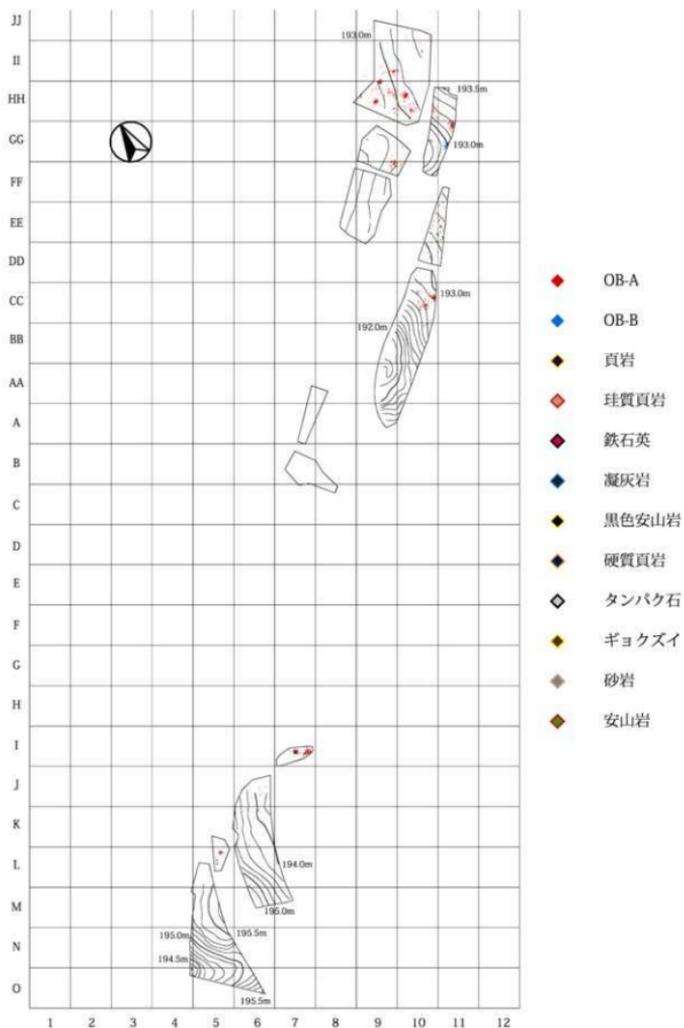
この接合資料からは、破砕した中で最も大きな礫が16号礫群の掘り込み遺構内の構成礫として検出されていることが明らかとなった。このことから周囲に散在する礫を利用して16号礫群が構築された可能性が伺える。しかし、礫群の再構築についてはあまりにも資料が少なすぎるので検討できなかった。なお、12号礫群と15号礫群から検出した礫が1点ずつの仁田尾遺跡から検出された礫群の礫と接合しているので、礫群の再構築についてはこれから明らかになる可能性が期待できる。



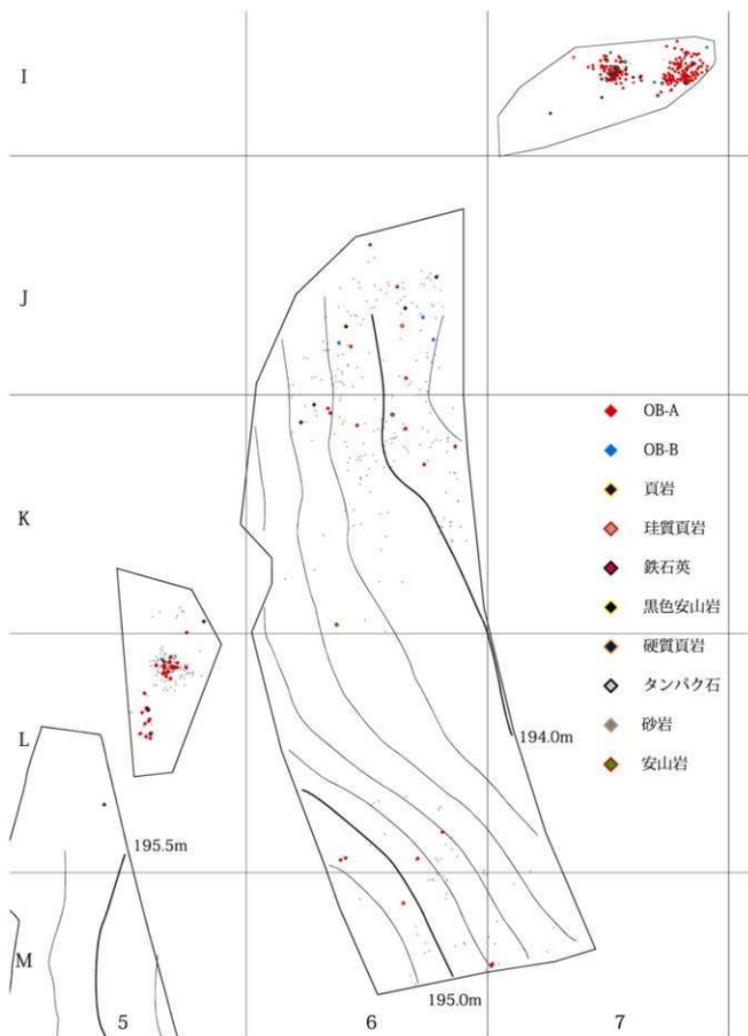
第152図 構成礫検出状況図 (1)



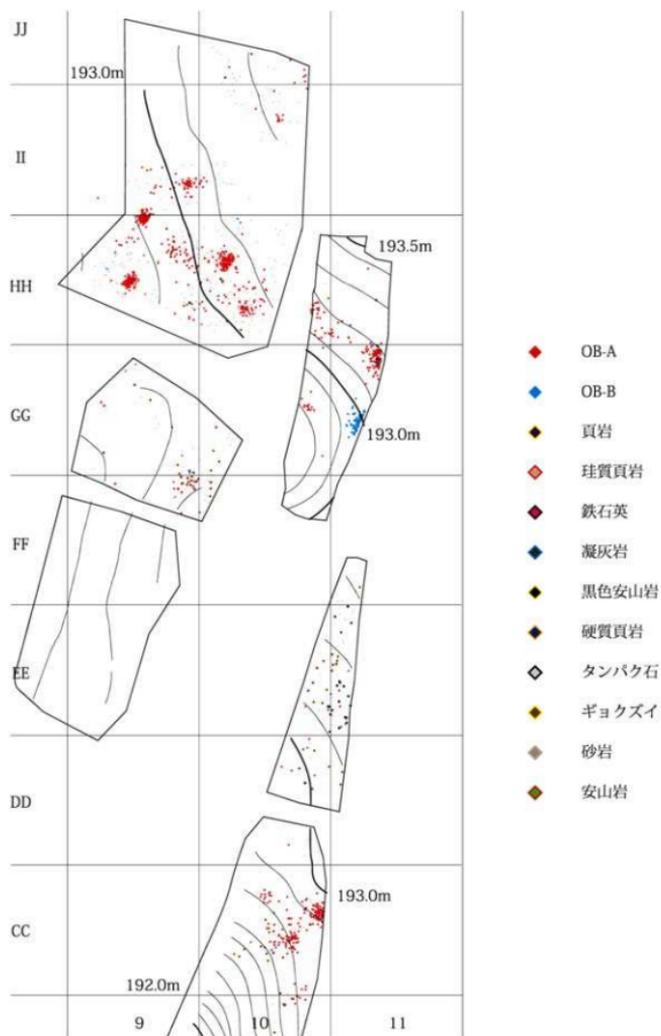
第153図 構成礎検出状況図 (2)



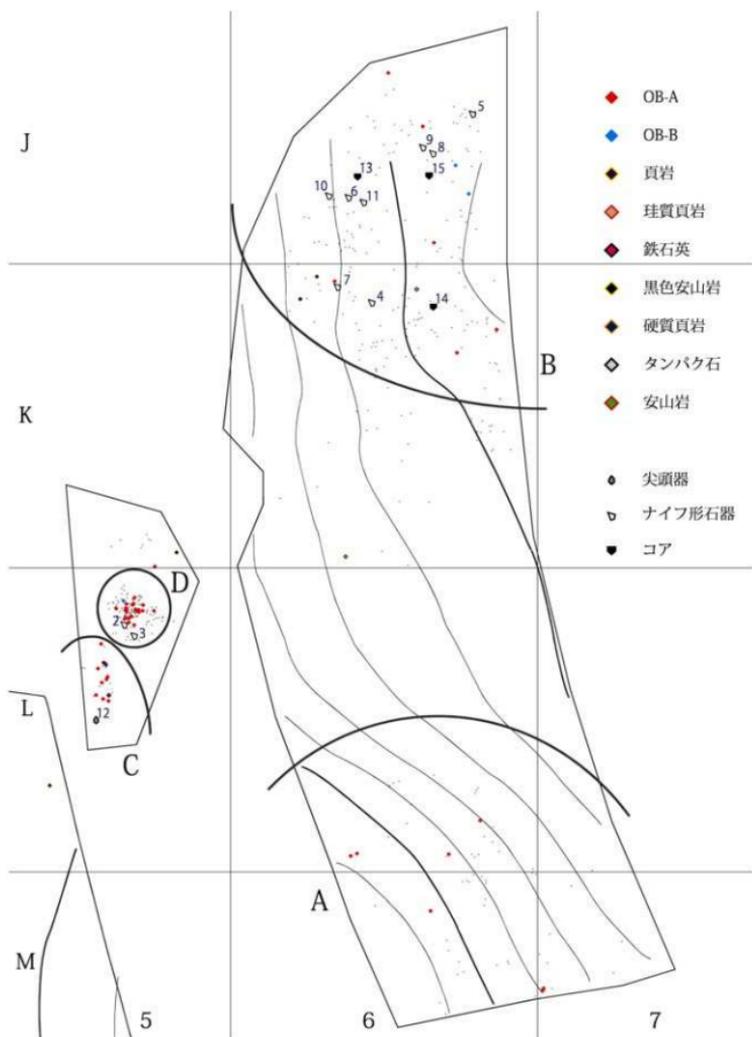
第154図 縄文石器出土状況図



第155図 南区Ⅷ層石器出土状況図



第156図 北区Ⅷ層石器出土状況図



第158図 Ⅷ層石器出土状況図 (A~D)

第5節 石器

1 概要

Ⅷ層はV, VI, IX, XIII, XIV各地区を除いた地区で出土している。遺物量は1,539点とあまり多くないが、ナイフ形石器を中心とするまとまった石器群を検出した。

2 遺構

ブロックはA～Xまでの24基検出された。ブロックの認定にあたっては、視覚的なまとまりを基にした。各々の出土量は多くなく、中には定型石器を含まないブロックも多くみられる。以下に各ブロックの概要を述べたい。なお、X I地区のQ～Xブロックについては、いずれもOB-Aを中心とするブロックで時期的にまとめられる可能性が高いと判断し、1つのユニットとしてまとめて取り扱った。

Aブロック

遺物総数8点で構成されるブロックである。いずれもOB-Aで、定型石器を含まない。

Bブロック

遺物総数24点で構成されるブロックである。主要な石材はOB-Aが11点、OB-Bが3点、硬質頁岩が3点である。硬質頁岩、OB-Aのナイフ形石器製作に関するブロックと位置づけられる。

Cブロック

遺物総数14点で構成されるブロックである。主要な石材はOB-Aが9点、鉄石英2点であり、シルト質頁岩の剥片尖頭器は搬入品である。

Dブロック

遺物総数31点で構成されるブロックである。主要な石材はOB-Aが24点であり、ナイフ形石器2点も含まれることから、OB-Aのナイフ形石器製作に関するブロックと位置づけられる。

Eブロック

遺物総数52点で構成されるブロックである。主要な石材はOB-Aが38点、タンバク石5点、頁岩4点である。OB-Aのナイフ形石器製作に関するブロックと位置づけられる。瑪瑙製のナイフ形石器は搬入品である。なお、粘板岩製の両面加工尖頭器については、調査区の際で出土しており、隣接する西回り自動車道建設に伴い調査された仁田尾遺跡の調査区際で同石材のブロックが検出されていることを考えると、製作を伴うものであると考えられる。

Fブロック

遺物総数68点で構成されるブロックである。主要な石材はOB-Aが59点であり、石核、ナイフ形石器が出土していることからOB-Aのナイフ形石器製作に関するブロックであると位置づけられる。硬質頁岩と瑪瑙製のナイフ形石器については搬入品である。

Gブロック

遺物総数15点で構成されるブロックである。主要な石材は、OB-Aが8点、頁岩が5点である。定型石器はみられない。

Hブロック

遺物総数83点で構成されるブロックである。主要な石材は、OB-Aが67点、頁岩が9点である。OB-Aのナイフ形石器、石核が出土していることから、同石材のナイフ形石器製作に関するブロックであると位置づけられる。

Iブロック

遺物総数90点で構成されるブロックである。主要な石材は、OB-Aが86点である。ナイフ形石器1点が出土しており、同石材のナイフ形石器製作に関するブロックであると位置づけられる。

Jブロック

遺物総数18点で構成されるブロックである。石材は全てOB-Aで、定型石器の出土はみられない。

Kブロック

遺物総数12点で構成されるブロックである。主要な石材は頁岩5点である。定型石器の出土はみられない。

Lブロック

遺物総数43点で構成されるブロックである。主要な石材はタンバク石14点、安山岩7点、頁岩7点である。OB-Aの楔形石器1点のみで、ブロックの位置づけは明確にできない。

Mブロック

遺物総数36点で構成されるブロックである。主要な石材はOB-Aが5点、砂岩4点、安山岩11点、硬質頁岩5点等である。OB-Aの台形石器製作が行われている他、多様な石材が出土しているのが特徴である。

Nブロック

遺物総数124点で構成されるブロックである。主要な石材はOB-Bが90点である。OB-Bの定型石器がないため正確が把握できない。当遺跡においてはOB-Bを主体とするブロックは当ブロックのみである。

Oブロック

遺物総数165点で構成されるブロックである。主要な石材はOB-Aが119点である。定型石器の出土はみられない。

Pブロック

遺物総数48点で構成されるブロックである。主要な石材はOB-Aが38点である。定型石器の出土はみられない。

Q～Xブロック

遺物総数669点で構成されるブロックである。主要な石材はOB-Aが591点で、ほとんどを占める。同石材のナイフ形石器、石核が出土しており、OB-Aのナイフ形石器製作に関するブロックであると位置づけられる。

3 出土遺物

I・II地区(Ⅷ層)第162図

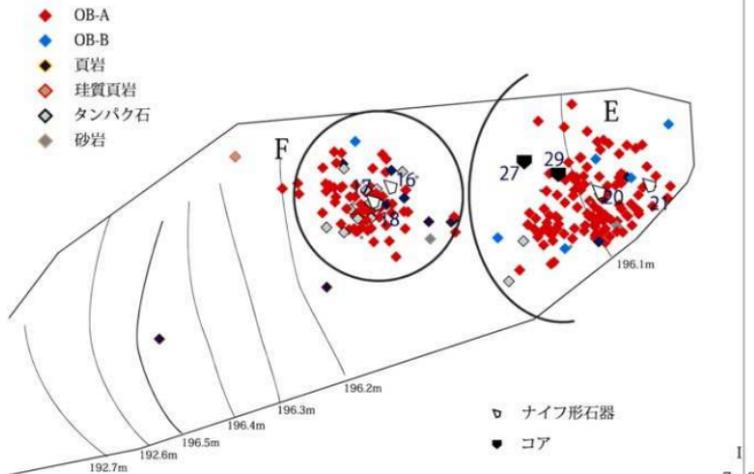
1はシルト質頁岩製の二側縁加工ナイフ形石器で、両側縁は成形加工の剥離後、この剥離面に重なる連続する小剥離が認められる。なお、腹面に残る左側縁の大剥離は、先行する成形及び整形加工を断ち切ることから、ダメージ痕の可能性が考えられる。また、正面基部側の稜線部の小剥離は、基部作出と見られる。2のナイフ形石器は赤色の鉄石英製で、厚手の縦長剥片素材の形状を活かし、底面には剥離の際の打面がそのまま残る。なお、右側縁基部側の2枚の剥離面は、素材剥片に伴う先行した剥離面の可能性が高い。左側縁に表面方向からの連続した剥離が加えられ、先端部の使用目的を補強した感がある。3はOB-A製のナイフ形石器で、先端方向を欠損し、右側縁部の大剥離面のパチナが進行している。基部の特に左側の加工が急念に行われ、加撃による成形剥離に重なるように、連続した細かい剥離が観察される。この連続した小剥離は、ハンマーストーン等の工具の押し付けによる押圧状の剥離と推測される。欠損面は、稜線上からの圧力が加わって欠損したと観察される。入りが観察できる。

III地区 (Ⅷ層) 第163・164団

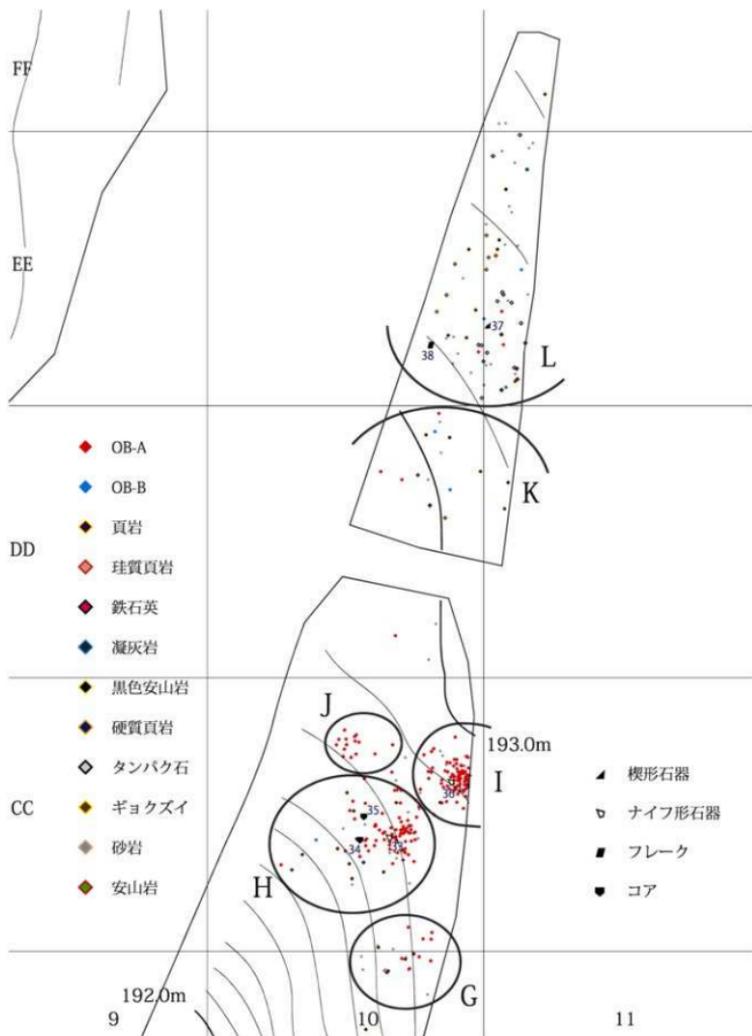
4～7は広義の切出形ナイフ形石器である。なお、基部に繋がる短辺の挿入状整形はやや緩慢な感があるが、石器形状及び側縁部を急角度に整形加工していること、また、打面転移を頻繁に行う多面体石核から剥離された分厚い剥片を素材とすること等の規則性が抽出できることから、狸谷型ナイフ形石器の特徴を備えている。狸谷

型ナイフ形石器の標識である狸谷遺跡の石器と相連する部分に関しては、本遺跡を拠点に石器製作を展開した彼らの独自の姿容形態と捉えない。

4はOB-Aを用い、素材剥片の剥離軸は刃部とほぼ並行と判断できる。左側縁は表面方向からの加撃による成形剥離後、小剥離による整形剥離が加えられている。なお、左側縁の先端部剥離面と右側縁の基部の剥離面は、素材剥片剥離に先行している。刃部の正面右半分には、刃こぼれと見られる微細剥離痕が顕著に残されている。5は頁岩製で、先端部は正面側からの圧力で欠損している。素材剥片の剥離軸は刃部とほぼ並行で、左側縁は裏面方向の基部側からの加撃による並行成形剥離に、小剥離による整形剥離が認められる。この小剥離は、成形剥離面に工具を押し付けた押圧状剥離により整形加工と見られる。4の長辺に相当する左側縁はやや内湾気味に成形されるが、5ではやや外湾気味に丸み急角度に加工される。一方、基部形状は酷似した仕上げとなる。6はOB-B製で、長辺が右側縁部、短辺が左側縁部となる。なお、素材剥片の剥離軸は刃部と対向する関係にあり、短辺に相当する素材剥片の打点部は大きく除去されている。右側縁の加工は、先行している大剥離で大きく打点を除去し、その後、加撃による急角度剥離、急角度剥離面に重ねた押圧状剥離で仕上げたと見られる。左側縁は直線状を成し、背面方向からの加撃による成形剥離後、押圧状剥離による小剥離が密に加えられている。刃部の先端部付近に、刃こぼれと見られる微細剥離痕が観察で



第159図 Ⅷ層石器出土状況図 (E・F)



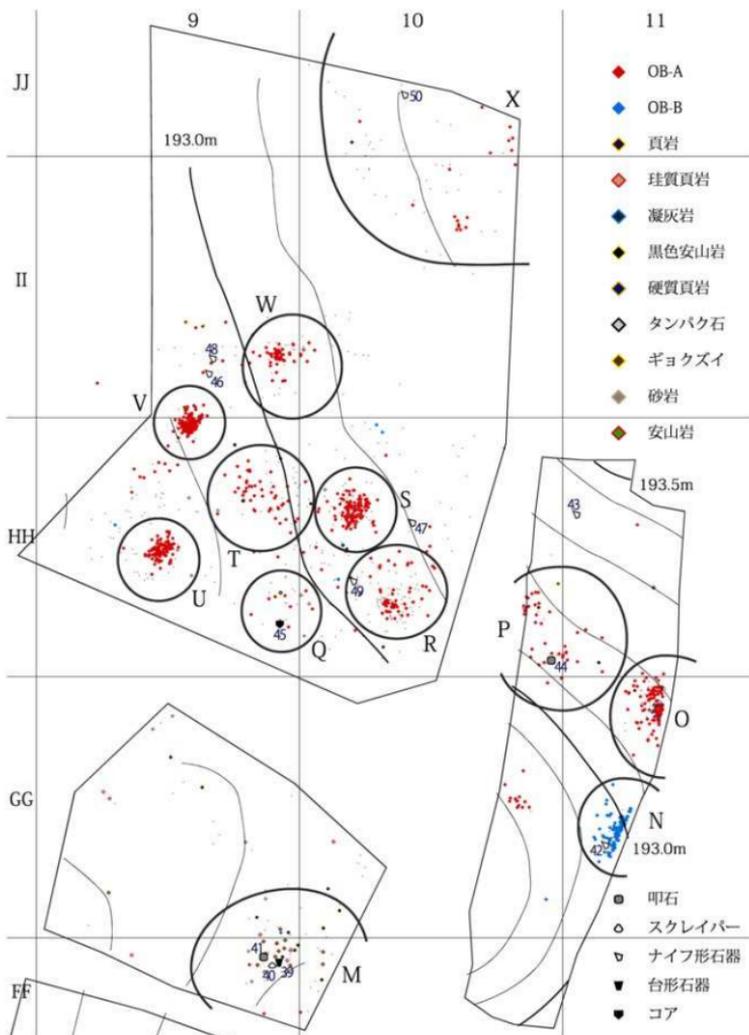
第160図 Ⅷ層石器出土状況図 (G~X)

表61 Ⅷ層ブロック観察表

ブロック	石材	区	規模 (m)	総数	割片 等	スケ レイ ヤー	削器	石核	土器	甲石	砥石	ナイ フ形 石器	割片 尖頭 器	両面加 工尖頭 器	白形 石器	楔形 石器	備考			
A	OB-A	Ⅲ	10×8	7	7															
	チップ			1	1															
B	OB-A	Ⅲ	10×8	11	6			1				4								
	OB-B			3	2							1								
	タンバク石			1	1															
	チップ			1	1															
	珪質頁岩			1						1										
	硬質頁岩			3	1									2						
	黒色安山岩			1						1										
	軟質シルト質頁岩			1										1						
	粘板岩			1	1															
	頁岩			1	1															
C	OB-A	Ⅱ	2×3	9	9															
	OB-B			1	1															
	チップ			1	1															
	軟質シルト質頁岩			1										1						
D	鉄石英	Ⅱ	2×2	24	23							1					完全検出			
	OB-A			1	1															
	OB-B			1	1															
	チップ			4	4															
	鉄石英			1										1						
E	頁岩	Ⅳ	1×1	1	1												完全検出			
	OB-A			38	35							3								
	OB-B			1	1															
	タンバク石			5	5															
	チップ			1	1															
	粘板岩			1												1				
	珪岩			1																
	砂岩			1	1									1						
	頁岩			4	2	1				1										
	F			OB-A	Ⅳ	2×2	59	51	1		5				2					完全検出
OB-B		3	3										1							
硬質頁岩		1												1						
タンバク石		2	2																	
珪岩		1													1					
珪質頁岩		1	1																	
砂岩		1	1																	
頁岩		1	1																	
G	OB-A	Ⅶ	3×2	8	8												完全検出			
	凝灰岩			1	1															
	珪質頁岩			1	1															
	頁岩			1	1															
H	OB-A	Ⅶ	5×4	67	64			2				1					完全検出			
	OB-B			1	1															
	チップ			4	4															
	凝灰岩			1	1															
	硬砂岩			1	1															
	頁岩			9	9															
I	OB-A	Ⅶ	2×2	86	85							1								
	チップ			3	3															
	頁岩			1	1															
J	OB-A	Ⅶ	2×1	18	18												完全検出			
	OB-A			4×3	1	1														
K	OB-B	Ⅶ	4×3	2	2															
	安山岩			1	1															
	硬質頁岩			1	1															
	鉄石英			1	1															
	頁岩			5	5															

表62 Ⅷ層ブロック観察表

ブロック	石材	区	規模 (m)	総数	割片 等	スケ レイ ヤー	削器	石杵	土器	甲石	砥石	ナイ フ形 石器	割片 尖頭 器	両面加 工尖頭 器	白形 石器	楔形 石器	備考			
L	OB-A	Ⅷ	10×4	4	3											1				
	OB-B			3	3															
	ギョクズイ			1	1															
	硬質頁岩			1	1															
	タンバク石			14	14															
	安山岩			7	7															
	凝灰岩			1	1															
	黒色安山岩			1	1															
	鉄石英			4	4															
	頁岩			7	7															
	M			OB-A	X	3×3	5	4										1		
OB-B		1	1																	
頁岩		2	1	1																
砂岩		4	3								1									
安山岩		11	11																	
埴質頁岩		4	4																	
硬質頁岩		5	5																	
黒色安山岩		3	3																	
炭		1	1																	
N	OB-A	X II	2×2	1							1									
	OB-B			90	90															
	チップ			33	33															
O	OB-A	X II	3×2	119	119															
	OB-B			3	3															
	タンバク石			1	1															
	チップ			41	41															
	頁岩			1	1															
P	OB-A	X II	4×4	38	38															
	ギョクズイ			1	1															
	砂岩			1						1										
	チップ			5	5															
	埴質頁岩			1	1															
	硬質頁岩			1	1															
	頁岩			1	1															
Q-X	OB-A	X I	23×18	591	586			1				4					完全検出			
	OB-B			4	4															
	ギョクズイ			4	4															
	タンバク石			1	1															
	チップ			49	49															
	凝灰岩			1	1															
	埴質頁岩			3	3															
	硬質頁岩			2	2															
	黒色安山岩			2	1									1						
	砂岩			8	8															
	頁岩			4	4															
	外			OB-A	-		18	17							1					
				OB-B			1	1												
タンバク石		1	1																	
チップ		3	3																	
安山岩		3	3																	
凝灰岩		2	2																	
埴質頁岩		4	4																	
黒色安山岩		1	1																	
砂岩		3	3																	
軟質シルト質頁岩		1	1																	
頁岩		2	1											1						



第161図 K・X・XI 地区石器出土状況図

きる。7はOB-A製で、素材剥片の剥離方向は先行する刃部剥離方向とはほぼ直行する関係にあり、後の高い分厚い剥片を素材選択している。長辺を左側縁に短辺を右側縁とし、直線的な側縁に仕上げている。なお、整形加工により素材剥片の形状は、打点除去を含め大きく変えられている。両側縁の急角度の整形剥離はハードな加撃とソフトな加撃の二段階が認められ、最終的には押圧状剥離で仕上げている。特に、刃部の両先端部は鋭利に仕上げた意図が読みとれる。また、他の3点と比較して基部は鋭い。

8・9の2点は、石器の主軸に対し直行する刃部形成することから台形椀石器に区分した。8の素材剥片が扁平であることを除くと、先の狸谷型ナイフ形石器の素材選択は共通する。なお、台形椀石器でしばしば認められる平坦剥離手法による成形剥離は本例では認められない。

8は硬質頁岩製で、素材剥片の剥離方向は裏面・正面・刃部共にほぼ同一と判断できる。なお、3面の剥離の先後関係は、正面→刃部→裏面の順である。扁平な剥片を用い、両側縁の加工は加撃による成形剥離に微細な整形加工が施される。成形及び整形剥離は全て裏面側から実施し、素材剥片の打点等は大きく除去され、基部は鋭利に仕上げている。9は軟質シルト質頁岩製で、左側縁は先行した平坦面が使用されている。このことは、正面中央部から基部にかけて成形剥離が左側縁の稜線に沿って行われていることから、側縁加工後に欠落した可能性が考えにくく、平坦な飾り面をそのまま活かしたと考えられる。右側縁から基部にかけての加工は、全て裏面から急角度で実施している。

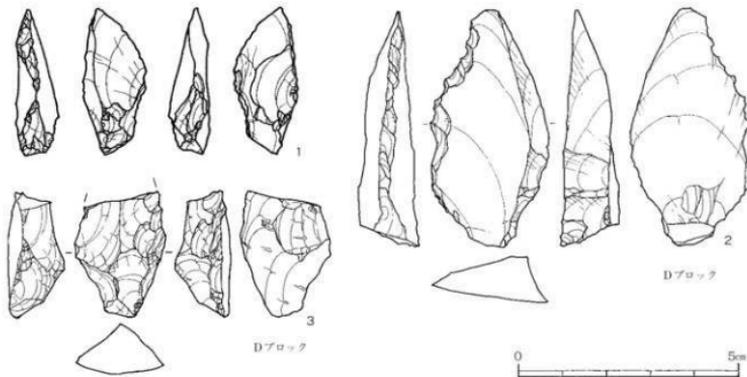
10はOB-Aを用いた側縁加工ナイフ形石器で、下平

部は欠損と判断している。側縁部の整形剥離は、ハンマー・ストーンによる加撃により先端部方向から基部方向に順次行い、その後、工具による押圧状剥離を重ねて仕上げている。刃部側の欠損使用に絡むダメージと見られるが、詳細は読みとれない。11はOB-A製のナイフ形石器で、主に右側縁部に腹面方向からの成形及び整形剥離が認められる。

12は軟質シルト質頁岩製の剥片尖頭器で、平坦な打面から剥離した先端部がやや内湾し先細りする縦長剥片を素材としている。打面はそのまま残し、製作に関わる二次加工は全て背面から行っている。基部の作出は、直接加撃により両側縁を深く大きく抉り出し、その後、成形剥離による加撃を複数回重ね、さらに微細な整形剥離が認められる。また、背面に打面から先端部に向かう平坦状剥離が見られるが、これらは基部の挿入・装着を意図したものと解される。抉り部から先端部の両側縁にも二次加工が行われているが、左側縁が急角度に実施されている。また、腹面の一部に左側縁を断ち切る複数の平坦な剥離が認められるが、その目的は明らかでない。

13-15は石核で、13は黒色安山岩、14はOB-A、15は珪質頁岩を用いている。

13は打面転移を繰り返す剥片剥離が見られ、正面左側の先行剥離面は、左側面及び打面に先行している。いずれの面からも不定形な剥片が剥ぎ取られている。14は左側面と背面には礫面が残る、小角礫素材を用いたことが理解できる。打面は先行した剥離面を利用し、右側面は背面の礫面が打面となる。残される剥離痕からは、不定形剥片を取り出したことが観察される。15の作業面と打面は鋭角を成し、最終作業に残される剥離痕から燻香剥



第162図 I・II地区埋層出土遺物

離（ヒンジ・フラクチャー）を生じている。

IV地区（Ⅷ層）

16は玉髄製のナイフ形石器で、いわゆる切出型ナイフ形石器に該当する。なお、正面の平坦面はパティナが進行していることから、素材礫面の可能性が高い。断面三角形の厚い横長剥片を素材とし、基部方向の下半部は大きく除去される。左側縁は裏面方向からの加撃による成形剥離が行い、さらに微細な小剥離が加えられ、先端部まで及んでいる。一方、右側縁部は正面方向から加撃による成形剥離が認められる。なお、正面右側縁部に残される狭い平坦面は、節理面の可能性が高い。17はOB-A製で、整形加工部を左側縁基部付近と判断したが、左側縁上位の平坦面が先行する剥離面の可能性もあることから、大いに疑問が残される。18はOB-A製の一個縁加工ナイフ形石器で、素材剥片の形状及び獲得方法は16と共通する。実測図は第165図に示したが、ポジティブ面の表が逆（表裏）の可能性が高い。背面の成形剥離は表裏から加撃で行い、背面中央部の剥離が成形剥離の最終となり、特に先端部では、微細な剥離を加えて上げている。19は頁岩製で、縦長の不定形剥片を使用している。なお、打面も礫面の可能性を残している。正面から裏面方向への微細な剥離痕が側縁部に観察されことから、二次加工剥片と判断される。

21-24は切出型ナイフ形石器で、22・23は窪谷型ナイフ形石器に区別できる。

20と21は同一区内で接合したもので、その距離は4cmである。OB-A製で、素材剥片の打点部は左側縁上位に位置している。素材剥離方向（腹面）と背面剥離方向は概ね一致するが、刃部は腹面により断ち切られたシャープなエッジを用いている。長辺及び短辺の両側縁は全て腹面からの加撃による成形剥離で行い、中央部から基部にかけてはさらに細い整形剥離を重ねている。先端部は、背面方向からのダメージで欠損したと見られる。なお、素材剥片の選択やその形状から、窪谷型ナイフ形石器を意識していたと推定される。22はOB-A製で、いわゆる窪谷型ナイフ形石器である。断面三角形の厚手の剥片を素材とし、長辺が左側縁部、短辺が右側縁部となる。なお、素材剥片の剥離と刃部の剥離方向はほぼ同じであり、短辺に相当する素材剥片の打点部は除去されるがバルブスカーは残される。側縁部の成形・整形加工は背面から行い、①直接加撃による大剥離、②①の大剥離を断ち切る急角度の加撃による剥離、③②の急角度剥離面に重ねた押圧状剥離の順位が観察できる。なお、体部後縁の一部に背面からの整形剥離が認められ、左側縁は直線的に右側縁の刃部端を深く抉り出している。刃部の腹面に刃こぼれと見られる微細剥離痕が観察できる。23は硬質頁岩製で、窪谷型ナイフ形石器である。素材剥片の剥離軸は刃部とほぼ並行で、長辺の右側縁は腹面からの加

撃による成形剥離に、小剥離による整形剥離と工具による押圧状剥離で仕上げている。背面の基部加工は、右側縁からの数回の平坦状剥離で鋭角にすることで挿入・装着を意識したものと解される。24はOB-Aを用いたもので、調整剥片あるいはフランチングチップと判断される。25は黒色粘板岩製で、両面加工尖頭器として取り扱った。扁平な素材剥片の周辺部に浅い角度の剥離を行い、槍状に仕上げたもので、小牧3A型尖頭器に区別できる。先頭部と基部を欠損し、表面の大半が剥離面で構成することから、器種認定に希弱さも残されるが、累内の複数の同時期の遺跡で出土が認められることから尖頭器として取り上げた。26は玉髄製の一個縁加工ナイフ形石器で、先端部が欠損する。素材剥片は縦方向の不定形剥片で、打面はそのまま残され基部に活かされ、側縁加工は腹面から主に加撃で実施している。

27-32は石核で、いずれも不定形剥片を剥出している。27は剥片を素材とした石核の最終段階と見られる。石材はOB-Aで、打面はパティナの進行度合いから礫面の可能性もある。剥片剥離の打面は同一で、やや縦長の不定形剥片が取り出されている。28はシルト質頁岩製で、最終作業面を正面に示したが、右側縁を除く各面が作業面の対象となり、いずれも小型の不定形剥片を取り出している。29はOB-Aを用い、正面を最終作業面と判断したが、背面の稜線からも交互に行った剥離作業が確認できる。なお、底面には礫面が残される。30は打面は礫面、丈の短い横長の剥片が取れ出される。石材は、OB-A。31の石材はOB-Aで、分割礫素材の石核で、分割面を打面に求心状に剥片剥離が進行し、背面には礫面が残る。32は背面に残る礫面の観察から剥片素材と見られ、ネグティブな剥離面を打面に剥片剥離が行われている。剥離作業は右方向から左へ進み、使用石材はOB-Aである。

V地区（Ⅷ層）

33は直線的な刃部を持つ台形石器。36は基部は欠損したナイフ形石器と判断した。

33は縦長剥片の厚い端部を刃部方向とした台形石器で、刃部は素材剥片と直行し先行した剥離面で構成される。腹面と背面剥離は対向する関係にあり、右側縁は加撃、左側縁は加撃成形に押圧状の整形剥離が認められる。なお、石材にはOB-Aを用いている。36はOB-A製で、整形剥離は裏面から実施している。

34・35はOB-Aの石核で、2点共分割面を打面としたと見られ、いずれも不定形剥片が生産されている。

34は分割面を打面に横方向に打点移動を繰り返す、35では正面と右側縁の一部は分割面、背面は分割打面を切る剥離面を打面としている。

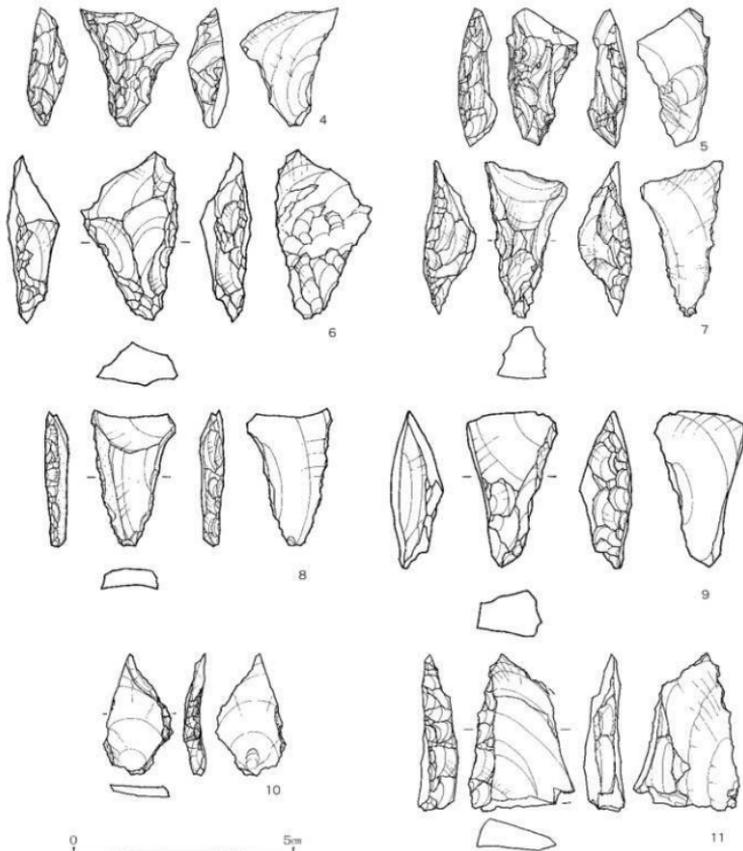
37は残核と見られるが定かたではない。使用石材はOB-A。38は硬質頁岩製の剥片で、背面には礫面を多く残す。

X・XII地区 (VIII層)

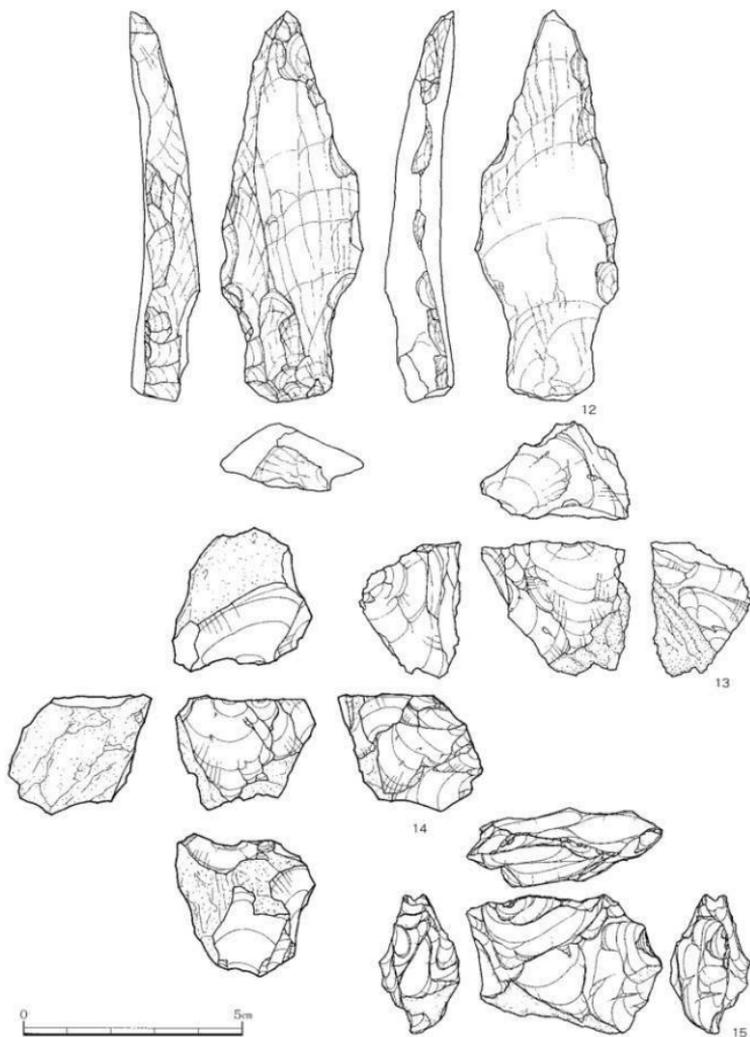
39は素材剥片が厚手の不定形剥片であること、側縁部の加工に平坦状剥離が用られることから、台形椀石器と判断した。底面は腹面を縦方向に断ち切る剥離面で形成し、右側面の整形剥離は体部中央付近まで達している。なお、右側縁の上位には、打面の一部がそのまま残される。40は変成を受けた凝灰岩製で、末端部と右側縁に腹

面方向からの二次加工が認められ削器として使用されたと見られる。打点が残らないことから、上面の剥離で切られたものと思われる。

41・44はハンマーストーンで、2点共砂岩製である。41の上面・下面に敲打による剥離痕が残される。44は使用時に節理面で分割した一辺を利用したもので、表面は平坦面を成す。



第163図 III地区VIII層出土遺物 (1) (Bブロック)



第164図 III地区Ⅷ層出土遺物(2)(Bブロック)

42・43は広義の切出型ナイフ形石器である。なお、基部に繋がる短辺の内湾状整形や形状及び背部の急角度整形加工。素材剥片が多面体石核からなることから、狸谷型ナイフ形石器の変容形態と捉えている。

2点共OB-A製で、42の短辺の右側縁は挟入状に仕上げられる。43の刃部は先行する剥離面で、腹面とはほぼ直行する関係にある。側縁の整形加工は全て腹面から行い、長辺の左側縁は急角度に実施している。

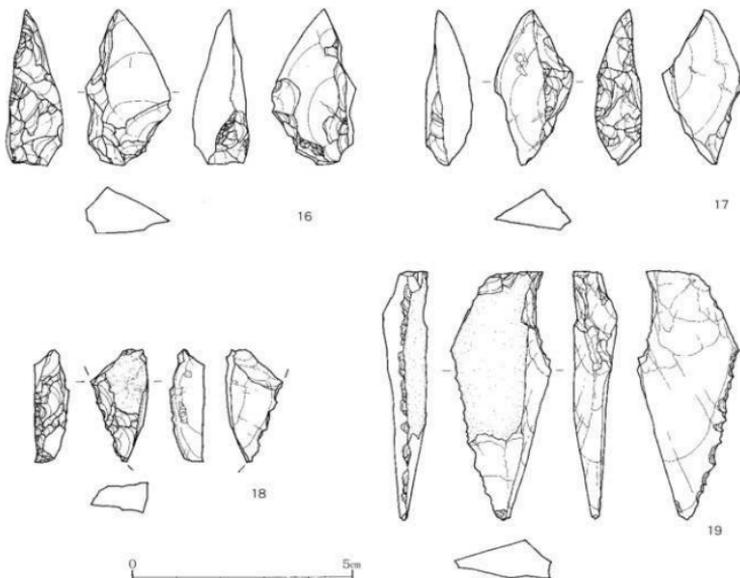
X I 地区 (VII層)

45はOB-Aの石核で、背面に残る礫面から分割礫素材と見られる。背面以外の各面が作業面の対象であり、打面転移を繰り返した多角形石核と言える。

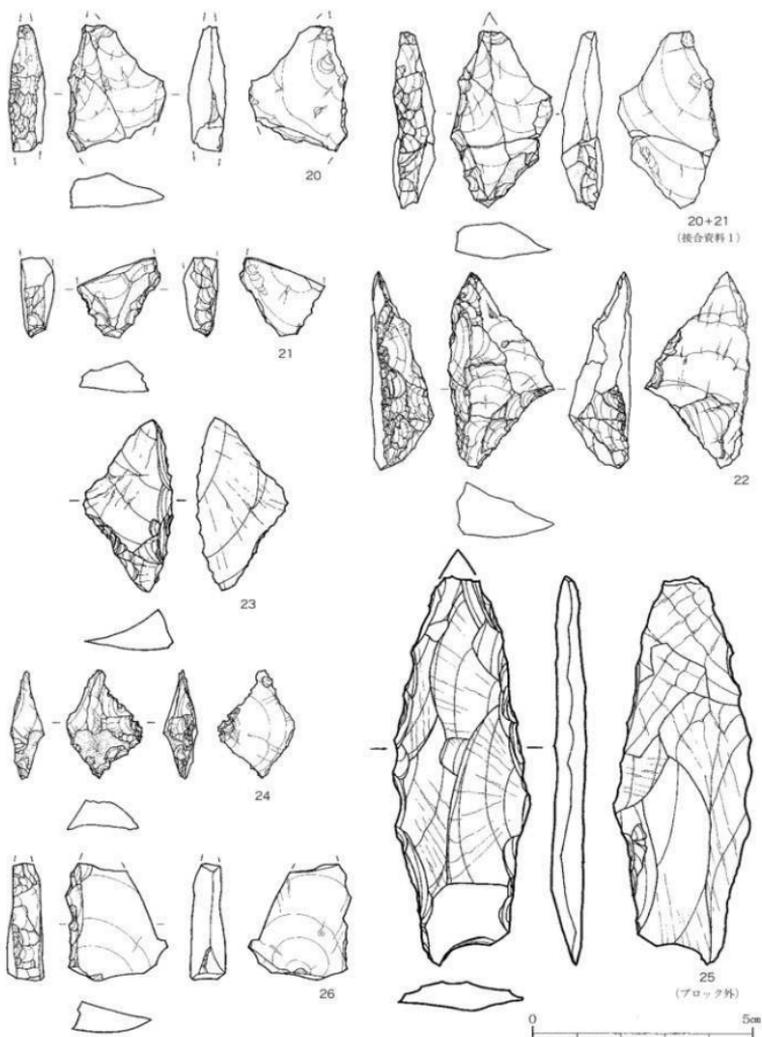
46～50は所謂切出型ナイフ形石器で、石器の主軸に対し刃部が斜めのもの(46・47・48・50)、刃部が直行する(49)が認められ、狸谷型ナイフ形石器の範疇で捉えられる。なお、47は黒色安山岩で他はOB-Aを使用している。

46は厚手の剥片を素材に長辺を左側縁部、短辺を右側縁部とし、素材剥片の剥離と刃部の剥離方向は概ね一致

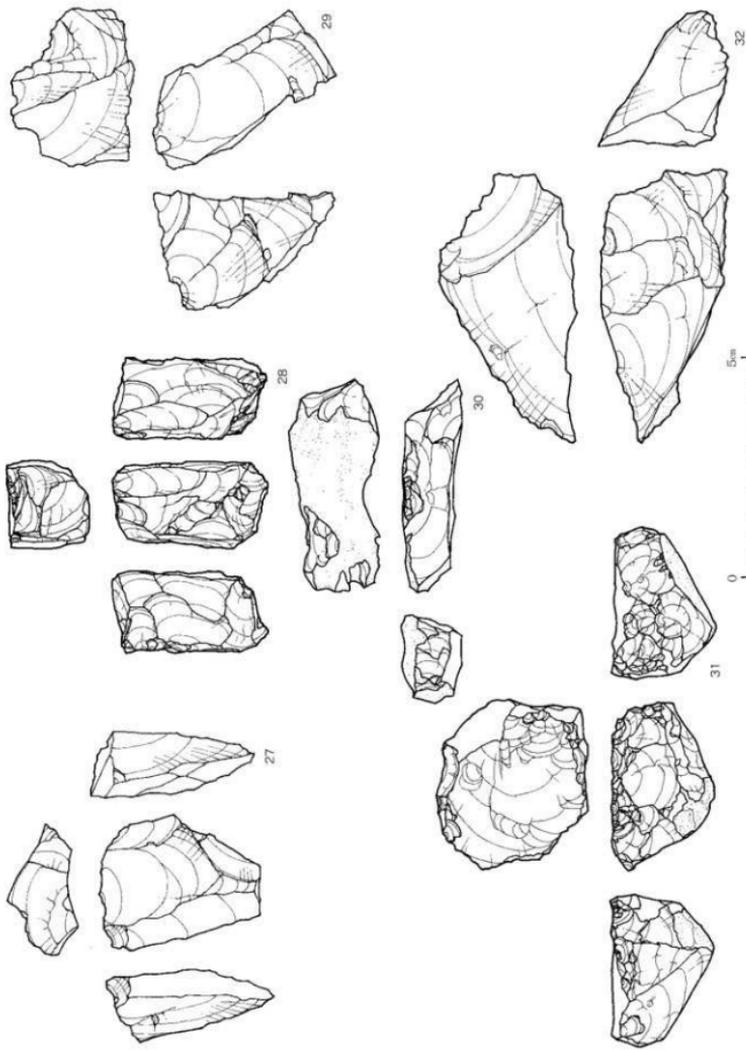
する。なお、先端部は調査時点のダメージで欠落している。47の先端部は、背面方向からの圧力で欠損している。46よりやや扁平な素材剥片の選択で、短辺側の挟入状加工は印象的と言える。両側縁の整形加工は腹面から行われているが、先端部付近では背面側からの微調整剥離が観察される。48の長辺側背面にはポジティブ・バルブが僅かに残される。両側縁加工は腹面から行われ、基部端部は鋭く仕上げられる。なお、背面の肥厚部から基部にかけては稜線部に添って数回の成形剥離が行われ、挿入を意識したものと解される。また、側縁部の先端部付近に整形剥離が集中し、工具を用いた押圧状剥離が観察される。先端部の背面側に、ダメージ痕と見られる小剥離が1枚残される。49は石器の主軸線と刃部が直行するが、素材剥片及び側縁部の急角度成形剥離、短辺側の挟入状加工等は他の4点と共通する。50の特徴は、腹面加工が行われることである。腹面加工は、短辺の背面加工後に背面方向から行い、挟入状の形状に仕上げている。



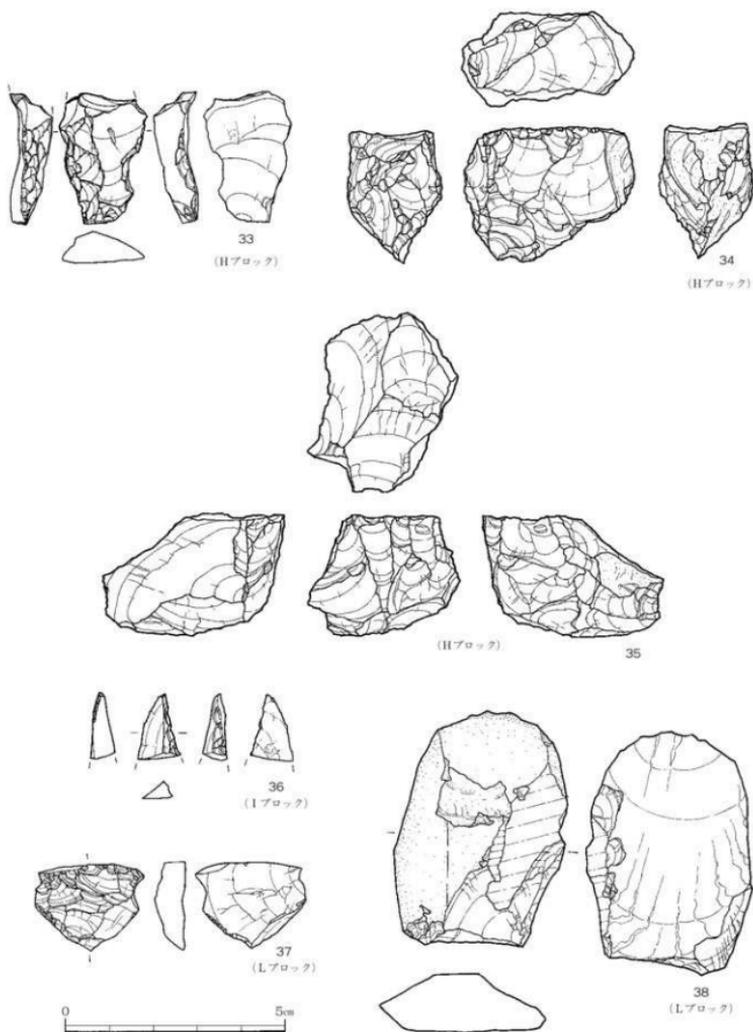
第165図 IV地区VII層出土遺物(1)(Eブロック)



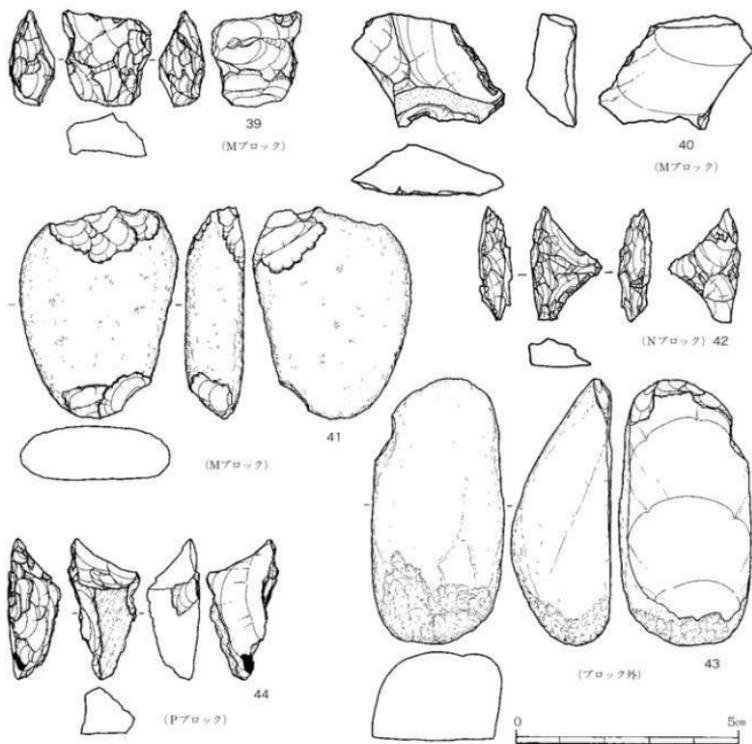
第166図 IV地区VIII層出土遺物(2)(Fブロック)



第167図 Ⅳ地区埋蔵出土遺物(3)(Fプロック)



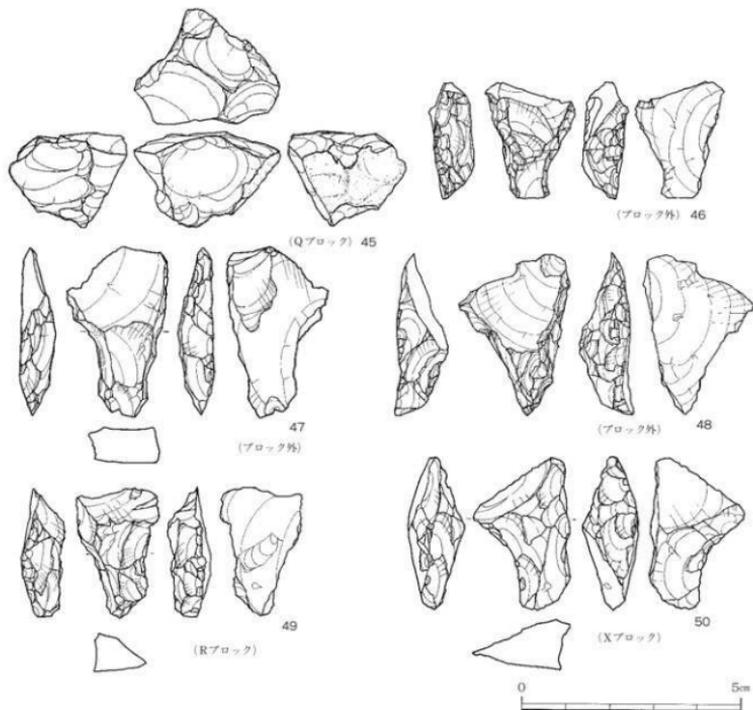
第168図 VII・VIII地区Ⅷ層出土遺物



第169図 X・XI地区Ⅷ層出土遺物

表63 実測遺物観察表 (旧石器) 1

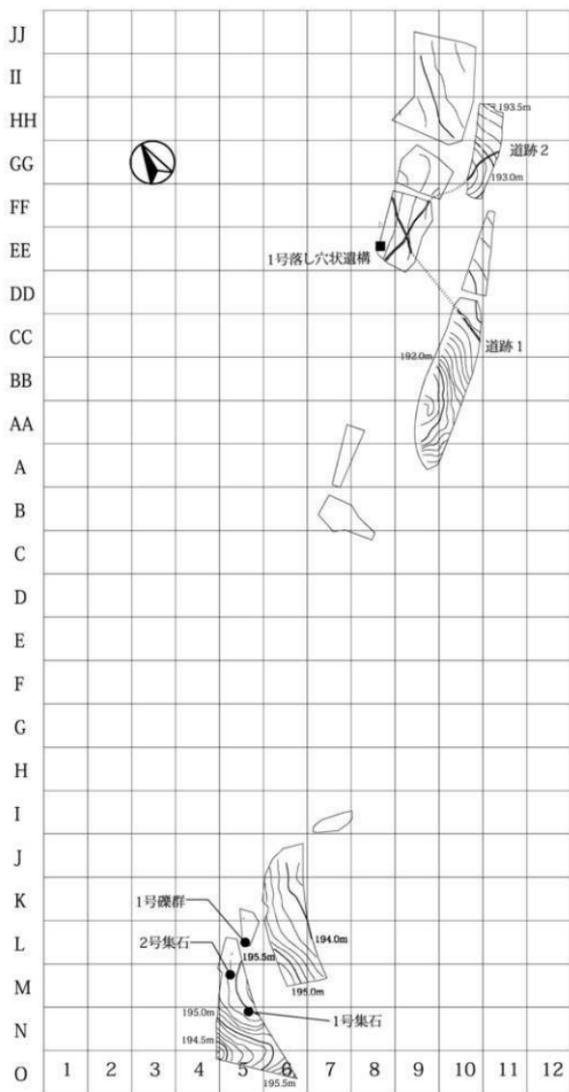
標本No	遺物	標本番号	調査区	出土区	出土層	組合	石種	長さ	幅	厚	重量	備考		
1	ナイフ形石器	3006A	I	B-3	Ⅷ		頁岩	42.143	36.333	194.885	3.40	1.45	0.95	3.41
2	ナイフ形石器	113302	Ⅱ	L-5	Ⅷ		鉄石夾	46.547	38.119	195.005	3.00	1.85	1.20	4.80
3	ナイフ形石器	115647	Ⅱ	L-5	Ⅷ		OB-A	46.876	37.749	194.209	2.90	2.10	1.30	5.43
4	ナイフ形石器	112262	Ⅲ	K-6	Ⅷ		OB-A	34.602	48.233	193.330	3.70	2.25	0.90	3.20
5	ナイフ形石器	112325	Ⅲ	J-6	Ⅷ		硬質頁岩	55.882	54.950	193.210	3.15	1.65	0.90	3.58
6	ナイフ形石器	112293	Ⅲ	J-6	Ⅷ		OB-B	33.848	52.196	195.643	3.90	2.20	1.10	6.37
7	ナイフ形石器	112354	Ⅲ	K-6	Ⅷ		OB-A	53.498	49.247	193.329	4.00	2.70	1.30	17.88
8	ナイフ形石器	112377	Ⅲ	J-6	Ⅷ		硬質頁岩	56.594	53.648	193.073	3.10	1.95	0.55	3.14
9	ナイフ形石器	112378	Ⅲ	J-6	Ⅷ		軟質シスト質頁岩	56.265	53.844	193.137	3.60	2.10	1.20	6.56
10	ナイフ形石器	112291	Ⅲ	J-6	Ⅷ		OB-A	53.206	52.248	195.610	2.85	1.65	0.20	
11	ナイフ形石器	112290	Ⅲ	J-6	Ⅷ		OB-A	54.239	52.039	193.360	3.60	2.40	0.20	6.89
12	削片状遺物	112294	Ⅲ	L-5	Ⅷ		軟質シスト質頁岩	45.649	34.874	195.278	9.10	3.20	1.60	
13	コア	112295	Ⅲ	J-6	Ⅷ		黒色安山岩	54.142	52.876	193.360	3.10	3.40	2.30	16.33
14	コア	112372	Ⅲ	K-6	Ⅷ		OB-A	56.608	48.587	193.066	2.70	3.20	3.20	25.20
15	コア	112414	Ⅲ	J-6	Ⅷ		硬質頁岩	56.409	52.907	193.006	3.25	4.40	1.85	19.85
16	ナイフ形石器	400353	IV	-	Ⅷ		珪岩	65.891	61.344	192.125	3.65	1.95	1.10	7.70
17	ナイフ形石器	400314	IV	-	Ⅷ		OB-A	65.272	61.301	192.080	3.60	1.80	0.95	4.30
18	ナイフ形石器	400392	IV	-	Ⅷ		OB-A	65.800	61.193	192.160	3.65	1.55	0.70	2.22
19	スライバー	400273	IV	-	Ⅷ		頁岩	65.725	60.468	192.385	5.80	2.30	0.90	9.27
20	ナイフ形石器	400325	IV	-	Ⅷ		SG1 OB-A	67.533	61.516	192.255	5.00	2.00	0.90	
21	ナイフ形石器	400330	IV	-	Ⅷ		SG1 OB-A	67.914	61.619	192.380	1.90	1.85	0.80	
22	ナイフ形石器	400284	IV	-	Ⅷ		OB-A	65.793	61.430	192.210	4.55	2.40	1.42	9.18
23	ナイフ形石器	400298	IV	-	Ⅷ		硬質頁岩	66.207	62.140	192.210	4.00	1.90	0.90	3.25
24	スライバー	400181	IV	-	Ⅷ		OB-A	67.200	62.171	192.220	3.55	1.70	0.80	1.62



第170図 XI地区Ⅷ層出土遺物

表64 実測遺物観察表(旧石器) 2

標本No	器物	出土層	調査区	出土区	出土層	アロック	組合	石種	x	y	α	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	備考
25	燧石加丁大細器	400302	IV	-	Ⅷ			燧石	65.135	59.392	192.715	9.20	3.00	0.70	2.13	
26	ナイフ形石器	400306	IV	-	Ⅷ			燧石	67.654	61.942	192.130	2.80	2.30	0.80	4.34	
27	コア	400309	IV	-	Ⅷ			OB-A	66.909	61.677	192.165	3.70	3.10	1.60	13.94	
28	コア	400304	IV	-	Ⅷ			頁岩	54.484	60.203	192.830	3.00	2.10	2.00	18.67	
29	コア	400334	IV	-	Ⅷ			OB-A	67.196	61.608	192.000	4.15	3.70	2.80	26.18	
30	コア	400339	IV	-	Ⅷ			OB-A	67.305	61.322	192.165	1.35	5.00	2.10	13.35	
31	コア	400306	IV	-	Ⅷ			OB-A	67.250	62.965	192.445	2.40	3.90	3.45	31.84	
32	コア	400342	IV	-	Ⅷ			OB-A	67.853	61.952	192.120	3.10	6.20	3.10	39.31	
33	ナイフ形石器	501090	Ⅷ	X-36	Ⅷ			OB-A	96.564	174.146	191.996	3.00	2.00	0.80	3.81	
34	コア	501100	Ⅷ	X-36	Ⅷ			OB-A	95.514	174.048	191.040	3.10	3.00	2.10	24.90	
35	コア	501138	Ⅷ	X-35	Ⅷ			OB-A	95.656	174.905	192.002	3.82	3.50	4.10	31.60	
36	ナイフ形石器	501027	Ⅷ	W-36	Ⅷ			OB-A	98.807	176.179	192.314	1.50	1.00	0.55	0.38	
37	燧石器	500807	Ⅷ	V-35	Ⅷ			OB-A	100.112	192.880	192.282	2.00	2.50	0.70	3.30	
38	フエール	500708	Ⅷ	V-35	Ⅷ			燧石片	198.602	192.182	192.273	5.60	3.90	1.50	29.20	
39	台形石器	117403	X	C-9	Ⅷ			OB-A	89.227	209.914	191.825	2.20	2.00	1.00	4.12	
40	スライスナイフ	117484	X	C-9	Ⅷ			頁岩	88.975	208.910	191.954	2.60	3.50	1.15	6.91	
41	短石	117491	X	C-9	Ⅷ			砂岩	88.642	209.230	191.771	4.95	3.60	1.30		
42	ナイフ形石器	600273	XII	T-34	Ⅷ			OB-A	101.667	213.524	192.043	2.70	1.65	0.75		
43	ナイフ形石器	600135	XII	S-33	Ⅷ			OB-A	100.509	208.229	192.521	3.25	1.60	1.25	4.10	
44	短石	600100	XII	S-34	Ⅷ			砂岩	99.560	229.634	192.321	6.20	3.00	2.30	56.29	
45	コア	116875	XI	C-10	Ⅷ			OB-A	89.252	222.813	192.133	2.30	3.40	2.70		
46	ナイフ形石器	117082	XI	C-11	Ⅷ			OB-A	86.554	231.403	191.113	3.00	1.90	0.90	4.35	
47	ナイフ形石器	117102	XI	B-10	Ⅷ			黒色安山岩	94.282	225.919	191.380	3.70	2.30	0.80	6.11	
48	ナイフ形石器	117172	XI	C-11	Ⅷ			OB-A	86.797	233.232	191.049	3.70	2.55	1.25	6.41	
49	ナイフ形石器	116872	XI	C-10	Ⅷ			OB-A	102.643	223.873	192.041	2.70	2.50	1.50	4.38	
50	ナイフ形石器	117571	XI	C-12	Ⅷ			頁岩	83.990	242.372	192.737	3.50	2.20	1.30	5.89	



第171図 VII層遺構配置図

第3章 VII層の調査

第1節 概要

VII層からはナイフ形石器文化、細石刃文化期の遺構・遺物が出土し、また、層上部では、石鏝や土器片等縄文時代草創期の存在も知られている。

遺構は南区で、礫群1基、集石遺構2基が検出され、北区では溝状遺構2条と落し穴状遺構1基を検出している。

遺構の時期認定については、溝状遺構と落し穴状遺構は埋土状況を検討し、礫群遺構に関しては検出面を判断

基準としている。しかし、層上位検出の集石遺構については詳細な時期認定はできなかった。

第2節 遺構 (南区)

1 礫群

礫群はVIIc層検出で細石刃文化期該当、2基の集石遺構はVIIa層での検出で縄文時代草創期該当と判断している。なお、遺構の分類についてはVIII層と同じ分類方法で行った。

1号礫群

1号礫群はL-5区で検出した。

140cm×70cm程の範囲に15点の礫が散在し、全ての礫が赤化していることから被熱痕跡と判断している。細石刃ブロックの下部で検出し、そのブロックとの間にはかなり先行する時期が見込まれる。炭化物等は確認されていない。(III A類)

1号集石

1号集石はN-5区で検出した。

100cm×60cm程の範囲に43点の礫が集積した状況を確認し、総じて赤化し被熱を受けたと見られる。使用石材は安山岩で、拳大の礫を選択した傾向が認められる。なお、掘り込み遺構、炭化物は確認できていないが、集積

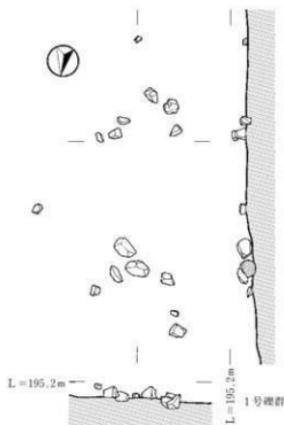


表65 VII層礫群観察表

報告書 No.	検出 No.	類型	総個数	大きさ		総重量 (g)	構成礫		備考
				長径 (cm)	短径 (cm)		重量平均 値 (g)	被熱率 (%)	
1	172	III A	15	140	70	-	-	-	H7-16

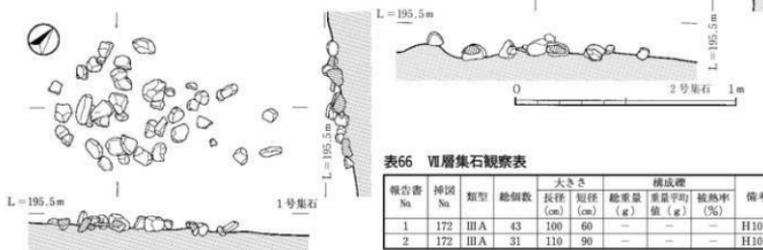


表66 VII層集石観察表

報告書 No.	検出 No.	類型	総個数	大きさ		総重量 (g)	構成礫		備考
				長径 (cm)	短径 (cm)		重量平均 値 (g)	被熱率 (%)	
1	172	III A	43	100	60	-	-	-	H10-1
2	172	III A	31	110	90	-	-	-	H10-2

第172図 南区VII層遺構実測図

状況はその可能性もある。(III A類)

2号集石

2号集石はM-5区で検出した。110cm×90cm程の範囲に31点の礫を確認した。5cm程の小礫から拳大の安山岩が使用され、被熱し、赤化している。掘り込み遺構、炭化物は確認できなかった。(III A類)

第3節 遺構 (北区)

1 道跡

道跡1

EE・FF-8・9区のVII層上面でほぼ南北方向に走る道跡1を検出した。この道跡の続きが平成14年度調査区のCC-10区でも検出されている。幅は30~60cm、深さ約3cm程度であり、VI層の薩摩火山灰層を埋土とする。

道跡2

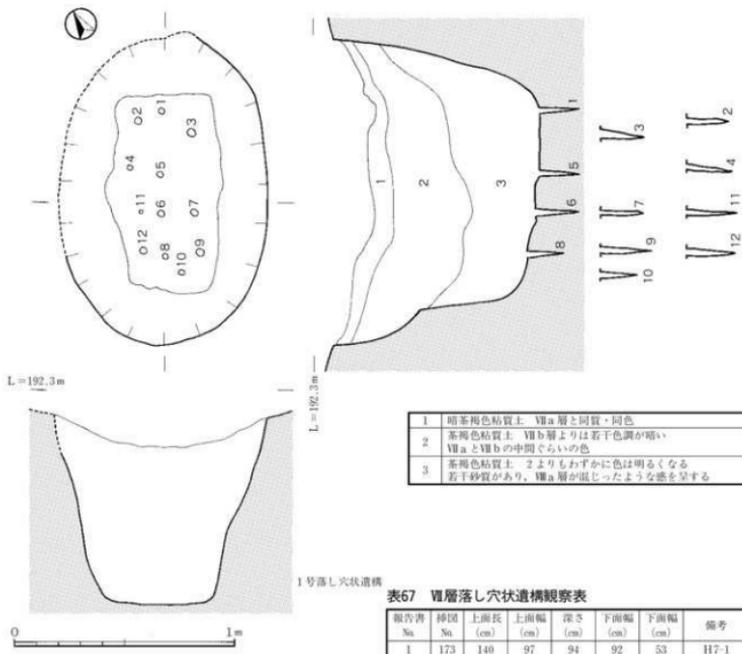
EE・FF-8・9区のVII層上面で北東・南西方向に

走る道跡2を検出した。この道跡の続きが平成14年度調査区のGG-10・11区でも検出されている。幅は30~60cm、深さ約3cm程度であり、VI層の薩摩火山灰層を埋土とする。道跡1と道跡2は、EE-9区で交差する。

2 落し穴状遺構

1号落し穴状遺構

1号落し穴状遺構はEE-8区のVIIa層上面で検出した。平面プランは、長軸140cm、短軸97cmの楕円形で、検出面からの深さ94cmである。最終埋土はVIIa層と同色・同質の暗茶褐色土である。底面に逆茂木版らしき小ピットを12基検出した。小ピットは径3~4cm、深さ15~23cmである。



第173図 北区VII層遺構実測図

第4節 石器

1 概要

調査区はⅠ地区～ⅩⅢ地区に分けられる。

2 遺構

ブロックはA～Sの19基検出された。ブロック認定にあたっては、視覚的に遺物の集中域がみられるところを設定した。ただし、調査地区が狭く、ブロックの全容が明らかでない場合は、一つの調査区を一つのブロックとして認定している。各ブロックの概要は以下の通りである。

Aブロック

遺物総数470点で構成されるブロックである。主要な石材別の構成は、OB-Aが176点、OB-Bが182点、OB-Cが12点、硬質頁岩が75点、黒色安山岩が55点である。石材別の主な利用石器として、OB-A、OB-Bが細石刃製作、硬質頁岩が細石刃、石鏃に利用されている。

Bブロック

遺物総数443点で構成されるブロックである。主要な石材別の構成は、OB-Aが144点、OB-Bが139点、硬質頁岩54点、黒色安山岩25点、頁岩10点である。石材別の主な利用石器として、OB-Aが細石刃製作に、黒色安山岩が石鏃製作に利用されている。硬質頁岩は剥片のみで明確でないが、隣接ブロックの状況からおそらく石鏃製作によるものであると考えられる。

Cブロック

遺物総数は1,343点で構成されるブロックである。主要な石材別の構成は、OB-Aが247点、OB-Bが387点、OB-Cが20点、OB-Dが11点、珪質頁岩10点、硬質頁岩が237点、黒色安山岩が181点、頁岩が18点である。石材別の主な利用石器として、OB-A、OB-B、OB-Cは細石器に、頁岩系は石鏃製作に利用されている。当ブロックには、土器が2点組成されている。

Dブロック

遺物総数591点で構成されるブロックである。主要な石材別の構成は、OB-Aが93点、OB-Bは129点、硬質頁岩が154点、黒色安山岩が94点、頁岩が11点である。石材別の主な利用石器として、OB-A、OB-Bは細石器に、黒色安山岩は石鏃製作に利用されている。

Eブロック

遺物総数1,221点で構成されるブロックである。主要な石材別の構成は、OB-Aが132点、OB-Bが149点、硬質頁岩が125点、黒色安山岩が62点である。石材別の主な利用石器として、OB-A、OB-Bは細石器に、硬質頁岩は石鏃、スクレイパーに、黒色安山岩はスクレイパーに利用されている。当ブロックには土器が1点組成される。

Fブロック

遺物総数839点で構成されるブロックである。主要な石材別の構成は、OB-Aが230点、OB-Bが149点、硬質頁

岩が172点、黒色安山岩が51点、頁岩が14点である。石材別の主な利用石器として、OB-A、OB-Bが細石器、黒色安山岩が細石器、石鏃、スクレイパー、硬質頁岩が石鏃製作に利用されている。

Gブロック

遺物総数2,207点で構成されるブロックである。主要な石材別の構成は、OB-Aが1,067点、OB-Bが195点、OB-Dが13点、OB-Eが35点、玉髄が66点、凝灰岩質頁岩が11点、珪質頁岩が77点、硬質頁岩が258点、黒色安山岩が30点、鉄石英が147点、頁岩が65点である。石材別の主な利用石器として、OB-A、鉄石英、凝灰岩質頁岩、頁岩が細石器に、硬質頁岩が細石器、石鏃に利用されている。

Hブロック

遺物総数134点で構成されるブロックである。主要な石材別の構成は、チャート41点、頁岩10点、硬質頁岩7点である。当ブロックはチャートの石鏃製作と位置づけられる。

Iブロック

遺物総数27点で構成されるブロックである。OB-A12点を中心とする細石器製作に関する小規模なブロックである。

Jブロック

遺物総数147点で構成されるブロックである。主要な石材別の構成は、OB-Aが55点、OB-Bが23点、OB-Eが23点、頁岩10点である。OB-Aを中心とする細石器製作に関するブロックである。

Kブロック

遺物総数148点で構成されるブロックである。主要な石材別の構成は、OB-Aが50点、OB-Bが11点、硬質頁岩11点、黒色安山岩6点、頁岩9点である。石材別の主な利用石器としてOB-Aが細石刃に、黒色安山岩が石鏃製作に利用されている。

Lブロック

遺物総数119点で構成されるブロックである。主要な石材別の構成比は、OB-Aが11点、OB-Bが65点、鉄石英16点、頁岩12点である。石材別の主な利用石器として、OB-Bが細石刃に、頁岩系が石鏃製作に利用されている。

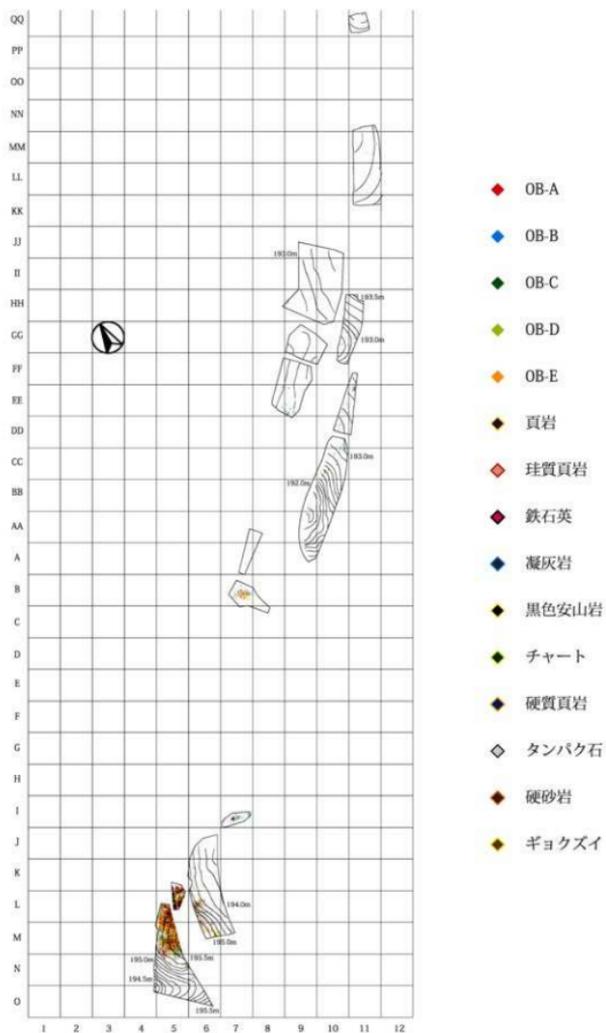
Mブロック

遺物総数36点で構成されるブロックである。主要な石材別の構成比はOB-Bが36点、頁岩1点である。製品の出土はみられない。

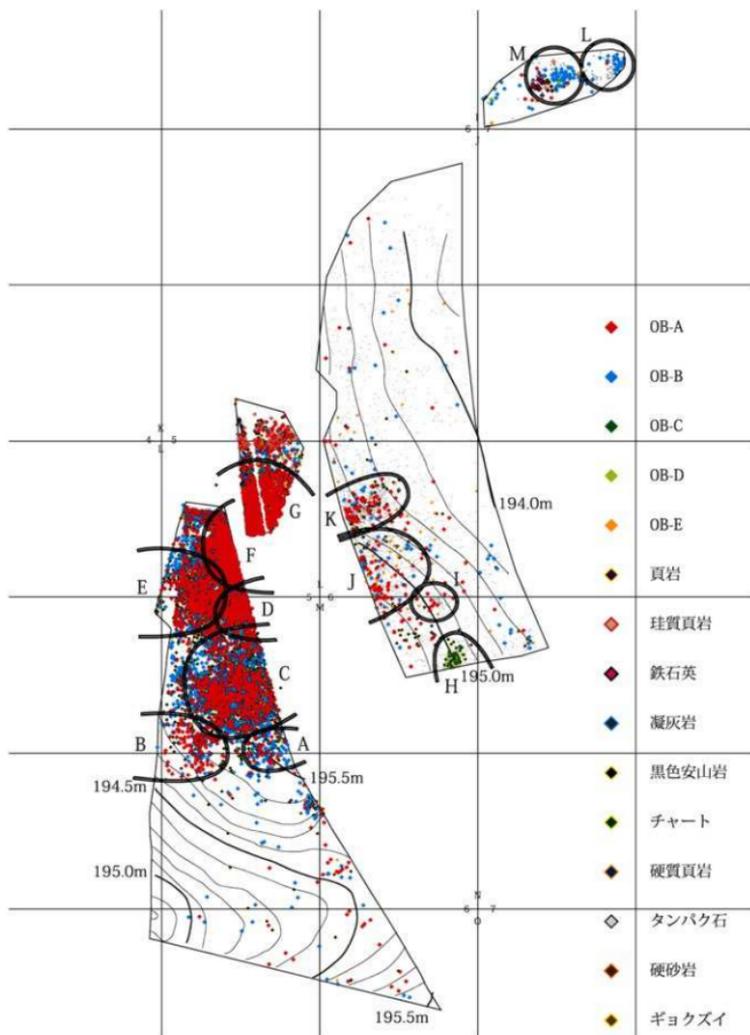
Nブロック（V地区）

遺物総数257点で構成されるブロックである。主要な石材別の構成比はOB-Aが66点、OB-Bが72点、凝灰岩質頁岩30点、硬質頁岩10点、頁岩55点である。凝灰岩質頁岩の細石刃製作に関するブロックである。

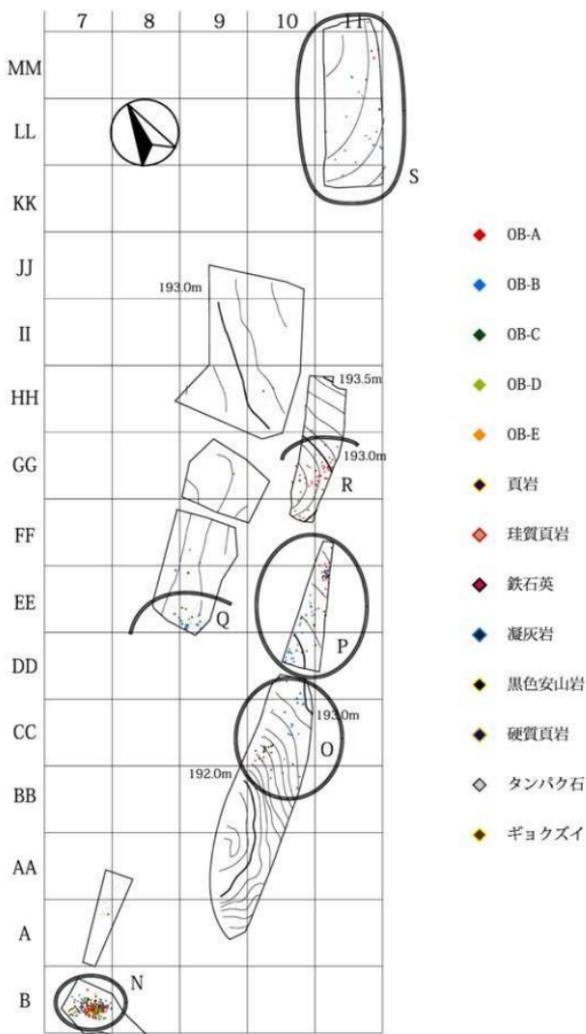
Oブロック（VII地区）



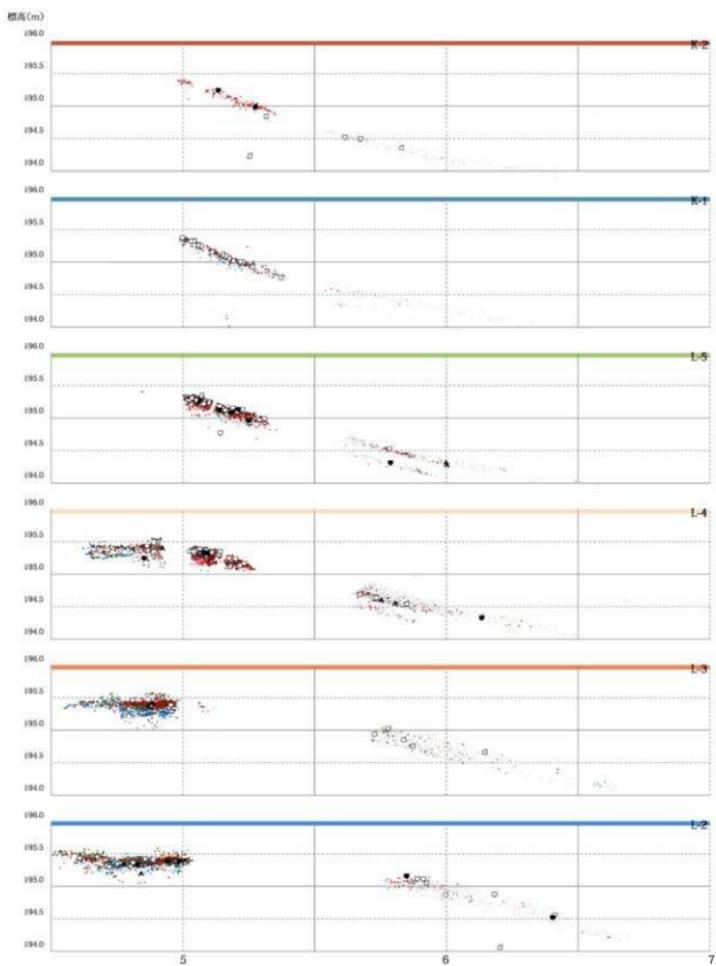
第174図 VII層石材別出土状況図



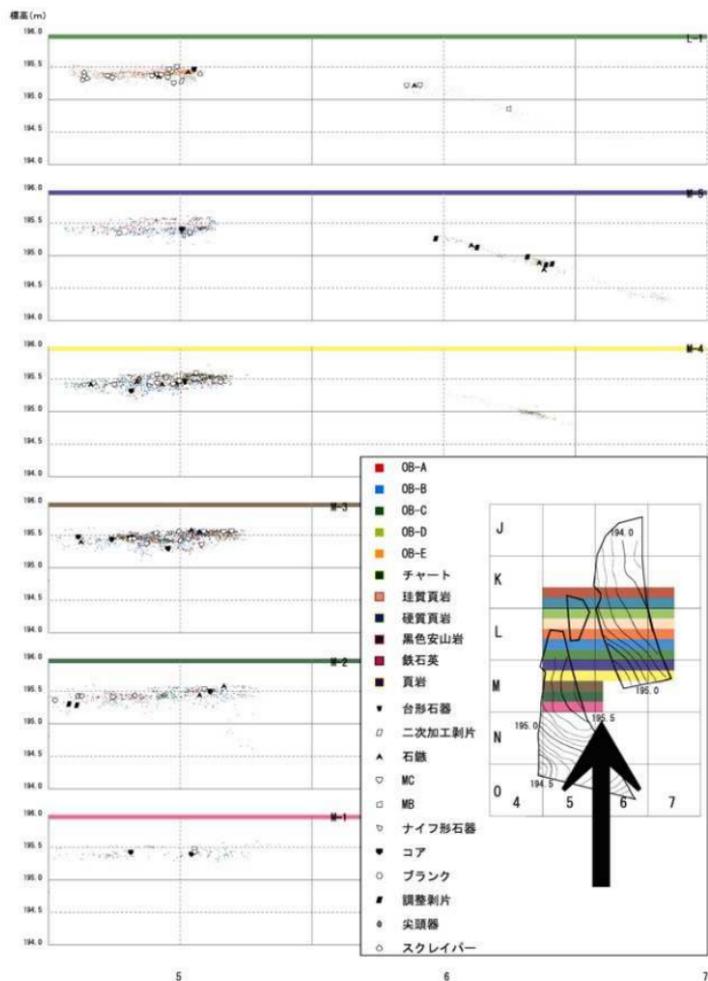
第175図 南区層石材別出土状況図



第176図 北区層石材別出土状況図



第177图 I～II地区Ⅶ层石器出土状况图(垂直分布) 1



第178図 Ⅰ～Ⅱ地区Ⅶ層石器出土状況図(垂直分布) 2

表68 Ⅶ層ブロック観察表(1)

ブロック	区	規模 (m)	石材	総数	割片等	細石 量(MB)	細石 量(MC)	ア ラ ン ク	ス タ レ イ バ ー	打 消	作 再	二 次 加 工 割 合	石 敷	石 柱	叩 石	三 軸 実 験 器	三 軸 実 験 器	鋼 石 引 張 機 製 品	鋼 筋 引 張 機 の カ ル ト ン	石 炭 灰 品	白 鉛 石 灰	備 考						
A	I	3×3	OB-A	26	22		2							2														
			OB-B	132	150		1											1										
			OB-C	12	12																							
			OB-D	4	4																							
			OB-E																									
			キョウズイ	2	2																							
			クマノタ石	1	1																							
			キープ	49	49																							
			凝灰岩	1	1																							
			珪質頁岩	2	2																							
			硬砂岩	1	1																							
			凝灰頁岩	25	23			1							1													
			黒色安山岩	25	25																							
			鉄石炭	2	2																							
頁岩	8	8																										
計	420	462	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
B	I	3×3	OB-A	144	142		2																					
			OB-B	139	137			1																				
			OB-C	3	3																							
			OB-D	3	3																							
			OB-E	1	1																							
			キョウズイ	1	1																							
			クマノタ石	1	1																							
			キープ	59	59																							
			安山岩	1	1																							
			硬砂岩	1	1																							
			珪質頁岩	54	54																							
			黒色安山岩	25	23										1	1												
			砂岩	1	1																							
			頁岩	10	10																							
計	443	437	0	2	1	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
C	I	6×6	OB-A	247	239		7																					
			OB-B	387	378		4							1														
			OB-C	20	18			1				1																
			OB-D-1	11	11																							
			OB-E	1	1																							
			キョウズイ	2	2																							
			クマノタ石	5	5																							
			キープ	211	211																							
			キープ	3	3																							
			凝灰岩	1	1			1																				
			珪質頁岩	10	9											1												
			硬砂岩	1	1																							
			珪質頁岩	237	239			1	2						1				1						1	1		
			黒色安山岩	131	130			1																				
鉄石炭	8	8																										
頁岩	18	15												3														
計	1343	1310	0	15	0	2	1	0	2	4	5	0	1	0	1	0	1	0	0	1	1	0						
D	I	2×2	OB-A	93	88		5																					
			OB-B	129	122		2	1						1														
			OB-C	1	1																							
			OB-D	1	1																							
			OB-D-1	8	8																							
			OB-D-2	1	1																							
			クマノタ石	1	1																							
			キープ	88	88																							
			キープ	1	1																							
			凝灰岩	1	1																							
			珪質頁岩	1	1																							
			硬砂岩	1	1																							
			珪質頁岩	154	154																							
			黒色安山岩	94	93																							
砂岩	1	1																										
鉄石炭	4	4																										
頁岩	11	10			1																							
計	591	575	0	7	1	1	0	0	1	2	1	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0						

表69 Ⅶ層ブロック観察表(2)

ブロック	区	規模 (m)	石材	総数	割片等	細石 目(MB)	細石 目(MG)	ステン ドレー バー	打消	作再	二次 加工 割片	石敷	石積	叩石	ナイ フ割 石積	三輪 実器 器	尖頭 部	細石 目味 調整 割片	漆油割 片の割 片	石積 未成 品	台形 石積	備	備考					
E	I	4×4	OB-A	122	127		4	1																				
			OB-B	140	147																							
			OB-C	2	2																							
			OB-D	1	1																							
			OB-D-1	5	5																							
			OB-D-E	3	2			1																				
			キョクズイ	1	1																							
			タンバク石	2	2																							
			チップ	127	127																							
			破砕石	5	5																							
			砕石目	2	2																							
			破砕石	4	4																							
			砕石目	125	121						3			1														
			黒色安山岩	62	61					1																		
			鉄石塊	3	3																							
			瓦片	7	7																							
			計	1225	1192	0	14	1	6	0	0	1	3	1	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0				
F	I	4×3	OB-A	220	225		1																					
			OB-B	140	145		2																					
			OB-C	1	1																							
			OB-D	1	1																							
			OB-D-1	11	11																							
			OB-D-E	4	4																							
			OB-E-1	1	1																							
			キョクズイ	1	1																							
			タンバク石	3	3																							
			チップ	186	186																							
			チャート	1	1																							
			破砕石	4	4																							
			砕石目	1	1																							
			破砕石	5	5																							
			砕石目	172	165								3	1		1		1										
			黒色安山岩	51	47			1		1				1				1										
			鉄石塊	3	3																							
瓦片	14	14																										
破砕	1																											
計	839	818	0	4	0	1	0	0	0	4	5	0	3	0	2	1	0	1	0	1	0	0						
G	II	5×3	OB	4	4																							
			OB-A	1067	1045		6	13	1					1														
			OB-B	186	185																							
			OB-D-1	13	13																							
			OB-E	21	21																							
			OB-E-1	14	14																							
			キョクズイ	66	66																							
			シムシ割片	1	1			1																				
			タンバク石	7	6									1														
			チップ	211	211																							
			チャート	2	2																							
			安山岩	1	1																							
			破砕石	2	1		1																					
			破砕石目	11	1			7			1	1	1															
			砕石目	27	27																							
			破砕石	1	1																							
			破砕石目	298	248		4	1					1		2			1										
黒色安山岩	30	29									1																	
黒曜石	1				1																							
砂石	3	2		1																								
鉄石塊	147	141		5																								
瓦片	65	63		2																								
無機品質安山岩	1	1																										
破砕	2	1																										
計	2267	2138	29	22	1	0	1	1	4	2	6	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0					
H	III	2×2	OB-A	5	4																							
			OB-B	2	2																							
			OB-E	1	1																							
			OB-E-1	2	2																							
			チップ	63	63																							
			チャート	41	40										1													
			破砕石目	7	6																							
			黒色安山岩	2	1																							
			鉄石塊	1	1																							
			瓦片	10	10																							
計	134	130	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					

表70 Ⅶ層ブロック観察表(3)

ブロック	区	規模 (m)	石材	総数	割片等	細石 弁(MB)	細石 方塊(MG)	アーク ブロック	スチ レイ バー	打溝	作再	二次 加工 割片	石敷	石積	叩石	ナイ フ形 石積	三輪 実器 器	尖頭 器	細石 貝殻 割片	漆黒割 片の 存在	石積 未成 品	白粉 石積	備	備考				
I	III	1×1	OB	1		1																						
			OB-A	12	9		1							1						1								
			OB-B	2	1	1																						
			チップ	11	11																							
			破片貝殻	1	1																							
			計	27	22	2	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0				
J	III	4×4	OB	1										1														
			OB-A	55	48	2	3															1						
			OB-B	23	23											1												
			OB-D	1	1																							
			OB-D-1	1	1																							
			OB-E	21	20	1																						
			OB-E-1	2	2																							
			タンパチ石	3	3																							
			チップ	32	32																							
			破片貝殻	2	1		1																					
			破片貝殻	3	3																							
			漆黒実器	2	1	1																						
			貝殻	10	10																							
			計	142	124	6	4	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0			
K	III	4×3	OB-A	50	47	1	1						1															
			OB-B	11	11																							
			OB-E	4	4																							
			OB-E-1	2	2																							
			キョウズイ	2	2																							
			チップ	47	47																							
			破片貝殻	1	1																							
			破片貝殻	11	10												1											
			漆黒実器	4	5																			1				
			砂岩	1	1																							
			鉄石塊	3	3																							
			貝殻	9	8	1																						
						計	148	141	2	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
LM	IV	4	OB-A	11	11																							
			OB-B	100	98		2																					
			OB-D-1	1	1																							
			OB-E	2	2																							
			シキト質貝殻	1	1																							
			タンパチ石	5	5																							
			チップ	6	6																							
			シャート	2	2																							
			実器	1	1																							
			破片貝殻	1																								
			破片貝殻	7	7																							
			破片貝殻	4	4																							
			破片貝殻	1																								
砂岩	2	1																										
鉄石塊	16	16																										
貝殻	7	7																										
			計	156	150	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0		
N	V		OB-A	56	66																							
			OB-B	72	71		1																					
			OB-C	1	1																							
			OB-D-1	5	5																							
			OB-E	1	1																							
			OB-E-1	1	1																							
			タンパチ石	2	2																							
			チップ	2	2																							
			実器	5	5																							
			破片貝殻	2	2																							
			破片貝殻	10	11			14																				
			破片貝殻	4	4																							
			破片貝殻	10	10																							
鉄石塊	1	1																										
貝殻	55	55																										
			計	257	257	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			

遺物総数43点で構成されるブロックである。主要な石材別の構成比はOB-Aが7点、OB-Bが10点、凝灰岩が12点、硬質頁岩7点である。

Pブロック (VIII地区)

遺物総数79点で構成されるブロックである。主要な石材別の構成比はOB-Aが29点、OB-Bが27点、凝灰岩が9点である。

Qブロック (IX地区)

遺物総数38点で構成されるブロックである。石材別の

構成はOB-Aが5点、OB-Bが3点、凝灰岩が11点、硬質頁岩3点である。

Rブロック (XII地区)

遺物総数57点で構成されるブロックである。石材別の構成は、OB-Aが44点、OB-Bが5点である。定型石器はなく、二次加工剥片1点のみの出土である。

Sブロック (XIII地区)

遺物総数49点で構成されるブロックである。主要な石材別の構成は、OB-Aが8点、OB-Bの17点である。

表71 VII層ブロック観察表 (4)

ブロック	区	層位 (m)	石材	総数	剥片等	燧石 片数 (MB)	燧石 片数 (MC)	アーク シグ ナチャー	石片	石片 片数	二次 加工 剥片	石鏃	石核	叩石	ナイ フ形 石器	三稜 尖頭 器	細石 片状 調整 剥片	燧石製 磨石の ある剥 片	石製 物品	白粉 石器	備考						
O P	VIII		OB	1		1																					
			OB-A	36	35		1																				
			OB-B	37	35			2																			
			SH	1		1																					
			ギョウボイ	1	1																						
			クワノク石	1	1																						
			チップ	5	5																						
			凝灰岩	21	21																						
			硬質頁岩	8	8																						
			黒色火山岩	1	1																						
			鉄石炭	2	2																						
			頁岩	8	7	1																					
			計			122	116	3	1	2	0	0	0														
Q	IX		OB-A	5	5																						
			OB-B	3	3																						
			OB-F	1	1																						
			チップ	13	13																						
			凝灰岩	11	10		1																				
			硬質頁岩	1		1																					
			凝灰岩	3	2	1																					
			鉄石炭	1	1																						
			計			38	34	3	1	0	0	0	0														
			R S	XII		OB	1												1								
OB-A	52	52																									
OB-B	22	21											1														
OB-D-1	2	2																									
クワノク石	1	1																									
チップ	21	21																									
硬質頁岩	1										1																
凝灰岩	1	1																									
水石	2	2																									
鉄石炭	1	1																									
頁岩	2	2																									
計						106	104	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
総計						748	724	46	87	5	10	2	7	9	26	22	1	8	1	4	2	2	4	4	1		

3 出土遺物

(1) I地区の出土遺物

Aブロック

51は鉄石英製の細石刃核の作業面再生剥片である。細石刃核を大きく斜めに切る形で再生がなされている。再生後も、主剥離面から側面にかけて細かい調整が施されている。52はOB-A製の細石刃核である。角礫から素材剥片を獲得し、主剥離面を側面に利用し、打面形成後、打面調整を施しながら細石刃を剥出している。左側面と背面に自然面を残す。53はOB-A製の石核である。円礫を分割後、分割面を打面として剥片剥離が行われている。一部打面転移が観察される。54はOB-A製の石核である。円礫を分割後、分割面を打面として剥片剥離が行われている。打面の再生が観察される。55は細石刃核と考えられる。極状剥離は1条のみで、器種認定は流動的である。56は硬質頁岩製の石礫あるいは尖頭器の未製品である。剥片の内面に平圧剥離を施しているが、押圧剥離を施すに至っていない。

Bブロック

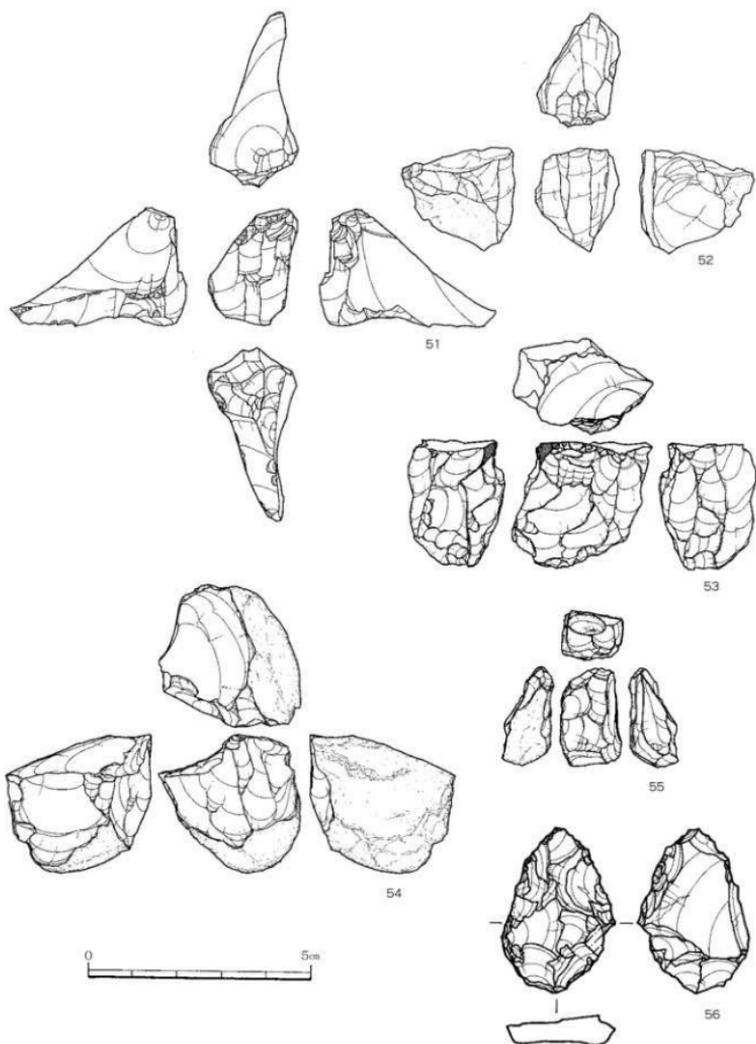
57はOB-B製の石器である。細石刃核のブランクと思われるが、認定は流動的である。58はOB-A製の細石刃核である。円礫から素材剥片を獲得し、左側面に主剥離面を、右側面は下縁及び打面側からの調整により構成される。下縁から尾縁にかけて、スクレイパーエッジ状の微細剥離が確認される。打面調整を施しながら細石刃を剥出している。59はOB-B製の石器である。厚手の剥片の主剥離面を打面として剥離が行われているため、石核として分類したが、端部に微細剥離が確認されることから、厚手の搔器として認定できる可能性もある。60はOB-A製の細石刃核である。円礫から厚手の剥片を獲得し、石核整形をあまり施さずに打面調整を施しながら細石刃を剥出している。61は黒色安山岩製の二次加工剥片である。剥片の下端に二次加工が確認される。62は硬質頁岩製のスクレイパーである。厚手の剥片の縁辺から背腹面に押圧剥離により刃部を形成している。石礫などの未製品の可能性もある。63は硬質頁岩製の剥片である。剥離時に打面から2つに割れている。64はOB-A製の剥片である。打面側が欠損している。65は黒色安山岩製の石礫である。平基の三角形礫で、先端部は欠損している。

Cブロック

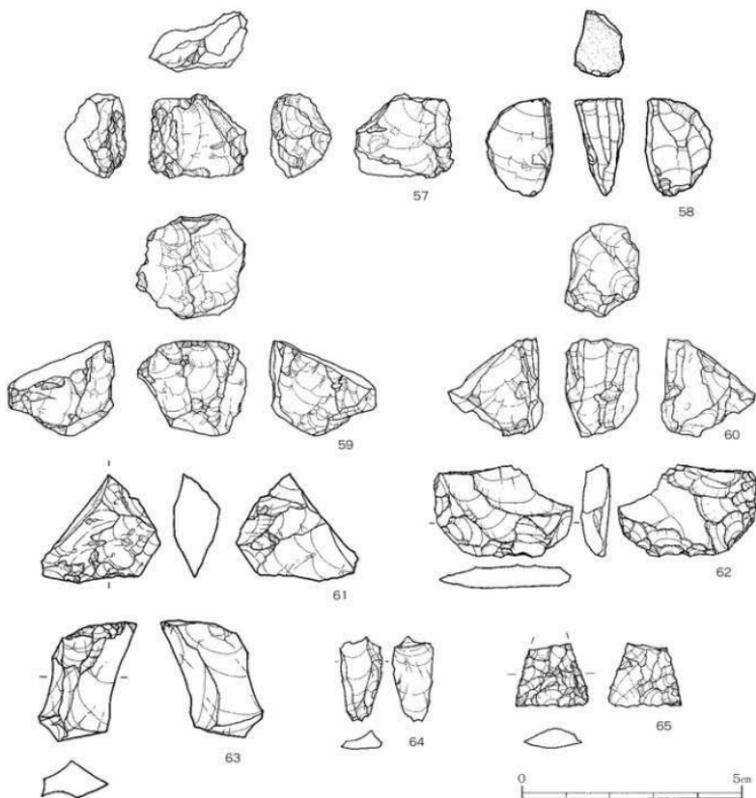
69は凝灰頁岩製の細石刃核である。厚手の剥片の下端に狭長な作業面を設定し、細石刃を剥出している。打面は側方からの連続する剥離により形成している。70はOB-A製の細石刃核である。素材剥片の主剥離面を横位に利用し、石核整形をあまり施さずに打面調整を施しながら細石刃を剥出している。打面に、打面調整に切られる形で側方からの連続する剥離痕が観察される。71はOB-A製の細石刃核である。素材剥片の縁辺に狭長な作

業面を設定し、石核整形を施さずに打面調整を施しながら細石刃を剥出している。72はOB-B製の細石刃核である。円礫から礫皮面を取り込む形で素材剥片を獲得し、下端に作業面を設定している。打面は側方からの大きな剥離により形成され、打面調整を施しながら細石刃を剥出している。73はOB-A製の細石刃核である。円礫を取り込む形で素材剥片を剥出し、打面から側面側に石核整形を施した後、小口部から打面調整を施しながら細石刃を剥出している。下縁からの調整がみられる。74はOB-B製の二次加工剥片である。剥片の主剥離面を打面として、バルブを除去する形で二次加工が施されている。75はOB-B製の石器である。小型の石核あるいは厚手の搔器に分類できる可能性がある。76はOB-A製の細石刃核である。打面調整を施しながら細石刃を剥出している。77はOB-C製の細石刃核である。小型角礫を分割し、分割面を打面として打面調整を施しながら細石刃を剥出している。石核整形は右側面に打面側からの整形剥離が若干観察される。78はOB-A製の細石刃核である。作業面は相対する2面に設定されており、極状剥離の下端が錯交する形となっている。79はOB-A製の細石刃核である。極状剥離がはっきりせず、認定は流動的である。80は黒色安山岩製の細石刃核である。極状剥離がはっきりせず、認定は流動的である。81はOB-B製の細石刃核である。極状剥離がはっきりせず、認定は流動的である。82はOB-C製の打面再生剥片である。背面からの再生作業である。83はOB-B製の細石刃核である。礫皮面を取り込んだ剥片を素材とし、主剥離面を側面に利用して石核整形を施さずに細石刃を剥出している。打面には両側方からの剥離が確認され、固定具によるものと考えられる。84は珪質頁岩製、85は頁岩製の石礫である。いずれも平基の二等辺三角形礫である。85は素材剥片の主剥離面を残している。86は頁岩製の石礫あるいは尖頭器の未製品である。大半は欠損しているため全体は明らかでないが、素材が厚いため、スクレイパー等の他の器種に分類される可能性もある。87は頁岩製の石礫である。礫皮面を残す剥片を素材とし、調整は縁辺のみで施されているため中央部に礫皮面及び主剥離面を大きく残している。先端部は欠損している。88は硬質頁岩製の石礫未製品である。平基の二等辺三角形礫を製作しようとする意図がみられるが、打幅を除去できずに未製品となっている。89は頁岩製の平基の二等辺三角形礫である。先端部が欠損している。90は硬質頁岩製の尖頭器あるいは石礫未製品である。両面への平圧剥離により全体を整形した段階であり、押圧剥離に至っていない。

91は土器片である。厚手で、外面に2条の隆帯文が横位に貼り付けられている。隆帯はつまみによると思われる窪みがある。内面は横方向のナデである。92は土器片である。厚手で、表面に沈線状の条痕が横方向にい



第179図 I地区VII層出土遺物(1)(Aブロック)



第180図 1地区Ⅱ層出土遺物(2)(Bブロック)

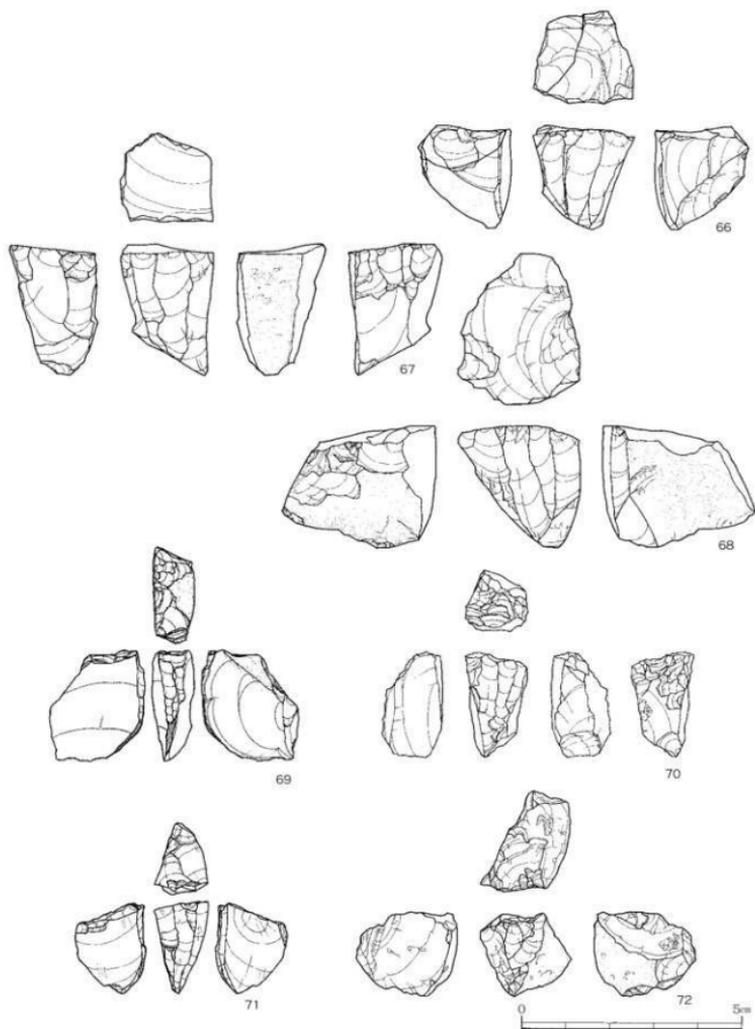
くつか確認される。内面は横方向のナデが確認される。

93はOB-B製の石核である。厚手の剥片の主剝離面を打面として剥片を剝離している。94は硬質頁岩製の石器である。スクレイパー、プランク、石核などの可能性が考えられる。95はOB-B製の石核である。打面に自然面を残す。96は硬質頁岩製の石核である。両面に求心状の剝離痕が観察され、結果残核形態が扁平となっている。97は硬質頁岩製のスクレイパーである。薄手の剥片の一端に片側のみ二次加工を施し刃部を形成している。98は

硬質頁岩製の二次加工剥片である。薄手の剥片の両面に二次加工が施されている。

Dブロック

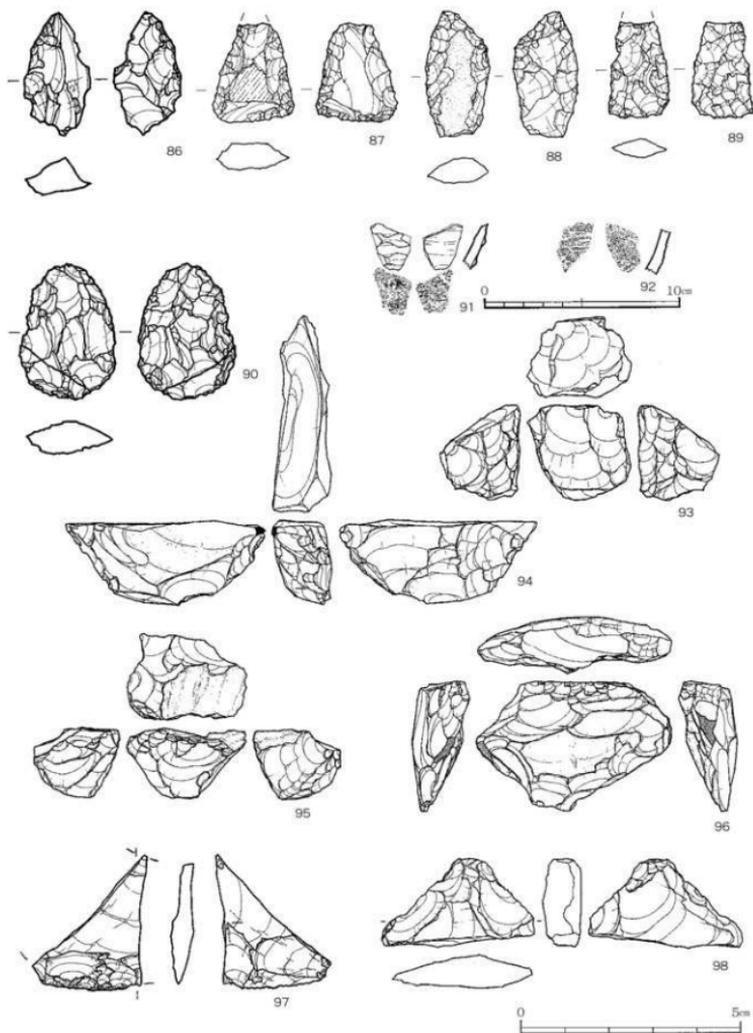
99はOB-A製の細石刃核である。礫皮面を残す剥片を素材とし、主剝離面を側面に利用し、側方からの連続する剝離により打面を形成し、小口部から細石刃を剝出ししている。100はOB-A製の細石刃核である。礫皮面を左側面に残し、右側面は打面から下縁からの石核整形が施されている。狭長な作業面を有する。101はOB-B製のス



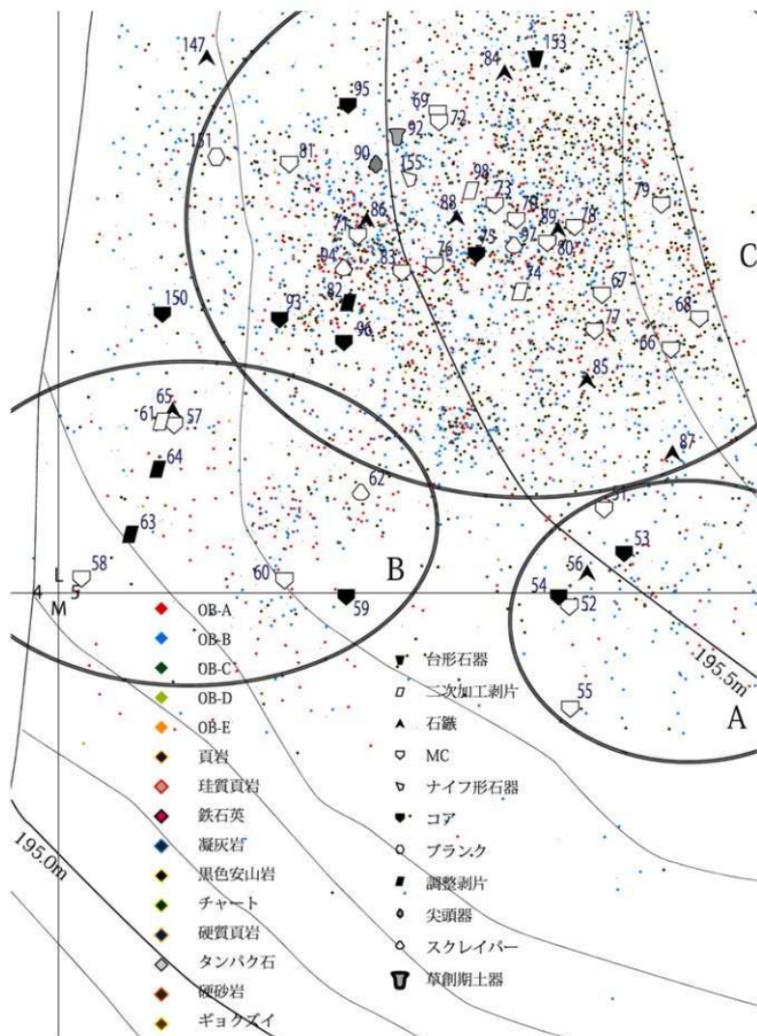
第181図 I地区Ⅵ層出土遺物(3)(Cブロック)



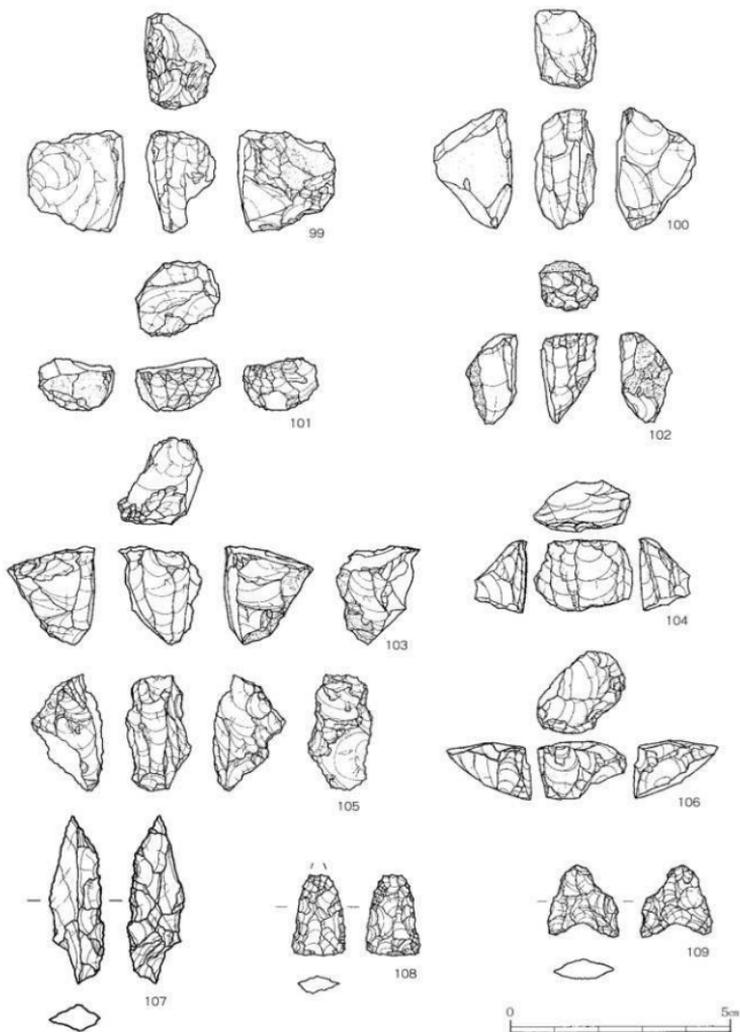
第182図 I地区Ⅶ層出土遺物(4)(Cブロック)



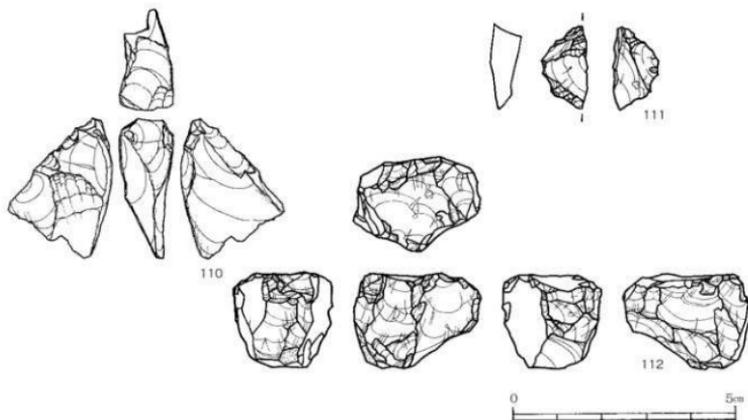
第183図 I地区Ⅶ層出土遺物(5)(Cブロック)



第184図 I地区南Ⅷ層石器出土状況図



第185図 I地区Ⅷ層出土遺物(6)(Dブロック)



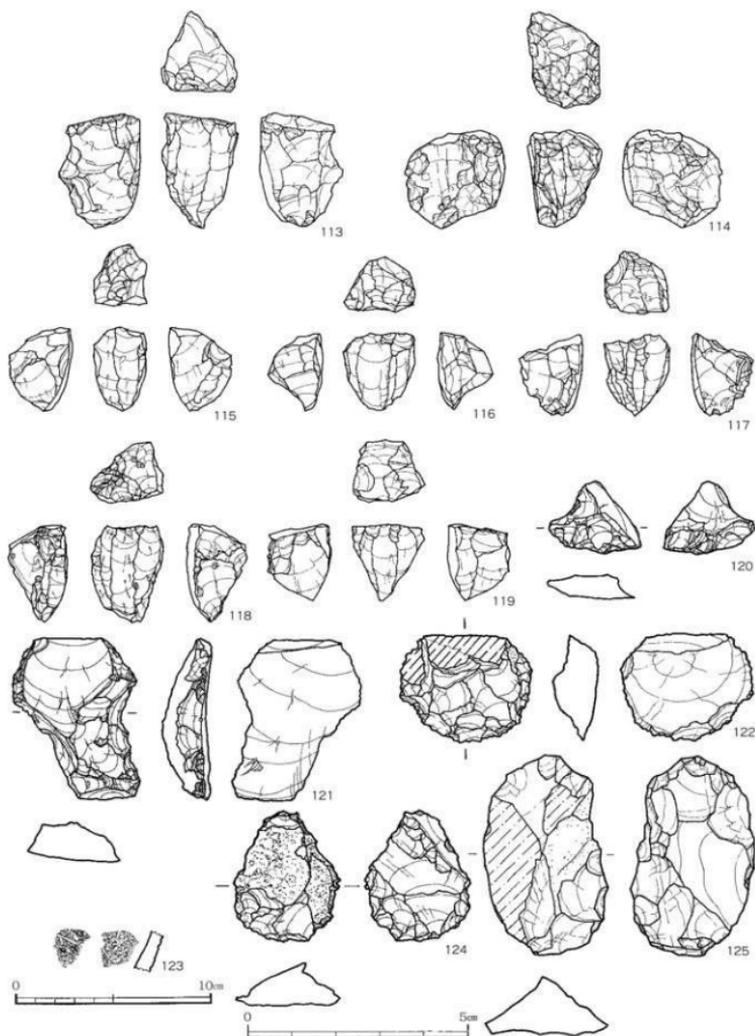
第186図 1地区Ⅶ層出土遺物(7)(Dブロック)

クレイパーである。厚手の剥片の一端に急角度の二次加工により刃部を形成している。刃部には使用による微細剥離が観察される。102はOB-A製の細石刃核である。小型の角礫から素材剥片を獲得し、主剥離面を側面に利用し、打面形成後、打面調整を施しながら細石刃を剥出している。103はOB-A製の細石刃核である。小型の凹礫から素材剥片を獲得し、主剥離面を打面に設定し、打面から石核整形を施し、小口部から細石刃を剥出している。作業面は相対する2面に設定される。104はOB-A製の細石刃核である。素材の長軸側に作業面を設定し、打面調整を施しながら細石刃を剥出している。105はOB-B製の細石刃核である。狭長な作業面を設定し、細石刃を剥出している。106はOB-B製の細石刃核である。平坦な素材の一端に打面を180°転移しながら短い細石刃を剥出している。107は黒色安山岩の石鉄未製品である。両面に平坦剥離が施されている。欠損品であることを考慮しても大型であるため、スクレイパー等の器種に分類される可能性もある。108は黒色安山岩製の石鉄である。小型の平基二等辺三角形礫である。109はチャート製の石鉄である。凹基無茎礫で、先端部が欠損している。110は頁岩製の石器である。剥片に二次加工を施してあり、ここではブランクと分類したが、他の器種に分類される可能性もある。111はOB-B製の二次加工剥片である。112はOB-B製の石核である。細石刃核のブランクの可能性もある。

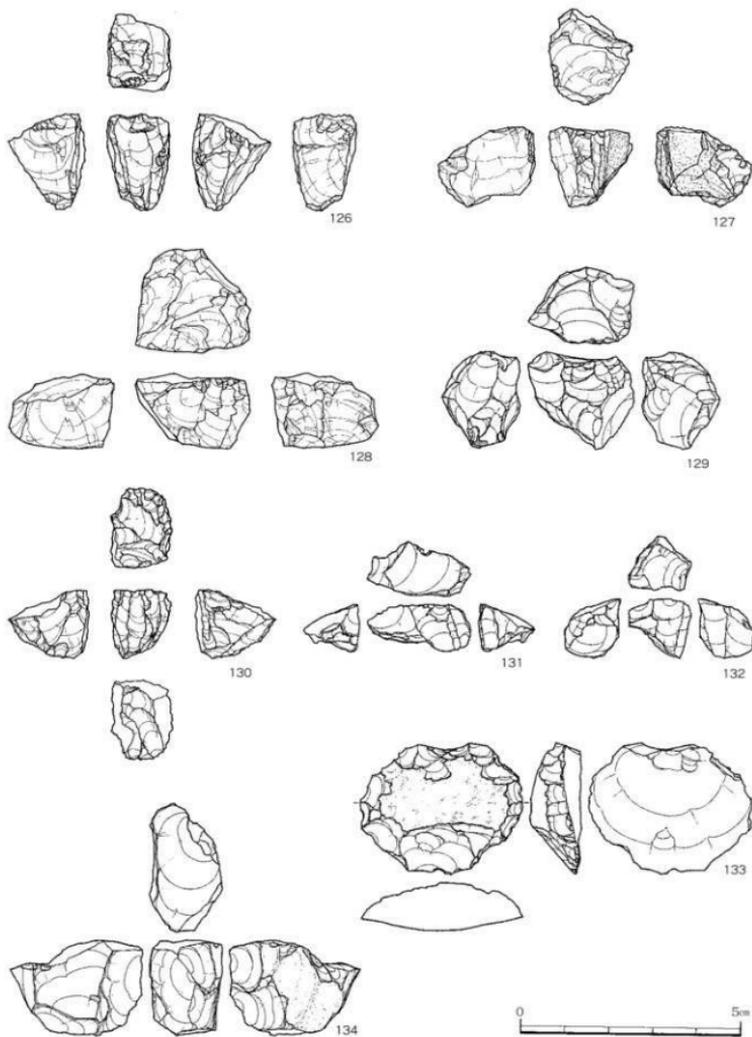
Eブロック

113はOB-A製の細石刃核である。尾縁に細かい調整がみられる。打面調整を施しながら細石刃を剥出している。114はOB-B製の細石刃核である。素材剥片の主剥離面を側面に利用し、打面は側方からの連続する剥離により形成される。打面調整を施しながら細石刃を剥出している。115はOB-E製の細石刃核である。116はOB-A製の細石刃核である。小型の角礫を素材とし、打面調整を施しながら細石刃を剥出している。117はOB-A製の細石刃核である。素材剥片の主剥離面を側面に利用し、打面調整を施しながら細石刃を剥出している。尾縁に調整がみられる。118はOB-B製の細石刃核である。素材剥片の主剥離面を側面に利用し、打面調整を施しながら細石刃を剥出している。119はOB-A製の細石刃核である。素材剥片の主剥離面を側面に利用し、打面調整を施しながら細石刃を剥出している。120は硬質頁岩製のスクレイパーである。剥片の両面に二次加工を施し、刃部を形成している。石鉄未製品の可能性もある。121はOB-A製のスクレイパーである。剥片の両側縁にノッチ状の二次加工により刃部を形成している。122は硬質頁岩製のスクレイパーである。剥片の端部に腹面からのやや角度のある二次加工により刃部を形成している。一部腹面にも二次加工が観察される。

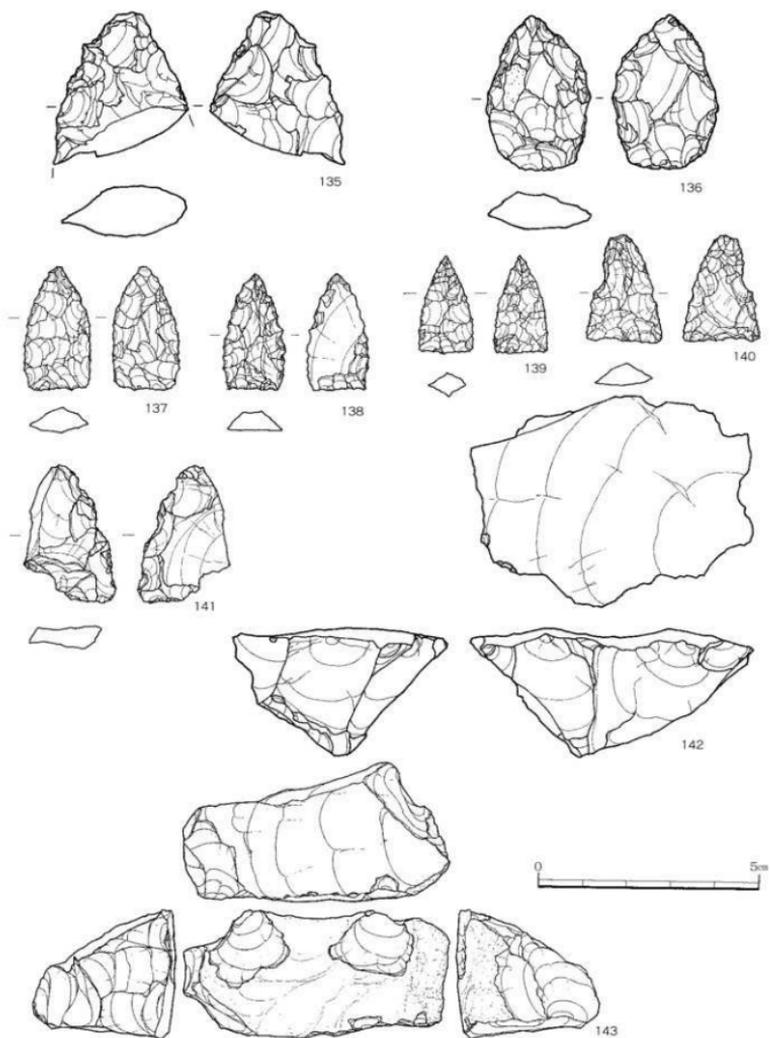
123は厚手の土器片である。外面に沈線が1条わずかに確認される。内面の調整については明確でない。下部に厚みが大きくなり、底部に近い可能性がある。124は黒色安山岩製のスクレイパーあるいは石鉄未製品である。125



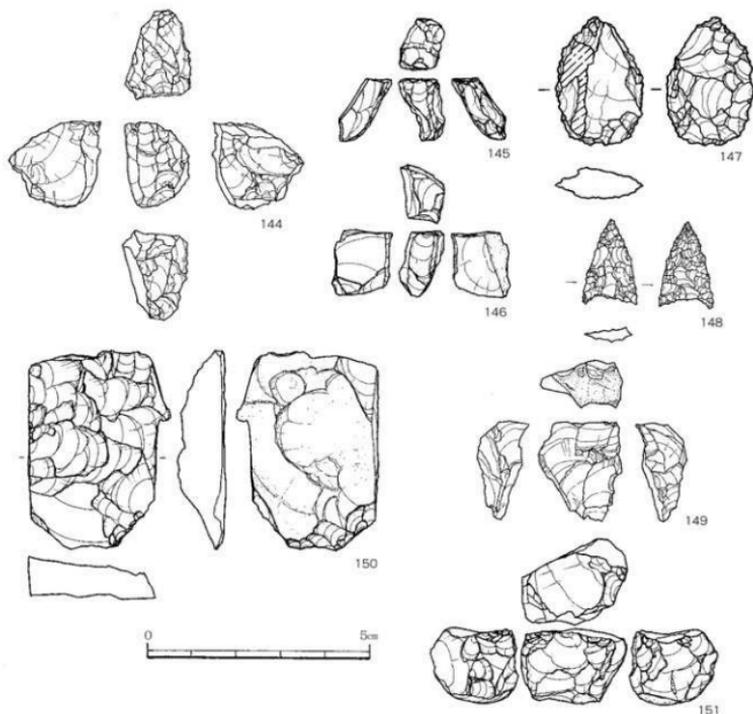
第187図 I地区VII層出土遺物(8)(Eブロック)



第188図 I地区Ⅷ層出土遺物(9)(Fブロック)



第189図 I地区Ⅶ層出土遺物(10)(Fブロック)



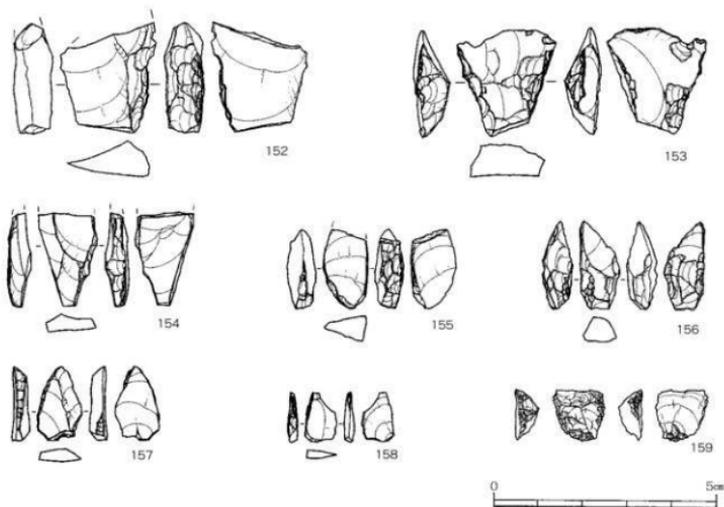
第190図 I地区Ⅷ層出土遺物(11)(ブロック外)

は硬質頁岩製のスクレイパーである。厚手の素材の両面への二次加工により刃部を形成している。

Fブロック

126はOB-B製の細石刃核である。素材剥片の主剝離面を側面に利用し、打面調整を施しながら細石刃を剥出している。127はOB-B製の細石刃核である。素材剥片の主剝離面を側面に利用し、打面調整を施しながら細石刃を剥出している。左側面に磨滅が、打面には両側面からの細かい剝離が観察され、いずれも固定具によるものと考えられる。128はOB-B製の石核あるいは細石刃核のブランクである。129はOB-A製の石核あるいは細石刃核のブランクである。130はOB-A製の細石刃核である。素材剥片の主剝離面を側面に利用し、打面調整を施しな

から細石刃を剥出している。作業面は相対する2面に設定され、打面には両側面からの細かい剝離が観察される。131はOB-A製の細石刃核調整剥片である。132は黒色安山岩製の細石刃核である。種別剝離があまりはっきりせず、器種認定については流動的である。133はOB-B製の石核あるいは細石刃核のブランクである。134は黒色安山岩製のスクレイパーである。剥片の周縁にやや角度のある二次加工を施し、刃部を形成している。135は黒色安山岩製の尖頭器である。両面への調整は粗く、大型であることから未製品の可能性もある。欠損品である。136は硬質頁岩製の尖頭器である。Cブロック90の石器と石材、規格、製作技術が類似している。137は硬質頁岩製の石鏃である。平基の二等辺三角形鏃で、一部素材の主剝離面を



第192図 I地区Ⅶ層出土遺物 (12) (ナイフ形石器・台形石器)

残す。138は硬質頁岩製の石鏃である。平基の二等辺三角形鏃で、剥離は背面に集中する。腹面への加工は一部分のみに限られ、いずれも縁辺のみの加工であるため、素材の主剥離面を大きく残す。139は黒色安山岩製の石鏃である。平基の二等辺三角形鏃である。140は硬質頁岩製の石鏃である。平基の二等辺三角形鏃である。素材の打縮部を先端部に設定しており、その打縮が除去できずに、未製品で破壊されている。141は硬質頁岩製の石鏃未製品である。142は硬質頁岩製の石核である。厚手の剥片を素材とし、主剥離面を打面として設定している。打面から周縁に作業面を設定し、打面調整を施さずに剥片を剥離している。石材、剥離された剥片の規格等から、石鏃の素材剥片を剥出したものと考えられる。143は瑪瑙製の石核である。

鏃の分割面を打面に設定し、剥片を剥離している。

(2) I地区 ブロック内の出土遺物

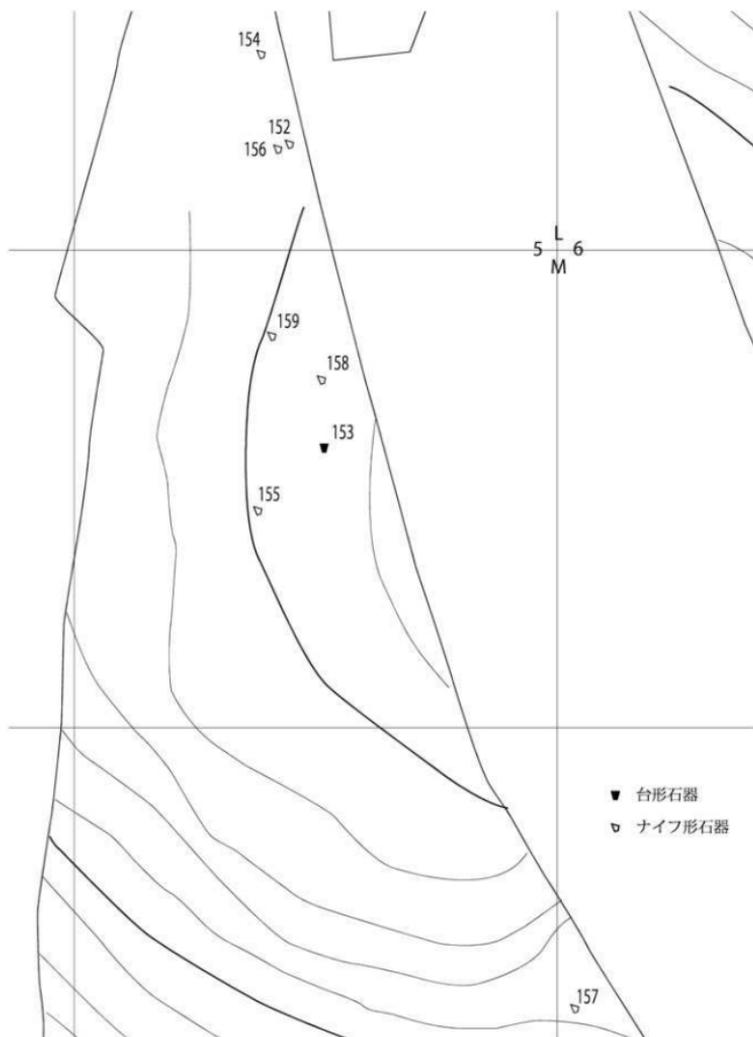
144はOB-A製の細石刃核である。礫皮面を残す素材剥片の主剥離面を側面に利用し、打面調整を施しながら細石刃を剥出している。145はOB-C製の細石刃核である。桑ノ木津留産と推定される。極状に小型で、残核形態は角柱状を呈し、打面調整を施しながら細石刃を剥出している。146はOB-A製の細石刃核である。素材剥片の

主剥離面を側面に利用し、打面を側面からの剥離により形成し、小口部から細石刃を剥出している。147は硬質頁岩製の石鏃の未製品である。形態的には90、136の石器と類似するが、押圧剥離が確認されるため、尖頭器ではなく石鏃未製品と判断した。148はOB-C製の石鏃である。小型の凹基無茎鏃で、縁辺は細かい鋸歯状の調整で仕上げられている。頁岩系の石材で、平基二等辺三角形鏃の多い当道跡の出土石鏃の中では異質である。149はOB-A製の小型の石核である。150は硬質頁岩製の石核である。96の石核と類似する。下縁に細かい剥離が観察され、あるいはスクレイパー等の他の石器に分類される可能性もある。151はOB-B製のブランクである。

(3) I地区出土のナイフ形石器、台形石器

I地区のⅦ層で出土した小型のナイフ形石器、台形石器である。出土位置はそれぞれブロック内であるものの、時間的な共伴性については疑問であるため、別にまとめた。

152はOB-A製のナイフ形石器である。剥片を縦位に利用している。欠損しており、当初は大きめのナイフ形石器であったものと思われる。153は硬質頁岩製の台形石器である。剥片を横位に利用し、右側縁は切断面からの平坦剥離、左側縁は腹面からのブランティングが施され



第193図 I地区Ⅶ層ナイフ形石器・台形石器出土状況図

ている。刃部は使用によるものと考えられる微細剥離が観察される。154は硬質頁岩製のナイフ形石器である。片側縁に腹面及び背面からのブランディングが施されている。一部欠損している。155はOB-B製のナイフ形石器である。小型の縦長剥片の右側縁に背腹両面からのブランディングを、左側縁基部に腹面からのブランディングを施している。先端部が欠損している。156はOB-A製のナイフ形石器である。小型剥片を縦位に利用し、左側縁の背面からブランディングを施している。157はOB-A製のナイフ形石器である。小型剥片を縦位に利用し、左側縁全体及び右側縁基部に腹面からのブランディングを施している。158はOB-B製のナイフ形石器である。小型剥片の一個縁に背面からのブランディングを施している。159はOB-B製のナイフ形石器である。剥片を縦位に利用し、一個縁に腹面からのブランディングを施している。先端部が欠損している。

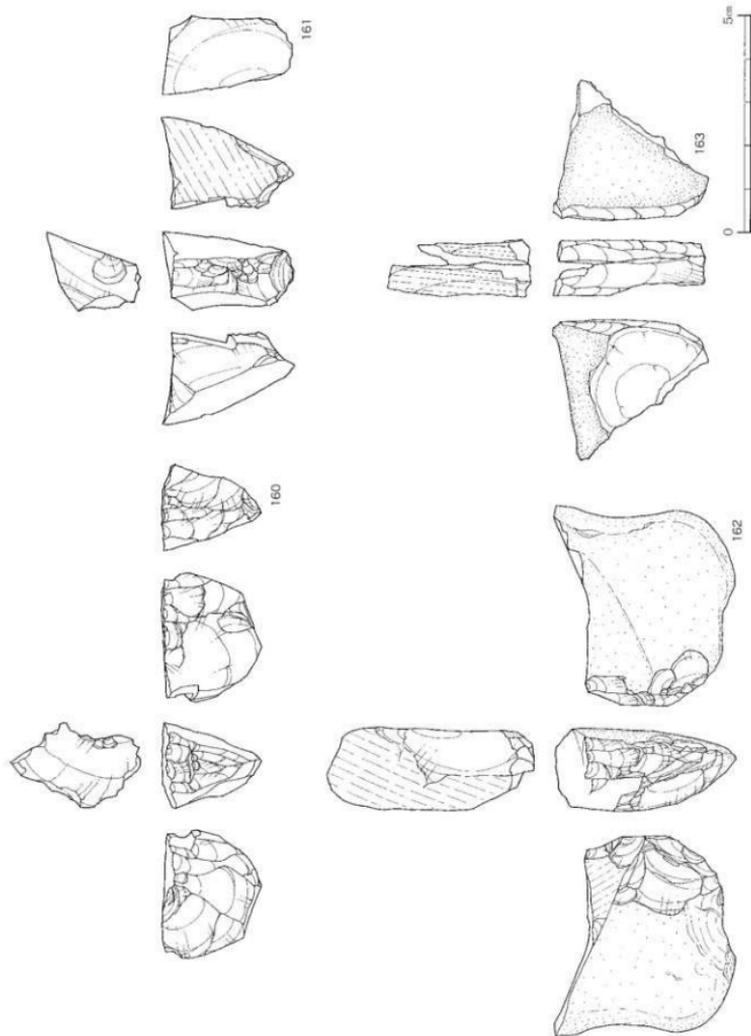
(4) II地区の出土遺物 Gブロック

160は船野型細石刃核である。作業面を両小口部にも、打面調整を施さず細石刃を剥出している。161は扁平な素材を利用した細石刃核である。162は熱変成を受けた凝灰岩質頁岩製の細石刃核である。円礫の分割により得られた素材の小口部から細石刃剥出を行っている。正面下部に認められる両側面への調整は、作業面再生に先立って行われる調整を示すものと思われる。163は熱変成を受けた凝灰岩質頁岩製の細石刃核である。分割により得られた素材の小口部から細石刃を剥出している。2枚の接合資料である。164は扁平な素材を利用した細石刃核である。165はOB-A製の細石刃核である。素材剥片の主剥離面を側面に利用し、打面調整を施しながら小口部から細石刃を剥出している。下端に自然面を残す。166は凝灰岩質頁岩製の細石刃核の作業面再生剥片である。打面からの再生作業である。167はOB-A製の細石刃核である。円礫から礫皮面を残す素材剥片を獲得し、主剥離面を側面に設定し、打面を形成後、片側面に簡易な石核整形を施し、打面調整を施しながら細石刃を剥出している。168は凝灰岩質頁岩製の細石刃核の作業面再生剥片である。採石作業は作業面の下半部を打面として行われている。169は凝灰岩質頁岩製の側面再生剥片である。作業面の側方から再生作業が行われている。170は硬質頁岩製の細石刃核である。種族調整がはっきりしない分類については流動的である。171はOB-A製の細石刃核である。小型角礫から得られた素材剥片の主剥離面を側面に利用し、打面形成後打面調整を施しながら細石刃を剥出している。尾縁に調整がみられる。172はOB-A製の細石刃核である。素材剥片の主剥離面を側面に利用し、打面調整を施しながら細石刃を剥出している。173、174、175はOB-A製の細石刃核である。いずれも小型円礫から得

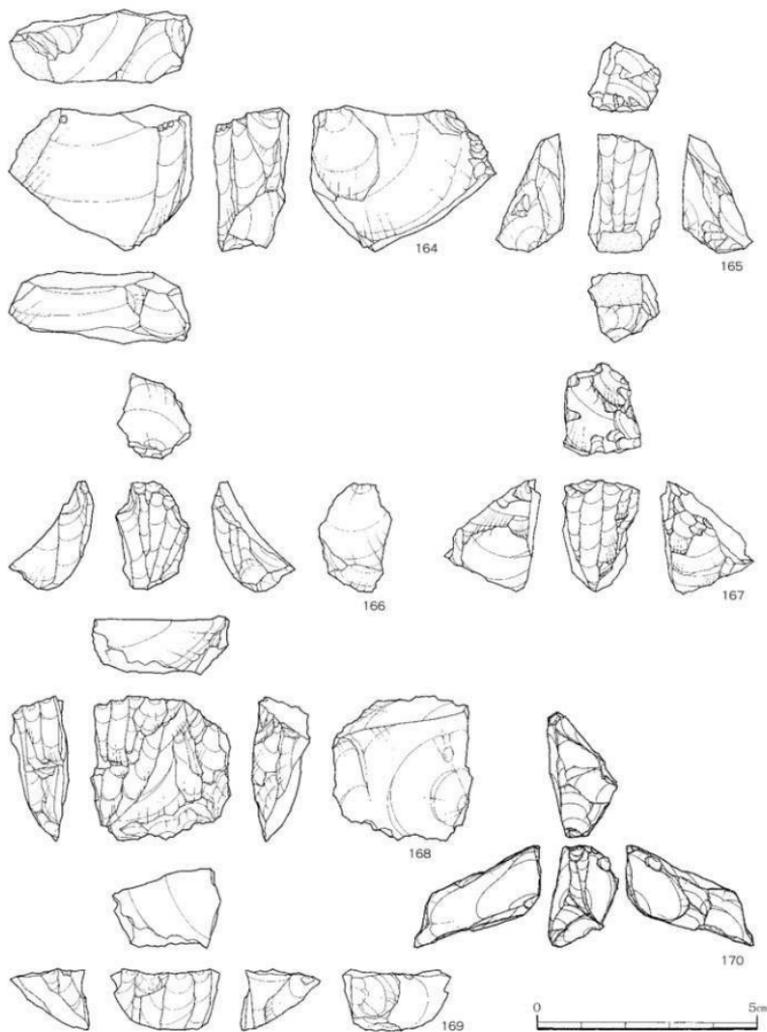
られた礫皮面を残す素材剥片の主剥離面を側面に利用し、反対側面に簡易な石核整形を施し、打面調整を施しながら細石刃を剥出している。176、177はOB-A製の細石刃核である。素材剥片の主剥離面を側面に利用し、側方からの連続する剥離により打面を形成後、打面調整を施しながら細石刃を剥出している。177については下縁調整が認められる。178は礫皮面を残す剥片素材の主剥離面を側面に利用し、打面調整を施さず細石刃を剥出している。179は大剥離面を側面に利用し、打面を側方からの連続する剥離により形成している。下縁調整も顕著である。180、181はOB-A製の小型の細石刃核である。181は顕著な打面調整が認められる。182はOB-A製の細石刃核である。素材剥片の主剥離面を側面に利用し、打面形成後、打面調整を施しながら細石刃を剥出している。尾縁調整が認められる。183はOB-A製の細石刃核である。簡易な石核整形後、小口部から細石刃を剥出している。下縁調整が認められる。184はOB-A製のブランクである。185は硬質頁岩製の尖頭器あるいは石鉄の未製品である。両面への成形剥離が観察され、押圧剥離は施されていない。186・187は石鉄で、接合して一つの石鉄となる。平基で両側縁が若干外弯するため、製作途中での破損と考えられる。188は硬質頁岩製の石鉄未製品である。器身中央部に剥離が抜けなくて瘤状に残った部分があり、そのため製作途中で破棄されたものと思われる。189はOB-A製の石核である。円礫を素材とし、打面を固定して剥片を剥離している。190は硬質頁岩製の石核である。破棄前に細かい剥離が加えられており、作業面がはっきりしないが、石材と規格から石鉄の素材を目的とした石核であると推定される。191は瑪瑙製の石核である。打面調整を施しながら剥片を剥出している。192はOB-A製の細石刃核のブランクである。当ブロックで多く出土している素材剥片を側面に利用するタイプのブランクであると考えられる。193は鉄石製の石核である。194は硬質頁岩製の石核である。石材から、石鉄の素材剥片を目的とした石核であると考えられる。195は凝灰岩質頁岩製の二次加工剥片である。196は黒色安山岩製の二次加工剥片である。197は硬質頁岩製の二次加工剥片である。198はタンバク石製の二次加工剥片である。199は頁岩製の剥片である。200は細石刃核の作業面再生剥片である。作業面を打面として再生を行っている。201~231は細石刃である。詳細については観察表を参照して頂きたい。

(5) II地区ブロック外の出土遺物

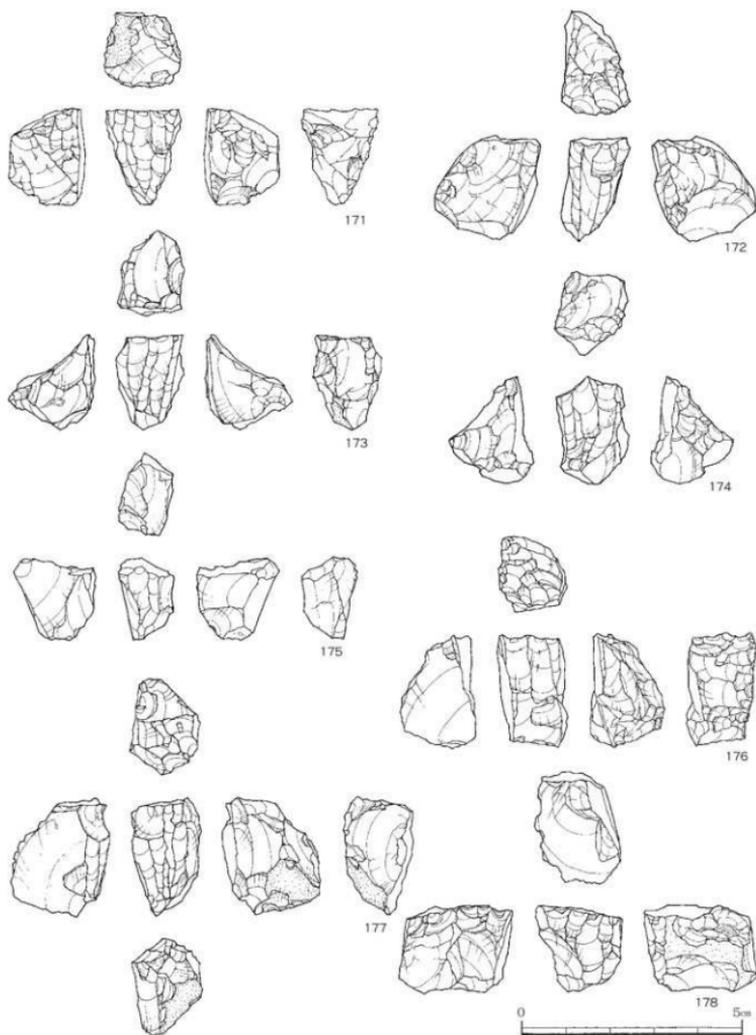
232はOB-A製の細石刃核である。分割面の側面を側面に利用し、打面は側方からの連続する剥離により形成される。打面調整を施しながら小口部から細石刃を剥出している。233はOB-A製の二次加工剥片である。ナイフ形石器のブランディングのような急角度の加工が一側



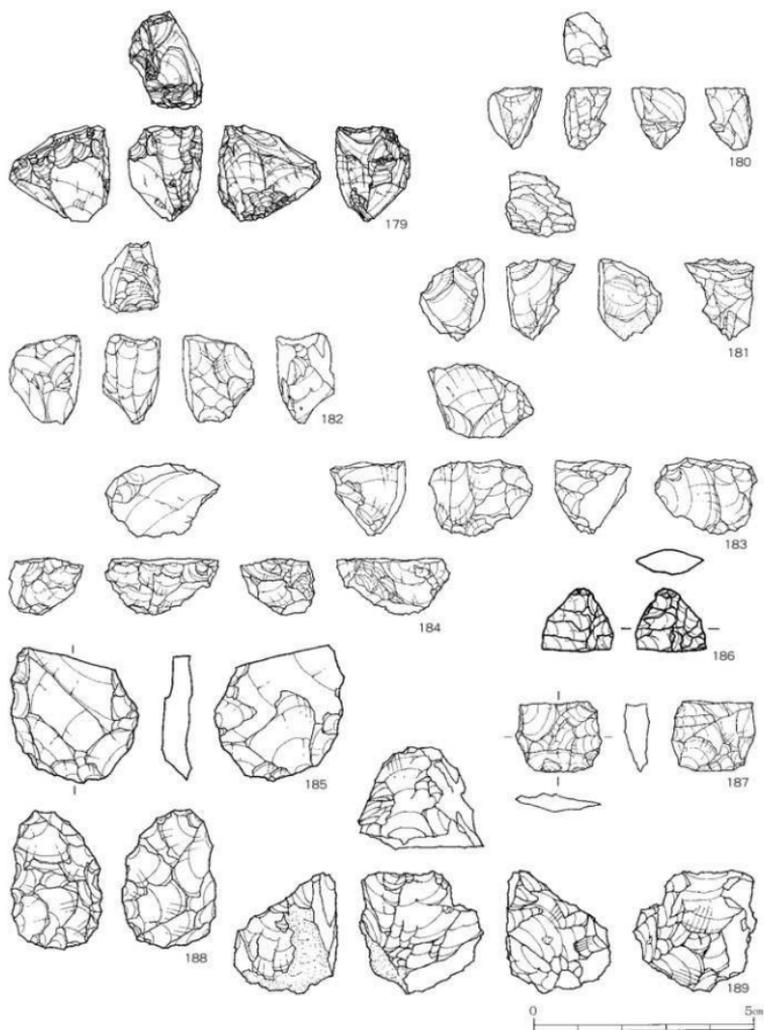
第194図 I 地区瓦葺出土遺物 (1) (Gブロック)



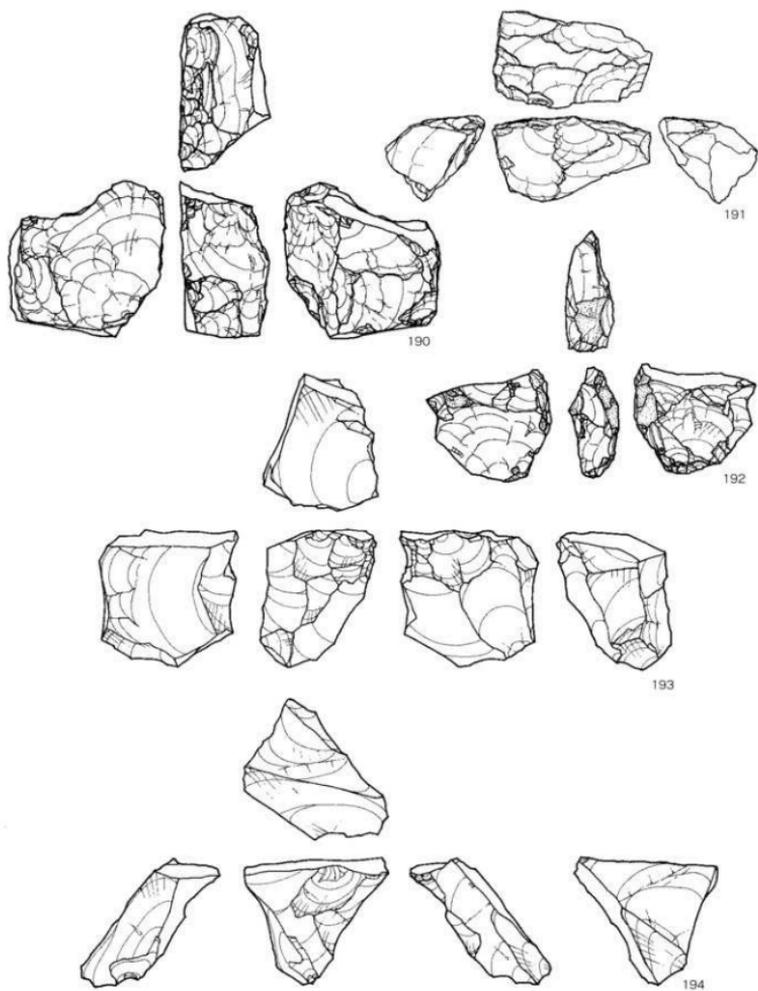
第195図 II地区Ⅶ層出土遺物(2)(Gブロック)



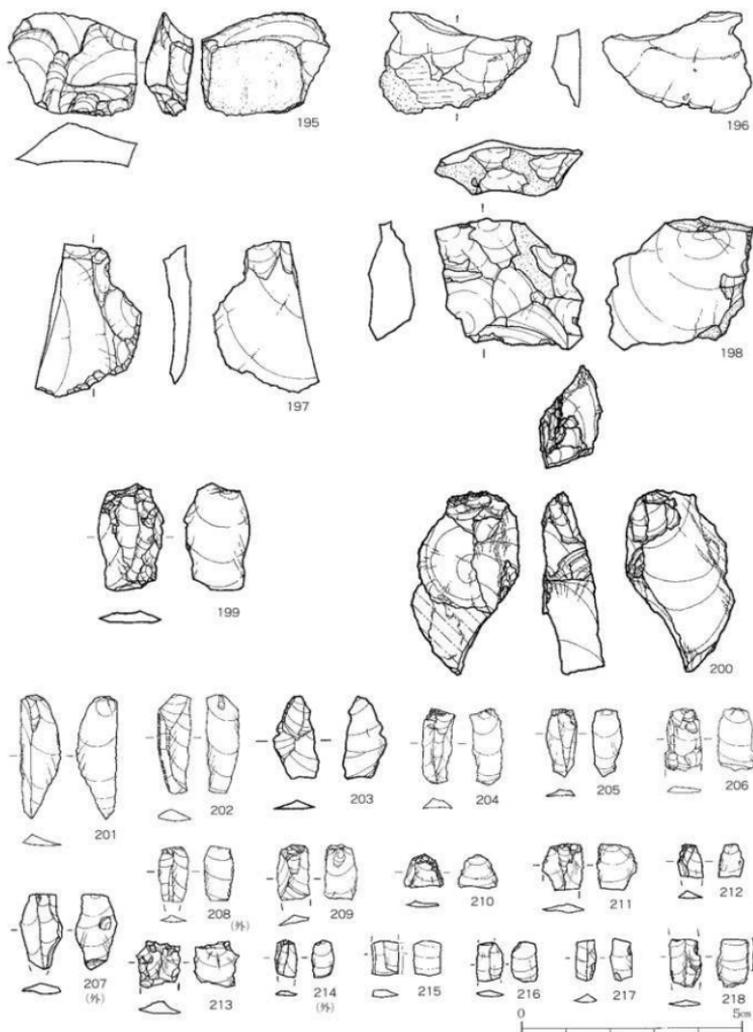
第196図 II地区Ⅶ層出土遺物(3)(Gブロック)



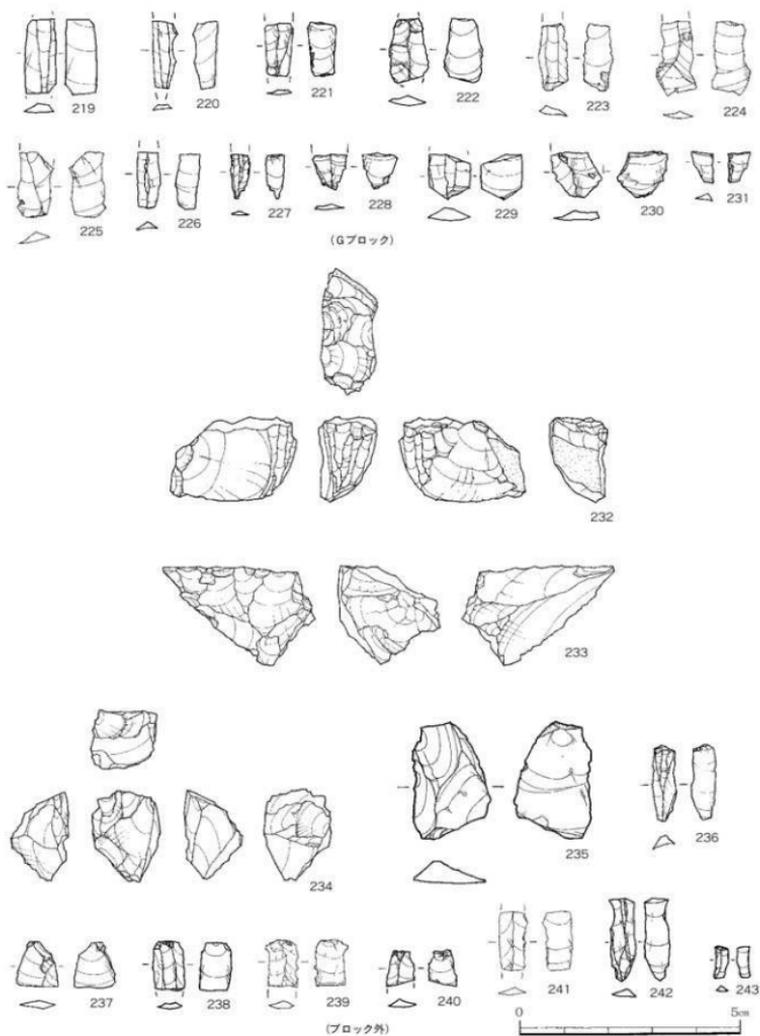
第197図 II地区Ⅶ層出土遺物(4)(Gブロック)



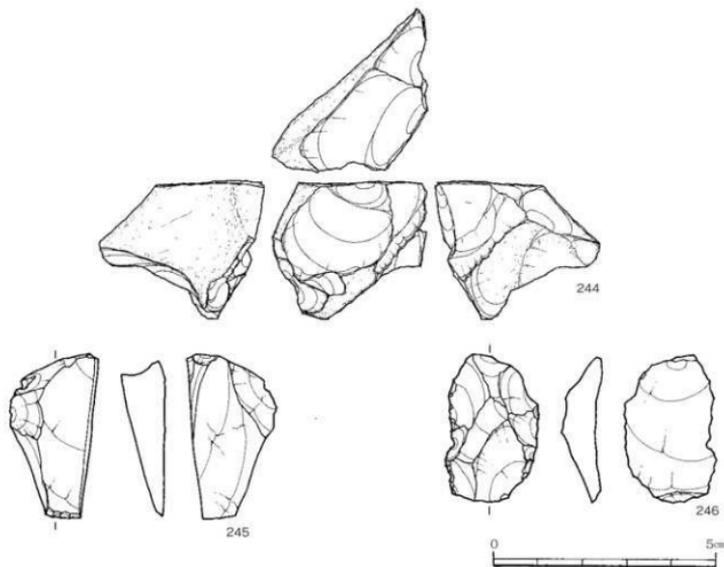
第198図 II地区Ⅵ層出土遺物(5)(Gブロック)



第199図 II地区Ⅶ層出土遺物(6)(Gブロック)



第200図 II地区Ⅶ層出土遺物(7)(Gブロック・ブロック外)



第201図 II地区Ⅶ層出土遺物(8)(ブロック外)

縁に観察される。234はOB-A製のブランクである。235はOB-A製の剥片である。236~243は細石刃である。詳細は観察表を参照して頂きたい。244は熱変成を受けた硬質頁岩の石核である。あるいは細石刃核のブランクに分類される可能性もある。245は硬質頁岩製の二次加工剥片である。246は鉄石英製の二次加工剥片である。

(6) III地区の出土遺物

Hブロック

247はOB-A製の石核である。求心状の剥離からなる打面から周縁に剥離を廻らせている。248~251は押圧剥離により剥離された剥片である。252は黒色安山岩製の石鎌である。凹基無茎の三角形鎌である。253は硬質頁岩製の石鎌である。平基の二等辺三角形鎌と推定され、先端が欠損している。254はチャート製の石鎌である。平基の二等辺三角形鎌と推定される。先端部が欠損している。

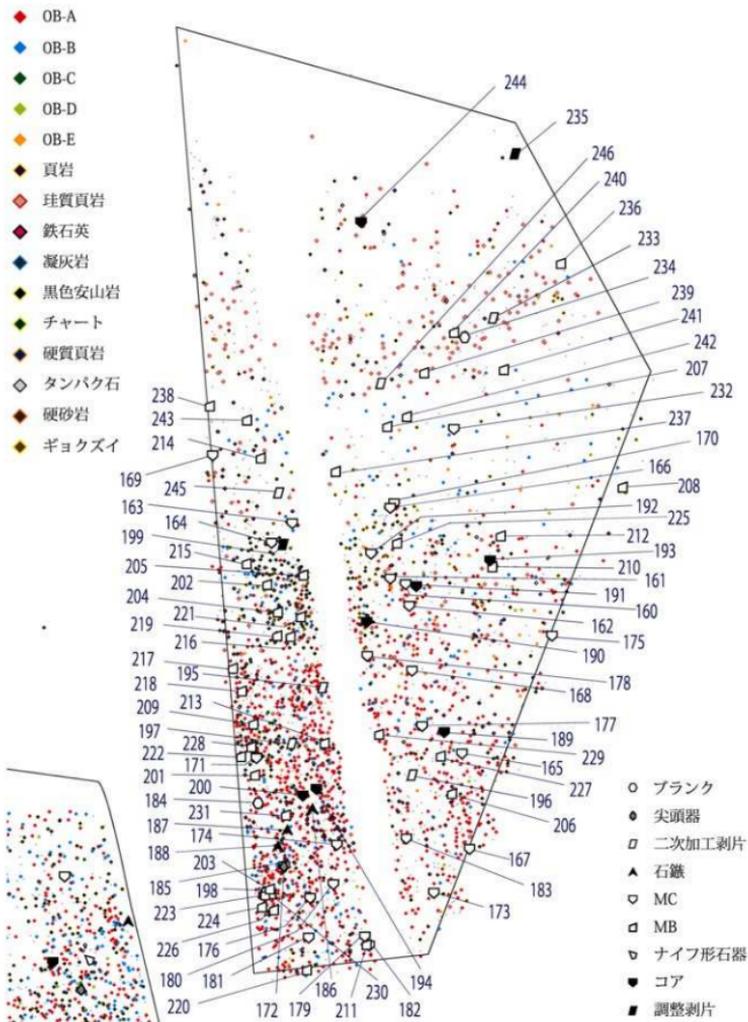
Iブロック

255はOB-A製の細石刃核調整剥片である。細石刃核の再成形を行うために、打面側から側面調整を行う際に、剥離が深く入りすぎて細石刃核本体の大半を剥離してし

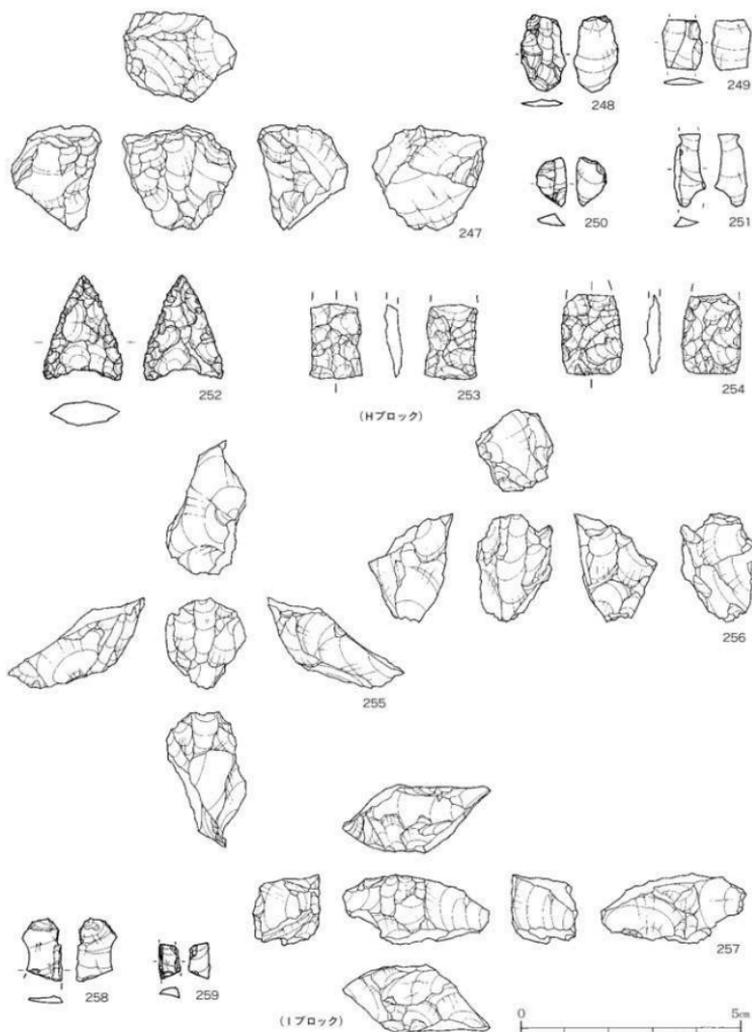
まったものと思われる。前段階の剥離で失敗した際のコーンがもう一つ残されている。256はOB-A製の細石刃核である。打面調整を施しながら細石刃を剥出してている。257はOB-A製の石核あるいは細石刃核のブランクである。258、259は細石刃である。

Jブロック

260は凝灰岩質頁岩製の細石刃核である。扁平礫の側方から連続する剥離により打面を形成し、小口部から細石刃を剥出している。261、262はOB-A製の細石刃核である。いずれも扁平な板状の素材を獲得し、小口部から打面調整を施しながら細石刃を剥出している。263はOB-A製の細石刃核である。角礫から礫皮面を残す素材剥片を獲得し、主剥離面を側面に利用して、左側面は自然面、右側面は打面側からの石核整形を施した後、小口部から打面調整を施しながら細石刃を剥出している。264はOB-A製の細石刃核のブランクである。261、262のような扁平な板状素材の細石刃核のブランクと思われる。265はOB-A製の石器である。石核あるいは細石刃核のブランクであると考えられる。



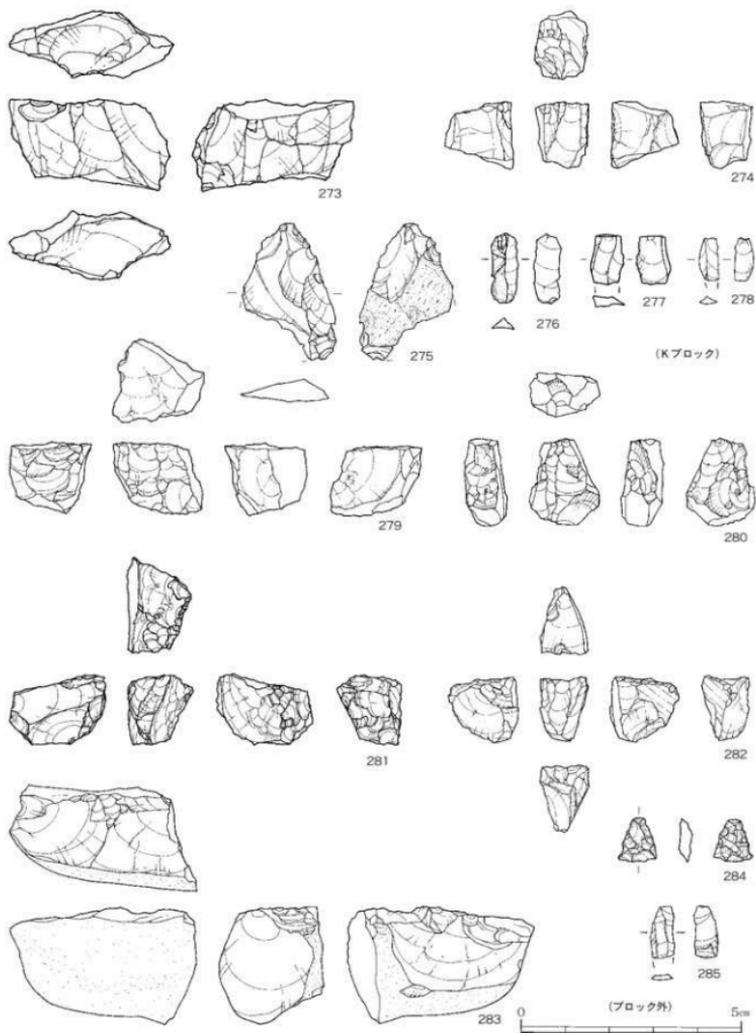
第202図 Ⅰ地区Ⅶ層石器出土状況図



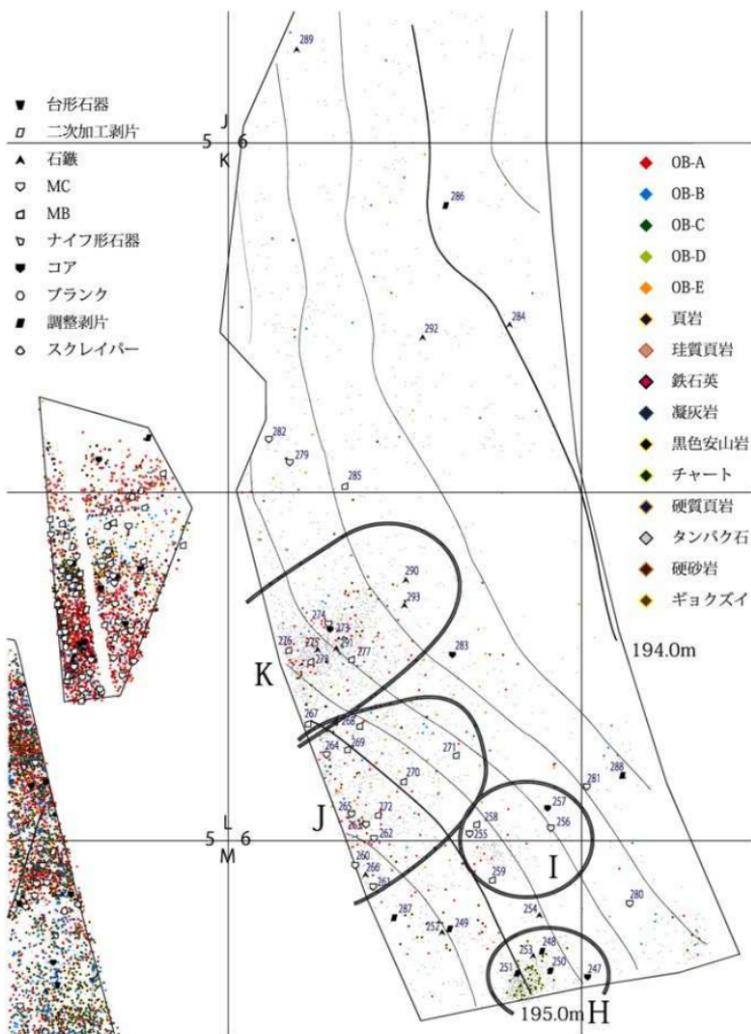
第203図 III地区Ⅵ層出土遺物(1)(H・Iブロック)



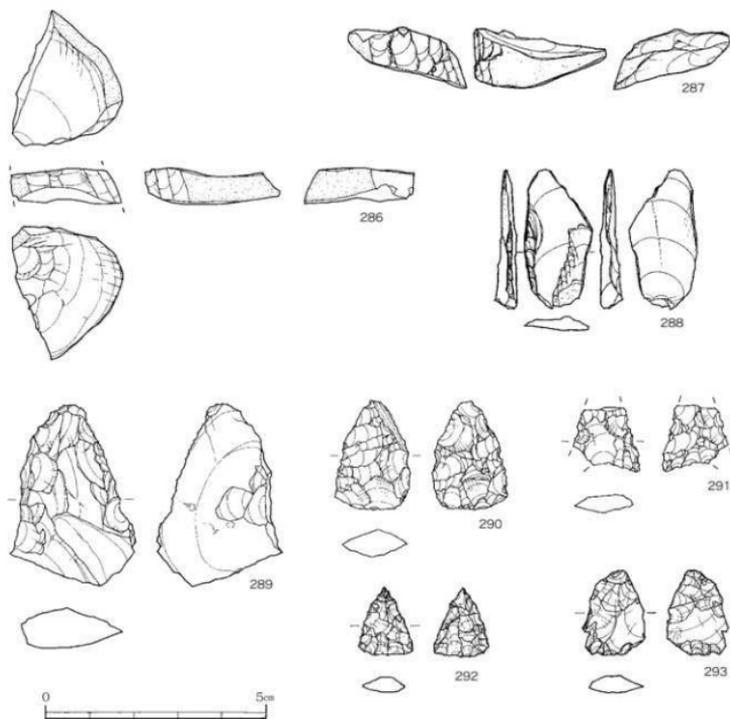
第204図 ■ 地区層出土遺物 (2) (Jプロック)



第205図 ■地区Ⅶ層出土遺物(3)(Kブロック・ブロック外)



第206図 III地区VI層石器出土状況図



第207図 III地区VII層出土遺物(4)(ブロック外)

267~272は細石刃である。詳細については観察表を参照して頂きたい。

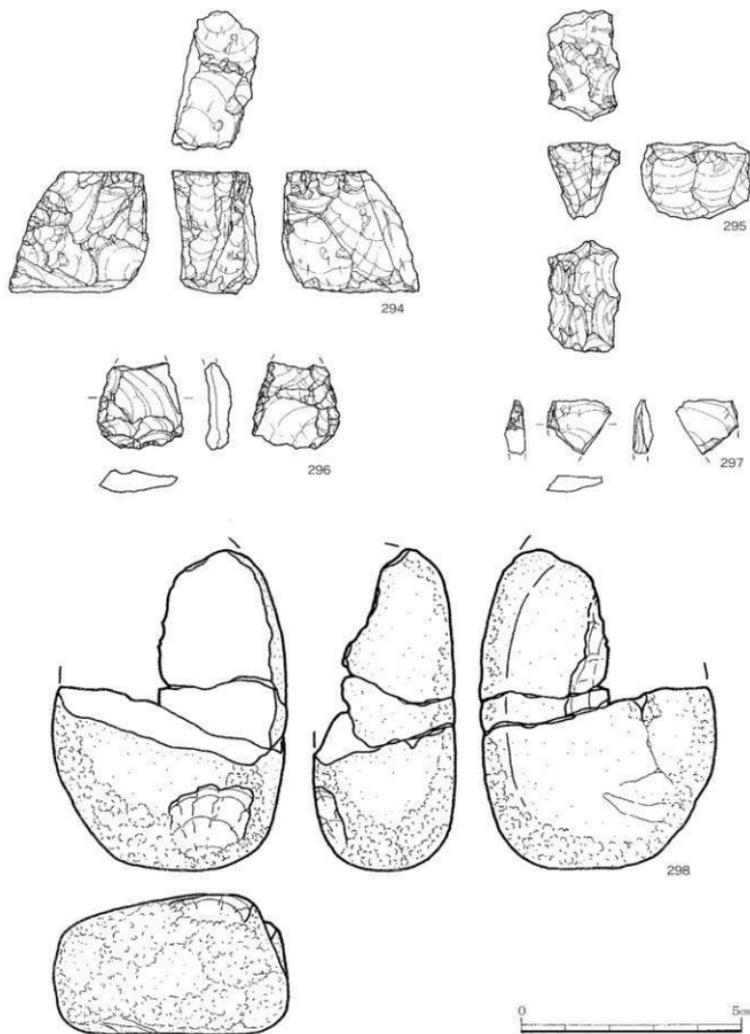
Kブロック

273は硬質頁岩製の石核である。石材から判断すると、石鏃の素材剥片を目的としたものと考えられるが、ネガ面がはつきりせず、判断できない。274はOB-A製の細石刃核である。小型の円礫から得られた礫皮面を残す剥片の主剥離面を側面に利用し、石核整形を施さず、打面調整を施しながら細石刃を剥出している。275は黒色安山岩製の石鏃未製品である。276~278は細石刃である。

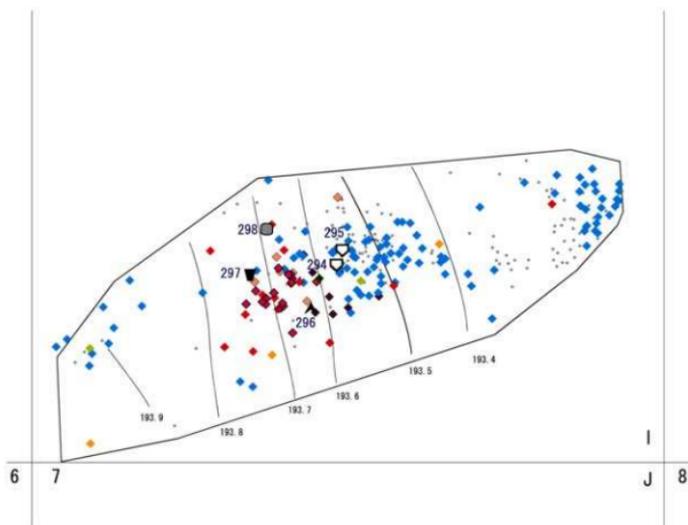
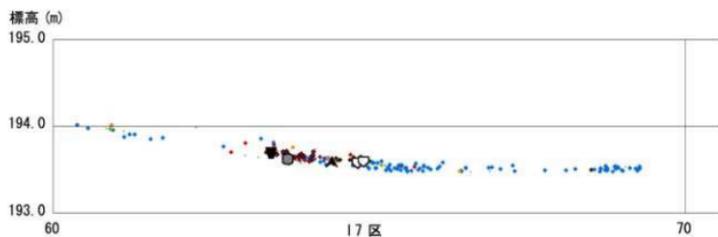
(7) III地区ブロック外の出土遺物

279はOB-A製の細石刃核である。打面、右側面、背面が大剥離面から構成され、左側面は打面側からの石核整形が施されている。打面調整を施さずに細石刃を剥出している。280はOB-B製の細石刃核である。打面調整を施しながら細石刃を剥出している。281はOB-B製の細石刃核である。素材剥片の主剥離面を側面に利用し、側方から連続する剥離により打面を形成している。打面調整を施しながら細石刃を剥出している。282はOB-C製の細石刃核である。左側面は打面側からの石核整形を施し、右側面は打面から細かい調整を、下縁から調整をそれぞれ施し、小口部から細石刃を剥出している。

283は作業面を再生された後の細石刃核である。片側側

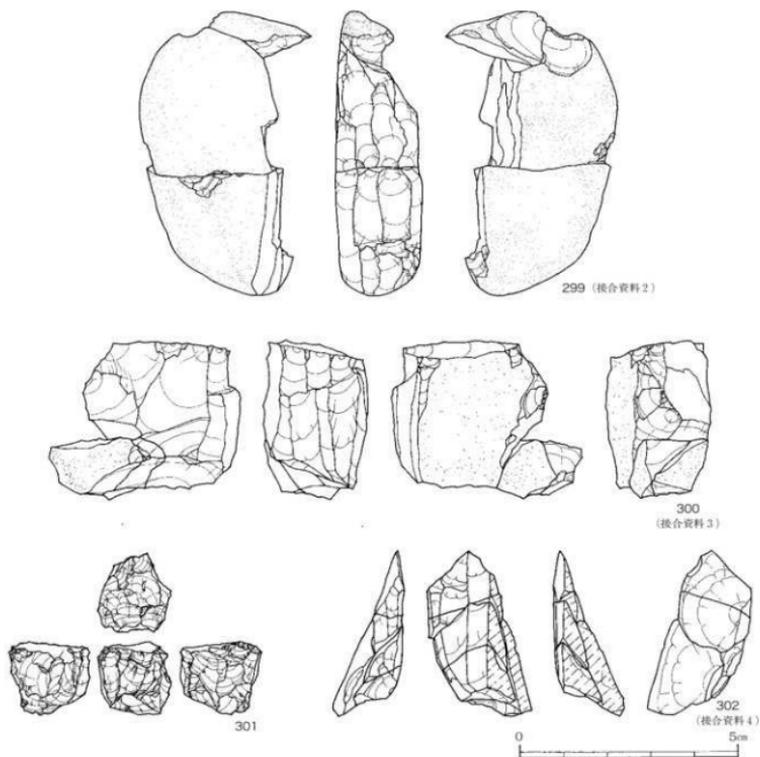


第208図 IV地区Ⅱ層出土遺物（Lブロック）



- | | | | |
|--------|--------|---------|--------|
| ◆ OB-A | ◆ 頁岩 | ◆ 硬質頁岩 | ▼ 台形石器 |
| ◆ OB-B | ◆ 珪質頁岩 | ◇ タンパク石 | ▲ 石鏃 |
| ◆ OB-D | ◆ 鉄石英 | | ● 叩石 |
| ◆ OB-E | ◆ チャート | | ▽ MC |

第209図 IV地区Ⅶ層石器出土状況図



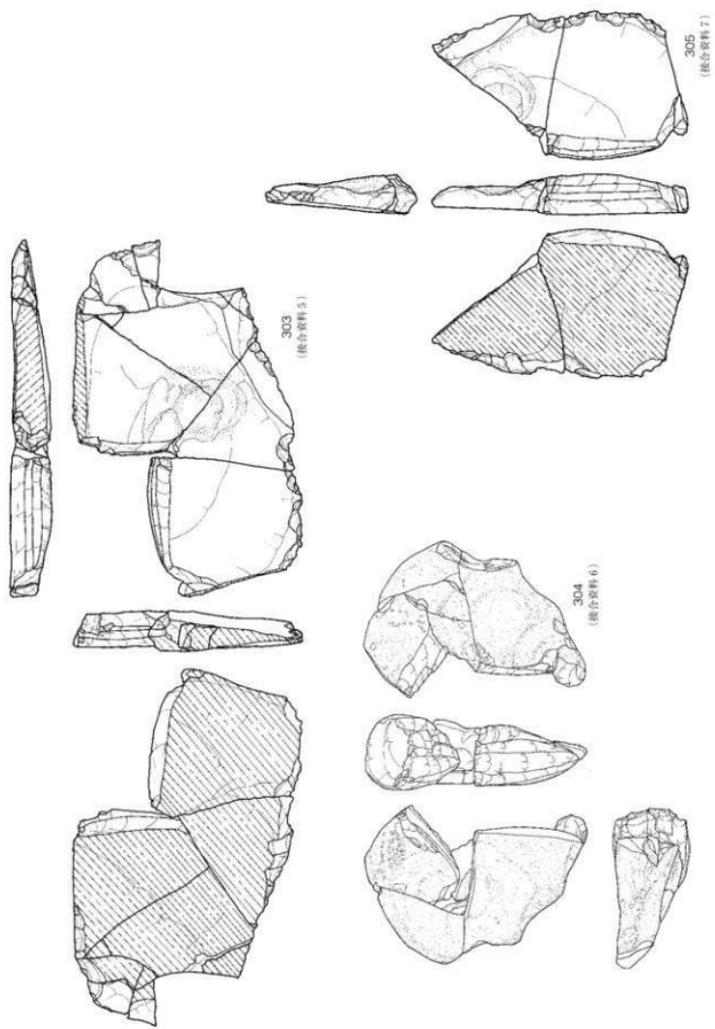
第210図 V地区Ⅶ層出土遺物(1)(Nブロック)

面は自然面、反対は礫皮面を残している。284はOB-B製の小型の石鎌である。285はOB-C製の細石刃である。尾部は折断されている。286、287は熱変成を受けた凝灰岩質頁岩製の打面再生剥片である。287→286の順に側方からの打面再生を行ったもので、両者が接合する。288は硬質頁岩製の微細剥離痕のある剥片である。石鎌の素材剥片獲得の一連の作業で生じた剥片と考えられる。289はOB-A製の二次加工剥片である。左側縁は剥片剥離前の頭部調整を示す剥離で、右側縁が腹面からの二次加工である。290は硬質頁岩製の石鎌未製品である。291はOB-A製の石鎌である。凹基の三角形鎌で、先端部及び一方

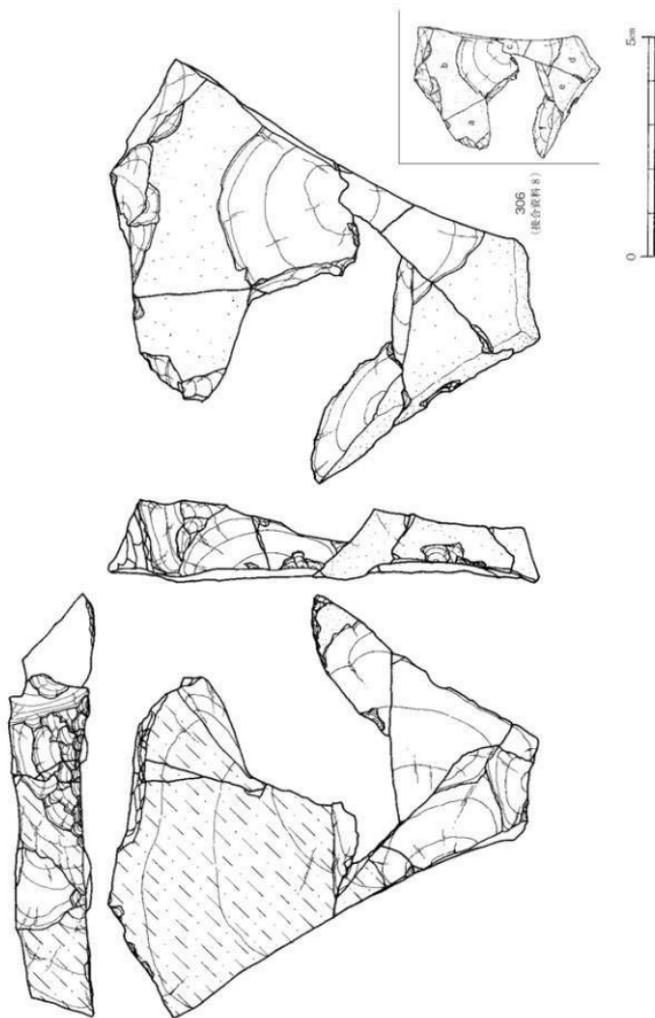
の脚部が欠損している。292は黒色安山岩製の平基三角形鎌である。293は頁岩製の石鎌未製品である。主剥離面を大きく残している。

(8) IV地区の出土遺物
Lブロック

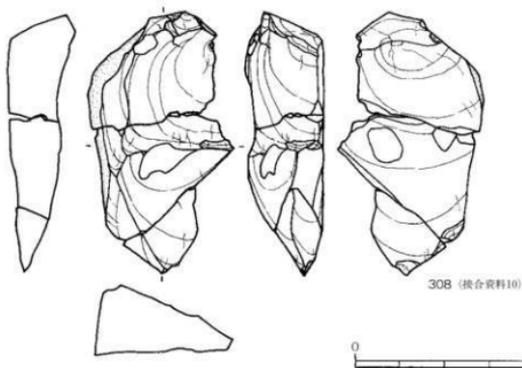
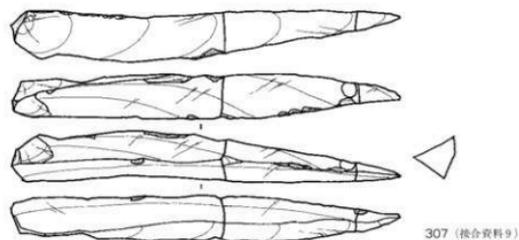
294はOB-B製の細石刃核である。打面側から入念に石核整形を施し、扁平な板状を呈している。小口部に狭長な作業面を設け、細石刃を剥出している。打面と背面で形成される稜に微細剥離が観察される。295はOB-B製の細石刃核である。素材剥片の主剥離面を打面に設定し、打面から両側面に石核整形を施している。打面に両



第211図 V地区層出土遺物(2)(Nプロック)



第212図 V地区瓦葺出土遺物(3)(Nプロック)



第213図 V地区Ⅶ層出土遺物(4)(Nブロック)

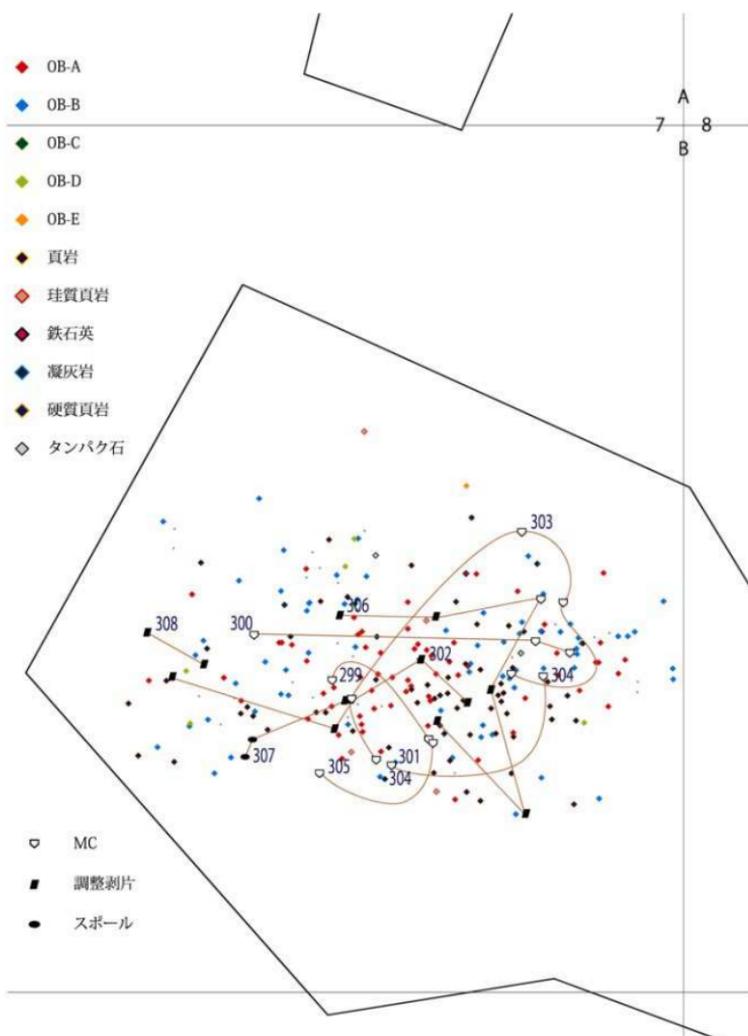
側方からの細かい剥離痕が観察され、固定具によるものと考えられる。296は凝灰岩質頁岩製の石鏃未製品である。先端部が欠損している。297は硬質頁岩製の台形石器あるいはナイフ形石器である。刃部を中心に残っており、全体形状は明らかではないが、一部に腹面からのプランティングが確認される。298は砂岩製の甲石である。下端に叩きによって生じた複数の平坦面が観察される。

(9) V地区の出土遺物
Nブロック

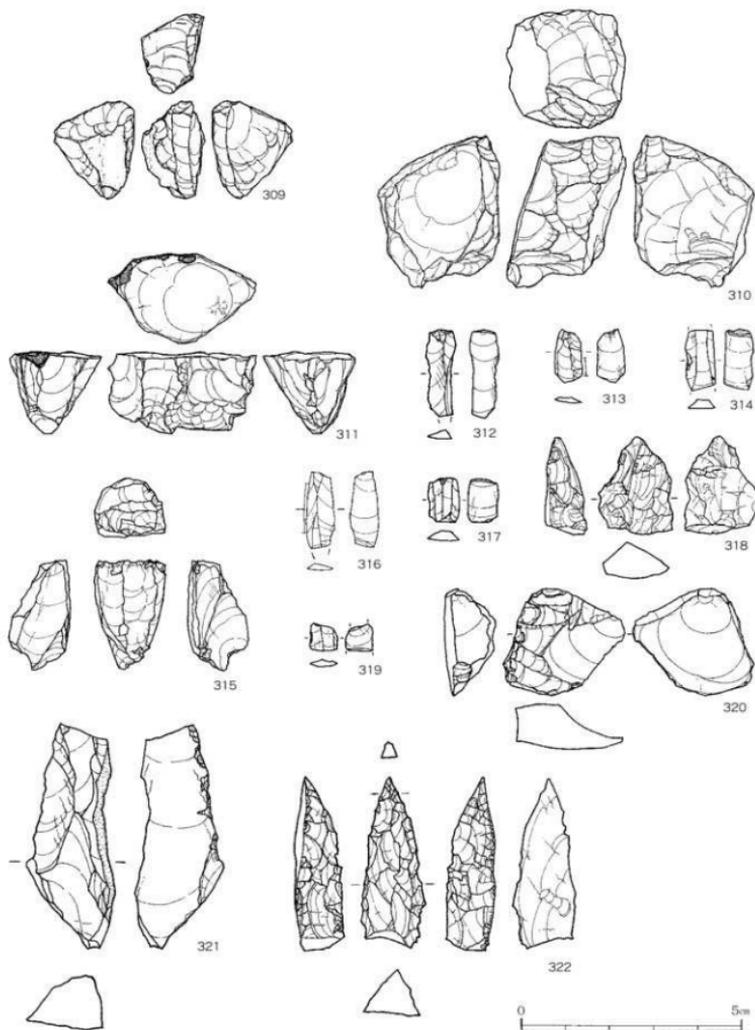
299は熱変成を受けた凝灰岩質頁岩製の細石刃核2つ及び下縁調整剥片1枚の接合資料である。扁平な円礫を2つに分割し、石核整形を施さずに分割面を打面として小口部から細石刃を剥出ししている。一方は下縁調整を施さずに、もう一方は下縁調整を施している。300は凝灰岩質頁岩製の細石刃核と下縁調整剥片の接合資料である。扁平礫を分割し、片側面のみ打面及び下縁からの石核

整形を施し、両小口部から細石刃を剥出ししている。

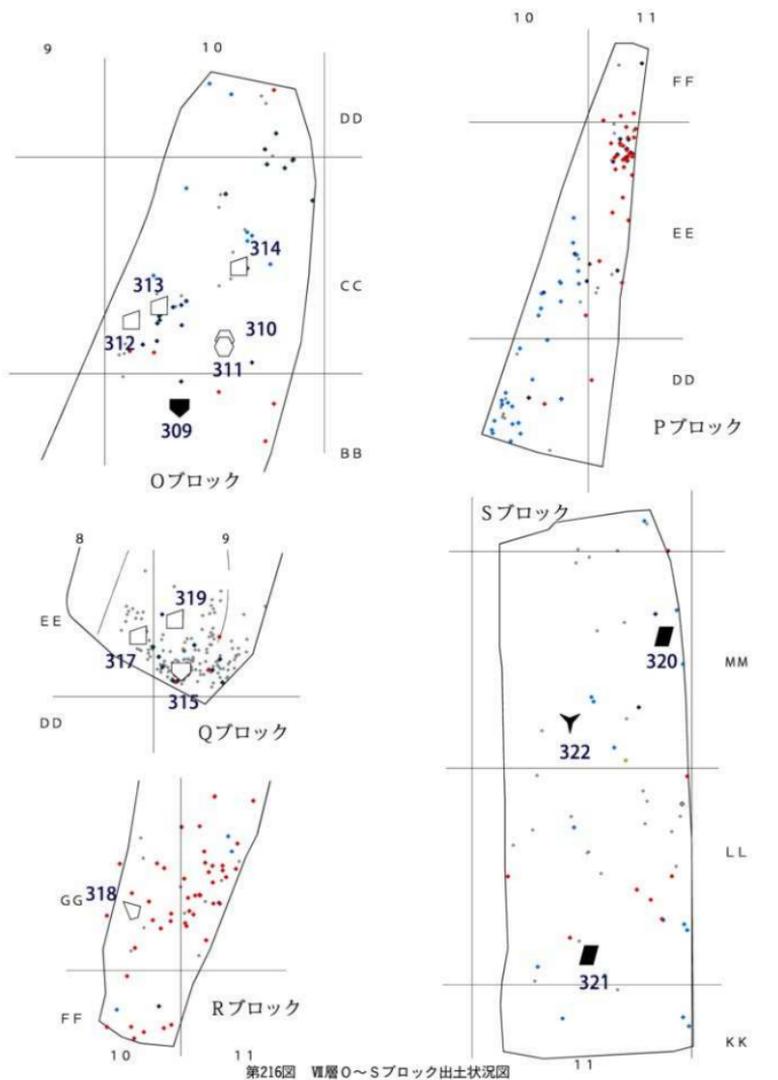
301はOB-B製の細石刃核である。打面からの石核整形の後、打面調整を施しながら細石刃を剥出ししている。302は凝灰岩質頁岩の細石刃核の作業面再生剥片である。加栗山遺跡、粘地遺跡でみられるような、作業面の側方から連続して剥片を剥離し、作業面を再生する特徴的な技術である。303は凝灰岩質頁岩製の細石刃核の接合資料である。扁平な礫を分割し、それぞれの分割礫を細石刃核の素材として利用する、加治屋園型細石刃核の典型的な技術を示すものである。加治屋園型細石刃核の尾縁調整が礫の分割前に行われていることを示す資料である。304は熱変成を受けた凝灰岩質頁岩製の細石刃核2点及び下縁調整剥片2枚の接合資料である。299同様同じ分割礫から製作される細石刃核でも下縁調整を施すものと、施さないものとが混在することを示している。305は凝灰岩質頁岩製の細石刃核の接合資料である。303同様尾縁調



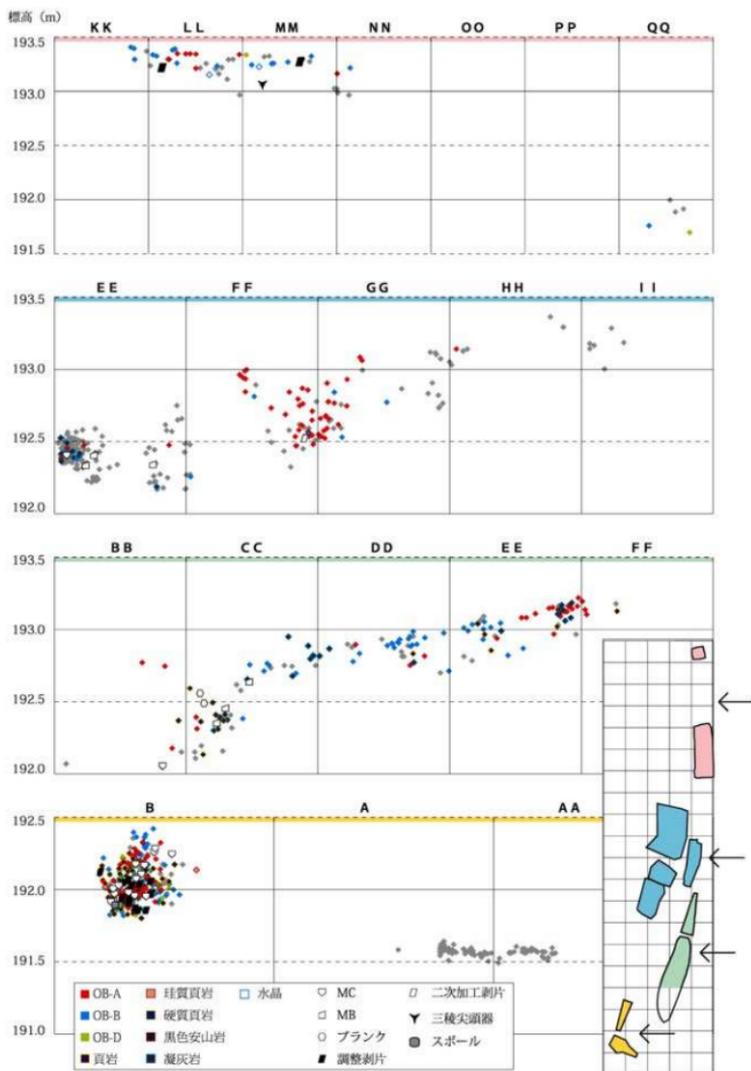
第214図 Y地区Ⅶ層石器出土状況図



第215図 VII・IX・XⅡ・XⅢ地区Ⅶ層出土遺物（O・Q・R・Sブロック）



第216図 Ⅵ層O～Sブロック出土状況図



第217図 V～XII地区石器出土状況図(垂直分布)

整が礫の分割前に行われていることを示す資料である。306は凝灰岩質頁岩の細石刃核など6点の接合資料である。aは細石刃核で、小口部に3条の種状剥離面が観察される。打面を側方からの連続する剥離により形成した後、小口部から縦にスポール状の剥片を剥出し、細石刃を剥離している。縦からのスポール状の剥離は、打点が遠く、打面の再生作業に伴うものではなく、当初に形成されたものである可能性が高い。打面の形成状況からa+bで細石刃核をなしていたことがわかる。c, d, eは分割時の剥片で、fはa+bの細石刃核の下縁からの整形剥片である。加古屋園型細石刃核の典型的な技術を示すものである。307は珪質頁岩製の3つに折れた縦長剥片の接合である。断面三角形の形状から、大型の細石刃核のスポールである可能性もある。背面には、微細剥離痕が観察される。308は珪質頁岩製の厚手の剥片の分割を示す接合資料である。同ブロック内に同一石材の細石刃核が見られないため性格は明らかにできないが、船野型細石刃

核のブランク製作に関わる接合資料の可能性もある。石器自体が被熱しており、所々にはけじた痕跡が確認される。

00 VII・IX・XII・XIII地区の出土遺物
O・Q・R・S・ブランク

309はOB-A製の細石刃核である。硬皮面を残す素材剥片の主剥離面を側面に利用し、打面調整をしながら細石刃を剥出している。310はOB-B製のブランクである。板状の素材を使用している。311はOB-B製のブランクである。312~314は細石刃である。315は凝灰岩製の細石刃核である。素材剥片の主剥離面を側面に利用し、打面を側方からの連続する剥離により形成し、下縁調整を施した後、打面調整をしながら細石刃を剥出している。316~317は細石刃である。318はOB-B製の二次加工剥片である。319は硬質頁岩製の細石刃である。320は珪質頁岩製の作業面再生剥片である。作業面と相対する面からの再生である。

表72 実測遺物観察表 (旧石器) 3

100000番	取上番号	へら番号	ブランク	組合	種別	層位	石材	x	y	z	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	備考
51	300318	10	A		MC	7	鉄石	45.916	20.900	195.530	2.70	1.60	4.00	1.63
52	300347	10	A		MC	7	OB-A	48.540	19.831	195.470	2.40	1.90	3.60	6.90
53	301129	10	A		コア	7	OB-A	46.133	20.416	195.495	3.00	3.20	2.20	19.62
54	301044	10	A		コア	7	OB-A	43.623	19.744	195.380	3.20	3.20	3.32	9.57
55	301069	10	A		MC	7	OB-A	43.550	18.715	195.425	2.30	4.40	1.10	3.66
56	300345	10	A		石核	7	硬質頁岩	45.732	20.220	195.445	3.90	2.60	0.70	6.75 実測部
57	300622	11	B		MC/ブランク	7	硬質頁岩	41.332	21.038	195.430	2.60	3.30	1.40	3.16
58	301187	11	B		MC	7	OB-A	40.247	20.140	195.350	2.50	2.50	1.50	3.85
59	301842	11	B		コア	7	OB-B	43.131	19.945	195.430	2.30	2.50	2.47	9.78 種別
60	301316	11	B		コア	7	OB-A	47.449	20.120	195.405	2.60	1.65	2.12	8.35
61	300843	11	B		一次加工剥片	7	硬質頁岩	41.113	21.878	195.425	2.54	2.74	1.08	4.37
62	300505	11	B		スライス/ペーパー	7	硬質頁岩	43.282	21.093	195.440	2.10	1.15	0.70	9.40
63	301189	11	B		削片	7	硬質頁岩	40.777	20.632	195.305	2.70	2.30	0.85	3.87
64	301217	11	B		削片	7	硬質頁岩	41.973	21.147	195.294	1.92	0.91	0.40	6.52
65	300492	11	B		石核	7	凝灰岩	41.253	22.009	195.400	1.43	1.63	0.43	9.89
66	300316	12	C		MC	7	硬質頁岩	46.639	22.656	195.550	2.40	2.30	2.15	
67	300365	12	C		MC	7	OB-B	46.893	23.256	195.555	3.50	2.10	2.10	
68	300729	12	C		MC	7	OB-B	46.809	19.955	195.560	2.80	2.72	3.50	7.74
69	300728	12	C		MC	7	硬質頁岩	44.111	25.254	195.565	2.60	1.00	2.20	3.43
70	302494	12	C		MC	7	OB-A	44.962	24.077	195.485	2.40	1.40	1.40	8.33
71	300584	12	C		MC	7	OB-A	43.244	23.904	195.440	2.10	1.25	1.62	2.67
72	300711	12	C		MC	7	OB-B	44.128	25.155	195.433	2.00	2.10	2.20	3.41
73	300515	13	C		MC	7	OB-A	44.730	24.242	195.430	2.10	1.50	2.20	6.34
74	304263	13	C		一次加工剥片	7	OB-B	45.067	23.305	195.470	1.80	1.50	0.70	10.10
75	300803	13	C		コア	7	OB-B	44.333	22.765	195.380	1.25	1.80	2.30	3.84 種別
76	300367	13	C		MC	7	OB-A	44.077	22.585	195.525	1.70	1.60	1.90	3.71
77	300814	13	C		MC	7	OB-C	45.813	22.863	195.530	1.80	1.30	2.20	8.31
78	300451	13	C		MC	7	OB-A	43.528	24.002	195.290	3.25	3.00	1.80	2.46
79	300725	13	C		MC	7	OB-A	46.336	24.247	195.440	1.70	1.40	1.55	7.43
80	300504	13	C		MC	7	黒色火山岩	45.299	25.827	195.440	1.30	1.10	0.90	8.84
81	301295	13	C		MC	7	OB-B	47.562	24.095	195.410	1.20	1.15	1.20	11.6
82	300553	13	C		MC	7	硬質頁岩	43.143	22.183	195.470	1.80	1.20	1.40	7.25
83	300458	13	C		MC	7	OB-A	43.722	22.602	195.365	1.60	1.70	1.45	4.80
84	300203	13	C		石核	7	珪質頁岩	44.836	25.713	195.440	1.85	1.30	0.40	8.68
85	300179	13	C		石核	7	頁岩	45.729	22.333	195.260	2.20	1.40	0.40	8.98
86	300652	14	C		石核	7	頁岩	43.300	24.096	195.400	2.80	1.90	0.50	8.74 実測部実証品/スライス/ペーパー
87	300693	14	C		石核	7	頁岩	46.636	21.537	195.585	2.35	1.90	0.70	3.77
88	300568	14	C		石核/硬質頁岩	7	硬質頁岩	44.215	24.123	195.425	3.00	1.50	0.60	4.49
89	300551	14	C		石核	7	頁岩	43.416	23.993	195.385	2.30	1.45	0.45	4.6
90	300585	14	C		実測部	7	硬質頁岩	43.446	24.098	195.585	5.10	3.20	0.75	2.25 石核/実証品
91	304049		C		土器	7	土器	27.290	41.336	195.310				
92	300562		C		土器	7	土器	25.803	43.674	195.295				
93	300712	14	C		コア	7	OB-B	47.296	27.986	195.420	2.20	2.30	1.80	2.53
94	300360	14	C		スライス/ペーパー	7	硬質頁岩	43.097	23.567	195.430	2.00	1.30	4.55	11.10 ブランク/コア
95	300592	14	C		コア	7	OB-B	43.139	25.329	195.515	1.60	2.70	2.00	7.64
96	300596	14	C		コア	7	硬質頁岩	43.094	27.724	195.415	1.10	1.45	1.30	13.90
97	300690	14	C		コア	7	硬質頁岩	44.946	22.915	195.563	3.00	2.70	0.55	3.93
98	300661	14	C		一次加工剥片	7	硬質頁岩	44.470	24.409	195.525	2.50	1.55	0.90	3.60
99	301391	15	D		MC	7	OB-A	43.974	20.912	195.260	2.40	1.60	3.20	8.60
100	301284	15	D		MC	7	OB-A	44.620	19.783	195.425	2.80	1.40	1.80	6.98
101	300803	15	D		MC	7	OB-B	45.738	18.195	195.800	1.25	1.90	1.70	3.71
102	300462	15	D		MC	7	OB-A	44.773	20.998	195.275	2.10	1.30	2.20	3.18
103	301208	15	D		MC	7	OB-A	44.528	20.750	195.800	2.20	1.90	2.20	6.98
104	301049	15	D		MC	7	OB-A	44.871	20.788	195.560	1.70	2.20	1.20	3.75
105	301614	15	D		MC	7	OB-A	44.525	20.418	195.535	2.70	1.50	1.70	8.60
106	310488	15	D		MC	7	OB-B	44.731	20.283	195.220	1.40	1.40	1.90	4.30

表73 実測遺物観察表 (旧石器) 4

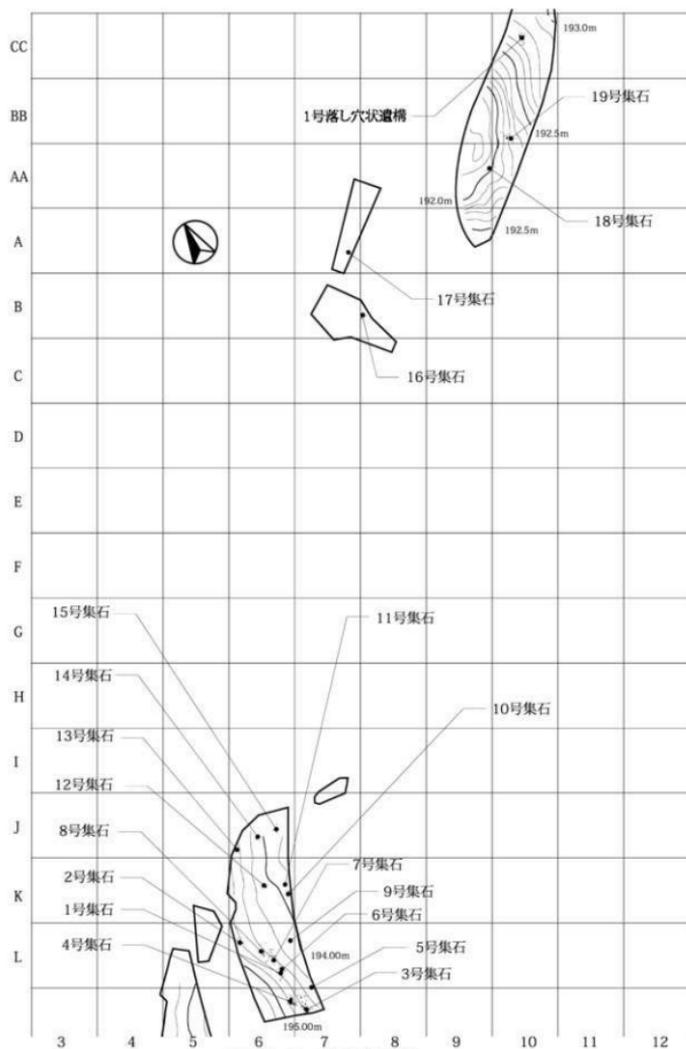
107	301406	15	D	石礫水産品	7	黒色変色石	44.182	29.398	195.335	3.90	1.30	0.60	2.37	ミタレイバー
109	306765	15	D	石礫	7	黒色変色石	44.013	29.620	195.290	1.80	1.20	0.40	0.83	
109	302708	15	D	石礫	7	イバー	45.202	29.441	195.430	1.70	1.60	0.30	0.85	
110	301633	15	D	ブランク	7	頁岩	45.308	27.993	195.360	3.30	1.20	0.40	3.46	
111	309214	16	D	二次加工石	7	OB-B	45.034	29.697	195.285	1.95	1.10	0.70	1.11	
112	309442	16	D	コア	7	OB-B	45.547	28.460	195.475	2.30	2.90	2.30	13.38	MC アラント
113	301291	16	E	MC	7	OB-A	41.981	31.583	195.425	2.70	1.75	1.95	7.24	
114	301469	15	E	MC	7	OB-B	41.572	29.862	195.360	3.30	1.75	2.25	4.41	
115	306576	17	E	MC	7	OB-E	42.207	31.227	195.290	1.95	1.23	1.45	2.97	
116	301351	17	E	MC	7	OB-A	42.284	30.667	195.330	1.80	1.66	1.30	3.48	
117	306432	17	E	MC	7	OB-A	43.616	29.528	195.330	1.90	1.50	1.43	3.42	
118	301392	17	E	MC	7	OB-B	43.188	30.283	195.255	2.30	1.65	1.40	4.29	
119	301889	17	E	MC	7	OB-A	41.337	29.572	195.330	1.80	1.70	1.45	4.10	
120	305272	17	E	ミタレイバー	7	硬質頁岩	41.746	31.043	195.400	1.70	1.12	0.60	1.22	石礫水産品
121	302342	17	E	ミタレイバー	7	硬質頁岩	41.337	29.452	195.420	3.80	2.43	1.12	9.28	
122	301395	17	E	ミタレイバー	7	硬質頁岩	41.302	29.781	195.365	2.55	3.50	1.50	6.71	
123	303022	17	E	上部	7	上部	32.830	40.373	195.360					
124	301396	17	E	ミタレイバー	7	黒色変色石	41.469	29.831	195.330	3.10	2.45	1.90	3.57	石礫水産品
125	302352	17	E	ミタレイバー	7	硬質頁岩	42.530	30.684	195.330	4.20	2.90	1.40	17.15	
126	306602	18	F	MC	7	OB-B	43.628	34.880	195.475	1.85	1.40	1.75	3.44	
127	301355	18	F	MC	7	OB-B	44.541	32.225	195.360	1.18	1.88	2.20	6.17	
128	303171	18	F	コア	7	OB-B	44.847	31.671	195.280	1.75	2.60	2.40	1.67	MC アラント
129	301351	18	F	コア	7	OB-A	44.430	31.372	195.280	2.30	4.40	1.80	8.15	MC アラント
130	306541	18	F	MC	7	OB-A	43.565	31.349	195.415	1.60	1.40	1.85	3.94	
131	303097	18	F	MC	7	硬質頁岩	43.089	32.163	195.455	1.10	1.30	1.25	2.19	
132	306532	18	F	コア	7	黒色変色石	43.871	30.713	195.400	1.35	1.40	1.25	1.82	
132	301363	18	F	コア	7	OB-B	43.842	32.275	195.280	2.50	1.65	1.60	3.85	MC アラント
134	306606	18	F	ミタレイバー	7	黒色変色石	43.013	31.765	195.310	3.90	3.70	1.14	12.33	
135	308541	19	F	矢筈石	7	黒色変色石	43.793	33.836	195.375	3.60	3.15	1.18	8.72	
136	303166	19	F	矢筈石	7	硬質頁岩	44.711	31.494	195.290	3.60	2.40	0.90	7.23	
137	306566	19	F	石礫	7	硬質頁岩	43.218	34.478	195.850	2.90	1.25	0.60	6.60	
138	310466	19	F	コア	7	OB-A	43.484	30.714	195.290	3.70	1.40	0.43	1.66	
139	303501	19	F	石礫	7	黒色変色石	43.878	30.774	195.400	2.28	1.25	0.60	0.97	
140	303174	19	F	石礫	7	硬質頁岩	41.782	30.637	195.345	2.55	1.70	1.50	1.92	
141	309293	19	F	石礫水産品	7	硬質頁岩	43.712	32.081	195.280	3.25	2.10	0.50	6.59	
142	307940	19	F	コア	7	硬質頁岩	43.174	31.174	195.225	3.00	4.60	4.95	84.77	
143	309375	19	F	コア	7	端端	43.530	34.080	195.240	3.00	4.50	3.30	61.49	
144	300908	20	PK	MC	7	OB-A	49.442	35.201	195.240	2.60	1.50	2.10	2.50	
145	306489	20	PK	MC	7	OB-C	31.103	3.411	195.095	1.43	1.10	0.70	0.94	
146	306416	20	PK	MC	7	OB-A	42.682	22.846	195.240	1.55	1.00	1.40	1.92	
147	306450	20	PK	石礫水産品	7	硬質頁岩	41.606	25.879	195.420	3.00	1.00	0.75	4.14	
148	300025	20	PK	石礫	7	OB-C	35.330	4.453	195.330	2.00	1.25	0.30	0.41	
149	306800	20	PK	コア	7	OB-A	43.033	36.513	195.480	2.30	1.90	1.10	3.33	
150	306174	20	PK	コア	7	硬質頁岩	41.727	22.052	195.470	4.40	3.30	1.50	18.39	ミタレイバー
151	306413	20	PK	ブランク	7	OB-B	41.713	24.785	195.445	1.80	2.40	2.00	8.16	
152	303148	21	G	ナイフ石礫	7	OB-A	44.450	32.220	195.245	2.20	2.30	0.90	3.92	
153	306798	21	G	ナイフ石礫	7	硬質頁岩	43.713	25.853	195.480	2.42	2.30	0.83	3.31	
154	310847	21	G	ナイフ石礫	7	硬質頁岩	43.864	34.106	195.275	2.20	1.40	0.55	4.49	
155	304076	21	G	ナイフ石礫	7	OB-B	43.797	24.333	195.405	1.85	1.50	0.70	1.80	
156	309138	21	G	ナイフ石礫	7	OB-A	44.210	32.117	195.505	2.30	0.90	0.72	0.88	
157	306010	21	G	ナイフ石礫	7	OB-A	39.381	14.092	195.163	1.70	1.00	0.50	0.58	
158	308021	21	G	ナイフ石礫	7	OB-B	45.116	22.277	195.315	1.20	0.78	0.25	0.17	
159	301597	21	G	ナイフ石礫	7	OB-B	44.088	28.199	195.395	1.15	1.25	0.55	0.58	
160	113061	22	G	MC	7	硬質頁岩	46.745	37.577	195.097	2.25	2.00	2.95		
161	113022	22	G	MC	7	硬質頁岩	46.605	37.628	195.114	2.95	1.85	2.70	8.48	
162	113027	22	G	MC	7	硬質頁岩	46.778	37.376	195.098	4.15	4.63	1.95	41.78	
163	112991	22	G	MC	7	硬質頁岩	45.712	38.139	195.256	3.50	3.70	1.30	11.31	
164	114805	23	G	MC	7	硬質頁岩	45.523	37.958	195.262	3.30	1.70	1.20	11.31	
165	113091	23	G	MC	7	OB-A	47.538	36.014	195.125	2.55	1.60	1.40	8.85	
166	113284	23	G	MC	7	硬質頁岩	46.605	38.280	195.087	2.50	1.70	1.50	3.95	
167	114856	23	G	MC	7	OB-A	47.328	35.133	195.157	2.60	1.80	2.20	7.48	
168	113619	23	G	MC	7	MC 伴産物発生石	46.863	36.728	195.190	3.30	3.15	1.30	12.92	
169	113218	23	G	MC	7	MC 伴産物発生石	44.887	36.763	195.247	1.40	2.50	1.80	9.21	
170	113051	23	G	MC	7	硬質頁岩	46.640	38.322	195.096	2.35	1.60	1.93	3.60	
171	113903	24	G	MC	7	OB-A	45.387	35.978	195.336	2.30	1.70	1.70	7.34	
172	112484	24	G	MC	7	OB-A	45.640	34.974	195.278	2.40	1.55	2.30	7.17	
173	112320	24	G	MC	7	OB-A	47.003	34.728	195.227	2.90	1.50	1.90	6.50	
174	112487	24	G	MC	7	OB-A	46.119	35.172	195.342	2.45	1.70	1.80	5.56	
175	114074	24	G	MC	7	OB-A	48.086	37.093	194.984	1.90	1.30	2.40	4.32	
176	113658	24	G	MC	7	OB-A	45.875	34.683	195.277	2.60	1.60	1.70	7.10	
177	112378	24	G	MC	7	OB-A	46.895	36.267	195.313	2.70	1.60	2.10	9.21	
178	112645	24	G	MC	7	硬質頁岩	46.395	36.915	195.177	2.00	2.00	2.60		
179	114728	25	G	MC	7	OB-A	46.273	34.328	195.292	2.30	2.40	1.70		
180	112479	25	G	MC	7	OB-A	46.987	34.808	195.377	1.40	1.10	1.20	1.58	
181	113196	25	G	MC	7	OB-A	45.862	34.315	195.360	1.90	1.50	1.50	4.50	
182	112450	25	G	MC	7	OB-A	46.413	34.242	195.340	2.00	1.30	1.60	4.82	
183	112564	25	G	MC	7	硬質頁岩	46.753	35.233	195.241	1.75	2.40	1.75	6.29	
184	115303	25	G	ブランク	7	OB-A	45.403	35.563	195.251	1.30	2.60	1.70	9.41	
185	114196	25	G	矢筈石	7	硬質頁岩	43.640	34.918	195.230	3.10	1.90	0.70	9.95	石礫水産品

表74 実測遺物観察表 (旧石器) 5

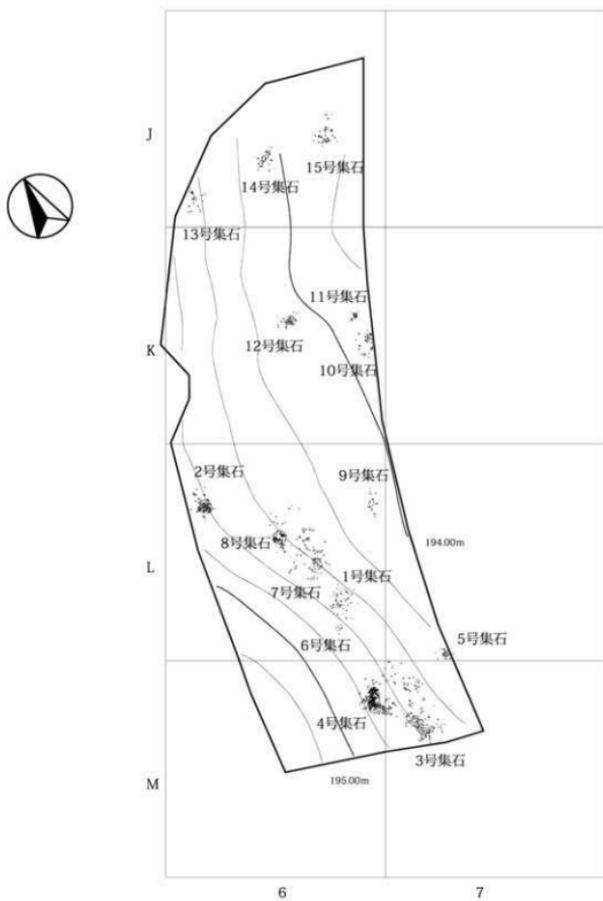
1) 門番時	取上番号	ハブ番号	プロット	集合	部種	層位	石材	x	y	z	長さ (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	備考
209	113469	27	G		MB	7	硬質頁岩	45.361	36.294	190.314	1.30	0.75	0.20	0.20	
210	114460	27	G		MB	7	硬質頁岩	47.537	37.145	194.939	0.80	0.90	0.12	0.20	
211	114530	27	G		硬質頁岩	7	硬質頁岩	48.287	34.259	195.315	1.10	0.95	0.30	0.20	
212	115713	27	G		MB	7	OB	47.614	38.630	194.651	0.70	0.55	0.14	0.10	
186	112829	25	G		石礫	7		45.896	35.515	195.315	1.50	1.65	0.60		
187	113147	25	G		石礫	7		45.668	35.329	195.242	1.60	1.90	0.60	7.31	
188	113564	25	G		硬質頁岩	7	硬質頁岩	45.283	35.168	195.237	1.35	2.50	0.90	3.12	
189	112527	25	G		MC プラント	7	OB-A	47.086	36.116	195.129	1.70	1.20	0.90	1.55	
180	113654	26	G		コア	7		46.290	37.228	196.121	3.70	2.50	3.65	31.92	
191	112062	26	G		コア	7	塊珪	46.842	37.558	195.983	2.00	3.60	2.00	13.16	
192	113533	26	G		MC プラント	7	OB-A	48.431	37.862	194.766	2.20	0.60	3.80	4.89	
193	114086	26	G		コア	7	硬質頁岩	47.515	37.196	194.558	3.15	1.65	3.20	28.94	
194	112512	26	G		コア	7	硬質頁岩	45.932	35.687	195.216	2.95	3.30	3.20	12.56	
195	114308	27	G		三次元加工片	7	硬質頁岩頁岩	45.993	36.630	195.242	2.35	2.90	1.10	3.75	
196	114075	27	G		三次元加工片	7	硬質頁岩	46.867	35.923	195.117	2.35	3.25	0.75	3.73	
197	112527	27	G		三次元加工片	7	硬質頁岩	45.710	36.113	195.346	2.50	2.60	0.60	4.25	
198	113915	27	G		三次元加工片	7	シランナク石	45.482	34.734	196.394	3.00	3.52	1.30	11.60	
199	114337	27	G		削片	7	頁岩	45.828	37.945	195.263	2.50	1.50	3.30	0.98	
200	112511	27	G		コア	7		45.809	35.626	195.230	2.20	1.40	2.55	3.14	
201	115714	27	G		MB	7	硬質頁岩	45.375	35.925	195.352	1.45	0.95	0.25	0.30	
202	113313	27	G		MB	7	砂岩	45.486	37.582	195.297	2.30	0.80	0.25	0.46	
203	113956	27	G		MB	7	OB-A	45.511	34.773	195.313	1.85	1.50	0.20	0.25	
204	113921	27	G		MB	7	硬質頁岩	45.283	37.228	196.214	1.75	0.70	0.23	0.29	
205	112526	27	G		MB	7		45.874	37.669	195.265	1.60	0.70	0.15	0.18	
206	114035	27	G		MB	7	硬質頁岩	47.389	35.653	195.147	1.45	0.85	0.15	0.24	
207	112964	27	G		MB	7	頁岩	46.280	39.040	195.094	1.75	0.95	0.25	0.32	
208	114944	27	G		MB	7	砂岩	48.214	38.491	194.770	1.20	0.60	1.50	0.14	
213	114956	27	G		MB	7	OB	46.959	36.119	195.241	1.20	1.00	0.30	0.33	
214	113923	27	G		MB	7	硬質頁岩	45.426	38.749	195.533	0.60	0.50	0.10	0.10	
215	112827	27	G		MB	7	メノウ	45.299	37.275	195.313	0.80	0.60	0.18	0.12	
216	114803	27	G		MB	7	頁岩	45.689	37.163	195.235	0.80	0.65	0.13	0.16	
217	114795	27	G		MB	7	燧石	45.714	36.908	195.286	0.95	0.40	0.20	0.90	
218	114226	27	G		MB	7	硬質頁岩	45.256	36.599	195.288	1.10	0.75	0.13	0.14	
219	114181	28	G		MB	7	OB	45.528	37.169	195.259	1.70	0.70	0.30	0.34	
220	112781	28	G		MB	7	OB-A	45.348	34.628	195.388	1.54	0.53	0.19	0.20	
221	114908	28	G		MB	7	シランナク石	45.793	37.384	195.229	1.72	0.65	0.11	0.15	
222	112520	28	G		MB	7		45.248	35.965	195.384	1.50	0.90	0.21	0.22	
223	114956	28	G		MB	7	硬質頁岩	45.467	34.718	195.259	1.55	0.80	0.20	0.28	
224	113824	28	G		MB	7	OB-A	45.439	34.667	195.381	1.71	0.60	0.13	0.22	
225	113174	28	G		MB	7	硬質頁岩	46.609	37.966	195.074	1.50	0.83	0.20	0.25	
226	113913	28	G		MB	7	OB-A	45.547	34.380	195.374	1.30	0.50	0.15	0.11	
227	114110	28	G		MB	7		47.867	36.000	195.196	1.10	0.43	0.10	0.50	
228	114300	28	G		MB	7		45.242	36.084	195.318	0.91	0.80	0.10	0.20	
229	114050	28	G		MB	7	OB-A	46.596	36.390	195.159	1.80	0.98	0.30	0.31	
230	114414	28	G		MB	7	頁岩	45.523	34.728	195.372	1.80	1.18	0.20	0.22	
231	113227	28	G		MB	7	OB	45.657	35.455	195.328	0.75	0.55	0.20	0.50	
232	115669	28	G		MC	7	OB-A	47.185	39.608	194.999	2.95	1.25	2.70	7.46	
233	115554	28	G		MC加工片	7	OB-A	47.548	40.041	194.233	2.30	3.50	2.35	11.27	
234	112702	28	G		プラント	7	OB-A	47.285	39.862	194.995	2.10	1.60	1.30	4.40	
235	112796	28	G		削片	7	OB-A	47.745	41.556	194.992	1.85	1.20	0.35	2.41	
236	114949	28	G		MB	7	OB-D	48.842	40.345	194.849	1.80	0.40	0.35	0.23	
237	112856	28	G		MB	7	頁岩	46.110	38.625	195.166	1.50	0.95	0.20	0.16	
238	113934	28	G		MB	7	頁岩	44.983	39.229	195.355	1.15	0.80	0.15	0.16	
239	112581	28	G		MB	7	硬質頁岩	46.918	39.536	195.628	1.11	0.28	0.20	0.16	
240	114159	28	G		MB	7	硬質頁岩	47.188	39.908	194.869	0.85	0.70	0.20	0.80	
241	112515	28	G		MB	7	硬質頁岩	47.642	39.565	194.833	1.40	0.30	0.20	0.15	
242	115666	28	G		MB	7	OB-A	46.758	39.132	195.067	1.95	0.60	0.20	0.18	
243	112930	28	G		MB	7	硬質頁岩	45.202	39.099	195.333	0.78	0.35	0.18	0.10	
244	112568	28	G		コア	7	燧石	46.639	40.918	195.255	2.20	3.55	3.46	25.58	MC プラント
245	112580	29	G		三次元加工片	7	硬質頁岩	45.590	38.427	195.263	3.80	1.90	1.25	3.37	
246	112677	29	G		三次元加工片	7	硬質頁岩	46.521	39.437	195.116	3.40	1.00	1.00	6.90	
247	112171	30	H		コア	7	OB-A	60.170	26.091	194.196	2.20	2.60	1.90	11.43	
248	180497	30	H		削片	7	チャート	58.883	28.846	194.825	1.80	1.80	1.00	2.00	
249	180527	30	H		削片	7	硬質頁岩	56.289	27.485	195.125	2.20	0.95	0.20	0.27	
250	180939	30	H		削片	7	頁岩	59.117	26.280	194.872	1.15	0.70	0.30	0.11	
251	180884	30	H		削片	7	チャート	58.179	26.219	194.880	1.70	1.20	0.25	0.20	
252	113093	30	H		燧石	7	燧石	56.683	27.287	195.165	2.40	1.30	0.55	0.43	
253	180360	30	H		石礫	7	硬質頁岩	58.629	26.711	194.894	2.75	1.20	0.40	0.88	
254	180958	30	H		石礫	7	チャート	58.896	27.880	194.790	1.85	1.35	0.55	1.50	
255	180753	30	I		MC 調整削片	7	OB-A	56.839	30.190	194.869	2.10	3.10	2.10	2.89	
256	180727	30	I		MC	7	OB-A	59.113	30.257	194.558	2.50	1.80	1.70	6.50	
257	180764	30	I		コア	7	OB-A	59.039	30.935	194.535	1.60	1.43	1.60	9.55	MC プラント
258	112191	30	I		MB	7	OB	57.833	30.482	194.609	1.45	0.90	0.15	0.20	
259	180808	30	I		MB	7	OB-E	57.476	28.890	194.865	0.75	0.30	2.50	0.90	
260	180562	30	J		削片	7	燧石	53.834	29.290	195.213	2.40	1.75	0.20	0.43	
261	180552	31	J		MC	7	硬質頁岩	54.181	29.676	195.218	1.60	1.60	1.10	0.12	
262	112117	31	J		MC	7	OB-A	54.123	30.063	195.185	2.10	1.65	1.80	7.16	
263	112112	31	J		MC	7	OB-A	55.960	30.463	195.307	2.20	2.80	1.40	8.23	
264	180735	31	J		MC プラント	7	OB-A	57.787	31.460	195.038	3.60	2.80	1.60	13.41	

表75 実測遺物観察表 (旧石器) 6

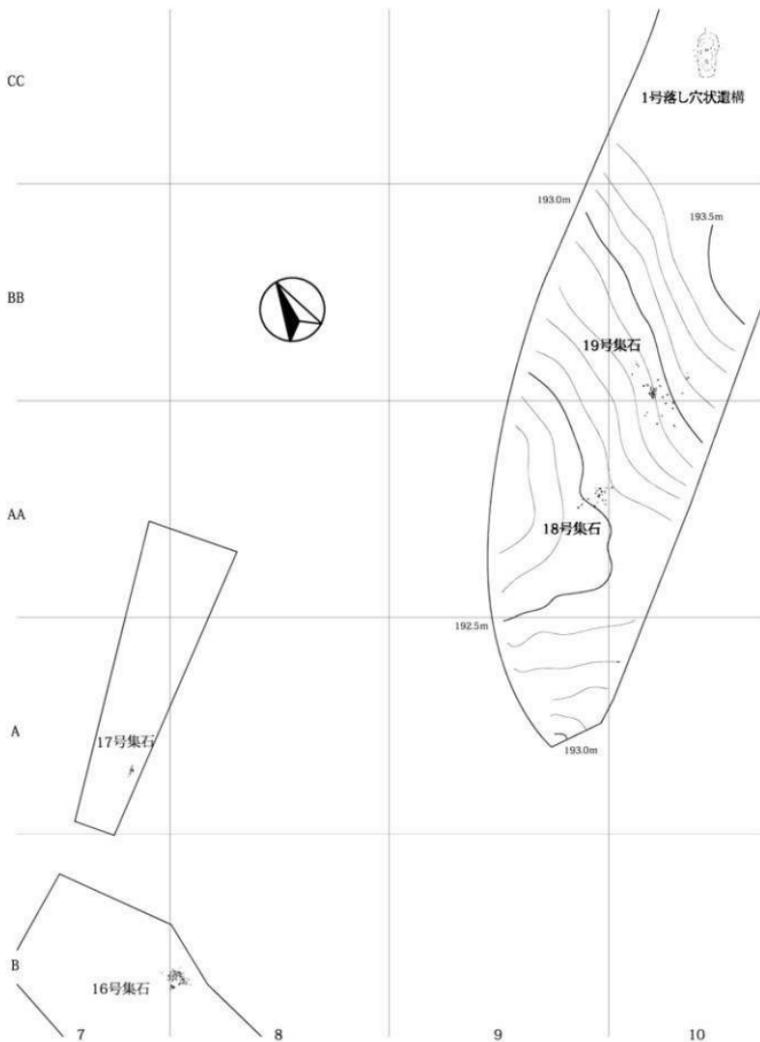
1) 7) 9) 時	取上番号	バーコード	プロット	統合	部類	層位	石材	x	y	z	長さ (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	備考
265	108823	31	J		コア	7	OB-A	53.492	30.762	195.152	1.15	2.35	2.30	3.74	MC アラナ
266	109160	31	J		石鏃	7	OB	53.887	29.040	195.272	1.80	1.85	0.55		
267	110365	31	J		石鏃	7	遺物未分類	52.285	32.367	194.948	1.70	0.85	0.29	0.25	
268	110363	31	J		MD	7	OB-A	53.275	33.301	194.787	1.45	0.94	0.13	0.13	
269	111167	31	J		MD	7	OB-E	53.378	32.627	194.803	1.25	0.55	0.17	0.70	
270	119437	31	J		MD	7	OB-D	54.969	31.709	194.878	1.23	0.70	0.18	0.13	
271	108801	31	J		MD	7	OB-A	54.643	32.463	194.873	0.95	0.73	0.15	0.90	
272	109086	31	J		MD	7	OB-A	54.243	30.754	195.057	0.74	0.38	0.10	0.10	
273	110928	32	K		コア	7	硬質頁岩	52.881	36.053	194.307	2.10	3.70	1.50	11.10	
274	109064	32	K		MC	7	OB-A	52.806	36.211	194.324	1.50	1.20	1.50	3.97	
275	108944	32	K		石鏃未分類	7	遺物未分類	52.531	35.488	194.689	2.10	2.13	0.51	2.70	
276	111393	32	K		MD	7	OB	51.717	35.474	194.695	1.60	0.65	0.25	0.19	
277	108914	32	K		MD	7	OB	53.494	35.206	194.552	1.15	0.75	0.25	0.23	
278	111565	32	K		MD	7	頁岩	52.339	35.141	194.647	1.60	0.45	0.20	0.40	
279	108473	32	K		MC	7	OB-A	51.741	40.835	194.480	1.60	2.50	1.90	6.53	
280	109194	32	K		MC	7	OB-B	41.282	28.194	194.475	2.00	1.60	0.95	3.40	
281	110821	32	K		MC	7	OB-B	40.148	31.345	194.779	1.60	1.50	2.20	4.85	
282	109479	32	K		MC	7	OB-C	51.132	41.497	194.511	1.45	1.10	1.60	3.40	
283	108854	32	K		コア	7	硬質頁岩	56.345	25.323	194.321	2.70	2.40	4.30		
284	119542	32	K		石鏃	7	OB-B	57.900	44.804	195.874	1.60	0.90	0.30	0.21	
285	111363	32	K		MD	7	OB-C	53.302	40.172	194.384	1.20	0.55	0.10	0.90	
286	112377	33	SG2		打削面牛胴片	7	硬質頁岩	56.136	48.710	193.003	0.80	2.60	3.00		
287	108104	33	SG2		打削面牛胴片	7	硬質頁岩	54.668	27.798	193.261	1.40	2.70	3.00	3.10	
288	109240	33	SG		遺物未分類	7	硬質頁岩	41.535	37.880	194.230	3.70	1.40	0.51	1.97	
289	108666	33	SG		三次元打削片	7	OB-A	51.839	52.687	194.297	4.20	2.85	0.90	8.20	
290	110008	33	SG		硬質頁岩	7	硬質頁岩	55.926	37.485	194.295	2.45	1.70	0.65	2.32	
291	110201	33	SG		石鏃	7	OB-A	53.659	25.758	194.263	1.50	1.50	0.40	0.87	
292	110569	33	SG		石鏃	7	遺物未分類	55.503	44.430	194.023	1.60	1.20	0.33	0.24	
293	108902	33	SG		石鏃未分類	7	頁岩	54.986	36.758	194.323	2.00	1.40	0.40	0.92	
294	490523	34	L	MC	7	OB-B	65.303	40.925	191.372	2.80	1.90	3.20	17.11		
295	490449	34	L	MC	7	OB-A	65.549	45.072	191.387	1.80	0.60	1.40	7.65		
296	490688	34	L	MC	7	硬質頁岩	65.314	40.465	191.472	2.90	1.95	0.65	1.89		
297	490105	34	L	MC	7	硬質頁岩	64.680	40.717	191.492	1.25	1.50	0.45	0.60	ナイフ和石	
298	490671	34	L	MC	7	硬質頁岩	64.765	41.191	191.422	6.65	4.75	2.85	25.39		
299	200102	35	SG3		MC	7	硬質頁岩	48.086	132.914	192.632	6.40	2.00	2.90		
299	200162	35	SG3		MC	7	硬質頁岩	45.997	133.596	191.568	6.40	2.00	3.90		
300	200173	35	SG4		MC	7	硬質頁岩	46.108	134.119	191.564	3.70	3.40	4.40		
300	200199	35	SG4		MC	7	硬質頁岩	46.313	134.045	192.171	3.70	2.40	4.40		
300	200193	35	SG4		MC	7	硬質頁岩	46.705	133.911	192.111	3.70	2.40	4.40		
301	200226	35	N	SG1	MC	7	OB-B	66.823	132.613	191.921	1.70	1.60	0.83	3.53	
302	200688	35	N	SG5	作業面牛胴片	7	硬質頁岩	67.541	133.345	192.069	3.82	2.40	1.65	3.89	
302	200903	35	N	SG5	作業面牛胴片	7	硬質頁岩	67.011	133.841	192.040					
302	200155	35	N	SG5	作業面牛胴片	7	硬質頁岩	48.035	133.042	191.948					
302	200214	35	N	SG5	作業面牛胴片	7	硬質頁岩	66.719	133.281	191.949					
302	200275	35	N	SG5	作業面牛胴片	7	硬質頁岩	64.177	133.643	191.872					
303	200048	36	N	SG6	MC	7	硬質頁岩	66.839	134.491	192.263	1.80	1.40	12.70		
303	200051	36	N	SG6	MC	7	硬質頁岩	68.137	135.306	192.253					
303	200108	36	N	SG6	MC	7	硬質頁岩	66.499	132.675	191.971					
303	200144	36	N	SG6	MC	7	硬質頁岩	66.290	133.317	191.981					
303	200194	36	N	SG6	MC	7	硬質頁岩	66.807	133.669	192.078					
304	200112	36	N	SG7	MC	7	硬質頁岩	48.673	132.614	192.067	7.50	2.63	3.40		
304	200286	36	N	SG7	MC	7	硬質頁岩	48.400	133.640	192.190					
305	200153	36	N	SG8	MC	7	硬質頁岩	67.146	132.870	192.030	8.80	4.43	5.15		
306	200449	36	N	SG9	MC	7	硬質頁岩	48.374	134.523	192.280	9.85	1.73	9.90	85.00	
306	200208	36	N	SG9	削片	7	硬質頁岩	47.180	134.338	192.060					
306	200292	36	N	SG9	削片	7	硬質頁岩	47.805	133.493	192.263					
306	200117	36	N	SG9	削片	7	硬質頁岩	48.644	134.351	191.969					
306	200930	36	N	SG9	削片	7	硬質頁岩	48.284	132.065	192.136					
307	200252	36	N	SG10	スケーレ	7	硬質頁岩	65.989	132.916	191.895	9.00	1.10	1.05	3.20	
307	200149	36	N	SG10	スケーレ	7	硬質頁岩	65.005	132.716	191.896					
307	200233	36	N	SG10	削片	7	硬質頁岩	66.146	132.369	191.911					
308	200262	36	N	SG11	削片	7	硬質頁岩	64.539	132.786	191.852	6.10	3.35	1.80	22.50	
308	200273	36	N	SG11	削片	7	硬質頁岩	63.892	134.153	191.858					
309	500891	37	QGRS		MC	7	OB-A	93.453	198.173	192.649	2.25	1.45	1.80	4.12	
309	500883	37	QGRS		アラナ	7	OB-B	93.311	197.325	192.488	3.20	2.70	2.80	23.72	
311	500884	37	QGRS		アラナ	7	OB-B	95.479	177.018	192.557	1.90	2.85	2.10	1.17	
312	500874	37	QGRS		MD	7	頁岩	91.251	171.289	192.352	2.00	0.64	0.26	0.31	
313	500869	37	QGRS		MD	7	SH	92.526	172.948	192.454	1.20	0.62	0.12	0.90	
313	500853	37	QGRS		MD	7	OB	108.250	174.766	192.628	1.40	0.65	0.29	0.12	
315	119609	37	QGRS		MC	7	硬質頁岩	81.721	191.044	192.402	2.55	1.60	1.35	2.82	
316	119763	37	QGRS		MD	7	緑石	81.273	188.921	192.240	1.30	0.68	0.18	0.17	
317	119774	37	QGRS		MD	7	硬質頁岩	79.265	192.783	192.314	1.00	0.70	0.25	0.10	
318	600681	37	QGRS		MC	7	OB	97.268	193.748	192.520	2.25	1.70	0.92	2.28	
319	119191	37	QGRS		MD	7	硬質頁岩	80.328	193.524	192.405	0.40	0.60	0.17	0.70	
320	600606	37	QGRS		作業面牛胴片	7	硬質頁岩	108.148	256.079	193.278	2.50	2.75	1.65	6.57	
321	600657	37	QGRS		アラナ	7	硬質頁岩	105.233	261.374	193.272	2.25	1.95	1.22		
322	600691	37	QGRS		遺物未分類	7	OB	104.459	252.076	193.000	4.20	3.90	1.10		



第218図 V・IV層遺構配置図



第219图 III地区V·IV层遗址配置图



第220図 北区V・IV層遺構配置図

第4章 V・N・Ⅲ層の調査

第1節 概要

縄文時代早期に該当する層は薩摩火山灰直上の黒褐色土であるV層及びアカホヤ火山灰直下のIV層であり、前期以降に該当する層はⅢ層に集約されている。

遺構は、各層で検出されている。

V層では集石遺構が南区から2基検出されている。また、V層埋土の落し穴状遺構が北区から1基確認されている。IV層では集石遺構が南区から13基、北区から4基の計17基検出されている。また、IV層埋土の土坑が北区から1基検出されている。Ⅲ層では北区から集石遺構が1基とⅢ層埋土の落し穴状遺構が1基検出されている。

遺構の認定時期については、土坑と落し穴状遺構は埋土状況を検討した。集石遺構に関しては、検出面を判断基準としている。しかし、前期以降の詳細な時期につい

ては判断ができなかった。なお、縄文時代の集石遺構の分類も、Ⅲ層と同じ分類方法で行った。

第2節 縄文時代早期遺構

1 南区

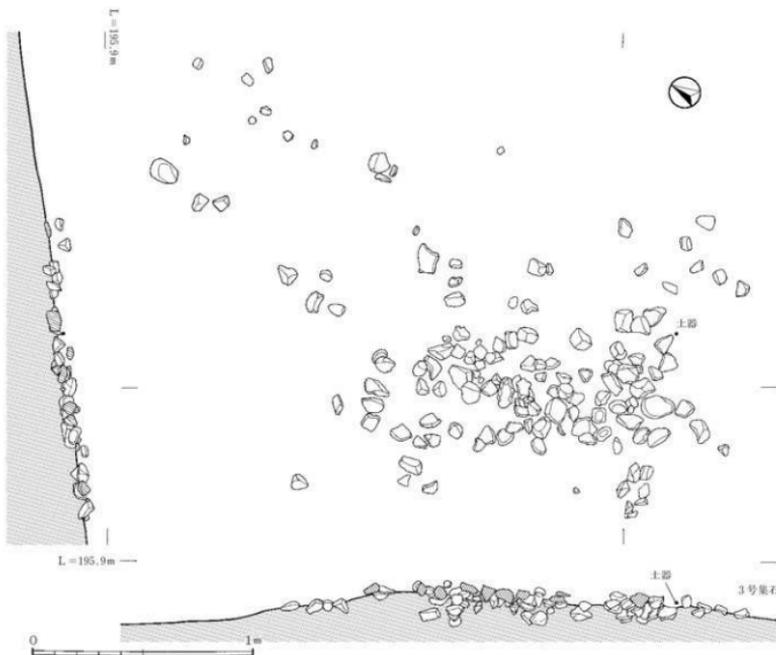
集石遺構

1号集石

1号集石はL-6区のV層から検出された。30cm程の範囲に集積する8点の礫を中心に、その周囲110cm×90cmの範囲に15個の礫が散在して確認された。赤化の状況から、全ての礫が被熟していると判断している。(ⅢA類)

2号集石

2号集石はL-6区のV層で検出した。60cmの円形で深さ約8cm程の皿状の掘り込み遺構内に37点の礫を集積し、遺構の下面は硬くしまっている。なお、遺構内部か



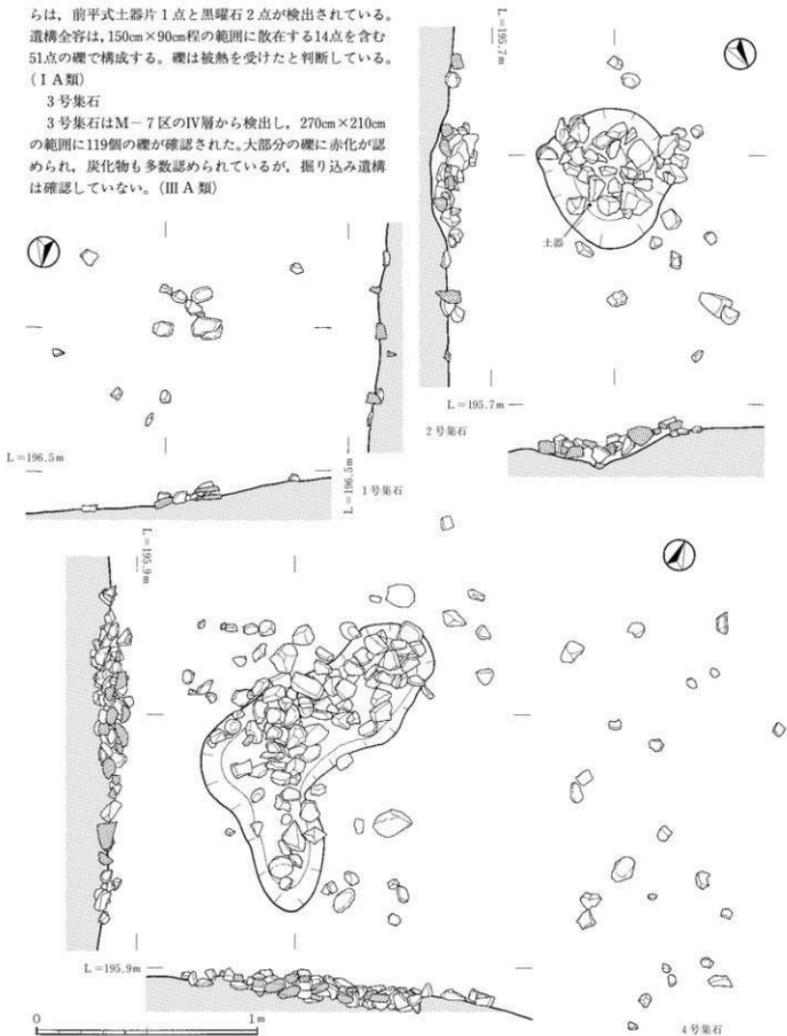
第221図 南区V層遺構実測図

らは、前平式土器片1点と黒曜石2点が検出されている。遺構全容は、150cm×90cm程の範囲に散在する14点を含む51点の礫で構成する。礫は被熱を受けたと判断している。(I A類)

(I A類)

3号集石

3号集石はM-7区のIV層から検出し、270cm×210cmの範囲に119個の礫が確認された。大部分の礫に赤化が認められ、炭化物も多数認められているが、掘り込み遺構は確認していない。(III A類)



第222図 南区V・IV層遺構実測図

4号集石

4号集石はM-6・7区のIV層から検出された。273cm×235cmの範囲に119個の礫を確認し、被熱の痕跡が明か、炭化物も顕著である。深さ約8cm程の不正形な掘り込みを検出している。(IA類)

5号集石

5号集石はL-7区のIV層で検出し、60cm×50cmの範囲に25個の礫が密に集中していた。明確な掘り込み遺構は確認できなかったが、礫の集中状況からは掘り込み遺構が想定される。(II類)

6号集石

L-6区のIV層で検出し、230cm×120cmの範囲に46点の礫の散在が確認されている。大部分の礫が被熱している。(III B類)

7号集石

7号集石はL-6区のIV層で検出し、190cm×170cmの範囲に54点の礫を確認している。礫間に炭化物が混在し、礫の赤化も認められる。(III A類)

8号集石

L-6区のIV層から検出し、63cm×60cmの円形で深さ10cmの掘り込み遺構を中心に、遺構内と遺構外に拡散した礫で構成する。総数72点の礫を確認し、全ての礫が被熱している。(IA類)

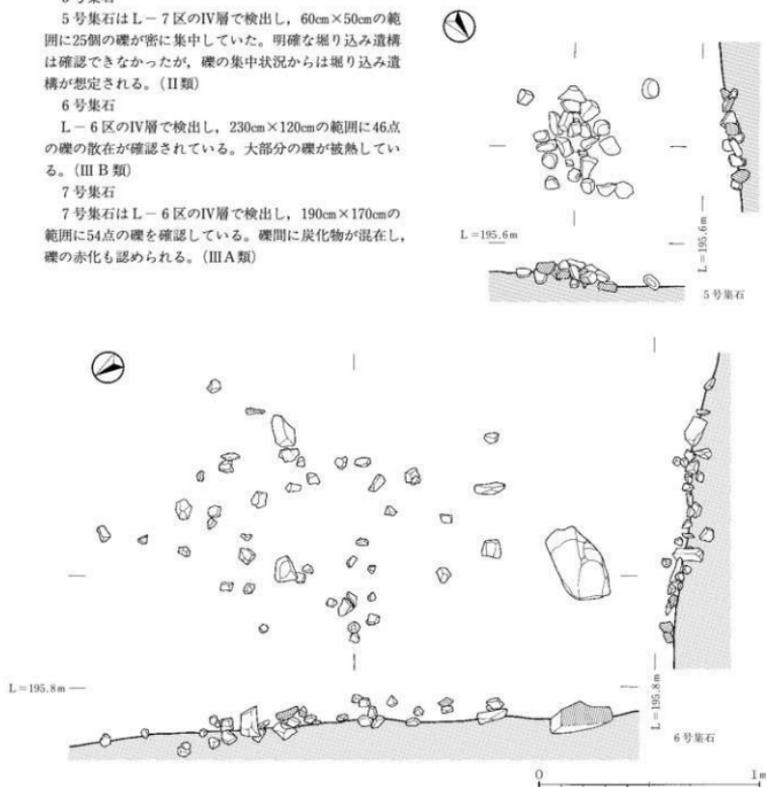


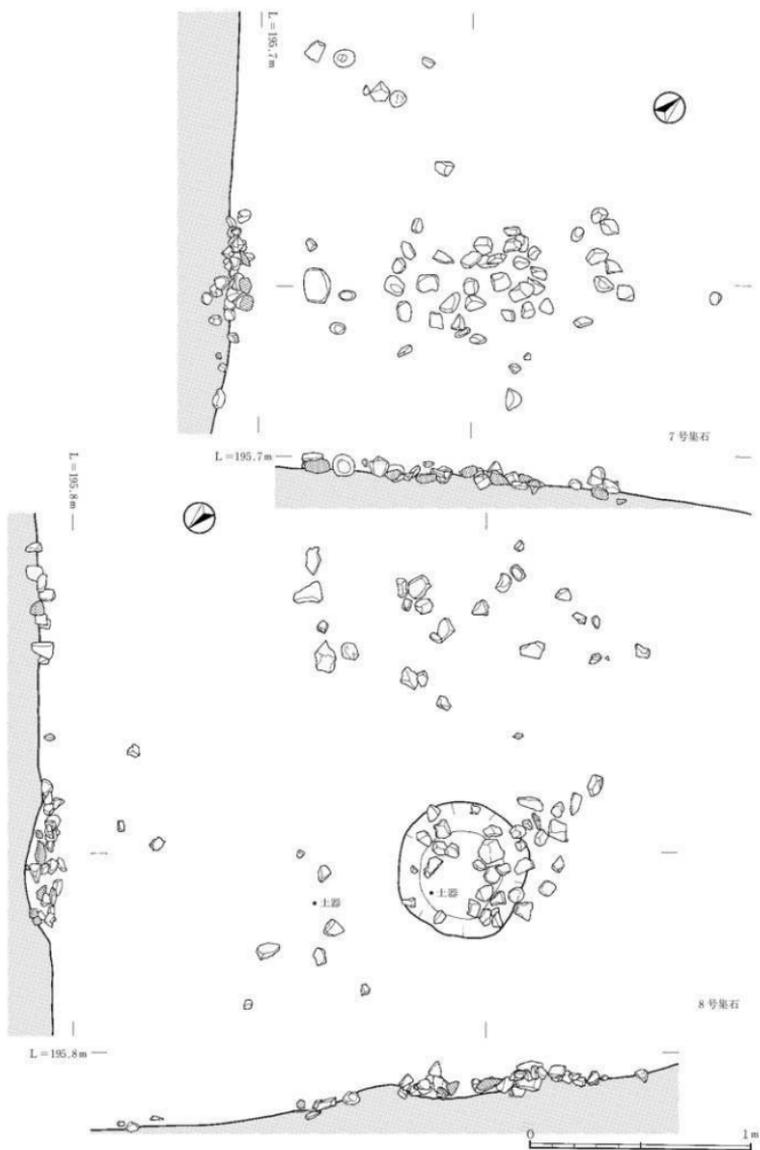
表76 V層集石観察表

報告書 No	神田 No	類型	総個数	大きさ		構成礫			備考
				長径 (cm)	短径 (cm)	総重量 (g)	重量平均 値 (g)	被熱率 (%)	
1	222	III A	15	110	90	3070	204.66	100	H7-14
2	222	I A	51	150	90	19820	421.7	100	H7-15

表77 V層集石観察表(1)

報告書 No	神田 No	類型	総個数	大きさ		構成礫			備考
				長径 (cm)	短径 (cm)	総重量 (g)	重量平均 値 (g)	被熱率 (%)	
3	221	III A	119	270	210	24570	305.55	100	H7-1
4	222	I A	119	273	235	36340	305.37	100	H7-2

第223図 南区IV層遺構実測図(1)



第224图 南区IV层遗物测图(2)

9号集石

L-6区のIV層で検出し、100cm×50cmの範囲に14点の礫で構成する。全ての礫が被熱している。(III A類)

10号集石

K-6区のIV層で検出し、110cm×70cmの範囲に23点の礫で構成する。全ての礫が被熱している。(III A類)

11号集石

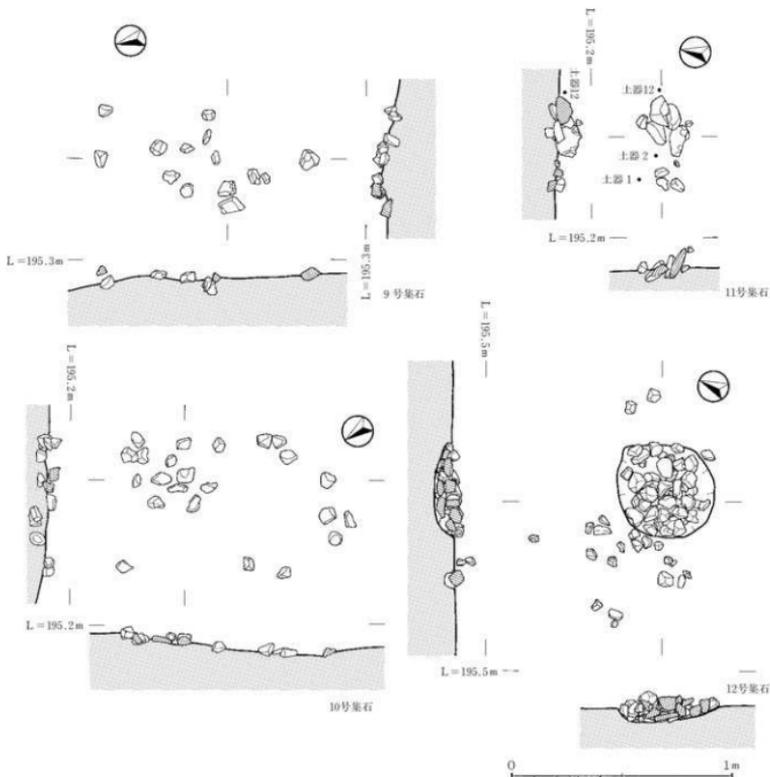
K-6区のIV層で、12点の礫が集積して検出されている。全ての礫で被熱の痕跡が著しく、3点の土器片、礫器1点が同時に確認されている。(III A類)

12号集石

12号集石はK-6区のIV層で検出した。密に礫を集積する掘り込み遺構(45cm×43cm、深さ8cm)を中心に、遺構外に一部拡散する礫で構成する。総数66点の礫は、被熱が著しい。(I A類)

13号集石

J・K-6区のIV層で検出し、散在する18点の礫で構成する。(III A類)



第225図 南区IV層遺構実測図(3)

14号集石

J-6区のIV層で検出し、84cm×82cmに21点の礫が確認された。全ての礫が被熱し、埋り込み遺構は確認できていない。(III A類)

15号集石

15号集石はJ-6区のIV層で検出し、20点の礫で構成し、使用する礫は8cm前後と15cm前後の礫に二分される。(III A類)

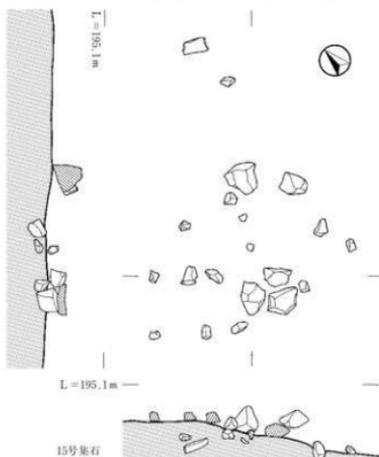
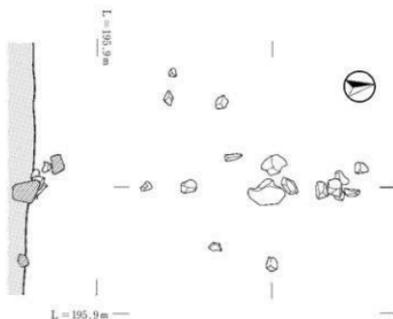
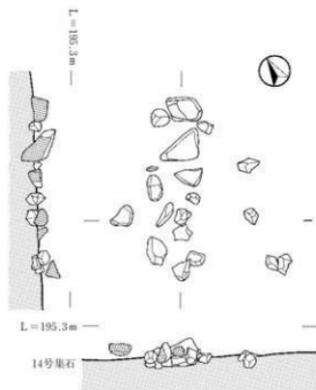


表78 IV層集石観察表(2)

報告書 No	挿図 No	類型	総個数	大きさ		構成礫			備考
				長径 (cm)	短径 (cm)	総重量 (g)	重量平均 値 (g)	被熱率 (%)	
5	223	II	25	60	50	—	—	—	H7-3
6	223	III B	46	230	120	24645	535.76	97.82	H7-4
7	224	III A	54	190	170	13980	310.66	100	H7-5
8	224	I A	72	208	183	7405	246.83	100	H7-6
9	225	III A	14	100	50	3535	271.92	100	H7-7

表79 IV層集石観察表(3)

報告書 No	挿図 No	類型	総個数	大きさ		構成礫			備考
				長径 (cm)	短径 (cm)	総重量 (g)	重量平均 値 (g)	被熱率 (%)	
10	225	III A	23	110	70	1450	145	100	H7-9
11	225	III A	12	44	25	3065	340.55	100	H7-12
12	225	I A	66	110	84	11365	222.84	100	H7-8
13	226	III A	18	103	93	3245	190.88	100	H7-10
14	226	III A	21	84	82	9120	480	100	H7-11
15	226	III A	20	139	93	12320	616	100	H7-13

第226図 南区IV層遺構実測図(4)

2 北区

(1) 落とし穴状遺構

1号落とし穴状遺構

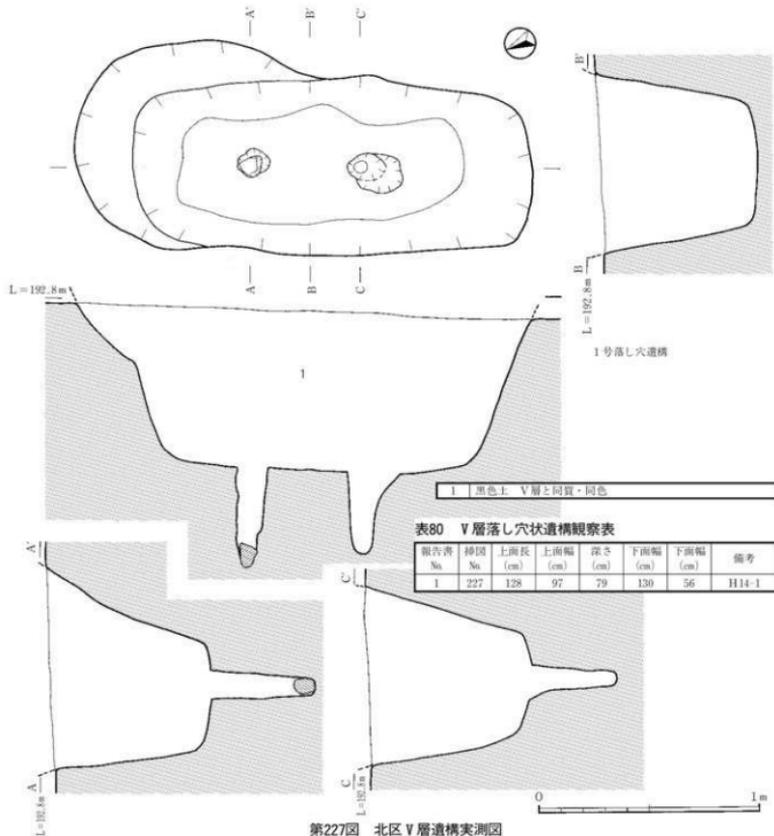
CC-10区のVII a層上面で検出した。平面プランは、長軸128cm、短軸97cmの隅丸長方形で、検出面から底面までの深さは79cmである。確認できた埋土は、基本土層V層と同一の黒褐色土と判断するが、底面から3～5cmの埋土部分は他と比較してやや粘質を帯びている。底面の長軸ライン中央部に小ピット（径14～24cm、深さ38cm～46cm）を検出し、その形状等から逆茂木板と見られる。

小ピット内の埋土は、非粘質で軟質の黒褐色土で、北側の小ピットの底面では10cm程の角礫が確認されている。

土坑（早期?）位置不明

BB-9区周辺のVII a層上面で検出したが、掘り込みの開始位置は不明である。

平面プランは、長軸104cm、短軸53cmの楕円形で、検出面からの深さは25～35cmである。隅に径約10cmの小ピットがある。埋土は、IV層相当の黄褐色軽石を含む黒色土である。



(2) 集石遺構

16号集石

16号集石はB-7・8区のIV層で検出し、およそ130cm×90cmの範囲で50点の礫を確認している。礫は集積した状態で検出しているが、中央部で排除された状況が読みとれる。掘り込み遺構は確認していないが、礫の残存等から存在を想定できる。

17号集石

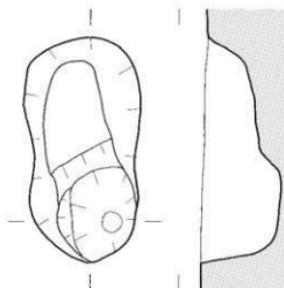
A-7区のIV層で検出し、30cm×20cmに6点の礫が集積する。全ての礫が被熱している。(III a類)

18号集石

AA-9・10区のIV層下部で検出した。140cm×70cmの範囲に20点の礫が散在し、全ての礫に赤化が認められる。(III b類)

19号集石

19号集石はAA・BB-10区のIV層下部から検出された。下層の礫はV層に入る。300cm×290cmの広範囲で礫が検出され、中央部に礫が集積する。掘り込み遺構は確認していないが、集積部の状況から掘り込み遺構が想定できる。(II類)



L=192.1m

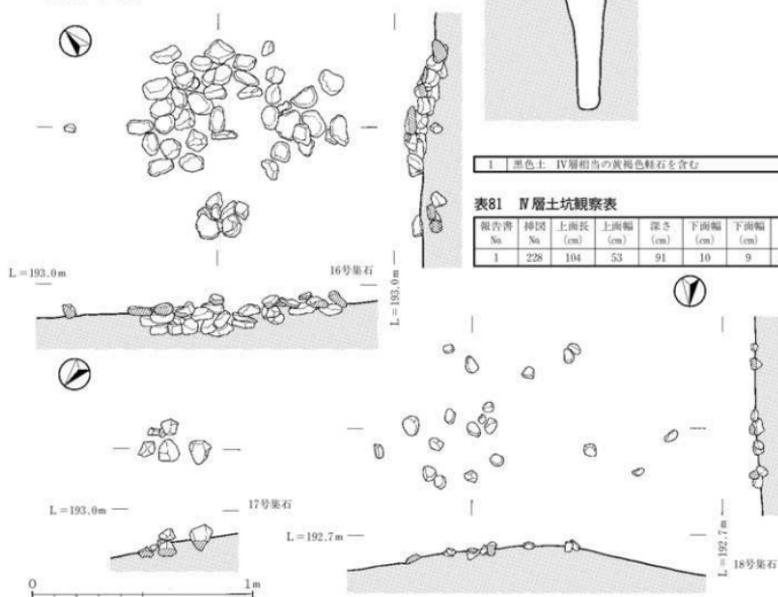
L=192.1m

1号土坑

1 黒色土 IV層相当の黄褐色礫石を含む

表81 IV層土坑観察表

報告書 No	挿図 No	上面長 (cm)	上面幅 (cm)	深さ (cm)	下面幅 (cm)	下面幅 (cm)	備考
1	228	104	53	91	10	9	H14-土坑



第228図 北区IV層遺構実測図(1)



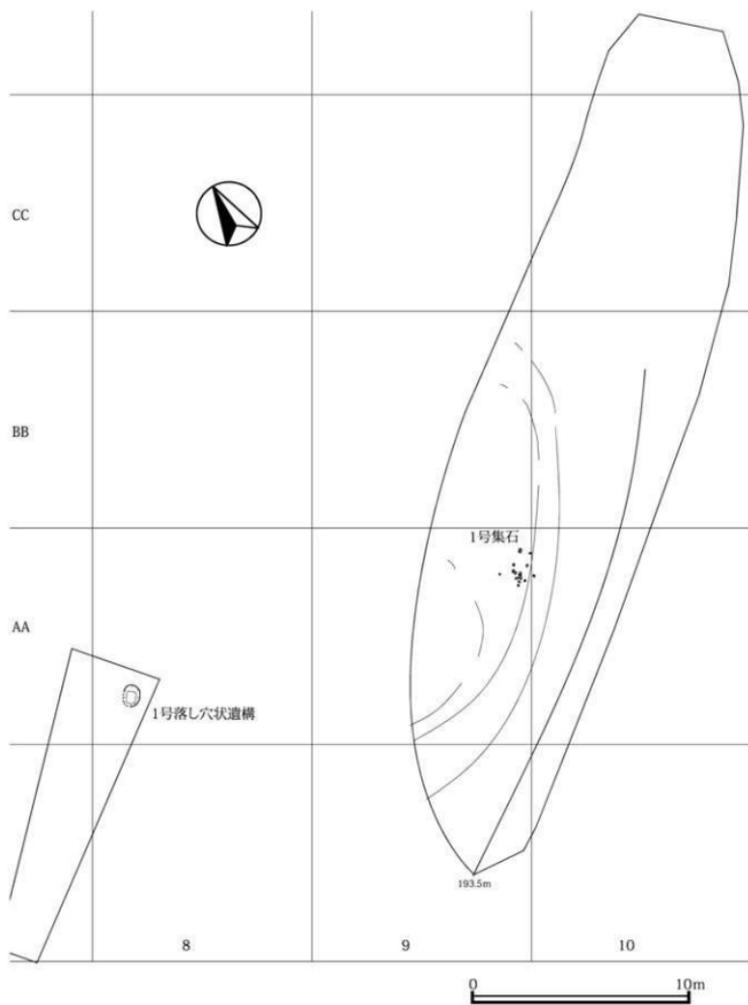
表82 IV層集石観察表(4)

報告書 No	神田 No	類型	総割数	大きさ		構成値			備考
				長径 (cm)	短径 (cm)	総重量 (g)	重量平均 値 (g)	焼熟率 (%)	
16	228	II	50	130	91	22265	452.5	100	H19-S1
17	228	III A	6	30	20	2435	405.83	100	H7-S16

表83 IV層集石観察表(5)

報告書 No	神田 No	類型	総割数	大きさ		構成値			備考
				長径 (cm)	短径 (cm)	総重量 (g)	重量平均 値 (g)	焼熟率 (%)	
18	228	III B	20	140	70	-	-	-	H14-3
19	229	II	34	300	290	-	-	-	H14-2

第229図 北区IV層遺構実測図(2)



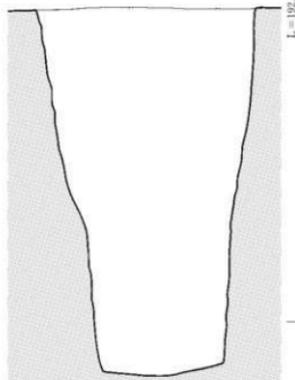
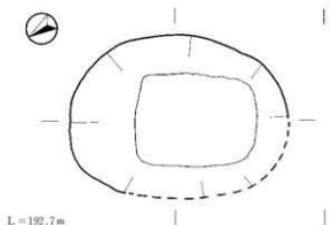
第230回 北区Ⅲ層遺構配置図

第3節 縄文時代前期以降遺構

1 落とし穴状遺構

1号落とし穴状遺構

AA-8区のIV層上面で検出した。平面プランは、長軸109cm、短軸100cmの楕円形で、検出面からの底面までの深さ169cmである。観察できた埋土は、III層と同一の黄褐色土である。



1 黄褐色土 田層と同質・同色



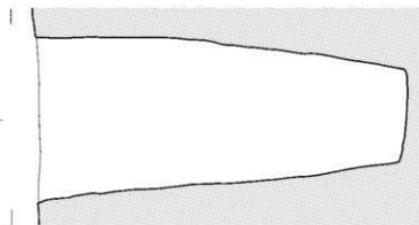
表84 ■ 層落とし穴状遺構観察表

報告書 No	棟区 No	上面長 (cm)	上面幅 (cm)	深さ (cm)	下面幅 (cm)	下面幅 (cm)	備考
1	231	109	100	169	55	42	H17-落

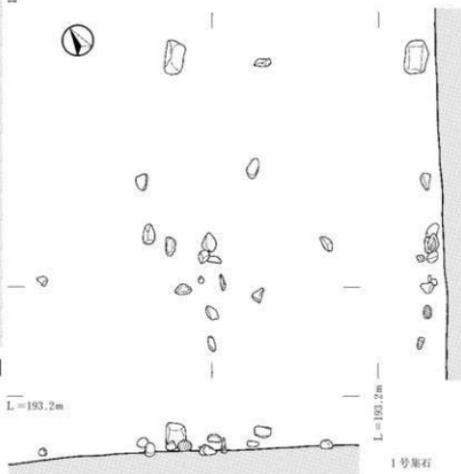
2 集石遺構

1号集石

1号集石はAA-9・10区のIII層で検出した。142cm×133cmの範囲に17個の礫を確認し、並行して2cm大の炭化物2点を検出している。掘り込み遺構は確認できていない。(III B類)



1号落とし穴遺構

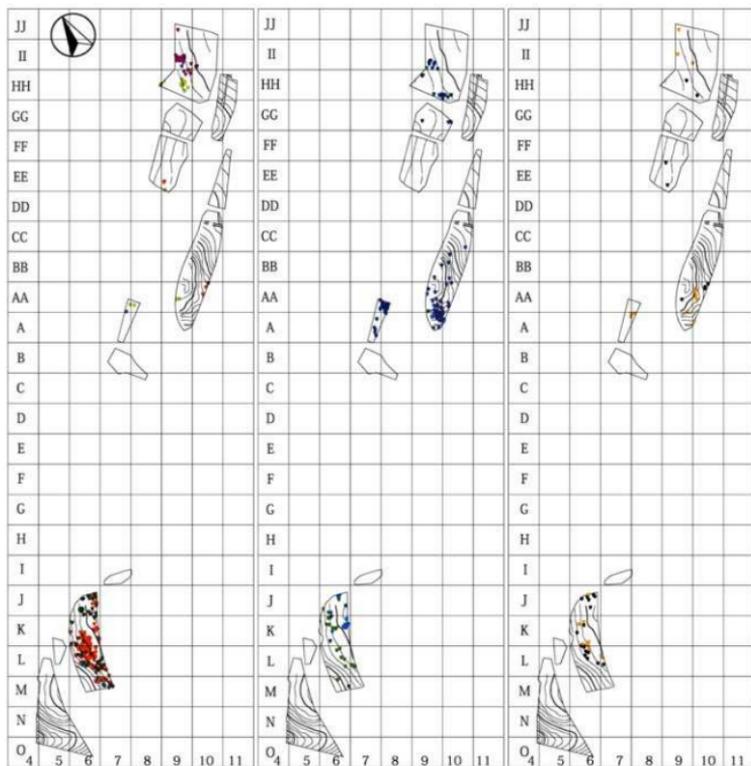


1号集石

表85 ■ 層集石観察表

報告書 No	棟区 No	類型	総個数	大きさ		構成率		備考
				長径 (cm)	短径 (cm)	総重量 (g)	重量平均 値 (g)	
1	231	III B	17	142	133	-	-	H14-1

第231図 北区 ■ 層遺構実測図



早期土器

前・中期土器

後・晚期土器と土器底部

II類土器 貝殻文

III類土器 押型文(手向山)

IV類土器 平杓

V類土器 塞ノ神

VI類土器 苫浜

VII類土器 右京西, 早期条痕文

VIII類土器 轟

IX類土器 曾畑

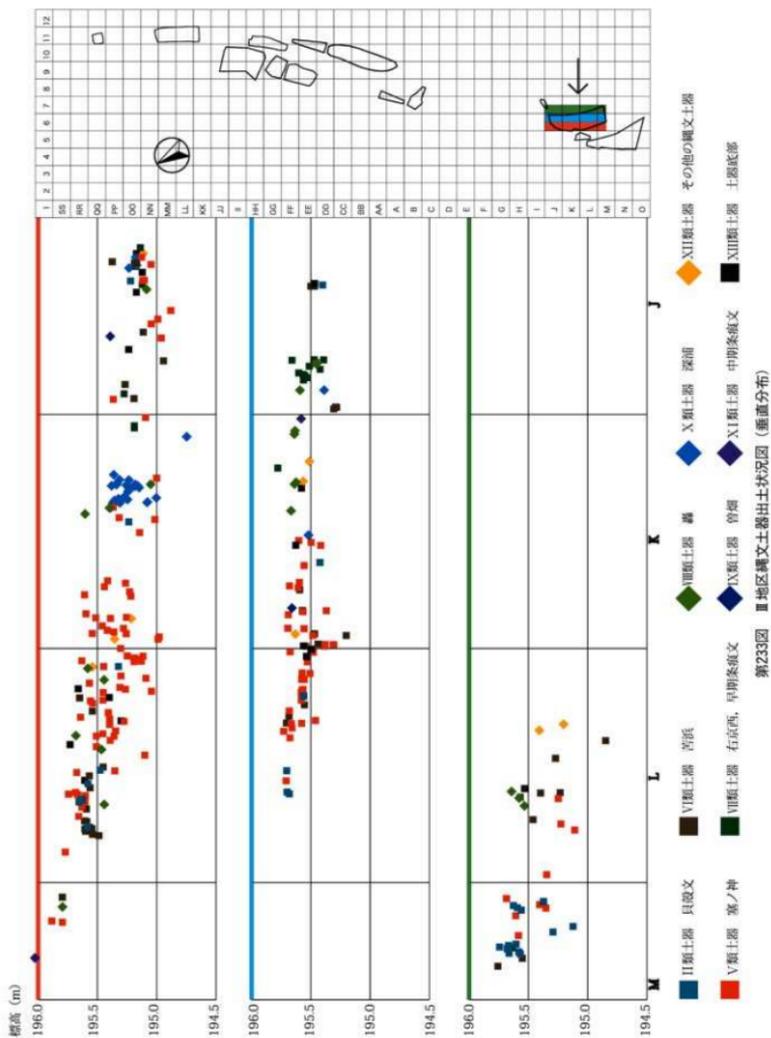
X類土器 深浦

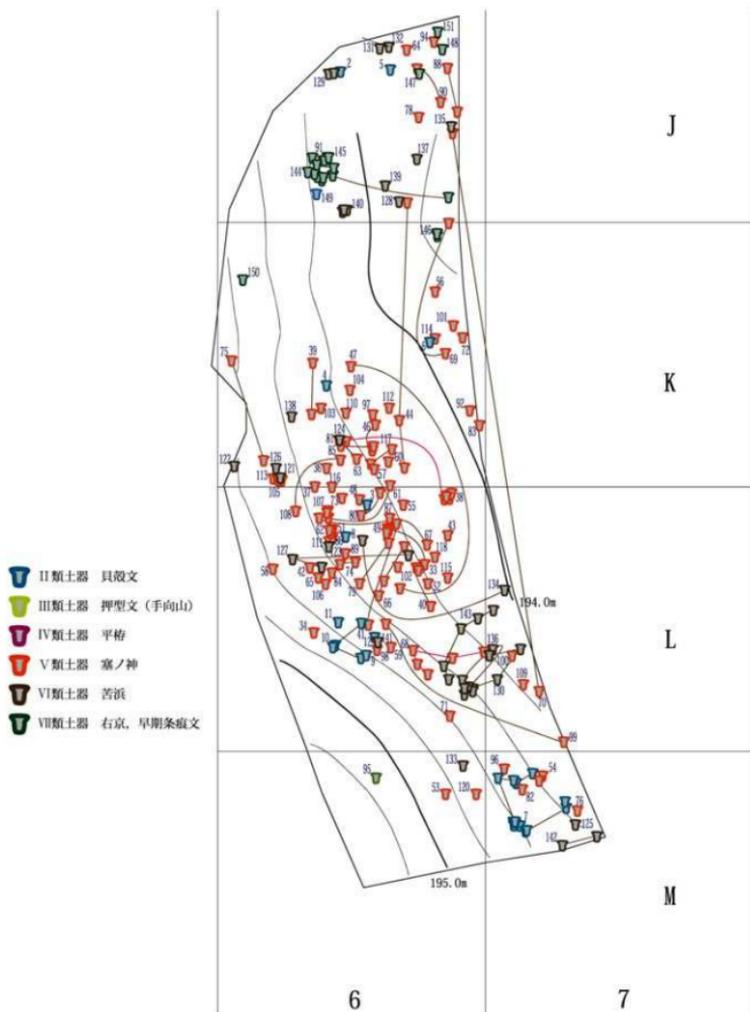
X I類土器 中期条痕文

X II類土器 その他の縄文土器

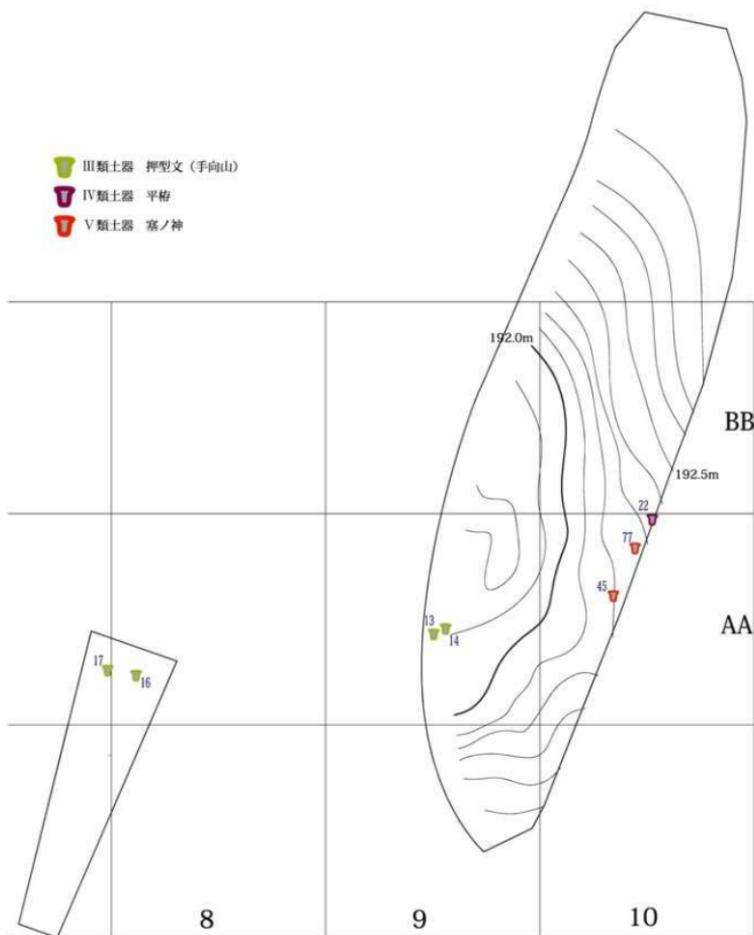
X III類土器 土器底部

第232図 縄文土器類別出土状況図

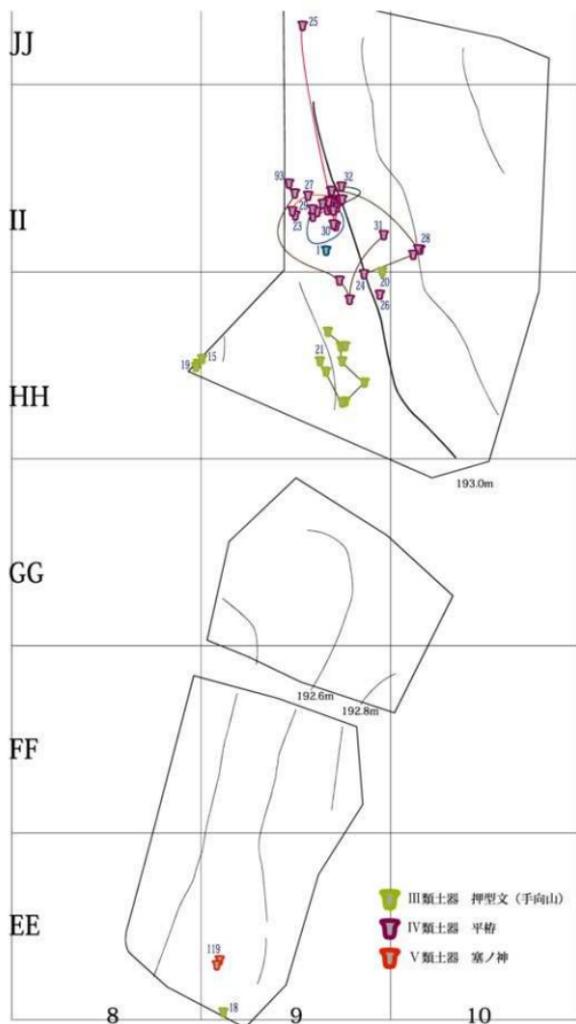




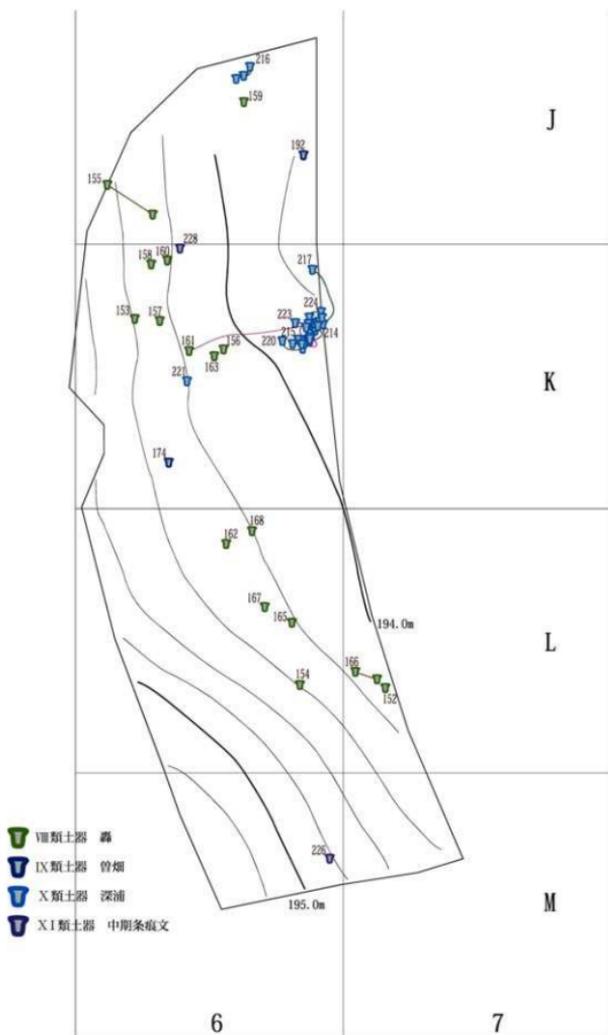
第235図 III地区縄文時代早期土器出土状況図



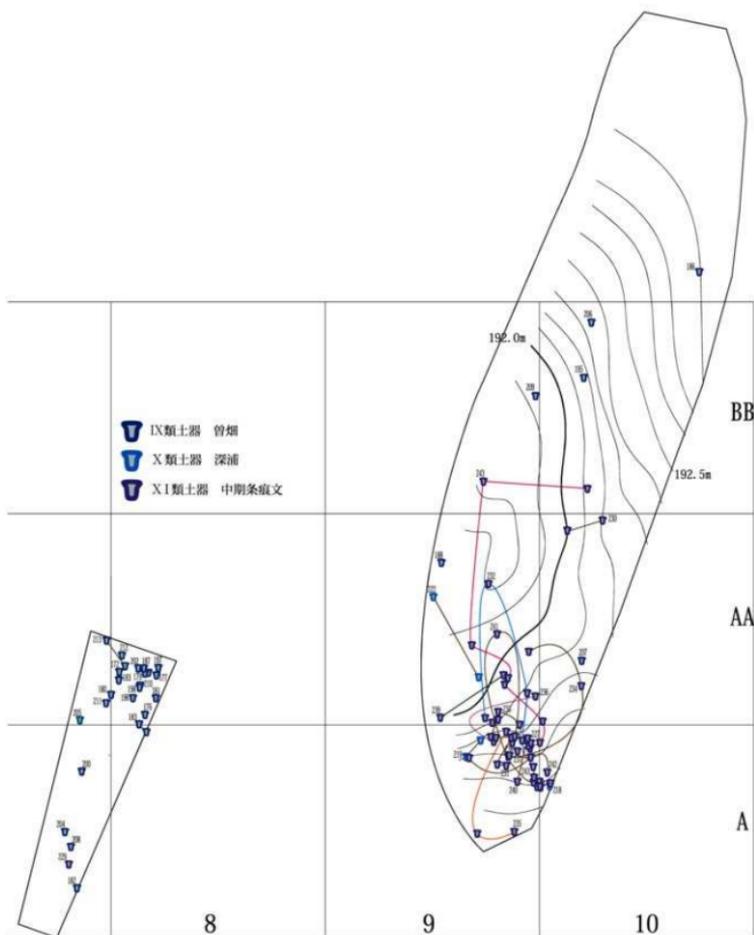
第236図 VI・VII地区縄文時代早期土器出土状況図



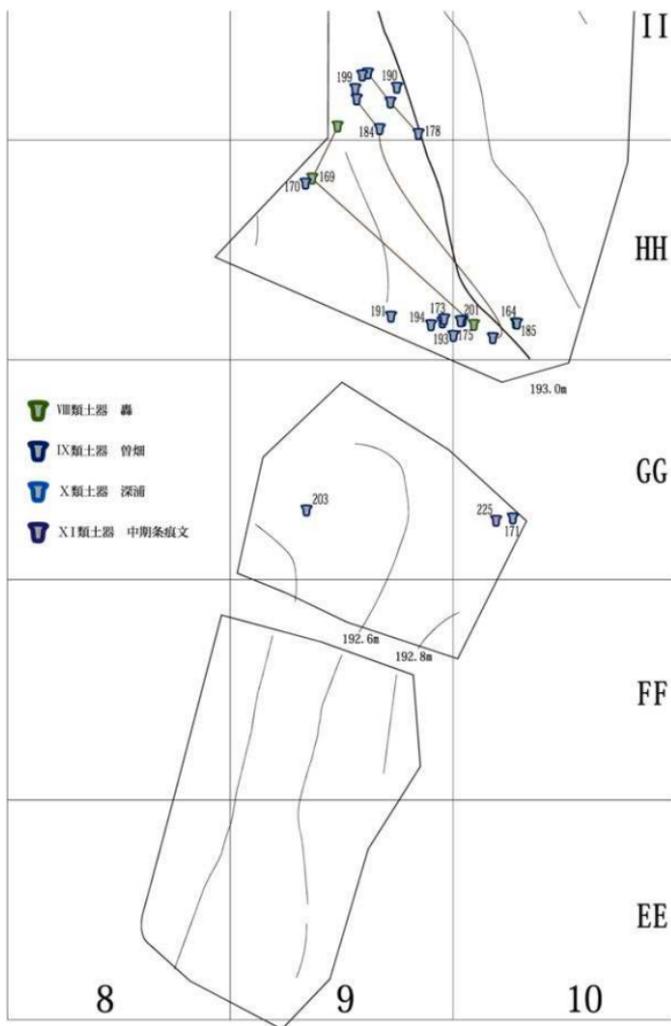
第237図 X・X・XI地区縄文時代早期土器出土状況



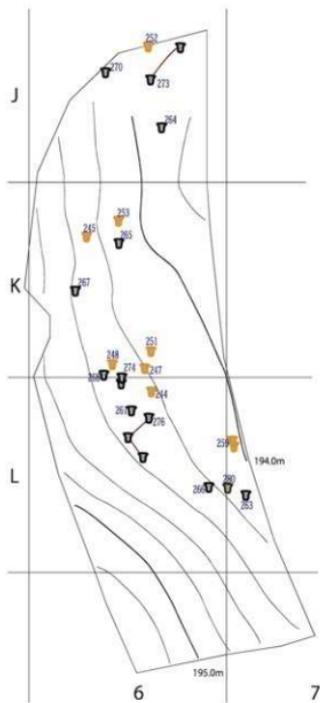
第238图 III地区縄文時代前・中期土器出土状況図



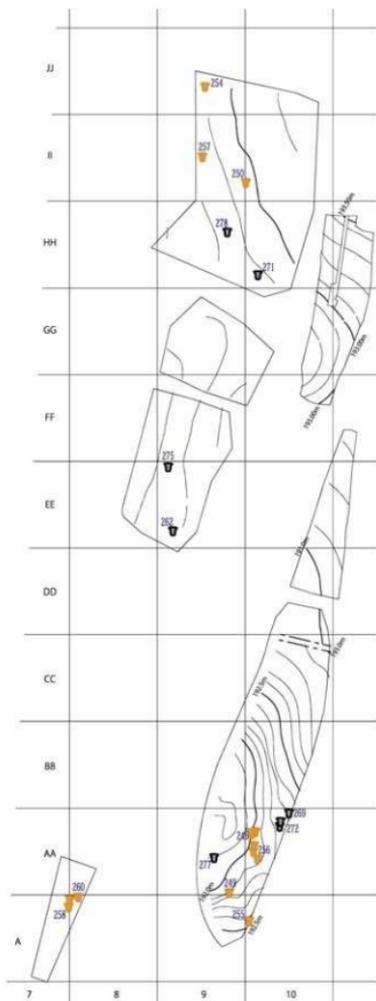
第239図 VI・VII地区縄文時代前・中期土器出土状況図



第240图 IX・X・XI地区縄文時代前・中期土器出土状況图



-  X II類土器 その他の縄文土器
-  X III類土器 土器底部
-  X IV類土器 古墳時代の土器



第241図 縄文時代後・晩期土器，土器底部，古墳時代の土器出土状況図

第4節 土器

土器は、田層下部のアカホヤの一次層を挟んで、出土する。アカホヤの二次堆積層である暗黄褐色土層のⅢa層からは前期から後期にかけてのⅦ類土器からⅩⅡ類土器までが出土し、アカホヤ一次層の下部のⅣ層及びⅤ層からはⅡ類からⅦ類土器が出土している。Ⅰ類土器は薩摩火山灰層の下のⅦ層から出土している。Ⅴ層でとらえられて取り上げられた遺物は少なく、殆どがⅣ層出土となっている。

出土状況を見ると(第232図～第241図)、Ⅲ地点のⅣ層ではⅤ類土器がK・L-6区の発掘区を中心付近(谷に落ちる傾斜の端部の平坦部)に出土し、Ⅱ類土器は調査区全体でまんべんなくバラバラ出土し、Ⅲ類土器は散見される程度である。Ⅵ類土器はL-6区を中心に出土し、Ⅶ類土器がJ-6区に集中する。Ⅲ層からⅦ類土器とⅩ類土器を中心に出土し、特にⅩ類土器はK-6区に集中している。Ⅰ類土器は、旧石器時代のところで各ブロックとの関係でとらえられている。

Ⅵ地点ではⅢ層からⅩ類土器が出土している。Ⅶ地点のⅢ層では、A・AA-9区にⅩⅠ類土器が集中して出土している。Ⅶ類土器、Ⅹ類土器も散見される。Ⅳ層では、Ⅴ類土器がわずかに出土している。

Ⅷ地点ではⅣ層でⅢ類土器がHH-9区に、Ⅳ類土器がI-9区に出土し、Ⅲ層でⅩ類土器が調査区の南側のHH・CG区域に出土する。

このように分類された各土器型式が、それぞれ分布域を異なっており、時代差の妥当性を証左している。

1 縄文時代

Ⅶ層出土土器(第183図・第187図)

Ⅰ類は草創期の土器である。Cブロックに2点、Eブロックに1点出土した。細石器文化期の包含層から出土している。91は隆帯文土器である。2条に刻目が入る。92・123は無文土器で、92は糸痕、123はナデ調整される。Ⅳ・Ⅴ層出土土器(第242図～第250図)

Ⅱ類～Ⅶ類土器が出土し、早期の時期である。

Ⅱ類土器は貝殻円筒土器の一群である(第242図～第243図)。

Ⅱa類土器 口縁部に粘土紐をはりつけ波状の刻目を施す。口縁外側に貝殻の腹縁で横方向に押し引き文を施す。胴部は貝殻糸痕で丁寧に調整され、内面は工具による縦方向のナデ調整で、口縁部付近はナデにより調整される。1がこれにあたる。

Ⅱb類土器 口縁端部に刻目を入れ、口縁下に貝殻腹縁を横方向に刺突し、以下を貝殻糸痕を地文として、縦方向に貝殻腹縁を押しつけた線や押し引き線を施す。内面は工具により丁寧にナデ調整される。円筒土器と角筒土

器があり、直線的な器形で平底に至る。角筒土器の角には貝殻を刺突する。4・5・7が角筒土器である。7は、上面形が長方形の角筒方で、長辺側と短辺側は、縦方向の沈線数が異なる。

Ⅱc類土器 口縁部がやや外反し、ラッパ状に開き、わずかに胴部がふくらみ平底の底部にいたる器形をなし、貝殻糸痕で線状の文様をなす一群である。口縁端部には刻目を施し、口縁部外面には貝殻腹縁による刺突を施す。内面は工具でナデ調整されている。8-12がこれにあたり、8・9は口縁部、10・11は胴部、12は底部である。

Ⅲ類土器

施文具を回転させて文様を施す押型文土器の一群である。施文具によりa類～d類に分類したが、量的には多くない。器形は胴部上半が大きく外反し、屈曲して丸平底の底部に至るものと、屈曲せずや胴部がふくらみながら丸平底の底部にいたるものがある。

Ⅲa類土器は楕円押型文土器で、14は楕円が大きく粗い。内面はナデ調整される。

Ⅲb類土器 山形押型文土器である。一部に外向きさせて、見かけ上菱形文となすものがある。

Ⅲc類土器 押型文の文様と、沈線による同心円状の文様を組み合わせて、口縁部や胴部下半には押型文を、屈曲して立ち上がる胴部上半には沈線を施すものがあり、17はその胴部上半の破片と考えられる。

Ⅲd類土器 懸糸文土器 細い懸糸文を施すもので、20と21は同一個体と考えられる。

Ⅳ類土器

短沈線と円形刺突文で頸部から上を施文し、胴部に縄文を施すもので、壺形の土器が主体である。口縁端部は棒状工具の側面を押しつけて刻目をいれ、内面は工具で横方向に丁寧にナデされる。縄文は結節縄文を転がしている。22-26が口縁部で、27-31が胴部、32が底部である。

Ⅴ類土器

口縁がラッパ状に大きく開き、円筒状の胴部を持ち、平底の底部にいたるものと、口縁部が直口するものがある。口縁部の外側には貝殻腹縁による刺突を施し、胴部には貝殻糸痕文や沈線を施す。

Ⅴa類土器33-57で大きく開く口縁部には、貝殻による連続刺突を施し、胴部には貝殻腹縁を引いて糸痕状文様とする。

Ⅴb類土器58は口縁部が外反せず、直口するもので、口縁部文様の貝殻腹縁による刺突文が失われる。

Ⅴc類土器103-119は口縁部が外反するが、文様が沈線により施される一群である。口縁部や胴部は斜格子状に沈線を施している。

59-102はⅤa類の胴部の可能性もあるものである。

VI類土器

口縁部から直線的に底部にいたるコップ状の器形と、頸部がしまりやや胴部がふくらんで底部にいたる器形のものがある。ここでは前者の器形が多い。口縁部に刻目を施し、胴部外面は条痕を条線状で残し地文として、微隆の突帯に刻目を施す。突帯は横方向が多いが、縦方向もある。内面は工具状のものでナデられるか、貝殻条痕で調整されている。128・131・132・136は口縁部で、121-127・129・130・133-135・137-143は胴部である。III地点で出土した。

VII類土器

砲弾形の器形をなし、条痕を地文とする。条痕が文様化したものである。口縁部に刻目を施すものが多い。内面は横方向に工具によりナデ調整される。144-151はいずれも口縁部であるが、144は口縁部に刻目がなく、特に胴部上半で条痕を文様化していることがよくわかる。III地点で出土した。

VIII類土器

大きく外反する口縁部をもち、胴部で屈曲して球胴状となり、内外面に貝殻条痕で調整し、口縁部や胴部屈曲部の下に、縦方向や横方向あるいは同心円状に微隆突帯を施す。微隆突帯には刻目を施す。その間に刺突文を施すことも多い。152-164は口縁部で、165-169は胴部である。III地点を中心に出土した。

IX類土器

口縁部がわずかに外反する砲弾状の器形で、丸平底となるものが多い。内外面とも丁寧にナデられ、外面全面に幾何学文状に短沈線で地文する。口縁部内面上部に施文することもある。口縁部外面から刺突文→短沈線文による区画文様をほどこし、文様帯を形成する傾向が強い。こうした文様帯が崩れていくことを、型式変化の目安としている。滑石はほとんど含まず、文様帯からも、曾畑目式以降のものである。170-175は口縁部で、170は古い様相を残す。176-211は胴部、212-213は底部である。底部は蜘蛛の巣状の文様になるが、一部幾何学文様をなすものがあり、こちらが古い様相である。

X類土器

口縁部が外反し、胴部がややふくらみ、尖底底の底部に至る器形である。刻目突帯、沈線、連続刺突文で文様を組み合わせる。内面には連続刺突文が施されることがある。214・215は同一個体と考えられる。

216は連続刺突のみで文様を構成している一群である。221は貝殻の腹縁を押圧したのち、一端を支点として動かして押圧し、次はその支点を動かしてもう一方の端部をそのまま支点として押圧し、それを交互に繰り返す相交弧文を施す。

XI類土器

弱いキャリバー状の器形をなし、尖底の底部を持つ。

口縁部に刻目を施し、口縁下に突帯をめぐることも多い。縦方向の条痕を地文とする。内面は横方向の条痕で調整される。従来轟式の範疇で考えられることも多かったが、突帯の形状や縦方向の条痕のあり方が異なり、近年分別されるようになった。225-229は口縁部で、230-243は胴部である。VII地点の南側に集中して出土した。

これについては、まとめて触れるが、中期の可能性がある。

その他の縄文土器

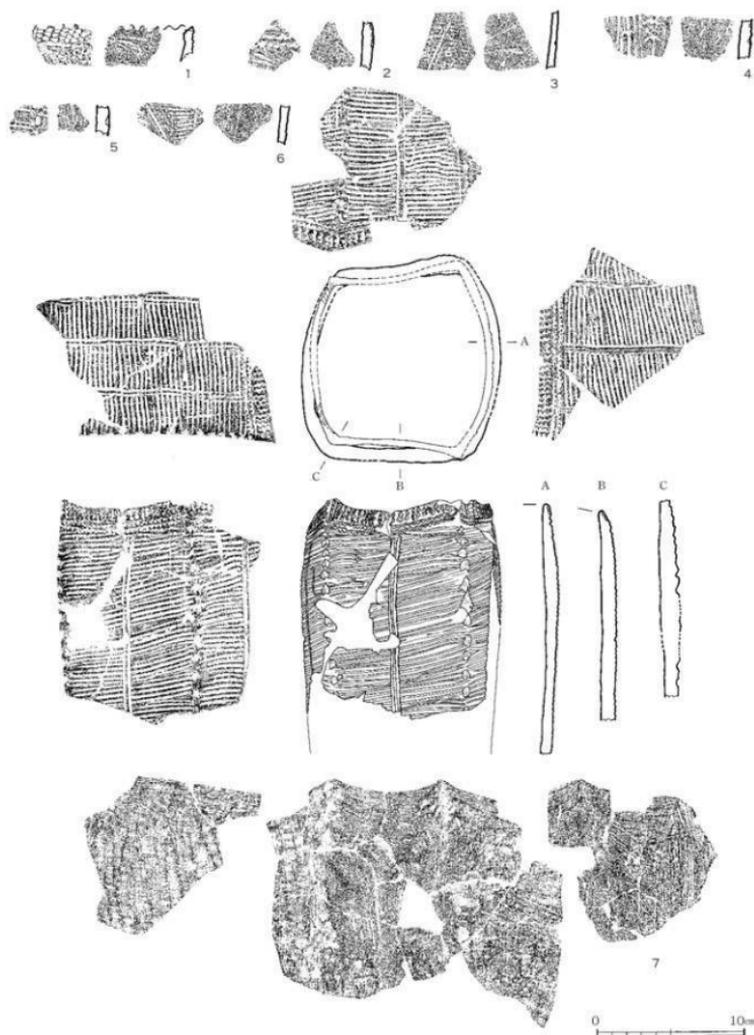
244-260は後期以降の土器を中心として、分類出来なかった土器群をまとめたものである。261-278は底部を一括したものである。

246・255はやや背の低い深鉢形土器で、平行する2本の沈線で文様を施す指宿式土器である。254は、口縁部に刻目を施し、縦方向の条痕に沈線がはいる。轟C・D式の可能性がある。250・252・256・258は無文の土器である。晩期の土器と考えられる。248・249は外反する口縁部に刻目を施すもので、248は中期に、247は前期の可能性がある。253・257・259・266は条痕が施される土器である。時期については不明である。

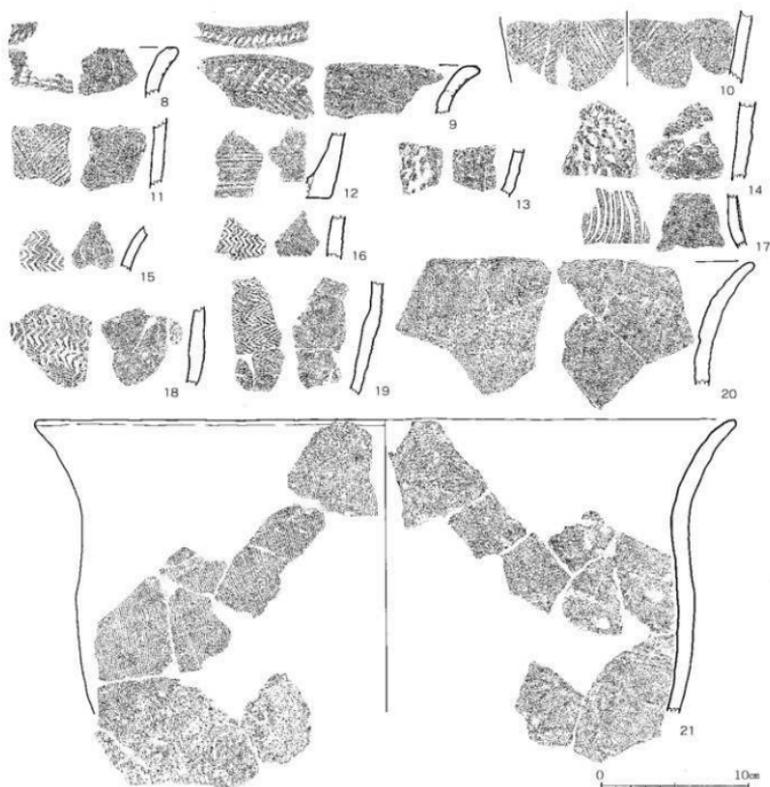
底部は、261・262・264・266-270・272-274・276-278が早期の可能性があるので、それ以外については中期～後期の可能性が強いものである。

2 古墳時代以降の土器（第258図）

279は壘形土器の胴部で、内外面がハゲ目調整される。土師器であり、古代の土器である。280は壘形土器の胴部で、古墳時代の土器と判断される。



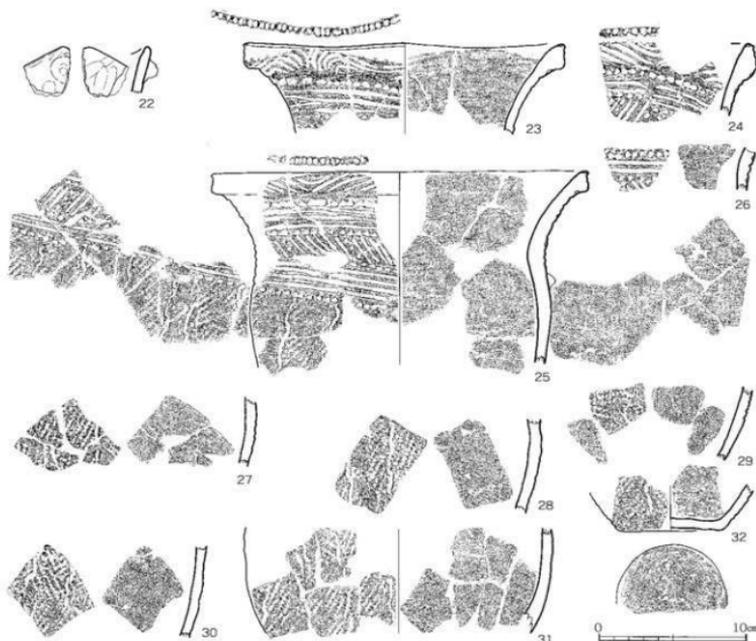
第242图 I a, II b 類土器実測図



第243図 Ⅰc, Ⅱa~Ⅱd類土器実測図

表86 土器観察表(1)

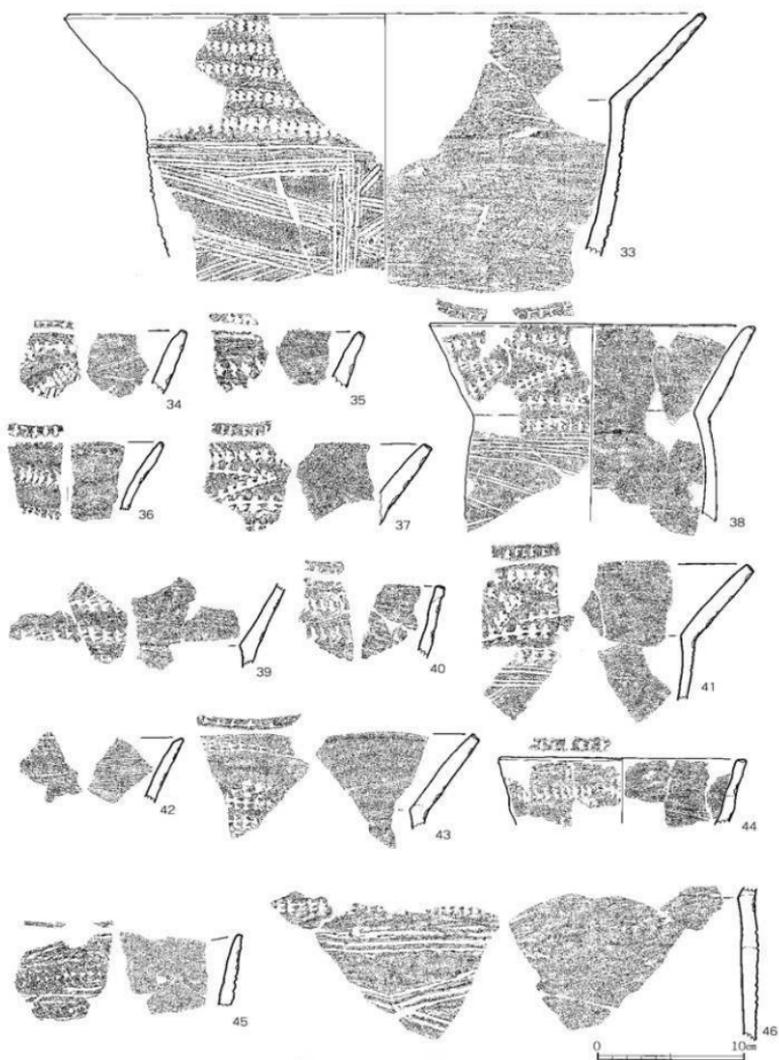
群別 No.	取上番号	出土区	層位	部位	文様・調整				胎土	備考	
					外面	内面	外面	内面			
243	1	184772	C-11	5 口縁部	斜目・斜方角貝殻網文	工具ナシ	灰褐色	淡灰褐色	○	○	角閃石
	2	185252	J-6	4 胴部	貝殻網文・条痕	工具ナシ	赤褐色	黒褐色	○	△	○
	3	186273	L-6-4横	4 胴部	貝殻条痕・網文	工具ナシ	暗赤褐色	暗褐色	○	○	○
	4	183879	K-6	4 胴部	貝殻条痕・網文	工具ナシ	淡赤褐色	灰褐色	○	○	○
	5	181328	J-6	5 胴部	貝殻条痕・貝殻殻縁網文	工具ナシ	黄褐色	黒褐色	○	○	○
	6	181141	K-6	3 胴部	貝殻条痕・貝殻殻縁網文	工具ナシ	灰褐色	灰褐色	○	○	○
	7	182080	M-7	5 口縁部-胴部	貝殻条痕・貝殻殻縁網文	工具ナシ	赤褐色	淡灰褐色	○	○	○
	8	184385	L-6	4 口縁部	貝殻網文・ナシ	ナシ	赤褐色	淡灰褐色	○	○	○
	9	186650	L-6	4 口縁部	貝殻網文・貝殻条痕・ナシ・斜目	ナシ	暗褐色	暗褐色	○	○	○
	10	185437	L-6	4 胴部	貝殻条痕	工具ナシ	赤褐色	暗褐色	○	○	○
	11	182296	L-6	5 胴部	貝殻条痕	工具ナシ	褐色	褐色	○	○	○
	12	187540	L-6	4 胴部	貝殻条痕	工具ナシ	赤褐色	暗褐色	○	△	○
	13	300549	Z-36	4 胴部	斜目押型文・ナシ	ナシ	黄褐色	灰褐色	○	○	○
	14	500724	Z-35	4 胴部	斜目押型文・ナシ	ナシ	灰褐色	灰褐色	○	○	○
	15	138306	D-18	4 胴部	山形押型文・ナシ	ナシ	赤褐色	黒褐色	○	○	○



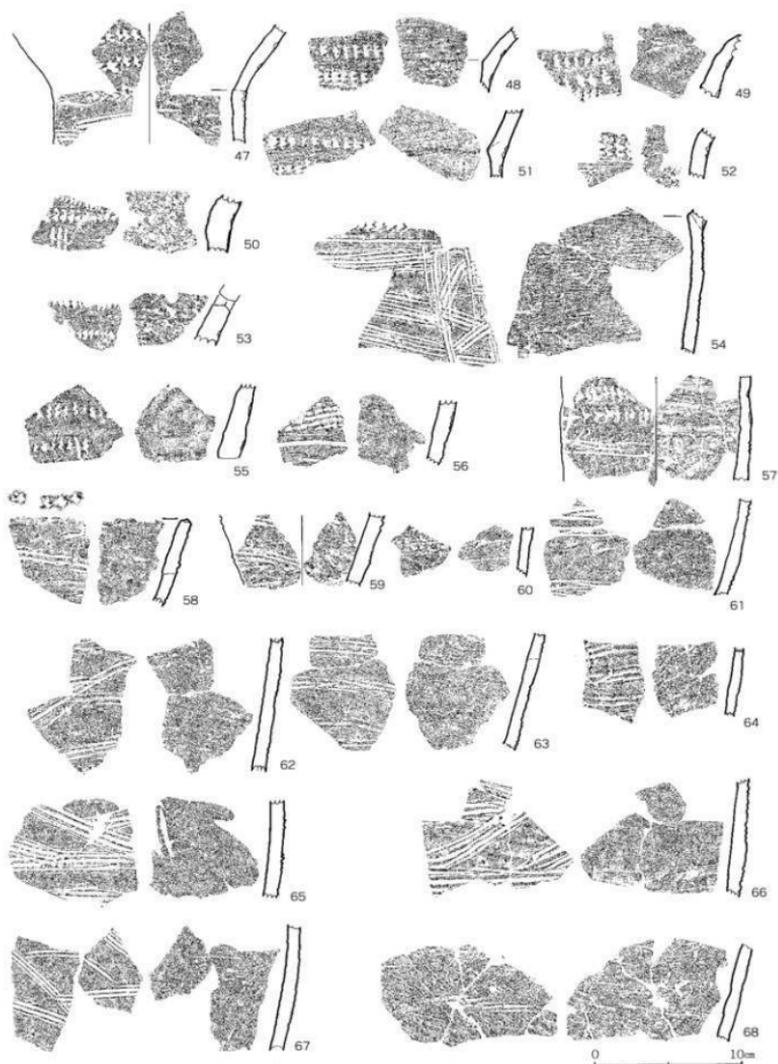
第244図 IV a, IV b 類土器実測図

表87 土器観察表(2)

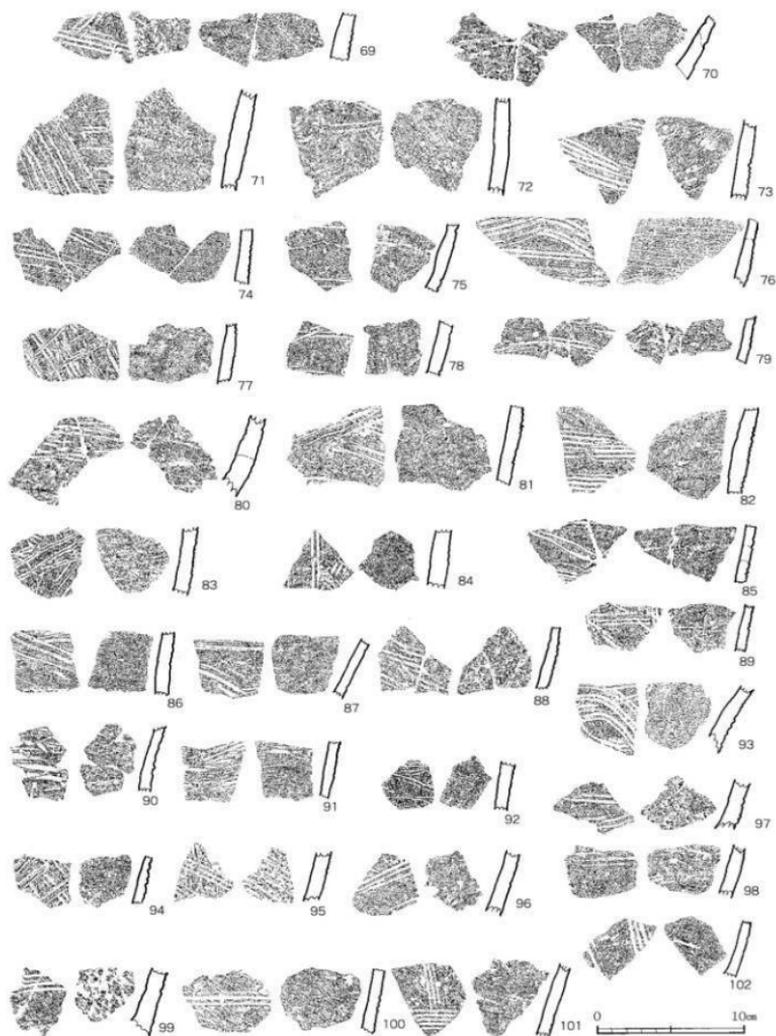
群名	報告 番号	取上番号	出土区	層位	部位	文様・調整		色調		胎土		備考
						外面	内面	外面	内面	石灰	鉄石	
140	16	168509	C-3	4	胴部	山形押型文・十字	十字	灰褐色	灰褐色	○	△	
	17	168501	C-3	4	胴部	波線・十字	十字	黄白色	黄白色	○	△	
	18	169073	C-7	4	胴部	山形押型文・十字	十字	黄白色	暗褐色	○	○	
	19	168283	D-10	4	胴部	山形押型文・十字	十字	赤褐色	黒褐色	○	○	
	20	168278	C-11	4	口縁部	縹色・十字	縹色・十字	黒褐色	黄白色	○	○	先山ケラズ
	21	168529	C-10	4	口縁部-胴部	縹色・十字	縹色・十字	褐色	黄白色	○	○	先山ケラズ
	22	506664	Y-36	4	口縁部	円形刷り付付・十字	十字	褐色	褐色	○	○	
	23	159443	C-11	4	口縁部	刷目・短波線・円形刷付・十字	工拵十字	赤褐色	赤褐色	○	○	
	24	168388	C-11	4	口縁部	刷目・短波線・円形刷付・十字	工拵十字	淡黄褐色	赤褐色	○	○	角閃石△
	25	168328	C-11	4	口縁部-胴部	刷目・短波線・円形刷付・縹文・円形刷り付付・十字	工拵十字	淡黄褐色	赤褐色	○	○	縹影土器
144	26	168349	C-11	4	胴部	短波線・円形刷付・十字	工拵十字	黄褐色	黄褐色	○	○	
	27	168663	C-11	4	胴部	縹文・十字	工拵十字	暗褐色	赤褐色	○	○	角閃石△
	28	168390	C-11	4	胴部	縹文・十字	十字	暗褐色	黄褐色	○	○	
	29	168401	C-11	4	胴部	縹文・十字	工拵十字	暗褐色	暗赤褐色	○	○	
	30	168287	C-11	4	胴部	縹文・十字	工拵十字	黄白色	赤褐色	○	○	
	31	168016	-	4	胴部	縹文・十字	工拵十字	暗褐色	淡赤褐色	○	○	
	32	168651	C-11	4	胴部	縹文・十字	工拵十字	黄白色	赤褐色	○	○	
145	33	168373	L-6	4	口縁部-胴部	刷目・貝殻流紋刷付・赤褐色・十字	工拵十字	灰褐色	灰褐色	○	○	
	34	168447	L-6	4	口縁部	刷目・貝殻流紋刷付・十字	工拵十字	暗赤褐色	暗赤褐色	○	○	
	35	-	-	4	口縁部	刷目・貝殻流紋刷付・十字	工拵十字	暗褐色	黄褐色	○	△	
	36	168623	K-6	4	口縁部	刷目・貝殻流紋刷付・十字	工拵十字	黄褐色	暗褐色	○	○	
	37	168353	L-6	4	口縁部	刷目・貝殻流紋刷付・十字	工拵十字	暗褐色	暗褐色	○	○	
	38	168279	K-4	4	口縁部-胴部	刷目・貝殻流紋刷付・貝殻流紋・十字	工拵十字	暗褐色	暗褐色	○	○	
	39	168358	K-6	4	胴部	貝殻流紋刷付・十字	工拵十字	赤褐色	赤褐色	○	○	
	40	168326	L-6	4	口縁部	刷目・貝殻流紋刷付・十字	工拵十字	灰褐色	暗褐色	○	○	
41	168398	L-6	4	口縁部-胴部	刷目・貝殻流紋刷付・貝殻流紋・十字	工拵十字	黄褐色	灰褐色	○	○		



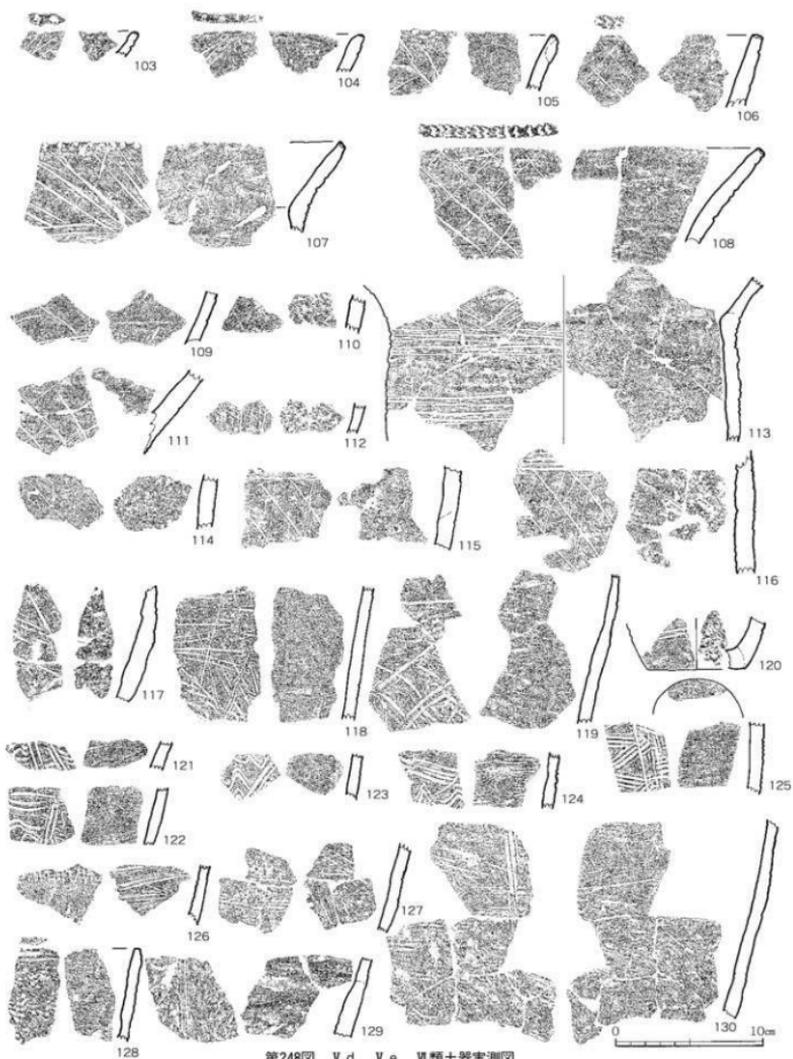
第245图 V a 類土器実測図



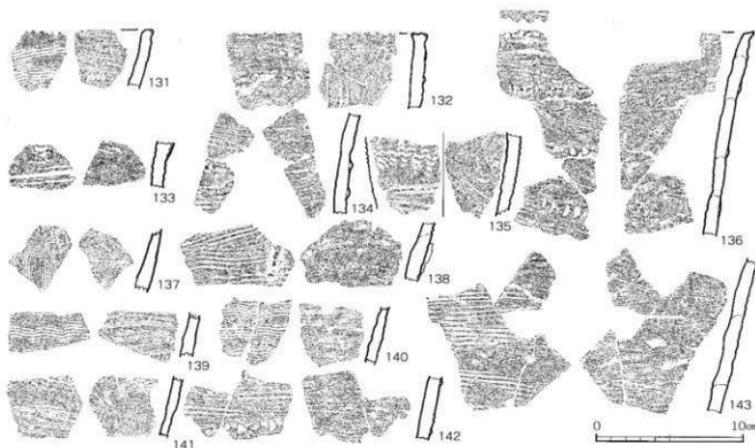
第246図 V a ~ V c 類土器実測図



第247图 Vc 類土器実測図



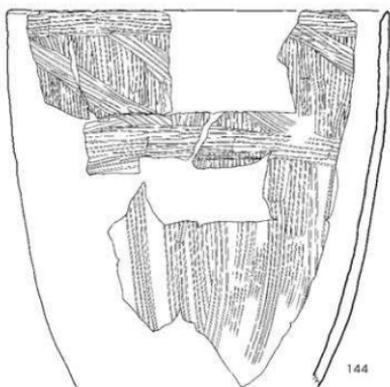
第248图 V d, V e, V 類土器実測図



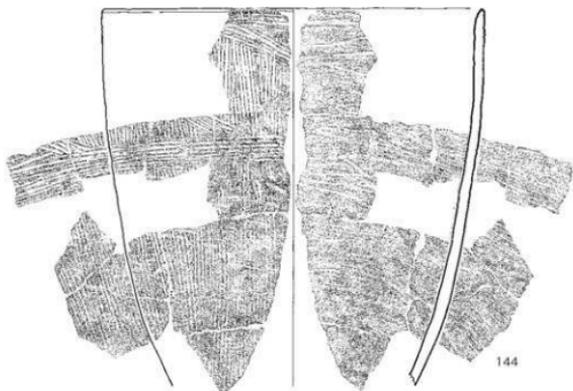
第249図 VI類土器実測図

表88 土器観察表(3)

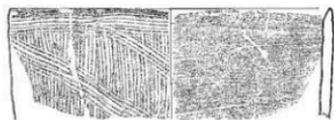
種別	番号	取上番号	出土区	層位	部位	文様・図型		色澤		胎土		備考
						外面	内面	外面	内面	石灰	鉄石	
240	42	102883	L-6	4	口縁部	斜目、目線連続網交、十字	素肌	暗灰褐色	暗灰褐色	○	○	○
	43	100885	L-6	3	口縁部一側部	斜目、目線連続網交、十字	工具十字	黄褐色	暗灰褐色	○	○	○
	44	100666	J-6	4	口縁部	斜目、目線連続網交、十字	工具十字	灰褐色	灰褐色	○	○	○
	45	206723	Y-36	4	口縁部	目線連続網交、目線条線、十字	十字	赤褐色	暗赤褐色	○	○	○
	46	100325	K-6	4	胴部一側部	目線連続網交、目線条線、十字	工具十字	暗赤褐色	赤褐色	○	○	○
	47	102963	K-6	4	胴部	目線連続網交、目線条線、十字	工具十字	褐色	暗褐色	○	○	○
	48	102163	L-6	3	胴部	目線連続網交、十字	工具十字	暗赤褐色	赤褐色	○	○	○
	49	105776	L-6	4	胴部	斜目、目線連続網交、十字	工具十字	暗褐色	暗褐色	○	○	○
	50	—	—	—	—	—	不明	褐色	褐色	○	○	○
	51	104886	L-6	4	胴部	目線連続網交、十字	工具十字	暗褐色	赤褐色	○	○	○
	52	104370	L-6	4	胴部	目線連続網交、目線条線、十字	工具十字	暗褐色	暗褐色	○	○	○
	53	100000	M-6	4	胴部	目線連続網交、十字	工具十字	暗褐色	赤褐色	○	○	○
	54	106293	M-7	4	胴部一側部	目線連続網交、目線条線、十字	工具十字	黄褐色	赤褐色	○	○	○
	55	102782	L-6	4	胴部	目線連続網交、十字	工具十字	黄褐色	暗褐色	○	○	○
	56	105883	K-6	4	胴部	目線条線、十字	工具十字	暗褐色	暗褐色	○	○	○
	240	57	104914	K-6	4	胴部	目線連続網交、目線条線、十字	工具十字	黄褐色	暗褐色	○	○
58		106222	L-6	4	口縁部	目線連続網交、目線条線、十字	工具十字	赤褐色	赤褐色	○	○	○
59		104900	L-6	4	胴部	目線条線、十字	工具十字	赤褐色	赤褐色	○	○	○
60		103852	K-6	4	胴部	目線連続網交、十字	工具十字	暗褐色	暗褐色	○	○	○
61		105491	L-6	4	胴部	目線条線、十字	工具十字	褐色	暗褐色	○	○	○
62		104470	L-6	4	胴部	目線条線、十字	工具十字	赤褐色	赤褐色	○	○	○
63		103943	K-6	4	胴部	目線条線、十字	工具十字	赤褐色	赤褐色	○	○	○
64		102860	J-6	4	胴部	目線条線、十字	工具十字	灰褐色	灰褐色	○	○	○
65		103148	L-6	4	胴部	目線条線、十字	工具十字	黄褐色	灰褐色	○	○	○
66		102741	L-6	4	胴部	目線条線、十字	工具十字	赤褐色	赤褐色	○	○	○
67		102650	L-6	4	胴部	目線条線、十字	工具十字	赤褐色	暗赤褐色	○	○	○
68		100473	L-6	4	胴部	目線条線、十字	工具十字	黄褐色	灰褐色	○	○	○
69		101820	K-6	4	胴部	目線条線、十字	工具十字	赤褐色	赤褐色	○	○	○
70		102945	J-6	4	胴部	目線条線、十字	工具十字	赤褐色	赤褐色	○	○	○
71		100120	L-6	4	胴部	目線条線、十字	工具十字	赤褐色	赤褐色	○	○	○
240		72	101156	K-6	3	胴部	目線条線、十字	工具十字	赤褐色	赤褐色	○	○
	73	105490	L-6	4	胴部	目線条線、十字	工具十字	褐色	暗褐色	○	○	○
	74	103678	L-6	4	胴部	目線条線、十字	工具十字	黄褐色	灰褐色	○	○	○
	75	102265	K-6	4	胴部	目線条線、十字	工具十字	赤褐色	灰褐色	○	○	○
	76	102860	M-7	4	胴部	目線条線、十字	工具十字	暗褐色	暗褐色	○	○	○
	77	100720	Y-36	4	胴部	目線条線、十字	工具十字	赤褐色	暗褐色	○	○	○
	78	100322	J-6	4	胴部	目線条線、十字	工具十字	赤褐色	暗褐色	○	○	○
	79	104444	L-6	4	胴部	目線条線、十字	工具十字	赤褐色	暗褐色	○	○	○
	80	106279	L-6	4	胴部	目線条線、十字	工具十字	赤褐色	赤褐色	○	○	○
	81	100768	K-6	4	胴部	目線条線、十字	工具十字	赤褐色	赤褐色	○	○	○
82	103994	M-7	5	胴部	目線条線、十字	工具十字	暗褐色	暗褐色	○	○	○	
83	101280	K-6	4	胴部	目線条線、十字	工具十字	黄褐色	暗褐色	○	○	○	
84	104418	L-6	4	胴部	目線条線、十字	工具十字	暗赤褐色	暗赤褐色	○	○	○	
85	100940	K-6	4	胴部	目線条線、十字	工具十字	赤褐色	赤褐色	○	○	○	
86	104422	L-6	4	胴部	目線条線、十字	工具十字	暗赤褐色	赤褐色	○	○	○	



144



144



145



146

147



148



149

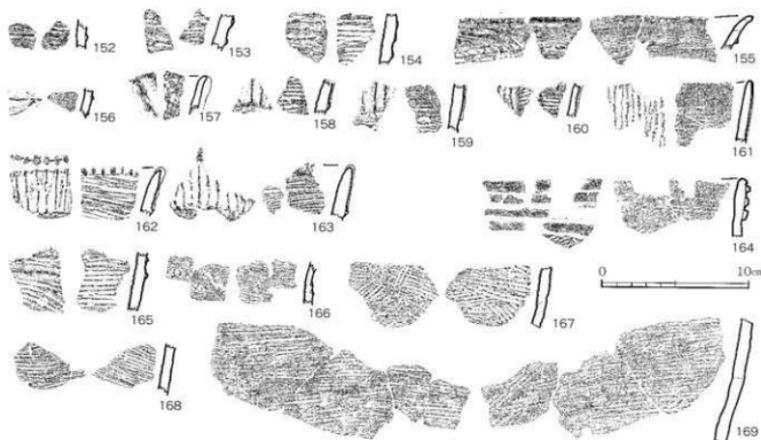


150



151

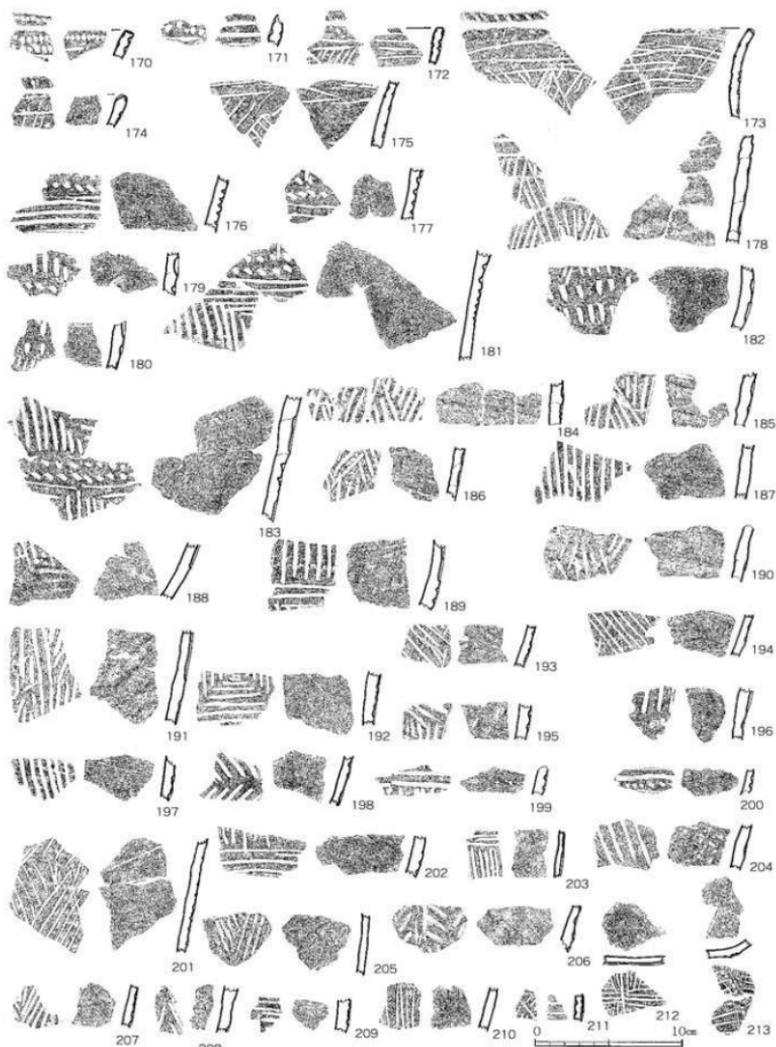
第250图 VII類土器実測図



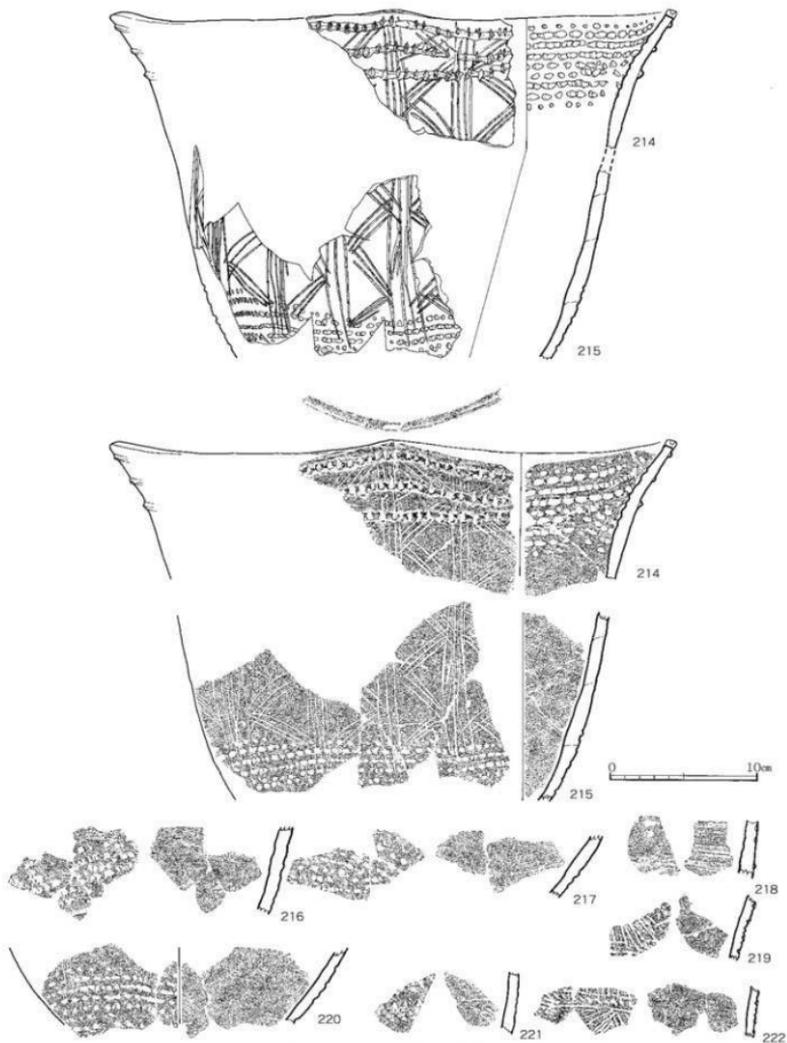
第251图 VII類土器夹测图

表89 土器觀察表

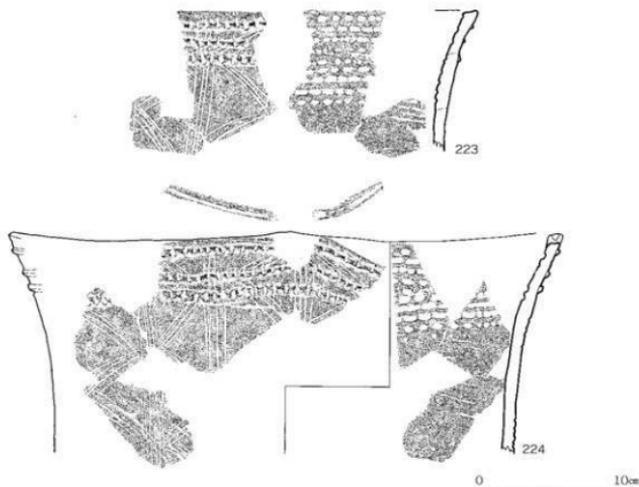
标本号	出土层	部位	纹饰	纹饰、胎质		色调		胎土		備考		
				外面	内面	外面	内面	石灰	鉄石		赤緑	砂層
87	197321	L-6	4横	貝殼条線・十字	工貝十字	暗赤褐色	赤褐色	○	○	-	○	
88	191381	J-6	4横	貝殼条線・十字	工貝十字	赤褐色	赤褐色	○	○	-	○	
89	192748	L-6	4横	貝殼条線・十字	工貝十字	淡赤褐色	淡赤褐色	○	○	-	○	
90	192468	J-6	4横	貝殼条線・十字	工貝十字	暗赤褐色	赤褐色	○	○	-	○	
91	192529	J-6	4横	貝殼条線・十字	工貝十字	赤褐色	赤褐色	○	○	-	○	
92	191796	K-6	4横	貝殼条線・十字	工貝十字	赤褐色	黑褐色	○	○	-	○	
95	118209	D-11	3a	貝殼条線・十字	工貝十字	灰褐色	灰褐色	○	○	-	○	
94	193472	J-4	4横	貝殼条線・十字	工貝十字	赤褐色	赤褐色	○	○	-	○	
96	196923	M-6	5	貝殼条線	貝殼条線	暗赤褐色	赤褐色	○	○	-	○	
96	192884	M-7	4	横	貝殼条線・十字	赤褐色	赤褐色	○	○	△	○	
97	193996	K-6	4	横	貝殼条線・十字	工貝十字	赤褐色	黑褐色	○	○	-	○
98	197790	L-6	4	横	貝殼条線・十字	工貝十字	赤褐色	灰褐色	○	○	-	○
99	197708	L-6	5	横	貝殼条線・十字	工貝十字	赤褐色	黑褐色	○	○	-	○
100	192529	L-7	4	横	貝殼条線・十字	工貝十字	暗赤褐色	赤褐色	○	○	-	○
101	196939	K-6	4	横	貝殼条線・十字	工貝十字	赤褐色	赤褐色	○	○	-	○
102	196773	L-6	4	横	貝殼条線・十字	工貝十字	赤褐色	赤褐色	○	○	-	○
103	193473	K-6	4	11横	斜目・沈線・十字	暗褐色	暗褐色	○	○	-	○	
104	193977	K-6	4	11横	斜目・沈線・十字	暗褐色	暗褐色	○	○	-	○	
105	196923	K-6	4横	11横	斜目・沈線・十字	暗褐色	暗褐色	○	○	-	○	
106	194411	L-6	4	11横	貝殼条線斜目・沈線・十字	工貝十字	黄褐色	暗褐色	○	○	-	○
107	193493	L-6	4	11横	斜目・沈線・十字	工貝十字	褐色	褐色	○	○	-	○
108	191494	K-6	4	11横	貝殼条線斜目・沈線・十字	工貝十字	暗褐色	暗褐色	○	○	-	○
109	196112	L-7	6横	横	沈線・十字	工貝十字	赤褐色	赤褐色	○	○	-	○
110	194412	K-6	4	横	沈線・十字	工貝十字	赤褐色	赤褐色	○	○	-	○
111	194426	L-6	4	横	沈線・十字	工貝十字	暗褐色	暗褐色	○	○	-	○
112	194963	K-6	4	横	沈線・十字	工貝十字	暗褐色	赤褐色	○	○	-	○
113	196509	K-6	4	横	斜目・沈線	工貝十字	暗褐色	暗褐色	○	○	-	○
114	193870	K-6	4	横	沈線・十字	工貝十字	黄褐色	黄褐色	○	○	-	○
115	193983	L-6	4	横	沈線・十字	工貝十字	褐色	褐色	○	○	-	○
116	193412	L-6	4	横	沈線・十字	工貝十字	褐色	褐色	○	○	-	○
117	193192	K-4	4	横	沈線・十字	工貝十字	赤褐色	黑褐色	○	○	-	○
118	194287	L-6	4	横	沈線・十字	工貝十字	黄褐色	黄褐色	○	○	-	○
119	193927	C-7	4	横	沈線・十字	工貝十字	黄褐色	暗褐色	○	○	-	○
120	194779	M-6	4	横	貝殼条線・十字	工貝十字	赤褐色	暗褐色	○	○	-	○
121	196941	K-6	4横	横	貝殼条線	暗赤褐色	暗赤褐色	○	○	-	○	
122	196914	K-6	5	横	貝殼条線	暗赤褐色	暗赤褐色	○	○	-	○	
123	195483	L-6	4	横	貝殼条線・十字	工貝十字	灰褐色	灰褐色	○	○	-	○
124	192931	K-6	4	横	貝殼条線	工貝十字	灰褐色	暗赤褐色	○	○	-	○
125	192972	M-7	4	横	貝殼条線	工貝十字	黄褐色	黄褐色	○	○	-	○
126	197349	K-6	5	横	貝殼条線・引3	横	暗赤褐色	暗赤褐色	○	○	-	○
127	193923	L-6	4	横	貝殼条線・引3	工貝十字	黄褐色	灰褐色	○	○	-	○
128	191236	J-4	4	11横	貝殼条線	工貝十字	黄褐色	灰褐色	○	○	-	○
129	191133	J-6	3	横	貝殼条線	工貝十字	赤褐色	灰褐色	○	○	-	○
130	196494	L-7	4	横	貝殼条線	工貝十字	黄褐色	灰褐色	○	○	-	○



第252图 Ⅹ类土器夹陶图



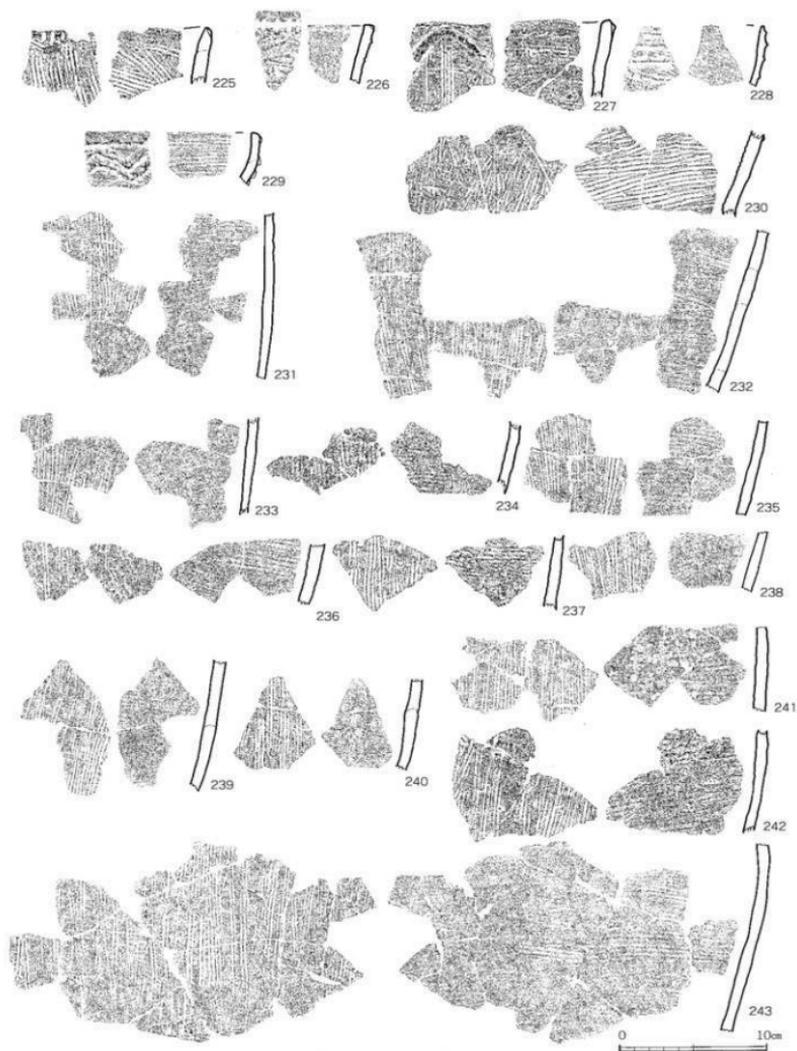
第253图 X 类土器类图 (1)



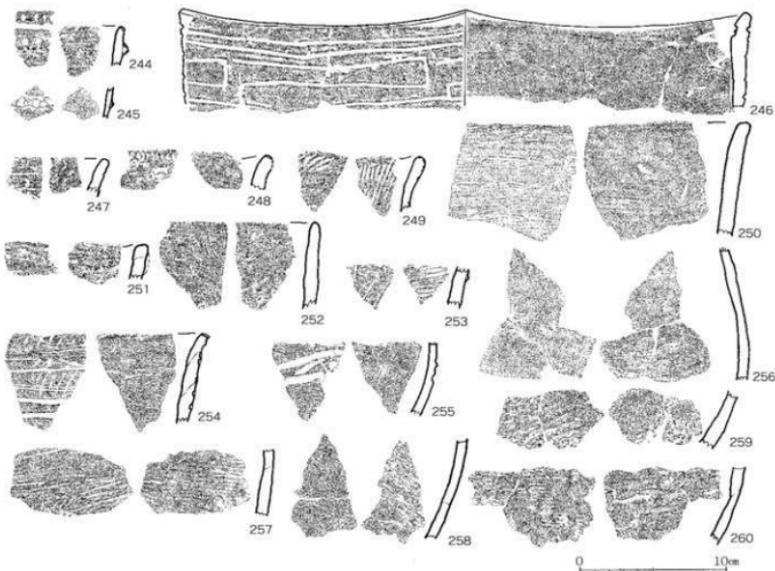
第254図 X類土器実測図(2)

表90 土器観察表(5)

群別 No.	報告 No.	出土番号	出土式	層位	部位	文様・跡等		胎色		胎土		備考
						外面	内面	外面	内面	石灰質	砂礫	
S40	131	100130	J-6	4	口縁部	斜目、貝粒条痕	工具ナデ	暗褐色	赤褐色	○	○	-
	132	100146	J-6	4	口縁部	斜目、貝粒条痕、磨除条痕	工具ナデ	黄褐色	灰褐色	○	○	-
	133	100450	M-6	4	胴部	貝粒条痕	工具ナデ	褐色	灰褐色	○	○	-
	134	100160	L-6	4	胴部	貝粒条痕、磨除条痕	工具ナデ	灰褐色	灰褐色	○	○	-
	135	101063	J-6	4	胴部	貝粒条痕、貝殼碎・引き	工具ナデ	赤褐色	暗灰褐色	○	○	-
	136	101360	L-7	4	口縁部・胴部	斜目、貝粒条痕、斜目磨除条痕	工具ナデ	灰褐色	灰褐色	○	○	-
	137	100943	J-6	4	胴部	貝粒条痕	工具ナデ	淡黄褐色	灰褐色	○	○	-
	138	101440	K-6	4	胴部	貝粒条痕、斜目磨除条痕	工具ナデ	黄褐色	灰褐色	○	○	△
	139	100660	J-6	4	胴部	貝粒条痕	条痕	黄褐色	灰褐色	○	○	-
	140	104433	J-6	4	胴部	貝粒条痕	工具ナデ	黄褐色	灰褐色	○	○	-
	141	100711	L-6	5	胴部	貝粒条痕、貝殼碎・引き	工具ナデ	黄褐色	灰褐色	○	○	-
	142	102849	M-7	4	胴部	貝粒条痕、磨除条痕	工具ナデ	赤褐色	黄褐色	○	○	-
	143	100309	L-7	4	胴部	貝粒条痕	工具ナデ	灰褐色	灰褐色	○	○	-
	144	100020	J-6	3	口縁部	条痕(支線化)	工具ナデ	黄褐色	黄褐色	○	○	-
	145	100710	J-6	4	口縁部	条痕(支線化)	工具ナデ	黄褐色	黄褐色	○	○	○ 墨山由ガクズ
	146	100220	K-6	4	口縁部	斜目、条痕(支線化)	工具ナデ	暗褐色	暗褐色	○	○	-
	147	104052	J-6	4	口縁部	斜目、条痕(支線化)	工具ナデ	灰褐色	灰褐色	○	○	-
	148	100341	J-6	3	口縁部	斜目、条痕(支線化)	工具ナデ	黄褐色	黄褐色	○	○	-
149	100142	J-6	3	口縁部	斜目、条痕(支線化)・網文	貝粒条痕	黄褐色	黄褐色	○	○	-	
150	100312	K-6	4	口縁部	斜目、条痕(支線化)	工具ナデ	黄褐色	黄褐色	○	○	○ 墨山由ガクズ	
151	100473	J-6	4	口縁部	斜目、条痕(支線化)	工具ナデ	黄褐色	黄褐色	○	○	-	
152	100128	L-7	3a	口縁部	磨除条痕、ナデ	貝粒条痕	赤褐色	黄褐色	○	○	-	
153	100372	K-6	3a	口縁部	磨除条痕、ナデ	貝粒条痕	暗褐色	赤褐色	○	○	-	
154	100717	L-6	3	口縁部	磨除条痕、貝粒条痕	貝粒条痕	赤褐色	黄褐色	○	○	-	
155	101093	J-6	4	口縁部	磨除条痕、貝粒条痕	貝粒条痕	暗褐色	黄褐色	○	○	-	
156	100281	K-6	3	口縁部	磨除条痕、ナデ	貝粒条痕	赤褐色	赤褐色	○	○	-	
157	101002	K-6	3	口縁部	磨除条痕、ナデ	ナデ	赤褐色	黄褐色	○	○	-	
158	100865	K-6	3	口縁部	磨除条痕、ナデ	貝粒条痕	黄褐色	赤褐色	○	○	-	
159	100958	J-6	3	口縁部	磨除条痕、ナデ	貝粒条痕	赤褐色	暗赤褐色	○	○	-	
160	101041	K-6	3	口縁部	磨除条痕、ナデ	貝粒条痕	黄褐色	黄褐色	○	○	-	
161	100471	K-6	3a	口縁部	磨除条痕、ナデ	貝粒条痕	暗褐色	灰褐色	○	○	-	
162	100566	L-6	3a	口縁部	磨除条痕(ナデ)、貝粒条痕	貝粒条痕	暗灰褐色	暗灰褐色	○	○	-	
163	100418	K-6	3a	口縁部	磨除条痕、ナデ	貝粒条痕	暗赤褐色	赤褐色	○	○	-	
164	116327	B-10	3a	口縁部	交差、ナデ	貝粒条痕	赤褐色	暗褐色	○	○	-	
165	100979	L-6	3a	胴部	磨除条痕、貝粒条痕	貝粒条痕	赤褐色	灰褐色	○	○	△	
166	100131	L-7	3a	胴部	斜目(磨除条痕)、ナデ	貝粒条痕	赤褐色	赤褐色	○	○	-	
167	100300	L-6	3a	胴部	貝粒条痕	貝粒条痕	黄褐色	灰褐色	○	○	-	
168	100750	L-6	3	胴部	貝粒条痕	貝粒条痕	暗褐色	暗褐色	○	○	-	
169	116006	3a	胴部	貝粒条痕	貝粒条痕	赤褐色	灰褐色	○	○	-		



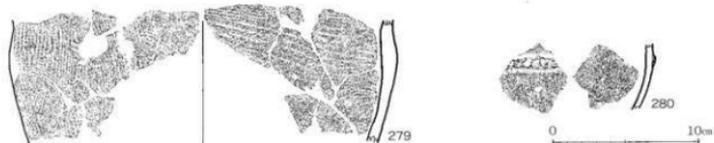
第255图 XI期土器夹炭图



第256図 X Ia ~ X Ic 類土器実測図

表91 土器観察表(6)

観測 No.	観測 No.	出土区	層位	部位	文様・図型		色澤				備考	
					外面	内面	外面	内面	石灰 斑石	雲母 砂噴		
170	18433	D-10	3a	11線部	網交、十字	ナテ	褐色	褐色	○	○	○	
171	17795	B-9	3a	11線部	内面網交、短洗線、十字	短洗線、十字	黄褐色	黄褐色	○	○	○	
172	18942	C-5	3	11線部	短洗線、十字	短洗線、十字	赤褐色	赤褐色	○	○	○	
173	18492	C-10	3a	11線部	網交、短洗線、十字	短洗線、十字	暗褐色	暗褐色	○	○	○	
174	18571	K-6	4	11線部	短洗線、ナテ	ナテ	灰褐色	黄褐色	○	○	○	
175	18438	C-10	3a	11線部	短洗線、ナテ	短洗線、ナテ	暗褐色	褐色	○	○	○	
176	18949	C-2	3	網部	網交、短洗線、十字	ナテ	暗赤褐色	赤褐色	○	○	○	
177	18948	C-3	3	網部	網交、短洗線、十字	ナテ	黄褐色	赤褐色	○	○	○	
178	18612	Y-3a	3	網部	網交、短洗線、十字	短洗線、十字	黄褐色	灰褐色	○	○	○	
179	18943	C-3	3	網部	網交、短洗線、十字	ナテ	黄褐色	赤褐色	○	○	○	
180	18948	C-3	3	網部	短洗線、ナテ	ナテ	赤褐色	灰褐色	○	○	○	
181	18940	C-3	3	網部	短洗線、網交、十字	ナテ	暗赤褐色	赤褐色	○	○	○	
182	18939	C-2	3	網部	短洗線、十字	ナテ	赤褐色	灰褐色	○	○	○	
183	18939	C-2	3	網部	網交、短洗線、十字	ナテ	暗赤褐色	赤褐色	○	○	○	
184	18483	C-11	3	網部	短洗線、ナテ	工具ナテ	黄褐色	黄褐色	○	○	○	
185	18627	B-10	3a	網部	短洗線、ナテ	工具ナテ	灰褐色	暗褐色	○	○	○	
186	560718	X-36	3	網部	短洗線、ナテ	工具ナテ	淡黄褐色	淡黄褐色	○	○	○	
187	189514	C-3	3	網部	短洗線、ナテ	工具ナテ	黄褐色	黄褐色	○	○	○	
188	509853	Z-35	3	網部	短洗線、ナテ	ナテ	褐色	褐色	○	○	○	
189	18951	C-11	3	網部	短洗線、ナテ	工具ナテ	暗赤褐色	赤褐色	○	○	○	薄石灰
190	184264	C-11	3a	網部	短洗線、ナテ	ナテ	黄褐色	灰褐色	○	○	○	
191	184174	C-10	3a	網部	短洗線、ナテ	工具ナテ	暗灰褐色	暗灰褐色	○	○	△	
192	180683	J-6	3	網部	短洗線、ナテ	ナテ	茶褐色	黄白色	○	○	○	
193	181563	C-10	3a	網部	短洗線、ナテ	ナテ	茶褐色	茶褐色	○	○	○	
194	185391	C-10	3a	網部	短洗線、ナテ	ナテ	褐色	褐色	○	○	○	
195	509202	Y-36	3	網部	短洗線、ナテ	ナテ	暗褐色	褐色	○	○	○	
196	189416	C-3	3	網部	網交、短洗線、十字	ナテ	赤褐色	赤褐色	○	○	○	
197	189433	C-3	3	網部	短洗線、ナテ	ナテ	淡赤褐色	淡赤褐色	○	○	○	
198	189542	C-3	4	網部	短洗線、ナテ	ナテ	赤褐色	赤褐色	○	○	○	
199	189523	C-2	3	網部	短洗線、ナテ	ナテ	暗褐色	暗褐色	○	○	○	
200	186249	C-10	3a	網部	網交、短洗線、十字	ナテ	黄褐色	黄褐色	○	○	○	
201	189460	C-3	3	網部	短洗線、ナテ	ナテ	暗褐色	赤褐色	○	○	○	
202	189394	C-2	3	網部	網交、短洗線、十字	工具ナテ	暗赤褐色	赤褐色	○	○	○	
203	177270	C-9	4	網部	短洗線、ナテ	ナテ	暗褐色	黄褐色	○	○	○	
204	189386	C-2	3	網部	短洗線、ナテ	ナテ	赤褐色	黄褐色	○	○	○	
205	189399	C-2	3	網部	自然色面	工具ナテ	赤褐色	暗褐色	○	○	○	
206	509560	X-35	3	網部	短洗線、ナテ	ナテ	暗褐色	暗褐色	○	○	○	



第258図 X N類土器実測図

表93 土器観察表(8)

観測 No.	取上番号	出土区	層位	部位	文様・調整		色調				備考		
					外面	内面	口縁	裏面	胎體	灰褐色		赤褐色	黒褐色
258	230	500211	Y-36	3	胴部	変型、目殺赤飯	目殺赤飯	赤褐色	赤褐色	○	○	○	○
	231	500096	Z-36	3	胴部	目殺赤飯	目殺赤飯	赤褐色	黒褐色	○	○	○	○
	232	500659	Y-36	3	胴部	目殺赤飯	目殺赤飯	赤褐色	暗赤褐色	○	○	○	○
	233	500135	Z-36	3	胴部	目殺赤飯	目殺赤飯	赤褐色	暗赤褐色	○	○	○	○
	234	500109	Z-36	3	胴部	目殺赤飯	目殺赤飯	赤褐色	灰褐色	○	○	○	○
	235	500678	A'-36	3	胴部	目殺赤飯	目殺赤飯	赤褐色	赤褐色	○	○	○	○
	236	500106	Z-36	3	胴部	目殺赤飯	目殺赤飯	赤褐色	赤褐色	○	○	○	○
	237	500132	Z-36	3	胴部	目殺赤飯	目殺赤飯	暗灰褐色	黄褐色	○	○	○	○
	238	500328	Z-36	3	胴部	目殺赤飯	目殺赤飯	赤褐色	赤褐色	○	○	○	○
	239	500277	Z-36	3	胴部	目殺赤飯	目殺赤飯	赤褐色	赤褐色	○	○	○	○
	240	500094	Z-36	3	胴部	目殺赤飯	目殺赤飯	赤褐色	赤褐色	○	○	○	○
	241	500092	Z-36	3	胴部	目殺赤飯	目殺赤飯	赤褐色	赤褐色	○	○	○	○
	242	500100	Z-36	3	胴部	目殺赤飯	目殺赤飯	灰褐色	灰褐色	○	○	○	○
	243	500016	Y-35	埋土上	胴部	目殺赤飯	目殺赤飯	赤褐色	赤褐色	○	○	○	○
	244	182172	L-6	4横	口縁部	ナテ、斜目、変型、円形刺突	ナテ	淡褐色	淡褐色	○	○	○	○
	245	182292	K-6	4	胴部	ナテ、斜目変型	ナテ	灰褐色	灰褐色	○	○	○	○
	246	500238	Y-36	3	口縁部	洗滌、ナテ	ナテ	淡褐色	灰褐色	○	○	○	○
	247	184912	K-6	4	口縁部	ナテ	ナテ	赤褐色	赤褐色	○	○	○	○
	248	186397	K-6	4	口縁部	斜目、ナテ	ナテ	赤褐色	灰褐色	○	○	○	○
	249	500141	Z-36	3	口縁部	斜目、刺突、ナテ	変型	黄灰色	灰白色	○	○	○	○
	250	184938	C-11	3a	口縁部	赤飯	目殺赤飯	暗灰褐色	黄褐色	○	○	○	○
	251	186386	K-6	4	口縁部	ナテ	ナテ	暗褐色	暗褐色	○	○	○	○
	252	186388	J-6	4	口縁部	ナテ	暗褐色	赤褐色	赤褐色	○	○	○	○
253	181920	K-6	3	胴部	変型、洗滌	目殺赤飯	暗赤褐色	赤褐色	○	○	○	○	
254	184993	D-12	3a	口縁部	斜目、洗滌、ナテ	ナテ	赤褐色	赤褐色	○	○	○	○	
255	500895	Z-36	3	胴部	洗滌、ナテ	工具ナテ	赤褐色	灰褐色	○	○	○	○	
256	500764	Z-36	3	胴部	ナテ	工具ナテ	褐色	褐色	○	○	○	○	
257	185644	D-11	3a	胴部	目殺赤飯	目殺赤飯	赤褐色	黒褐色	○	○	○	○	
258	184490	C-2	4	胴部	ナテ	工具ナテ	赤褐色	灰褐色	○	○	○	○	
259	186563	L-7	3a	胴部	赤飯	ナテ	黄褐色	黄褐色	○	○	○	○	
260	188289	C-2	3	胴部	赤飯、ナテ	工具ナテ	淡褐色	淡褐色	○	○	○	○	
261	182911	L-6	4	胴部	ナテ	ナテ	赤褐色	赤褐色	○	○	○	○	
262	186322	C-7	4	胴部	ナテ	ナテ	赤灰色	赤灰色	○	○	○	○	
263	181368	L-7	3	胴部	ナテ	ナテ	赤褐色	赤褐色	○	○	○	○	
264	182443	J-6	4	胴部	ナテ	ナテ	赤褐色	赤褐色	○	○	○	○	
265	186782	K-6	3	胴部	工具ナテ	ナテ	暗褐色	暗褐色	○	○	○	○	
266	182622	L-6	4	胴部	ナテ	ナテ	灰褐色	灰褐色	○	○	○	○	
267	183219	K-6	4	胴部	赤飯	ナテ	赤褐色	暗褐色	○	○	○	○	
268	187296	K-6	4	胴部	工具ナテ	工具ナテ	灰褐色	灰褐色	○	○	○	○	
269	500721	Y-36	4	胴部-底縁部	赤飯	工具ナテ	赤褐色	灰褐色	○	○	○	○	
270	181749	J-6	4	胴部	ナテ	ナテ	淡褐色	赤褐色	○	○	○	○	
271	186311	C-10	3a	底縁部	赤飯	ナテ	赤褐色	赤褐色	○	○	○	○	
272	500520	Y-36	3	胴部-底縁部	赤飯	工具ナテ	赤褐色	灰褐色	○	○	○	○	
273	181342	J-6	3	胴部	ナテ	工具ナテ	赤褐色	暗褐色	○	○	○	○	
274	181495	L-6	4	胴部	ナテ	工具ナテ	赤褐色	暗赤褐色	○	○	○	○	
275	186965	C-7	3	底縁部	ナテ	ナテ	黄灰色	黒褐色	○	○	○	○	
276	186306	L-6	4	底縁部	ナテ	ナテ	赤褐色	赤褐色	○	○	○	○	
277	500727	Z-36	4	胴部	ナテ	ナテ	暗灰褐色	灰褐色	○	○	○	○	
278	186235	C-10	3a	底縁部	ナテ	赤飯	暗赤褐色	暗赤褐色	○	○	○	○	
279	186236	C-10	3a	底縁部	ナテ	赤飯	黄褐色	淡褐色	○	○	○	○	
280	184828	L-7	4	胴部	斜目変型、ハナ目	工具ナテ	黄褐色	黄褐色	○	○	○	○	

第5節 石器

III地区を中心として、出土している。

1 V層出土の石器

III地区の中央部のL-6区付近にOB-A、OB-Bのブロックが、南端部のM-7区付近にOB-B、OB-Cのブロックがあることがわかった。これらのブロックと同石材の石器は抽出できなかったが、チップ類は多量であり、石器製作跡と考えられる。

281-287は石鏃で、288は削器、289は石錐の基部で、先端部が欠失している。石鏃は小型で、282は礫面と主要剥離面を残し、挟りをもたない。290は縦長剥片である。291-292は石核である。打面を転移して、不整形な剥片を剥出してている。293は細石刃核である。

他の地区では、石器は出土していない。

2 IV層出土の石器

III地区では、J-6区とK-6区の境目付近の、調査区の東側に無班晶安山岩のブロックが、L-5区の南側から6区にかけてOB-Bのブロックが、L-6・7区にOB-Cのブロックが、L-6区にこれらと比べるとやや小さな無班晶安山岩のブロックがある。無班晶安山岩の北東のブロック付近には、同じ石材の石鏃が出土していることから、生産したことが考えられる。同じように、OB-Bのブロックには、剥片や石器が伴っている。中央部のL-6区には3種の石材が重複する。

XI地区では、南側のEE-8・9区にOB-Cのブロックがある。

294-330は石鏃である。294-303は小型の挟りのない一群である。主要剥離面を残し、周縁調整している。304-323は挟りを持つ小型鏃で、同様に主要剥離面が残っている。324-330はやや大型となるが、やはり主要剥離面を残すものが多い。325は挟りの深い、尖ったやや身の厚い石鏃である。330は大型の挟りのない石鏃である。331-333はこれで完形品と考えられる。333は上野原遺跡でも出土しており、特殊石器としておく。343は楔形石器である。335-341は使用痕剥片、342は搔器、344-348は石核である。比較的大きな扇形の剥片を剥出している。石鏃の剥片形状と同じと考えられ、素材を剥出した可能性が高い。大きな縦長の使用痕剥片を剥出した石核は見られず、こうした素材は別の場所で剥出された可能性がある。

VII-IX地区では、石鏃・スクレーパー、調整剥片が出土した。剥片・チップの出土量は少なく、全体に散らばる。IX地区のOB-Cのブロックには石器は出土しなかった。349-351は石鏃、352、353は搔器、354は調整剥片である。石鏃はそれぞれ形状が異なる。

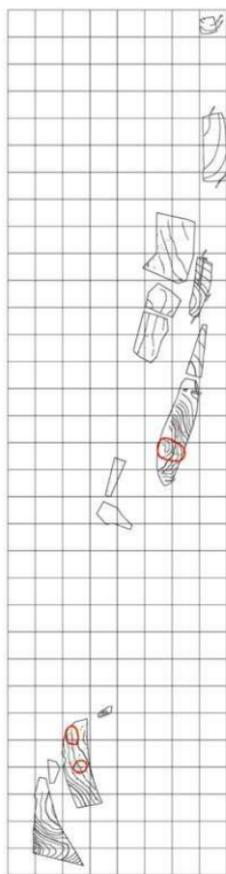
3 III層出土の石器

III地区の中央部K-6区とL-6区の境目付近にOB-Bのブロックがあり、北側のJ-6区に無班晶安山岩のブロックがある。またVII地区のA区にOB-Cのブロックが存在する。いずれも剥片と石器を伴っており、石器製作跡と考えられる。

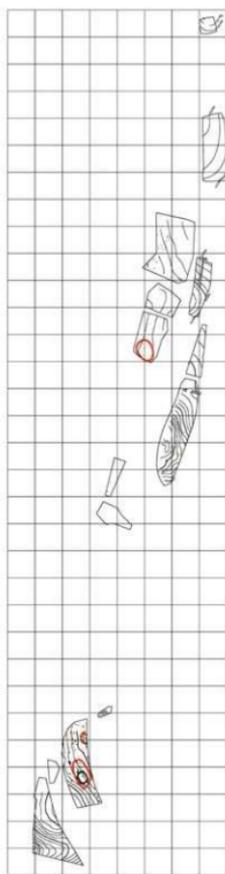
355-376は石鏃である。355-370は小型鏃で、355-358は挟りのない一群である。372-374は露歯刃が深く刻まれる。371は五角形鏃で縄文晩期のものである可能性が高い。377は石錐、378はスクレーパー、379は削器、380は石匙、381-384は使用痕剥片、385は石核である。石核は礫面を残して、一面より剥出している。

VI-VII地点からは石鏃を中心に出土している。386-392は石鏃、393・394は石匙である。387-389は主要剥離面が残る。OB-Cのブロックには石器が含まれる。

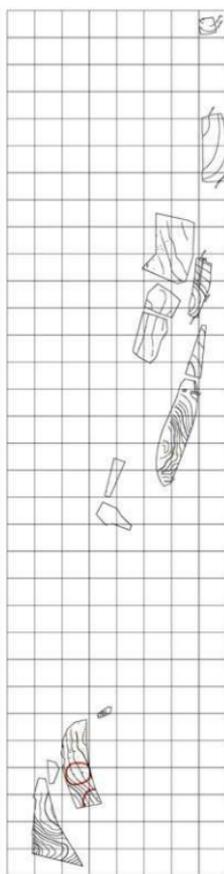
X・XI地区は、石鏃、石錐、縦型の石匙が出土した。395-400は石鏃である。401は石鏃である。402は石匙で縦長の剥片を使用して、上部2カ所に挟りが入る。この地点は、曾根式土器と中期条紋文土器が出土しており、401は曾根式土器、402は中期の条紋文土器出土場所が一致する。



III層

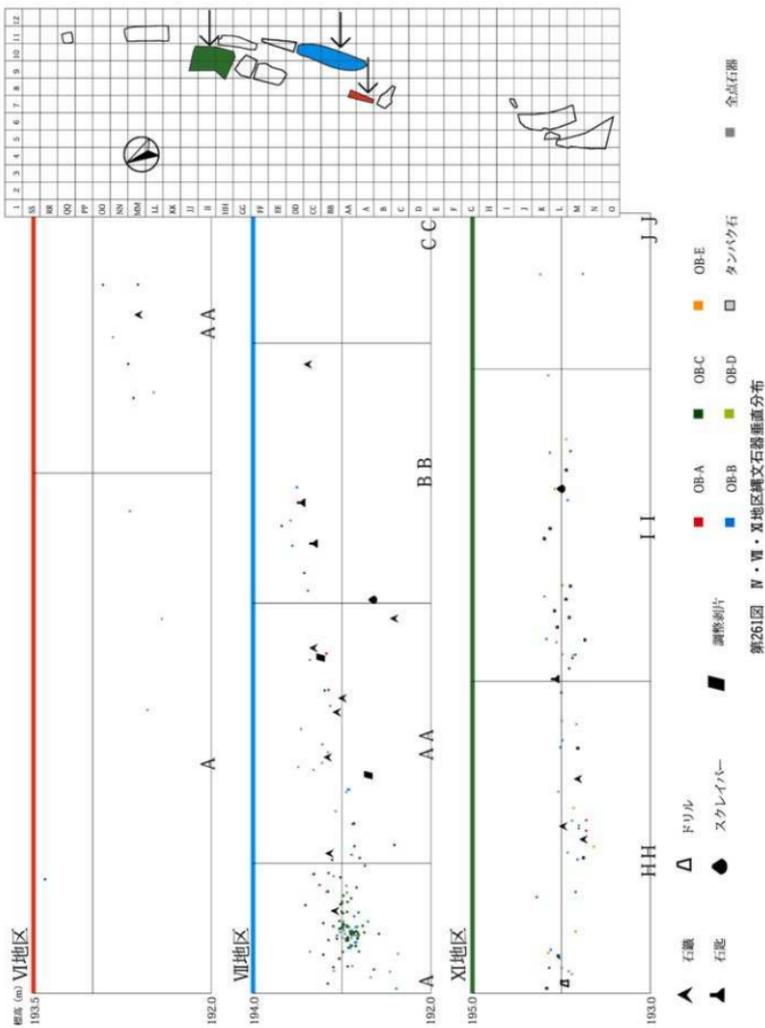


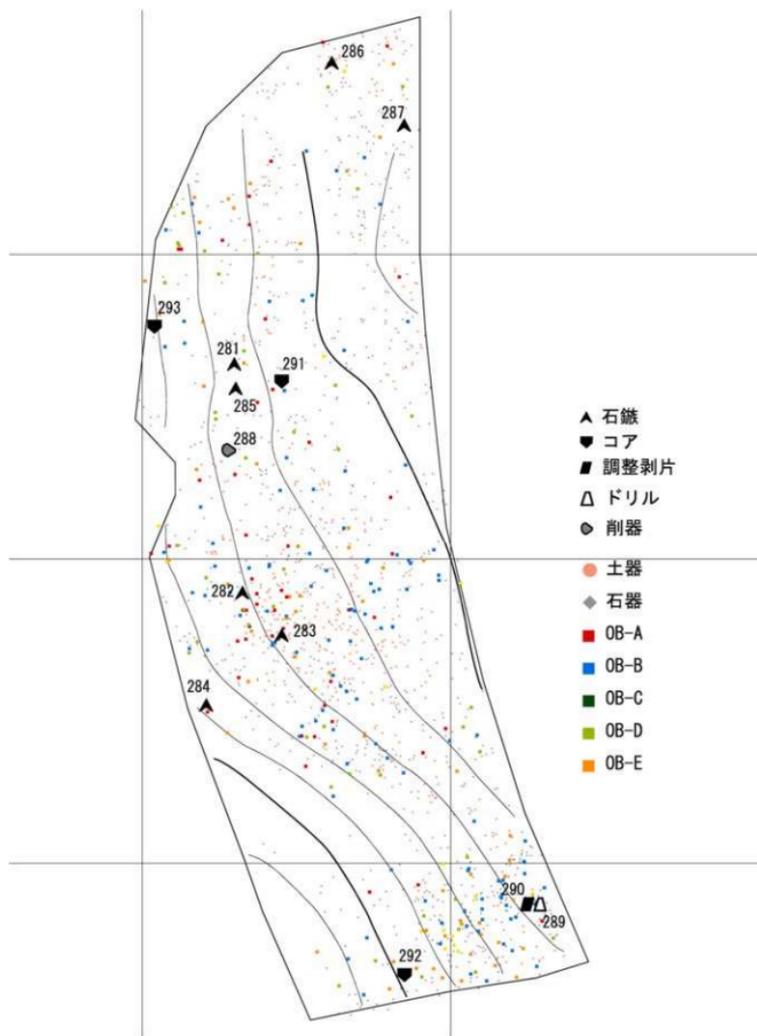
IV層



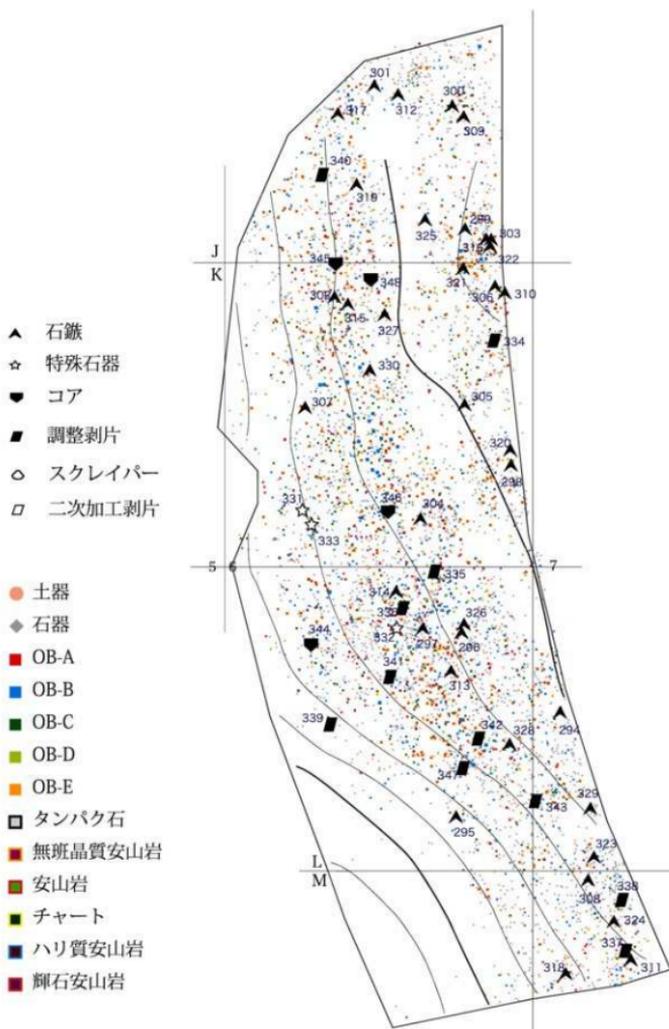
V層

第259図 縄文石器層別ブロック分布図

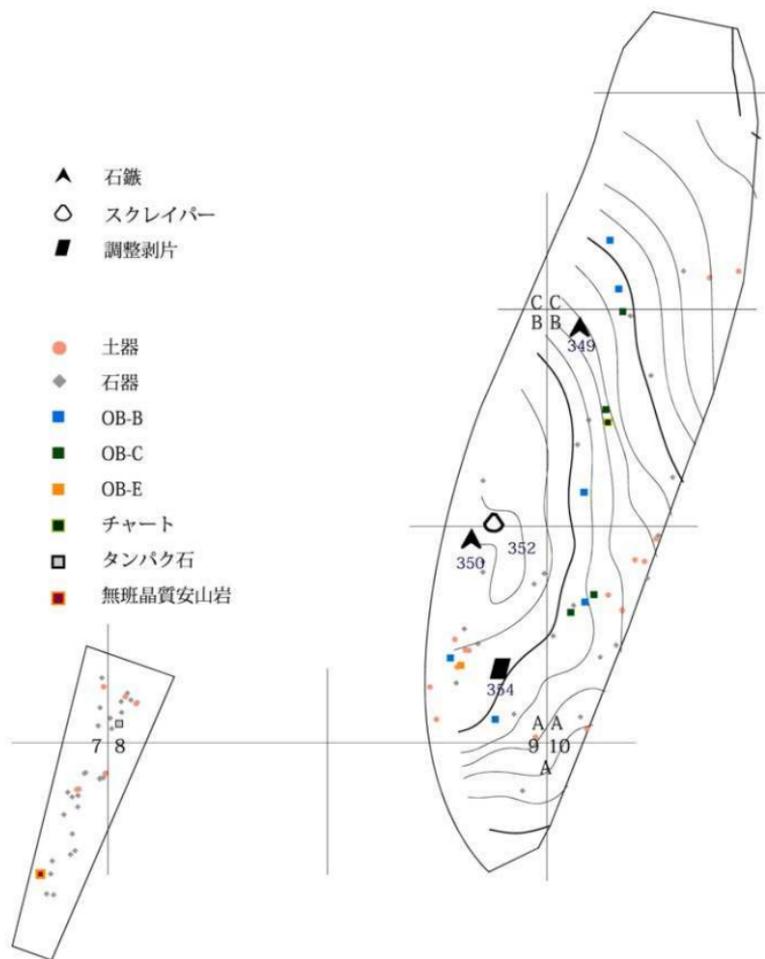




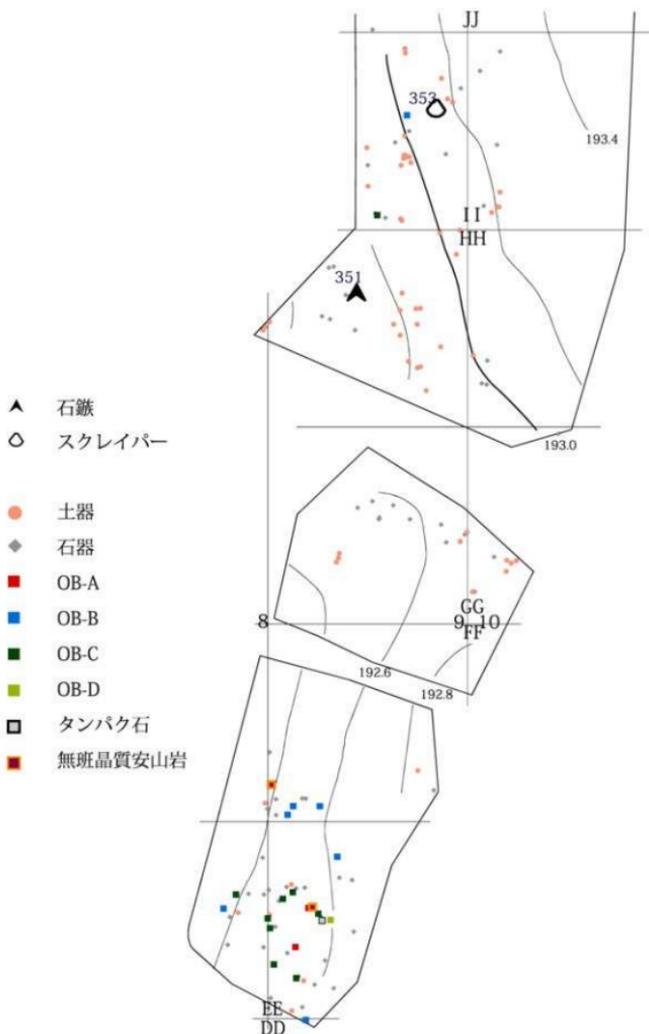
第262図 III地区V層石器出土状況図



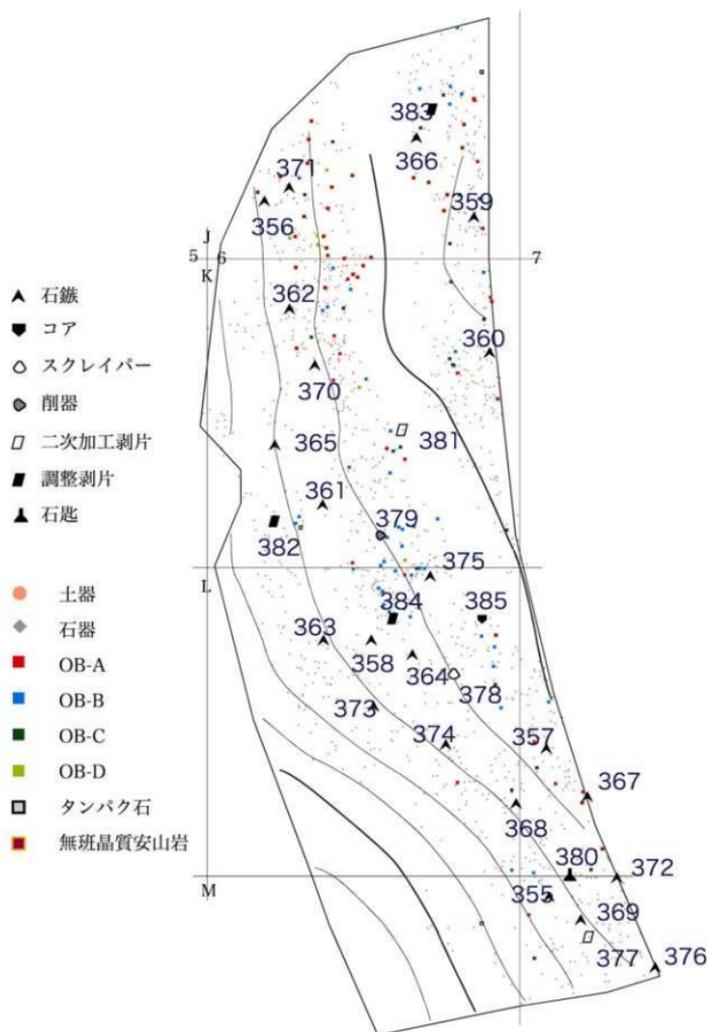
第263図 ■地区Ⅳ層実測石器出土状況図



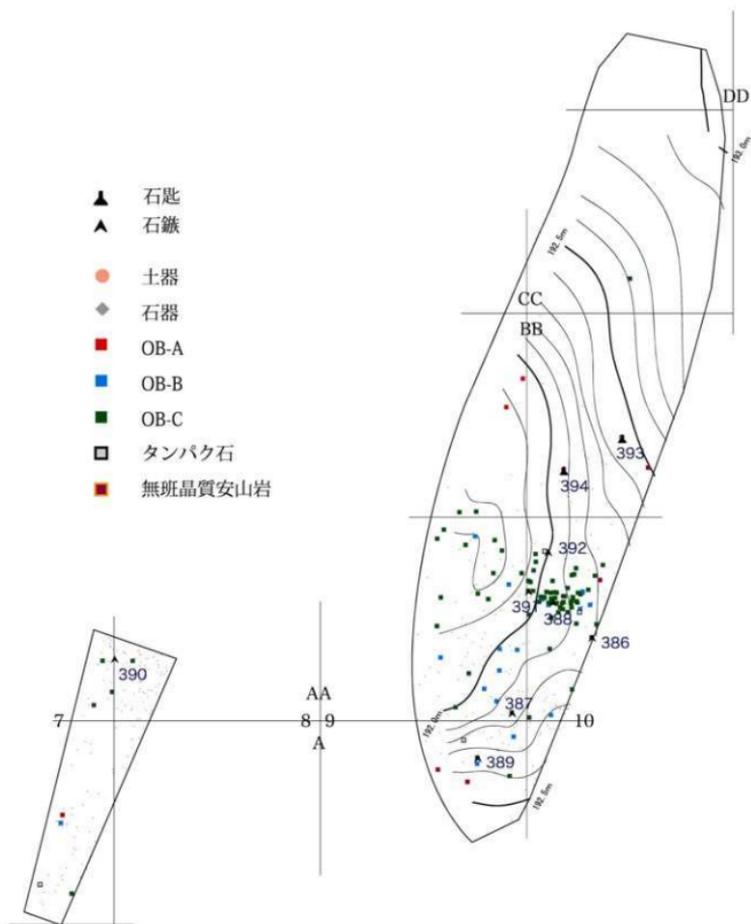
第264図 VI・VII地区IV層実測石器出土状況図



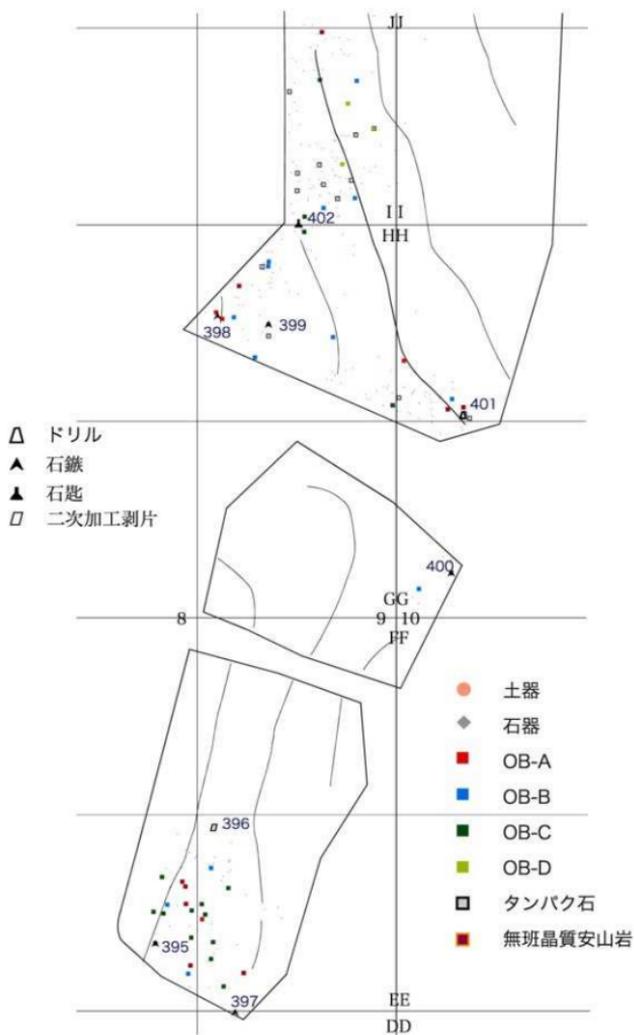
第265図 IX～XI地区IV層実測石器出土状況図



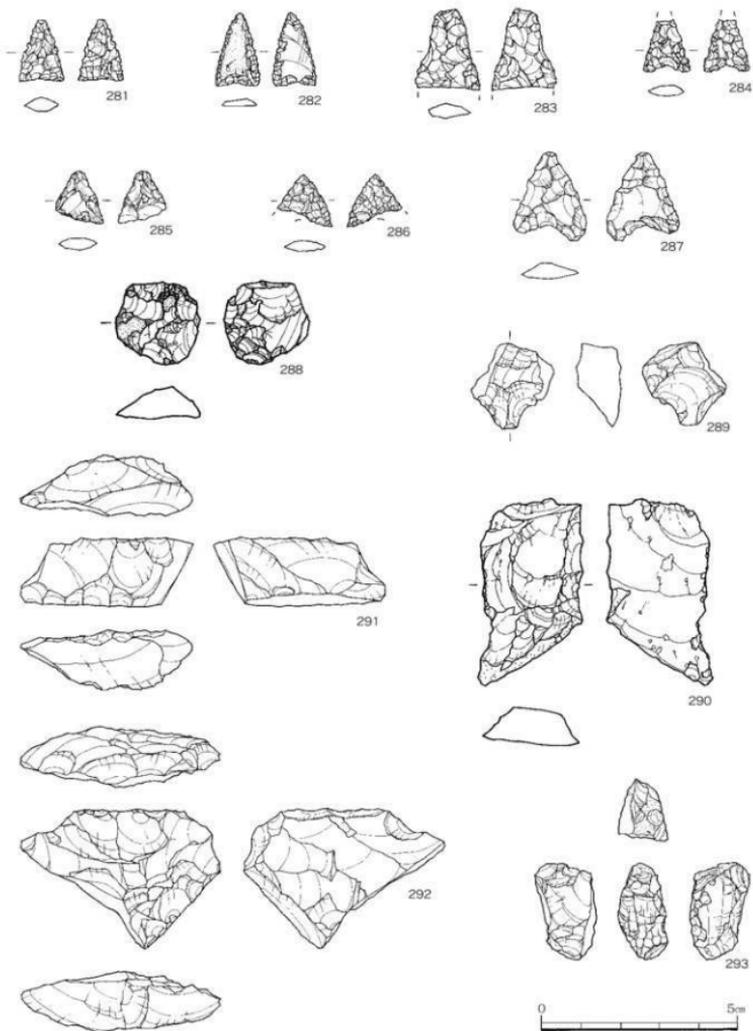
第266図 III地区 III層石器出土状況図



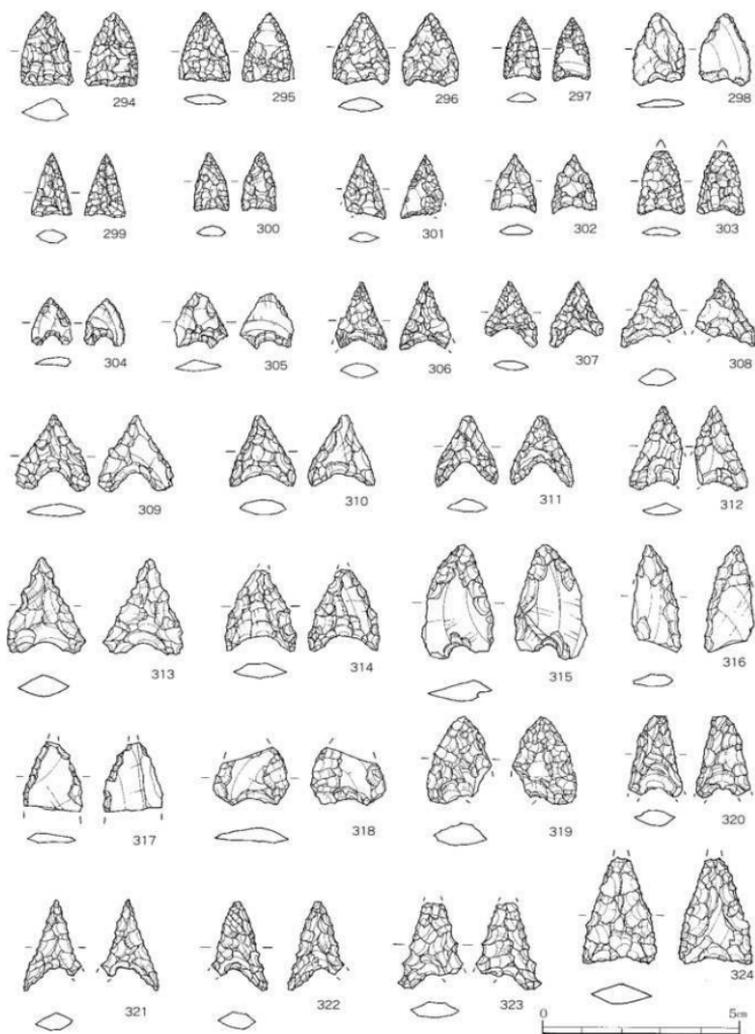
第267図 VI・VII地区III層石器出土状況図



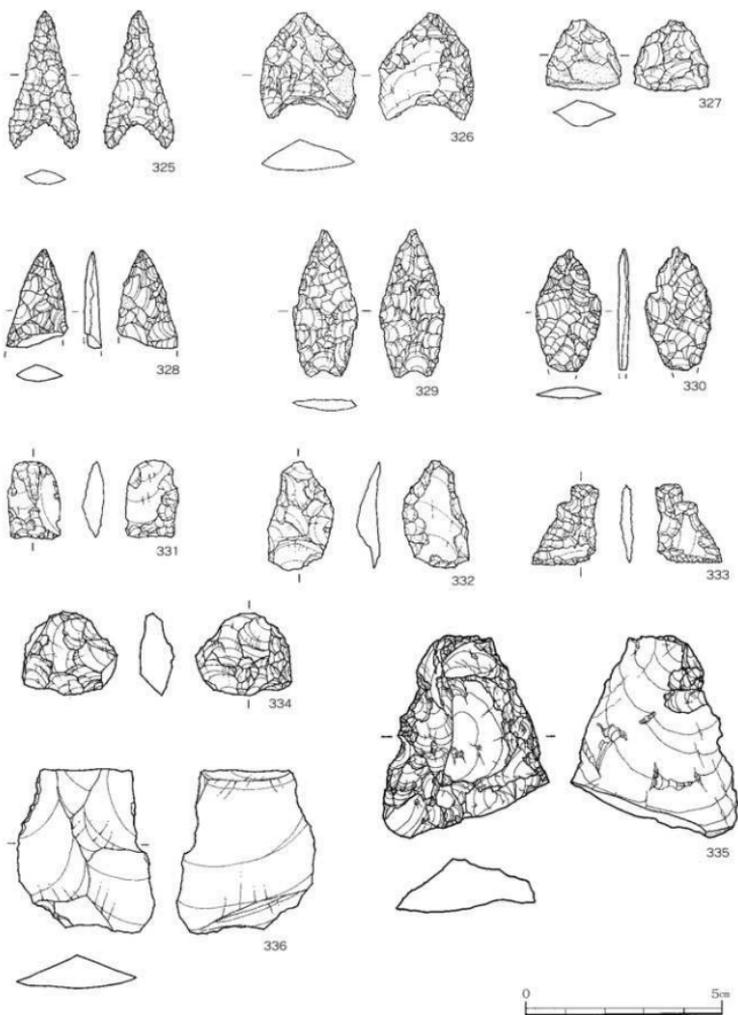
第268図 IX～XI地区Ⅱ層石器出土状況図



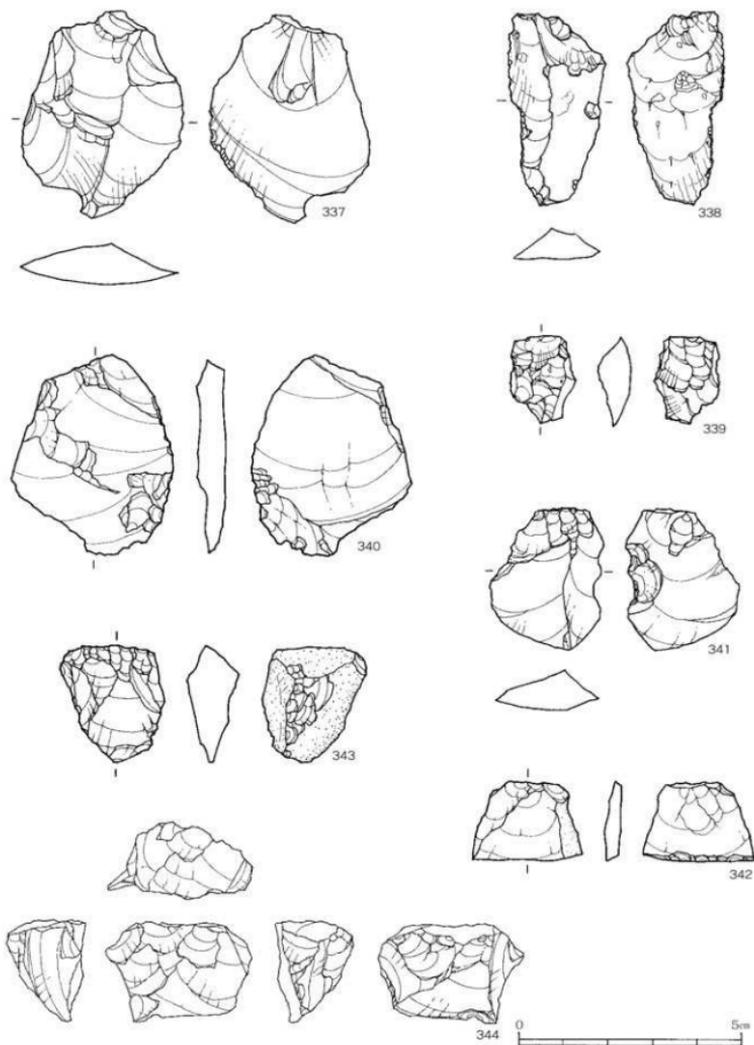
第269图 III地区V层出土石器



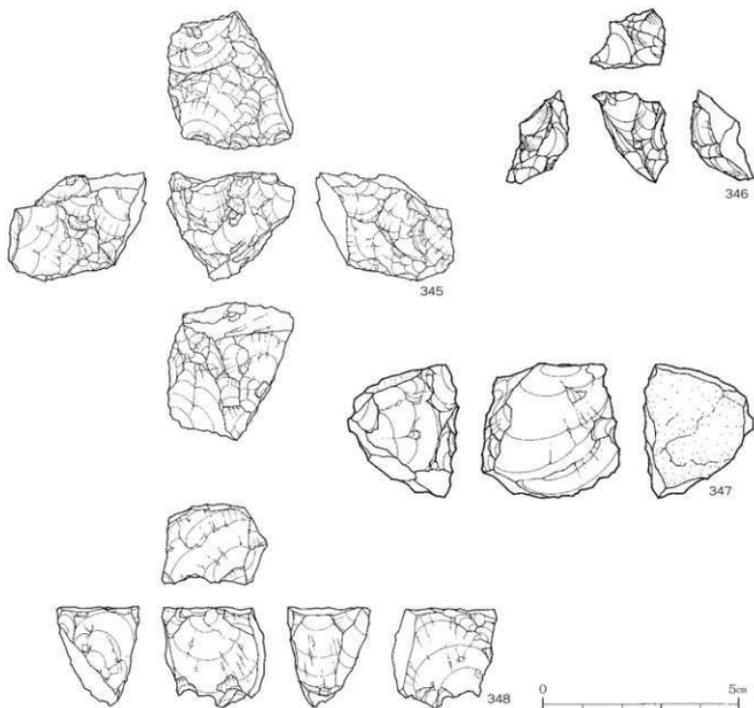
第270图 III地区IV层出土石器(1)



第271图 III地区IV层出土石器(2)



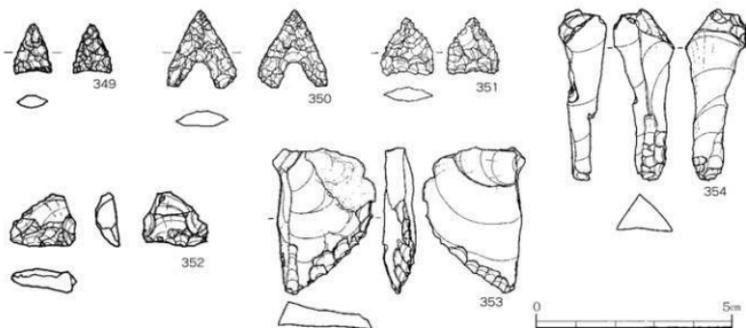
第272图 III地区IV层出土石器(3)



第273図 III地区IV層出土石器(4)

表94 実測石器観察表(1)

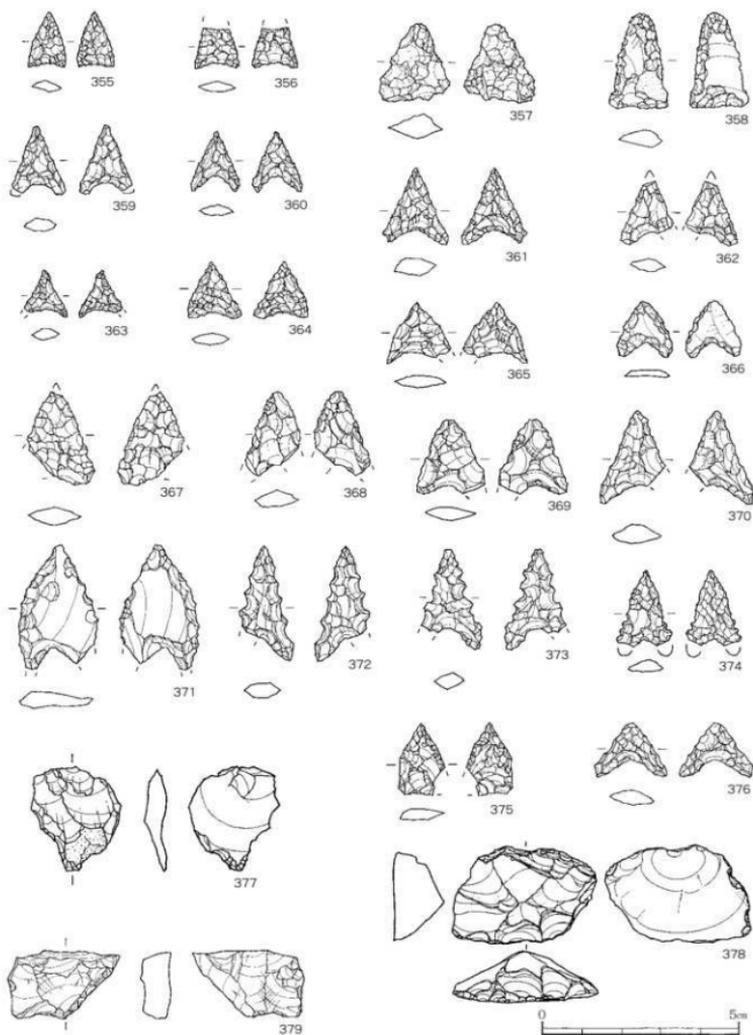
報告No.	器種	取上番号	調査区	出土区	出土層	石材	y	x	z	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	備考
281	石鏃	106061	III区	K-6	V	OB-D	46.424	52.979	195.244	1.40	1.10	0.2	0.32	
282	石鏃	106973	III区	L-6	V	OB-D	38.911	53.242	195.304	1.70	1.00	0.2	0.22	
283	石鏃	107290	III区	L-6	V	埴貫頁岩	37.514	54.516	195.23	1.90	1.45	0.3	0.83	
284	石鏃	108253	III区	L-6	V	OB-B	35.22	52.069	195.488	1.20	1.05	0.25	0.28	
285	石鏃	106461	III区	K-6	V		45.622	53.024	195.241	1.25	1.10	0.3	0.29	
286	石鏃	108333	III区	J-6	V	OB-D	56.32	56.141	194.935	1.10	1.30	0.25	0.21	
287	石鏃	106394	III区	J-6	IV	頁岩	54.269	58.489	194.845	2.05	1.65	0.35	0.90	
288	削刮器	106484	III区	K-6	V		43.568	52.792	195.262	1.90	1.90	0.7	2.54	
289	石鏃	108130	III区	M-7	V	埴床岩	28.655	62.771	195.116	1.95	1.90	1.4	2.71	
290	短長刮片	108032	III区	M-7	V	OB-B	28.654	62.729	195.154	4.30	3.40	0.9	9.26	微細割傷痕跡あり
291	石核	106952	III区	K-6	V	鉄石英	45.827	54.521	195.177	3.10	3.20	2.5	8.64	
292	石核	102136	III区	M-6	V	タンパク石	26.328	58.505	195.975	3.20	4.60	1.3	14.88	
293	細石刃核	107867	III区	K-6	V	OB-A	47.629	50.396	195.409	2.20	1.15	1.3	3.65	



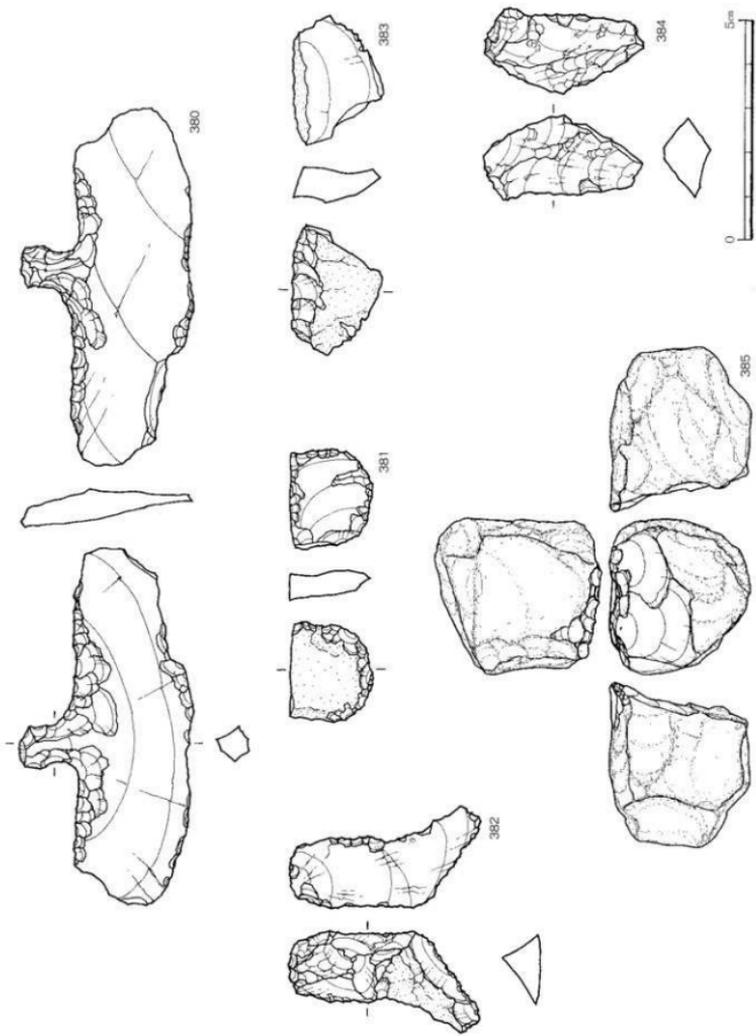
第274図 VII・XI地区N層出土石器

表95 実測石器観察表(2)

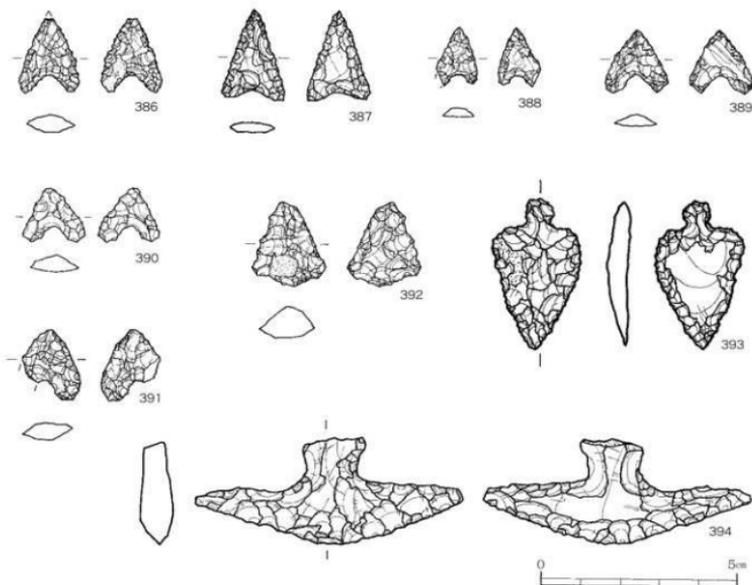
報告No	器種	取上番号	調査区	出土区	出土層	石材	y	x	z	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	備考
294	石鏃	101925	Ⅲ区	L-7	Ⅳ		35.217	60.884	195.335	1.7	1.2	0.5	0.72	
295	石鏃	106908	Ⅲ区	L-6	Ⅳ	OB-D	31.785	57.504	195.572	1.6	1.2	0.2	0.4	
296	石鏃	106988	Ⅲ区	L-6	Ⅳ	Ⅳ横軀	37.835	57.685	195.038	1.63	1.3	0.4	0.58	
297	石鏃	103668	Ⅲ区	L-6	Ⅳ	OB-B	37.975	56.43	195.48	1.45	0.85	0.2	0.21	
298	石鏃	102372	Ⅲ区	K-6	Ⅳ	無珉晶質安山岩	43.345	59.286	195.085	1.65	1.2	0.2	0.43	
299	石鏃	104605	Ⅲ区	J-6	Ⅳ	OB-B	51.109	57.796	195.079	1.45	0.9	0.3	0.27	
300	石鏃	104653	Ⅲ区	J-6	Ⅳ	OB-B	55.155	57.383	195.068	1.35	0.8	0.2	0.23	
301	石鏃	105755	Ⅲ区	J-6	Ⅳ		55.821	54.85	195.115	1.5	1	0.2	0.26	
302	石鏃	103773	Ⅲ区	K-6	Ⅳ	OB-B	48.87	53.559	195.283	1.3	1.05	0.2	0.23	
303	石鏃	102513	Ⅲ区	J-6	Ⅳ	OB-B	50.767	58.644	195.064	1.45	1.05	0.2	0.32	
304	石鏃	105634	Ⅲ区	K-6	Ⅳ	OB-C	41.586	56.351	195.285	1.05	0.9	0.2	0.12	
305	石鏃	104050	Ⅲ区	K-6	Ⅳ	OB-C	45.332	57.782	195.135	1.25	1.2	0.25	0.28	
306	石鏃	107931	Ⅲ区	K-6	Ⅳ	OB-A	49.225	58.769	194.687	1.55	1.15	0.3	0.37	
307	石鏃	101614	Ⅲ区	K-6	Ⅳ	OB-E	45.258	52.606	195.590	1.5	1.2	0.2	0.22	
308	石鏃	102120	Ⅲ区	M-7	Ⅳ	OB-A	29.702	61.792	195.59	1.55	1.4	0.4	0.56	
309	石鏃	101868	Ⅲ区	J-6	Ⅳ	無珉晶質安山岩	54.801	57.751	195.258	1.7	1.7	0.3	0.52	
310	石鏃	101845	Ⅲ区	K-6	Ⅳ	安山岩	49.006	59.087	195.191	1.6	1.5	0.3	0.6	
311	石鏃	102973	Ⅲ区	M-7	Ⅳ	無珉晶質安山岩	27.673	63.182	195.704	1.6	1.4	0.3	0.39	
312	石鏃	101747	Ⅲ区	J-6	Ⅳ	無珉晶質安山岩	55.529	55.62	195.273	1.9	1.2	0.3	0.52	
313	石鏃	102912	Ⅲ区	L-6	Ⅳ	無珉晶質安山岩	36.567	57.341	195.524	2.2	1.8	0.45	1.22	
314	石鏃	102785	Ⅲ区	L-6	Ⅳ	無珉晶質安山岩	39.184	55.557	195.02	1.8	1.6	0.35	0.74	
315	石鏃	103951	Ⅲ区	K-6	Ⅳ	無珉晶質安山岩	48.64	53.991	195.378	2.6	1.65	0.5	1.58	
316	石鏃	101850	Ⅲ区	J-6	Ⅳ	無珉晶質安山岩	50.778	58.483	195.166	2.45	1.1	0.3	0.73	
317	石鏃	101727	Ⅲ区	J-6	Ⅳ	無珉晶質安山岩	54.904	53.666	195.485	1.6	1.35	0.2	0.61	
318	石鏃	102958	Ⅲ区	M-7	Ⅳ	OB-C	26.622	61.065	195.858	1.35	1.7	0.3	0.75	
319	石鏃	105265	Ⅲ区	J-6	Ⅳ	OB-B	52.573	54.275	195.476	2	1.45	0.5	1.21	
320	石鏃	105869	Ⅲ区	K-6	Ⅳ	無珉晶質安山岩	43.845	59.267	195.016	1.83	1.25	0.35	0.75	
321	石鏃	102493	Ⅲ区	K-6	Ⅳ	無珉晶質安山岩	49.81	57.732	195.114	2.1	1.3	0.35	0.47	
322	石鏃	102512	Ⅲ区	J-6	Ⅳ	無珉晶質安山岩	50.335	58.611	195.069	2.05	1.25	0.4	0.63	
323	石鏃	108050	Ⅲ区	L-7	Ⅳ	ハヤ質安山岩	30.46	61.98	195.168	1.95	1.5	0.35	0.81	
324	石鏃	102875	Ⅲ区	M-7	Ⅳ	無珉晶質安山岩	28.34	62.627	195.626	2.4	1.7	0.45	1.44	
325	石鏃	105136	Ⅲ区	J-6	Ⅳ	OB-C	51.411	56.499	195.144	3.2	1.6	0.3	1.19	
326	石鏃	102331	Ⅲ区	L-6	Ⅳ	Ⅳ横軀	38.112	57.761	194.955	2.4	2.2	0.7	2.99	
327	石鏃	102314	Ⅲ区	K-6	Ⅳ	ハヤ質安山岩	48.288	55.188	195.272	1.6	1.7	0.55	1.65	
328	石鏃	104257	Ⅲ区	L-6	Ⅳ	タンバク石	34.17	59.241	195.417	2.24	1.38	0.4	1	
329	石鏃	106115	Ⅲ区	L-7	Ⅳ	Ⅳ横軀	32.056	61.864	195.257	3.35	1.5	0.3	1.43	
330	石鏃	105324	Ⅲ区	K-6	Ⅳ	チーク	46.466	54.704	195.472	2.82	1.46	0.27	1.41	



第275图 ■地区■层出土石器(1)



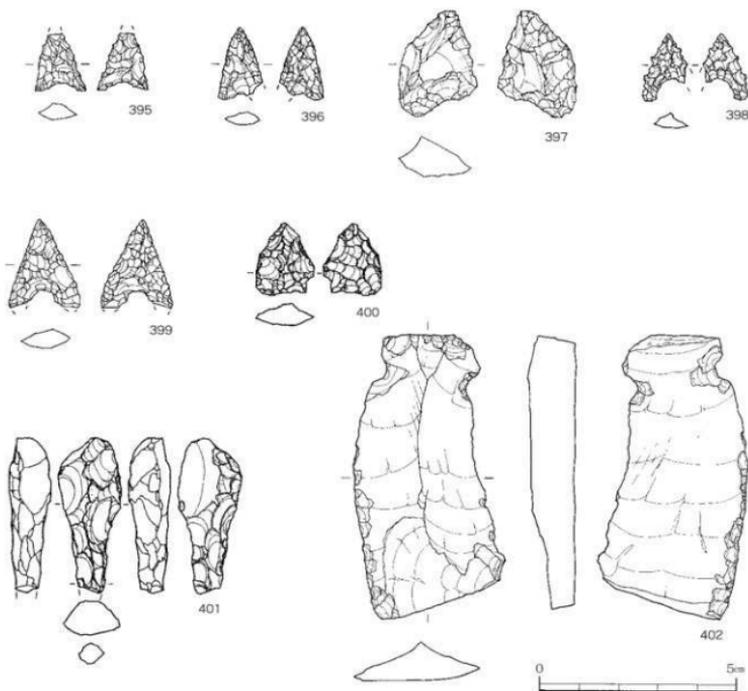
第276图 Ⅲ地区Ⅲ层出土石器(2)



第277図 VI・VII地区Ⅲ層出土石器

表96 縄文石器観察表(3)

報告No	器種	取上番号	調査区	出土区	出土層	石材	y	x	z	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	備考
331	特殊石器	107809	Ⅲ区	K-6	IV層転	OB-B	41.864	52.521	195.273	1.8	1.15	0.5	0.96	
332	特殊石器	105778	Ⅲ区	L-6	IV	無珪晶質安山岩	37.987	55.586	195.303	2.5	1.3	0.5	1.71	
333	特殊石器	105359	Ⅲ区	K-6	IV	OB-B	41.393	52.821	195.684	1.85	1.5	0.3	0.58	
334	二次加工剥片	106352	Ⅲ区	K-6	IV	OB-B	47.441	58.744	194.94	1.9	2.15	0.8	3.45	石髄未成品
335	使用痕剥片	107399	Ⅲ区	L-6	IV		39.847	56.809	195.248	4.65	4.08	1.51	20.25	二次加工剥片
336	使用痕剥片	107753	Ⅲ区	L-6	IV層転	硬砂岩	38.644	55.774	194.973	3.75	3.15	0.8	8.99	
337	使用痕剥片	102863	Ⅲ区	M-7	IV	硬質頁岩	27.373	63.013	195.613	4.8	3.7	0.9	15.61	微細網膜剥片
338	使用痕剥片	104764	Ⅲ区	M-7	IV	OB-B	29.048	62.896	195.487	4.4	2.2	0.8	6.24	微細網膜剥片
339	使用痕剥片	106659	Ⅲ区	L-6	IV	OB-B	34.818	53.429	195.616	2	1.5	0.75	2.31	
340	使用痕剥片	103161	Ⅲ区	J-6	IV	OB-A	52.888	53.164	195.495	4.63	3.65	0.7	11.81	二次加工剥片
341	使用痕剥片	107324	Ⅲ区	L-6	IV		36.63	54.394	195.549	3.25	2.6	0.9	6.82	
342	撻器	106136	Ⅲ区	L-7	IV		39.198	60.324	195.398	1.8	2.5	0.4	2.31	二次加工剥片
343	楔形石器	105513	Ⅲ区	L-7	IV	OB-B	32.298	60.09	195.416	2.7	2.3	1.2	5.46	二次加工剥片
344	石核	103830	Ⅲ区	L-6	IV	タンバク石	37.425	52.802	195.59	2.3	3.3	1.8	11.75	
345	石核	102328	Ⅲ区	K-6	IV	OB-B	49.949	53.604	195.459	2.1	1.7	1.4	11.75	
346	石核	105642	Ⅲ区	K-6	IV	OB-B	41.798	55.304	195.3	2.5	2.9	3.15	18.98	
347	石核	106961	Ⅲ区	L-6	IV	OB-B	33.384	57.377	195.367	3.1	3.2	2.5	27.15	剥片
348	石核	101656	Ⅲ区	K-6	IV	OB-B	49.429	54.743	195.438	2.3	2.4	1.9	10.73	
349	石髄	500702	V区	X-35	IV	OB-B	169.182	91.323	183.283	1.15	0.9	0.3	0.21	
350	石髄	500731	V区	Z-35	IV	OB-A	159.809	86.582	192.111	1.8	1.35	0.4	0.57	
351	石髄	116227	Ⅱ区	C-10	IV	タンバク石	226.868	84.432	193.313	1.3	1.2	0.3	0.38	
352	撻器	500702	V区	Y-36	IV		160.121	87.621	192.651	1.2	1.5	0.6	0.79	スケレイバー
353	撻器	116972	Ⅱ区	C-11	IV		236.166	88.433	194.004	3.4	2.35	0.75	5.44	スケレイバー
354	調整剥片	500711	V区	Z-36	IV		153.393	87.907	192.702	3.95	1.4	1.1	2.81	



第278図 X・XI地区Ⅲ層出土石器

表97 実測石器観察表(4)

報告No	器種	取上番号	調査区	出土区	出土層	石材	y	x	z	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	備考
355	石鏃	100529	Ⅲ区	M-7	Ⅲ a	OB-B	29.338	60.931	195.725	1.25	0.85	0.2	0.2	
356	石鏃	100826	Ⅲ区	J-6	Ⅲ	OB-B	51.876	51.823	195.637	0.9	1	0.25	0.21	
357	石鏃	100167	Ⅲ区	L-7	Ⅲ a	OB-B	34.139	60.843	195.522	1.8	1.6	0.55	1.29	
358	石鏃	100276	Ⅲ区	L-6	Ⅲ a	OB-E	37.654	55.244	195.702	2.2	1.3	0.4	0.81	
359	石鏃	100663	Ⅲ区	J-6	Ⅲ	無珉晶質安山岩	51.355	58.327	195.361	1.6	1.2	0.3	0.35	
360	石鏃	101186	Ⅲ区	K-6	Ⅲ	OB-C	46.969	59.027	195.2	1.4	1.1	0.25	0.22	
361	石鏃	100328	Ⅲ区	K-6	Ⅲ a	OB-A	42.04	53.684	195.738	1.8	1.5	0.35	0.65	
362	石鏃	101032	Ⅲ区	K-6	Ⅲ	無珉晶質安山岩	48.382	52.625	195.637	1.45	1.2	0.3	0.33	
363	石鏃	100247	Ⅲ区	L-6	Ⅲ a	チャート	37.651	53.713	195.703	1.1	0.95	0.2	0.14	
364	石鏃	100442	Ⅲ区	L-6	Ⅲ a	OB-E	37.182	56.557	195.661	1.3	1.2	0.2	0.34	
365	石鏃	100353	Ⅲ区	K-6	Ⅲ a	チャート	43.975	52.155	195.68	1.4	1.5	0.25	0.34	
366	石鏃	101302	Ⅲ区	J-6	Ⅲ	無珉晶質安山岩	53.929	56.689	195.297	1.3	1.3	0.2	0.25	
367	石鏃	100125	Ⅲ区	L-7	Ⅲ a	OB-A	32.578	62.155	195.397	2.15	1.5	0.4	0.97	
368	石鏃	100143	Ⅲ区	L-6	Ⅲ a	無珉晶質安山岩	32.356	59.876	195.727	1.95	1.25	0.4	0.75	
369	石鏃	100044	Ⅲ区	M-7	Ⅲ a	OB-C	28.593	61.943	195.772	1.7	1.6	0.3	0.64	

表98 実測石器観察表(5)

報告No	器種	取上番号	調査区	出土区	出土層	石材	y	x	z	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	備考
370	石鏃	100428	III区	K-6	III a	ハリ質安山岩	46.561	53.438	195.674	2.15	1.5	0.4	0.82	
371	石鏃	100833	III区	J-6	III	無珉晶質安山岩	52.314	52.618	195.661	2.85	1.8	0.4	1.79	
372	石鏃	100952	III区	M-7	III a	安山岩	29.951	63.103	195.687	2.6	1.3	0.35	0.57	
373	石鏃	100297	III区	L-6	III a	OB-C	35.593	55.216	195.717	2.3	1.4	0.3	0.74	
374	石鏃	100473	III区	L-6	III a	OB-C	34.265	57.626	195.688	1.75	1.3	0.3	0.41	
375	石鏃	106585	III区	L-6	IV噴飯	OB-A	39.723	57.128	195.187	1.65	1.05	0.25	0.43	
376	石鏃	100001	III区	M-7	III a	無珉晶質安山岩	27.047	64.327	195.867	1.25	1.7	0.35	0.39	
377	石鏃	100943	III区	M-7	III a	OB-A	28.031	62.22	195.762	2.4	2.05	0.5	2.06	二次加工剥片
378	スクレイパー	100436	III区	L-6	III a		36.566	57.893	195.589	2.3	3.3	1.25	6.95	
379	刮削	100721	III区	K-6	III	OB-B	41.042	55.553	195.572	1.55	2.35	0.8	2.54	二次加工剥片
380	石鏃	100110	III区	L-7	III a	無珉晶質安山岩	30.052	61.61	195.727	4	8.25	0.9	16.18	
381	使用痕剥片	100408	III区	K-6	III a	OB-A	44.46	56.257	195.146	1.9	2.3	0.7	3.22	二次加工剥片
382	使用痕剥片	105617	III区	K-6	III噴飯	OB-A	41.499	52.141	195.446	4.4	2.4	0.85	5.88	濃縮剥離剥片
383	使用痕剥片	101318	III区	J-6	III	頁岩	54.847	57.185	195.35	2.1	3	0.85	4.12	
384	使用痕剥片	100267	III区	L-6	III a	OB-B	38.344	55.93	195.652	3.6	1.95	1.1	5.37	
385	石核	100884	III区	L-6	III	OB-C	38.325	58.792	195.406	3.2	3.6	3.8	50.81	
386	石鏃	500062	VIII区	Z-36	III	OB-C	154.073	93.174	193.16	1.7	1.35	0.4	0.58	
387	石鏃	500070	VIII区	Z-36	III	OB-A	150.377	89.305	193.14	2.1	1.4	0.25	0.42	
388	石鏃	500513	VIII区	Y-36	III	頁岩	155.805	91.286	193.057	1.35	0.95	0.2	0.17	
389	石鏃	500419	VIII区	Z-36	III	硬質頁岩	148.165	87.641	193.076	1.45	1.45	0.25	0.32	
390	石鏃	108505	VIII区	C-3	III	鉄石美	153.043	70.028	192.614	1.2	1.45	0.3	0.38	
391	石鏃	500516	VIII区	Y-36	III	OB-A	156.347	90.1	192.994	1.6	1.35	0.4	0.57	
392	石鏃	500042	VIII区	Y-36	III	頁岩	158.275	91.05	193.32	1.95	1.65	0.7	1.59	
393	石鏃	500034	VIII区	Y-36	III	頁岩	163.867	94.639	193.46	2.45	2.05	0.6	2.06	
394	石鏃	500037	VIII区	Y-36	III	頁岩	162.294	91.817	193.32	2.45	6.05	0.75	5.7	
395	石鏃	105968	IX区	C-7	III	OB-C	193.442	77.893	193.546	1.3	1.15	0.35	0.42	
396	石鏃	105964	IX区	C-7	III		199.334	80.836	193.531	2.4	1.8	0.9	2.88	二次加工剥片
397	石鏃	105669	IX区	C-7	IV		189.934	81.899	193.638	1.6	1	0.35	0.39	
398	石鏃	116121	沢	D-10	III a	OB-E	225.35	81.017	193.98	1.5	1.05	0.35	0.25	
399	石鏃	116283	沢	C-10	III a	OB-B	224.931	83.58	193.751	2	1.7	0.4	0.84	
400	石鏃	117397	X区	B-9	III a	OB-C	212.278	92.757	193.691	1.7	1.3	0.5	0.86	
401	石鏃	116323	沢	B-10	III a		220.318	93.353	193.965	3.6	1.45	0.95	3.99	二次加工剥片
402	石鏃	116904	沢	-	III a	ハリ質安山岩	230.07	85.102	194.07	6.55	3.5	1.1	20.46	

第5章 I層の調査

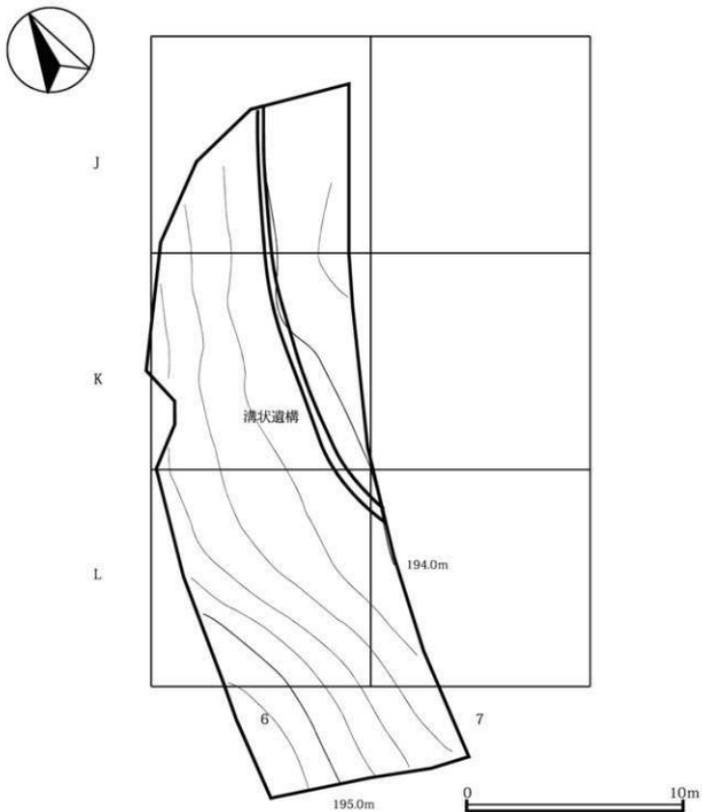
第1節 概要

南側は、II層より上はほとんど削平を受けている。III層面でII層を埋土とする溝状遺構を1条検出した。

第2節 遺構（南側）

1号溝状遺構

1号溝状遺構は、J～L・6・7区のIII層で検出された。幅は40～50cmで、埋土は、II層の黒色土である。ほぼ南北に走り、両端は調査区外へ伸びている。



第279図 I層溝状遺構

VII 御仮屋跡遺跡の調査

第1章 概要

御仮屋跡遺跡は近世の御仮屋が所在した場所で、その最頂部に山神の祠があり、その周辺は雑木林となっている。祠周辺を中心に遺跡北側800mと南側1,000mの合計約1,800mを対象として全面調査を実施した。重機で表土を除去し、それ以下の各文化層の確認を実施したが視認箇所が著しく、VI層薩摩火山灰までを重機により除去することとし、VII層以下の旧石器時代の調査に当たることとした。

VII層では細石刃文化期の遺物が出土し、北区VII層からはナイフ形石器文化期の石器群、南区VII層からは5基の礫群とナイフ形石器文化期の石器群が出土した。また、南側の調査区の北東から南西にかけて、VIII層下に土石流の痕跡が認められ、その下層に大隅降下軽石層が良好に残存していた。これらを重機で除去した後、人力で掘り下げたところA7火山灰下位からナイフ形石器を含む石器群が出土している。

第2章 遺構（礫群）

第1節 概要

南区のVII層から5基の礫群を検出した。判定については掘り込み遺構の有無に関わらず、礫の集合が認識できたものを1礫群と認定した。なお、礫群の形態については仁田尾遺跡の類型化にならっている。類型化については以下の通りである。

- I類礫群 人為的掘り込み遺構を伴う礫群で、礫の詰まり方でさらにA、B、Cに細分した。
- I A類 掘り込み遺構を伴い、礫がしっかりと詰まっている。
- I B類 掘り込み遺構を伴い、礫が少ない。
- I C類 掘り込み遺構を伴い、礫は0～数個。
- II類礫群 掘り込み遺構を検出できないが、礫の残存形状から掘り込み遺構が想定できる。
- III類礫群 礫の集中もない礫群で、礫の密粗でさらにA、Bに細分した。
- III A類 礫の中心が想定できる。
- III B類 散乱状態。

第2節 礫群

1号礫群（第281図）
U-59区で検出した礫群で掘り込み遺構はなし。134cm×106cmの範囲に89個の礫を確認した。被熱している礫は全体の45パーセント前後である。礫群を取り巻くように炭化物の広がりが見られ、礫の集中が見られる2ヶ所は特に炭化物の汚染が強い。（II類）

2号礫群（第281図）

U-59区で検出した礫群で掘り込み遺構はなし。173cm×66cmの範囲に37個の礫を確認した。被熱している礫は全体の86パーセント前後のやや高い。礫群を取り巻くように炭化物の広がりが見られる。（III A類）

3号礫群（第282図）

U-59区の2号礫群に隣接して検出した礫群で掘り込み遺構はなし。61cm×56cmの範囲に17個の礫を確認した。被熱している礫は全体の88パーセントとかなり高い。礫の集中部と大礫の周囲2ヶ所に炭化物の広がりが見られる。礫の重なりよりもし込みが広く観察され、炭化物も多いことから2号礫群の本体の可能性も考えられる。（I B類）

4号礫群（第282図）

U-59区で検出した礫群で1号礫群と2号・3号礫群のほぼ中間に位置する。掘り込み遺構はなし。58cm×34cmの範囲に6個の礫を確認した。被熱している礫は2個でいずれも凝灰岩である。礫群の規模から見ると炭化物の範囲が広く感じる。（III A類）

5号礫群（第282図）

U-59区で検出した礫群で2号礫群に隣接する。掘り込み遺構はなし。34cm×28cmの範囲に6個の礫を確認した。礫はすべて被熱している。東西方向に炭化物の範囲が広がる。（III A類）

第3章 遺物

第1節 北区の調査

1 石器群の概要

北区は南側に向かって傾斜がきつく、層堆積状況が悪いため、VII層、VIII層に細石刃やナイフ形石器文化期の遺物が混在している状況である。そのため、各層への石器の帰属の認定が困難であり、VII層、VIII層一緒に取り扱ひ、遺物の分類を通して時期設定を行うという作業となる。

2 VII層～VIII層の遺物

ナイフ形石器文化期の遺物

1は安山岩製の剥片尖頭器である。先細りの縦長剥片の基部に於けるような二次加工が施されている。背面の稜上には厚みを減じる調整がみられる。左側縁は鋸歯状に二次加工が施され、スクレイパーに転用している可能性がある。2はOB-A製の三稜尖頭器である。横割ぎの剥片を素材とし、周縁に粗めの二次加工を施している。軽い稜上調整がみられる。3はOB-A製の切り出し状のナイフ形石器である。先端部と基部が欠損している。4は瑪瑙製のナイフ形石器である。縦長剥片を素材とし、刃部は礫皮面を取り込む形で設定されており、先端部は欠損している。5はOB-E製のナイフ形石器である。厚手



第280図 調査区と周辺地形図

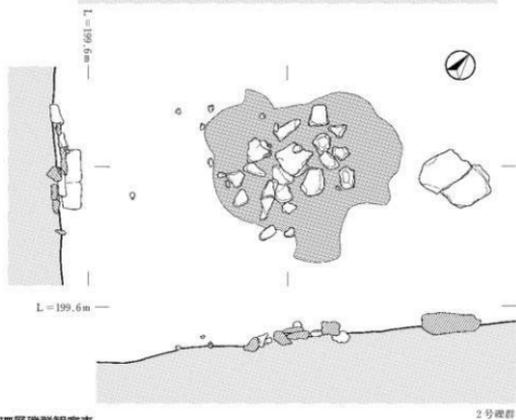
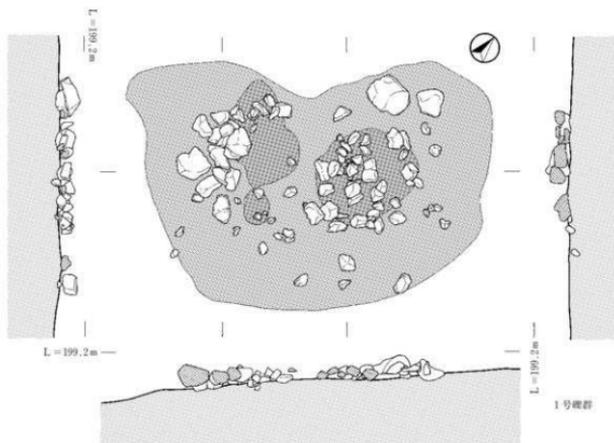
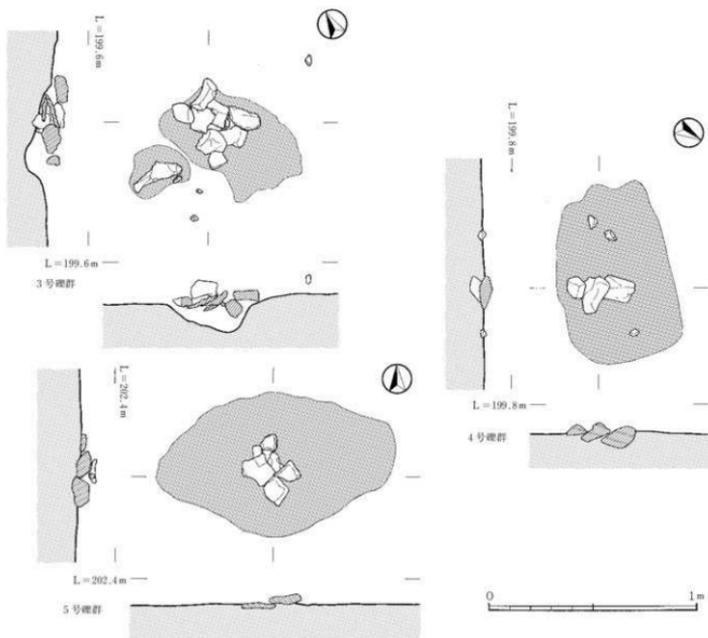


表99 Ⅷ層礫群観察表

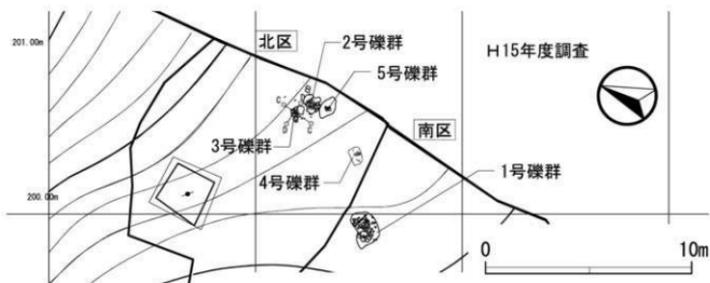
報告書 No.	検出 No.	類型	総斜数	大きさ			構成			備考
				長径 (cm)	短径 (cm)	総重量 (g)	重量百分 (%)	粗率 (%)		
1	281	II	89	134	106	23170	260.33	44.94	H15-1	
2	281	ⅢA	37	173	66	15706	424.48	86.48	H15-2	
3	282	I B	17	61	56	12239	719.94	88.23	H15-3	
4	282	ⅢA	6	58	34	3870	645	33.33	H15-4	
5	282	ⅢA	6	34	28	3030	505	100	H15-5	

0 1m

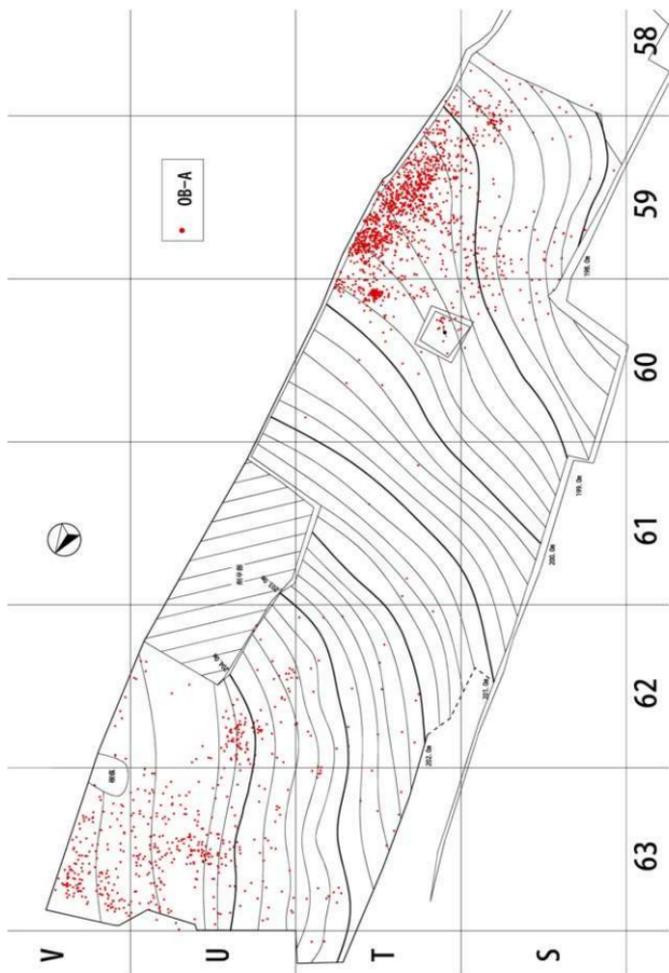
第281図 南区Ⅷ層遺構実測図(1)



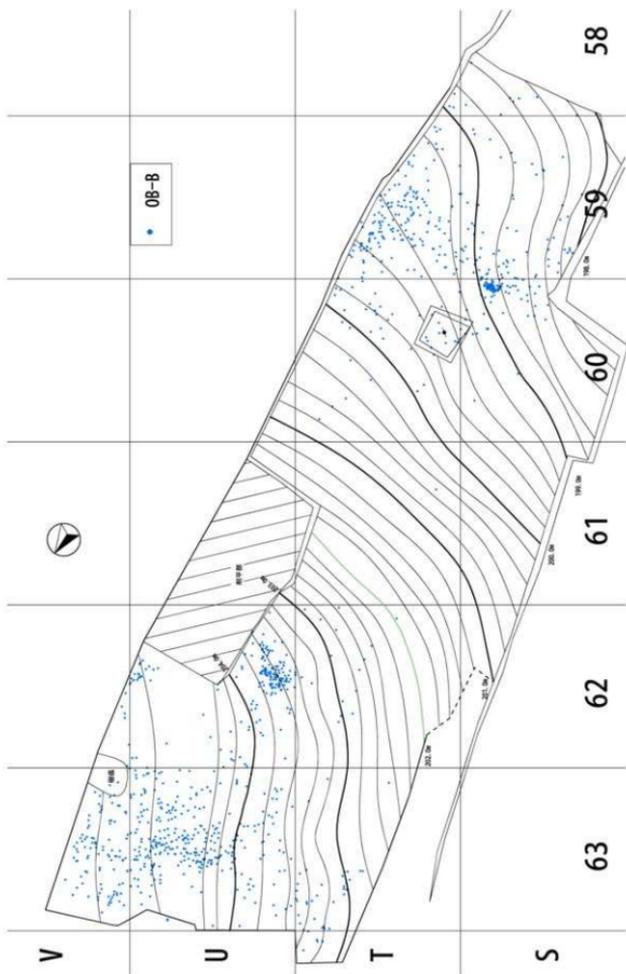
第282図 南区Ⅷ層遺構実測図(2)



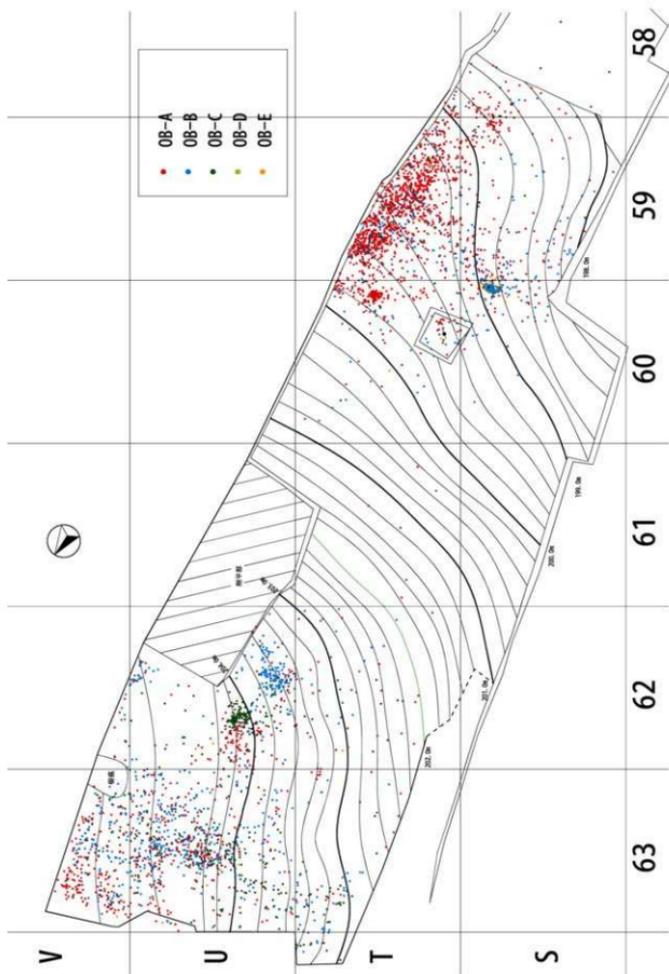
第283図 南区Ⅷ層遺構配置図



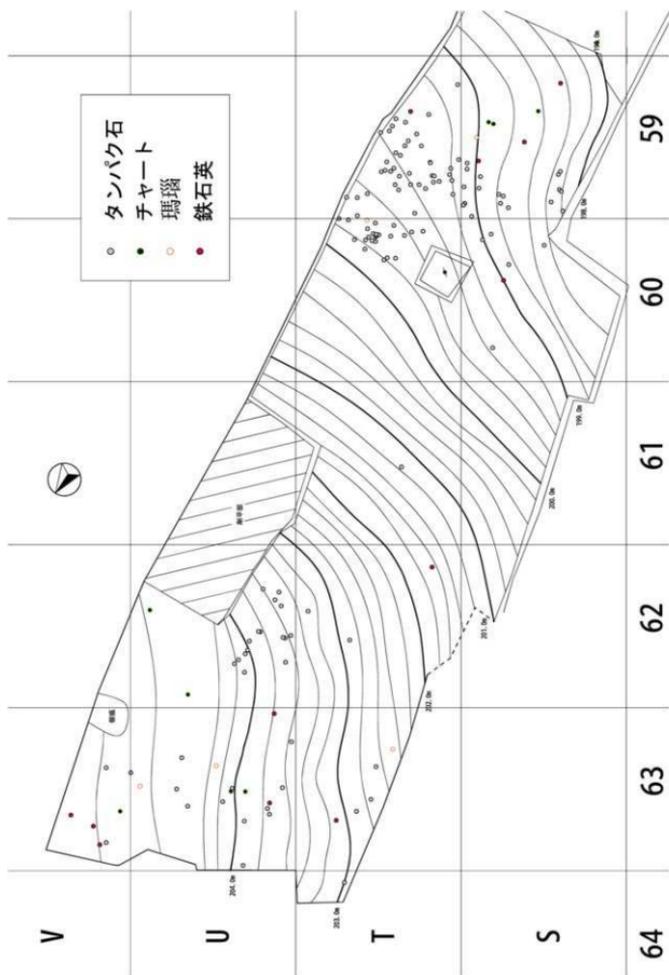
第284图 北区Ⅵ·Ⅴ层OB-A分布图



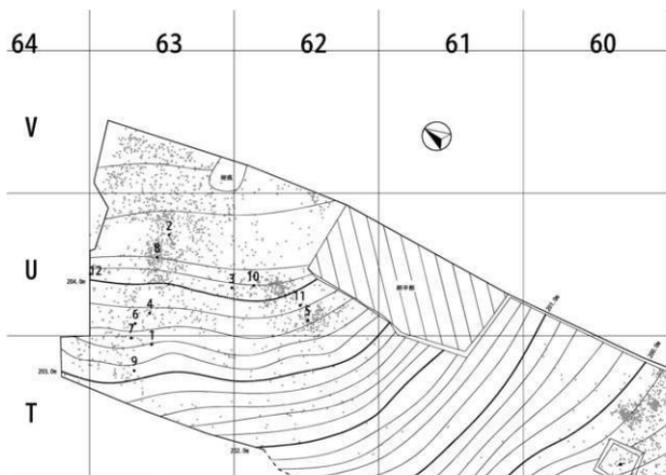
第285图 北区Ⅷ·Ⅷ属O B - B分布图



第286团 北区Ⅳ·Ⅴ层石村别分布图(1)



第287図 北区画・重層石材別分布図(2)

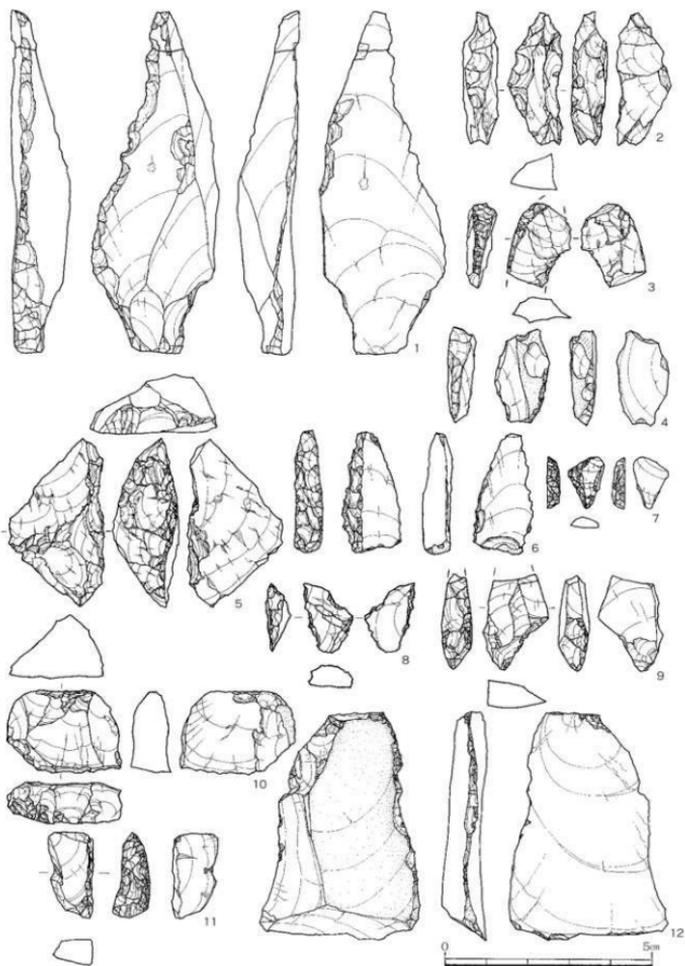


第288図 北区Ⅵ・Ⅶ層実測遺物出土状況図(1)

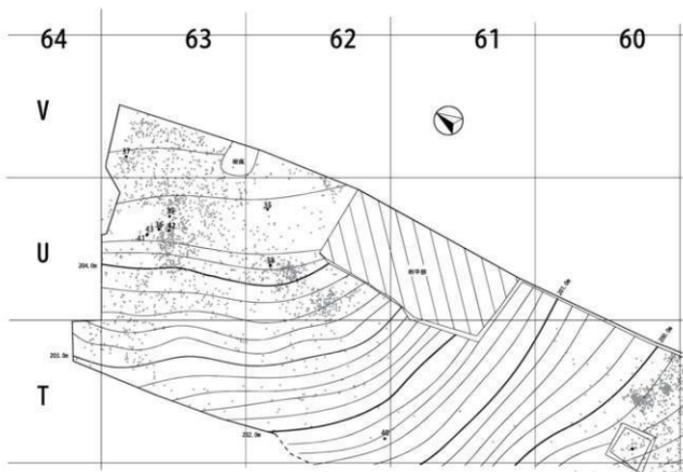
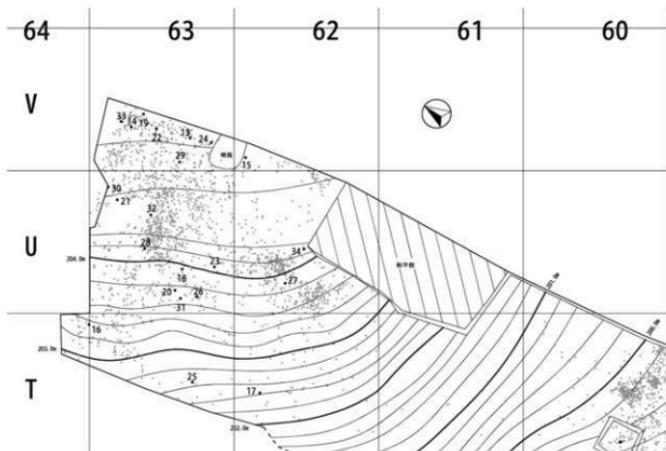
の素材の一側縁に急角度のブランティングを施している。6は珪質頁岩製のナイフ形石器である。縦長の素材の一側縁に表・背面両側からのブランティングを施している。7は小型ナイフ形石器と判断したもので、細かい整形剥離が観察される。8はOB-A製のナイフ形石器である。小型の素材の二側縁に二次加工を施し、切り出し状に整形している。9は瑪瑙製のナイフ形石器である。素材剥片を縦位に利用し、左側縁に腹・背両面からのブランティングを、右側縁に腹面からの抉り状のブランティングを施し、切り出し状に整形している。先端部は欠損している。10はOB-A製の搔器である。寸詰まり剥片の端部に急角度の二次加工により刃部を形成している。打面側にも細かい二次加工がみられる。刃部には微細剥離が観察される。11はOB-C製のナイフ形石器である。不定形剥片の一側縁に腹・背両面からのブランティングを施している。12は凝灰岩質頁岩製の二次加工剥片である。

細石器文化期の遺物

13はOB-C製である。石核調整のほとんど施されない小型の残核で、打面調整がみられる。14はOB-A製である。小型の角礫を素材とし、ほとんど石核調整を施すことなく打面調整後、細石刃を剥出している。15はOB-A製である。小型の礫を素材とし、石核調整をほとんど施さず、打面調整を施しながら細石刃を剥出している。16はOB-B製である。尾縁に調整がみられる。17はOB-C製である。背面は自然面で簡易な調整がみられ、背面から左側縁にも調整がみられる。18はOB-B製である。背面から側縁への調整により下端が尖るように整形されている。打面調整がみられる。19はOB-A製である。打面は傾斜し、作業面と平行に近く、扁平である。打面調整がみられる。20はOB-B製である。主剥離面を打面とし、打面調整を施しながら細石刃を剥出している。作業面が一部欠損している。21はOB-A製である。打面調整を施しながら細石刃を剥出している。背面は横方向への



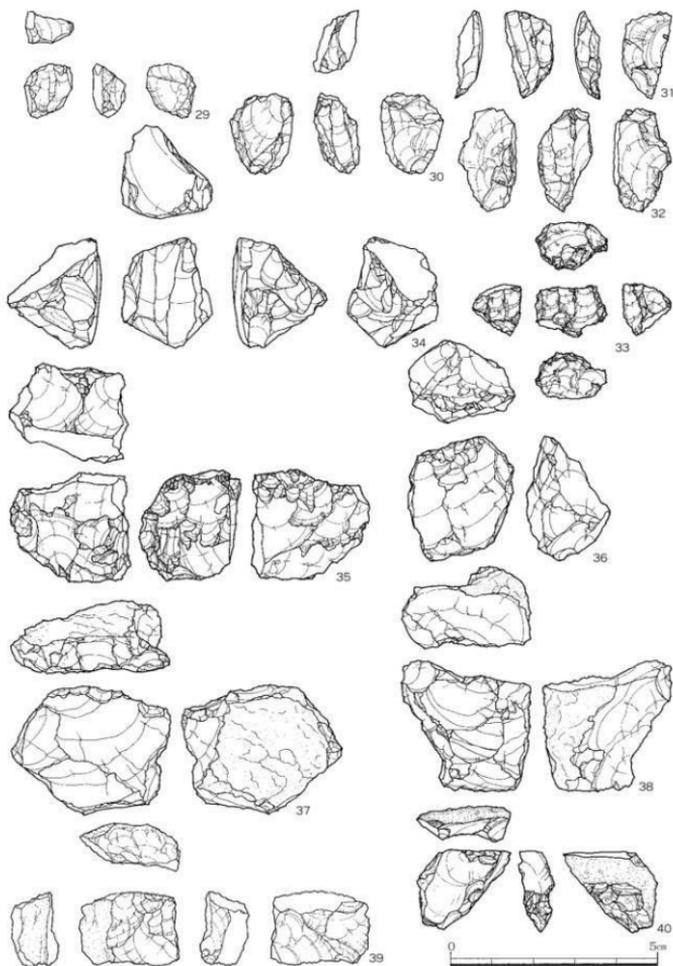
第289图 北区Ⅵ·Ⅶ层出土石器(1)



第290图 北区Ⅴ·Ⅶ层实测遺物出土状況图(2)



第291图 北区Ⅵ·Ⅶ层出土石器(2)



第292图 北区Ⅵ·Ⅶ层出土石器(3)

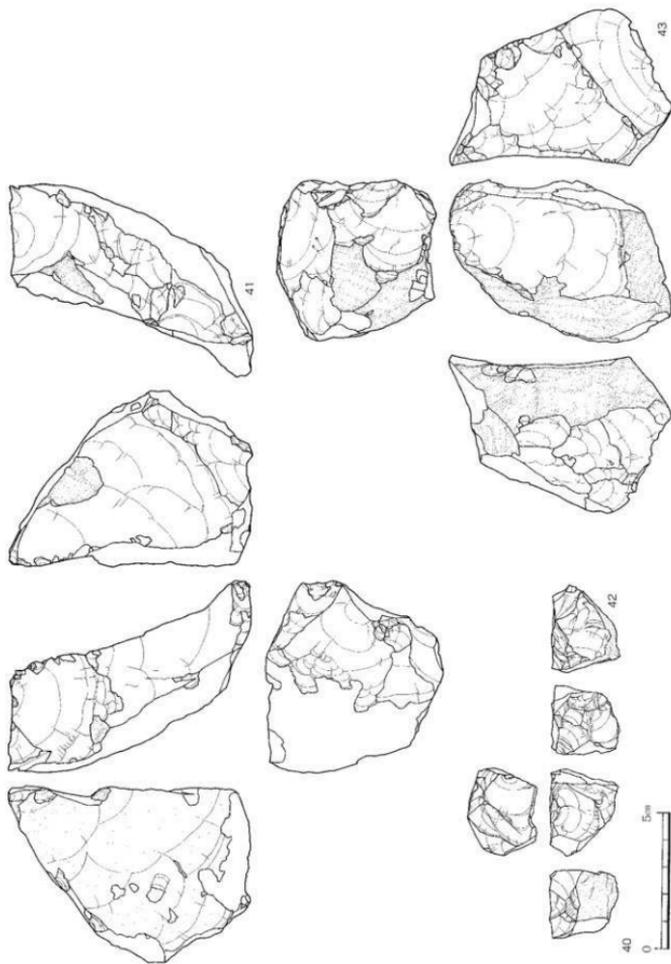
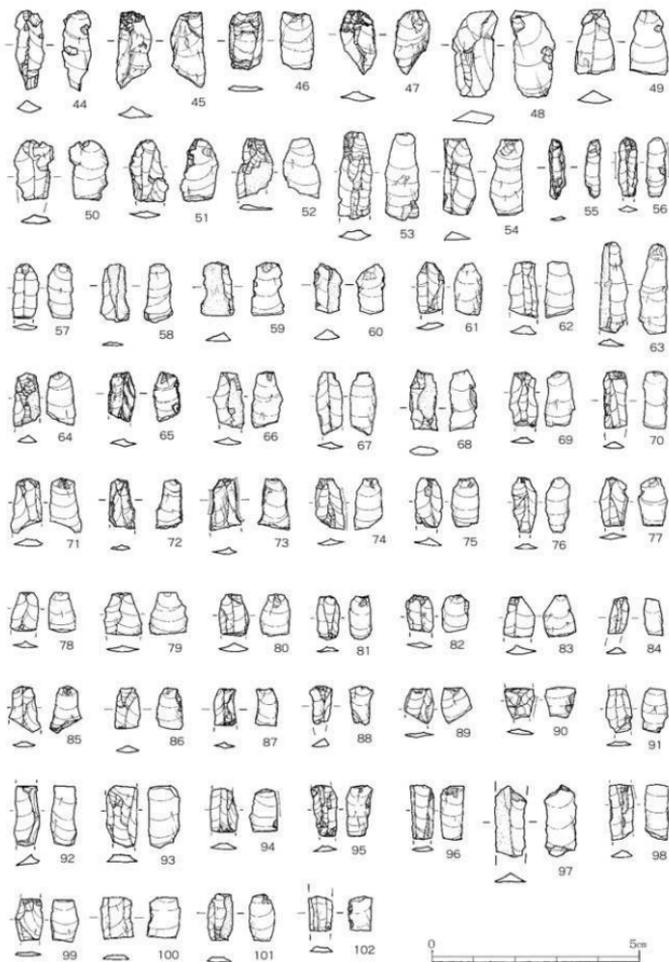
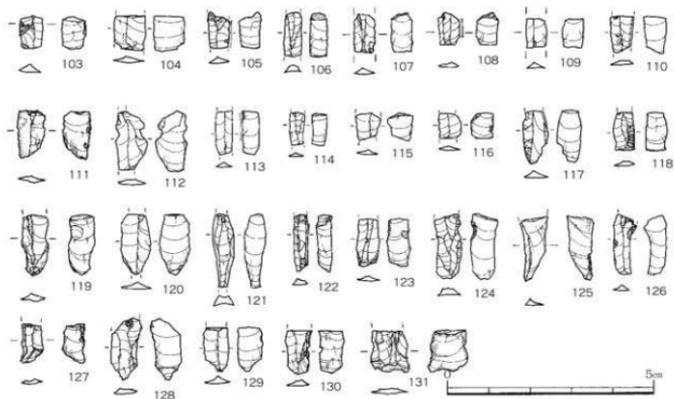


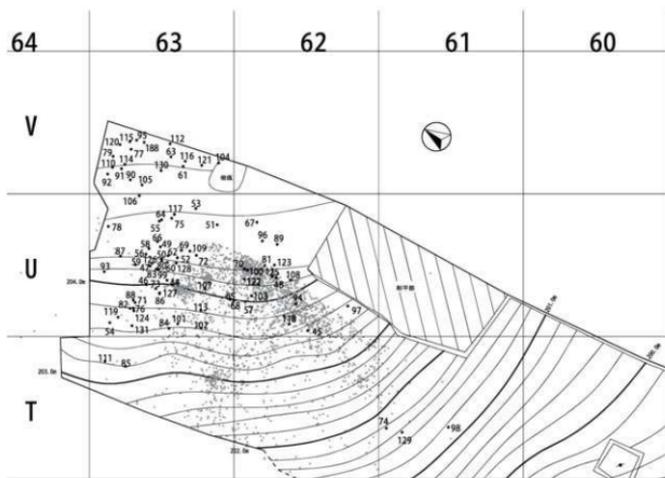
图293 北区Ⅱ·Ⅱ期出土石器(4)



第294图 北区Ⅶ·Ⅷ层出土石器(5)



第295图 北区Ⅵ·Ⅶ层出土石器(6)



第296图 北区Ⅵ·Ⅶ层实测石器出土状况图(3)

剥離により平坦に調整されている。22は OB-A 製である。角柱状の礫の長軸を作業面に設定し、石核整形をほとんど施さずに打面調整を施しながら細石刃を剥出している。23は OB-C 製である。両側面の稜に固定具によるものと思われる擦痕がみられる。24は OB-C 製である。石核整形のみられない扁平素材の小口から打面調整を施しながら細石刃を剥出している。25は OB-C 製の細石刃核の下半部である。26は OB-A 製である。石核整形のみられない扁平素材の小口から打面調整を施さずに細石刃を剥出している。27は OB-A 製のプランクである。円礫を複数回分割して得られたものである。28は OB-C 製である。二次的な自然面を打面として周縁に石核整形剥離を施し、細石刃を剥出している。29は OB-C 製である。非常に小型で、入念な頭部調整痕が観察される。30は OB-A 製である。素材剥片の主剥離面を側面に利用している。打面調整を施しながら細石刃を剥出している。31は OB-C 製の細石刃核の作業面再生剥片である。作業面の横方向からの再生後、主剥離面に二次加工を施している。32は OB-B 製の細石刃核の作業面再生剥片である。作業面の横方向から再生した剥片である。33は OB-B 製の打面再生剥片である。打面調整を施しながら細石刃を剥出している。再生は作業面と対する背面から行われている。34は硬質頁岩製である。分割面を打面に設定し、打面側

からの石核整形を行い、打面調整を施さずに細石刃を剥出している。

石核

35は OB-B 製である。打面転移を繰り返し、頭部調整を施しながら目的剥片を剥出している。36は OB-B 製である。35同様、打面転移と入念な頭部調整が観察される。37はタンバク石製である。小型の円礫を素材とし、打面調整を施しながら目的剥片を剥出している。38は OB-A 製である。円礫を分割し、分割面を打面として打面を固定し、目的剥片を剥出している。39は OB-B 製である。剥片素材で、小型の剥片を剥出している。40は OB-A 製である。円礫の分割を繰り返して、小型の剥片を剥出している。

細石刃 (44~131)

細石刃は175点中88点実測した。詳細は一表の通りである。

3 石材

北区についてはⅦ～Ⅷ層それぞれへの遺物の層属が困難であるため、石材についての分析は無効であり、特に分析は行わない。

表100 北区 実測石器観察表 (1)

調査号	遺物番号	品類	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層1	層2	区	石材	部位	検出	径(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)
1	11139	剥片(尖頭部)	-355.7047999	209.3819229	203.401	Ⅶ	-	T-63	安山岩	-	-	8.5	3.2	1.5	26.25
2	10940	三稜尖頭部	-354.4856228	217.072844	204.375	Ⅶ	-	U-63	OB-A	-	-	3.2	1.3	0.9	3.21
3	11483	ナイフ形石核	-356.1521930	213.3507993	204.968	Ⅶa	U-63	OB-A	-	-	-	2	1.35	0.7	1.74
4	10728	ナイフ形石核	-355.8320336	211.5727619	203.731	Ⅶb	U-63	鉄石塊	-	-	-	2.3	1.3	0.65	1.81
5	11700	ナイフ形石核	-344.9037286	211.0977596	203.428	Ⅶb	U-62	OB-E	-	-	-	4.1	2.35	1.0	10.33
6	10744	ナイフ形石核	-356.8278436	210.8330005	203.677	Ⅶ	U-63	硬質頁岩	-	-	-	3	2.45	1.25	2.45
7	11169	ナイフ形石核	-357.1127979	209.8348537	205.6	Ⅶ	-	T-63	OB-B	-	-	1.25	0.9	0.3	0.24
8	13860	ナイフ形石核	-355.331	215.565	204.178	Ⅶb	U-63	OB-A	-	-	-	1.7	1.2	0.6	0.83
9	34	ナイフ形石核	-356.9658899	207.5482038	-	Ⅶa	JT	鉄石塊	-	-	-	2.3	2.1	0.7	2.35
10	11492	スライパー	-348.4644298	213.5241932	204.092	Ⅶa	U-62	OB-A	-	-	-	2.65	2.78	1	6.58
11	11643	ナイフ形石核	-345.4377395	212.1297984	203.493	Ⅶa	U-62	OB-C	-	-	-	2.1	1.1	0.9	1.64
12	10859	二次加工剥片	-359.9436055	214.3361776	204.659	Ⅶb	U-63	頁岩	-	-	-	5.32	3.82	1.1	16.58
13	12576	細石刃核	-353.4033968	222.3608986	205.032	Ⅶb	V-63	OB-C	-	-	-	1.5	1.1	0.78	1.23
14	12470	細石刃核	-357.0867241	223.0687273	205.053	Ⅶb	V-63	OB-A	-	-	-	1.5	1.65	1	2.3
15	12257	細石刃核	-349.2004649	229.9295513	205.491	Ⅶa	V-62	OB-A	-	-	-	1.75	1.5	0.85	1.94
16	11275	細石刃核	-360.4049928	209.2087994	203.382	Ⅶ	T-64	OB-B	-	-	-	1.7	1.1	0.85	1.38
17	11101	細石刃核	-348.2027229	204.4045275	202.383	Ⅶ	T-62	OB-C	-	-	-	1.75	1.2	1.3	2.23
18	11963	細石刃核	-353.5832143	213.0979995	203.497	Ⅶb	U-63	OB-B	-	-	-	2.3	1.33	1.2	3.38
19	13502	細石刃核	-356.5239903	223.9794095	205.11	Ⅶb	V-63	OB-B	-	-	-	1.9	1.7	0.9	3
20	10688	細石刃核	-354.0839759	211.6137031	203.869	Ⅶ	U-63	OB-B	-	-	-	1.4	1.39	2.15	3.34
21	10023	細石刃核	-358.4071891	217.9232565	204.626	Ⅶ	U-63	OB-A	-	-	-	1.75	1.85	1.1	3.41
22	12225	細石刃核	-355.2719032	222.9324282	205.078	Ⅶb	V-63	OB-A	-	-	-	2.95	1.8	1.65	7.7
23	10886	細石刃核	-351.5262169	213.2548225	204.137	Ⅶ	U-63	OB-C	-	-	-	1.8	1.83	1.1	1.42
24	12067	細石刃核	-351.3240088	222.9663396	204.975	Ⅶb	V-63	OB-B	-	-	-	1.33	0.7	1.25	0.76
25	11335	細石刃核	-352.4223206	205.1682814	202.779	Ⅶ	T-63	OB-C	-	-	-	1.1	0.7	1.3	0.56

表101 北区 実測石器観察表(2)

図番号	遺物番号	器物	大径(mm)	Y座高(mm)	器高(mm)	層1	層2	区	石種	部位	検出	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)
26	10913	磨石片	-352.5581679	211.1461729	203.267	Ⅲ	-	U-63	OB-A	-	-	1.15	0.75	1.25	2.64
27	10989	アラスク	-146.4572682	212.1679064	204.809	Ⅲ	-	U-62	OB-A	-	-	2.7	1.6	1.50	5.30
28	13436	磨石片	-156.1719012	214.5386681	204.355	Ⅲ	-	U-63	OB-D	-	-	1.3	1.26	2.15	3.27
29	12590	磨石片	-353.7454284	220.6617618	204.774	Ⅲ	Ⅱ	V-63	OB-C	-	-	1.3	0.6	0.18	0.94
30	10017	磨石片	-358.4096222	218.5302227	204.699	Ⅲ	-	U-63	OB-A	-	-	2	1.1	1.60	2.53
31	10702	磨石片	-353.4099393	213.0406156	203.287	Ⅲ	-	U-63	OB-C	-	-	2.18	1.2	0.65	1.16
32	10366	作業用刃生剥片	-355.7547076	216.8947727	204.282	Ⅲ	-	U-63	OB-B	-	-	2.55	1.35	1.4	2.49
33	12453	打面刃生剥片	-357.7922139	223.4481953	205.001	Ⅲ	Ⅱ	V-63	OB-B	-	-	1.26	1.75	1.37	2.30
34	10411	磨石片	-345.1072891	214.4995565	204.266	Ⅲ	-	U-62	硬質頁岩	-	総合資料 8	2.75	2.2	2.4	9
35	12274	石核	-148.5988296	217.7940780	204.667	Ⅲ	-	U-62	OB-B	-	-	2.7	2.43	2.9	18.95
36	13384	石核	-356.0196022	216.3695764	204.143	Ⅲ	-	U-63	OB-B	-	-	3.3	2.58	2.05	13.16
37	13548	石核	-358.2679299	221.4794857	204.866	Ⅲ	Ⅱ	V-63	アラスク石	-	-	3.18	3.85	1.78	20.43
38	10489	石核	-148.3097666	213.8753111	204.312	Ⅲ	-	U-62	OB-A	-	-	3.25	3.1	2	16.62
39	13384	石核	-355.2793194	217.2634305	204.331	Ⅲ	Ⅱ	U-63	OB-B	-	-	1.83	2.43	1.2	3.83
40	12316	石核	-349.3051528	201.8889830	201.888	Ⅲ	Ⅱ	U-62	OB-A	-	-	1.88	2.17	0.9	2.46
41	11366	石核	-356.8436709	215.9649246	204.188	Ⅲ	Ⅱ	U-63	OB-C	-	-	8.88	7.14	6.57	273.9
42	13309	石核	-355.3049365	216.2840536	204.409	Ⅲ	-	U-63	頁岩	-	-	3.73	4.85	3.95	20.52
43	11365	石核	-356.8072634	216.0369999	204.138	Ⅲ	Ⅱ	U-63	OB-A	-	-	8.13	5.97	5.97	369.58
44	11344	磨石片	-354.0211347	213.9273988	204.655	Ⅲ	-	U-63	OB-C	-	-	2.15	0.7	0.2	0.34
45	11720	磨石片	-344.9010454	210.3910774	203.31	Ⅲ	Ⅱ	U-62	OB-C	-	-	1.39	0.81	0.31	0.52
46	10521	磨石片	-356.0609394	213.6243812	203.966	Ⅲ	-	U-63	OB-A	-	-	1.51	1.83	0.17	0.25
47	10520	磨石片	-355.7872740	214.9292574	204.137	Ⅲ	-	U-63	OB-C	空室穴	-	1.6	0.7	0.25	0.29
48	11540	磨石片	-347.9811528	214.1184559	204.654	Ⅲ	-	U-62	OB-C	-	-	2.3	1.1	0.32	0.43
49	10335	磨石片	-355.0829183	216.2792992	204.326	Ⅲ	-	U-63	OB-A	磨中部	-	1.5	0.8	0.2	0.35
50	10541	磨石片	-355.0022132	215.4387417	204.219	Ⅲ	-	U-63	黒色安山岩	磨中部	-	1.4	0.8	0.2	0.24
51	12425	磨石片	-353.1258653	217.8198861	204.579	Ⅲ	Ⅱ	U-63	OB-A	磨中部	-	1.45	0.7	0.15	0.23
52	10968	磨石片	-353.9124833	215.4992935	204.375	Ⅲ	-	U-63	OB-C	磨中部	-	1.45	0.7	0.1	0.14
53	12181	磨石片	-352.4261296	218.9566036	204.685	Ⅲ	Ⅱ	U-63	OB-C	磨中部	-	2.2	0.25	0.25	0.4
54	10845	磨石片	-358.1941973	216.9016804	203.443	Ⅲ	-	U-63	OB-C	磨中部	-	1.8	0.8	0.2	0.28
55	11314	磨石片	-355.1638425	218.0722314	204.298	Ⅲ	Ⅱ	U-63	OB-C	磨中部	-	1.48	0.43	0.1	0.08
56	12081	磨石片	-356.9819824	215.7630031	204.194	Ⅲ	Ⅱ	U-63	OB-C	磨中部	-	1.4	0.45	0.1	0.07
57	10950	磨石片	-355.4148502	213.4398437	204.679	Ⅲ	-	U-62	OB-A	磨中部	-	1.3	0.5	0.15	0.22
58	10398	磨石片	-355.8706978	216.148431	204.24	Ⅲ	-	U-63	OB-A	磨中部	-	1.4	0.5	0.15	0.21
59	10396	磨石片	-356.8033689	215.918739	204.208	Ⅲ	-	U-63	OB-A	磨中部	-	1.3	0.6	0.2	0.24
60	11243	磨石片	-354.8022291	213.1903696	204.119	Ⅲ	Ⅱ	U-63	OB-C	磨中部	-	1.2	0.7	0.25	0.33
61	12229	磨石片	-352.2144714	211.924987	205.03	Ⅲ	Ⅱ	V-63	黒色安山岩	磨中部	-	1.2	0.59	0.1	0.13
62	10446	磨石片	-354.5510194	215.6507769	204.286	Ⅲ	-	U-63	OB-A	磨中部	-	1.35	0.62	0.2	0.2
63	12223	磨石片	-354.3548954	222.5989642	205.658	Ⅲ	Ⅱ	V-63	OB-C	磨中部	-	2.2	0.6	0.15	0.26
64	10996	磨石片	-355.9961479	218.173639	204.446	Ⅲ	-	U-63	OB-C	磨中部	-	1.29	0.6	0.2	0.27
65	10994	磨石片	-356.3068756	217.5849386	204.676	Ⅲ	-	U-63	OB-C	磨中部	-	1.2	0.65	0.15	0.18
66	10329	磨石片	-355.2819752	216.6476688	204.353	Ⅲ	-	U-63	OB-C	磨中部	-	1.25	0.6	0.15	0.15
67	12271	磨石片	-348.4141716	217.9966444	204.742	Ⅲ	-	U-62	硬質頁岩	磨中部	-	1.48	0.8	0.15	0.15
68	11327	磨石片	-349.9967366	212.5699548	204.022	Ⅲ	Ⅱ	U-62	OB-C	磨中部	-	1.4	0.8	0.28	0.21
69	10376	磨石片	-353.6468988	216.0301969	204.329	Ⅲ	-	U-63	OB-C	磨中部	-	1.3	0.6	0.1	0.13
70	10486	磨石片	-349.2711921	214.7401943	204.309	Ⅲ	-	U-62	硬質頁岩	磨中部	-	1.3	0.45	0.15	0.13
71	10776	磨石片	-356.8311959	212.3734803	205.822	Ⅲ	-	U-63	OB-C	磨中部	-	1.15	0.8	0.15	0.13
72	10281	磨石片	-352.999194	213.6761132	204.319	Ⅲ	-	U-63	OB-C	磨中部	-	1.2	0.55	0.15	0.12
73	10630	磨石片	-355.4038252	213.3473983	205.969	Ⅲ	-	U-63	OB-C	磨中部	-	1.2	0.8	0.2	0.19
74	12320	磨石片	-339.4824955	202.5592088	201.828	Ⅲ	Ⅱ	T-61	OB-A	磨中部	-	1.1	0.8	0.15	0.13
75	10236	磨石片	-354.3914283	218.2833747	204.438	Ⅲ	-	U-63	OB-A	磨中部	-	1.2	0.8	0.15	0.11
76	10764	磨石片	-356.959917	211.9784968	203.906	Ⅲ	-	U-63	OB-A	磨中部	-	1.3	0.45	0.1	0.09
77	13518	磨石片	-357.1074938	223.118955	205.035	Ⅲ	Ⅱ	V-63	OB-C	磨中部	-	1.15	0.65	0.15	0.1
78	10029	磨石片	-358.4235447	217.718916	204.533	Ⅲ	-	U-63	OB-A	磨中部	-	0.9	0.6	0.1	0.1
79	13530	磨石片	-358.1537137	222.6296575	204.957	Ⅲ	Ⅱ	V-63	OB-A	磨部	-	0.9	0.25	0.1	0.11

表102 北区 実測石器観察表(3)

図番号	遺物番号	器種	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層?	区	石種	部位	視念	長(cm)	幅(cm)	厚(mm)	重量(g)	
86	10543	磨石瓦	-354.9914604	215.2873877	204.16	Ⅲ	-	U-63	OB-C	底部	-	0.95	0.7	0.1	0.13
81	10428	磨石瓦	-347.8649892	214.970388	204.348	Ⅲ	-	U-62	硬質頁岩	刃部	-	0.95	0.45	0.1	0.09
82	10766	磨石瓦	-337.1802709	211.9630377	203.817	Ⅲb	-	U-63	OB-C	中部	-	0.85	0.6	0.15	0.09
83	10563	磨石瓦	-355.3680832	214.711668	204.136	Ⅲ	-	U-63	OB-A	底部	-	0.9	0.7	0.15	0.13
84	10706	磨石瓦	-354.492588	210.532054	203.622	Ⅲ	-	U-63	硬質頁岩	面中部	-	0.9	0.4	0.1	0.05
85	12322	磨石瓦	-337.5006176	207.892829	203.334	Ⅲ	-	T-63	OB-C	面中部	-	0.95	0.55	0.15	0.1
86	11362	磨石瓦	-355.1842156	212.9932009	203.992	Ⅲ	-	U-63	OB-C	-	-	1	0.82	0.14	0.06
87	10381	磨石瓦	-337.8206495	215.6208849	204.258	Ⅲ	-	U-63	黑色安山岩	底部	-	0.93	0.55	0.18	0.08
88	10774	磨石瓦	-356.9680563	212.5396039	203.937	Ⅲ	-	U-62	硬質頁岩	底部	-	0.85	0.4	0.2	0.09
89	12281	磨石瓦	-347.8905479	216.4515455	204.622	Ⅲ	-	U-62	硬質頁岩	中部	-	0.65	0.45	0.1	0.07
90	11325	磨石瓦	-337.1564739	220.9796077	204.832	Ⅲb	-	V-63	OB-A	中部	-	0.7	0.6	0.1	0.08
91	12444	磨石瓦	-337.7688765	221.7524286	204.889	Ⅲb	-	V-63	OB-A	中部	-	1.1	0.55	0.1	0.09
92	13864	磨石瓦	-358.7291899	221.3791369	204.827	Ⅲ	-	V-63	OB-A	中部	-	1.5	0.51	0.2	0.23
93	10809	磨石瓦	-358.9606039	214.5346381	204.136	Ⅲb	-	U-63	OB-A	中部	-	1.4	0.61	0.15	0.24
94	10999	磨石瓦	-345.7142948	212.2931754	203.963	Ⅲ	-	U-62	OB-C	中部	-	1	0.8	0.15	0.11
95	12318	磨石瓦	-356.7238638	223.733908	205.131	Ⅲb	-	V-63	OB-C	中部	-	1.3	0.5	0.1	0.11
96	12580	磨石瓦	-348.0378277	216.6850119	204.584	Ⅲ	-	U-62	OB-C	面中部	-	1.3	0.45	0.15	0.12
97	10456	磨石瓦	-347.1388469	212.1239881	203.722	Ⅲ	-	U-62	OB-A	中部	-	1.4	0.75	0.25	0.33
98	13056	磨石瓦	-353.177633	203.6302159	201.413	Ⅲ	-	T-61	OB-C	中部	-	1.3	0.3	0.15	0.15
98	10546	磨石瓦	-355.2022028	214.6934307	204.122	Ⅲ	-	U-63	OB-A	中部	-	1	0.4	0.1	0.09
100	10488	磨石瓦	-358.9612983	214.446084	204.275	Ⅲ	-	U-62	OB-C	中部	-	1	0.7	0.1	0.1
101	10703	磨石瓦	-353.8838994	220.8822617	203.731	Ⅲ	-	U-63	OB-C	中部	-	1.2	0.6	0.15	0.13
102	10021	磨石瓦	-352.2762224	210.574284	203.783	Ⅲ	-	U-63	硬質頁岩	中部	-	0.8	0.5	0.1	0.09
101	10053	磨石瓦	-348.7974836	212.8615249	204.206	Ⅲ	-	U-62	OB-C	中部	-	0.8	0.5	0.15	0.08
104	12869	磨石瓦	-353.0524292	222.1601896	204.939	Ⅲb	-	V-63	OB-A	中部	-	0.85	0.8	0.1	0.1
105	12511	磨石瓦	-356.3493941	220.6192966	204.806	Ⅲb	-	V-63	F++-3	中部	-	0.75	0.45	0.1	0.06
106	12329	磨石瓦	-356.5489386	219.8527982	204.724	Ⅲb	-	U-63	OB-C	中部	-	1.65	0.4	0.15	0.08
107	10645	磨石瓦	-352.8121722	213.3517235	204.858	Ⅲ	-	U-63	硬質頁岩	底部	-	0.9	0.5	0.15	0.08
108	10436	磨石瓦	-348.8848428	213.9227645	204.161	Ⅲ	-	U-62	OB-C	中部	-	0.7	0.4	0.1	0.05
109	10366	磨石瓦	-353.0389202	215.9743882	204.205	Ⅲ	-	U-63	硬質頁岩	中部	-	0.7	0.4	0.15	0.05
110	12546	磨石瓦	-358.2022279	225.8554563	204.855	Ⅲb	-	V-63	頁石炭	中部	-	0.8	0.5	0.1	0.05
111	11236	磨石瓦	-358.9129889	208.2534141	203.209	Ⅲb	-	T-63	OB-C	中部	-	1.19	0.71	0.19	0.22
112	12324	磨石瓦	-354.4186272	223.495228	205.119	Ⅲb	-	V-63	OB-C	中部	-	1.4	0.7	0.1	0.18
113	10994	磨石瓦	-352.2941241	211.8393197	203.854	Ⅲ	-	U-63	硬質頁岩	中部	-	1.05	0.4	0.1	0.05
114	12542	磨石瓦	-357.5421708	222.0586866	204.877	Ⅲb	-	V-63	OB-A	中部	-	0.8	0.2	0.1	0.05
115	12267	磨石瓦	-357.1898423	223.6316624	205.822	Ⅲb	-	V-63	OB-A	中部	-	0.8	0.45	0.1	0.04
116	12378	磨石瓦	-353.3636953	222.2831203	204.894	Ⅲb	-	V-63	OB-C	中部	-	0.8	0.5	0.1	0.04
117	10122	磨石瓦	-354.1120756	218.553882	204.324	Ⅲ	-	U-63	OB-A	中部	-	1.25	0.6	0.2	0.13
118	11810	磨石瓦	-346.1879561	210.8756442	203.794	Ⅲ	-	U-62	OB-C	中部	-	0.9	0.45	0.1	0.06
119	10750	磨石瓦	-358.0132315	211.3442066	203.715	Ⅲ	-	U-63	OB-C	中部	-	1.3	0.6	0.2	0.19
120	13572	磨石瓦	-355.8775266	225.4448267	205.009	Ⅲb	-	V-63	OB-A	中部	-	1.4	0.65	0.15	0.21
121	12801	磨石瓦	-353.2363869	223.9964639	204.99	Ⅲ	-	V-63	OB-C	面中部	-	1.79	0.41	0.15	0.21
122	11957	磨石瓦	-349.2734032	211.0168897	204.083	Ⅲ	-	U-62	OB-C	中部	-	1.2	0.3	0.15	0.07
122	10416	磨石瓦	-347.1971823	215.0629942	204.383	Ⅲ	-	U-62	OB-C	中部	-	1.15	0.5	0.15	0.09
124	10303	磨石瓦	-356.9682815	211.7913662	203.785	Ⅲ	-	U-63	OB-C	中部	-	1.3	0.5	0.15	0.18
125	12124	磨石瓦	-347.3368499	214.2168487	203.997	Ⅲ	-	U-62	OB-C	-	-	1.12	1.68	0.2	0.13
128	10513	磨石瓦	-355.6562759	215.1207391	204.182	Ⅲ	-	U-63	OB-C	中部	-	1.4	0.3	0.15	0.1
127	10666	磨石瓦	-355.1309202	213.0232833	204.94	Ⅲ	-	U-63	F++-3	-	-	0.97	0.61	1.02	0.08
128	10294	磨石瓦	-353.8898065	215.1250292	204.219	Ⅲ	-	U-63	OB-A	中部	-	1.5	0.6	0.1	0.14
129	12321	磨石瓦	-338.3799627	202.2759938	201.749	Ⅲ	-	T-61	OB-A	中部	-	1.65	0.6	0.2	0.11
130	12522	磨石瓦	-355.0374044	222.6184308	204.903	Ⅲb	-	V-63	OB-B	中部	-	1.65	0.5	0.1	0.09
131	10743	磨石瓦	-357.0448978	210.7442546	203.887	Ⅲ	-	U-63	OB-C	-	-	1.65	0.96	0.6	0.19

第2節 南区の調査

1 石器群の概要

南区は傾斜が緩やかで、北区と比較して土層の堆積状況が良好なため、層位的な分層が可能であるため、各層ごとに遺物を取り扱うこととする。

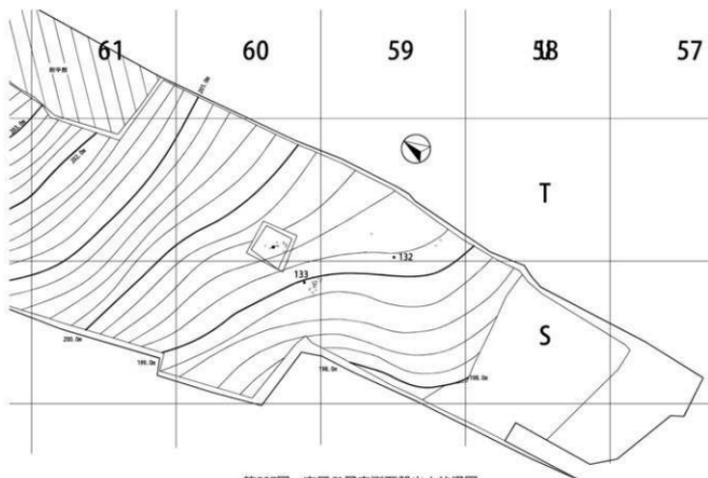
2 Ⅴ層の遺物

132はOB-A製のナイフ形石器である。寸詰まり剥片を素材とし、鋭い縁辺を斜位に取り込んだ形で二側縁及び基部を入念にプランティングしている。133はOB-B製のナイフ形石器である。剥片を縦位に利用し、左側縁に急角度のプランティングを施している。基部が欠損しており、全体形状は明らかでない。

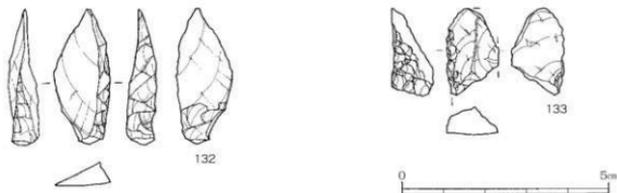
3 Ⅴ層～Ⅵb層の遺物

(1) 石器

134は硬質頁岩製のナイフ形石器である。厚手の剥片を横位に利用し、両側縁にほぼ平行に急角度のプランティングを施している。135はOB-A製のナイフ形石器である。剥片を斜めに断ち切るような形で両側縁にプランティングを施している。長側縁に打面が設定されているため、石器の最大厚は上半にある。刃部の腹面側に使用によるものと思われる欠損が認められる。136はOB-A製のナイフ形石器である。求心状に剥離された剥片の打面側にプランティングを施した一側縁加工である。137は硬質頁岩製の台形石器である。縦長剥片を横位に利用し、



第297図 南区Ⅴ層実測石器出土状況図



第298図 南区Ⅴ層出土石器

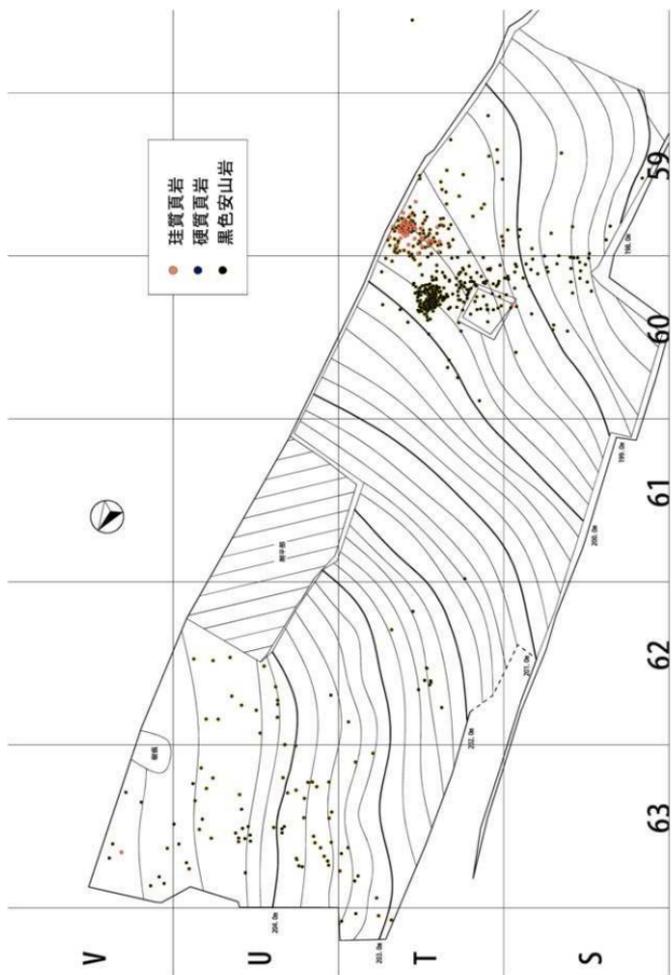
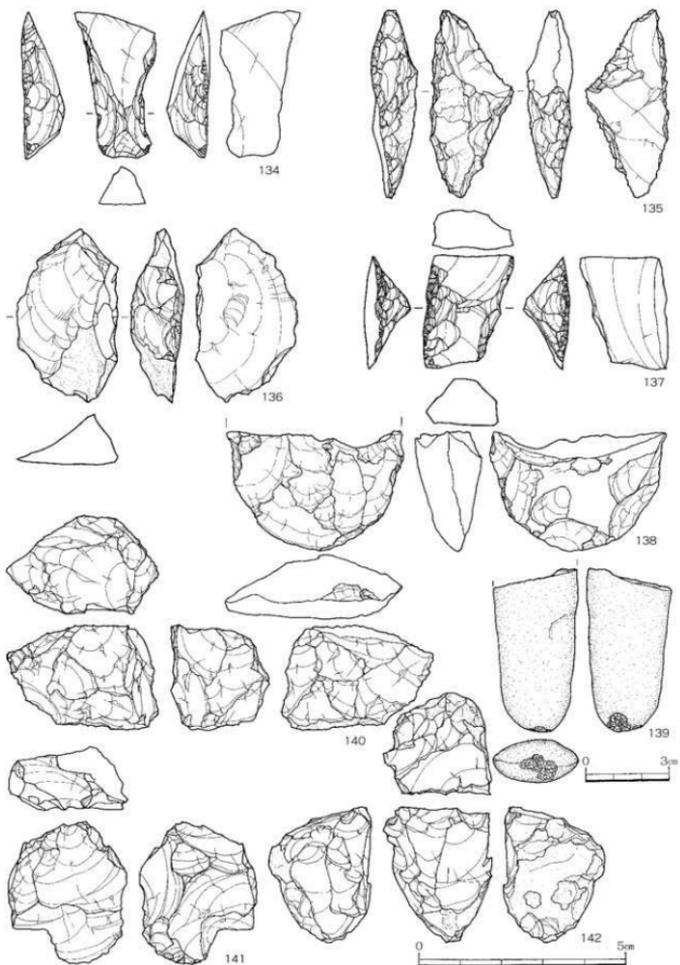


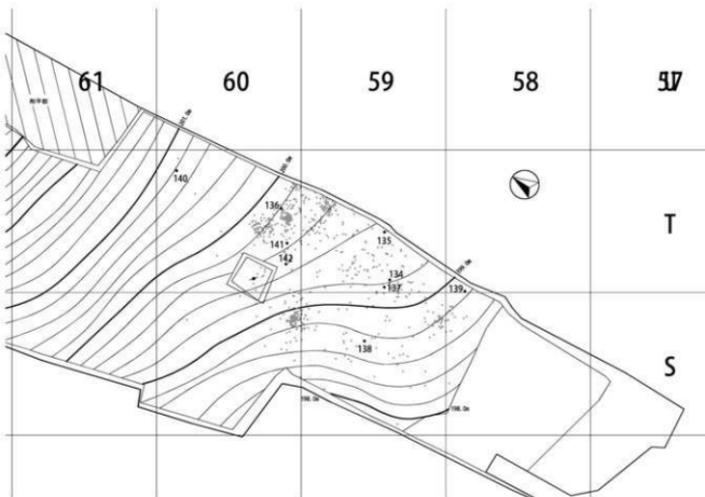
图295 南区薄层石材分布图



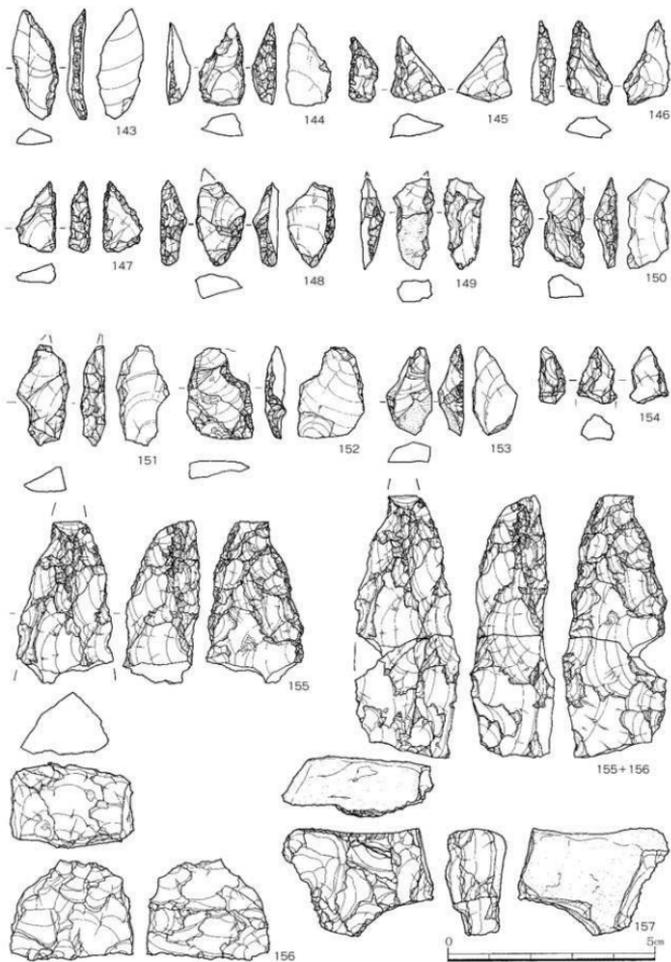
第300图 南区Ⅷ层出土石器

左側縁は折断の後、切断面を打面として表面側に平坦剥離を、右側縁は腹面側からのブラントニングを施している。後面に掲載しているが、折断とブラントニングを示す接合資料となっている。138は頁岩製の斧状石器である。刃部付近の磨減を切る形で両面への調整で刃部が再形成されている。ほとんどの部分が欠損している。139は砂岩製の叩石である。棒状の素材の頂部付近に縦方向の使用による叩き痕が観察される。140はOB-B製の石核である。頻繁な打面転移が観察される。141はOB-A製の石核である。厚手の剥片の主剥離面を作業面に設定している。背面にも求心状の剥離痕が観察される。142はOB-A製の石核である。小型の円錐を分割し、分割面を打面に設定し、単設打面から剥片を剥離している。右側面から背面にかけて自然面を残している。143は硬質頁岩製のナイフ形石器である。小型縦長剥片の右側縁全体及び左側縁の基部に腹面側からのブラントニングを施している。腹面側の刃部に直交する線状痕が確認される。144はOB-A製のナイフ形石器である。小型の剥片の鋭い縁辺を刃部として斜位に利用し、右側縁は背腹両面からブラントニングを施し、右側縁は基部付近に腹面から簡易なブラントニングを施している。刃部に微細剥離痕が認められる。145はOB-B製のナイフ形石器である。小型剥片の打面側を折断し、刃部を斜位に設定して左側縁に腹背両

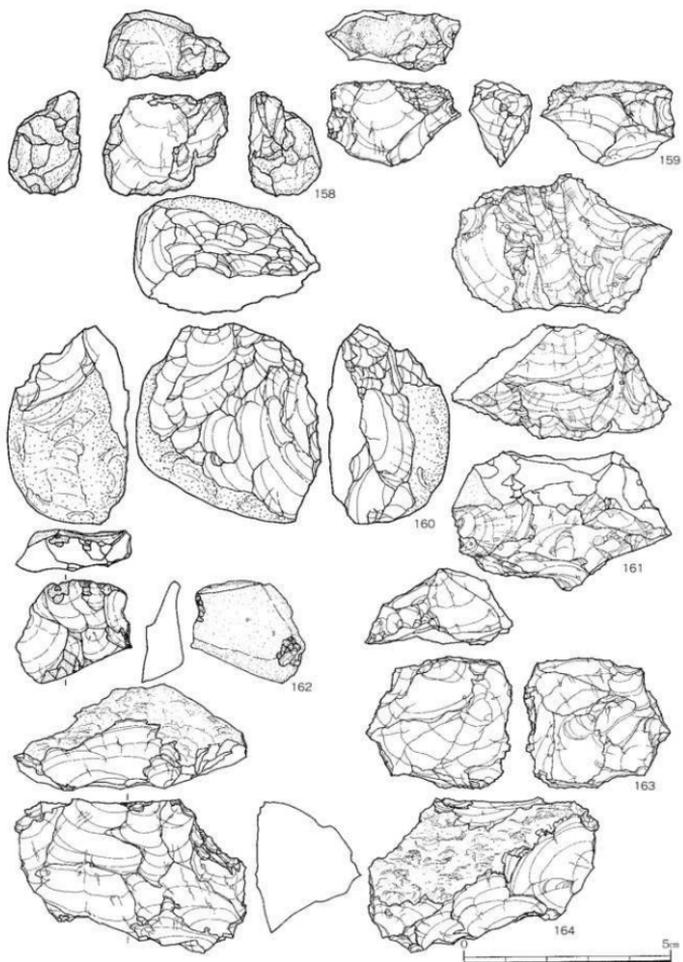
面からのブラントニングを施している。基部の折断面から背面に平坦剥離が施されている。146は黒色安山岩製のナイフ形石器である。横長の剥片の側縁に腹面からの丁寧なブラントニングを施している。147はOB-B製のナイフ形石器である。左側縁には腹背両面から、右側縁は腹面からの先端を尖らせるような二次加工がみられ、尖頭器として分類することも可能である。148はOB-A製のナイフ形石器である。小型剥片の左側縁には腹背両面から、右側縁基部には腹面からのブラントニングを施している。先端部は欠損している。149はOB-A製のナイフ形石器である。礫皮面を残した剥片を横位に利用し、両側縁に背面からのブラントニングを施している。150はタンバク石製のナイフ形石器である。剥片を横位に利用し、右側縁は腹面から、左側縁は背腹両面からブラントニングを施している。先端部は欠損している。151はOB-A製のナイフ形石器である。剥片を縦位に利用し、右側縁に背腹両面からブラントニングを施している。先端部は欠損している。152はOB-A製のナイフ形石器である。剥片を横位に利用し、両側縁に腹面からのブラントニングを施している。刃部が欠損しており、斜刃か直刃かの判断ができず、台形石器に分類される可能性もある。腹面に下方からの剥離が観察される。153はOB-A製のナイフ形石器である。礫皮面の残された剥片を利用し、右側



第301図 南区Ⅵ層実測石器出土状況図



第302图 南区Ⅶb~Ⅶa层出土石器(1)



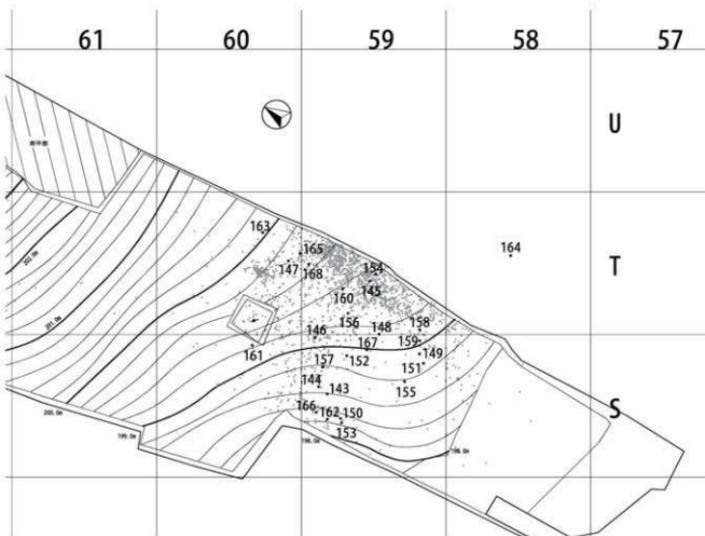
第303图 南区Ⅶb~Ⅶa层出土石器(2)

縁全体と左側縁の基部に腹面からのプランティングを施している。154はOB-A製のナイフ形石器の先端部である。左側縁に腹背両面からのプランティングを施している。155・156はOB-B製の三稜尖頭器である。稜上調整及び腹面への両側からの入念な平坦剥離の観察される三面加工の大型製品である。製品としてかなり大型である点から、小型のナイフ形石器との時期的共伴については可能性は低いと考えられ、より古い時期に帰属する可能性が高い。157・162はタンバク石製の石核である。いずれも小型の角礫から打面転移を繰り返しながら剥片剥離を行った残核の形状を示している。162は分割面を、157は自然面を打面としている。150のようなナイフ形石器に対応する石核であると考えられる。158はOB-A製の石核である。小型の円礫の自然面に打面を固定して剥片を剥離している。159はOB-A製の石核である。厚手の剥片を素材とし、両面にそれぞれ球心状の剥離痕を残し、結果残核形態が円盤状を呈している。最終作業面の一部に素材剥片の主剥離面を残している。小型ナイフ形石器に対応する石核であると考えられる。160はOB-A製の石核である。円礫から錯交剥離により剥片を剥出している。161はOB-B製の石核である。159同様厚手の剥片を素材

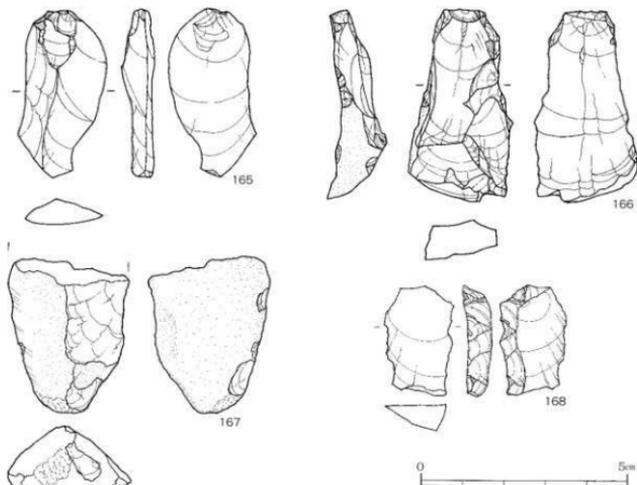
とし、両面にそれぞれ球心状の剥離痕を残し、結果残核形態が円盤状を呈している。163はOB-B製の石核である。最終作業面を打面とした周辺への剥離痕が観察される。164は黒色安山岩製の石核である。拳大の円礫を素材とし、両面に球心状の剥離痕により剥片を剥離しており、結果残核形態は円盤状を呈する。165は珉瑛製の微細剥離痕のある剥片である。右側縁の縁辺に細かい剥離痕が観察される。166はタンバク石製の剥片である。167は頁岩製の叩石である。下端に垂直方向への使用と考えられる痕跡が確認される。上半は欠損している。168は硬質頁岩製の打面再生剥片である。細石刃核の打面を横方向から再生している。後掲の接合資料がある。

(2) 石材

ここではⅧ層の石材利用状況についてみていきたい。対象となる資料は739点である。Ⅷ層で最も利用されている石材は、OB-Aで366点、次にOB-Bが119点、以下黒色安山岩79点、硬質頁岩49点、OB-E41点、珉瑛頁岩20点、タンバク石20点と続く。その他には少量ながら頁岩、珉瑛、チャート等が利用されている。



第304図 南区Ⅶb～Ⅶe層実測石器出土状況図



第305図 南区Ⅵb～Ⅵe層出土石器(3)

表103 南区 実測石器観察表(1)

図番号(遺物番号)	名称	大径長(mm)	Y径長(mm)	厚さ(mm)	層1	層2	区	石種	部位	組合	前長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)
132	21789 ナイフ形石器	-014.9416103	200.2631414	198.171	IX	a	T-59	OB-A	-	-	3.25	1.35	0.7	2.35
133	14410 ナイフ形石器	-021.1362429	198.5607472	198.719	IX	a	S-60	OB-B	-	-	2.25	1.7	0.9	1.75
134	21440 ナイフ形石器	-013.8777025	200.8908603	199.139	Ⅸ	-	T-59	硬質頁岩	-	-	3.6	1.79	1.5	4.85
135	15617 ナイフ形石器	-014.2172171	204.2204232	199.394	Ⅸ	-	T-59	OB-A	-	-	4.45	2.65	1.1	7.25
136	15080 ナイフ形石器	-021.1251155	205.8904487	199.327	Ⅸ	-	T-60	OB-A	-	-	4.0	2.43	1.3	10.87
137	20081 石核	-014.2408924	200.3726473	199.607	Ⅸ	a	T-59	硬質頁岩	-	-	2.8	2.15	1.1	-
138	21261 界状石器	-015.40248122	196.5925663	198.904	Ⅸ	-	S-59	頁岩	-	-	2.9	4.3	1.65	17.24
139	21214 石核	-008.4297113	200.0930311	198.646	Ⅸ	-	T-58	砂岩	-	-	5.95	3.85	1.55	35.59
140	15621 石核	-028.4693297	200.5472103	200.483	Ⅸ	b	T-60	OB-B	-	-	2.58	3.7	2.28	21.95
141	14327 石核	-020.8706664	203.4814465	199.132	Ⅸ	a	T-60	OB-A	-	-	3.3	2.9	1.58	12.32
142	14285 石核	-021.6508604	201.9908481	199.004	Ⅸ	a	T-60	OB-A	-	-	3.3	2.42	2.45	20.28
143	20831 ナイフ形石器	-018.3808801	199.835385	198.843	Ⅸ	b	S-59	硬質頁岩	-	-	2.7	1.1	0.45	1.45
144	20470 ナイフ形石器	-018.3843454	196.3385837	199.025	Ⅸ	a	S-59	OB-A	-	-	2.63	1.88	0.57	0.97
145	13191 ナイフ形石器	-015.2629102	202.7319113	199.842	Ⅸ	a	T-59	OB-B	-	-	1.6	1.5	0.7	0.86
146	13281 ナイフ形石器	-019.8466625	199.7713648	199.21	Ⅸ	b	S-59	クワンパツ石	-	-	2.18	1.1	0.55	0.7
147	12781 ナイフ形石器	-020.8973238	205.1667451	199.938	Ⅸ	b	T-60	OB-B	-	-	1.7	0.85	0.52	0.82
148	20464 ナイフ形石器	-014.8110672	200.8198294	199.547	Ⅸ	b	T-59	OB-A	-	-	2	1.2	0.6	1.12
149	20279 ナイフ形石器	-018.8311558	198.6357565	199.323	Ⅸ	b	S-59	OB-A	-	-	2.2	0.99	0.6	1.04
150	20853 ナイフ形石器	-017.2835482	194.1145918	198.741	Ⅸ	b	S-59	クワンパツ石	-	-	2.2	1	0.65	1.09
151	20350 ナイフ形石器	-011.5519960	197.9766572	199.351	Ⅸ	a	S-59	OB-A	-	-	2.5	1.23	0.6	1.60
152	20220 ナイフ形石器	-016.8476655	198.5141422	199.269	Ⅸ	a	S-59	OB-A	-	-	2.25	1.6	0.5	1.48
153	21011 ナイフ形石器	-012.2194933	193.8144298	198.708	Ⅸ	a	S-59	OB-A	-	-	2.2	1.1	0.6	1.02
154	14965 ナイフ形石器	-014.8417948	204.2297999	199.698	Ⅸ	b	T-59	OB-A	-	-	1.4	0.95	0.65	0.71
155	20414 三稜尖頭器	-012.8574695	196.6967898	199.087	Ⅸ	b	S-59	OB-B	-	組合	2.98	2.35	1.65	13.83
156	13944 三稜尖頭器	-016.7852778	201.4804807	199.499	Ⅸ	b	T-59	OB-B	-	-	2.48	3	2.1	14.26
157	13288 石核	-018.5012307	197.7282852	199.232	Ⅸ	b	S-59	クワンパツ石	-	-	2.6	2.65	1.45	14.27
158	20126 石核	-011.8145421	200.3282165	199.541	Ⅸ	a	T-59	OB-A	-	-	1.7	2.66	1.2	11.8
159	20625 石核	-011.8301128	199.5604081	199.379	Ⅸ	b	S-59	OB-A	-	-	2.1	3.23	1.5	9.74
160	10740 石核	-017.1452458	203.2220011	199.771	Ⅸ	b	T-59	OB-A	-	-	4.9	4.5	2.95	-
161	13488 石核	-022.3911302	199.2424503	199.39	Ⅸ	a	S-60	OB-B	-	-	2.85	5.3	3.45	41.23
162	21075 石核	-018.2067234	194.0510633	198.528	Ⅸ	b	S-59	クワンパツ石	-	-	2.5	2.8	1	6.42
163	13891 石核	-022.4621297	202.1449432	200.219	Ⅸ	b	T-60	OB-B	-	-	4.23	3.3	1.8	19.23
164	206 石核	-005.3254203	205.531791	199.541	Ⅸ	b	T	硬質頁岩	-	-	3.77	5.39	2.6	44.43
165	14772 黒銅製鉋のふるり剥石	-020.4099147	205.6466679	199.297	Ⅸ	b	T-60	メノウ	-	-	4.1	2.1	0.8	4.43
166	21031 石核・砂岩	-018.9722133	194.584438	198.804	Ⅸ	a	S-59	クワンパツ石	-	-	4.65	2.5	1.45	13.1
167	20660 石核	-015.4039793	198.9232096	199.417	Ⅸ	b	S-59	頁岩	-	-	1.85	2.94	1.7	17.19

4 VII a層の遺物

(1) 石器

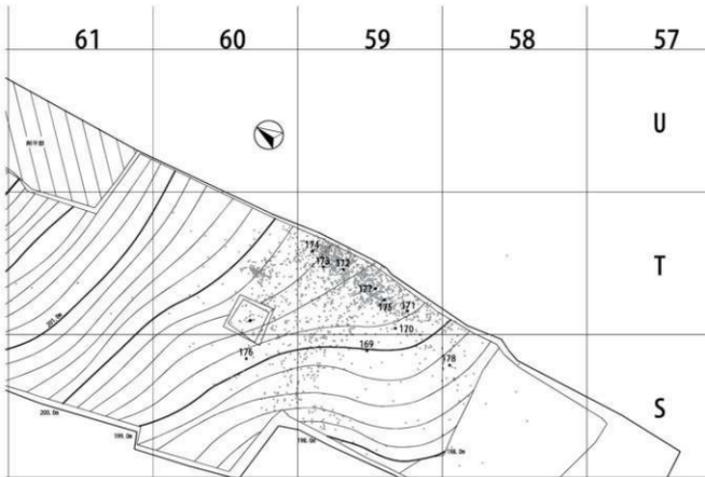
169はOB-C製の細石刃核である。打面は剥落している。小礫から短くて幅広い細石刃を剥出ししている。170はOB-C製の細石刃核である。小型の円礫を4分割したものを素材とし、小型の細石刃を剥出ししている。右側面に細かい傷や磨減が、また、打面の隅方に微細剥離が観察され、いずれも固定具によるものと思われる。171はOB-C製の細石刃核である。色調はややグレーがかっている。小型の円礫を素材とし、石核整形をあまり地さずに細石刃を剥出ししている。打面に両側面からの剥離が観察される。172はOB-A製の細石刃核である。打面転移が複数回確認される。作業面に設定されたと思われる面が、正面、上面、右側面、背面の4面みられる。下部は欠損している。173はOB-A製の細石刃核である。打面調整を施しながら細石刃を剥出し、残核形態は扁平となっている。174はOB-A製の細石刃核である。素材分割時のボジ面を打面に設定し、打面調整を施しながら細石刃を剥出ししている。作業面は背面を除く3面に設定されており、背面は平坦になるよう周辺からの調整が施されている。175はOB-A製の細石刃核である。打面調整を施しながら細石刃を剥出ししている。剥離が進行しているため、残核形態は扁平である。背面は2枚の大きな剥離面により、

中央縦に稜を形成している。形成された稜には微細剥離痕が観察される。176は黒色安山岩製のブランクである。剥離痕はいずれも浅く、石核であるのか、ブランクであるのか、あるいは他の石器であるのか、分類が困難である。177はOB-A製の細石刃核である。作業面は相対する2面に設定されており、打面はそれぞれ上下異なる。それぞれ打面調整を施しながら細石刃を剥出ししている。178はOB-A製の作業面再生剥片である。179~257は細石刃である。詳細は観察表を参照頂きたい。

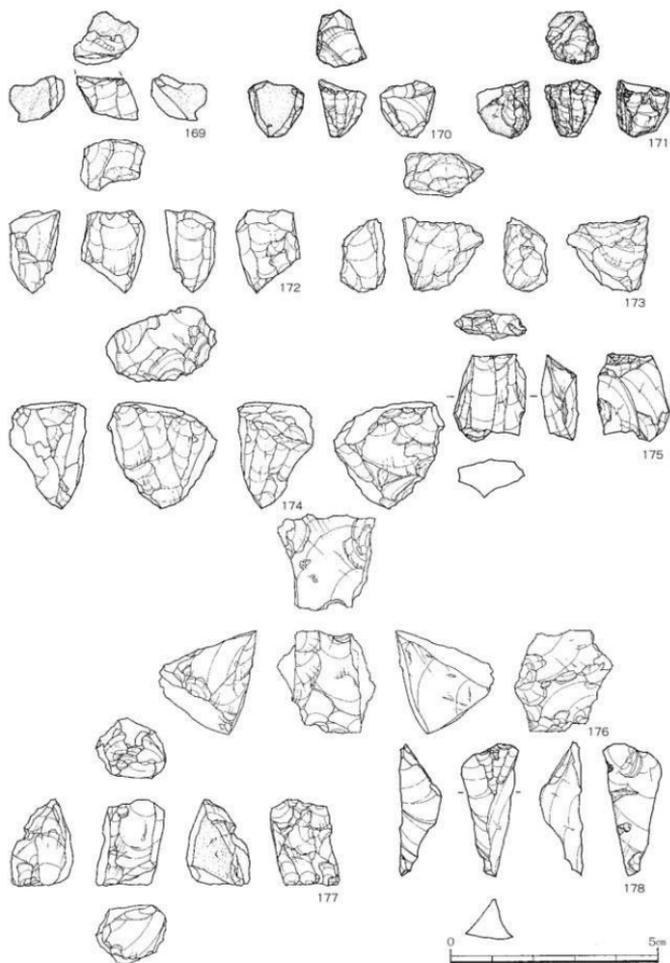
(2) 石材

VII層は細石器文化期とナイフ形石器文化終末期の遺物が出土しているが、定型石器以外の剥片類について、各時期への帰属を明らかにすることは不可能であるため、ここではVII層全体の石材利用状況についてみていきたい。

VII層の対象資料は1853点である。最も利用されている石材はOB-Aで、1050点、次に黒色安山岩264点、以下OB-B258点、硬質頁岩82点、タンバク石64点、OB-C35点、珪質頁岩35点、頁岩18点と続く。OB-Aはナイフ形石器から細石器まで幅広く利用されている。黒色安山岩は石鏃製作関連製品が中心となる。OB-Bは出土量の割に製品が少なく、利用主体は不明である。タンバク石はナイフ形石器、台形石器への利用が顕著である。硬質頁岩はナイフ形石器へも細石器へも利用されている。



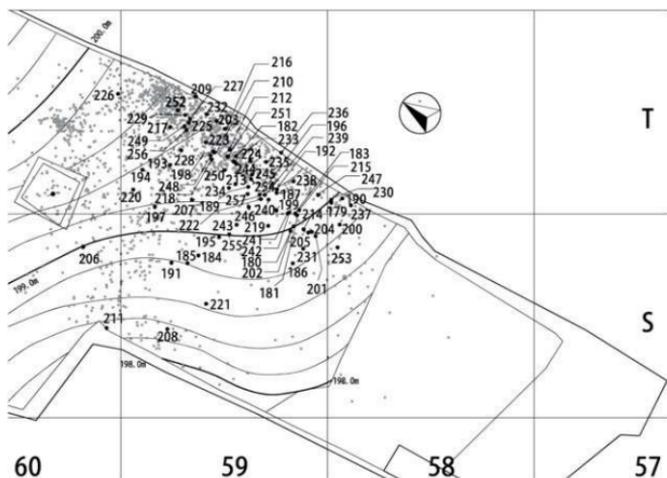
第306図 南区VII a層実測石器出土状況図(1)



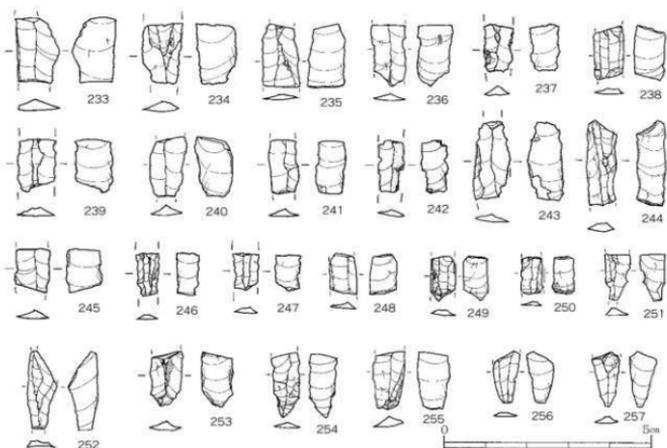
第307图 南区Ⅶb~Ⅶa层出土石器(4)



第308图 南区Ⅵb~Ⅵa层出土石器(5)



第309回 南区Ⅶ a 層実測石器出土状況図 (2)



第310回 南区Ⅶ b～Ⅶ a 層出土石器 (6)

(3) 接合資料

接合資料 1

258は硬質頁岩の接合資料である。接合数は5枚と少ないもの、遺跡内における台形石器の製作工程を示す貴重な資料である。①は一連の素材剥片獲得の剥離作業を示すものである。①から②の剥離に至るまでに打面の再生あるいは打面転移が行われており、打面の高さが大きく減じられている。②から③に至るまでに再度打面再生あるいは打面転移が行われており、再び打面の高さが大きく減じられている。③の剥離で縦長素材を獲得後、④の剥離により縦長剥片の分割が行われている。分割後、分割面を打面とした平坦剥離及び⑤のように分割面と相対する側面に、腹面からのブランティングが施され、台形石器が製作されている。このように、当遺跡内においては、少なくとも素材剥片獲得の一連の作業、素材剥片の分割及びブランティングによる台形石器製作までの一連の作業が行われていることが確認された。

接合資料 2

259は硬質頁岩3枚の剥片の接合資料である。ナイフ形石器あるいは台形石器の素材獲得に関する作業を示している。①の剥離の後、剥片はないものの②の打面転移が行われ、その後③、④の剥離で再び打面転移が行われている。

接合資料 3

260は打面再生剥片2枚の接合である。作業面に対して横方向からの再生作業が2度行われている。

接合資料 4

261はタンバク石の剥片3枚の接合である。縦長剥片の打面の対面に背面からの二次的な剥離が施されている。二次加工は不規則で、不純物が絡んでいるため、台形石器に仕上げるための二次加工かどうかは判断できない。右側縁に微細な剥離が観察される。

接合資料 5

262はタンバク石の横長剥片7枚の接合である。打面調整は確認されない。底面は自然面である。

接合資料 6

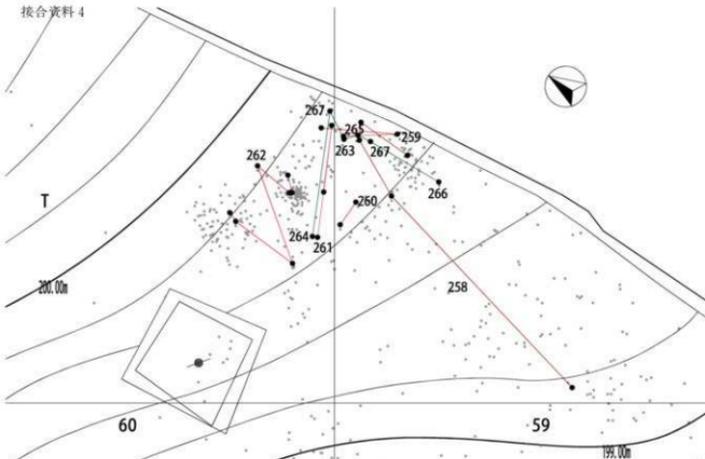
硬質頁岩の石核と剥片3枚の接合である。①、②で打面を形成し、③の剥離で素材剥片を剥出している。その後、同一打面から複数の剥片を剥出した後、180°打面を転移し、④、⑤の剥片を剥出している。

接合資料 7

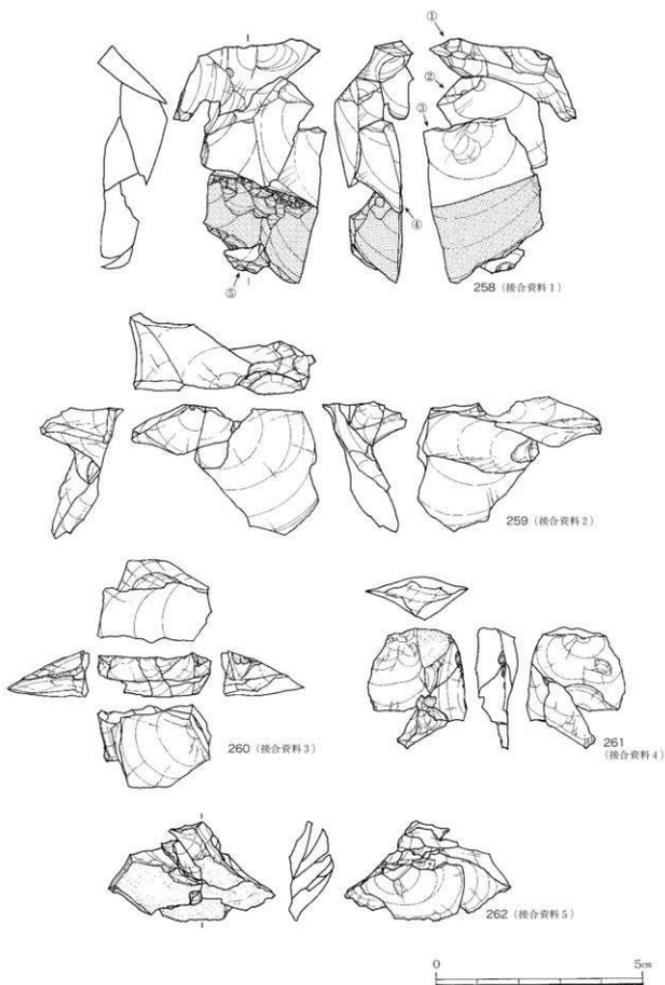
黒色安山岩の剥片5枚の接合である。①、②の剥片を剥出後、180°打面を転移し、③の剥片を剥離し、その後再び180°打面を転移し、④～⑤の剥片を剥離している。いずれも薄手の剥片を平坦に剥離している。剥片自体が目的剥片であるのか、あるいは何らかの石器製作のための調整剥片であるのか明らかにできない。

接合資料 8

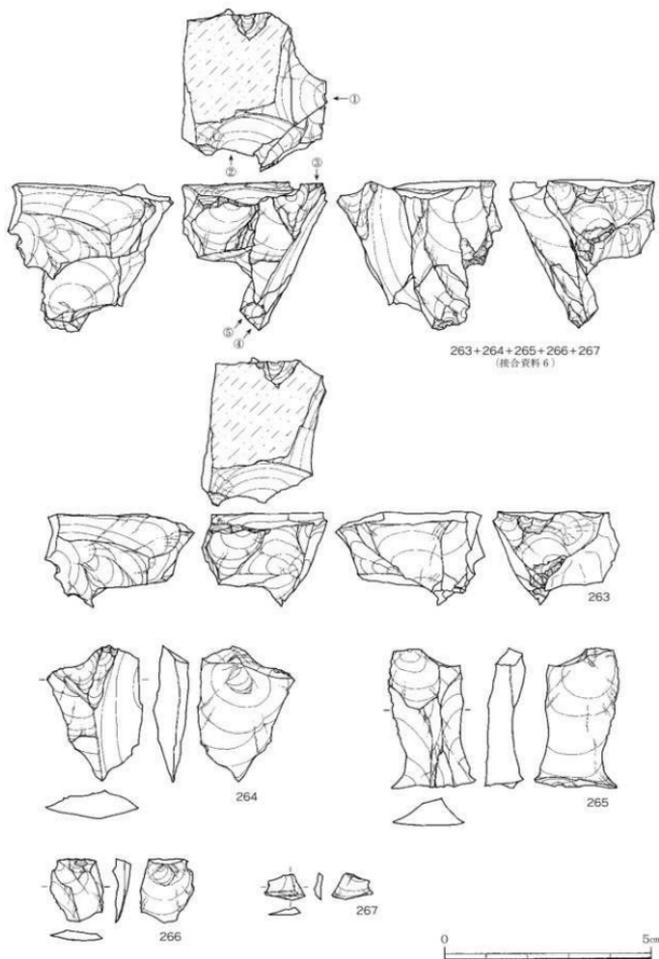
硬質頁岩製の細石刃核と石核整形剥片の接合である。作業面との切り合いから整形剥片剥離後に細石刃剥片が行われていることが確認される。



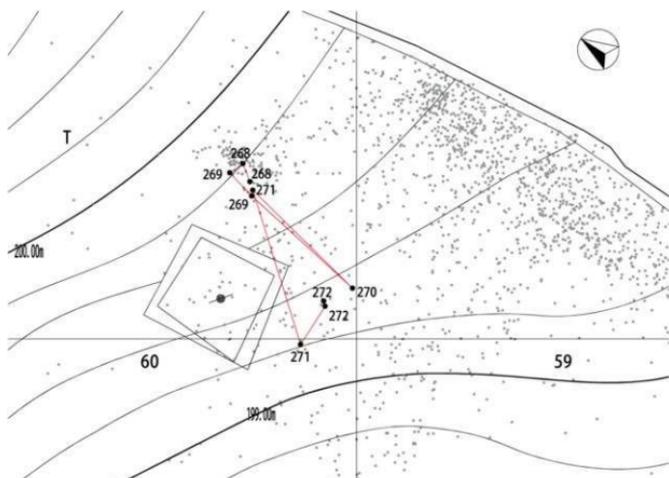
第311図 南区接合資料出土状況図(1)



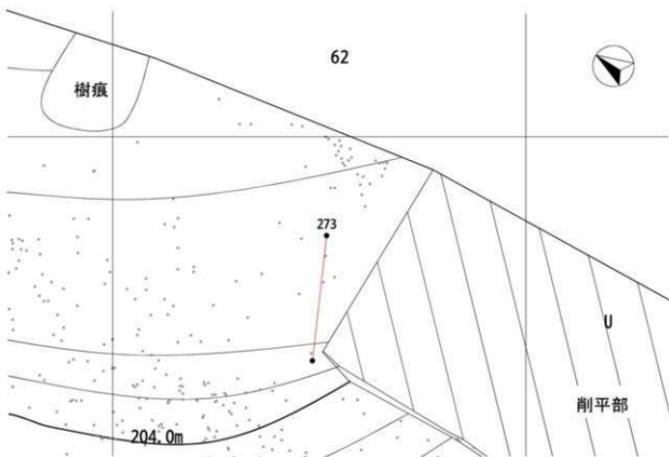
第312图 南区Ⅷ层接合資料(1)



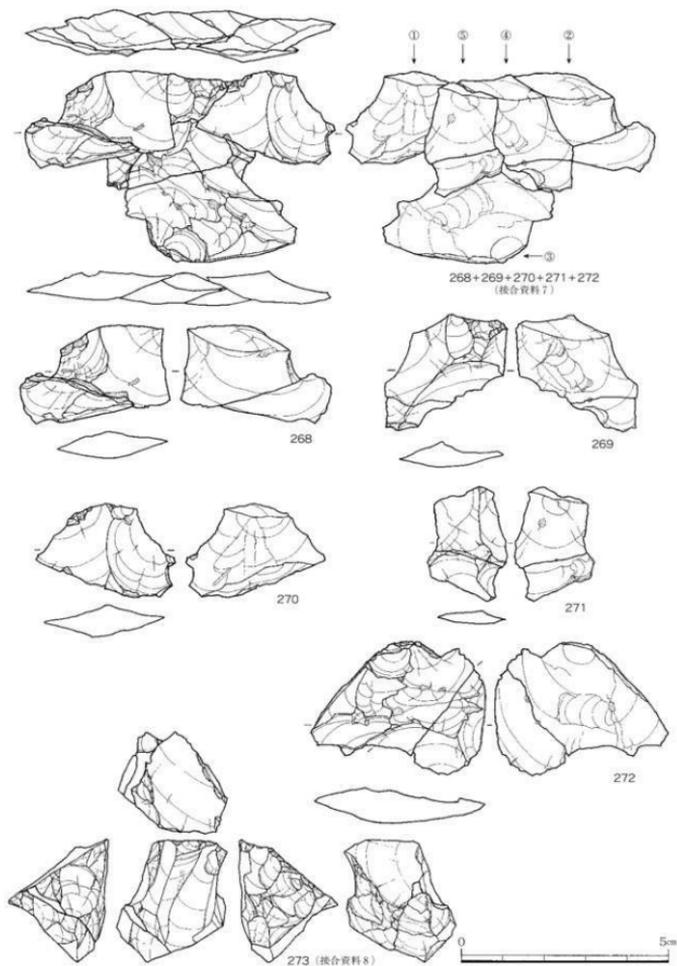
第313図 南区Ⅷ層接合資料(2)



第314図 南区接合資料出土状況図（2）



第315図 南区接合資料出土状況図（3）



第316图 南区・北区Ⅶ層接合資料

表104 南区 实测石器观察表(2)

编号	遗址名称	层位	X坐标(m)	Y坐标(m)	测高(m)	层1	层2	区	打石	部位	组合	长(m)	宽(m)	厚(m)	面积(m ²)	备注	
166	14454	打石面牛头石	-319.4797764	204.9236447	199.761	ⅤB	T-59	中上部	-	砍削器	3	2.7	1.6	0.65	-	-	
167	20407	打石面牛头石	-312.9606279	200.8606279	199.252	ⅤB	S-59	中上部	-	砍削器	-	1.6	1.43	1.3	1.23	-	
176	21160	打石面牛头石	-312.225427	200.4430072	199.206	ⅤB	T-59	中上部	-	砍削器	-	1.4	1.15	1.3	1.49	-	
171	21421	打石面牛头石	-312.3975366	201.6463311	199.619	ⅤB	T-59	中上部	-	砍削器	-	1.4	1.34	1.28	2.21	-	
172	13166	打石面牛头石	-316.429443	204.5708895	199.966	ⅤB	T-59	中上部	-	砍削器	-	2.05	1.5	1.25	3.49	-	
173	12931	打石面牛头石	-318.2290814	204.7460214	199.914	ⅤB	T-59	中上部	-	砍削器	-	1.92	1.95	1.12	3.2	-	
174	12880	打石面牛头石	-318.3927886	205.8691263	200.022	ⅤB	T-59	中上部	-	砍削器	-	2.65	2.72	1.8	16.79	-	
175	21522	打石面牛头石	-314.4599967	202.4226217	199.636	ⅤB	T-59	中上部	-	砍削器	-	2.15	1.21	0.92	2.49	-	
176	13486	打石面牛头石	-312.5490915	199.3127423	199.411	ⅤB	S-60	中上部	-	砍削器	-	2.52	2.43	2.4	16.14	-	
177	13278	打石面牛头石	-314.4694465	202.2036603	199.288	ⅤB	T-59	中上部	-	砍削器	-	2.12	1.65	1.1	3.25	-	
178	20741	中上部牛头石	-309.4480714	197.8469946	199.212	ⅤB	S-58	中上部	-	砍削器	-	2.35	1.4	1.02	2.21	-	
179	21175	打石面牛头石	-309.8036031	200.5477952	199.365	ⅤB	T-58	中上部	-	砍削器	-	1.1	0.8	0.3	0.3	-	
180	20632	打石面牛头石	-311.4006954	199.3046459	199.318	ⅤB	S-59	中上部	-	砍削器	-	1.8	0.7	0.15	0.26	-	
181	20223	打石面牛头石	-311.4655566	199.9319596	199.482	ⅤB	S-59	中上部	-	砍削器	-	1.9	0.6	0.3	0.29	-	
182	14723	打石面牛头石	-314.4594223	202.8292866	199.699	ⅤB	T-59	中上部	-	砍削器	-	2.15	0.7	0.2	0.39	-	
183	20323	打石面牛头石	-311.5225449	200.6211288	199.448	ⅤB	T-59	中上部	-	砍削器	-	2.4	0.53	0.2	0.39	-	
184	20445	打石面牛头石	-316.1407423	197.9564121	199.317	ⅤB	S-59	中上部	-	砍削器	-	2.35	0.65	0.25	0.33	-	
185	20851	打石面牛头石	-316.7267362	197.5277865	199.686	ⅤB	S-59	中上部	-	砍削器	-	1.8	0.73	0.2	0.36	-	
186	20347	打石面牛头石	-311.672751	197.574853	199.149	ⅤB	S-59	中上部	-	砍削器	-	1.65	0.6	0.25	0.31	-	
187	20114	打石面牛头石	-312.6347177	201.6217183	199.587	ⅤB	T-59	中上部	-	砍削器	-	1.6	0.65	0.2	0.38	-	
188	12220	打石面牛头石	-316.2027258	223.6008714	205.134	ⅤB	V-63	中上部	-	砍削器	-	2.65	0.7	0.2	0.39	-	
189	20803	打石面牛头石	-313.4278269	201.3283272	199.467	ⅤB	T-59	中上部	-	砍削器	-	1.9	0.8	0.25	0.46	-	
196	21198	打石面牛头石	-312.8623648	200.7619677	199.212	ⅤB	S-58	中上部	-	砍削器	-	1.9	0.7	0.25	0.38	-	
191	20456	打石面牛头石	-317.5483555	197.2861869	199.176	ⅤB	S-59	中上部	-	砍削器	-	1.5	0.65	0.2	0.32	-	
192	21641	打石面牛头石	-312.4403304	201.2083841	199.521	ⅤB	T-59	中上部	-	砍削器	-	1.4	0.73	0.15	0.21	-	
193	12352	打石面牛头石	-317.4212652	204.394954	199.815	ⅤB	T-59	中上部	-	砍削器	-	1	0.65	0.25	0.25	-	
194	13038	打石面牛头石	-318.3506781	202.1649696	199.754	ⅤB	T-59	中上部	-	砍削器	-	1.35	0.7	0.15	0.21	-	
195	20320	打石面牛头石	-315.2494484	198.454543	199.467	ⅤB	S-59	中上部	-	砍削器	-	1.3	0.7	0.15	0.23	-	
196	20096	打石面牛头石	-313.2842036	200.9419691	199.612	ⅤB	T-59	中上部	-	砍削器	-	1.4	0.8	0.15	0.25	-	
197	12523	打石面牛头石	-310.3466259	200.3466259	199.278	ⅤB	S-60	中上部	-	砍削器	-	1.5	0.6	0.15	0.17	-	
198	13378	打石面牛头石	-315.5200165	203.0425912	199.568	ⅤB	T-59	中上部	-	砍削器	-	1.3	0.65	0.2	0.32	-	
199	20313	打石面牛头石	-312.4629361	200.1368333	199.576	ⅤB	T-59	中上部	-	砍削器	-	1.45	0.45	0.15	0.17	-	
200	20721	打石面牛头石	-309.4660792	199.4257596	199.328	ⅤB	S-58	中上部	-	砍削器	-	1.3	0.65	0.2	0.3	-	
201	20653	打石面牛头石	-316.5547474	198.962314	199.215	ⅤB	S-59	中上部	-	砍削器	-	1.05	0.45	0.15	0.09	-	
202	20222	打石面牛头石	-311.7825662	199.1308271	199.458	ⅤB	S-59	中上部	-	砍削器	-	1.1	0.8	0.15	0.15	-	
203	13779	打石面牛头石	-315.3601398	204.5574992	199.458	ⅤB	T-59	中上部	-	砍削器	-	1.35	0.75	0.1	0.19	-	
204	20258	打石面牛头石	-316.5248425	199.1152628	199.412	ⅤB	S-59	中上部	-	砍削器	-	1.15	0.8	0.2	0.25	-	
205	20257	打石面牛头石	-318.0031341	199.4875682	199.4	ⅤB	S-59	中上部	-	砍削器	-	1	1	0.4	0.15	0.1	-
206	13285	打石面牛头石	-321.8296767	198.3720258	199.324	ⅤB	S-60	中上部	-	砍削器	-	1.65	0.8	0.1	0.11	-	
207	12284	打石面牛头石	-316.5621219	200.6857899	199.669	ⅤB	T-59	中上部	-	砍削器	-	1.1	0.73	0.15	0.15	-	
208	21018	打石面牛头石	-317.742735	194.3463899	198.682	ⅤB	S-59	中上部	-	砍削器	-	1.15	0.45	0.1	0.1	-	
209	13834	打石面牛头石	-316.3664139	205.7624789	199.938	ⅤB	T-59	中上部	-	砍削器	-	0.95	0.7	0.15	0.18	-	
210	13278	打石面牛头石	-315.4286545	203.0126422	199.766	ⅤB	T-59	中上部	-	砍削器	-	1.35	0.7	0.15	0.24	-	
211	21018	打石面牛头石	-316.3664259	194.3463899	198.799	ⅤB	S-60	中上部	-	砍削器	-	0.9	0.7	0.15	0.18	-	
212	14891	打石面牛头石	-314.7142155	201.1254977	199.673	ⅤB	T-59	中上部	-	砍削器	-	0.95	0.7	0.15	0.18	-	
213	20304	打石面牛头石	-314.4309966	201.4309965	196.42	ⅤB	T-59	中上部	-	砍削器	-	0.9	0.7	0.15	0.18	-	
214	20642	打石面牛头石	-311.1561669	199.2436493	199.319	ⅤB	S-59	中上部	-	砍削器	-	0.9	0.7	0.1	0.11	-	
215	20157	打石面牛头石	-311.5660231	200.1887534	199.416	ⅤB	T-59	中上部	-	砍削器	-	1.1	0.55	0.1	0.09	-	
216	14572	打石面牛头石	-314.3345649	204.1749645	199.774	ⅤB	T-59	中上部	-	砍削器	-	1	0.65	0.15	0.14	-	
217	13641	打石面牛头石	-317.4609465	204.2580822	199.934	ⅤB	T-59	中上部	-	砍削器	-	1	0.6	0.2	0.19	-	
218	14722	打石面牛头石	-315.4181027	202.6245279	199.664	ⅤB	T-59	中上部	-	砍削器	-	1.15	0.7	0.2	0.29	-	
219	20304	打石面牛头石	-312.8649064	199.4142766	199.166	ⅤB	S-59	中上部	-	砍削器	-	1	0.4	0.15	0.08	-	
220	13053	打石面牛头石	-319.3928356	201.1894955	199.712	ⅤB	T-59	中上部	-	砍削器	-	1.25	0.45	0.1	0.13	-	
221	20701	打石面牛头石	-315.4713908	196.5868586	198.919	ⅤB	S-59	中上部	-	砍削器	-	1.2	0.8	0.15	0.11	-	
222	20276	打石面牛头石	-313.2174699	200.7220255	199.328	ⅤB	T-59	中上部	-	砍削器	-	0.75	0.6	0.1	0.09	-	
223	13367	打石面牛头石	-315.8886472	203.1044471	199.913	ⅤB	T-59	中上部	-	砍削器	-	0.75	0.65	0.15	0.11	-	
224	21091	打石面牛头石	-313.7229767	202.6167298	199.711	ⅤB	T-59	中上部	-	砍削器	-	0.8	0.8	0.15	0.13	-	
225	13642	打石面牛头石	-316.5104968	202.4621028	199.881	ⅤB	T-59	中上部	-	砍削器	-	0.6	0.45	0.1	0.14	-	
226	13786	打石面牛头石	-318.1328744	202.8687827	200.166	ⅤB	T-59	中上部	-	砍削器	-	1	0.4	0.15	0.08	-	
227	13918	打石面牛头石	-316.6514403	204.6299827	199.883	ⅤB	T-59	中上部	-	砍削器	-	1.45	0.45	0.1	0.14	-	
229	13146	打石面牛头石	-317.06943	203.116031	199.879	ⅤB	T-59	中上部	-	砍削器	-	1.5	0.3	0.2	0.15	-	
229	13831	打石面牛头石	-316.886632	204.8500995	199.873	ⅤB	T-59	中上部	-	砍削器	-	1.3	0.5	0.2	0.11	-	
230	21663	打石面牛头石	-309.4163636	200.6292397	199.3	ⅤB	T-58	中上部	-	砍削器	-	0.75	0.7	0.15	0.11	-	
231	20254	打石面牛头石	-311.1697596	198.2947476	199.238	ⅤB	S-59	中上部	-	砍削器	-	0.9	0.4	0.1	0.04	-	
232	13863	打石面牛头石	-316.4499453	202.4499453	199.461	ⅤB	T-59	中上部	-	砍削器	-	0.75	0.8	0.1	0.07	-	
233	21541	打石面牛头石	-314.5475951	202.5626255	199.625	ⅤB	T-59	中上部	-	砍削器	-	1	0.4	0.15	0.08	-	
234	20066	打石面牛头石	-314.7109302	201.2299823	199.638	ⅤB	T-59	中上部	-	砍削器	-	1.35	0.8	0.25	0.33	-	

表105 南区 実測石器観察表 (3)

器具番号	遺物番号	器種	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層1	層2	区	石種	部位	統合	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)
250	21524	礫石	-312.346699	202.548614	199.46	埋	T-59	OB-A	中部部	-		1.5	0.25	0.1	0.23
250	21524	礫石	-312.296599	202.608321	199.466	埋	T-59	OB-A	中部部	-		1.5	0.2	0.15	0.22
257	21582	礫石	-308.809232	200.4167829	199.347	埋	A	T-58	OB-A	中部部	-	1.1	0.4	0.2	0.16
258	21427	礫石	-311.852745	201.602178	199.332	埋	A	T-59	OB-A	中部部	-	1.2	0.7	0.2	0.22
239	20105	礫石	-313.636929	200.928670	199.321	埋	T-59	OB-A	中部部	-		1.1	0.8	0.2	0.25
240	20118	礫石	-312.488622	200.692161	199.322	埋	T-59	OB-A	中部部	-		1.4	0.8	0.2	0.21
241	20580	礫石	-311.9186207	200.924617	199.307	埋	B	T-59	OB-A	中部部	-	1.23	0.63	0.15	0.18
242	21172	礫石	-314.811722	200.967560	199.306	埋	-	T-59	OB-A	中部部	-	1.15	0.65	0.1	0.21
243	20191	礫石	-314.396132	200.966927	199.347	埋	A	S-59	OB-A	中部部	-	1.8	0.8	0.15	0.23
244	21539	礫石	-314.428527	201.473253	199.824	埋	T-59	OB-A	中部部	-		2	0.7	0.3	0.23
245	21589	礫石	-313.4546485	201.9224414	199.609	埋	B	T-59	OB-A	中部部	-	0.9	0.7	0.2	0.23
246	21564	礫石	-313.8016104	200.9236689	199.147	埋	-	T-59	OB-A	中部部	-	0.95	0.55	0.1	0.09
247	21144	礫石	-310.4372133	200.9348079	199.407	埋	A	T-59	OB-A	中部部	-	0.8	0.5	0.15	0.09
248	13239	礫石	-315.5653357	202.8629636	199.722	埋	T-59	OB-A	中部部	-		0.9	0.6	0.1	0.08
249	13725	礫石	-316.9193062	204.3063071	199.904	埋	A	T-59	OB-A	中部部	-	0.9	0.53	0.1	0.1
250	14739	礫石	-314.9867194	202.156301	199.667	埋	B	T-59	OB-A	中部部	-	0.85	0.45	0.1	0.05
251	13298	礫石	-314.8283514	202.8183438	199.82	埋	A	T-59	OB-A	中部部	-	1.1	0.45	0.15	0.1
252	12927	礫石	-312.2254662	202.882981	199.963	埋	T-59	OB-A	中部部	-		1.9	0.7	0.15	0.21
253	20725	礫石	-309.5066508	199.1480225	199.228	埋	B	S-59	OB-A	中部部	-	1.2	0.8	0.2	0.22
254	21585	礫石	-313.4691888	201.7633239	199.604	埋	A	T-59	OB-A	中部部	-	1.5	0.55	0.1	0.05
255	20615	礫石	-314.7299963	199.9970303	199.501	埋	A	S-59	OB-A	中部部	-	1.4	0.7	0.2	0.22
256	13794	礫石	-316.817244	204.1063899	199.833	埋	T-59	OB-A	中部部	-		1.1	0.51	0.1	0.05
257	20528	礫石	-313.4029665	200.9722153	199.463	埋	T-59	OB-A	中部部	-		1.35	0.51	0.2	0.1

表106 接合資料観察表

器具番号	遺物番号	器種	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層1	層2	区	埋没状況	部位	統合	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)
258	14421	礫石	-319.272381	206.024878	199.861	埋	T-59	埋没状況	-	接合部#1	6	3.7	1.85	20.15	
258	14643	礫石	-319.320727	206.881927	199.879	埋	B	T-59	埋没状況	-					
258	14778	礫石	-319.3863295	206.4586023	199.787	埋	B	T-59	埋没状況	-					
258	20081	小形石器	-319.3748924	206.3726423	199.407	埋	T-59	埋没状況	-						
258	14881	礫石	-319.4614127	206.0586623	199.441	埋	T-59	埋没状況	-						
259	14639	礫石	-319.2632807	206.5461382	199.86	埋	B	T-59	埋没状況	-	接合部#2	3.2	4.3	2.05	11.24
259	14645	礫石	-318.4763999	206.597481	199.837	埋	B	T-59	埋没状況	-					
259	14773	礫石	-320.2203889	206.7302739	199.816	埋	T-60	埋没状況	-						
260	12963	礫石	-319.450665	204.3225228	199.575	埋	T-59	埋没状況	-	接合部#3	1.12	2.38	2	4.25	
260	14334	礫石	-319.4297284	204.9288447	199.563	埋	T-59	埋没状況	-						
261	12786	礫石	-320.2575332	205.1788159	200.684	埋	A	T-60	フナツテ石	-	接合部#4	2.95	2.4	1.05	4.72
261	12961	礫石	-320.0670602	206.8117373	200.152	埋	T-60	フナツテ石	-						
261	12962	礫石	-320.4016228	204.4663625	199.249	埋	T-60	フナツテ石	-						
262	14184	礫石	-322.331208	204.4681949	199.686	埋	A	T-60	フナツテ石	-	接合部#5	2.47	4.48	1.05	6.31
262	14191	礫石	-322.2868792	204.4553582	199.728	埋	A	T-60	フナツテ石	-					
262	14271	礫石	-321.8144838	203.4244483	199.157	埋	T-60	フナツテ石	-						
262	15081	礫石	-321.2681202	205.9171437	199.296	埋	T-60	フナツテ石	-						
262	15120	礫石	-321.0191411	205.1282626	199.329	埋	T-60	フナツテ石	-						
262	15151	礫石	-321.0278443	205.1601949	199.2	埋	T-60	フナツテ石	-						
262	15198	礫石	-321.1341233	205.5697345	199.248	埋	T-60	フナツテ石	-						
263	14780	礫石	-319.802260	206.4361727	199.131	埋	T-59	埋没状況	-	接合部#6	3.65	3.5	4	34.28	
264	12865	礫石	-320.5694714	204.6226214	199.916	埋	T-60	埋没状況	-						
265	14974	礫石	-319.4669863	206.5267482	199.759	埋	T-59	埋没状況	-						
266	14851	礫石	-317.5685261	205.3894894	199.671	埋	B	T-59	埋没状況	-					
267	14443	礫石	-319.1641608	206.3828997	199.882	埋	T-59	埋没状況	-						
268	12224	礫石	-322.529233	205.8524699	199.839	埋	T-60	黒色安山岩	-	接合部#7	4.5	7.3	0.7	23.45	
268	12663	礫石	-322.1486601	204.2992184	199.803	埋	T-60	黒色安山岩	-						
268	13681	礫石	-323.0659113	204.6745886	199.875	埋	A	T-60	黒色安山岩	-					
268	13696	礫石	-322.5345926	203.9648361	199.723	埋	T-60	黒色安山岩	-						
270	12941	礫石	-320.0984349	201.2869113	199.651	埋	T-60	黒色安山岩	-						
271	12786	礫石	-322.509387	203.4486322	199.735	埋	T-60	黒色安山岩	-						
271	13414	礫石	-321.3549959	199.809233	199.473	埋	A	S-60	黒色安山岩	-					
272	12829	礫石	-320.7615372	200.7986667	199.573	埋	A	T-60	黒色安山岩	-					
272	12846	礫石	-320.7432863	200.9271038	199.295	埋	T-60	黒色安山岩	-						
273	10451	礫石	-345.5672901	214.4092565	204.266	埋	T-62	埋没状況	-	接合部#8	3	2.6	2.4	13.63	
273	12281	礫石	-324.8220904	212.5751727	204.267	埋	U-62	埋没状況	-						

表107 VII・VII層 剥片石器利用石材別重量表 (単位:g)

石材	OB-A	OB-B	OB-C	OB-E	瑪瑙	鉄石英	石英	タンバク石	合計
重量	2164.59	1102.57	159.4	172.15	3.22	5.12	72.49	77.68	
石材	チャート	黒色安山岩	安山岩	頁岩	珪質頁岩	硬質頁岩	軟質シルト質頁岩	硬砂岩	
重量	18.71	334.65	23.76	228.61	12.05	311.84	23.18	74.04	4784.1

表108 掲載以外の細石刃一覧表 (1)

直線番号	刃種	X座標 (mm)	Y座標 (mm)	標高 (mm)	層	層号	刃材	部位	径 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)
10010	細石刃	354.5	218.4	204.7	7	7	OB-A	中部	1.1	0.4	0.15	0.12
10019	細石刃	358.4	218.4	204.7	7	7	OB-A	中部	1.1	0.4	0.15	0.12
10025	細石刃	358.6	218.3	204.6	7	7	OB-A	中部	1.2	0.65	0.2	0.23
10078	細石刃	355.0	218.8	204.5	7	7	OB-A	中部	0.25	0.2	0.1	0.11
10091	細石刃	355.3	218.1	204.5	7	7	OB-C	中部	0.7	0.5	0.1	0.09
10103	細石刃	354.7	218.4	204.5	7	7	OB-C	尖部	1.2	0.5	0.1	0.11
10112	細石刃	354.7	218.8	204.8	7	7	OB-A	中部	0.9	0.7	0.15	0.13
10119	細石刃	354.7	218.5	204.5	7	7	OB-A	中部	0.95	0.5	0.1	0.09
10121	細石刃	354.3	218.7	204.5	7	7	OB-C	側部	0.9	0.6	0.15	0.13
10122	細石刃	354.3	218.7	204.5	7	7	OB-C	尖部	1.4	0.15	0.13	0.14
10136	細石刃	354.3	218.3	204.5	7	7	OB-C	尾部	0.8	0.4	0.1	0.04
10141	細石刃	354.6	217.7	204.4	7	7	OB-A	中部	1.1	0.6	0.15	0.13
10152	細石刃	353.8	218.4	204.5	7	7	OB-C	中部	0.9	0.5	0.2	0.11
10175	細石刃	353.2	217.8	204.5	7	7	OB-C	側中部	1.2	0.5	0.2	0.18
10205	細石刃	352.4	217.5	204.5	7	7	OB-C	側部	1.15	0.7	0.15	0.17
10208	細石刃	352.3	217.5	204.5	7	7	OB-A	中部	1.4	0.8	0.3	0.43
10211	細石刃	352.4	217.2	204.5	7	7	OB-C	尖部	1.25	0.7	1.5	0.25
10228	細石刃	352.9	217.0	204.5	7	7	OB-C	中部	1.2	0.4	0.1	0.12
10240	細石刃	353.5	216.4	204.4	7	7	OB-A	中部	1.15	0.7	0.15	0.13
10258	細石刃	352.4	215.3	204.3	7	7	OB-C	中部	1.1	0.4	0.15	0.11
10273	細石刃	353.6	215.8	204.3	7	7	OB-C	尖部	1.25	0.4	0.2	0.21
10279	細石刃	353.7	215.7	204.3	7	7	OB-A	中部	0.9	0.65	0.2	0.21
10283	細石刃	353.7	215.2	204.3	7	7	OB-C	側部	0.95	0.65	0.1	0.12
10333	細石刃	355.0	216.3	204.3	7	7	OB-A	側部	0.9	0.6	0.1	0.1
10356	細石刃	355.8	215.9	204.3	7	7	OB-C	側部	0.7	0.5	0.1	0.04
10398	細石刃	355.5	215.7	204.2	7	7	OB-C	側部	1.1	0.6	0.1	0.09
10436	細石刃	344.1	213.5	204.0	7	7	OB-C	側中部	1.6	0.75	0.25	0.33
10499	細石刃	347.5	213.5	204.2	7	7	OB-C	側部	1.1	0.8	0.2	0.23
10518	細石刃	355.6	215.4	204.2	7	7	OB-A	側部	0.85	0.6	0.2	0.17
10538	細石刃	355.0	215.7	204.2	7	7	OB-A	側部	0.8	0.6	0.15	0.09
10544	細石刃	355.0	214.1	204.1	7	7	OB-C	側部	0.8	0.6	0.1	0.04
10561	細石刃	356.0	214.2	204.1	7	7	OB-A	側部	1.15	0.75	0.25	0.25
10621	細石刃	354.5	214.7	204.1	7	7	OB-C	尖部	1.6	0.55	0.3	0.24
10636	細石刃	353.6	214.7	204.1	7	7	OB-C	尖部	1.2	0.4	0.2	0.14
10638	細石刃	353.3	214.9	204.2	7	7	OB-C	側部	0.7	0.7	0.1	0.09
10723	細石刃	355.8	211.7	203.9	7	7	OB-C	尖部	2.15	0.4	0.15	0.24
10782	細石刃	352.6	213.0	203.6	7	7	OB-C	側中部	1.1	0.7	0.15	0.13
10802	細石刃	352.2	214.0	204.1	8	b	OB-A	側部	0.7	0.4	0.15	0.06
10856	細石刃	358.8	210.3	203.6	8	b	OB-A	側中部	0.6	0.5	0.1	0.05
10872	細石刃	356.4	212.0	204.2	7	7	OB-C	側部	1.65	0.6	0.2	0.21
10952	細石刃	348.9	212.8	204.1	7	7	OB-C	側中部	1	0.4	0.1	0.04
11007	細石刃	347.1	211.3	203.8	7	7	OB-C	側中部	1	0.4	0.1	0.03
11066	細石刃	340.7	207.2	202.6	7	7	OB-A	側部	0.9	0.6	0.2	0.12
11200	細石刃	359.8	209.8	203.5	7	7	OB-C	側中部	1.2	0.4	0.1	0.08
11215	細石刃	359.4	207.9	203.2	7	7	OB-C	尖部	1.15	0.4	0.1	0.08
11221	細石刃	352.3	207.9	203.3	7	7	OB-C	側中部	1.2	0.5	0.15	0.13
11254	細石刃	357.1	207.3	203.2	7	7	OB-C	側中部	1	0.4	0.05	0.04
11281	細石刃	360.8	209.9	203.4	7	7	OB-C	側部	0.55	0.45	0.15	0.04
11283	細石刃	360.8	209.7	203.3	8	b	OB-C	側部	0.8	0.3	0.15	0.04
11284	細石刃	360.8	209.5	203.3	7	7	OB-C	側部	0.75	0.55	0.1	0.05
11300	細石刃	360.0	208.3	203.2	8	b	OB-C	側部	1.2	0.9	0.2	0.21
11312	細石刃	353.4	211.9	204.4	8	b	OB-A	側部	1.7	0.7	0.15	0.21
11339	細石刃	355.9	215.3	204.2	8	b	OB-A	側部	1	0.45	0.15	0.11
11411	細石刃	347.8	212.1	203.9	8	a	OB-C	側中部	1.4	0.4	0.25	0.19
11422	細石刃	346.0	212.5	204.1	8	a	OB-C	側部	0.6	0.35	0.1	0.03
12105	細石刃	347.1	213.8	204.0	8	b	OB-C	尖部	1.25	0.7	0.2	0.16
12160	細石刃	352.1	220.4	204.9	8	a	OB-B	側部	1	0.7	0.2	0.14
12192	細石刃	352.3	222.8	205.3	8	b	OB-A	側部	1.1	0.8	0.2	0.04
12594	細石刃	352.4	221.8	205.0	8	b	OB-A	尾部	1.5	0.7	0.2	0.33
12599	細石刃	352.3	221.5	204.9	8	b	OB-A	尾部	0.9	0.5	0.1	0.08
12743	細石刃	354.6	220.6	204.8	8	b	OB-A	側部	1.2	0.45	0.15	0.11
12749	細石刃	353.9	220.2	204.8	8	b	OB-C	側部	0.7	0.5	0.15	0.07
12823	細石刃	352.7	220.5	204.8	8	b	OB-C	側部	0.7	0.6	0.15	0.05
12829	細石刃	348.7	217.9	204.3	7	7	OB-C	側部	0.8	0.2	0.1	0.11
12876	細石刃	348.4	217.3	204.7	7	7	破貫負刃	側中部	1	0.45	0.1	0.08
12879	細石刃	348.0	216.8	204.6	7	7	OB-C	側部	0.7	0.65	0.1	0.07
12887	細石刃	345.4	214.5	204.5	7	7	OB-A	側部	1.65	0.5	0.15	0.14
12895	細石刃	343.4	219.4	204.7	7	7	OB-C	側部	1.25	0.85	0.15	0.06
12899	細石刃	344.6	218.7	204.8	7	7	OB-B	側中部	1.4	0.7	0.25	0.37
12900	細石刃	344.7	218.7	204.8	7	7	破貫負刃	側部	0.8	0.2	0.1	0.11
12907	細石刃	345.3	219.3	204.8	7	7	OB-C	側中部	0.95	0.45	0.1	0.07
12445	細石刃	352.2	223.9	205.1	8	b	OB-A	尾部	1	0.8	0.15	0.13
12820	細石刃	347.0	220.3	204.8	8	b	OB-C	側部	0.9	0.5	0.1	0.06
12833	細石刃	347.0	219.9	204.8	8	b	OB-C	尖部	1.5	0.7	0.1	0.12
12865	細石刃	344.8	217.1	204.6	7	a	OB-C	側中部	0.7	0.4	0.1	0.04
12868	細石刃	347.5	216.5	204.5	7	a	OB-C	側部	1.1	0.5	0.15	0.04
12869	細石刃	346.4	216.6	204.5	7	b	OB-C	側部	0.7	0.5	0.1	0.07
12849	細石刃	319.7	202.7	199.8	7	b	OB-A	側中部	1.3	0.7	0.15	0.18
12883	細石刃	319.0	205.7	200.0	7	b	OB-A	側中部	0.8	0.7	0.15	0.11
12900	細石刃	318.4	206.2	200.1	7	b	OB-A	側中部	0.8	0.7	0.15	0.13
12906	細石刃	317.9	206.5	200.1	7	a	OB-A	側部	1.15	0.7	0.2	0.18
12908	細石刃	318.0	206.1	200.1	7	b	OB-A	側中部	0.8	0.4	0.15	0.06
12919	細石刃	318.1	205.5	200.0	7	b	OB-A	側部	1.2	0.8	0.2	0.21
12951	細石刃	317.9	205.2	200.0	7	b	OB-A	側部	0.8	0.6	0.1	0.05
12958	細石刃	317.5	205.4	200.1	7	b	OB-A	側部	0.8	0.6	0.1	0.05
12976	細石刃	317.3	205.0	200.0	7	b	OB-A	側部	0.75	0.5	0.05	0.04
13047	細石刃	318.2	200.6	199.5	7	b	OB-A	側中部	0.8	0.6	0.2	0.11

表109 掲載以外の細石刃一覧表（2）

直経番号	銘柄	X半径 (mm)	Y半径 (mm)	標準高 (mm)	幅	厚さ	刃付	刃位	部位	積層 (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)
13070	細石刃	316.9	200.0	205.6	7	a	OH-A	側面	0.85	0.6	0.15	0.12	
13071	細石刃	316.9	200.0	205.5	7	a	OH-A	側面	0.85	0.6	0.15	0.12	
13103	細石刃	316.9	204.2	200.0	7	a	OH-A	側面	1.15	0.5	0.1	0.15	
13104	細石刃	316.9	200.0	200.0	7	a	OH-A	側面	0.8	0.6	0.15	0.07	
13134	細石刃	316.8	200.9	200.0	7	a	OH-A	側面	0.8	0.4	0.1	0.04	
13163	細石刃	316.0	203.3	199.9	7	a	OH-A	端面	0.8	0.6	0.2	0.12	
13205	細石刃	315.7	199.9	199.8	7	a	OH-A	端面	0.7	0.4	0.1	0.04	
13227	細石刃	315.6	201.9	199.8	7	a	OH-A	側面	1.05	0.7	0.2	0.21	
13245	細石刃	316.4	202.0	199.8	7	a	OH-A	側面	1.05	0.55	0.15	0.11	
13255	細石刃	316.2	199.7	199.7	7	a	OH-A	側面	1.1	0.7	0.15	0.08	
13268	細石刃	317.2	200.6	199.6	7	a	OH-A	側面	1.1	0.4	0.1	0.02	
13271	細石刃	316.6	201.1	199.7	7	a	OH-A	端面	0.8	0.4	0.05	0.03	
13281	細石刃	316.3	200.2	199.6	7	a	OH-A	側面	0.8	0.6	0.15	0.11	
13288	細石刃	317.9	200.1	199.6	7	a	OH-A	側面	0.95	0.5	0.15	0.08	
13298	細石刃	318.6	199.6	199.5	7	a	OH-A	側面	1.1	0.5	0.15	0.11	
13306	細石刃	318.1	199.4	199.4	7	a	OH-A	側面	0.9	0.7	0.1	0.13	
13319	細石刃	318.5	199.2	199.5	7	a	OH-A	側面	1.2	0.8	0.2	0.20	
13353	細石刃	318.6	198.0	199.3	7	a	OH-A	側面	1.9	0.6	0.3	0.44	
13357	細石刃	318.6	197.7	199.7	7	b	OH-A	側面	1.1	0.5	0.3	0.08	
13423	細石刃	318.6	204.8	199.9	8	b	OH-A	端面	1.5	0.5	0.1	0.13	
13451	細石刃	355.0	214.0	204.1	8	b	OH-C	側面	1.05	0.5	0.15	0.14	
13458	細石刃	354.0	214.5	204.0	8	b	OH-C	側面	0.8	0.6	0.15	0.09	
13469	細石刃	354.8	215.7	204.1	8	b	OH-C	側面	1.3	0.6	0.2	0.2	
13474	細石刃	355.7	216.2	204.3	8	b	OH-C	側面	1.15	0.65	0.15	0.12	
13485	細石刃	353.7	221.0	204.9	8	b	OH-C	側面	1.25	1.05	0.3	0.55	
13492	細石刃	353.1	222.3	205.0	8	b	OH-A	側面	0.9	0.7	0.15	0.17	
13545	細石刃	357.5	221.5	204.9	8	b	OH-A	側面	1.1	0.6	0.1	0.11	
13551	細石刃	355.3	218.4	204.5	8	b	OH-A	側面	0.9	0.4	0.1	0.05	
13629	細石刃	318.2	205.6	200.0	7	a	OH-A	側面	1.2	0.8	0.2	0.2	
13647	細石刃	316.6	204.2	199.9	7	a	OH-A	側面	0.8	0.6	0.15	0.09	
13653	細石刃	316.2	199.4	199.8	7	a	OH-A	側面	1.2	0.8	0.2	0.08	
13715	細石刃	316.9	205.7	200.0	7	b	OH-A	端面	1.4	0.7	0.1	0.13	
13718	細石刃	316.3	205.6	200.0	7	b	OH-A	側面	0.9	0.5	0.1	0.07	
13725	細石刃	316.9	200.9	199.8	7	b	OH-A	側面	1.05	0.7	0.15	0.09	
13751	細石刃	318.9	201.1	199.4	8	b	OH-A	側面	1.8	0.9	0.25	0.52	
13783	細石刃	316.7	204.4	199.9	7	b	OH-A	端面	1.1	0.7	0.15	0.16	
13796	細石刃	316.3	204.6	199.8	7	b	OH-A	側面	0.9	0.5	0.1	0.11	
13799	細石刃	317.5	204.7	199.9	7	b	OH-A	側面	0.9	0.6	0.15	0.07	
13814	細石刃	316.6	205.1	199.9	7	b	OH-A	側面	1.05	0.4	0.15	0.08	
13816	細石刃	316.3	205.1	199.9	7	b	OH-A	側面	0.8	0.65	0.1	0.11	
13866	細石刃	358.6	220.4	204.8	8	b	OH-A	側面	1.2	0.3	0.2	0.12	
14151	細石刃	323.7	201.0	199.7	7	a	OH-C	側面	0.65	0.4	0.1	0.04	
14633	細石刃	314.9	204.7	199.8	7	b	OH-A	側面	0.9	0.5	0.3	0.06	
14731	細石刃	315.5	203.1	199.7	7	b	OH-A	側面	0.65	0.6	0.1	0.09	
14761	細石刃	315.8	204.1	199.7	7	b	OH-A	側面	0.8	0.4	0.1	0.03	
14762	細石刃	314.8	203.9	199.7	7	b	OH-A	側面	0.85	0.4	0.1	0.06	
20066	細石刃	313.9	201.6	199.7	7	a	OH-A	側面	1.45	0.5	0.15	0.12	
20074	細石刃	314.0	200.9	199.6	7	a	OH-A	側面	0.9	0.4	0.1	0.05	
20078	細石刃	313.8	200.4	199.5	7	a	OH-A	側面	1.2	0.55	0.3	0.11	
20085	細石刃	313.8	200.2	199.6	7	a	OH-A	側面	1.05	0.45	0.1	0.06	
20091	細石刃	313.3	200.4	199.5	7	b	OH-A	側面	1.4	0.6	0.1	0.13	
20094	細石刃	313.3	200.7	199.5	7	b	OH-A	端面	1.1	0.7	0.1	0.11	
20104	細石刃	313.1	201.1	199.5	7	a	OH-A	側面	0.75	0.6	0.1	0.02	
20129	細石刃	317.5	200.3	199.6	7	a	OH-A	側面	1.1	0.6	0.1	0.12	
20209	細石刃	312.4	199.9	199.6	7	a	OH-A	側面	0.9	0.5	0.3	0.05	
20225	細石刃	311.4	199.7	199.5	7	a	OH-A	側面	0.7	0.6	0.2	0.11	
20275	細石刃	311.5	199.0	199.4	7	a	OH-A	側面	1.05	0.5	0.15	0.11	
20371	細石刃	313.0	196.8	199.4	7	a	OH-A	側面	1.2	0.65	0.15	0.08	
20437	細石刃	314.9	197.7	199.4	7	a	OH-A	側面	1.4	0.6	0.2	0.19	
20449	細石刃	317.0	198.2	199.3	7	a	OH-A	側面	0.7	0.35	0.1	0.05	
20529	細石刃	314.7	200.8	199.5	7	b	OH-A	側面	0.7	0.9	0.3	0.11	
20540	細石刃	313.2	200.9	199.6	7	a	OH-A	側面	0.7	0.55	0.15	0.06	
20573	細石刃	313.7	201.3	199.4	7	b	OH-A	側面	0.5	0.4	0.05	0.02	
20580	細石刃	312.5	201.1	199.5	7	b	OH-A	側面	0.8	0.4	0.1	0.06	
20650	細石刃	310.8	199.2	199.3	7	b	OH-B	端面	1.25	0.45	0.1	0.06	
20709	細石刃	316.9	194.3	198.8	7	b	OH-A	側面	1.2	0.6	0.1	0.11	
20728	細石刃	309.4	198.8	199.2	7	a	OH-C	側面	1.1	0.7	0.15	0.14	
20745	細石刃	308.2	197.6	199.0	7	a	OH-C	側面	0.7	0.3	0.05	0.02	
20748	細石刃	309.7	196.9	199.0	7	a	OH-A	側面	0.7	0.65	0.1	0.09	
20754	細石刃	308.4	197.1	198.9	7	a	OH-A	側面	0.7	0.6	0.3	0.02	
20771	細石刃	308.5	195.1	198.6	7	b	OH-A	側面	0.9	0.65	0.2	0.13	
20789	細石刃	306.9	197.8	198.8	7	b	OH-C	側面	0.9	0.3	0.15	0.02	
20862	細石刃	301.0	197.7	198.7	7	b	OH-C	側面	0.8	0.4	0.1	0.04	
20960	細石刃	304.7	197.9	198.4	7	b	OH-C	側面	0.8	0.4	0.15	0.06	
21078	細石刃	316.2	192.5	198.4	7	b	OH-C	側面	0.9	0.4	0.1	0.05	
21091	細石刃	313.6	192.6	198.6	7	a	OH-A	側面	0.8	0.4	0.15	0.08	
21100	細石刃	314.0	203.0	199.4	7	a	OH-A	側面	1	0.6	0.1	0.12	
21100	細石刃	313.8	203.2	199.8	7	a	OH-A	側面	0.8	0.5	0.15	0.07	
21111	細石刃	313.7	203.5	199.8	7	a	OH-A	側面	0.8	0.6	0.1	0.04	
21438	細石刃	310.2	201.1	199.4	7	a	OH-C	側面	1.1	0.45	0.1	0.08	
21530	細石刃	314.1	202.3	199.6	7	b	OH-A	側面	0.7	0.65	0.1	0.09	
21561	細石刃	312.2	202.0	199.7	7	b	OH-A	側面	0.9	0.2	0.1	0.01	
21588	細石刃	313.6	202.0	199.6	7	b	OH-A	側面	1.1	0.5	0.15	0.1	
21612	細石刃	312.5	201.7	199.5	7	b	OH-A	端面	1.9	0.5	0.2	0.13	
21681	細石刃	314.1	202.0	199.6	7	b	OH-A	側面	0.9	0.6	0.15	0.11	
21682	細石刃	313.9	201.7	199.6	7	b	OH-A	側面	1.05	0.7	0.15	0.12	

IX 考 察

1 各遺跡で検出した旧石器時代石器群の変遷

今回報告した5つの遺跡について、それぞれ特徴的な石器群が出土している。ここでは、各石器群について、出土層位を基に石器群間の検証を行い、薩摩半島脊梁をなす台地上における石器群の変遷について考察を行う。

まず、当地地における旧石器時代の基本層序を簡単にまとめると、VI層が薩摩火火山層に該当し、その下位の粘質土がVII層となる。VIII層は色調により上位が黒色の強いVIIa層、下位が茶褐色のVIIb層となる。その下位はA.T火山灰の風性再堆積層でIX層となり、場所によっては色調により2～3枚に分層される。その下位は大隅降下軽石を含む地層で、以下入戸火砕流となる。場所によってはVIII層の下位に礫混じりの地層があったり、あるいは薄い大隅降下軽石単純層の下に礫混じりの地層を持つところもある。

今回報告した遺跡の中で、最も古い文化層は、大隅降下軽石層の下位から2層のナイフ形石器を出土した御飯屋跡遺跡IX～XI層文化層である。1点は欠損品であるが、もう1点は切出形のナイフ形石器で、南九州でA.T直下から検出されるナイフ形石器と同じ形のものである。

A.T上位のVIII層からは、仁田尾遺跡、御飯屋跡遺跡、榎垣遺跡、隠道遺跡で石器群が検出されている。このうち榎垣遺跡と隠道遺跡の石器群は量的に少なく、まとまりとして捉えにくい。仁田尾遺跡と御飯屋跡遺跡についてまとめた。仁田尾遺跡VIII層石器群は、A.T層の直上で石器群を検出しており、礫群は大隅降下軽石が露出する面から検出されている。また、ナイフ形石器が形態的に、南九州でA.T直上に位置づけられる狸谷型ナイフ形石器の範疇で捉えられるものであり、次の段階に位置づけられる。VIII層の出土石器群は複数の地区に分かれているものの、石器群の様相は同じであったため、同時期として捉えて大過ない。同層から出土している剥片尖頭器、小枚3A型尖頭器については単体の出土であり、ナイフ形石器との伴件について議論の余地があると思われる。

御飯屋跡遺跡のVIII層については北区において、細石器文化期の遺物も混在しており、純層としては成立し得ないが、南区では純層として捉えることができるため、南区VIII層の遺物に剥片尖頭器、三稜尖頭器を加える形で掲載した。ナイフ形石器の形態から仁田尾VIII層よりは後出のものであると考えられる。

次に位置づけられるのが伏野遺跡VIIb層の石器群である。当石器群は資料は少ないものの、ナイフ形石器、三稜尖頭器の石材、形態にまとまりがみられ、良好なセット関係を示しているものと考えられる。ナイフ形石器は剥片を横位～斜位に利用し、基部付近に簡易なブラン

ディングを施すものである。技術的に今型ナイフ形石器に類似する資料である。三稜尖頭器は4～5cmの中型のもので、部分三面加工である。

次に位置づけられるのが御飯屋跡遺跡南区のVIIb～VIIa層で出土しているナイフ形石器の一群である。北区のVII層で出土している三稜尖頭器もこの時期に属するものと考えられる。ナイフ形石器はいずれも3cm未満の小型のもので、小型剥片の一部にブランディングを施すものである。三稜尖頭器は3.5cmで、部分三面加工である。

次に位置づけられるのはVIIa層から出土する細石刃石器群で、御飯屋跡遺跡VIIa層、榎垣遺跡VIIa層のA～Fブロック及び仁田尾遺跡F、Gブロックの細石刃石器群である。御飯屋跡遺跡の石器群は石核整形後面調整を施しながら細石刃を剥出するという野昏・休場型細石刃石核に類似するもので、細石刃文化期中では比較的古相に位置づけられるものであり、3遺跡の中では古く位置づけられるものである。

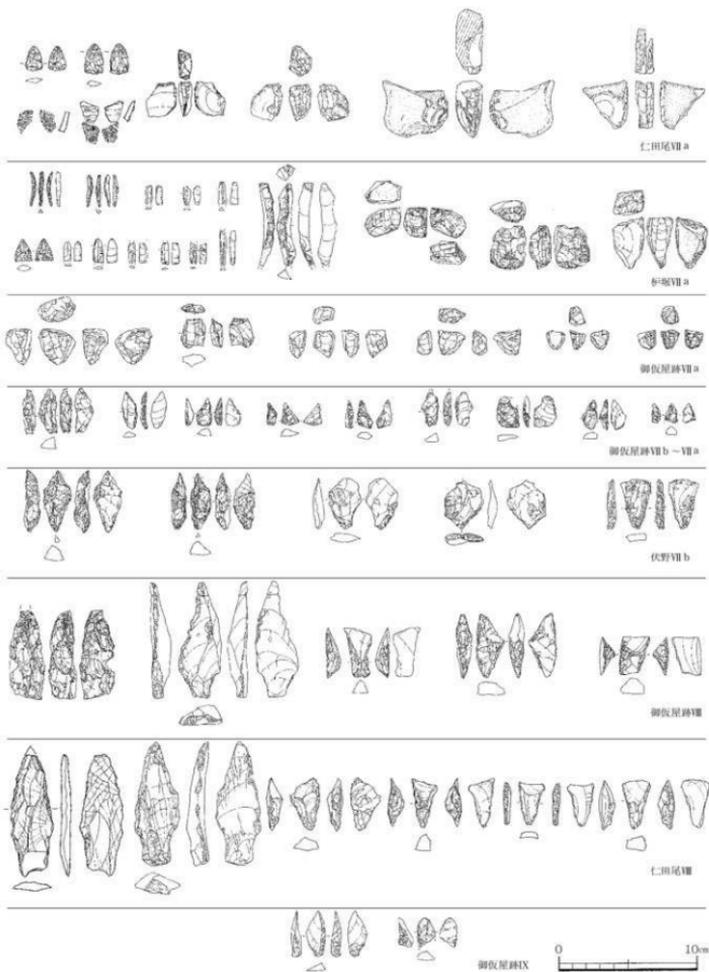
次に、榎垣遺跡の石器群は西北九州産の黒曜石を使用し、純粋な福井型細石刃核を伴う一群である。黒曜石の小型三角形1点が出土しているが、単体出土であり、伴件関係については検討を要する。仁田尾遺跡出土の石器群は、在地の上半鼻産黒曜石を利用した福井型細石刃核と、加治屋園型細石刃核、加栗山型細石刃核を伴い、また、明確な製作を伴う岩屑系の石核も伴う。石核はいずれも平基の二等辺三角形核である。榎垣遺跡、仁田尾遺跡の石器群間の時間的位置づけについては、純粋な形で南九州に福井型細石刃核が入ってくる段階、次に在地の黒曜石等を利用し、次第に在地化する段階、という流れを想定し、榎垣VIIa層石器群～仁田尾VIIa層石器群という流れを想定しておいた。

以上、当地地出土の石器群を観察してきたが、層位的にIX、VIII、VIIb、VIIb～VIIa、VIIa層の5つに文化層が確認でき、さらに同層位中における石器群の比較から8つの段階に変遷を追うことができた。今後の当地地状の調査を行う上で、基準となる資料群であり、今回一連の遺跡で報告された石器群は貴重なものである。

2 石材について

ここでは、今回報告した遺跡における石材の利用状況をまとめる。各遺跡の石材利用状況については第318図、表109のとおりである。

今回報告の各遺跡、文化層に共通するのはOB-A（薩摩川内市樋島町上半鼻産黒曜石）が主体的に利用されていることである。次に利用されているのが鹿児島市電ヶ水の三船産黒曜石である。この2つの近隣黒曜石産地の主体利用はこれまでに報告した瀬戸頭遺跡、横井



第317図 今回報告遺跡の旧石器石器群変遷図

竹ノ山遺跡でも同様であり、当地地の旧石器時代の共通の特徴であるといえる。

そのような状況の中で特徴的な石材利用状況をいくつか挙げると、伏野遺跡VII層の腰岳産黒曜石、針尾系黒曜石の利用、杵瀬遺跡の針尾系黒曜石など、西北九州産黒曜石の利用が挙げられる。これらは、細石器文化期でも比較的新相の段階の石器群であり、当地地における1つの傾向といえる。

次に、黒色安山岩、硬質頁岩の利用である。VII層にみられるこれらの石材は、細石刃核に少量、石鏃製作に大部分が利用されており、これも新相段階の特徴としてあげられる。なお、硬質頁岩はナイフ形石器文化期のナイフ形石器や台形石器製作にも主体的に利用される石材である。

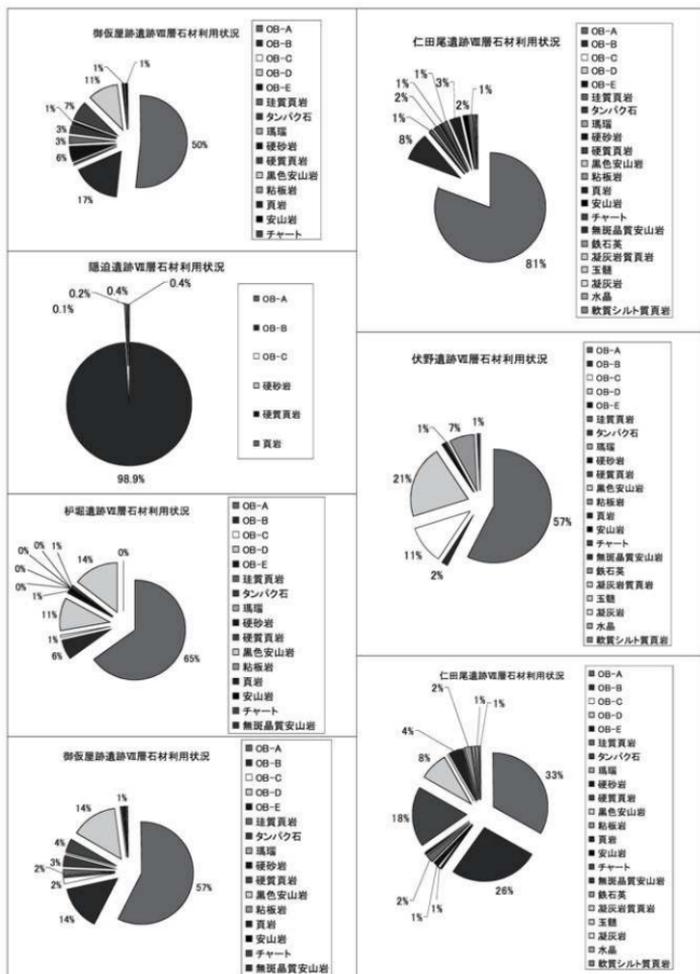
また、仁田尾遺跡VII層にみられる凝灰岩質頁岩製の細石刃核も特徴的である。鹿児島市の北部に位置する加菜山遺跡、加治屋園遺跡で大量に出土している資料であり、その西側への広がりを考える上で興味深いものである。珪質頁岩もおおくみられる石材であるが、細石器を中心に利用されている。

その他、瑪瑙、鉄石英、タンバク石等の石材も客体的に利用されており、付近との交流を示すものであろう。

ナイフ形石器文化期については仁田尾遺跡の極端な上半鼻産黒曜石への依存が特徴的である。ナイフ形石器、台形石器については、客体的に瑪瑙、硬質頁岩、黒色安山岩での製作が認められる。

表110 各遺跡の石材利用状況

石 材	伏野VII層	隠迫VII層	杵瀬VII層	御飯屋跡南区VII層	仁田尾VII層	仁田尾VIII層	御飯屋跡南区VIII層
OB-A	843	8	4751	1051	4126	1104	367
OB-B	26	2198	465	259	3236	114	119
OB-C	160	1	49	35	46		3
OB-D	306		803		140		
OB-E	2		81	6	144		41
珪質頁岩	1			35	280	15	20
タンバク石	1		15	64	59	25	20
瑪瑙	3		23	1	3	1	1
硬砂岩		5		2	27		4
硬質頁岩	4	3	47	82	2275	14	49
黒色安山岩	10		1053	264	1038	8	79
粘板岩	102					2	
頁岩	11	8	2	19	441	43	5
安山岩			1	8	8	22	5
チャート			1	3	51		1
無珪晶質安山岩			3		2		
鉄石英				5	280	8	
凝灰岩質頁岩					48		
玉髓			1		110	6	
凝灰岩					67	6	
水晶					3		
軟質シルト質頁岩					2	3	1



第318図 各遺跡の石材利用状況

3 狸谷型ナイフ形石器

(1) はじめに

仁田尾遺跡周辺ではⅧ層に薩摩火山灰、IX層以下に入戸火砕流堆積物が堆積し、入戸火砕流の二次及び風性堆積層とされるⅧ層から薩摩火山灰直下のⅧ層にかけて、ナイフ形石器文化や細石刀文化、縄文時代草創期の遺物群が濃密に展開する。同時にⅦ～Ⅷ層は良好な発露状況が見られ、Ⅷ層はa・b・cの3層に細分でき、a層に縄文時代草創期、b層以下に細石刀文化と台形形石器や小型の二側縁加工ナイフ形石器を主体とするナイフ形石器文化期の遺物を包含する。Ⅷ層では切出形ナイフ形石器を主体とするナイフ形石器が知られ、これらの成果を、層位毎及び遺跡間の系譜について桑波田が変遷図で示した。考察（P353～354）

ここではⅧ層の石器群に注目し、周辺及び周辺の遺跡との対比を行うことで位置づけてみたい。

本遺跡のⅧ層の石器群が、24ブロック14分布域(ユニット)を構成することは本文で明らかにした。次に、ブロック毎の器種構成検討(表61・62Ⅷ層ブロック観察表)からは、ナイフ形石器が突出していることも明らかにされ、また、個別ブロック内の遺物観察でもナイフ形石器製作を行っていた観察結果が得られている。なお、Ⅷ層のユニット毎の代表的構成器種を示すため、第319図を作成した。

上記したナイフ形石器は、いわゆる切出形石器で、さらに本文中で記したように「基部に繋がる短辺の内湾状整形はやや緩やかであるが、形状及び背部の急角度整形剥離や打面転移を頻繁に行った多面体石核から剥離された素材剥片を用いる規則性が抽出できる」ことから、「狸谷型ナイフ形石器」(松森1992)及びその変容形態と捉えられる。

この狸谷型ナイフ形石器(狸谷Ⅱ石器文化)に関して、発見当初からA-T降灰直後の代表的石器モデルとしての評価及びその個性的形態等から注目され、本県及び南九州の石器文化の動向とも関連づけて論じられ、近年具体的報告が成されるようになった。

(2) 分布

平成5年(1993)の仁田尾遺跡(国土交通省)でその存在が明らかとなり、その後、市来町今里遺跡、本遺跡Ⅷ層、御飯跡遺跡Ⅷ層、川内市前遺跡、金時町茶作遺跡と時間経過と共に増加してきている。今里遺跡と前遺跡では既に報告が成され、2004年に報告された茶作遺跡はその充実した内容が公表されている。

①今里遺跡Ⅷ層

東シナ海に迫り出す丘陵の内陸側の裾野に立地し、その標高は84m程度である。狸谷型ナイフ形石器が、三稜尖頭器や剥片尖頭器等と出土し、それらの同時性を強く示唆しているが、出土位置等の把握が不鮮明で資料価値を

減じている。

②前遺跡

高城川の支流、中間川と小幡川の開析で取り残されたシラス台地にあり、標高は72mである。狸谷型ナイフ形石器3点、二側縁加工ナイフ形石器1点、台形形石器2点、三稜尖頭器1点が報告される。層堆積には恵まれていないが、これらの中で狸谷型ナイフ形石器3点(1～3)と台形形石器1点(4)は出土位置も接近し同時性が高いと判断する。周知の狸谷型ナイフ形石器と比べ1～3のナイフ形石器の短辺の仕上げは直線的であるが、長辺部の急角度整形及び素材剥片の剥離技術等は共通する。また、上半鼻産の黒曜石(OB-A)を使用し、総じて大振りな仕上げを成す。4は台形形石器と報告されているが、剥片を素材としたもので製作上での連続性は見出せないことから台形形石器と認定したい。

③黄作遺跡

金峰町大坂、金峰山東南部に広がる標高210mの丘陵端部に位置する。Ⅷ層が薩摩火山灰、IX層が入戸火砕流二次堆積層で、その間のⅧ層が上下に細分された下位b層が包含層となる。礎群12基、遺物総数597点では2ユニット・6ブロックを構成し、2ユニットは東西に区分され、東ユニットを狸谷型ナイフ形石器群、西ユニットを両面加工尖頭器石器群で構成するとされる。報告では、西ユニットを九州切出形系ナイフ形石器文化或立直前段階、東ユニットを九州切出形系ナイフ形石器文化最古段階との編年観を呈示し、西ユニットが東ユニットに先行するとの見解を示しているが、西ユニットの器種認定に課題を残す。即ち、東西の2ユニットに時間を置く必要性は無く、器種構成からは同時性が何れ狸谷Ⅱ石器文化との近似性を強く示唆している。

頁岩を主体としたナイフ形石器群は総じて大振りな形状で、1463・1743等の短辺が直線的に仕上げられる等若干の変異は存在するが、背部の急角度整形剥離や基本形状の狸谷型ナイフ形石器の特徴は堅持されている。また、素材剥片が多面体石核から取り出されること、さらに1743の部分加工ナイフ形石器や704や865の搔器の存在も近似性を強調するもので、狸谷Ⅱ石器文化との時間的並行関係色濃く示している。

④国土交通省仁田尾遺跡

Ⅷb層に40か所のブロックを確認し、1万点を越す遺物が出土していると考えられる。石器組成は、狸谷型ナイフ形石器と台形形石器を主体に、少数の三稜尖頭器と剥片尖頭器及び搔器、削器等で構成するとされる。とりわけ狸谷型ナイフ形石器及び台形形石器と三稜尖頭器、剥片尖頭器の相伴が強調されている。

⑤本遺跡(仁田尾遺跡)

Bブロックを主体とするⅢ地区からは、6点の狸谷型ナイフ形石器と2点の部分加工ナイフ形石器及び剥片尖

頭器1点が出土している。狸谷型ナイフ形石器の2点(8・9)については、刃部が直刃を呈すことから台形椀石器と呼び分けている。なお、11の部分加工ナイフ形石器や剥片尖頭器との組み合わせは、狸谷II石器文化と通じる。なお、4点の狸谷型ナイフ形石器はOB-Aが使用される。

Q-Xブロックで構成するXI地点からは、「刃縁と器身の長軸の交わり」が鈍くなっているが、5点の狸谷型ナイフ形石器が出土している。なお、4点はOB-A類を使用する。

M-Pブロックで構成するX・XI地点では、2点の狸谷型ナイフ形石器、台形椀石器1点と2点のハンマーストーンが出土し、ナイフ形石器にはOB-Aを使用する。

E・Fブロックで構成するIV地点からは、4点の切出形と2点の部分加工のナイフ形石器(17・26)が出土し、切出形ナイフ形石器の2点(22・23)は狸谷型ナイフ形石器と見られる。なお、25の小收3A型尖頭器に関しては、出土状況は同時に強く印象づけている。また、OB-Aを多用する。

C・Dブロックで構成するII地区では、切出形1点と部分加工のナイフ形石器2点の確認で、いわゆる狸谷型ナイフ形石器は見られないが部分加工ナイフ形石器や剥片剝離や石器組成は、狸谷型ナイフ形石器を保有するIV地区と共通する。

(3) まとめ

以上、本遺跡では狸谷型ナイフ形石器を中心に、所謂切出形ナイフ形石器に大きく依存した石器組成が形成できる。また、剥片尖頭器及び11・17・26等の部分加工ナイフ形石器等は狸谷II石器文化との類似性・近似性を示すが、他方、三稜尖頭器や搔器及び台形石器・台形椀石器の欠落・欠乏に関しては、本遺跡に帰結するか否か検討すべき課題である。さらに、本遺跡で新に提起された小收3A型尖頭器との共存性も継続すべき課題となる。なお、国土交通省仁田尾遺跡とは隣接することもあり、剥片尖頭器との共存性は補強されるが、三稜尖頭器との共存は本遺跡に無い事例で、お互いの正式報告を基に改めた検証が求められる。本遺跡を含め、上記の遺跡は全て薩摩半島に分布していることとなる。

一方、大隅半島に関しては近年の大規模調査により、切出形ナイフ形石器等の新たな石器群の存在が明らかにされてきている。福山城ヶ尾遺跡第I文化層、前原和田遺跡XVI層では、共に在地系の結實頁岩製の切出形ナイフ形石器と台形石器(台形椀石器)の石器組成が知られるが、狸谷型ナイフ形石器との関係は極めて曖昧で、むしろ、台形石器群の動向に注目せざるを得ない。九寮岡遺跡や刺木耳取遺跡の報告も加わり、桜島起源のP-17を介した石器群の動向が鮮明となりつつあり、また、宮

崎県内の牧内第1遺跡や長園原遺跡等複数の遺跡で狸谷型ナイフ形石器が明らかになってきていることから、大隅地域も巻き込まれることとなる。

狸谷型ナイフ形石器はその発見以来、常にA-T降灰後の社会復元やその出自等が注目されてきているが、本遺跡周辺(国土交通省仁田尾遺跡を含む)及び箕作遺跡等の近年の調査実績からは、これらの地域が一大拠点である可能性も展望できる状況に達している。あわせて、狸谷型ナイフ形石器を含む切出形石器群が、これらの地域でいち早く展開した可能性も見えてくる。

①松森和人「南九州における始良Tn火山降灰下直後の石器群の評価を巡って」『考古学と生活文化』同志社大学考古学シリーズ1992

②狸谷遺跡「熊本県文化財調査報告第90号」1987

③「第II収斂方家追跡の調査」『大野地区遺跡群発掘調査報告書』大野町教育委員会1992

④人吉市狸谷遺跡や大野町方家追跡の発見以後、この狸谷型ナイフ形石器は注目されることとなり、A-T降灰直後の石器群の検討を促し、本崎氏の九州石棺文化論や萩原氏の南九州技術革新論、安宿氏の2項性に基づく剥片モードの切出形石器類の展開による台形椀石器群の新たな展開予測等を提唱推進してきている。本県の石器群も上記の論功に巻き込まれながら進められてきたが、石器群として具体的にその存在が明らかにされたのはこの仁田尾遺跡を中心とした周辺遺跡の調査からである。

⑤本崎康弘「九州石棺文化の展開と細石器文化の出現」『九州旧石器』第3号1997

⑥萩原博文「ナイフ形石器石器文化後半期の集団領域」『考古学研究』第51巻第2号2004

⑦今里遺跡「鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書56」『鹿児島県立埋蔵文化財センター』

⑧前畑遺跡「鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書56」『鹿児島県立埋蔵文化財センター』2003・3

⑨箕作遺跡「金峰町埋蔵文化財発掘調査報告書18」『金峰町教育委員会』2004・3

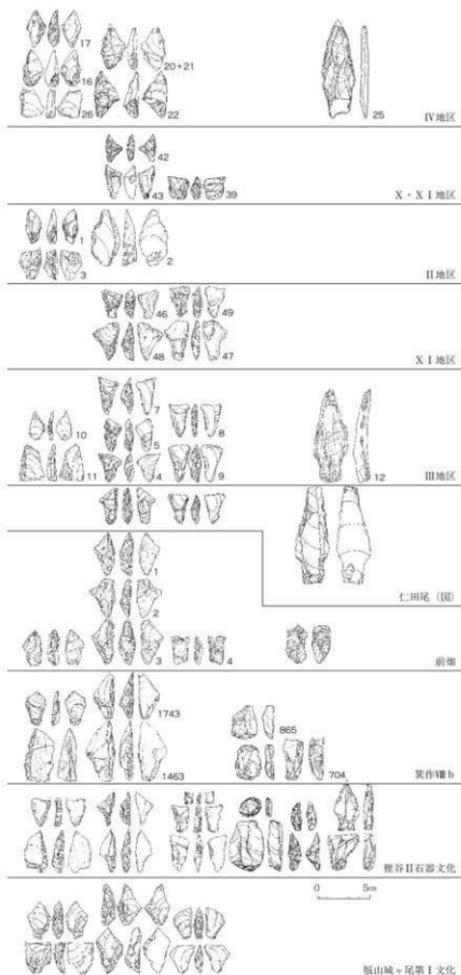
⑩ユニット石器群が東ユニット石器群に先行すると判断根拠は、両面加工尖頭器や三稜尖頭器等の尖頭器製作技術基盤があるとし、数点が尖頭器の未製品として抽出されているがその認定に課題を残す。

⑪宮田栄二「鹿児島県日置郡松元町仁田尾遺跡」『日本考古学協会』No47・1994

⑫福山城ヶ尾遺跡「鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書60」『鹿児島県立埋蔵文化財センター』2003・3

⑬前原和田遺跡「鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書56」『鹿児島県立埋蔵文化財センター』2002・3

⑭福山城ヶ尾第I文化層は第XV層に包含され、P-17の



第319回 狸谷型ナイフ形石器相関図

上位にあたる。前原和田遺跡XVI層中にP-17が確認される。切出形ナイフ形石器の他、桐木遺跡第3・8遺物集中部及び桐木耳取遺跡第10・11・16エリアでは台形様石器が単独に出土する傾向が見られ、その位置づけも検討する必要がある。

⑨桐木遺跡「鹿児島県立理蔵文化財センター発掘調査報告書75」「鹿児島県立理蔵文化財センター」2004・3

⑩桐木耳取遺跡「鹿児島県立理蔵文化財センター発掘調査報告書91」「鹿児島県立理蔵文化財センター」2005・3

⑪安齋正人「台形様石器と台形石器—台形様・ナイフ形石器石器群(3)—」「九州旧石器第4号」2000

年代測定結果報告書

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用しています。
- 2) BP年代値は、1950年からさかのぼること何年前かを表しています。
- 3) 付記した誤差は、次のように算出しています。
複数回（通常は4回）の測定値について χ^2 検定を行い、通常報告する誤差は測定値の統計誤差から求めた値を用い、測定値が1つの母集団とみなせない場合には標準誤差を用いています。
- 4) $\delta^{13}\text{C}$ の値は、通常は質量分析計を用いて測定しますが、AMS測定の場合に同時に測定される $\delta^{13}\text{C}$ の値を用いることもあります。
 $\delta^{13}\text{C}$ 補正をしない場合の同位体比および年代値も参考に掲載しておきます。

同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差（‰；パーミル）で表したものです。

$$\delta^{14}\text{C} = \left[\frac{{}^{14}\text{A}_s - {}^{14}\text{A}_n}{{}^{14}\text{A}_n} \right] \times 1000 \quad (1)$$

$$\delta^{13}\text{C} = \left[\frac{{}^{13}\text{A}_s - {}^{13}\text{A}_{\text{PDB}}}{{}^{13}\text{A}_{\text{PDB}}} \right] \times 1000 \quad (2)$$

ここで、 ${}^{14}\text{A}_s$ ：試料炭素の ^{14}C 濃度： $(^{14}\text{C}/^{12}\text{C})_s$ または $(^{14}\text{C}/^{13}\text{C})_s$

${}^{14}\text{A}_n$ ：標準現代炭素の ^{14}C 濃度： $(^{14}\text{C}/^{12}\text{C})_n$ または $(^{14}\text{C}/^{13}\text{C})_n$

$\delta^{13}\text{C}$ は、質量分析計を用いて試料炭素の ^{13}C 濃度（ ${}^{13}\text{A}_s = {}^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ ）を測定し、PDB（白亜紀のペレムナイト（矢石）類の化石）の値を基準として、それからのずれを計算します。

但し、IAAでは加速器により測定中に同時に $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ も測定していますので、標準試料の測定値との比較から算出した $\delta^{13}\text{C}$ を用いることもあります。この場合には表中に（加速器）と注記します。

また、 $\Delta^{14}\text{C}$ は、試料炭素が $\delta^{13}\text{C} = -25.0$ （‰）であるとしたときの ^{14}C 濃度（ ${}^{14}\text{A}_s$ ）に換算した上で計算した値です。（1）式の ^{13}C 濃度を、 $\delta^{13}\text{C}$ の測定値をもとに次式のように換算します。

$${}^{14}\text{A}_s = {}^{14}\text{A}_n \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C} / 1000))^2 \quad ({}^{14}\text{A}_s \text{として } ^{14}\text{C}/^{12}\text{C} \text{を使用するとき})$$

または

$$= {}^{14}\text{A}_n \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C} / 1000)) \quad ({}^{14}\text{A}_s \text{として } ^{14}\text{C}/^{13}\text{C} \text{を使用するとき})$$

$$\Delta^{14}\text{C} = \left[\frac{{}^{14}\text{A}_s - {}^{14}\text{A}_n}{{}^{14}\text{A}_n} \right] \times 1000 \quad (\text{‰})$$

貝殻などの海洋が炭素起源となっている試料については、海洋中の放射性炭素濃度が大気中の炭酸ガス中の濃度と異なるため、同位体補正のみを行なった年代値は実際の年代との差が大きくなります。多くの場合、同位体補正をしない $\delta^{13}\text{C}$ に相当するBP年代値が比較的良好にその貝と同一時代のものと考えられる木片や木炭などの年代値と一致します。

^{14}C 濃度の現代炭素に対する割合のもう一つの表記として、pMC（percent Modern Carbon）がよく使われており、 $\Delta^{14}\text{C}$ との関係は次のようになります。

$$\Delta^{14}\text{C} = (\text{pMC} / 100 - 1) \times 1000 \quad (\text{‰})$$

$$\text{pMC} = \Delta^{14}\text{C} / 10 + 100 \quad (\text{‰})$$

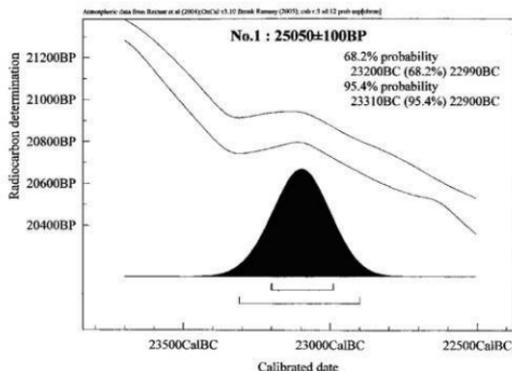
国際的な取り決めにより、この $\Delta^{14}\text{C}$ あるいはpMCにより、放射性炭素年代（Conventional Radiocarbon Age；yrBP）が次のように計算されます。

$$T = -8033 \times \ln \left[\frac{\Delta^{14}\text{C}}{1000} + 1 \right]$$

$$= -8033 \times \ln (\text{pMC} / 100)$$

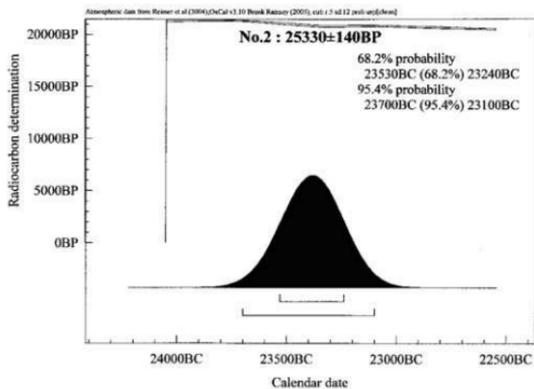
IAA Code No.	試料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-50772	試料採取場所：御仮屋跡遺跡	Libby Age (yrBP) : 25,050 ± 100 $\delta^{13}\text{C}$ (‰), (加速器) = -28.93 ± 0.89 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -955.8 ± 0.6 pMC (%) = 4.42 ± 0.06
	試料形態：炭化物 試料名(番号)：No. 1 (参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -956.1 ± 0.5 pMC (%) = 4.39 ± 0.05 Age (yrBP) : 25,110 ± 100
IAAA-50773	試料採取場所：御仮屋跡遺跡	Libby Age (yrBP) : 25,330 ± 140 $\delta^{13}\text{C}$ (‰), (加速器) = -31.12 ± 0.93 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -957.3 ± 0.7 pMC (%) = 4.27 ± 0.07
	試料形態：炭化物 試料名(番号)：No. 2 (参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -957.8 ± 0.7 pMC (%) = 4.22 ± 0.07 Age (yrBP) : 25,430 ± 140
IAAA-50774	試料採取場所：御仮屋跡遺跡	Libby Age (yrBP) : 25,120 ± 120 $\delta^{13}\text{C}$ (‰), (加速器) = -22.67 ± 0.97 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -956.2 ± 0.6 pMC (%) = 4.38 ± 0.06
	試料形態：炭化物 試料名(番号)：No. 3 (参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -956.0 ± 0.6 pMC (%) = 4.40 ± 0.06 Age (yrBP) : 25,090 ± 120

【参考値：暦年補正 Radiocarbon determination】



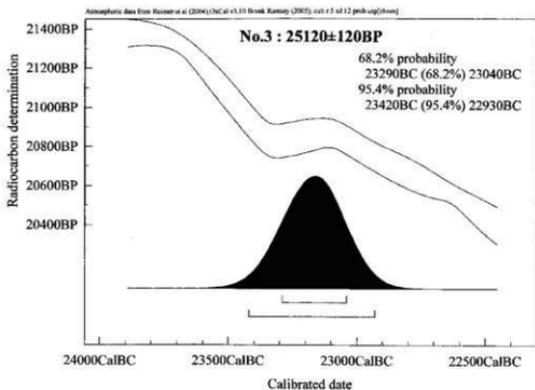
実行プログラム：OxCal v3.10

【備考値：暦年-補正 Radiocarbon determination】



使用プログラム：OxCal v3.10

【備考値：暦年-補正 Radiocarbon determination】



使用プログラム：OxCal v3.10

御仮屋跡遺跡試料に伴う分析工程

【処理法】

1. メス、ピンセットを用いて適量を採取した。この際、付着していた土をできるだけ除去した。試料の内部より採取した。
2. 1 Nの塩酸を用いて、80℃で数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈した。
3. 0.001～1 Nの水酸化ナトリウム水溶液を用いて数時間処理した。その後、超純水で中性になるまで希釈した。
4. 1 Nの塩酸を用いて、80℃で数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈した。なお、酸・アルカリ処理後の希釈の際には遠心分離法を用いた。
5. 試料を80℃で乾燥させた。
6. 試料を1 gの酸化銅と共に、外径9 mm、長さ30cmの石英管に入れ、真空下で封じ切った。
7. 6を500℃30分、850℃2時間で加熱し、試料中の炭素を二酸化炭素にした。
8. 真空ライン中で冷媒を用いて、二酸化炭素を精製した。
9. 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイトにした。
10. 得られたグラファイトを、内径1 mmのアルミニウム製の容器にハンドプレス機で詰め、ターゲットとした。

【測定】

測定機器は、134試料装填可能なイオン源が設置された、3MV小型タンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置 (NECPelletron9SDH-2) を使用する。

AMS測定時には、標準試料である米国国立標準局 (NIST) から提供されるシュウ酸 (HOX-II) とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定では加速器により測定と同時に13C/12Cの測定も行うため、この値を用いて $\delta^{13}C$ を算出する。

【放射性炭素年代算出法】

1. 加速器を用いて微量炭素の同位体比分析を行う。
2. 定量は14C測定の標準試料である米国国立標準局 (NIST) から提供されるシュウ酸 (HOXII) を用いている。
3. 放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。測定年代は1950年を基点とした年代 (BP) であり、誤差は、複数回の測定値について X^2 検定を行い、測定値のばらつきが小さい場合には測定値の統計誤差から求めた値を用い、ばらつきが大きい場合には統計誤差を用いています。
4. 暦年較正はOxCalVer3.10を用いています。

X ま と め

仁田尾遺跡

旧石器時代

礫群は、Ⅷ層で27基、Ⅶ層で1基を検出している。礫群は、炭化物の分布を伴うものはほとんど確認できず、その用途については明確ではない。礫群の具体的構造は、椀形の掘り込み遺構が構築され遺構内に礫が詰め込まれるもので、その周辺には礫が残され礫が一定の群をなすものと散在するものがある。また、掘り込み遺構の位置は礫群の端部に見られるものが多い。ここでは礫群の3つの分類を提示したが、Ⅰ類礫群が上記の具体的構造に当てはまる。Ⅲ類礫群も一定の範囲を確保していることから、礫群として認定が可能であるが、Ⅱ類礫群の崩壊がさらに進行したもの、あるいは礫群の残骸と思われる。Ⅷ層の礫群の配置については、第142～第144図に示した。27基のうち19基が南区に集中し、同レベルで検出した礫群が北もしくは北東方向に並ぶことが観察できる。また、Ⅲ地区では9・10・11・14・16号礫群とはほぼ同じレベルで中央部に配石が状遺構を検出している。この配石が状遺構の南部に位置する9～11号礫群及び北部に位置する13・16号礫群ではそれぞれの遺構間で礫が接合している。16号礫群を除き他はほぼ全て安山岩で構成されていることから、何らかの関係が伺えるが、残念ながらこの配石が状遺構と周辺の礫群を構成する礫との遺構間接合は確認できず、結論を導き出せなかった。北区ではⅧ区で10m四方内に6基の礫群が集中して検出されていることが注目されるが、ここでも、遺構間での礫の接合は確認できなかった。Ⅶ層では、礫群の他に1基ではあるがⅢ地区から落ち穴状遺構が検出されている。長軸に対しほぼ並行に3列、計12という多くの逆茂木痕が見られることが特徴といえる。逆茂木痕の深さは15～23cm、平均は19cmである。

石器については、Ⅷ層では、24基のブロックが確認された。ブロック数の割に、定型石器はさほど多くないが、切出形ナイフ形石器を中心とした石器群がまとまりよく検出されている。切出形ナイフ形石器はいずれも「狸谷型ナイフ形石器」(松浦1992)の範疇に含まれるもので、松浦の定義に照らし合わせてみると、いずれも短辺の内弯状の成形が弱い点に特徴がある。組成としては、台形石器、剥片尖頭器、小槍3A型尖頭器が出土しており、台形石器を除いては、いずれも当調査区内においては単体の出土である。ただし、小槍3A型尖頭器については、隣接する西回り自動車道建設に伴って調査された仁田尾遺跡と同層より粘板岩製品を出土しており、出土地点も近接しているため、接合こそしなかったものの、関連するものと判断してよい。以上の石器組成は、これまで小槍3A型尖頭器の出現は剥片尖頭器盛行期に位置づけら

れていたが、狸谷型ナイフ形石器の段階まで一つ廻る可能性を示すものである。

Ⅶ層では、19基のブロックが確認された。複数の地区をまたがって出土している細石刃核の形態は多様であるが、抽出できる特徴としては、新相のものが多く含まれるということである。具体的には福井型細石刃核、加治屋園型細石刃核、船野型細石刃核、加栗山型細石刃核などであり、石鏃も多く出土している。福井型細石刃核はいずれも在地産の黒曜石を利用して製作されており、西九州からの石材、技術的な影響を受け、その後在地の石材で適応していることを示すものである。石鏃は硬質真岩製のものが圧倒的に多く、形態は、ほぼ平基の二等辺三角形鏃である。また、微隆起線文土器、土器の無文部も出土している。これらの共存関係については今後もいくつかの分析を経る必要があるが、C、Eブロックの共存事例から、在地の石材で製作した福井型細石刃核、石鏃、土器が伴っている状況として捉えておきたい。また、この福井型細石刃核に伴って、船野型細石刃核、加治屋園型細石刃核、加栗山型細石刃核も伴う可能性が高いとも言える。なお、福井型細石刃核については横井竹ノ山遺跡で、船野型細石刃核については舩地遺跡で、加治屋園型細石刃核や加栗山型細石刃核については加栗山遺跡でそれぞれ石鏃との共存があり、いずれも新相の細石刃核に属することは見解の一致みている。今後はまとまった平基二等辺三角形鏃との関係について更に分析を進めていく必要がある。また、加治屋園型細石刃核については、打面の形成技術について、福井型細石刃核の影響を考えられる。

縄文時代

Ⅰ類土器は草創期の隆帯文土器の一群であり、鹿児島市の掃除山遺跡や種子島の奥ノ仁田遺跡や三角山遺跡で周知されたものである。層位からも細石器文化に近い時期のものであることは確実である。関東地方などで出土する隆帯文土器とは承諾が異なる考え方もあるが、その古さにもいまだに疑問を持つ研究者がいる。南九州でこれだけ多量に、また薩摩火山灰下から出土することで、自らの科学的姿勢を問い直してもらいたいと考える。

Ⅱ類土器からⅦ類土器は、アカホヤ火山灰層の下位で、薩摩火山灰層の上位から出土した早期の土器群である。Ⅱ類土器は貝殻円筒土器の一群で、Ⅱa類が岩本式土器、Ⅱb類が前平式土器に、Ⅱc類が石板式土器に比定され、Ⅲ地区のV層を中心に出土している。Ⅲ類土器は押型土器の地域変容型式である手向山式土器の一群であると考えられる。量的には少なく、遺跡の全体から少しづつと出土する。Ⅳ類土器は平術式土器である。XⅠ地区に出土している。Ⅴ類土器は塞ノ神式土器の中の貝殻文

系の一群である。偏年の位置づけは議論のあるところである。III地区を中心に出土している。この遺跡では編目燃承文の塞ノ神式土器は出土していない。VI類土器は苦浜式土器で、VII類土器は早期の条痕文系の土器で、右京西土器と関連が考えられる。V類土器とVI類土器とVII類土器型式論的に連続性が指摘される土器群である。III地区で微妙に位置が異なっている。

VIII類土器からXII類土器は、アカホヤ火山灰層の上位から出土する土器群である。VIII類土器は轟式土器の範疇に入る。轟B式土器といわれる一群である。IX類土器は管畑式土器である。管畑式土器では新しい型式の土器群と考えられる。VI地区やX I地区など遺跡の北側で出土している。X類土器は深浦式土器で、III地区で出土したほぼ1個体と数片が出土した。XI類土器は条痕文土器の一群である。VII地区で出土している。この土器は轟式土器として扱われ前期とされてきたが、一俣松山遺跡で管畑式土器の上層から出土し、桐木耳取遺跡では船元系土器との並行関係が提示されており、中期前半に位置づけられる可能性が高い。XI-XII類土器は中期・後期・晩期などの土器である。

石器については、それぞれ層で石材によりブロックがあり、各層のブロックが土器の集中箇所と一致するものがある。必ずしも散布箇所の一致が同時代性を表すものではないが、土器の使用場所と石器製作場所が異なるならそれはそれで、石材分布のブロックは有用な情報である。III地区のIV層出土の無班品質安山岩の分布位置が2つに分かれる。V類土器とVI類土器がおなじく2つに分かれることは暗示的である。それぞれが、塞ノ神式土器や苦浜式土器との関係が伺われる。また、VII地区のOB-Cのブロックは、XI類土器しか接近しない。ここら辺の判断は慎重を期すか今後の資料の増加を待たたい。

伊堀遺跡

VIII層は、遺物量が少なく、台形石器、ナイフ形石器、三枚尖頭器、甲石が散出したのみであった。

VII層からは、20基のブロックが確認され、異なる3つの様相が提示された。1つめは、A-Gブロックにおける福井型細石刃核を中心とする様相である。これらのブロックからは、西北九州産の黒曜石を使用し、明確なスボールを伴う福井型細石刃核による細石刃の製作が明らかとなった。県内において、純粋な福井型細石刃核の製作が確認されたのは初めてであり、細石器文化終末期の西北九州との交流を考える上で貴重な資料となった。出土資料の特徴として、打面作りのためのスボールが大型であるのに対し、細石刃核は小型であることがあげられる。この事象を理解するのには、2つの仮説がたてられる。1つのは、8は、出土した小型の細石刃核と、大型のスボールは異なる個体の産物であるという理解である。

もう1つの仮説は、両者は同一母岩の産物として一連の工程で生じたものであるが、ブロックが一部削平されているため、接合が不可能であったという理解である。2つめは、H-Lブロックにおける在地の黒曜石を利用した野岳・休場型細石刃核と福井型細石刃核の石器群である。両者の関連については今後の検討が必要であるが、福井型細石刃核の技術が在地の石材で適用されている点は注目される。3つめは、M-Tブロックにおける在産の石材を使用した石核群である。これらの石核群は、小型の剥片を目的としているものであるが、目的剥片をもとにした製品の出土がまったくみられない。位置づけが困難な石器群である。A-Gブロックの福井型細石刃核に伴う他器種の素材を目的とした石核であるか、時期の異なる石核であるかについては不明である。現時点では、石材が異なるもの、真岩製のナイフ形石器が1点みられること、終末期のナイフ形石器製作に伴う石核に類似する資料が含まれる点などから、ナイフ形石器文化終末期の石核と位置づけて、A-Lブロックの細石刃核群とは分離しておきたい。本文中でも述べたが、これら3つの石器群が異なる分布域を示す点には興味深いものである。

縄文時代

I類土器からIII類土器は、IV・V層から出土した早期の土器であるが絶対量は少ない。I類土器は、貝殻文系円筒土器の一群で、I a類が岩本式土器に、I b類が前平式土器の永野・志麻頭タイプに、I c類が加栗山式土器と小牧3 Aタイプに、I d類が石坂式土器に比定され、F-18・19区-H-16-19のIV層から大部分が出土している。II類土器は、早期後葉の一群でそれぞれ数点が出土した。II a類は、押型土器の手向山式土器に分類され、II b類は、早期後葉の土器でII a類に属さないものを扱った。33は、平成13年度に報告されたNo343の土器と接合したことからいわゆる妙見式土器に比定される。No343は、口唇部に羽状のキザミを巡らし、口縁部は大きく外反し、胴部にわずかな脹みをもちながら底部に移行する器形である。施文の特徴は、頸部の文様帯をさきんて頸部から胴部にかけて棒状工具による短沈線を斜めに並列させて羽状とした文様を施文する。頸部と胴部に横の沈線が3条巡り、これが口縁部と胴部及び胴部の上半部と下半部の区画施文となっている。また、胴部下半部には、キザミの施された突帯が縦につく。内面調整は、横方向にナデであり、胎土中に雲母を多く含む。III類土器は、塞ノ神式土器で円筒部に燃承文を持つ土器と貝殻施文の土器が出土している。

IV類土器-VI類土器は、アカホヤ火山灰層の二次堆積層から出土した前期の土器で、IV類は、轟式土器と目され、68は、H-5区とH-17区間で接合した。V類土器は、管畑式土器で短沈線の施文が明瞭に伺い知れる。VI

類土器は、深溝式土器の範疇に属するものと考えられる。VII類土器は、晩期の深鉢形と浅鉢形の土器で、黒川式土器に分類され11地点に出土している。

弥生・古墳時代

弥生時代終末期の中津野式土器が日-17区を中心に出土している。1の外面の煤の付着位置を見ると、口縁部のみで胴部には見られない、また6は、煤が口縁部のみに付着していることから、使用方法、または機能的な要因によるものと考えられる。

御飯屋跡遺跡

調査区は北区と南区に分かれる。遺構は礫群が南区から5基検出されており、いずれも炭化物の範囲が認められる。特に2・3・5号礫群はほぼ同じレベルで隣接しているため、礫群を再構築した可能性も考えられるが、いずれかの礫群の残骸、あるいは崩壊の運んだものである可能性もある。

遺物については、北区は斜面にあり層堆積が薄いため、様々な時期の遺物が混在しており、一括資料としての認定は困難である。副片尖頭器の時期から、終末期の小型ナイフ、細石器までの遺物が出土している。南区では層堆積がしっかりしており、層ごとの文化層としての把握が可能である。

AT下位からは切出形ナイフ形石器が出土し、当資料は喜入町給地遺跡に類似資料があり、時期的に近接していることを併せて、薩摩半島中央部の当地地で確実にAT下位の段階で生活していた人々がいたことを示す貴重な資料である。AT直上からは台形石器、切出形ナイフ形石器が出土しており、台形石器の製作過程のわかる接合資料は特筆される。ナイフ形石器文化終末期のナイフ形石器は様々な形態の資料が確認された。細石器文化期の遺物は少量であるが、石核整形の省略された細石刃が確認された。様々な形態が出土しているが、中心となるのは野舌・休場型細石刃核である。当遺跡の特徴としては細石刃が限内の既出の資料に比べて相対的に大型であることである。

隠迫遺跡

旧石器時代の資料は少なく、ナイフ形石器文化期から細石器文化期の遺物が確認された。

縄文時代

I類、II類の土器は、早期後葉に位置付けられる。I類は押型文土器の手向山式土器の一群で、それぞれ個体別の出土であり、文様構成により7つに細分類した。なかでもIa類は、山形の押型文を持つもので、6は、押型文の施文後にナデられ、その後口唇部と屈曲部の突帯が貼り付けられている。Ib類は、山形押型文施文後に沈線が施される。Ic類は、微隆帯が施され、Id類は

沈線文のみの施文、Ie類は、キザミの原体使用、If類は、ヘラ状工具による沈線文様の施文を施した後、器面全体をナデ消し、その後尖った工具で線刻状の文様を施している。II類土器は、平筒式土器に分類される。

III類~IV類土器は、前期に該当し、V類は後期、VI類は晩期に該当する。III類は、轟式土器と目される。IV類は、曾細式土器に比定され底部を除きほぼ完形で、胴部の文様構成には文様帯による違いが少ない。V類土器は、後期の指宿式土器に分類される。VI類は晩期の深鉢である。

古墳時代以降

古墳時代の遺物は、包含層残存範囲の中では北側部分から出土し、古墳時代後半の特徴を有している。古代も同様に土師器の甕、坏、椀及び須恵器の甕、壺等が出土しているが絶対量が少ない。

伏野遺跡

ナイフ形石器文化期については今時型ナイフ形石器に類似する資料、台形石器、三稜尖頭器が出土している。ナイフ形石器文化期の遺物であるが、層位的には今回報告した他の遺跡のナイフ形石器文化期の遺物(VIII層)より上位の層(VIIb層)で出土しており、ナイフ形石器文化期の石器群の変遷を考える上で貴重な資料である。

細石器文化期については、3か所のブロックが確認され、在地の黒曜石によるもの、佐賀県豊産黒曜石によるもの、長崎県針尾産黒曜石に類似するものである。細石刃核こそ検出されていないもの、榊塚遺跡でまともな確認された針尾産類似黒曜石による細石刃製作の痕跡が確認された。接合資料では細石刃核整形剥片と思われる接合が確認され、当遺跡においては針尾産黒曜石を使用した細石刃の生産活動が行われていることが判明した。

松藤和人1992「南九州における始良 Tn 火山灰直後の石器群の評価をめぐって」[考古学と生活文化]

伏野遺跡図版



調査風景
調査風景



土坑完掘狀況
完掘狀況

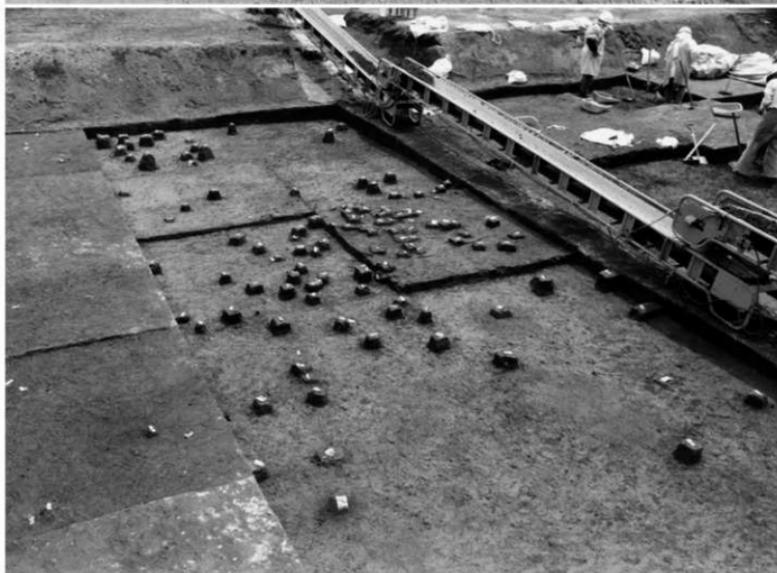


①Ⅷ a 層遺物出土状況 ②遺物出土状況
③遺物出土状況

④遺物出土状況



隱 迫 遺 跡 凶 版

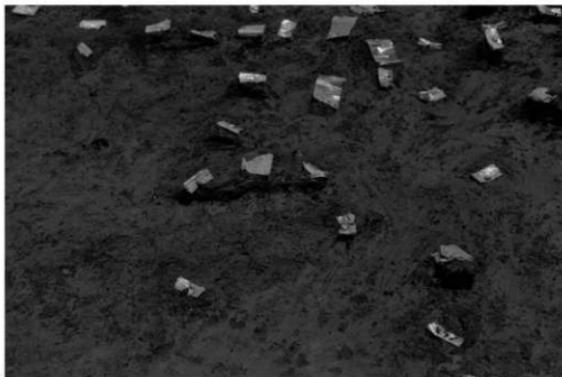


隠迫遺跡近景
ブロック検出状況



遺物出土状況
B-3区西壁土層断面

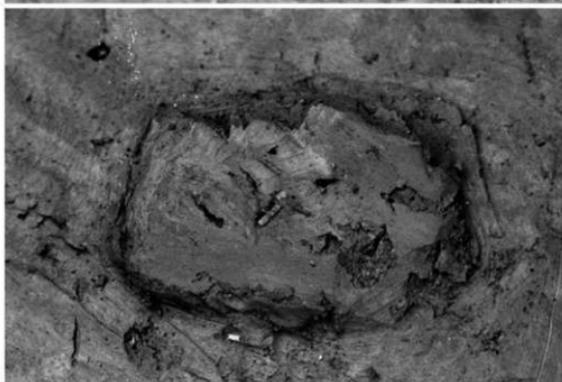
遺物出土状況



8 トレンチ遺物出土状況



8 トレンチ遺物出土状況



図版4



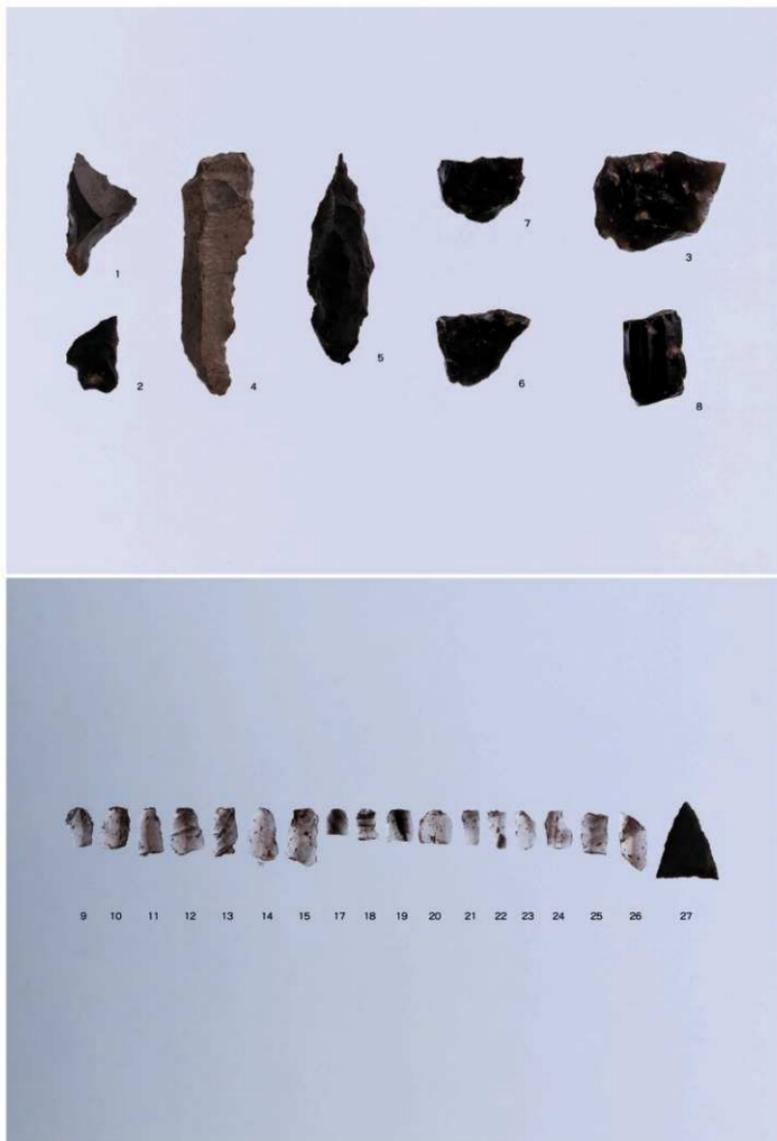
遺物出土状況



遺物出土状況



調査風景

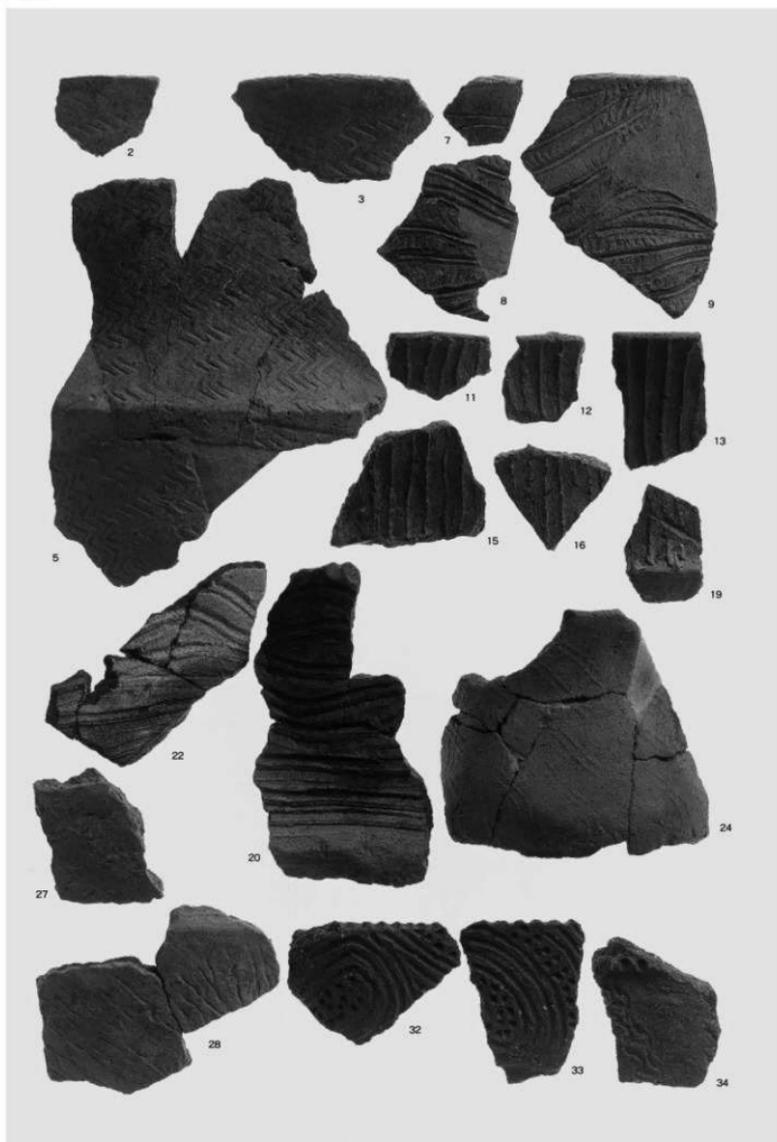


旧石器时代石器



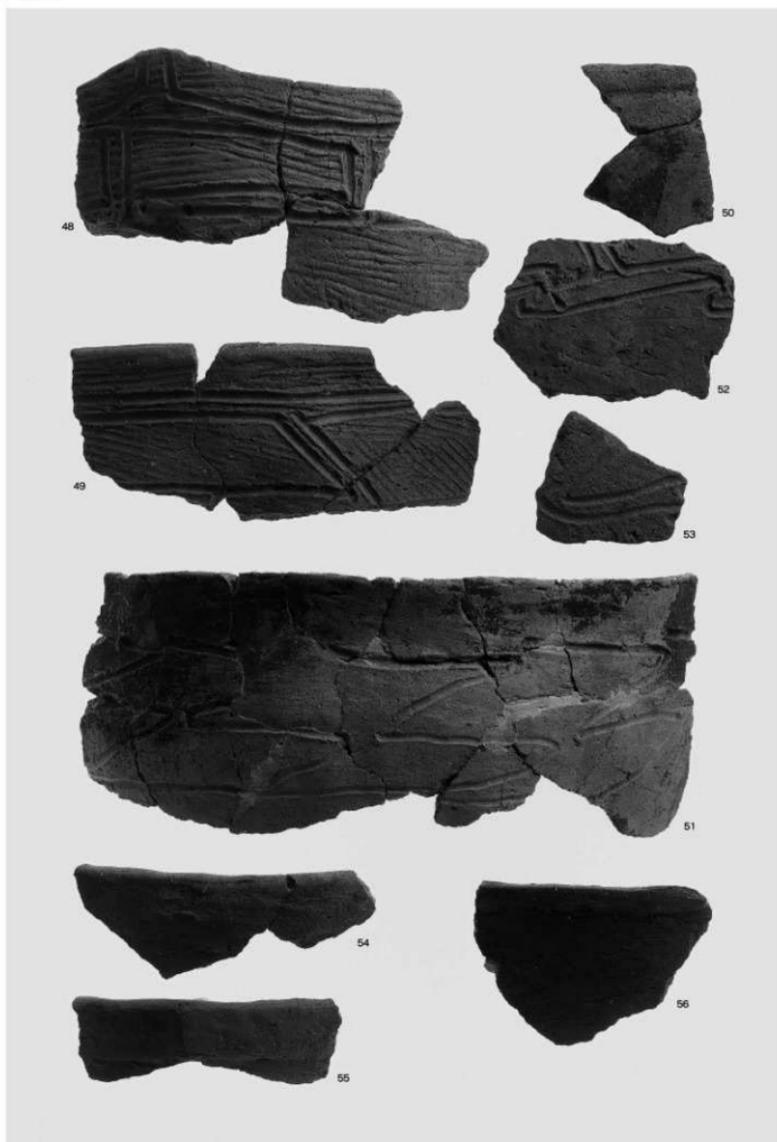


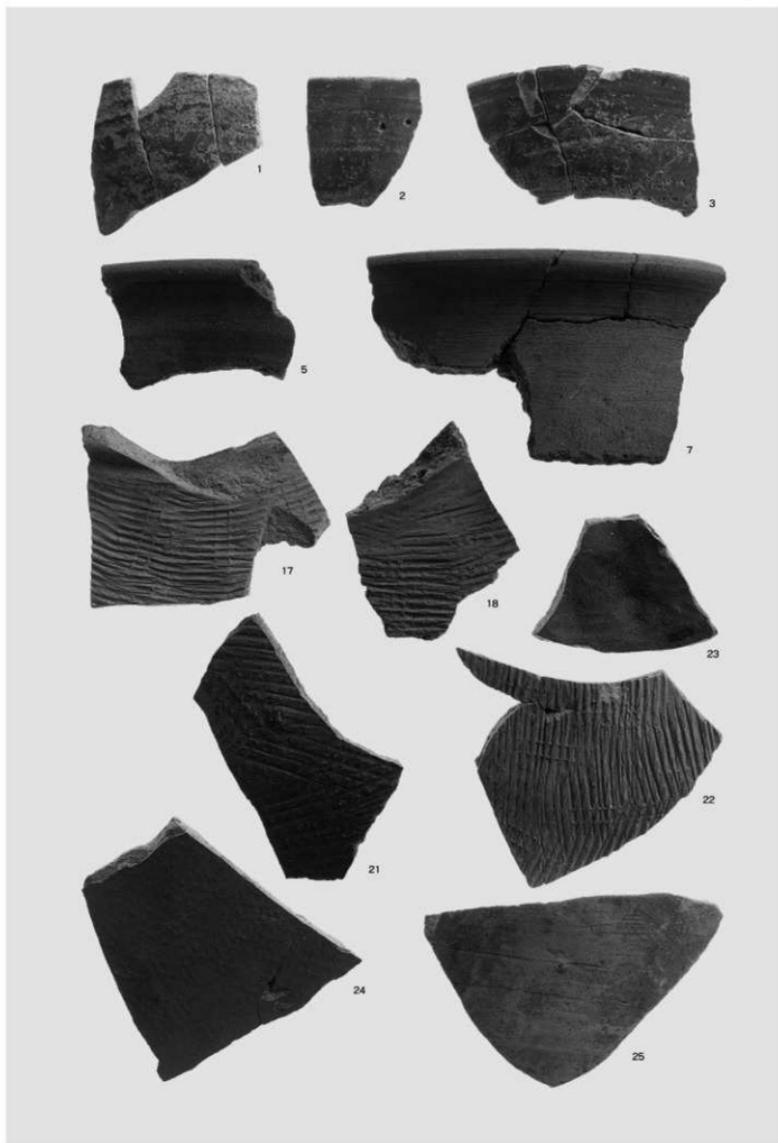
縄文時代土器 (2)



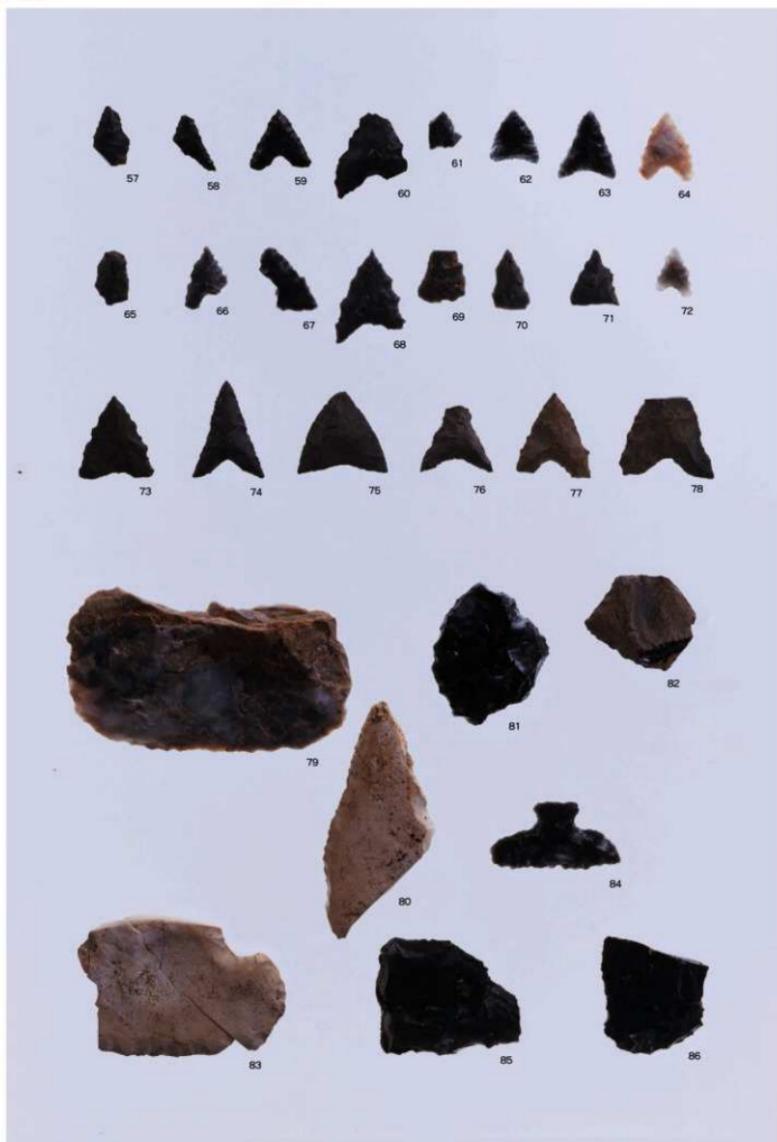


縄文時代土器（4）





古代土器



縄文時代石器 (1)



縄文時代石器（2）



99
100 93
98 96
97 95
94

縄文時代石器（3）

栢 堀 遺 跡 図 版

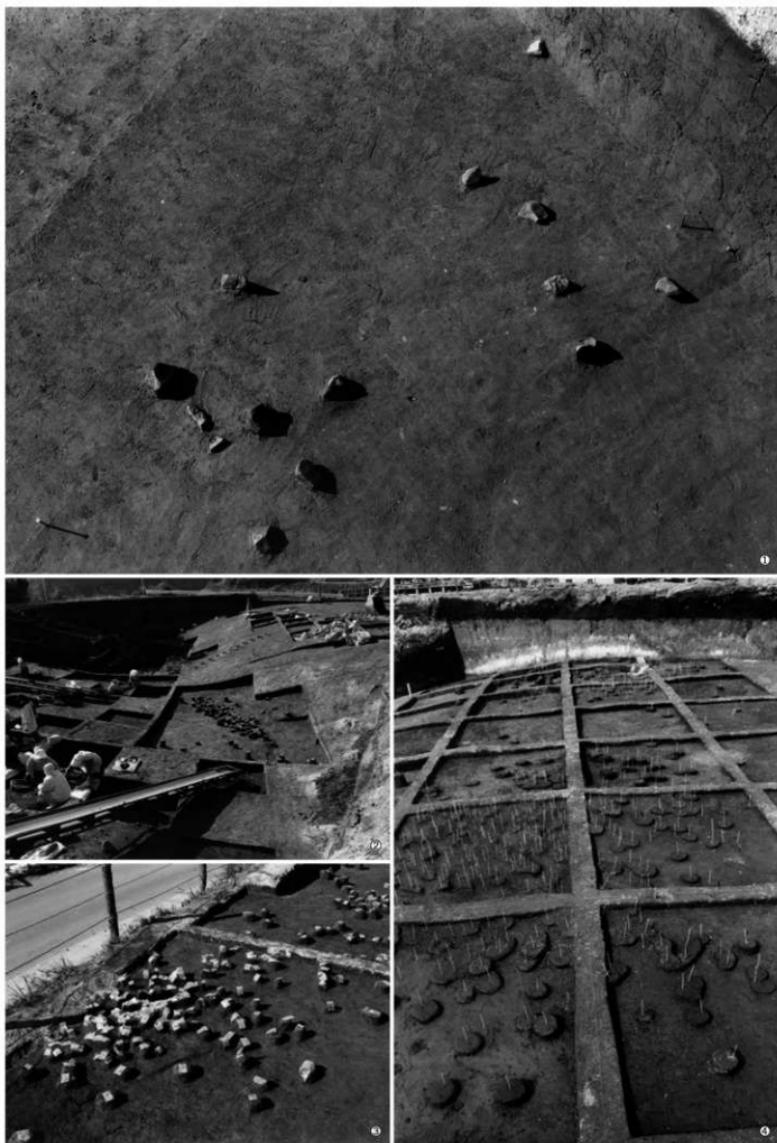


調査風景
伊弉遺跡近景



①・②遺物出土状況

③土層断面



① 1号壕群 ②～④遺物出土状況



1号集石



2号集石



4号集石



5号集石



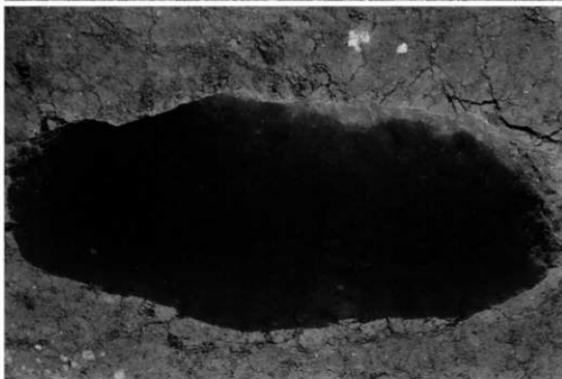
6号集石



7号集石



V层1号土坑



III层1号土坑



2号土坑



5号土坑



6号土坑



7号土坑



①溝状遺構
②7号土坑

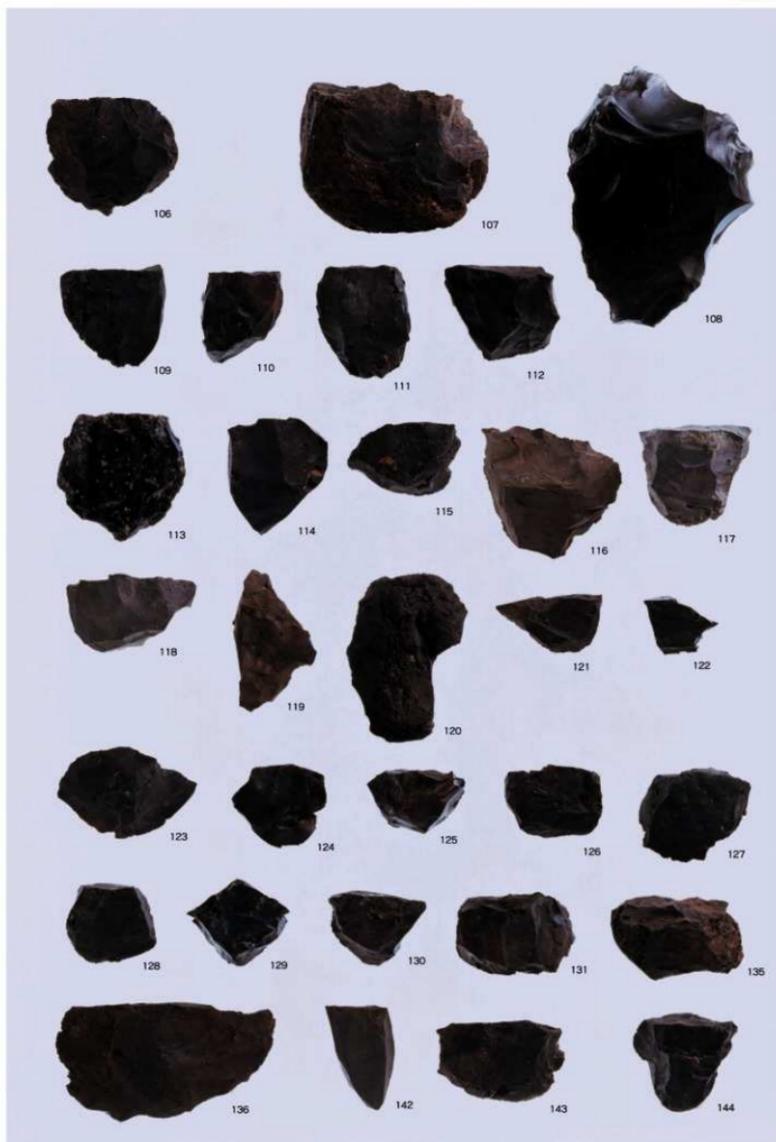
③・④土器出土状況



旧石器时代石器(1)



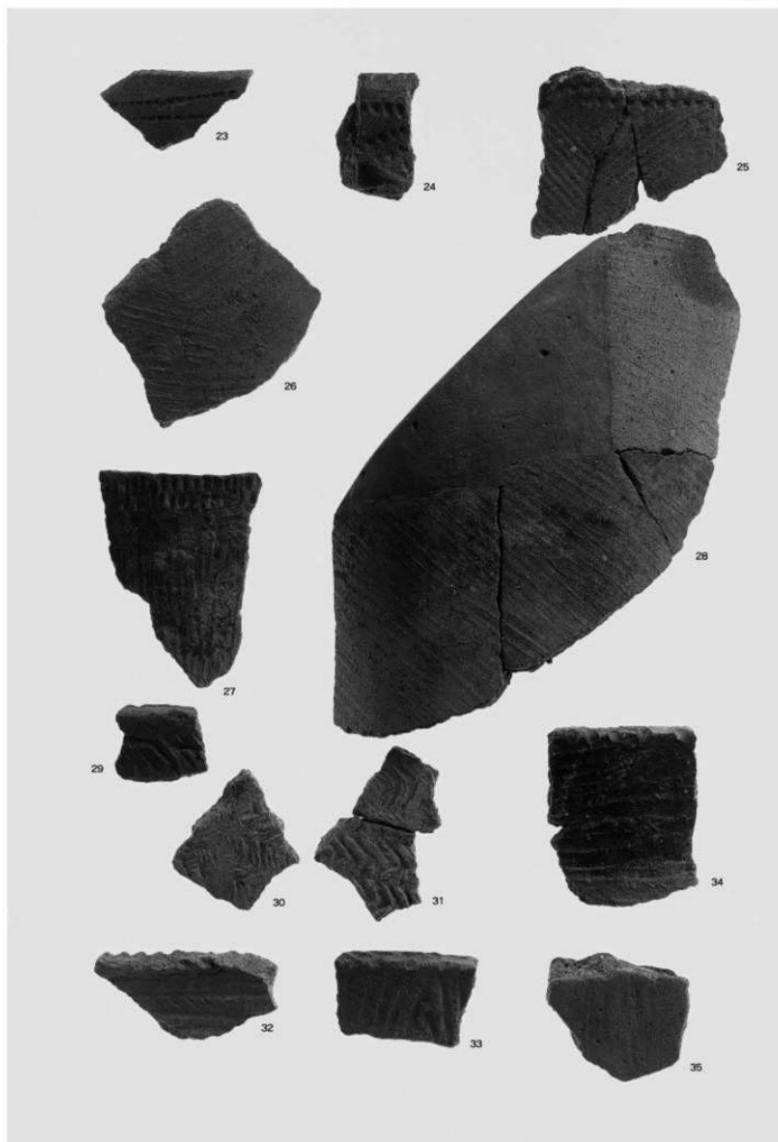
旧石器时代石器（2）



旧石器时代石器(3)



縄文時代土器 (1)

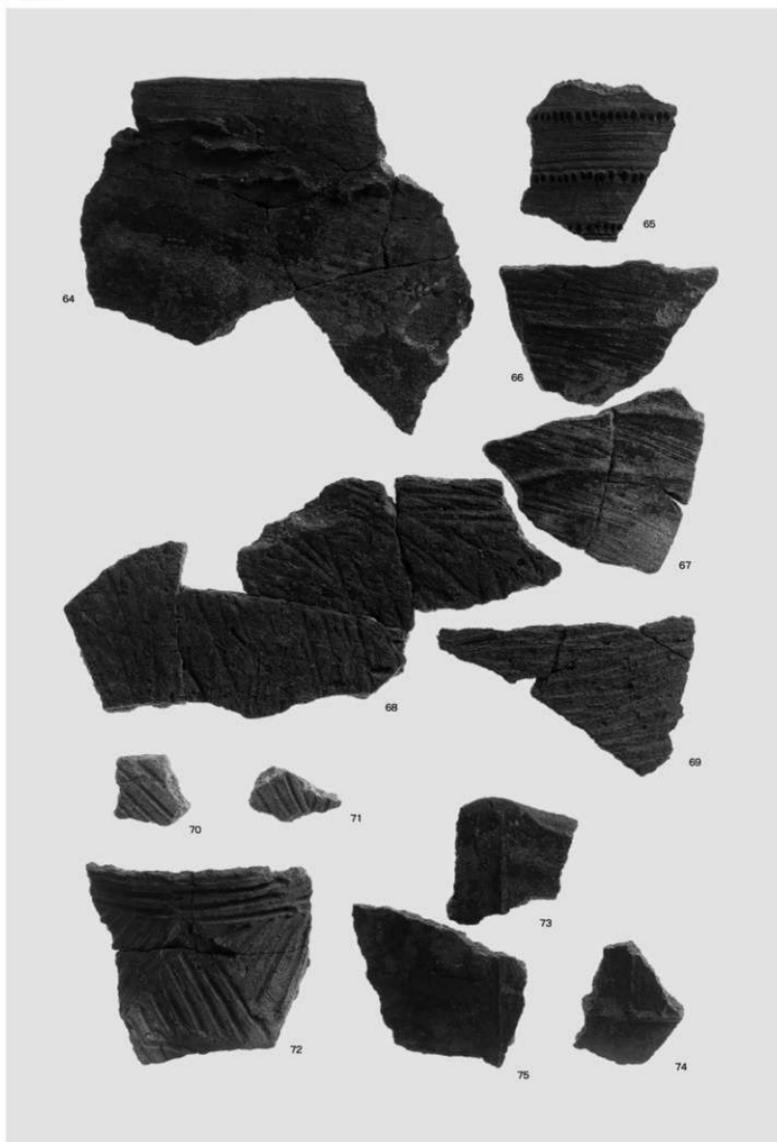


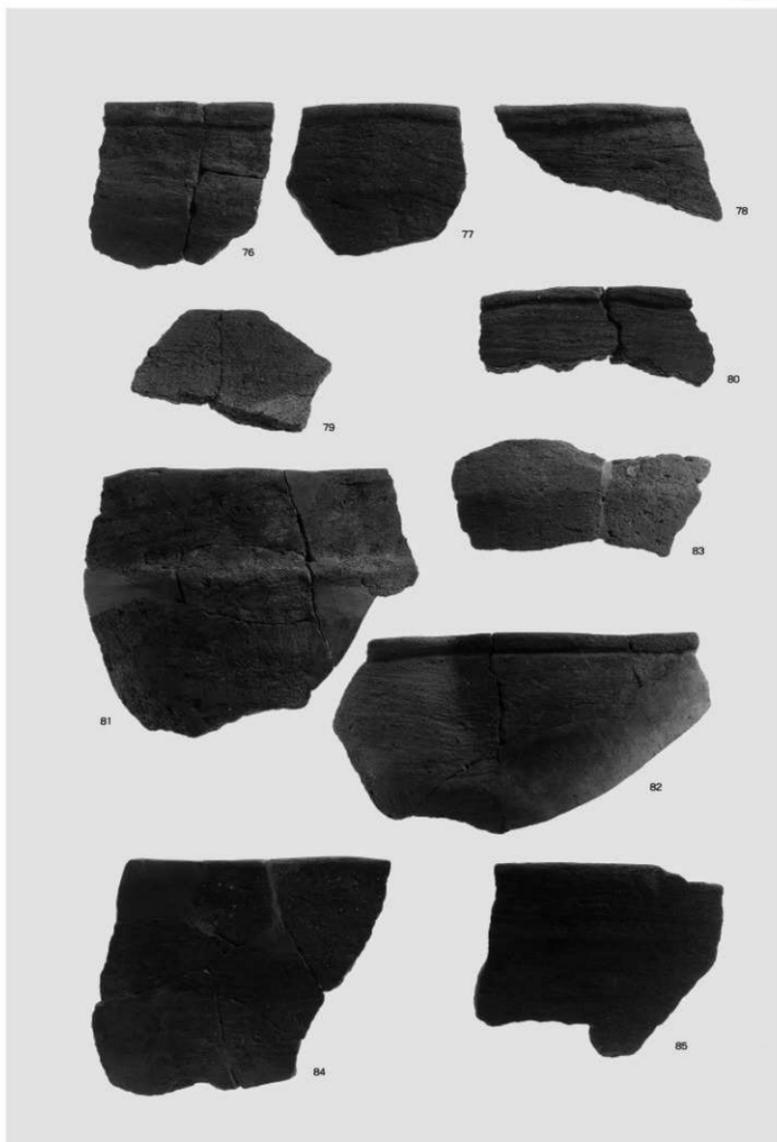
縄文時代土器（2）





縄文時代土器（4）

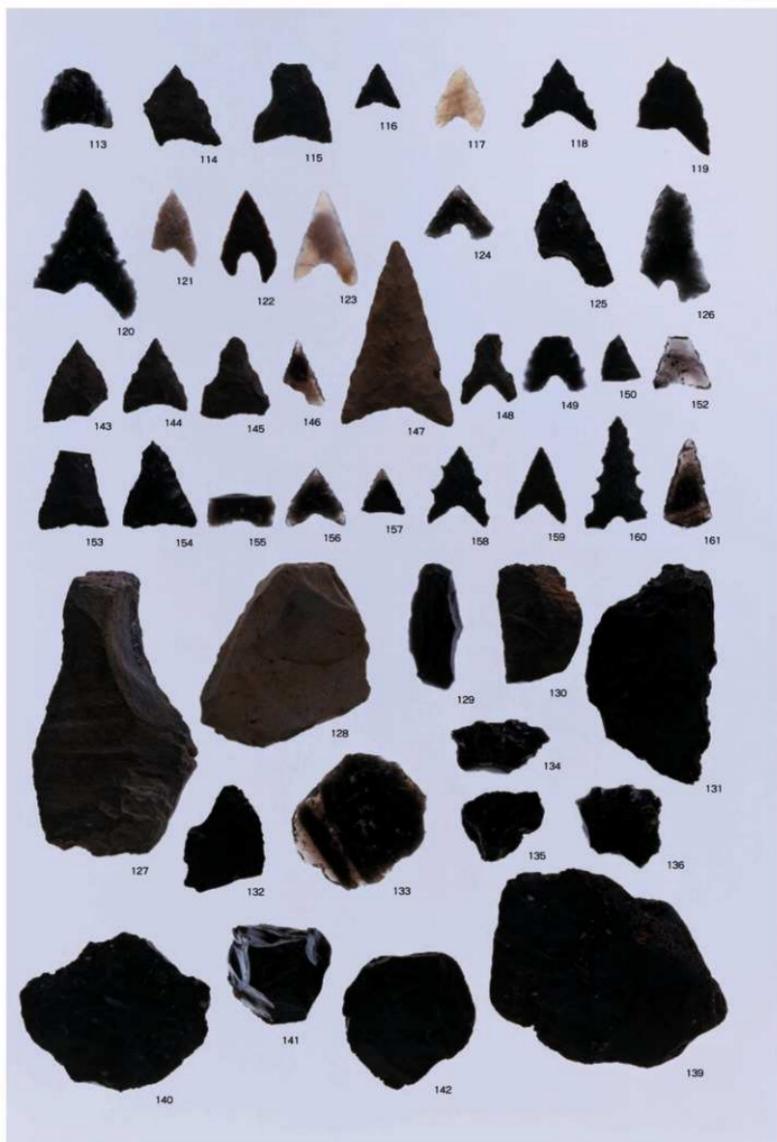




縄文時代土器 (6)



縄文時代土器 (7)



縄文時代石器（1）



137
172
162
138

縄文時代石器（2）



170
171
169
164
166 165
167 163
151
168

縄文時代石器（3）



6



5



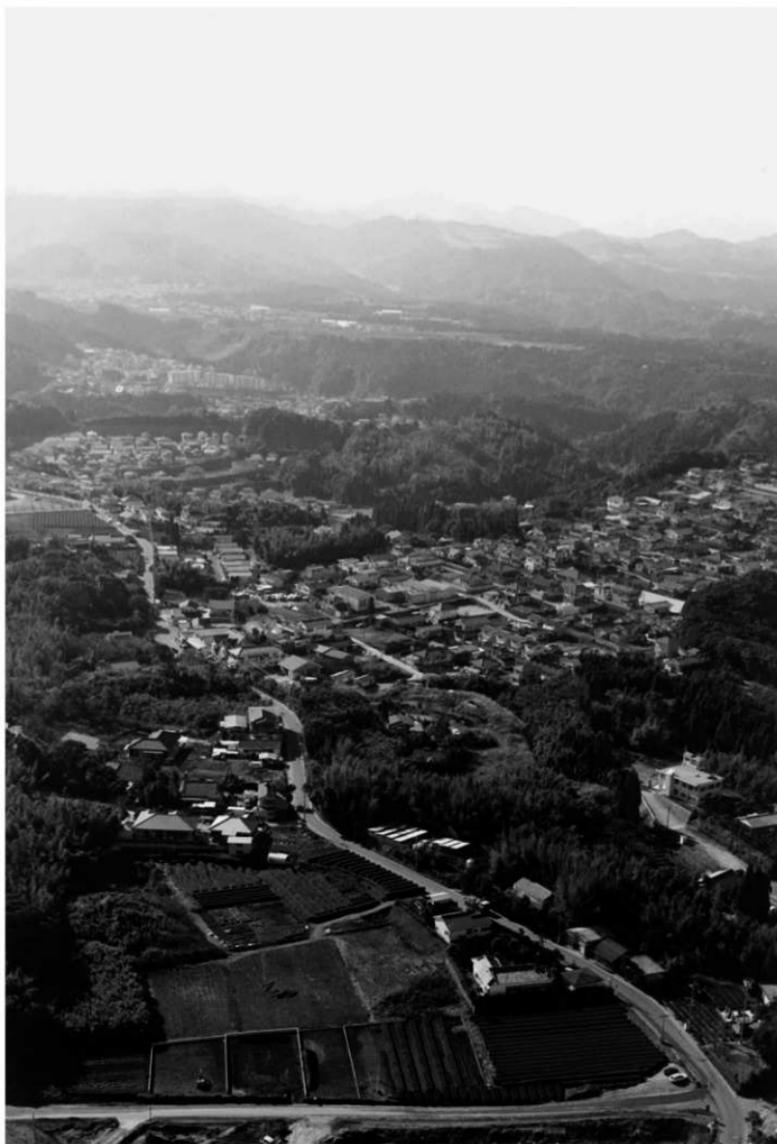
1

弥生時代土器

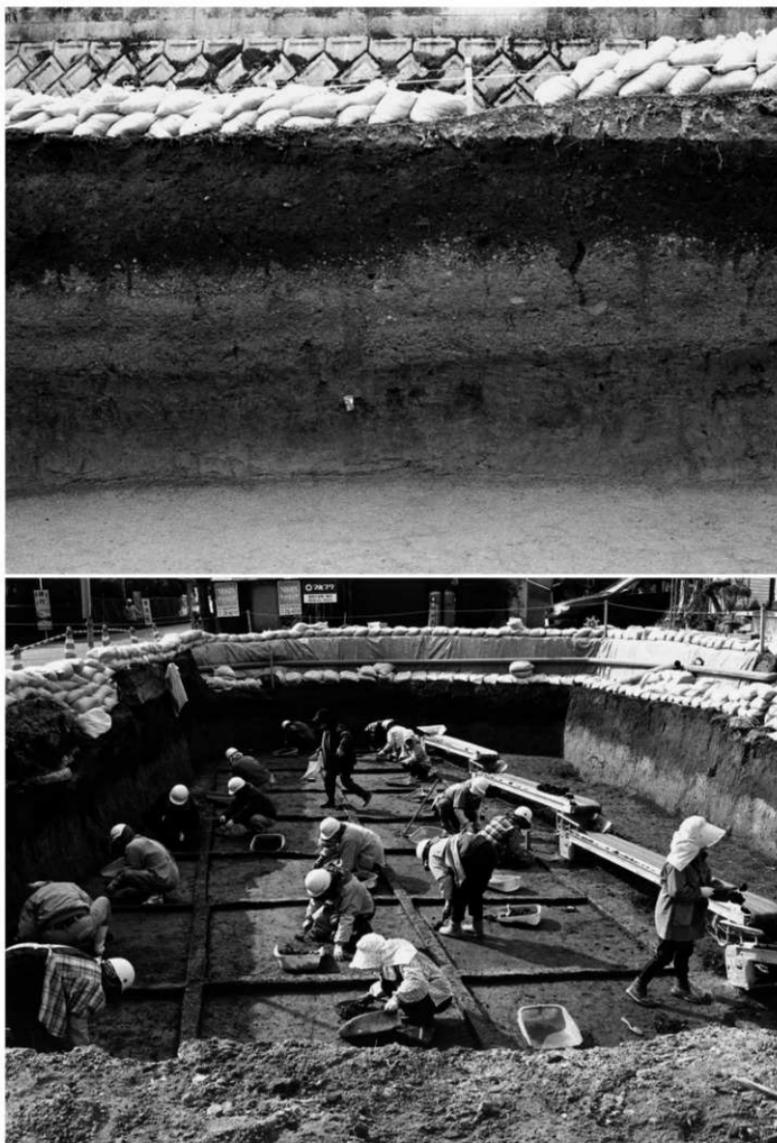
仁田尾遺跡図版



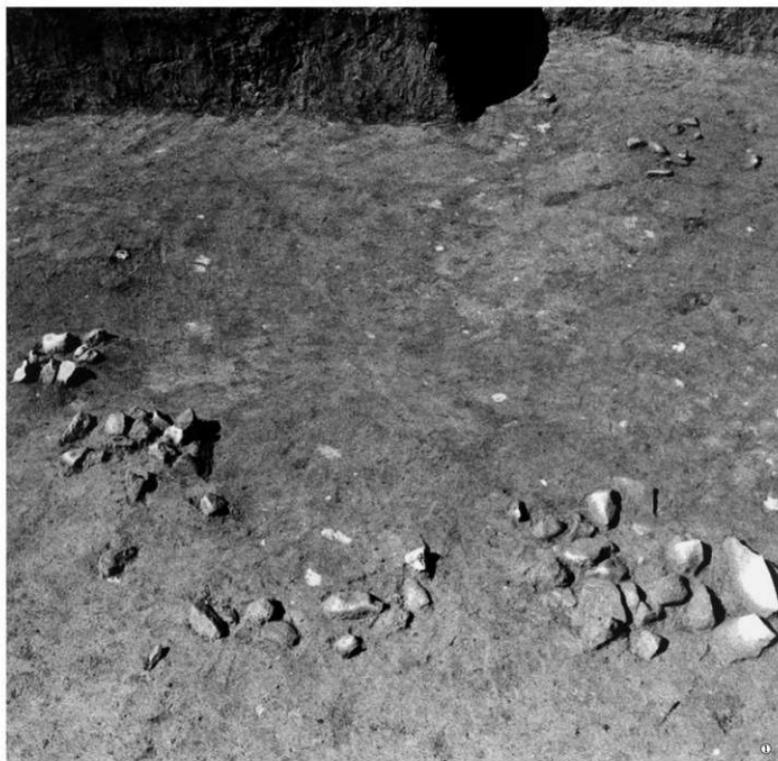
仁田尾遺跡遠景 (1)



仁田尾遺跡遠景（2）



土層断面
調査風景



①



②



③

①・② 1号礫群及び3号礫群検出状況

③ 2号礫群



① 4号礫群 ② 5号礫群
③ 7号礫群

④ 8号礫群 ⑤ 14号礫群
⑥ 16号礫群



① 9号~11号残群 ② 9号残群
③ 11号残群

④ 10号残群 ⑤ 12号残群



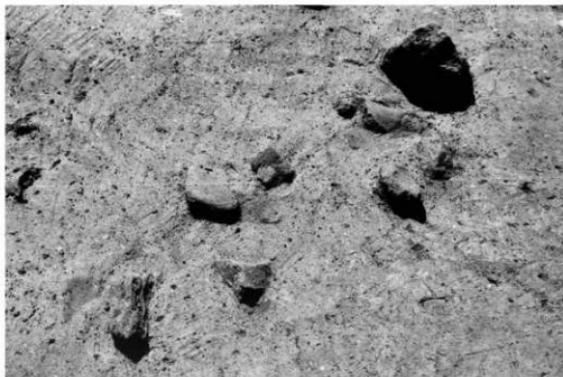
13号墩群



17号墩群



26号墩群



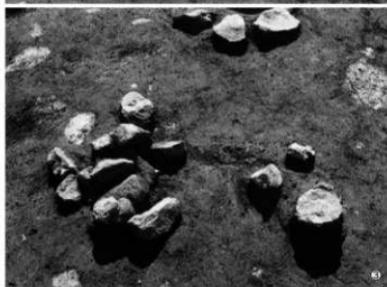
18号碳群



19号碳群



27号碳群



① V—35区礫群出土状況

②20号礫群

④421号礫群

③22号礫群

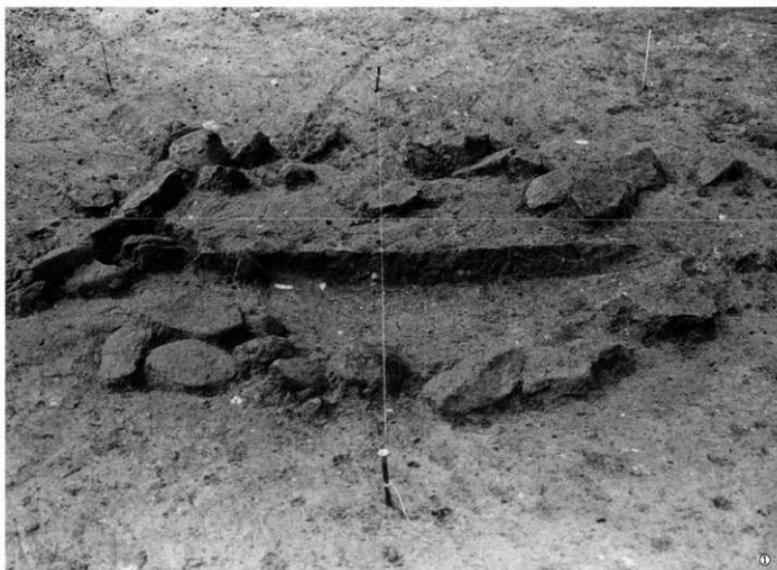


① 礮群出土状況

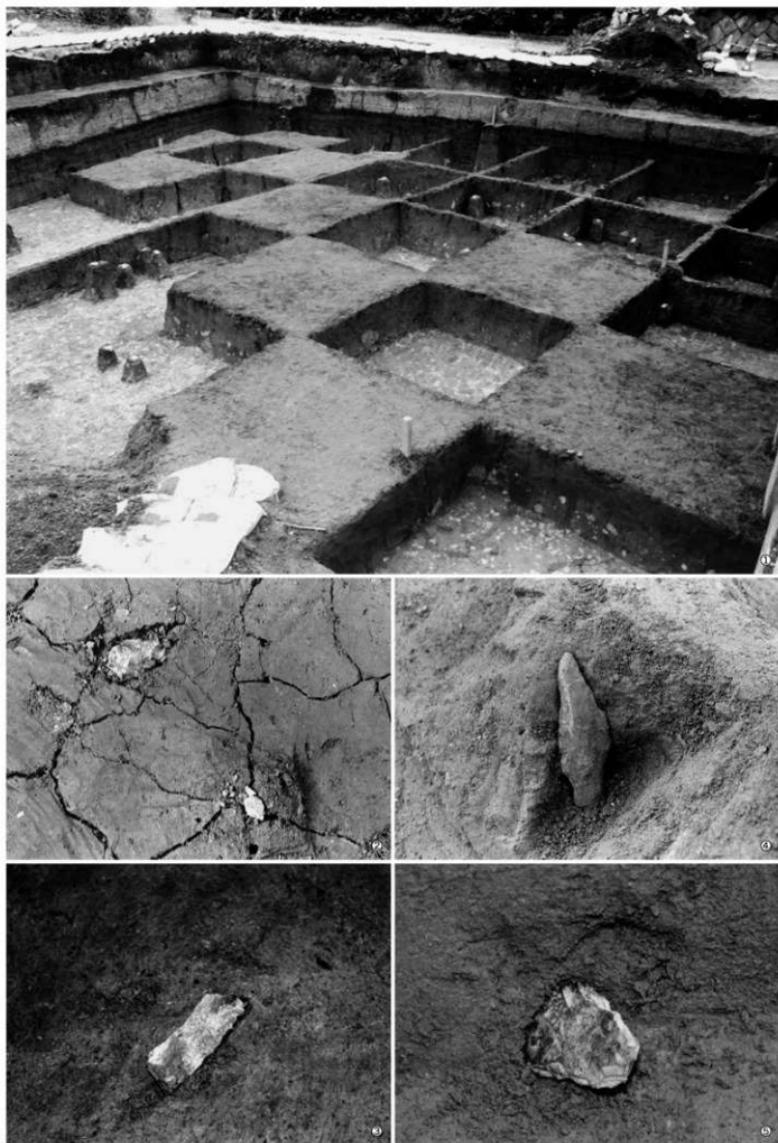
② 23号礮群

③ 25号礮群

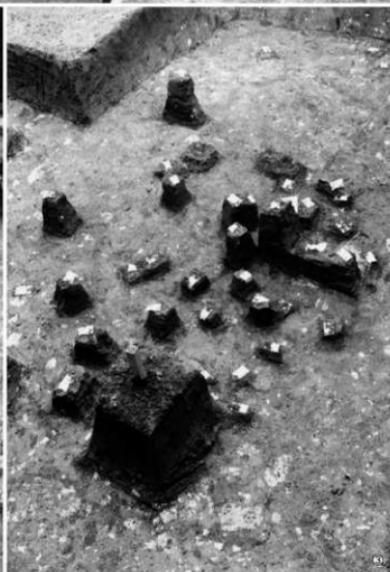
④・⑤ 24号礮群



①~④ 配石炉状遺構



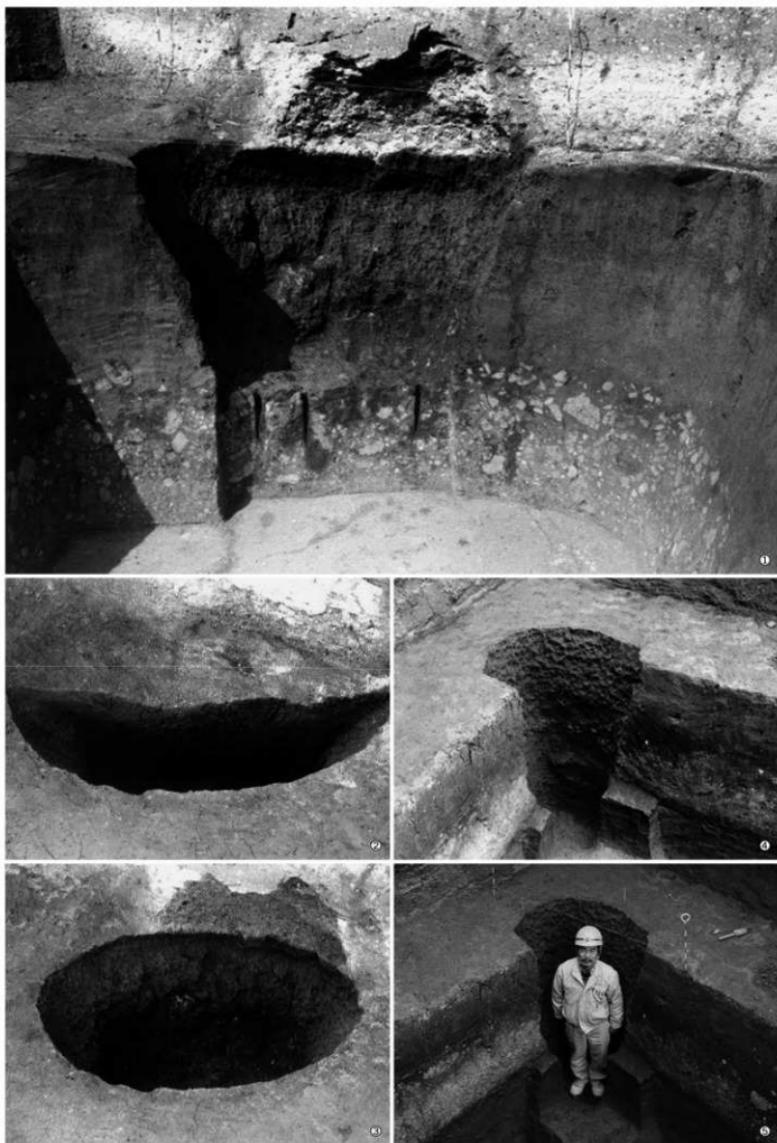
①～⑤ Ⅴ層遺物出土状況



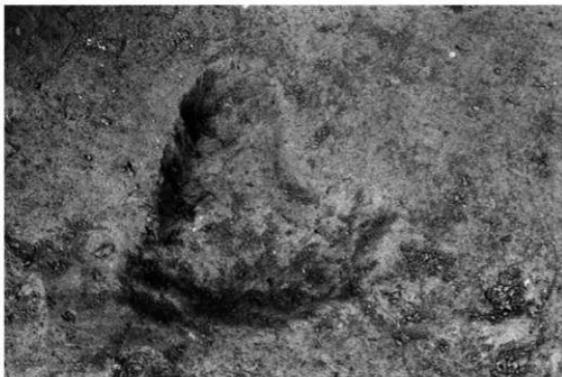
①～③ 遺物出土状況



① 1号集石 ② 2号集石
③ 1号礫群



①～⑤ 落とし穴調査状況



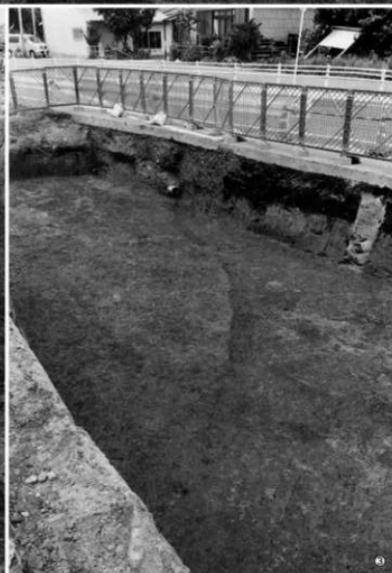
落ち込み完堀状況



落とし穴完堀状況

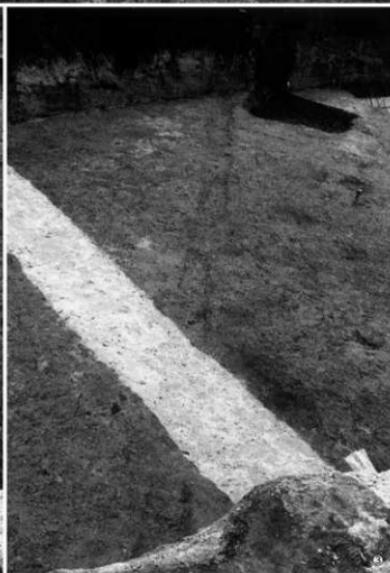
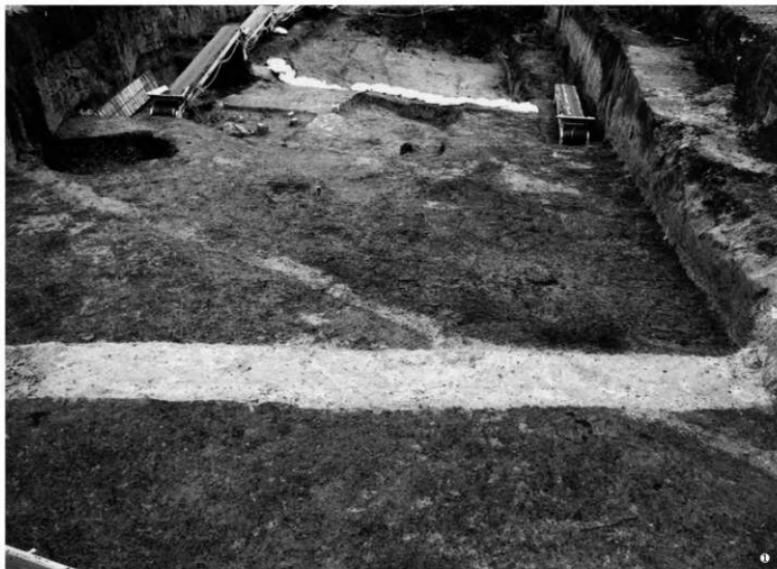


土坑完堀状況



①・② GG-10・11区道跡検出状況

③ GG-10・11区道跡完掘状況



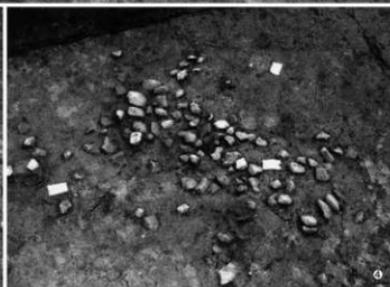
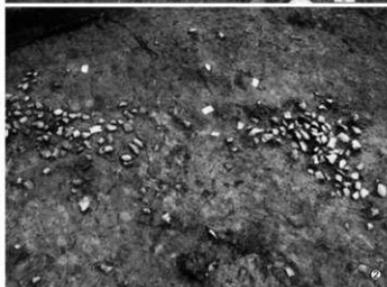
①·② C C-10区道跡検出状況

③ C C-10区道跡完掘状況



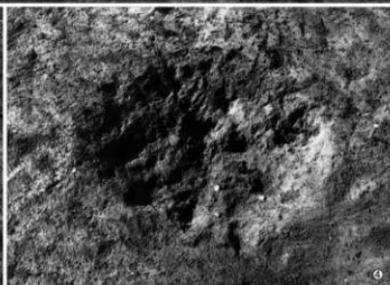
① 2号集石 ② 1号集石

④ 18号集石
⑤ 19号集石



①·② 3号·4号集石
③ 4号集石

④ 3号集石
⑤ 6号集石



① 7号・8号集石 ② 8号集石
③ 7号集石

④ 8号集石掘り込み跡
⑤ 5号集石



9号集石



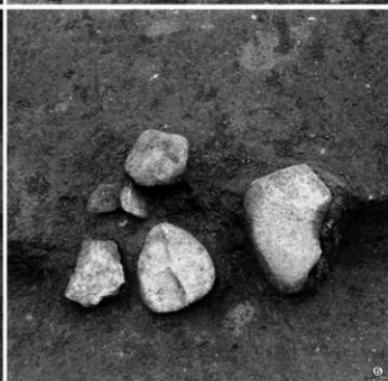
10号集石



12号集石



12号集石掘り込み跡



① 1号集石 ② 14号集石

③ 15号集石

④ 11号集石 ⑤ 13号集石

⑥ 17号集石

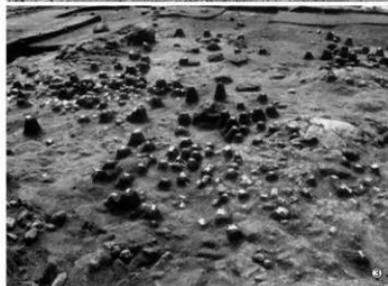


①・②溝状遺構検出状況

③溝状遺構完壁状況



①溝状遺構完壁状況
②~④溝状遺構断面



①～⑤ 遺物出土状況

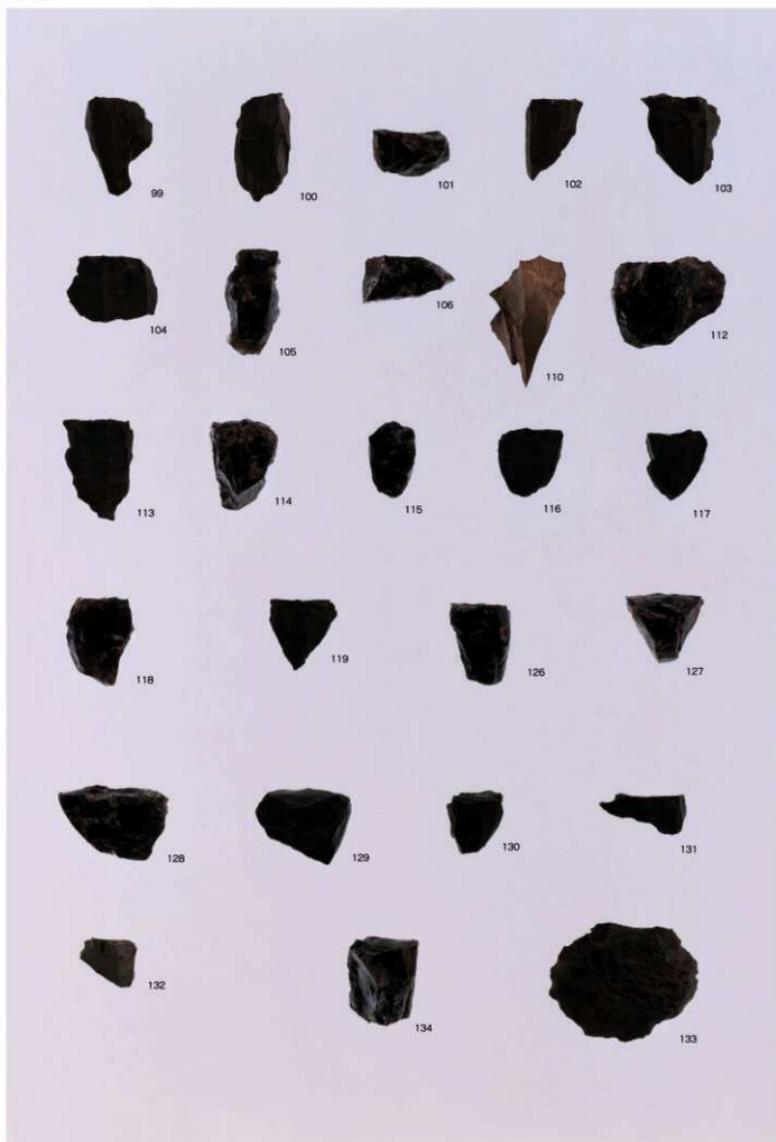


旧石器时代石器 (1)

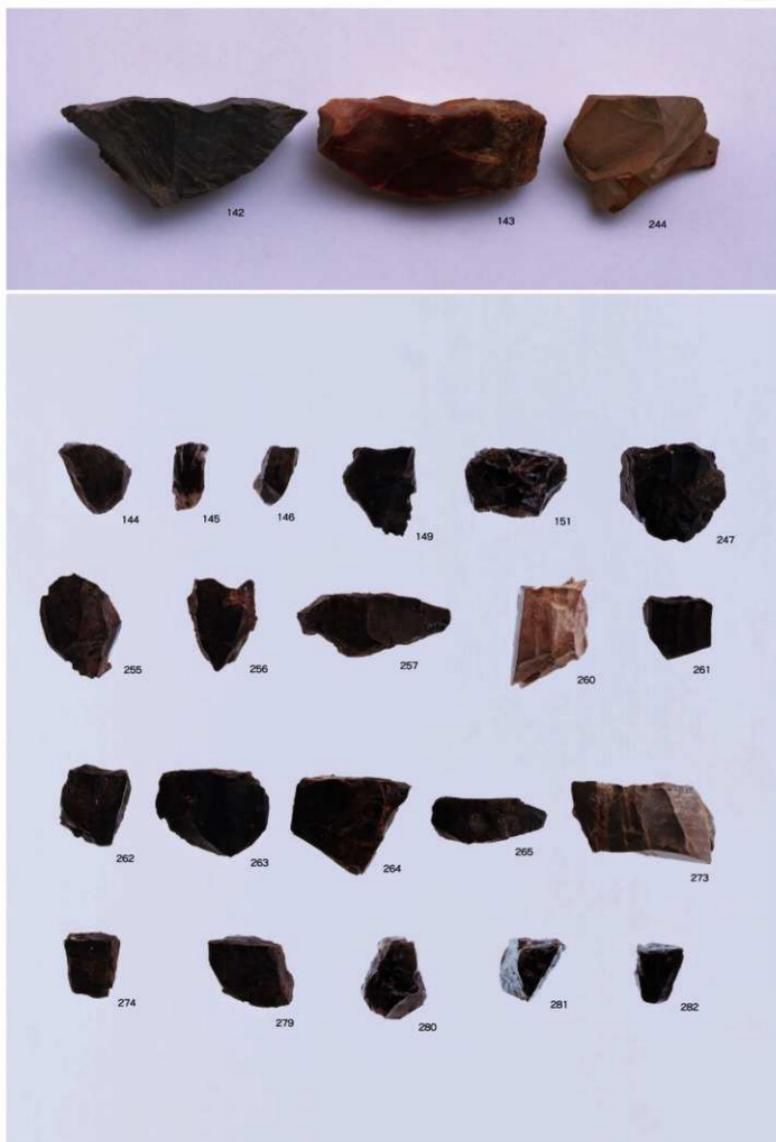




旧石器时代石器(3)



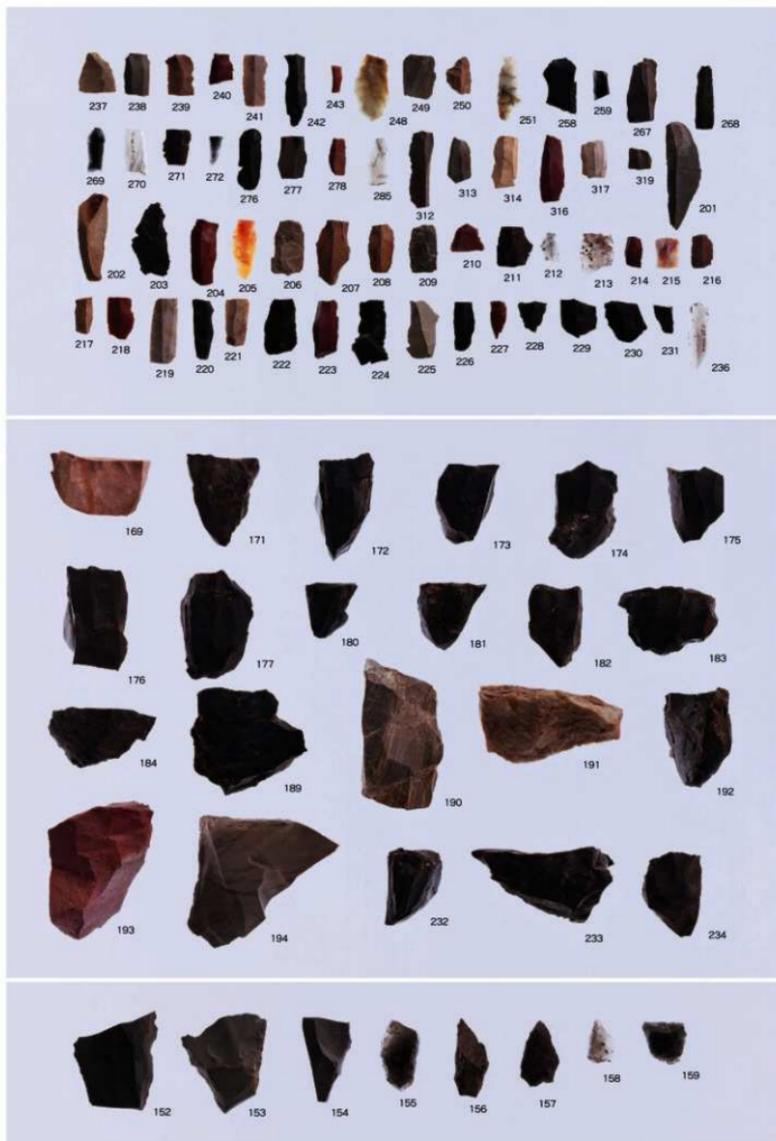
旧石器时代石器 (4)



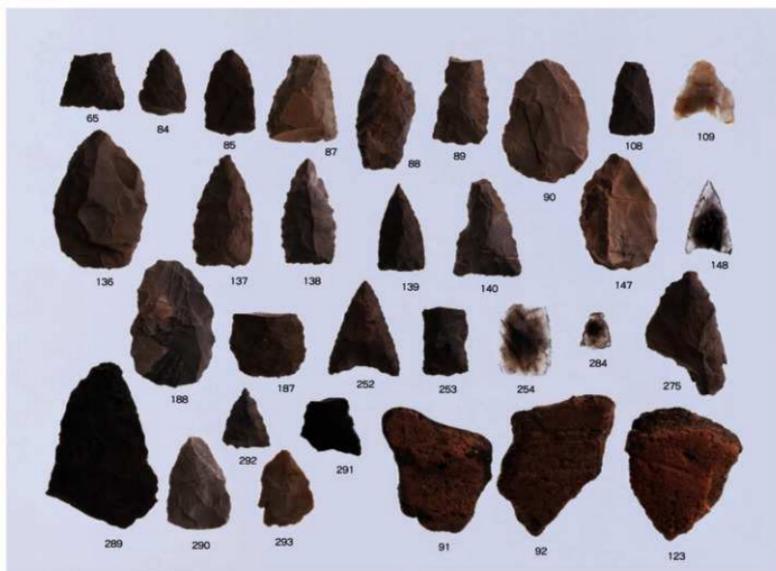
旧石器时代石器 (5)



旧石器时代石器(6)

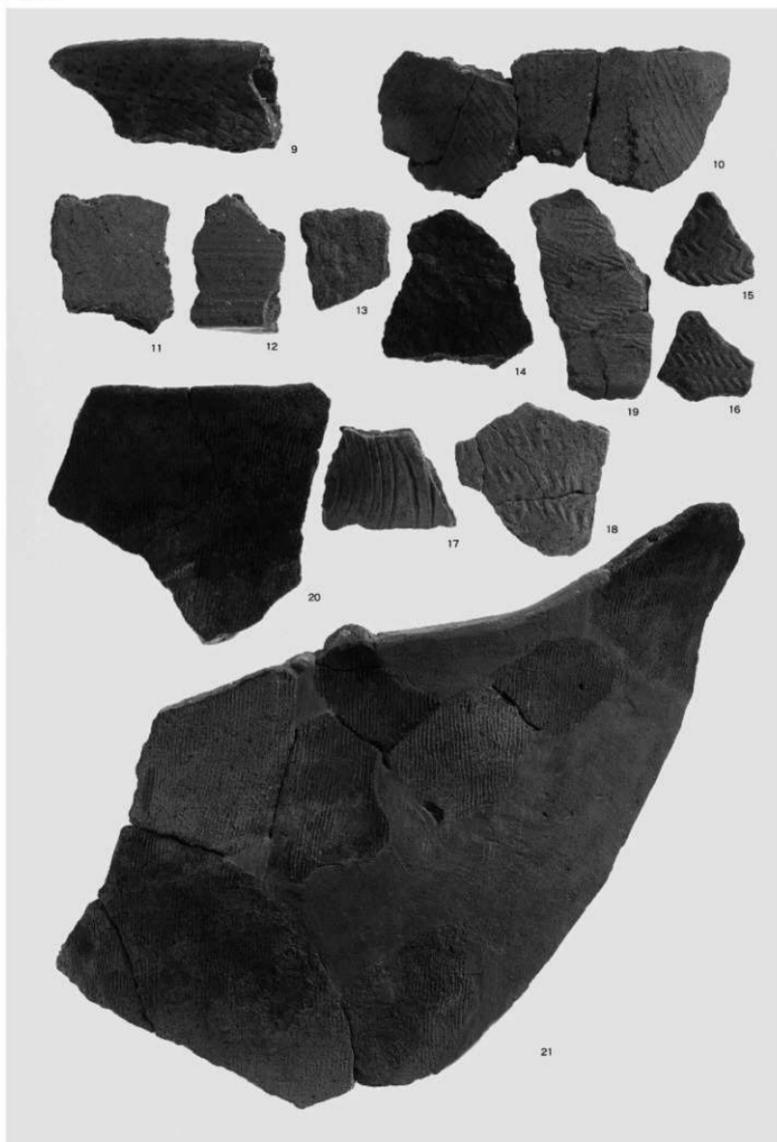


旧石器时代石器(7)





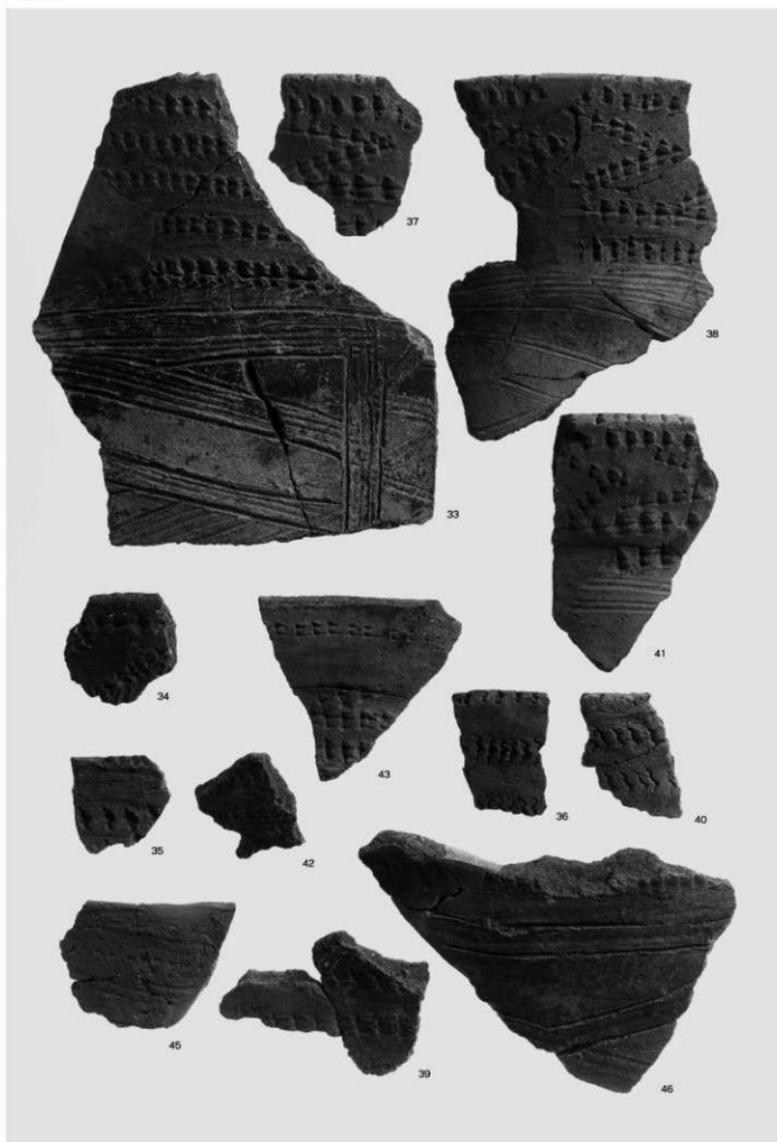
縄文時代土器 (1)



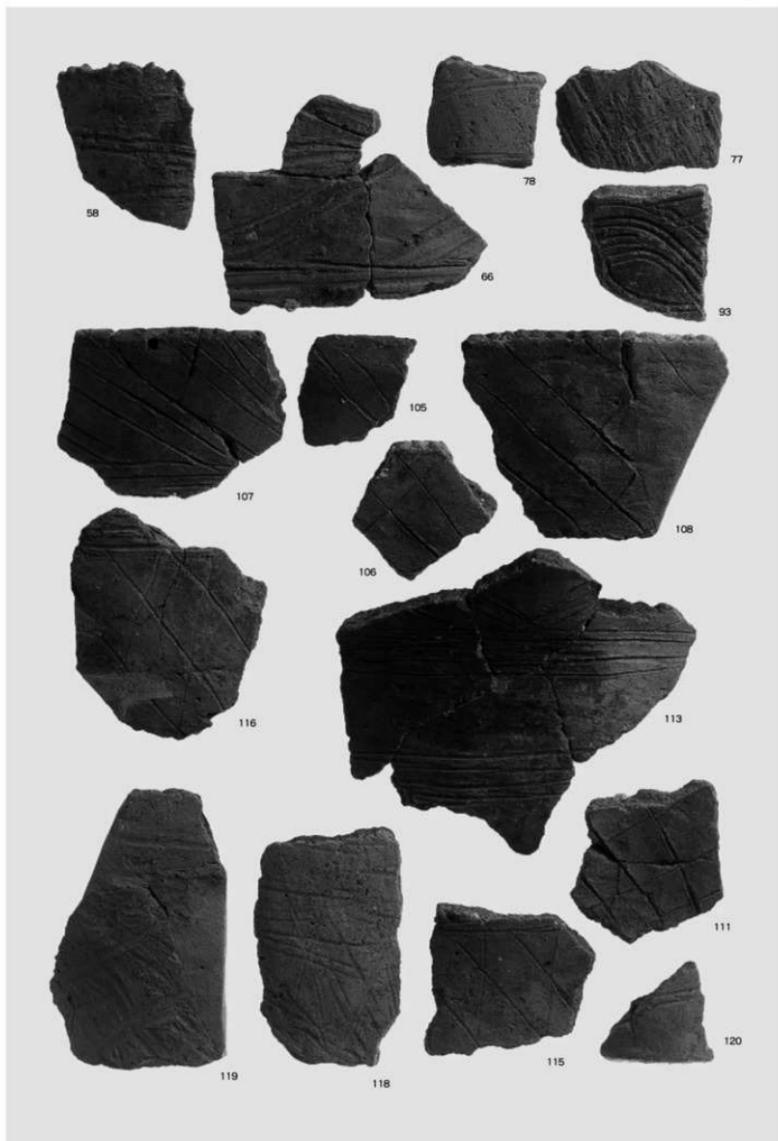
縄文時代土器（2）



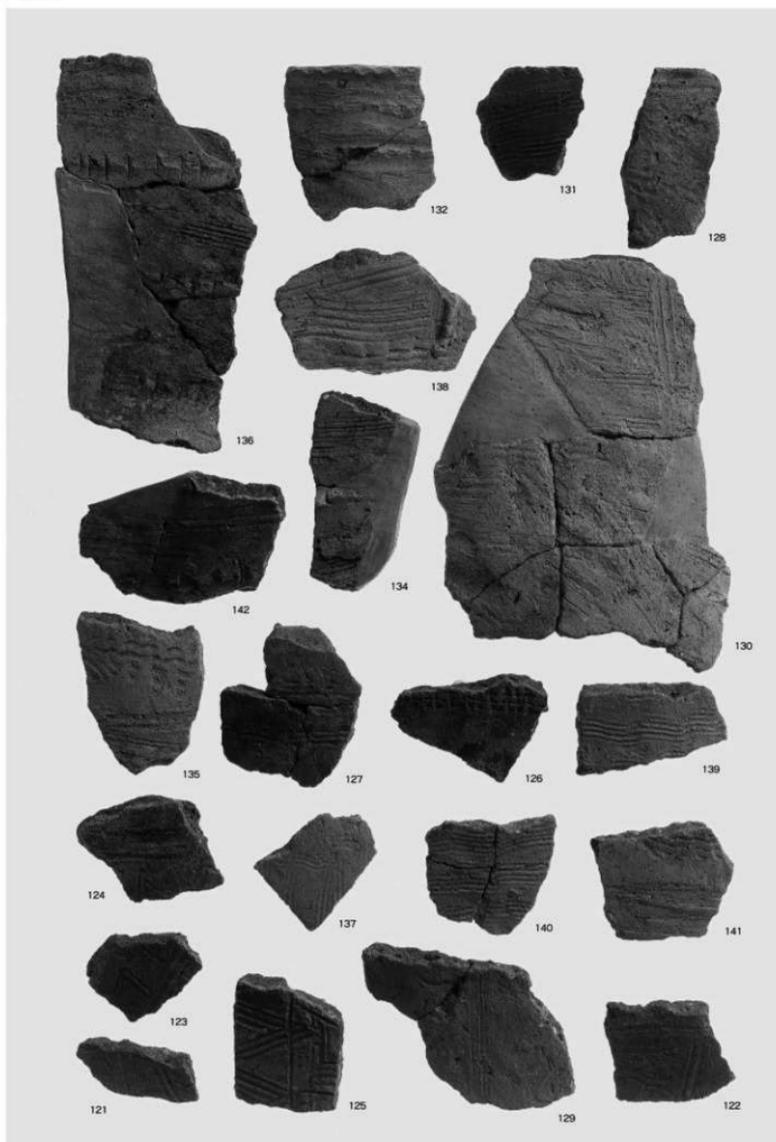
縄文時代土器（3）



縄文時代土器（4）



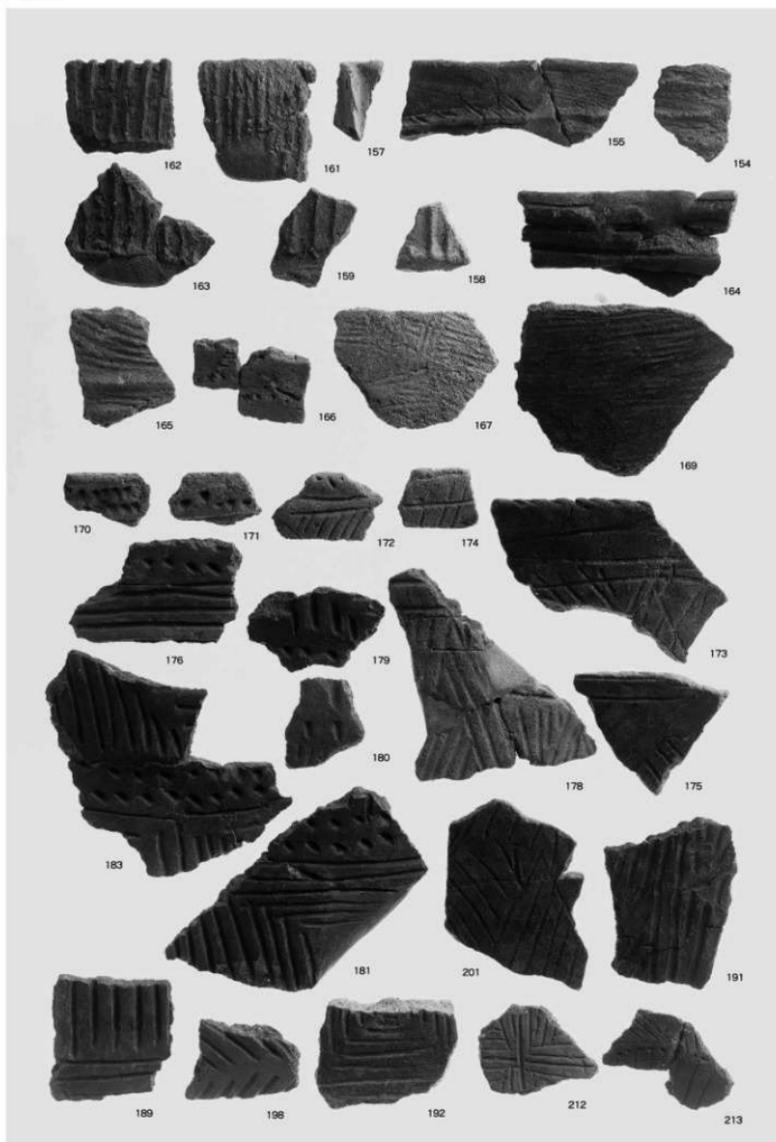
縄文時代土器 (5)



縄文時代土器（6）

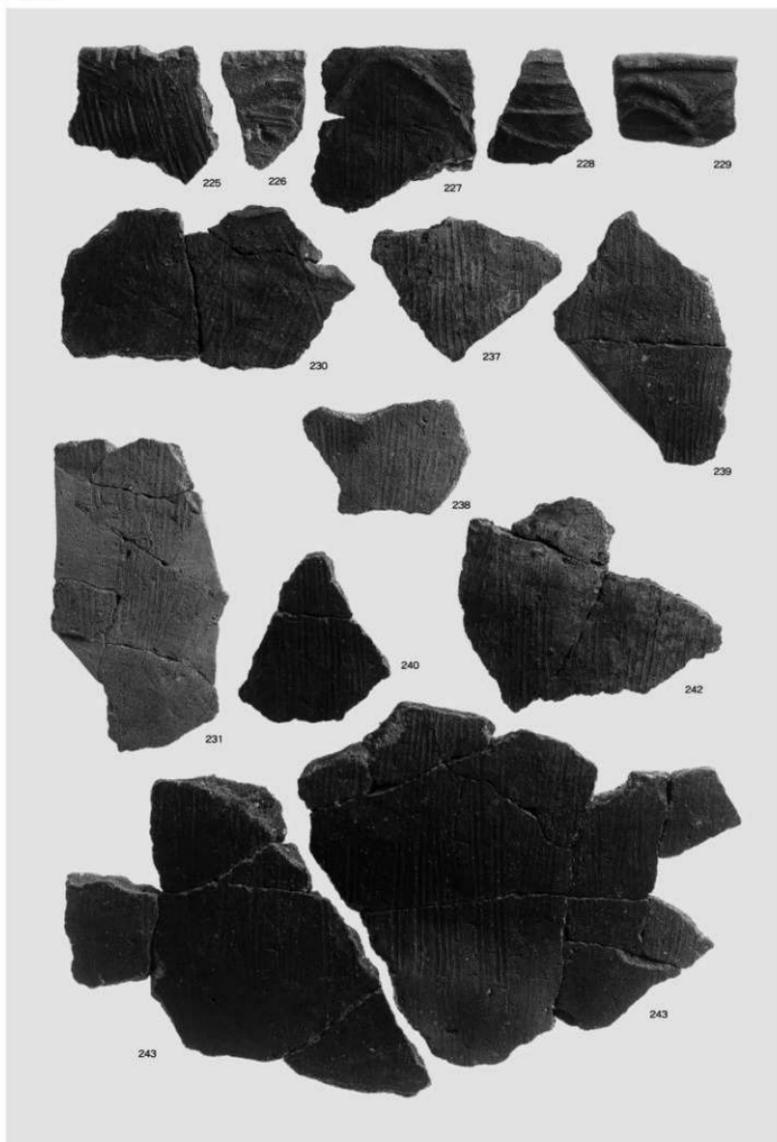


縄文時代土器 (7)

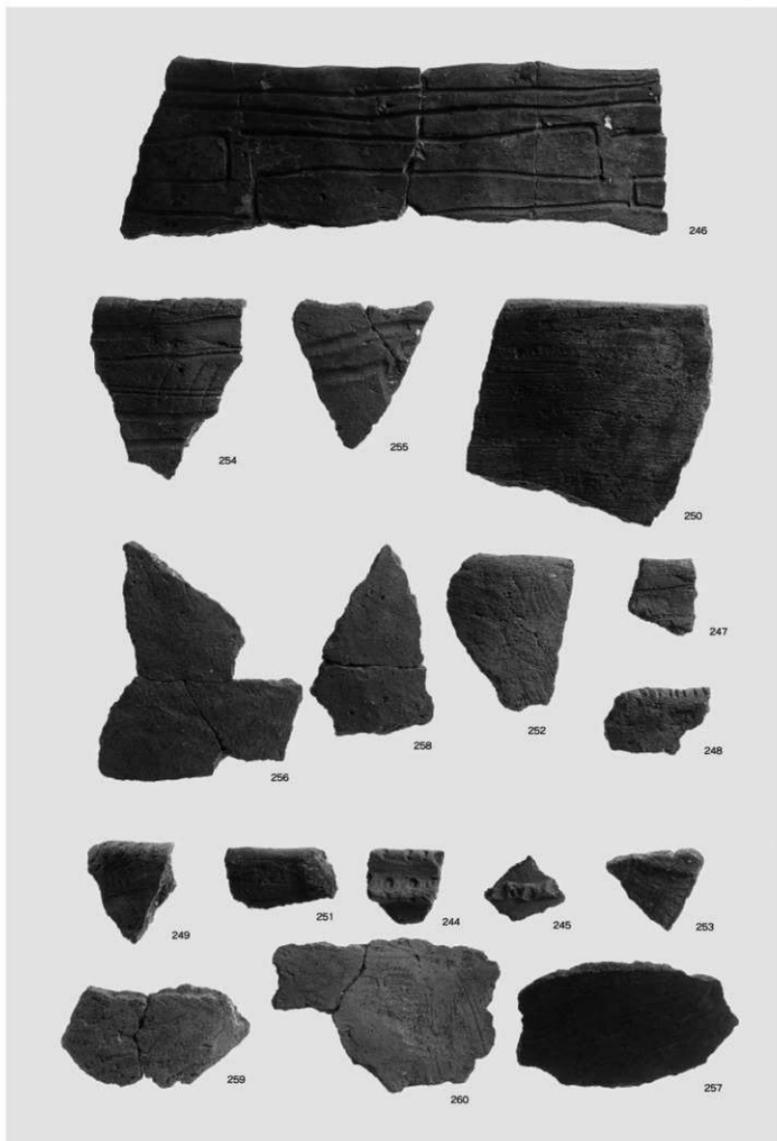




縄文時代土器 (9)



縄文時代土器 (10)



縄文時代土器 (11)





縄文時代石器（2）



御飯屋跡遺跡図版



調査風景
調査風景



1号族群



1号族群



2号族群



Ⅶ b 層上面検出礫群



Ⅶ b 層上面検出礫群



Ⅶ b 層上面検出礫群

図版4



3号礫群



4号礫群



遺物出土状況



①遺物出土状況

②1号礎群及び遺物出土状況

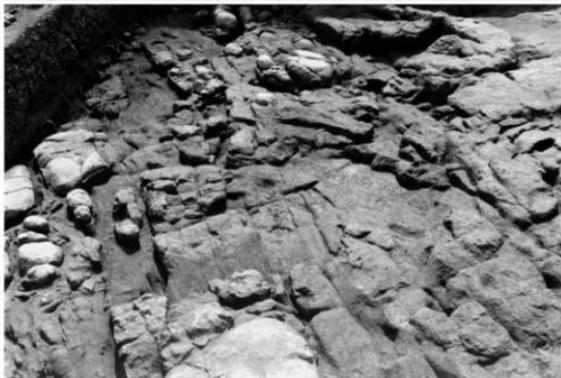
③礎だまり



土層断面 1



土層断面 2



完掘状況



遺物出土状況
遺物出土状況



縄文時代遺物出土状況



2トレンチ遺物出土状況



1トレンチ弥生時代遺物出土状況



旧石器时代石器(1)



旧石器时代石器 (2)



旧石器时代石器 (3)



旧石器时代石器 (4)

あとがき

石器のフレイクやチップなどの遺物が出土すると、遺物を見失わないように透明袋に入れ、それを出土場所に竹串で固定します。遺物が集中して出土するとその場所だけ透明袋も集中します。その様子を作業員さん達が「花が咲いた。」と言っていたことを思い出します。「こっちにも花が咲いたぞ。」別なブロックが検出されるとまた別な花が咲きます。発掘調査では遺跡に数々の花が咲きました。

整理・報告書作成作業では、その花に色がつきました。石材ごとに、あるいは石材の原産地ごとにドットの色を変えたためです。赤・青・緑・黄等様々な色の、そして様々の大きさの花（ブロック）が出土状況図にあらわれました。その様子は太古の人々が私たちに残したメッセージととれなくもありません。この報告書が、残されたメッセージを読み解く一助となれば幸いです。

発掘調査および整理・報告書作成作業ともに「花を咲かせる」ために多くの時間と労力が必要とされました。今回この発掘調査報告書を発刊するにあたり、発掘調査から報告書刊行まで関わったすべての方々へ厚くお礼を申し上げます。

整理・報告書作成従事者（平成17年度）

市菌厚子・岡部安代・音堅晴美・乙藤直美・仮屋涼子・川畑裕美子
河原橋藤子・木村仁美・小村幸子・坂元昭子・坂元真由美・猿川美和子
新中泰代・新富弥生・高岡真由美・田代祐子・垂門加代・永井絹子
永野愛子・那須マリ子・濱畑かつえ・原田純代・福永義一・松下奈津美
湯之上さゆり・横山妙子

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（101）

**伏野遺跡 隠迫遺跡 柵堀遺跡
仁田尾遺跡 御飯屋跡遺跡**

発行 2006年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

〒899-4318 鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森2番1号

印刷 凸版印刷株式会社